大原堀遺跡発掘調査報告

－第２・３次調査－

2008（平成20）年３月

三重県埋蔵文化財センター

ＡⅢ地区　全景（上層）（北から）

ＡⅢ地区　全景（下層）（北から）

ＳＸ50（北から）

ＳＸ44（北から）

ＳＸ39（北から）

出土縄文土器

朱付着の石

下呂石使用石器

序

本書で報告する大原堀遺跡は、県下有数の大河である櫛田川の流域に所在します。櫛田川の流域は、人々の生活の場として長らく利用され、その営為の跡は旧石器時代にまで遡ります。中でも大原堀遺跡が所在する中流域は、縄文遺跡の分布密度が高い地域として知られ、この度の調査でも、晩期の土器棺墓を中心とした埋葬遺構がまとまって確認されました。また、活発な地域間交流を示す遠隔地からの搬入土器や、赤色顔料の付着した土器や石器も出土しています。この時期は、１万年以上続いたと考えられている縄文時代の終末期にあたり、採集社会から農耕社会へと社会構造が変化していく転換期でもあります。このような転換期の社会動向や精神生活･文化を僅かながらも復元できる資料がこの度の調査によって得られました。これらの資料は、我々の祖先が辿った長い歴史のほんの１コマを表しているに過ぎないかもしれません。しかし、この１コマの積み重ねが歴史であり、どれ１つ欠くことのできない、かけがえの無い歴史遺産と言えましょう。

今回報告するのは、松阪市に所在する大原堀遺跡の第２次･第３次調査の記録であります。本書が、今後の縄文時代研究、ひいては郷土に残された貴重な歴史遺産を未来に伝える一助となれば幸いと存じます。なお、末筆ながら、現地調査や報告書作成に際し、ひとかたならぬご理解とご協力をいただいた多くの関係者の方々に心から深謝し､厚くお礼申し上げます。

2008(平成20)年３月

三重県埋蔵文化財センター

所長　　吉　水　康　夫

例　言

1　本書は、三重県松阪市広瀬町字大原堀・西大原堀・山ノ下に所在する大原堀（おおはらぼり）遺跡の第２・３次発掘調査報告書である。

2　本書が扱う発掘調査の原因事業は、平成14･15年度中山間事業（茅広江地区）広瀬工区下茅原ほ場整備事業である。

3　調査は下記の体制で実施した。

第２次調査　　調査主体　三重県教育委員会
調査担当　三重県埋蔵文化財センター
調査研究グループ　小山憲一　川崎志乃　小倉　整（研修員）
作業委託　安西工業株式会社

第３次調査　　調査主体　三重県教育委員会
調査担当　三重県埋蔵文化財センター
調査研究Ⅱグループ　小山憲一　大村伸一（研修員）
作業委託　株式会社中部日本鉱業研究所

4　本書が対象とした実調査面積は、以下のとおりである。

第２次調査：3,820㎡（内、下層1,630㎡）　　第３次調査：800㎡（内、下層400㎡）

5　本書が対象とした現地調査期間は、以下のとおりである。

第２次調査：平成14年７月９日～平成14年12月24日
第３次調査：平成15年６月16日～平成15年８月11日

6　調査にかかる諸費用は、三重県農林水産商工部が負担した。

7　本書が扱う発掘調査の資料並びに出土遺物等は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

8　本書の執筆は小山憲一・川崎志乃・小濵　学・大下　明・久保勝正が行い、編集は小濵が行った。執筆の分担は目次と文末に明記している。遺構の写真撮影は小山・川崎が、遺物の写真撮影は、小濵・酒井巳紀子が行った。なお、剥片石器の実測については、㈱アルカに委託した。

9　本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1／25,000地形図、松阪市都市計画図、三重県農林水産商工部作成の事業計画図である。

10　本書で示す方位は、座標北を用いた。座標は国土調査法の日本測地系による座標第Ⅵ系（日本測地系）を用いた。この座標北は磁針方位が西偏６度54分、真北方位は西偏０度16分である（平成10年）。

11　本書では、下記の遺構表示略記号を用いた。なお、算用数字のみで表記した遺構は掲載遺物が出土したピット番号を示している。また、遺構図版中で「Ｓ」と表記した部分は石を示している。

ＳＨ：竪穴住居　ＳＢ：掘立柱建物　ＳＸ：土器棺墓・土壙墓　ＳＫ：土坑・集石土坑　ＳＤ：溝
ＳＺ：落ち込み　ＳＳ：立石・配石　ＳＡ：柱列　Ｐｉｔ：柱穴・小穴

12　本書で使用する用語は、以下に統一している。

どこうぼ：土壙墓　　どこう：土坑　　つぼ：壺　　わん：椀　　なべ：鍋

13　本書で表記する色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（21版、日本色研事業株式会社、1998年）に準拠した。

14　挿図と写真図版の遺物番号は相互に対応している。なお、遺物の写真図版は縮尺不同である。

15　石器・石製品の石材鑑定は、津村善博氏及び㈱アルカによる。

16　発掘調査及び本書の作成に際しては、下記の方々にご指導・ご協力をいただいた（敬称略・五十音順）。

大下　明・奥　義次・川添和暁・久保勝正・津村善博

本文目次

Ⅰ　前　　言……（小山憲一）……　1
Ⅱ　位置と環境……（小山憲一）……　6
Ⅲ　遺　　構
　1　ＡⅠ地区　……（川崎志乃）……　10
　2　ＡⅡ地区　……（川崎志乃）……　11
　3　ＡⅣ地区　……（川崎志乃）……　11
　4　ＡⅢ地区　……（小山憲一）……　13
　5　ＢⅠ地区　……（小山憲一）……　32
　6　ＢⅡ地区　……（小山憲一）……　40
　7　ＣⅠ地区　……（川崎志乃）……　41
　8　ＣⅡ地区　……（川崎志乃）……　41
　9　Ｄ地区　……（川崎志乃）……　41
Ⅳ　遺　　物
　1　土器・土製品・陶磁器
　（1）ＡⅠ地区 ……（川崎志乃）……　45
　（2～4）ＡⅢ地区 ……（小濵　学）……　45
　（5）ＢⅠ地区 ……（小濵　学）……　85
　（6）ＢⅡ地区 ……（小濵　学）……　95
　2　石器・石製品……（大下明・久保勝正）……124
Ⅴ　自然科学分析……（パリノ・サーヴェイ株式会社）……196
Ⅵ　結　　語
　1　大原堀遺跡の検出遺構群と縄文時代晩期の埋葬遺構
　……（小山憲一）……200
　2　大原堀遺跡出土縄文土器群の様相と傾向……（小濵　学）……207
　3　大原堀遺跡出土石器群の傾向と分析……（大下明・久保勝正）……209
　4　自然科学分析結果からえられた知見……（小濵　学）……223
　5　総括……（小濵　学）……223

挿図目次

第1図　調査区周辺地形図 …… 2
第2図　調査区位置図 …… 4
第3図　遺跡位置図 …… 8
第4図　ＡⅠ地区平面図 …… 10
第5図　ＡⅠ地区西壁土層断面図 …… 11
第6図　ＳＢ１平面図・断面図 …… 11
第7図　ＡⅡ地区トレンチ配置図・土層断面図 …… 12
第8図　ＡⅣ地区平面図・土層断面図 …… 12
第9図　ＡⅢ地区第１検出面遺構平面図 …… 14
第10図　ＡⅢ地区第２検出面遺構平面図…… 15
第11図　ＡⅢ地区第３検出面遺構平面図…… 16
第12図　ＡⅢ地区土層断面図…… 17
第13図　ＳＸ25・28平面図・断面図…… 18
第14図　ＳＸ29・30・31・46・59平面図・断面図…… 19
第15図　ＳＸ38・39・40・41・平面図・断面図…… 20
第16図　ＳＸ42・43・44平面図・断面図…… 21
第17図　ＳＸ14・37・50平面図・断面図…… 22
第18図　ＳＸ15・32・33・45・48・54・60平面図・断面図 … 23
第19図　ＳＫ56、ＳＳ61～65平面図・断面図…… 24
第20図　ＳＨ11平面図・断面図…… 25
第21図　ＳＫ83平面図・断面図…… 26
第22図　ＳＫ84平面図・断面図…… 27
第23図　ＳＸ70・81・82・85平面図・断面図…… 28
第24図　ＳＫ73・77平面図・断面図…… 29
第25図　ＢⅠ地区第１検出面遺構平面図…… 33
第26図　ＢⅠ地区第２検出面遺構平面図…… 34
第27図　ＢⅠ地区土層断面図…… 35
第28図　ＳＫ100平面図・断面図 …… 35
第29図　ＳＢ108平面図・断面図 …… 36
第30図　ＳＫ91・95平面図・断面図…… 36
第31図　ＢⅡ地区第１検出面遺構平面図…… 37
第32図　ＢⅡ地区第２検出面遺構平面図…… 38
第33図　ＢⅡ地区土層断面図…… 39
第34図　ＳＡ128平面図・断面図 …… 40
第35図　Ｃ地区平面図・土層断面図…… 41
第36図　Ｄ地区平面図・土層断面図…… 41
第37図　ＡⅠ地区出土遺物実測図…… 45
第38図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ30・31出土遺物実測図…… 46
第39図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ39・42出土遺物実測図…… 47
第40図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ29出土遺物実測図…… 48
第41図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ38出土遺物実測図1 …… 49
第42図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ38出土遺物実測図2 …… 50
第43図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ40出土遺物実測図…… 51
第44図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ44出土遺物実測図…… 52
第45図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ43出土遺物実測図…… 53
第46図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ25・28出土遺物実測図…… 54
第47図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ41・46出土遺物実測図…… 55
第48図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ59出土遺物実測図…… 56
第49図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ50出土遺物実測図…… 57
第50図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ14・32・33・37・45出土遺物実測図…… 58
第51図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＫ12・13・16・23・51・57出土遺物実測図…… 59
第52図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＫ17・18・19・20・22・24・26・27・36・49・53・55・56・ＳＸ25出土遺物実測図 … 60
第53図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＨ11・Ｐｉｔ出土遺物実測図 … 61
第54図　ＡⅢ地区第１検出面Ｐｉｔ出土遺物実測図…… 62
第55図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図1 …… 63
第56図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図2 …… 64
第57図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図3 …… 65
第58図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図4 …… 66
第59図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図5 …… 67
第60図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図6 …… 68
第61図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図7 …… 69
第62図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図8 …… 70
第63図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図9 …… 71
第64図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図10…… 72
第65図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図11…… 73
第66図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図12…… 74
第67図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図13…… 75
第68図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図14…… 76
第69図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図15…… 77
第70図　ＡⅢ地区第２・３検出面ＳＫ66・68・69・71・73・74・76・77・83・84・86、ＳＸ85出土遺物実測図…… 78
第71図　ＡⅢ地区第２・３検出面Ｐｉｔ出土遺物実測図 …… 79
第72図　ＡⅢ地区第２・３検出面上包含層出土遺物実測図1 … 80
第73図　ＡⅢ地区第２・３検出面上包含層出土遺物実測図2 … 81
第74図　ＡⅢ地区第２・３検出面上包含層出土遺物実測図3 … 82
第75図　ＢⅠ地区ＳＫ98・100出土遺物実測図 …… 83
第76図　ＢⅠ地区ＳＺ104・106出土遺物実測図1 …… 84
第77図　ＢⅠ地区ＳＺ104・106出土遺物実測図2 …… 85
第78図　ＢⅠ地区ＳＺ104・106出土遺物実測図3 …… 86
第79図　ＢⅠ地区ＳＫ105出土遺物実測図 …… 87
第80図　ＢⅠ地区包含層出土遺物実測図1 …… 88
第81図　ＢⅠ地区包含層出土遺物実測図2 …… 89
第82図　ＢⅠ地区包含層出土遺物実測図3 …… 90
第83図　ＢⅡ地区出土遺物実測図1 …… 91
第84図　ＢⅡ地区出土遺物実測図2 …… 92
第85図　ＢⅡ地区出土遺物実測図3 …… 94
第86図　出土石器・石製品実測図1 …… 128
第87図　出土石器・石製品実測図2 …… 129
第88図　出土石器・石製品実測図3 …… 130
第89図　出土石器・石製品実測図4 …… 131
第90図　出土石器・石製品実測図5 …… 132
第91図　出土石器・石製品実測図6 …… 134
第92図　出土石器・石製品実測図7 …… 135
第93図　出土石器・石製品実測図8 …… 136
第94図　出土石器・石製品実測図9 …… 137
第95図　出土石器・石製品実測図10…… 138
第96図　出土石器・石製品実測図11…… 139
第97図　出土石器・石製品実測図12…… 140
第98図　出土石器・石製品実測図13…… 141

第99図　出土石器・石製品実測図14…… 142
第100図　出土石器・石製品実測図15 …… 143
第101図　出土石器・石製品実測図16 …… 144
第102図　出土石器・石製品実測図17 …… 145
第103図　出土石器・石製品実測図18 …… 146
第104図　出土石器・石製品実測図19 …… 147
第105図　出土石器・石製品実測図20 …… 148
第106図　出土石器・石製品実測図21 …… 149
第107図　出土石器・石製品実測図22 …… 150
第108図　出土石器・石製品実測図23 …… 151
第109図　出土石器・石製品実測図24 …… 152
第110図　出土石器・石製品実測図25 …… 153
第111図　出土石器・石製品実測図26 …… 154
第112図　出土石器・石製品実測図27 …… 155
第113図　出土石器・石製品実測図28 …… 156
第114図　出土石器・石製品実測図29 …… 157
第115図　出土石器・石製品実測図30 …… 159
第116図　出土石器・石製品実測図31 …… 160
第117図　出土石器・石製品実測図32 …… 161
第118図　出土石器・石製品実測図33 …… 162
第119図　出土石器・石製品実測図34 …… 163
第120図　出土石器・石製品実測図35 …… 164
第121図　出土石器・石製品実測図36 …… 165
第122図　出土石器・石製品実測図37 …… 166
第123図　出土石器・石製品実測図38 …… 167
第124図　出土石器・石製品実測図39 …… 168
第125図　出土石器・石製品実測図40 …… 169
第126図　出土石器・石製品実測図41 …… 170
第127図　出土石器・石製品実測図42 …… 171
第128図　出土石器・石製品実測図43 …… 172
第129図　出土石器・石製品実測図44 …… 173
第130図　出土石器・石製品実測図45 …… 174
第131図　出土石器・石製品実測図46 …… 175
第132図　出土石器・石製品実測図47 …… 176
第133図　大原堀遺跡周辺の遺跡位置図 …… 200
第134図　ＡⅢ地区縄文晩期墓域推定図 …… 205
第135図　器種認定概念図 …… 208
第136図　縄文時代晩期土器群の器種構成 …… 208
第137図　縄文時代晩期土器群の時期別器種構成 …… 208
第138図　縄文時代晩期土器群の出土量 …… 208
第139図　近畿地方における晩期の特徴的な石鏃 …… 211
第140図　磨製石斧転用槌石・「楔」 …… 217
第141図　佐藤由紀男氏による磨製石斧分類と各地の磨製石斧 …… 219
第142図　三重県の後期後葉～晩期の石剣形石製品変遷表（試案） …… 222

写真図版目次

巻頭写真1　ＡⅢ地区全景（上層）
ＡⅢ地区全景（下層）
巻頭写真2　ＳＸ50
ＳＸ44
巻頭写真3　ＳＸ39
出土縄文土器
巻頭写真4　朱付着の石
下呂石使用石器
写真図版1　ＡⅠ地区調査前状況 …… 231
ＡⅠ地区調査区全景 …… 231
写真図版2　ＡⅠ地区ＳＢ１ …… 232
ＡⅠ地区Ａ５グリッドPit １遺物出土状況 … 232
写真図版3　ＡⅢ・ＡⅣ地区調査前状況 …… 233
ＡⅢ地区第１検出面調査区全景 …… 233
写真図版4　ＡⅢ地区ＳＸ25土器棺出土状況 …… 234
ＡⅢ地区ＳＸ28土器棺出土状況 …… 234
写真図版5　ＡⅢ地区ＳＸ29土器棺出土状況 …… 235
ＡⅢ地区ＳＸ46土器棺出土状況 …… 235
写真図版6　ＡⅢ地区ＳＸ59土器棺出土状況 …… 236
ＡⅢ地区ＳＸ39土器棺出土状況 …… 236
写真図版7　ＡⅢ地区ＳＸ38土器棺出土状況 …… 237
ＡⅢ地区ＳＸ40土器棺出土状況 …… 237
写真図版8　ＡⅢ地区ＳＸ41土器棺出土状況 …… 238
ＡⅢ地区ＳＸ44土器棺出土状況 …… 238
写真図版9　ＡⅢ地区ＳＸ43土器棺出土状況 …… 239
ＡⅢ地区ＳＸ43土器棺上半部取上後状況 …… 239
写真図版10　ＡⅢ地区ＳＸ42土器棺出土状況 …… 240
ＡⅢ地区ＳＸ50遺物出土状況 …… 240
写真図版11　ＡⅢ地区ＳＸ50遺物出土状況 …… 241
ＡⅢ地区ＳＸ50遺物出土状況近景 …… 241
写真図版12　ＡⅢ地区ＳＸ50遺物出土状況近景 …… 242
ＡⅢ地区ＳＸ50上部土器小片取上後状況近景　242
写真図版13　ＡⅢ地区ＳＸ50上部土器小片取上後状況近景　243
ＡⅢ地区ＳＸ37遺物出土状況 …… 243
写真図版14　ＡⅢ地区ＳＸ32 …… 244
ＡⅢ地区ＳＸ56 …… 244
写真図版15　ＡⅢ地区ＳＳ61 …… 245
ＡⅢ地区ＳＳ61 …… 245
写真図版16　ＡⅢ地区ＳＳ62 …… 246
ＡⅢ地区ＳＳ64 …… 246
写真図版17　ＡⅢ地区ＳＳ65 …… 247
ＡⅢ地区ＳＨ11 …… 247
写真図版18　ＡⅢ地区ＳＨ11カマド痕跡 …… 248
ＡⅢ地区ＳＨ11カマド痕跡遺物出土状況 …… 248
写真図版19　ＡⅢ地区ＳＨ11完掘状況 …… 249
ＡⅢ地区第２・３検出面調査区全景 …… 249
写真図版20　ＡⅢ地区ＳＫ83遺物出土状況 …… 250
ＡⅢ地区ＳＫ84遺物出土状況 …… 250
写真図版21　ＡⅢ地区ＳＸ85 …… 251
ＡⅢ地区ＳＸ70 …… 251
写真図版22　ＡⅢ地区ＳＫ77 …… 252
ＡⅢ地区ＳＫ73 …… 252
写真図版23　ＢⅠ・ＢⅡ地区調査前状況遠景 …… 253
ＢⅠ地区第１検出面調査区全景 …… 253
写真図版24　ＢⅠ地区第２検出面調査区全景 …… 254
ＢⅠ地区ＳＫ100遺物出土状況…… 254

写真図版25　ＢⅠ地区ＳＫ91 …… 255
ＢⅠ地区ＳＫ95 …… 255
写真図版26　ＢⅠ地区ＳＫ105遺物出土状況…… 256
工事完成後 …… 256
写真図版27　出土遺物1…… 257
写真図版28　出土遺物2…… 258
写真図版29　出土遺物3…… 259
写真図版30　出土遺物4…… 260
写真図版31　出土遺物5…… 261
写真図版32　出土遺物6…… 262
写真図版33　出土遺物7…… 263
写真図版34　出土遺物8…… 264
写真図版35　出土遺物9…… 265
写真図版36　出土遺物10 …… 266
写真図版37　出土遺物11 …… 267
写真図版38　出土遺物12 …… 268
写真図版39　出土遺物13 …… 269
写真図版40　出土遺物14 …… 270
写真図版41　出土遺物15 …… 271
写真図版42　出土遺物16 …… 272
写真図版43　出土遺物17 …… 273
写真図版44　出土遺物18 …… 274
写真図版45　出土遺物19 …… 275
写真図版46　出土遺物20 …… 276
写真図版47　出土遺物21 …… 277
写真図版48　出土遺物22 …… 278
写真図版49　出土遺物23 …… 279
写真図版50　出土遺物24 …… 280
写真図版51　出土遺物25 …… 281
写真図版52　出土遺物26 …… 282
写真図版53　出土遺物27 …… 283
写真図版54　出土遺物28 …… 284
写真図版55　出土遺物29 …… 285
写真図版56　出土遺物30 …… 286
写真図版57　出土遺物31 …… 287
写真図版58　出土遺物32 …… 288
写真図版59　出土遺物33 …… 289
写真図版60　出土遺物34 …… 290
写真図版61　出土遺物35 …… 291
写真図版62　出土遺物36 …… 292
写真図版63　出土遺物37 …… 293
写真図版64　花粉化石写真 …… 294

表目次

第1表　土器棺墓一覧表 …… 31
第2表　土壙墓一覧表 …… 31
第3表　集石土坑一覧表 …… 32
第4表　遺構一覧表1…… 43
第5表　遺構一覧表2…… 44
第6表　土器・土製品観察表1…… 96
第7表　土器・土製品観察表2…… 97
第8表　土器・土製品観察表3…… 98
第9表　土器・土製品観察表4…… 99
第10表　土器・土製品観察表5 …… 100
第11表　土器・土製品観察表6 …… 101
第12表　土器・土製品観察表7 …… 102
第13表　土器・土製品観察表8 …… 103
第14表　土器・土製品観察表9 …… 104
第15表　土器・土製品観察表10…… 105
第16表　土器・土製品観察表11…… 106
第17表　土器・土製品観察表12…… 107
第18表　土器・土製品観察表13…… 108
第19表　土器・土製品観察表14…… 109
第20表　土器・土製品観察表15…… 110
第21表　土器・土製品観察表16…… 111
第22表　土器・土製品観察表17…… 112
第23表　土器・土製品観察表18…… 113
第24表　土器・土製品観察表19…… 114
第25表　土器・土製品観察表20…… 115
第26表　土器・土製品観察表21…… 116
第27表　土器・土製品観察表22…… 117
第28表　土器・土製品観察表23…… 118
第29表　土器・土製品観察表24…… 119
第30表　土器・土製品観察表25…… 120
第31表　土器・土製品観察表26…… 121
第32表　土器・土製品観察表27…… 122
第33表　土器・土製品観察表28…… 123
第34表　石器器種別・出土地点一覧表1 …… 125
第35表　石器器種別・出土地点一覧表2 …… 126
第36表　石器器種別・出土地点一覧表3 …… 127
第37表　石器・石製品一覧表1 …… 179
第38表　石器・石製品一覧表2 …… 180
第39表　石器・石製品一覧表3 …… 181
第40表　石器・石製品一覧表4 …… 182
第41表　石器・石製品一覧表5 …… 183
第42表　石器・石製品一覧表6 …… 184
第43表　石器・石製品一覧表7 …… 185
第44表　石器・石製品一覧表8 …… 186
第45表　石器・石製品一覧表9 …… 187
第46表　石器・石製品一覧表10…… 188
第47表　石器・石製品一覧表11…… 189
第48表　石器・石製品一覧表12…… 190
第49表　石器・石製品一覧表13…… 191
第50表　石器・石製品一覧表14…… 192
第51表　石器・石製品一覧表15…… 193
第52表　石器・石製品一覧表16…… 194
第53表　石器・石製品一覧表17…… 195
第54表　花粉分析結果…… 199
第55表　微細遺物分析結果…… 199
第56表　検出動物分類群…… 199
第57表　骨同定結果…… 199
第58表　リン酸分析結果…… 199
第59表　縄文時代晩期土器併行関係…… 208

Ⅰ　前　言

1　調査に至る経過

大原堀遺跡の発見の契機は、昭和49年に行われた畑地の整地の際に、遺物の散布を確認したことによる。また、昭和51年には遺跡のすぐ西側で道路の拡幅工事が行われ、遺物に加え、道路の切通し断面で遺構も確認された。採集された遺物は、大半が縄文時代の遺物で、早期の押型文土器を中心に、少量の後～晩期土器、石鏃などの石器類も採集された[①]。以後、大原堀遺跡は、早期を中心とした縄文時代遺跡として周知された。

大原堀遺跡が初めて発掘調査の対象となったのは、昭和60年の近畿自動車道（久居～勢和）建設に伴う範囲確認調査で、本遺跡の第１次調査にあたる。事業地は遺跡の南西端部にあたり、事業地内に遺跡の広がりが想定されたが、調査の結果、少量の遺物出土にとどまり、遺構は確認されなかったため、本調査には至らなかった[②]。

本書で報告するのは、第１次調査に次ぐ第２次・第３次調査にあたり、ほ場整備事業に伴い実施されたものである。平成13年度に行われた範囲確認調査では、周知の遺跡範囲の南方に遺跡の広がりが認められたため、事業に伴い削平される部分について発掘調査が実施されることとなった。

2　調査の経過

（1）調査経過の概要

第２次調査（平成14年度）

現地調査は、７月９日にＢⅡ地区から開始した。

台風の影響を若干受けたものの、全般的に好天に恵まれ、調査は順調に進行した。しかし、盛夏の折には猛暑による作業員の体調不良や、遺構面の極度の乾燥により、作業に支障をきたすこともあった。ＢⅡ地区では遺構密度は低いものの、平安時代の後半期を中心とした遺構を確認した。調査終了後、下層遺構の確認調査を行ったところ、縄文時代中期末～後期初頭の土器を伴う包含層が確認されたため、調査工程の都合上、ＡⅢ地区の調査終了後、全面的に下層調査を行うこととなった。

ＡⅢ地区は、８月29日に包含層掘削に着手したが、当初より縄文土器や石器類が多量に出土した。遺構検出面と遺構埋土のコントラストが不明瞭で、検出は困難を極めたが、最終的には、縄文時代晩期の墓域を確認するに至った。墓域を形成する土器棺墓の検出数は14基を数え、県内では名張市の下川原遺跡に次ぐ規模となった。出土遺物では、赤彩土器や県内では出土が稀な浮線文系土器も出土した。これらの調査成果を受けて実施した現地説明会では、80名の参加を得ることができた。

ＡⅢ地区もＢⅡ地区同様、検出面に遺物がなお包含し、下層に文化層が認められるため、下層遺構の確認調査を行ったところ、２層の遺構検出面が認められた。これを受け、開発部局との協議を行ったが、下層遺構の現状保存は不可能となったため、11月12日に下層調査を開始した。調査の結果、縄文時代晩期の土壙墓及び中期の土坑などを検出した。遺構検出面は調査区の北半部で２面あり、当地区の調査面積は当初の約2.5倍となった。

相次ぐ下層遺構の発見による調査面積の増大により、事業の進捗に影響が及んできたため、ＡⅢ地区の下層調査の開始にあわせ、調査を２班体制とし、調査期間の短縮を図った。10月30日に調査を開始したＡⅠ地区では、12世紀末～13世紀初頭の掘立柱建物１棟などを検出した。ＡⅡ・ＡⅣ・ＣⅠ・ＣⅡ・Ｄの５地区では、近世陶磁器片が僅かに出土したのみで、遺構はいずれも検出できず、短期で調査は終了した。

ＢⅡ地区の下層調査は、11月28日に開始した。包含層掘削は、遺物が希薄であったことから重機によって行った。12月12日に人力による遺構検出・掘削を開始したが、明確な下層遺構は検出できず、同月24日に調査を終了した。

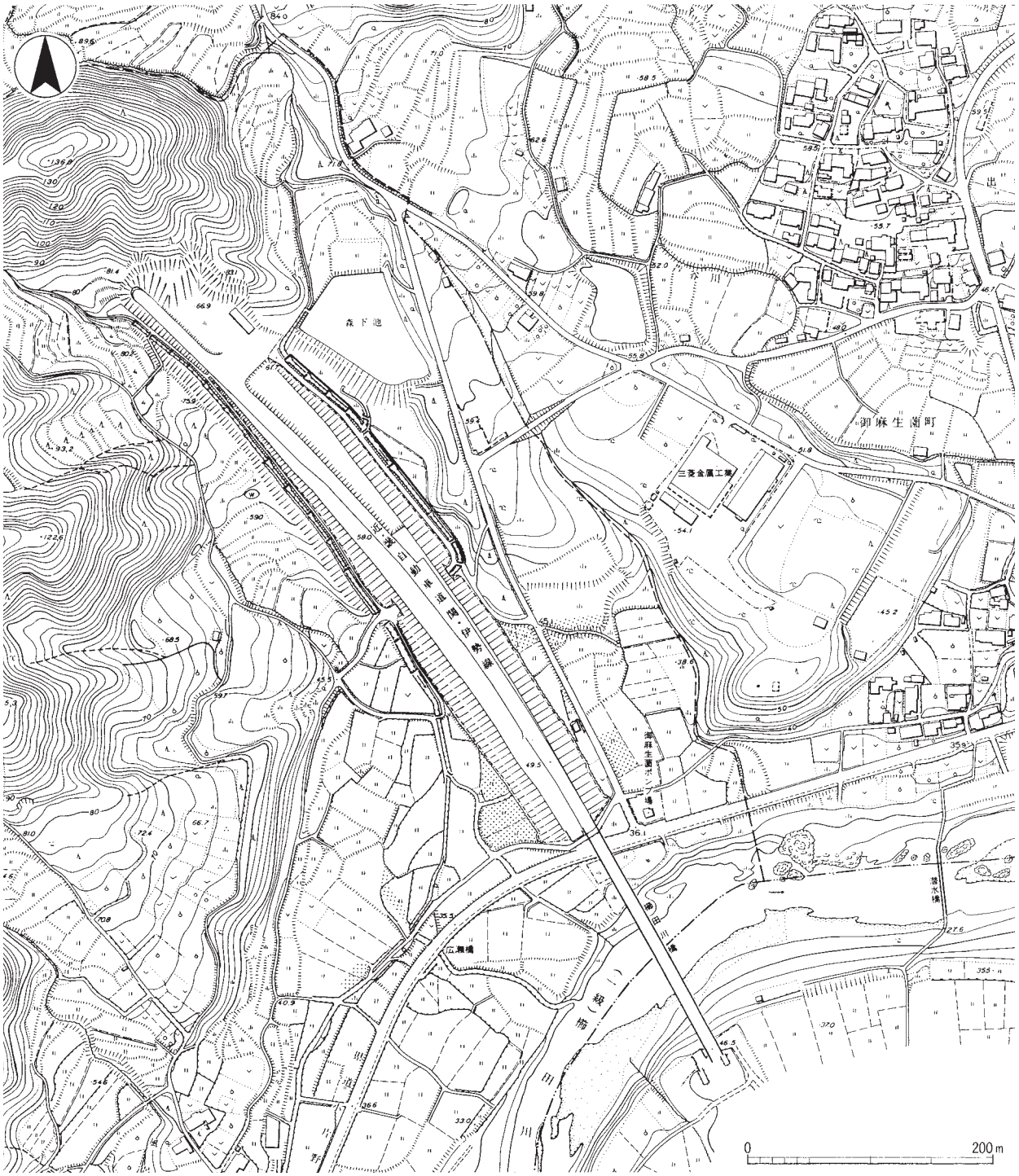
下層遺構の発見による大幅な面積増で、予定期間内に全地区の調査を完了できなくなったことから、工事施工が猶予できるＢⅠ地区を次年度送りとし、ＢⅡ地区の下層調査完了をもって14年度調査を終了

した。

第３次調査（平成15年度）

ＢⅠ地区の現地調査は６月16日に開始した。南接のＢⅡ地区を２面調査した経緯から、重機による表土掘削後、調査区壁際に土層観察用トレンチを設定し、予め下層遺構の確認調査を行った。調査の結果、ＢⅡ地区同様、下層調査が必要と判断し、当初から２面の予定で調査に着手した。

第１面では、調査区北半に安定した包含層があり、縄文中～晩期土器や石錘などの石器、平安時代の土師器や山茶椀、ロクロ土師器、製塩土器などのほか、搬入自然礫も多数出土した。調査区南半では、集石土坑２基などを検出した。下層では、調査区北半で落ち込みを検出し、縄文中～晩期土器や磨製石斧などの石器が出土した。落ち込み底部で検出した平安期の土坑からは、完形の墨書土師器杯と鉄製紡錘車



第１図　調査区周辺地形図(1:5,000)

が出土した。開始時期が梅雨入りと重なったため、天候不順によって調査は遅延したが、８月11日には全工程を終了した。

（２）調査日誌（抄）

第２次調査（平成14年度）

７月９日　ＢⅡ地区表土掘削開始。

７月22日　調査区南側から人力掘削開始。調査区東壁土層図作成。

７月24日　遺構検出開始。

７月30日　ＳＫ３より浮線文系土器出土。

８月１日　調査区北東隅でピット群検出。

８月６日　掘削作業終了。

８月７日　調査区全景・個別遺構の写真撮影。

８月８日　ＢⅡ地区遺構実測。ＡⅢ地区表土掘削開始。縄文土器・石鏃など出土。

８月９日　ＢⅡ地区遺構実測終了。

８月12日　ＡⅢ地区表土掘削終了。

８月20日　ＢⅡ地区下層確認調査開始。東トレンチで中期末～後期初頭の土器がまとまって出土。

８月26日　上層遺構検出層を下層包含層と判断。直下の層で検出を試みるが明確な遺構は検出できず。

８月29日　ＡⅢ地区南側から包含層掘削開始。縄文土器・石器が多量に出土。

８月30日　天候不良のため現場作業中止。グループリーダーとの協議でＢⅡ地区全面の下層調査実施を決定。

９月４日　ＡⅢ地区包含層掘削。Ｂ８グリッドで土器棺墓２基確認。

９月５日　松阪市立射和小学校の現場見学。調査区南壁土層観察及び分層。

９月９日　７グリッドラインの包含層掘削。晩期中心の縄文土器･石器多量に出土。９グリッドラインの遺構検出。竪穴住居・土坑等検出。

９月12日　竪穴住居ＳＨ１は奈良時代の遺構と判明。Ｂ８グリッド土器棺墓ＳＸ20・21出土状況図作成。

９月13日　６グリッドラインの包含層より浮線文系土器出土。ＳＨ１床面で焼土痕跡確認。

９月19日　５グリッドラインの包含層掘削。土器棺墓３基確認。土器・石器が多量に出土。ＳＨ１遺物出土状況写真撮影・実測図作成。

９月24日　４グリッドラインの包含層掘削。土器棺墓３基確認。

９月25日　３グリッドラインの包含層掘削。土器棺墓２基確認。

10月３日　１～２グリッドラインの包含層掘削。

10月４日　土器棺墓ＳＸ27・18出土状況写真撮影・実測図作成後取り上げ。

10月７日　１～３グリッドラインの精査。土器棺墓ＳＸ28～34の埋設土坑検出・掘削。埋設土坑ライン不明瞭のもの多い。

10月９日　ＳＸ28～34出土状況写真撮影、ＳＸ31・32実測図作成。

10月10日　ＳＸ31土器取り上げ。ＳＸ27～30・33・34実測図作成。

10月15日　１～４グリッドラインの再検出。Ｃ４グリッドで土壙墓（ＳＫ38・40）検出。ＳＸ33土器取り上げ。

10月16日　１～４グリッドラインの遺構掘削。ＳＫ38・40の分析用土壌サンプル採取。集石土坑（ＳＫ46）確認。

10月17日　調査区全景写真撮影。ＳＸ33・34土器取り上げ。

10月18日　個別遺構写真撮影。ＳＸ19・30土器取り上げ。

10月22日　遺構実測（23日終了）。

10月25日　下層遺構確認調査開始。土器・石器多量に出土。

10月30日　中期の土坑検出。その他ピット等多数の遺構を検出。ＡⅠ地区表土掘削開始。

11月３日　現地説明会開催。

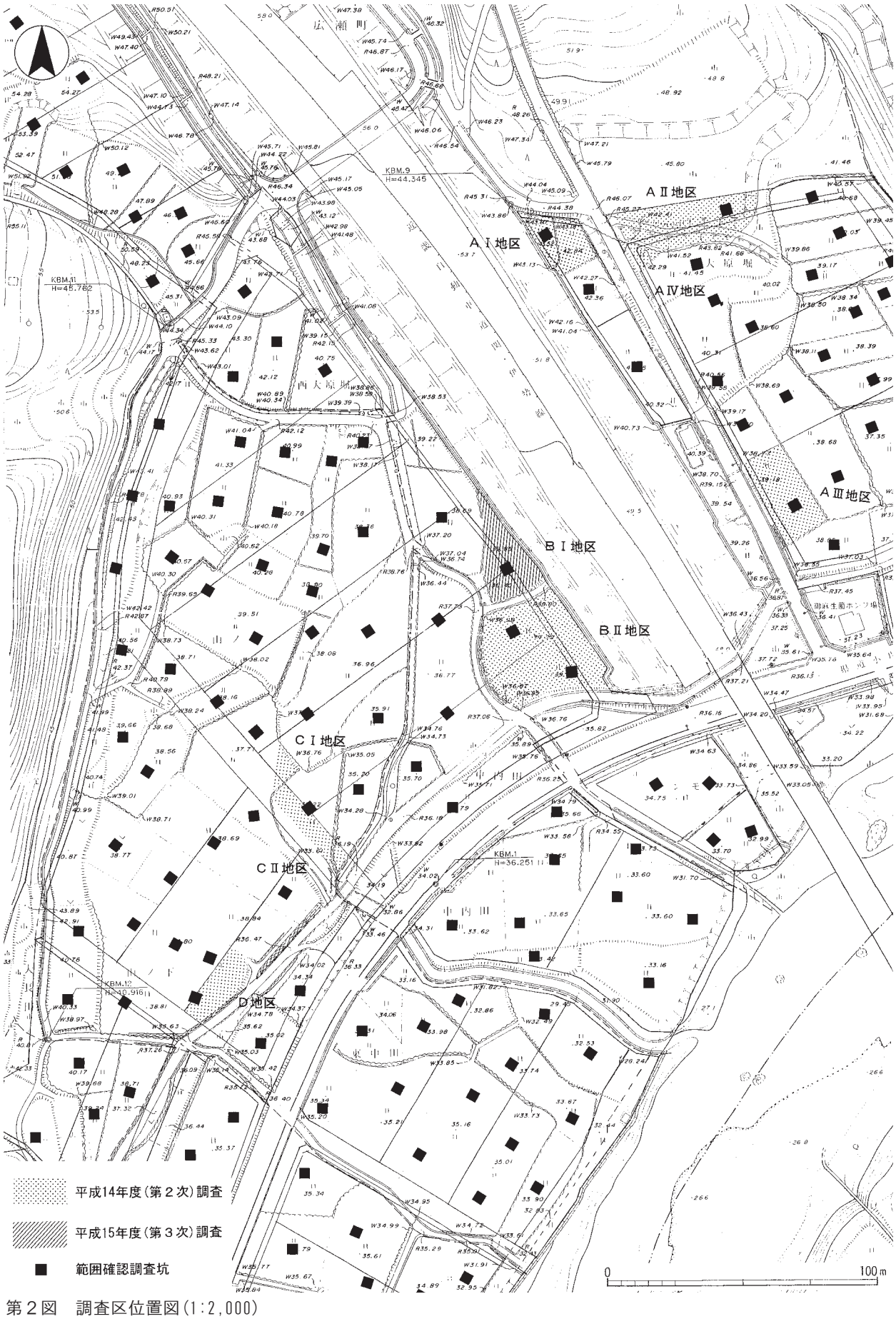
11月６日　ＡⅠ地区人力掘削開始。

11月11日　ＡⅢ地区下層調査についての現地協議。下層調査実施決定。

11月12日　ＡⅢ地区下層調査開始。

11月13日　ＡⅢ地区で立石を伴う土壙墓２基検出。ＡⅠ地区調査区西壁土層図作成。

11月14日　ＡⅠ地区遺構検出・掘削。



第２図　調査区位置図(1:2,000)

11月18日　AⅣ地区表土掘削。
11月19日　AⅢ地区で縄文時代中期の土坑（SK18）検出。下層２層目の掘削開始。AⅠ地区調査区全景写真撮影。AⅡ地区機械掘削。
11月20日　AⅠ地区遺構実測（21日終了）。AⅡ地区トレンチ調査にて終了。AⅣ地区土層図作成・完掘写真撮影。
11月21日　AⅣ地区平面図作成。
11月22日　CⅠ・Ⅱ地区機械掘削開始。
11月26日　AⅢ地区下層調査区全景写真撮影。AⅠ地区下層確認調査。
11月27日　AⅢ地区下層個別遺構写真撮影。
11月28日　AⅢ地区下層遺構実測（29日終了）。BⅡ地区下層調査機械掘削開始。CⅠ・Ⅱ地区土層図作成。
11月29日　CⅠ・Ⅱ地区遺構検出・完掘写真撮影。
12月２日　AⅢ地区土壌サンプル採取。CⅠ・Ⅱ地区平面図作成。
12月５日　AⅢ地区西壁の遺物採集中に土器棺墓を新たに１基発見。
12月６日　AⅢ地区全調査終了。
12日10日　D地区表土掘削。
12月11日　D地区調査終了。
12月12日　BⅡ地区下層調査人力掘削開始。
12月13日　SK１～３検出。
12月16日　SK２・３掘削。ピット検出。
12月18日　SK１完掘。ピット検出・掘削。
12月20日　調査区全景写真撮影。
12月24日　遺構実測。全調査終了。

第３次調査（平成15年度）

６月16日　BⅠ地区表土掘削開始（19日終了）。
６月26日　人力掘削開始。
６月27日　土層観察用トレンチ掘削。
７月３日　土層図作成。
７月４日　包含層掘削。縄文土器・石器・土師器等多数出土。搬入自然礫多数検出。
７月16日　遺構検出。土坑・ピットなど検出。
７月18日　集石土坑SK１・SK５写真撮影後実測。掘削作業終了。
７月22日　調査区全景写真撮影。
７月24日　遺構実測（25日終了）。
７月29日　下層調査開始。落ち込み検出。
８月４日　落ち込み埋土から縄文中～晩期土器、石器などが出土。
８月５日　落ち込み底部で検出した土坑より、完形の墨書土師器杯・鉄製紡錘車出土。
８月６日　掘削作業終了
８月７日　調査区全景写真撮影。遺構実測。
８月11日　下層確認調査。全調査終了。

（３）文化財保護法等による諸通知

文化財保護法等にかかる諸通知は、以下によって行っている。

第２次調査

・三重県文化財保護条例第48条第１項にかかる発掘通知（県教育長宛県知事通知）
平成14年６月３日付農商第20－76号
・文化財保護法第58条の２第１項にかかる発掘調査実施報告（県教育長宛埋蔵文化財センター所長通知）
平成14年６月28日付教埋第95号
・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（松阪警察署長宛県教育長通知）
平成15年２月３日付教委第12－６－14号

第３次調査

・三重県文化財保護条例第48条第１項にかかる発掘通知（県教育長宛県知事通知）
平成15年５月28日付農商第20－80号
・文化財保護法第58条の２第１項にかかる発掘調査実施報告（県教育長宛埋蔵文化財センター所長通知）
平成15年５月20日付教埋第48号
・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（松阪警察署長宛県教育長通知）
平成16年２月３日付教委第12－９－５号

３　調査の方法

（１）調査区の設定について

調査区は、近畿自動車道を挟んで東西９地区に点在するため、第２図のように自動車道の東側をAⅠ～AⅣの４地区に、西側をBⅠ・BⅡ、CⅠ・CⅡ、Dの５地区に設定した。各調査区では、概ね調査区

長辺に沿った任意の基準を設定し、４m方眼の地区杭を設置した。従って、この小地区方眼は国土座標と合致していない。地区杭には、北～南に算用数字、西～東にアルファベットを付与し、各地区の北西杭を当該地区名とした。

（２）遺構番号について

現地調査の段階では、地区毎に遺構番号を１から付与したため、報告書作成段階で遺構番号の整理を次のように行った。前述の９地区の内、ＡⅡ・AⅣ・Ｃ１・ＣⅡ・Ｄの５地区では遺構が検出されなかったため、ＡⅠ・AⅢ・ＢⅠ・ＢⅡの４地区で遺構番号の整理を行い、基本的にＡⅠ→AⅢ→ＢⅠ→ＢⅡの順に通し番号を付与したが、一部欠番も存在する。詳細は第４・５表の遺構一覧表を参照されたい。

（３）掘削の方法

掘削は、基本的に耕作土及び床土を重機で行い、包含層及び遺構を人力で行ったが、包含層掘削の一部は重機で行った。

（４）遺構図面の作成について

遺構図面の作成は、すべて手書きによる。各図の作成時の縮尺は以下の通りである。

・平面図（全図）…１：20
・遺物出土状況図…１：10
・土層断面図…１：20

（５）遺構写真について

調査区全景写真は、ローリングタワーを設置して撮影した。個別の遺物出土状況及び遺構写真は、一部脚立を利用し撮影した。フィルムは、６×７㎝版（モノクロ･カラーポジ）に加え、35㎜版（モノクロ･カラーポジ）を使用した。カメラは､アサヒペンタックス６×７、ニコンＦＭ２を使用した。

（小山憲一）

[註]

①松阪市史編さん委員会『松阪市史　第二巻史料篇考古』（1978年）
②三重県教育委員会「大原堀遺跡」（『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告―第１分冊１－』1989年）

Ⅱ　位置と環境

１　位置と地理的環境

大原堀遺跡（１）は、県下有数の大河である櫛田川の中流域左岸に位置する。櫛田川は、台高山脈の国見山・高見山付近に源を発し、三重県のほぼ中央部を東流して伊勢湾に流入するが、当遺跡が位置する中流域では大きく曲流を繰り返し、河岸段丘を発達させている。このような曲流部に形成された段丘上に立地する大原堀遺跡は、背後に松阪丘陵を控え、南に臨む櫛田川を眼下に収めている。遺跡の行政上の所在地は、三重県松阪市広瀬町字大原堀、西大原堀、山ノ下である。

２　歴史的環境

櫛田川流域における先人の営為の跡は、旧石器時代にまで遡る。遺跡の分布は中流域からその密度を増し、旧石器～中近世に至るまで展開している。以下、当遺跡の所属時期を中心に周辺遺跡の分布状況を概観していきたい。

主にナイフ形石器の存在で認知される旧石器時代の遺跡は、櫛田川流域ではあまり確認されていないが、松阪市上寺遺跡[①]（２）や多気町上世古遺跡[②]（３）でナイフ形石器が出土あるいは表採されている。南方に並流する宮川及び外城田川流域では、県下で確認されている旧石器時代遺跡の約半数が分布しており、対照的な様相を呈する。

旧石器時代末葉～縄文時代初頭の木葉形尖頭器や有茎尖頭器の段階に入ると、櫛田川流域においても遺跡の確認例は増加する。当遺跡の東西に隣接する松阪市上ノ広遺跡（４）や同市王子広遺跡（５）では、当該期の石器がまとまって出土しており、上ノ広遺跡では、神子柴型石斧や異形部分磨製石器（通称トロトロ石器）も出土している[③]。また、右岸側の多気町内では、高皿遺跡（６）で縄文時代草創期の一括資料となる石器群が出土し[④]、牟山遺跡（７）でも同様の石器群が出土している[⑤]。

この地域で土器の使用が開始されたのは、縄文時代早期からと考えられる。松阪市鴻ノ木遺跡（８）

では、大川式と鴻ノ木Ⅳ式を中心とした押型文土器が多数出土し、当該期の竪穴住居や煙道付炉穴が検出された[6]。また、多気町坂倉遺跡でも同様の炉穴が検出され、大鼻式・大川式の土器も出土している[7]。櫛田川流域は、このような早期押型文土器の出土が顕著な地域として知られ、松阪市鐘突遺跡[8]（９）、同市射原垣内遺跡[9]、上寺遺跡[10]（２）、牟山遺跡[11]（７）などの他、大原堀遺跡（１）においても大川・神宮寺式の押型文土器が多数採集されている[12]。

縄文時代前期は、全県的に遺跡の確認例が少ないが、櫛田川中流域では比較的確認例が多い。右岸側に位置する多気町（旧勢和村）アカリ遺跡は、櫛田川流域における拠点的集落であったと推定されている。下流域にほど近い左岸側に位置する松阪市山添遺跡では、発掘調査によって集落跡が確認され、竪穴住居や土坑が検出された。また、北白川下層Ⅱｃ式・諸磯式系・彦崎ＺⅠ式系の土器や多量の石器類も出土している[13]。

続く中期には遺跡数が増加し、分布範囲も拡大するが、遺跡の規模は概して小規模で、断片的なものが多いようである。また、前半は関東系・北陸系・東海系・瀬戸内系などの土器が出土しており、活発な地域間交流が窺える一方、後半には地域色の濃い土器が出土するようになる。この地域では、松阪市新殿木戸遺跡（10）や大台町浜井場遺跡（11）が代表的な遺跡として挙げられる。

後期は、県下では縄文時代の中で最も多くの遺跡が確認されている時期である。王子広遺跡（５）や多気町（旧勢和村）宮切遺跡､多気町新徳寺遺跡（12）、射原垣内遺跡などは、この地域を代表する後期前葉の遺跡として挙げられる。中でも国内最古級の朱彩土器が出土した王子広遺跡[14]や、朱彩土器に加え、辰砂原石も出土した新徳寺遺跡[15]は、朱の生産関連遺跡として注目される。後期後葉になると、遺跡数が減少する反面、大規模で安定した遺跡が主要な河川流域に形成される。この地域では、櫛田川左岸の多気町（旧勢和村）新神馬場遺跡（13）が確認されており、土器の他、多数の石器が出土している[16]。なお、この時期の遺跡では、石錘の出土が顕著となり、櫛田川河畔における網漁の発達がうかがえる。また、石鏃を主にした剥片石器の石材として、二上山産出のサヌカイト利用が一般化していく。このことは、櫛田川流域がサヌカイトをはじめとした交易・交流の動脈であったことを示している。

晩期の遺跡は、その分布が希薄となる傾向にある。そうした中、この地域では多気町（旧勢和村）池ノ谷遺跡（14）が数少ない代表的な遺跡として挙げられる。池ノ谷遺跡では、朱の付着した磨石や辰砂原石、石棒の未製品や破損品が多数出土しており[17]、呪術的な色彩の濃い朱や石棒の生産遺跡としての性格を有した点で、注目される。

櫛田川流域では、縄文時代の遺跡分布が主に中流域であるのに対し、弥生時代に入ると、下流域へ徐々に広がり始める。前期の遺跡は中流域では多気町（旧勢和村）北新木遺跡などが確認されているが、断片的出土の小遺跡にとどまる。下流域では、上寺遺跡（２）や竪穴住居跡が１棟検出された鐘突遺跡[18]（９）などが挙げられるが、分布状況は希薄である。

中期になると遺跡の分布数はやや増加する。中流域では大型の壺棺を納めた土器棺墓１基が検出された多気町（旧勢和村）松葉遺跡[19]や、竪穴住居跡２棟及び方形周溝墓１基などが検出された多気町花ノ木遺跡[20]（15）が知られ、下流域では上寺遺跡（２）が代表的な遺跡として挙げられる。

下流域への進出が一層顕著となる後期では、上寺遺跡[21]（２）や射原垣内遺跡[22]で竪穴住居跡が検出された。また、多気町相可高校校庭遺跡（16）では、いわゆるパレス・スタイルの土器が出土している。

古墳時代の当遺跡周辺の様相は不明な部分が多い。櫛田川流域の古墳の分布状況は、下流域では平地を見下ろす丘陵上に後期の群集墳が多数分布し、河田古墳群など、特に右岸側で顕著である。一方、中流域の分布は希薄で、当遺跡付近より上流側では、今のところ明確な古墳は確認されていない。当該期の集落跡については発掘調査の事例が少なく、詳細は不明であるが、下流域の射原垣内遺跡では前期、鴻ノ木遺跡（８）では中～後期の竪穴住居が各２棟検出されている[23]。

奈良～平安時代には仏教の流布に従い、当遺跡周辺でも寺院の建立がなされた。松阪市御麻生薗廃寺（17）では、早くから多数の古瓦が採集されており、その文様から白鳳期～奈良時代後期まで存続したと

第３図　遺跡位置図(1:50,000)『国土地理院発行、２万５千分の１地形図(大河内・松阪・横野・国束山)より』

推定されている[24]。また、平安時代初期から前期にかけて多気町（旧勢和村）丹生成就院神宮寺（18）や、国指定重要文化財の木造十一面観音菩薩立像を所蔵する多気町近長谷寺（19）などが建立された。中でも丹生の神宮寺は、周辺で盛んに採掘された水銀によって繁栄し、人々の信仰も高かったとされる。奈良時代中頃の東大寺盧舎那仏造営の際に使用された大量の水銀は丹生産のものとされ、以後、近世にかけて継続された水銀生産は、この地域に繁栄をもたらした。丹生における水銀生産の起源は不明であるが、前述の池ノ谷遺跡（14）にみられるように、縄文時代にまで遡る可能性がある。水銀の採掘坑跡は、今なお丹生の山間部に無数に残されており、往時の隆盛を今に伝えている。

櫛田川の中～下流域は、古代に条里制が施行されたところとしても知られる。当時の条里制に因む地名が右岸側に位置する多気町大字「三疋田」・「四疋田」として現存しており、地割りの名残も今なお観察できる。さらにこれらの地域は、古来より神三郡と呼ばれる伊勢神宮の支配地域に属し、多くの御厨・御薗が設置された。当遺跡周辺では、広瀬御薗や茅原田御厨があり、神宮への貢納が行われたとされる。また、近年の発掘調査によって、当該期の集落跡も確認されている。鴻ノ木遺跡（８）では、奈良～平安時代の竪穴住居や掘立柱建物、井戸等が検出された[25]。松阪市朱中遺跡（20）では、奈良時代の竪穴住居や掘立柱建物が確認されている[26]。さらに、多気町五佐奈遺跡では、平安時代の掘立柱建物や斎串を伴う井戸が検出されており[27]、この地域の古代集落の一端が明らかにされている。　　（小山憲一）

［註］

①松阪市教育委員会『上寺遺跡発掘調査報告書』(1981年)
②多気町史編纂委員会『多気町史　通史』(1992年)
③三重県教育委員会「上ノ広遺跡」(『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告－第１分冊１－』1989年)
④三重県埋蔵文化財センター『高皿遺跡発掘調査概報』(1996年)
⑤前掲註②
⑥三重県埋蔵文化財センター『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ　鴻ノ木遺跡（下層編)』(1998年)
⑦前掲註②
⑧松阪市教育委員会『鐘突遺跡発掘調査報告書』(1981年)
⑨松阪市教育委員会『射原垣内遺跡発掘調査概報』(1980年)
⑩前掲註①
⑪前掲註②
⑫松阪市史編さん委員会『松阪市史　第二巻史料篇考古』(1978年)
⑬三重県埋蔵文化財センター『山添遺跡（第４次）発掘調査報告』(2007年)
⑭勢和村史編集委員会『勢和村史　通史編』(1999年)
⑮三重県埋蔵文化財センター『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ　新徳寺遺跡』(1997年)
⑯三重県立津高等学校地歴部『新神馬場遺跡発掘調査報告』(1972年)
⑰勢和村教育委員会「池ノ谷遺跡範囲確認調査報告」(『三重県勢和村遺跡地図』 1995年)
⑱前掲註⑧
⑲前掲註⑭
⑳三重県教育委員会「花ノ木遺跡」(『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告―第１分冊１－』1989年)
㉑前掲註①
㉒前掲註⑨
㉓三重県埋蔵文化財センター『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ　鴻ノ木遺跡（上層編)』(1998年)
㉔前掲註⑫
㉕前掲註㉓
㉖三重県埋蔵文化財センター「Ⅲ．朱中遺跡」(『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ　朱中遺跡・朱中古墳群』 1996年)
㉗三重県教育委員会『三重県埋蔵文化財年報７』(1977年)

［参考文献］

松阪市史編さん委員会『松阪市史　第二巻　史料篇考古』(1978年)
多気町史編纂委員会『多気町史　通史』(1992年)
勢和村史編集委員会『勢和村史　通史編』(1999年)
平凡社『日本歴史地名大系第24巻　三重県の地名』(1983年)

Ⅲ　遺　　構

１　ＡＩ地区

（１）地形と層序

本調査区は、北側の丘陵縁辺部から南方へ土砂が押し出されて形成された段丘上に位置する。基本層序は自然堆積層を指標とすると、表土・旧表土・６～８層・９～12層・13～17層に大別される。９層下部にて検出し、下記のとおり掘立柱建物等を確認した。また、更に下層にて遺物が出土したことから、下層確認として重機による検出を行ったが遺構は確認されなかった。

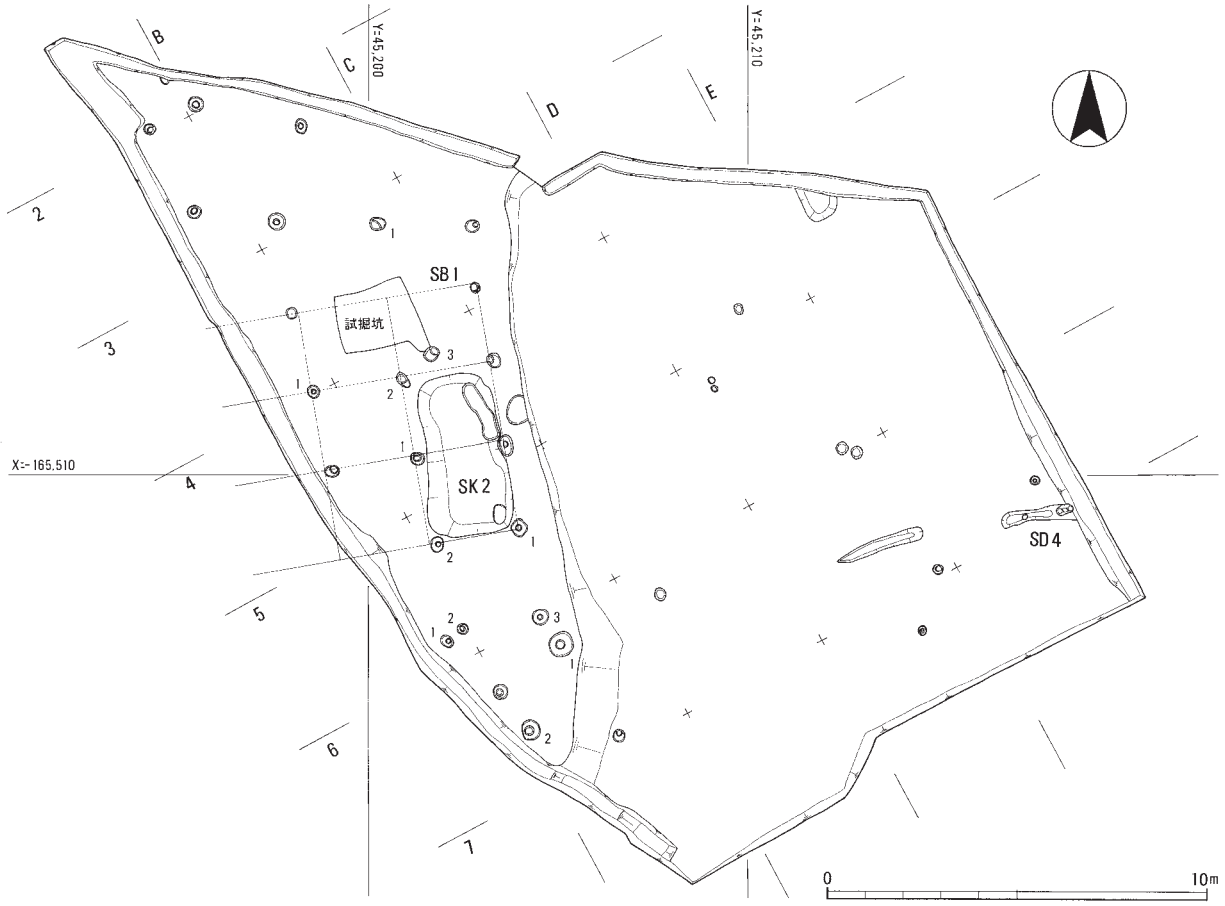
（２）検出遺構

ＳＢ1（第６図）　調査区西寄りのＡ３～Ｂ５グリッドの９層下部にて検出した。東西２間（一間約2.4m）以上南北３間（南から約2.4＋2.1＋2.1m）の東西棟である。主軸はＮ10°Ｗである。また、建物南東部には、東西１間南北２間分の範囲に土坑ＳＫ２が確認された。柱痕跡埋土とＳＫ２埋土は極めて類似する土壌であり、ＳＫ２は柱筋を意識した形態をとることから、ＳＫ２はＳＢ１に伴ういわゆる南東隅土坑と考えられる。柱堀方は南面するものが隅丸方形で、一辺約20cm程度である。

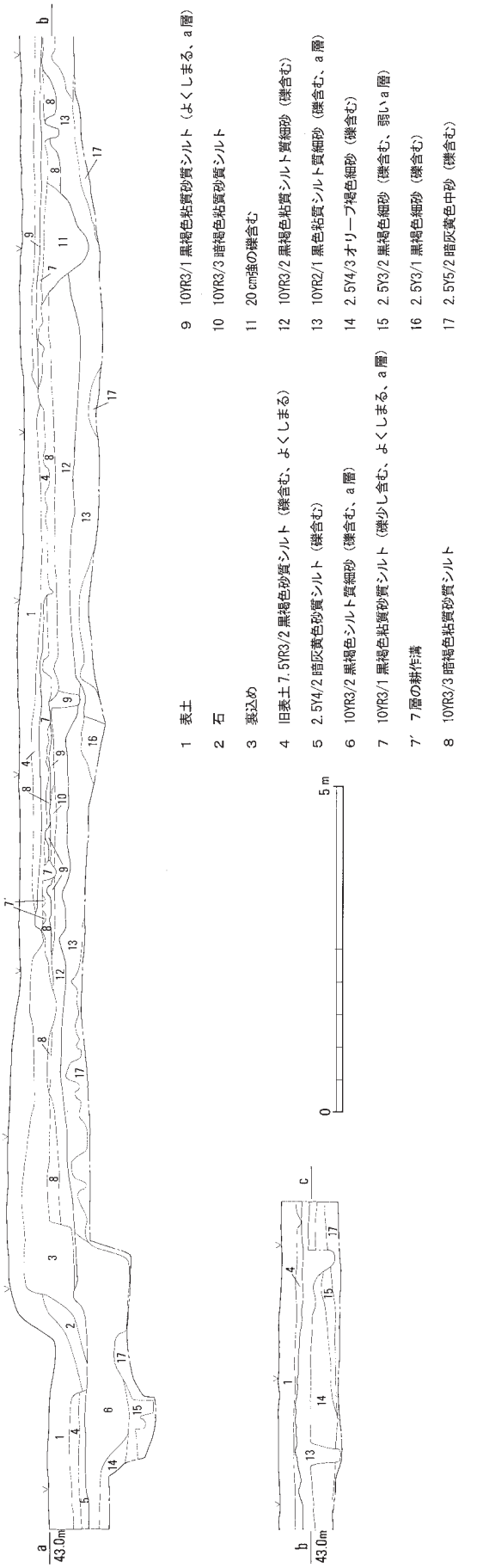
時期的には、出土遺物が伊藤裕偉氏による南伊勢系鍋の編年[①]（以下、南伊勢系鍋編年と省略）の１段階に相当することから、12世紀末から13世紀初頭頃のものと考えられる。

ＳＫ２（第６図）　前述のようにＳＢ１の南東隅土坑と考えられる。東西2.1m南北4.2m深さ25cmを計る。埋土は上下２層に分かれ、２層には焼土ブロックや約10cmのスサ入りの粘土塊などが包含されていた。時期的にはＳＢ１と同様に12世紀末から13世紀初頭頃のものと考えられる。

ＳＤ４（第４図）　調査区東寄りのＤ～Ｅ６グ



第４図　ＡＩ地区平面図(1:200)



第５図　ＡＩ地区西壁土層断面図(1:100)

リッドの６層下部にて検出した。埋土には陶器椀片が含まれていた。　（川崎志乃）

２　ＡⅡ地区

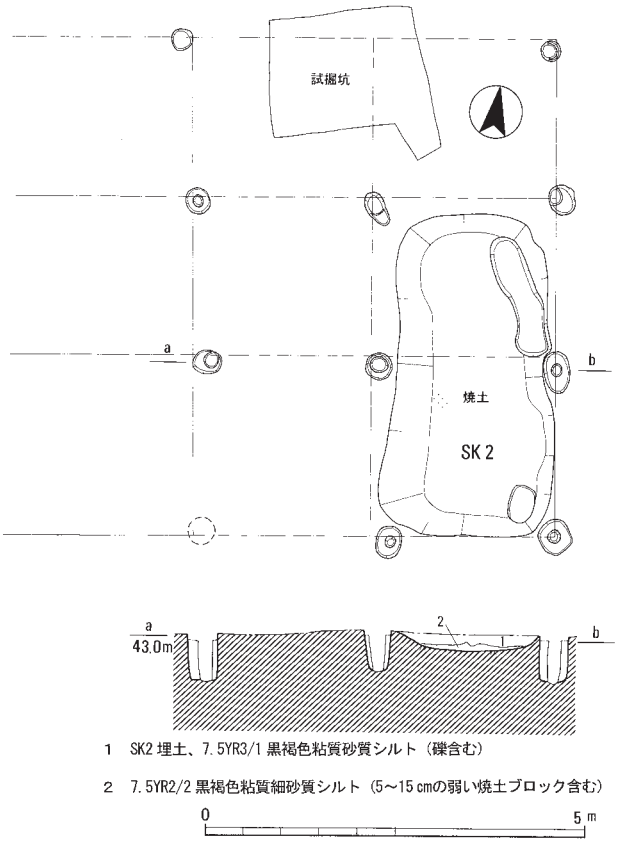
本調査区は、北側の丘陵部から南方へ張り出す台地縁辺部に相当したと考えられる。昭和49年に整地された直後に縄文早期の遺物がまとまって確認されている[2]ことから、調査対象とされた。しかし、盛り土は３ｍ以上に達し、すでに包含層は削平されていた。また、表土下の自然堆積層では遺構・遺物とも確認されなかった。

（川崎志乃）

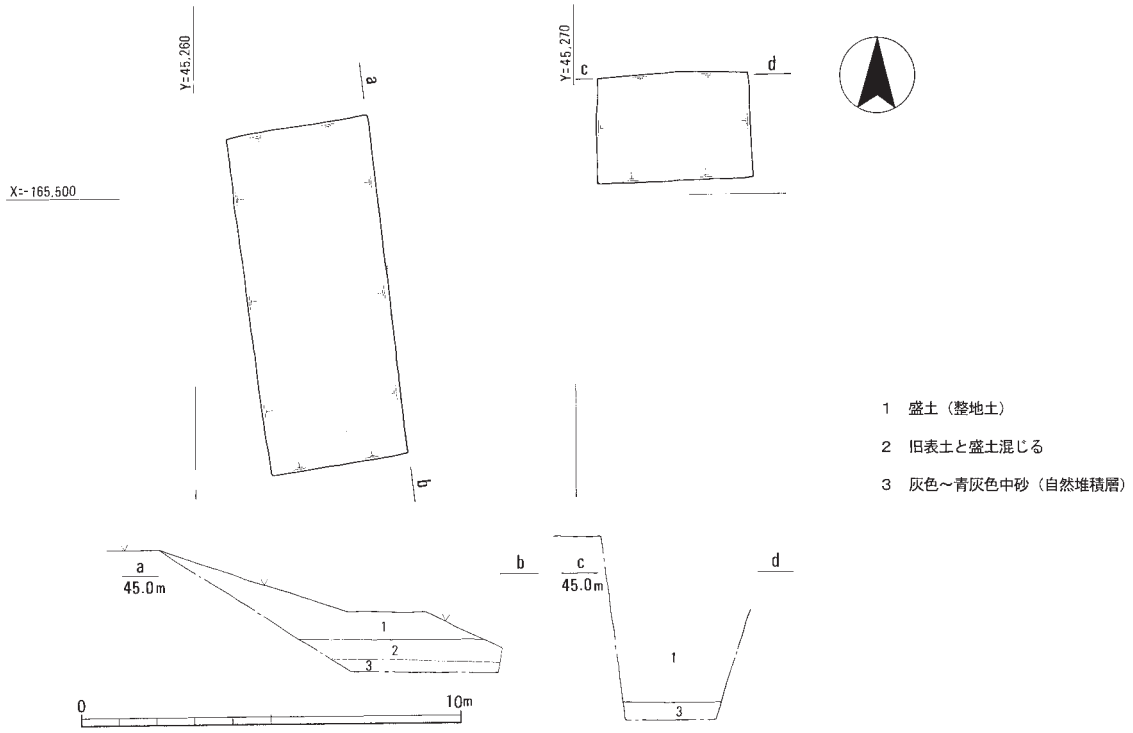
３　ＡⅣ地区

本調査区は、北側の丘陵部から南方へ土砂が迫り出した谷部に相当し、調査前は狭い谷水田が営まれていた。基本層序は、表土を除くと調査区南方へと土砂を押し出す11層を境として、表土・2～10層・11層・12～14層の４層に大別される。遺物は３層から近世陶磁器片が出土した。

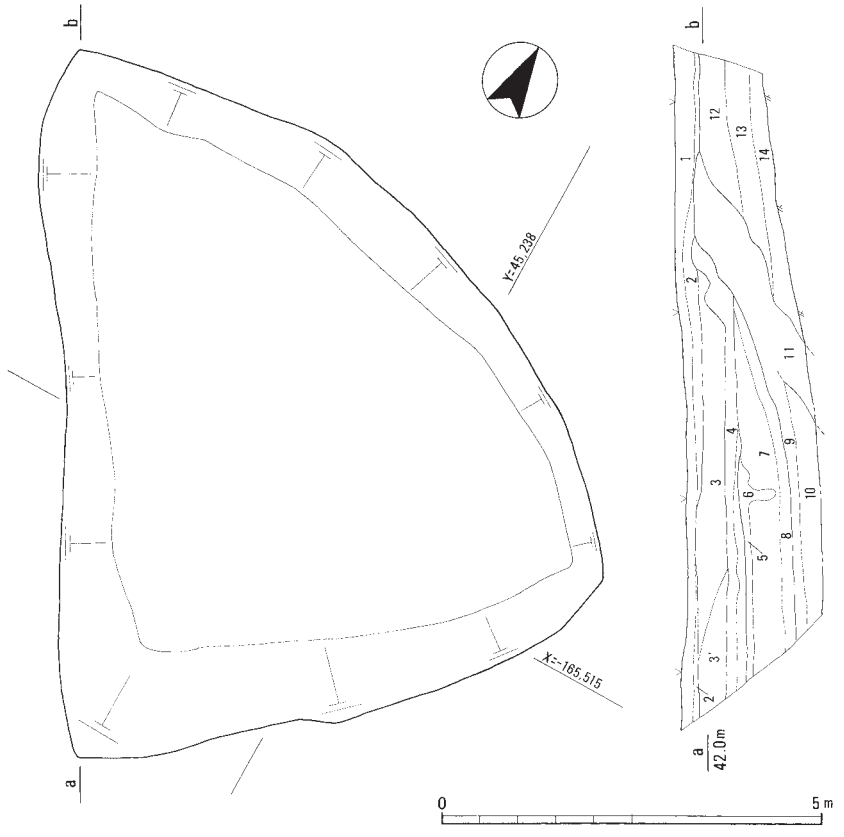
（川崎志乃）



第６図　ＳＢ１平面図・断面図(1:100)



第７図　ＡⅡ地区トレンチ配置図・土層断面図(1:200)



第８図　ＡⅣ地区平面図・土層断面図(1:100)

4　ＡⅢ地区

（１）基本層序と検出遺構

近畿自動車道の東側に位置する当調査区は、北側の丘陵部から南東方向へ張り出す低位段丘面に位置する。

基本層序は１～３層（現代の耕作土･床土）、４層･５層･６層（遺物包含層）、７層、８･９層、10層（地山）に大別される。

調査当初は５・６層下面を遺構検出面と判断し、調査区南側から調査を開始した。しかし、５・６層掘削途上で土器棺が検出されたため、５・６層上面にて検出を試みたが、土色のコントラストが判然とせず、全く検出できなかったことから、土器棺の出土に注意を払いながら５・６層下面の検出を続行した。５・６層下面での検出後、さらに下層に遺物が包含していることが確認されたため、８・９・10層上面にて検出を行った。

検出作業は、５・６層下面の検出面を第１検出面、８・９・10層上面の検出面を第２検出面、調査区北端部の９層上面単独の検出面を第３検出面として行った。遺構平面図はこれに従って第９～11図の通り検出面毎に表現している。第１検出面では縄文時代晩期の土器棺墓14基・土壙墓10基・集石土坑１基・土坑19基・立石・配石遺構５基、奈良時代の竪穴住居１棟などを検出した。第２・第３検出面では縄文時代中期の集石土坑２基･同晩期の土壙墓４基･集石土坑２基・土坑６基などを検出した。層位と検出遺構の時期に齟齬が生じているものがあるが、５･６層下面での検出においても土色のコントラストが判然としなかったため、下層に至るまで検出できなかったことに起因する。以下、上層から検出面毎に主な遺構のみ詳述していくが、その他の遺構については第４・５表の遺構一覧表を参照されたい。なお、土器棺墓・土壙墓・集石土坑・配石・立石の認定基準は以下による。

土器棺墓：土器を基本的に横位または斜位に埋置したと考えられるものを土器棺墓と判断した。土器棺がほぼ完存しているものもあるが、遺存状態には差があり、後世の削平が原因と考えられる上半部の欠失や、痕跡程度にしか遺存していないものもあるため認定に躊躇するものもあるが、総数で14基を認定した。また、前述の通り土色のコントラストが極めて不明瞭で、埋設土坑が判然としないものが多く、埋設土坑が検出できなかったものは第９図の遺構平面図では破線で表現している。

土壙墓：遺構の形状・法量や石のあり方、出土遺物、遺物の出土状況から土壙墓と判断した。いずれも埋葬人骨は出土しておらず、認定根拠が脆弱あるいは曖昧なものが少なくないが、第１～３検出面で総数14基の土坑を土壙墓と推定した。

集石土坑：土坑内に相当数の礫が存在するものを集石土坑とした。第１・第２検出面で総数５基の土坑を集石土坑と認定した。

配石・立石：人為的に石材が地表（遺構）面に設置されたと考えられるものを遺構と認定し、そのあり方から配石・立石と判断した。なお、地上標識的な遺構であることから遺構出土の遺物が無いため時期特定は困難であるが、包含層出土遺物や他の検出遺構との関係から縄文時代晩期の遺構と推定した。

（２）第１検出面

①縄文時代晩期の遺構

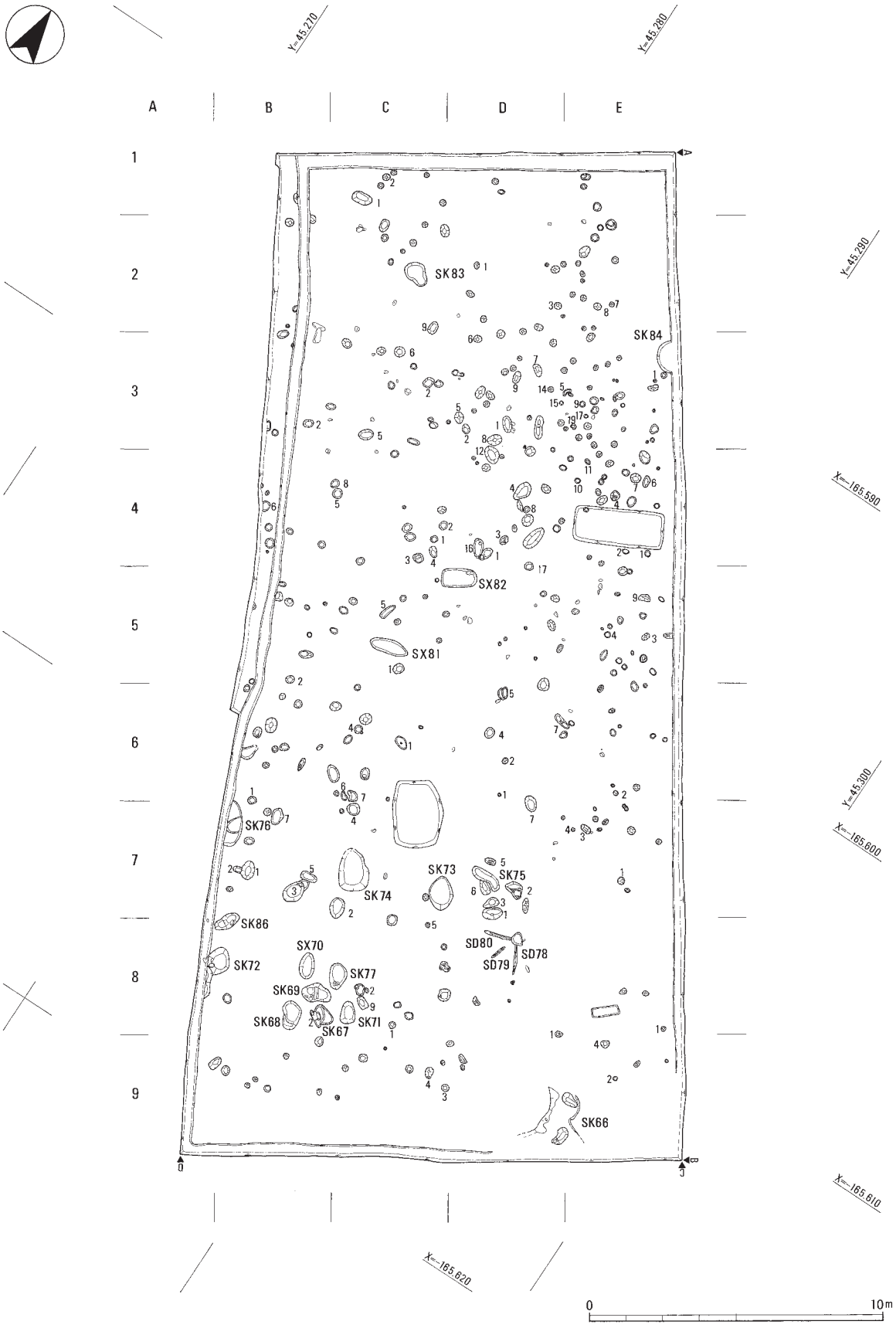
土器棺墓（第13～16図・第１表）

ＳＸ25（第13図）　調査区中央部付近に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、ほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は土器棺との接地部に痕跡程度に認識されたが、平面的には確認できなかった。下部の土坑は別遺構と考えられる。土器棺（26）は口縁端部及び底部が欠損しているため器形の全容は不明であるが、口頸部を二枚貝による横位条痕、体部をケズリ調整した深鉢と推定される。

ＳＸ28（第13図）　調査区のほぼ中央部に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、ほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は平面的には検出できなかった。下部の土坑は別遺構と考えられる。土器棺（25）は刻目突帯が貼付され、口唇部にキザミが施された深鉢である。

ＳＸ29（第14図）　調査区中央西壁際に位置する。土器棺上半部は破砕しているが、残存状況は比較的良好でほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は検出段階では非常に不鮮明であったが、長軸

第９図　ＡⅢ地区第１検出面遺構平面図(1:200)



第10図　ＡⅢ地区第２検出面遺構平面図(1:200)

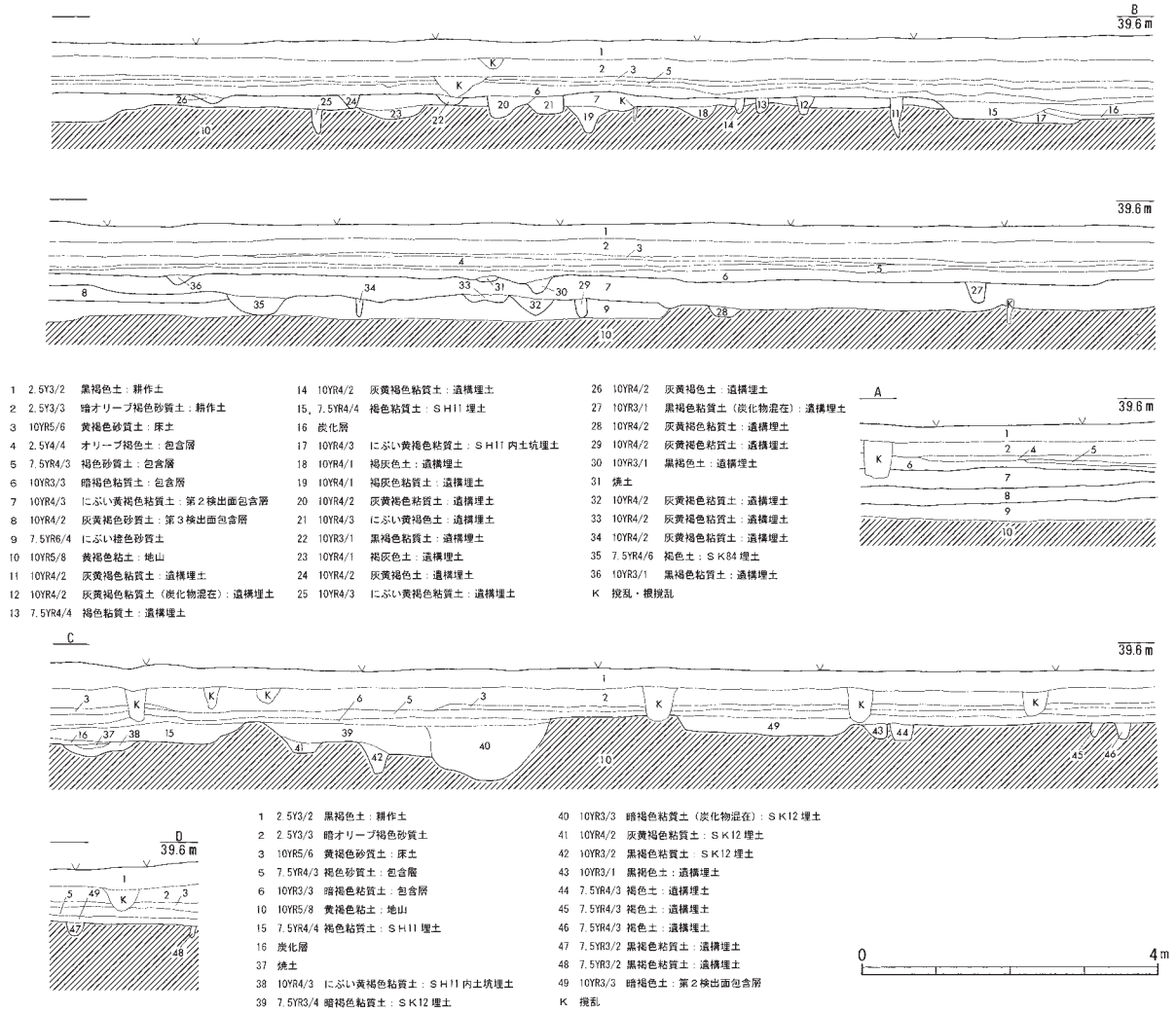
第11図　ＡⅢ地区第３検出面遺構平面図(1:200)

約0.9mの不整楕円形と判断した。土器棺の口縁部と土坑底部との間で径10cmほどの自然礫が１個体出土しており、これは棺の固定・安定を目的に設置されたものと推定される。土器棺内に残存していた土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材や骨片が検出されたがいずれも同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている[③]。土器棺(16)は無突帯で、口唇部にキザミが施された深鉢である。

ＳＸ46（第14図） 調査区中央部付近に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失して痕跡程度にしか残存していないが、ほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は平面的には全く検出できず、６層（包含層）掘削時に土器棺のみ検出した。土器棺（28）は体部のみの残存のため器形の全容は不明であるが、尖底の深鉢と推定される。

ＳＸ31（第14図） 調査区の南側に位置する。土器棺上半部は破砕しているが、残存状況は比較的良好でほぼ横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は検出段階では非常に不鮮明であったが、長軸約0.8mの不整楕円形と判断した。土器棺内に残存していた土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材が検出されたが同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。土器棺（13）は粗製の無文深鉢である。

ＳＸ30（第14図） 調査区の南側に位置し、ＳＸ31に隣接する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失して痕跡程度にしか残存していないが、ほぼ横位に埋置されたと考えられる。埋設土坑は検出段階では非常に不鮮明であったが、長軸約0.9mの不整楕円形と判断した。土器棺（10）は条痕調整を施した深鉢で補修孔が認められる。また、埋設土坑内からは



1 2.5Y3/2 黒褐色土：耕作土
2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土：耕作土
3 10YR5/6 黄褐色砂質土：床土
4 2.5Y4/4 オリーブ褐色土：包含層
5 7.5YR4/3 褐色砂質土：包含層
6 10YR3/3 暗褐色粘質土：包含層
7 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土：第２検出面包含層
8 10YR4/2 灰黄褐色砂質土：第３検出面包含層
9 7.5YR6/4 にぶい橙色砂質土
10 10YR5/8 黄褐色粘土：地山
11 10YR4/2 灰黄褐色粘質土：遺構埋土
12 10YR4/2 灰黄褐色粘質土（炭化物混在）：遺構埋土
13 7.5YR4/4 褐色粘質土：遺構埋土
14 10YR4/2 灰黄褐色粘質土：遺構埋土
15, 7.5YR4/4 褐色粘質土：ＳＨ11 埋土
16 炭化層
17 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土：ＳＨ11 内土坑埋土
18 10YR4/1 褐灰色土：遺構埋土
19 10YR4/1 褐灰色粘質土：遺構埋土
20 10YR4/2 灰黄褐色粘質土：遺構埋土
21 10YR4/3 にぶい黄褐色土：遺構埋土
22 10YR3/1 黒褐色粘質土：遺構埋土
23 10YR4/1 褐灰色土：遺構埋土
24 10YR4/2 灰黄褐色土：遺構埋土
25 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土：遺構埋土
26 10YR4/2 灰黄褐色土：遺構埋土
27 10YR3/1 黒褐色粘質土（炭化物混在）：遺構埋土
28 10YR4/2 灰黄褐色粘質土：遺構埋土
29 10YR4/2 灰黄褐色粘質土：遺構埋土
30 10YR3/1 黒褐色土：遺構埋土
31 焼土
32 10YR4/2 灰黄褐色粘質土：遺構埋土
33 10YR4/2 灰黄褐色粘質土：遺構埋土
34 10YR4/2 灰黄褐色粘質土：遺構埋土
35 7.5YR4/6 褐色土：ＳＫ84 埋土
36 10YR3/1 黒褐色粘質土：遺構埋土
K 撹乱・根撹乱

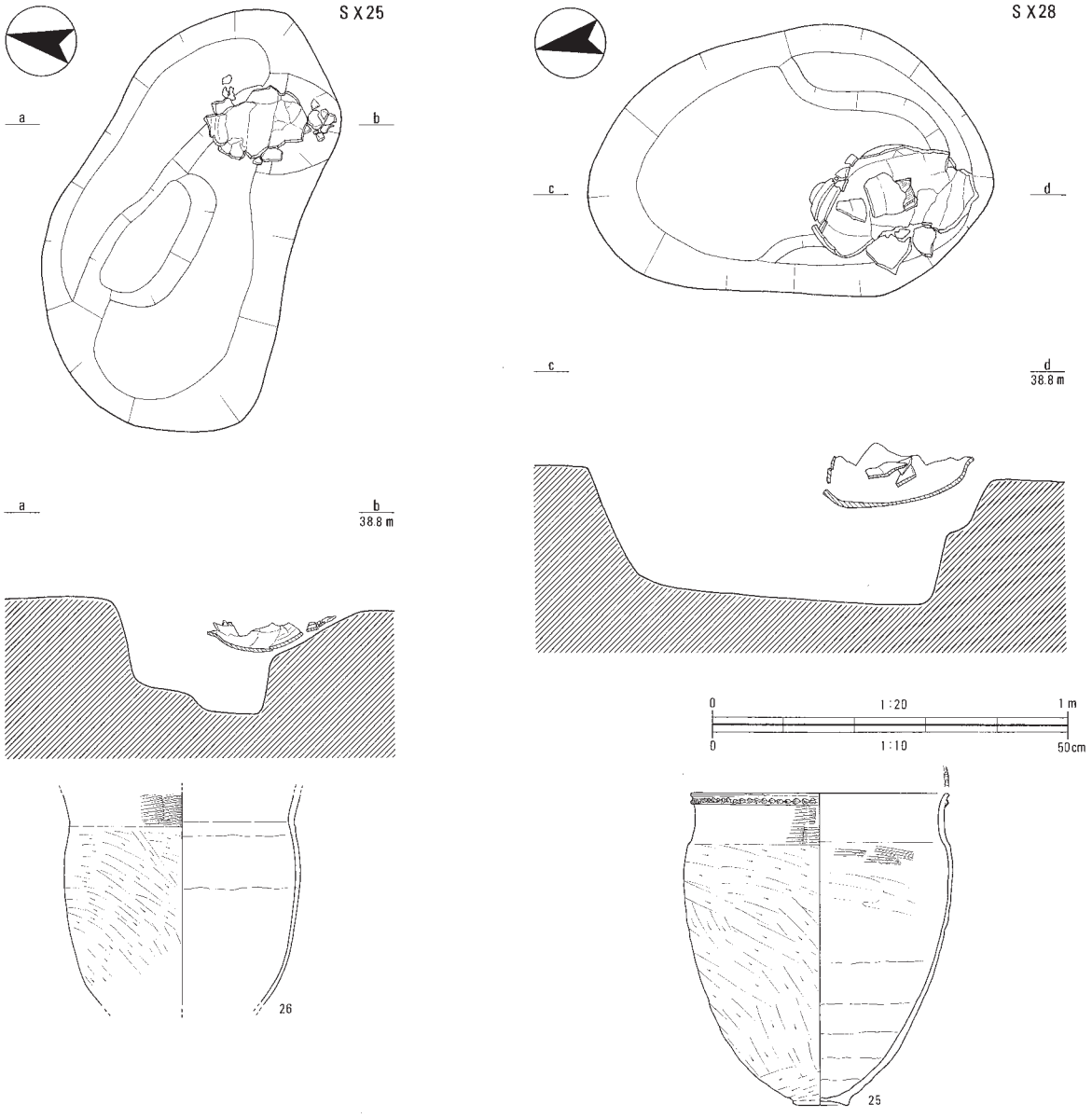
1 2.5Y3/2 黒褐色土：耕作土
2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土
3 10YR5/6 黄褐色砂質土：床土
5 7.5YR4/3 褐色砂質土：包含層
6 10YR3/3 暗褐色粘質土：包含層
10 10YR5/8 黄褐色粘土：地山
15 7.5YR4/4 褐色粘質土：ＳＨ11 埋土
16 炭化層
37 焼土
38 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土：ＳＨ11 内土坑埋土
39 7.5YR3/4 暗褐色粘質土：ＳＫ12 埋土
40 10YR3/3 暗褐色粘質土（炭化物混在）：ＳＫ12 埋土
41 10YR4/2 灰黄褐色粘質土：ＳＫ12 埋土
42 10YR3/2 黒褐色粘質土：ＳＫ12 埋土
43 10YR3/1 黒褐色土：遺構埋土
44 7.5YR4/3 褐色土：遺構埋土
45 7.5YR4/3 褐色土：遺構埋土
46 7.5YR4/3 褐色土：遺構埋土
47 7.5YR3/2 黒褐色粘質土：遺構埋土
48 7.5YR3/2 黒褐色粘質土：遺構埋土
49 10YR3/3 暗褐色土：第２検出面包含層
K 撹乱

第12図　ＡⅢ地区土層断面図(1:100)

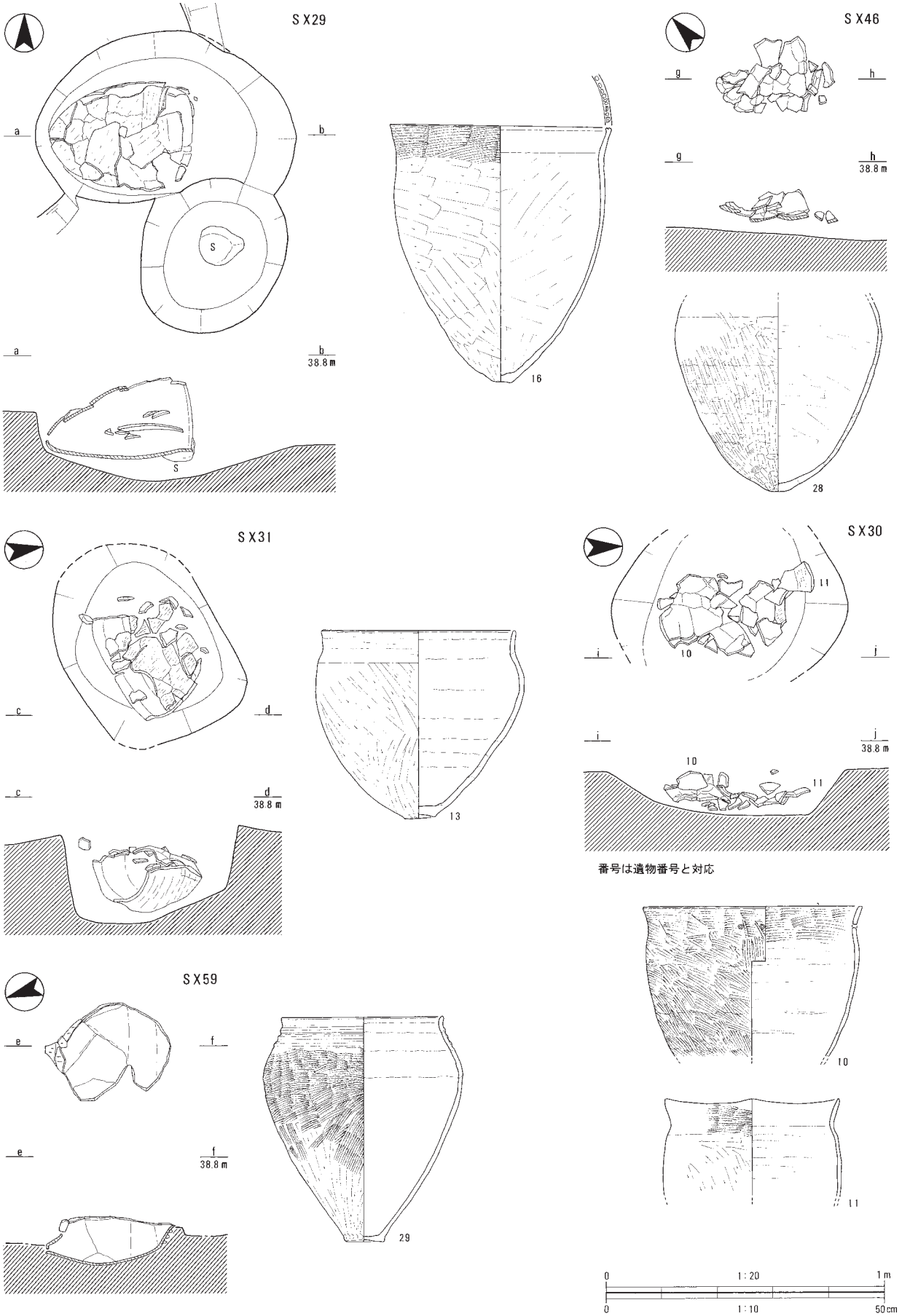
波状口縁の深鉢口縁部片（11）も出土している。両者の口縁部はそれぞれ土坑の外側に向いており、組み合わせの構造を持つ土器棺を想定しづらいが、２個体の土器が存在するため、底部同士の接合等、何らかの組み合わせがなされていたのかもしれない④。さらに、埋設土坑内からは長さ1.4cm、幅0.6cm、孔径0.1cmの管状土製品（12）も出土している。形状から土錘とも考えられるが、土錘としては小さすぎるため、装身具の一種が想定される。土器棺の破砕が著しく、また、埋設土坑も不明確であるため、土器棺に伴うものと断定しえないが、後述の土壙墓ＳＸ33で形状が類似した玉が出土していることから、被葬者の装身具の可能性は残しておきたい。

ＳＸ59（第14図） 調査区中央部西側の拡張部に位置する。当遺構は、調査区西側に隣接する県道との控えとしていた部分に位置し、調査終了後の埋め戻し直前に控えとした範囲を駄目押し的に掘削した際に検出したものである。土器棺の残存状況は上半部が欠失しているが、横位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑はやはり全く検出できなかった。土器棺（29）は口縁部下に３条の素文突帯が付された深鉢である。

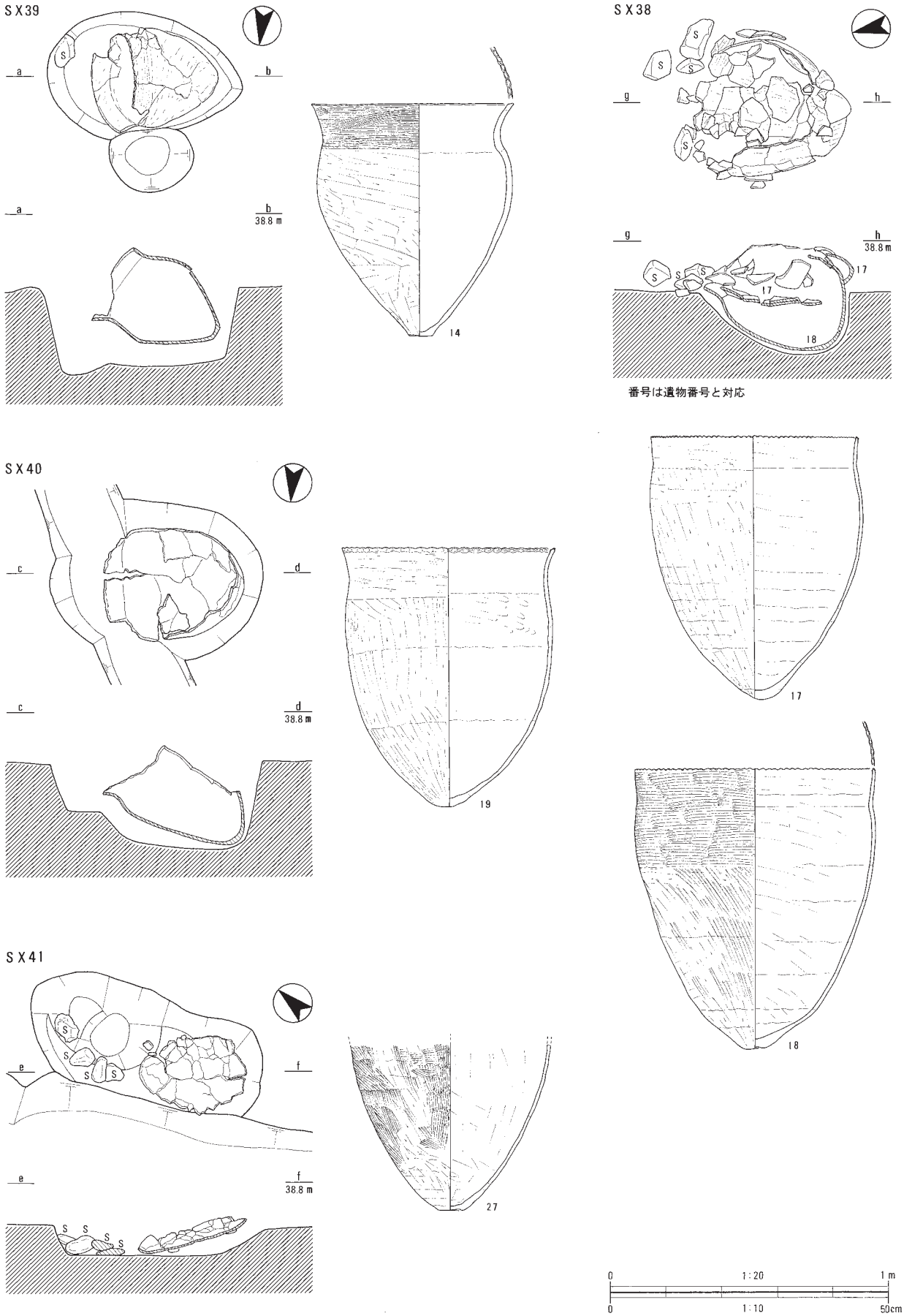
ＳＸ39（第15図） 調査区中央部付近に位置する。土器棺の残存状況は良好で、ほぼ完存していた。斜位



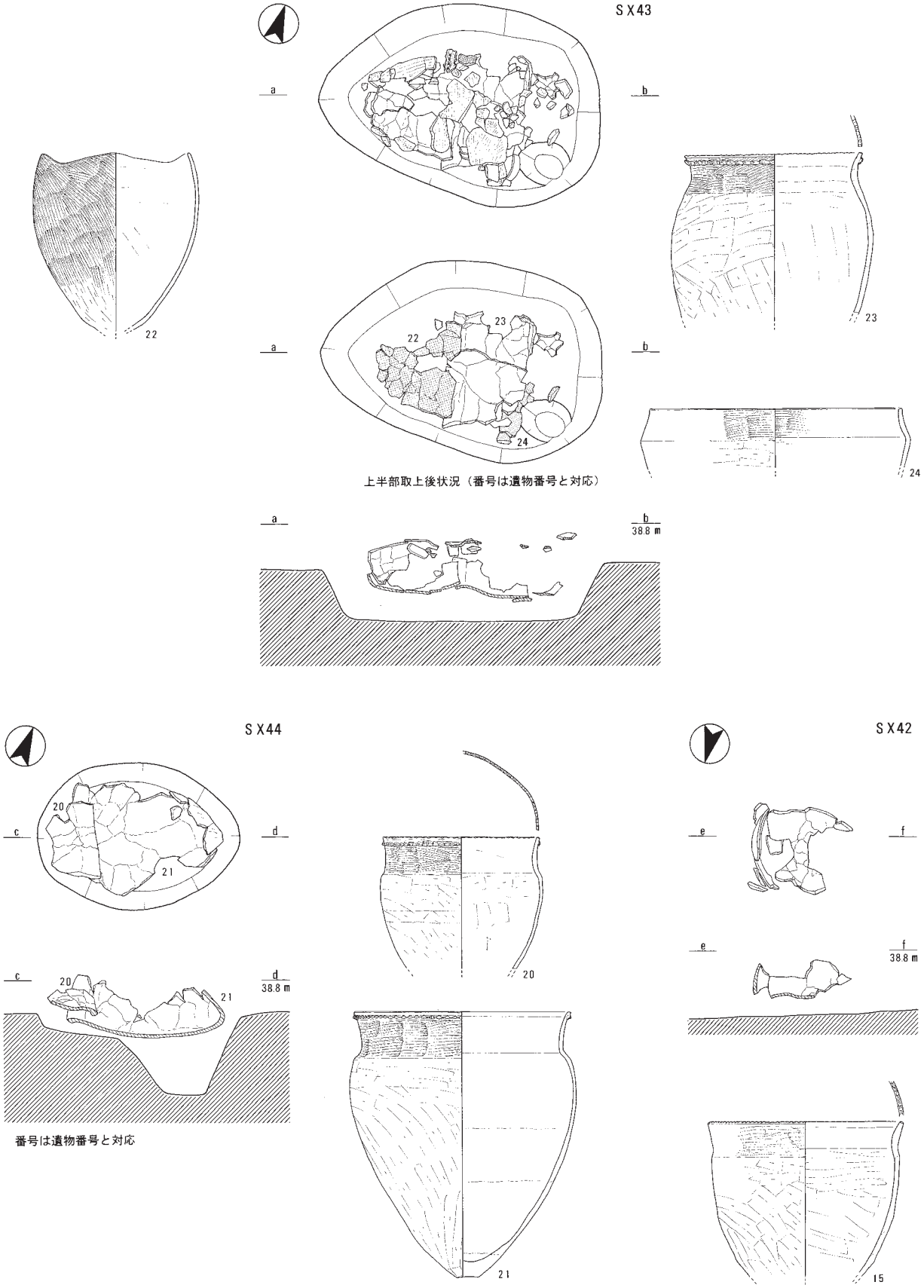
第13図　ＳＸ25・28平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)



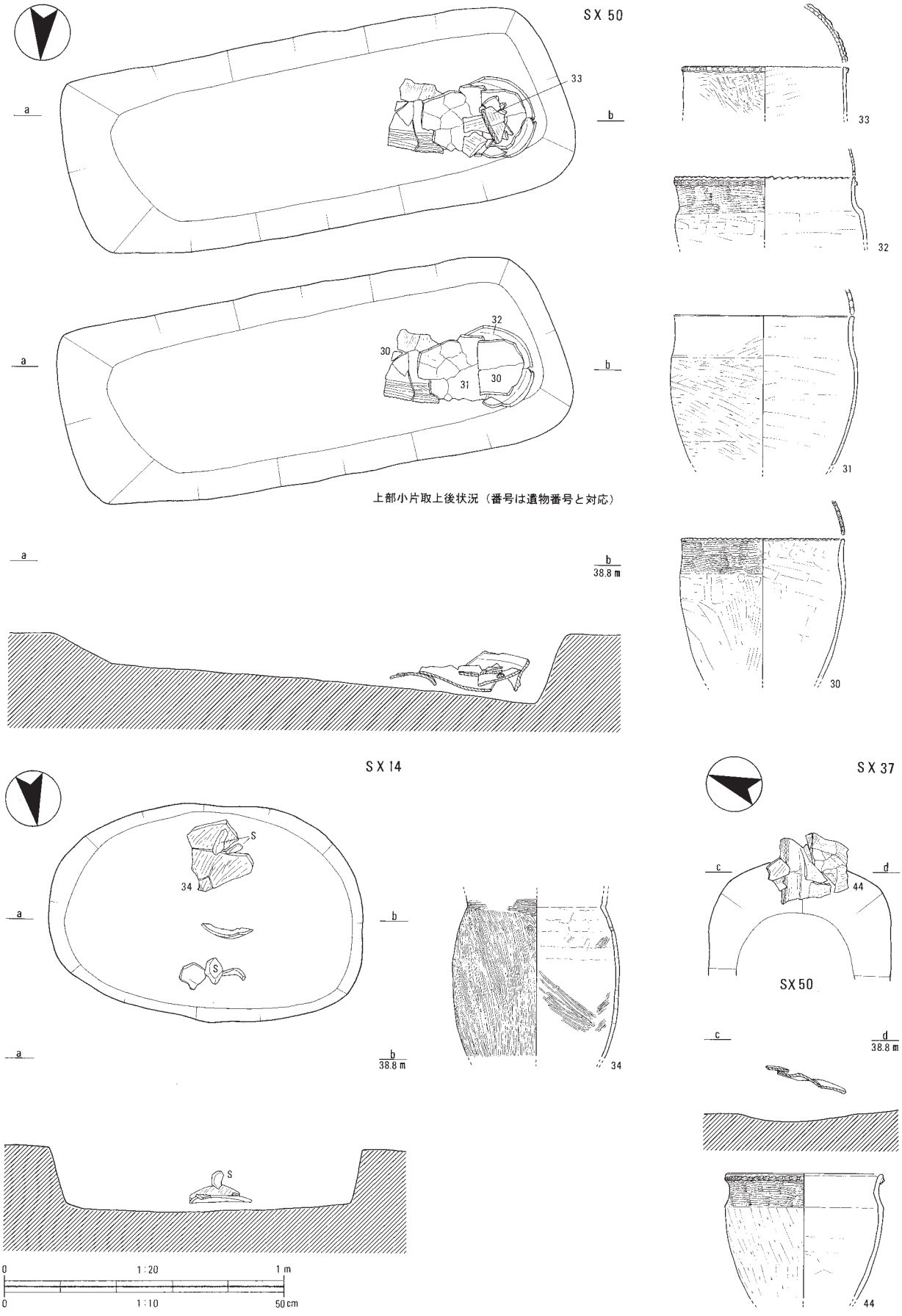
第14図　ＳＸ29・30・31・46・59平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)



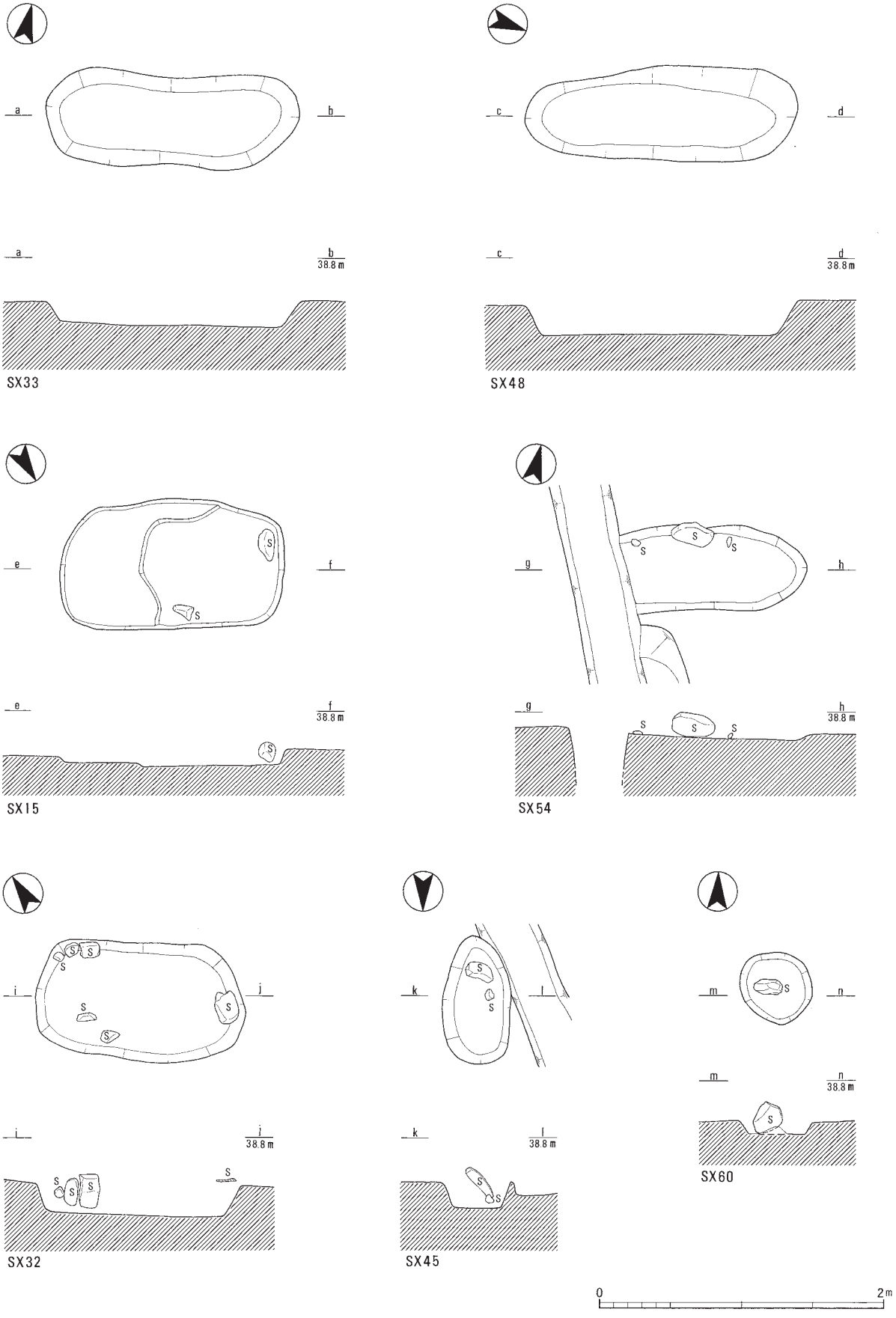
第15図　ＳＸ38・39・40・41・平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)



第16図　ＳＸ42・43・44平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)



第17図　ＳＸ14・37・50平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)

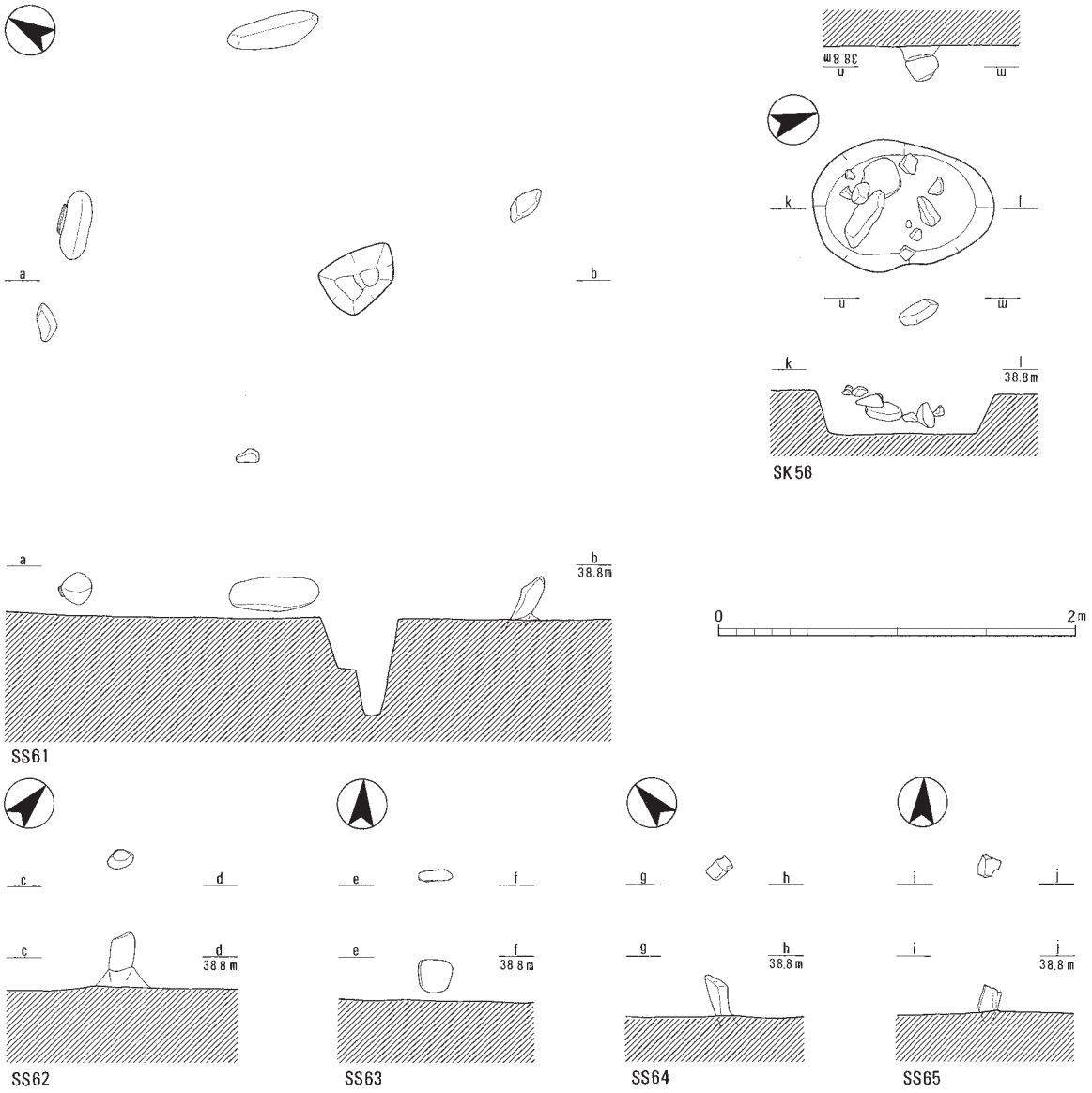


第18図　ＳＸ15・32・33・45・48・54・60平面図・断面図(1:40)

に埋設された単棺で、埋設土坑は長軸約0.7mの楕円形を呈する。土器棺内に残存していた土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材や骨片が検出されたがいずれも同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。土器棺（14）は突帯の付かない口唇部にキザミが施文された深鉢である。

ＳＸ40（第15図） 調査区中央部西側の壁際に位置する。土器棺上半部は破砕しているが、残存状況は比較的良好で斜位に埋設された単棺である。埋設土坑は長軸約0.8mの楕円形を呈する。土器棺内に残存していた土から検出された骨片の同定を行ったところ、獣類の焼骨という結果が示されている。また残存土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材や骨片が検出されたが同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。土器棺（19）は突帯の付かない口唇部にキザミが施文された深鉢である。

ＳＸ38（第15図） 調査区中央部西側に位置し、ＳＸ40に隣接する。土器棺上半部の破砕が著しかったため、検出当初は単独の土器棺と認識していたが、土器の取り上げ及び接合の過程で２個体が重複したものと判明した。出土状況から、口径・器高ともに一まわり大きい18の土器棺は下部に斜位に埋置され、



第19図　ＳＫ56、ＳＳ61～65平面図・断面図(1:40)

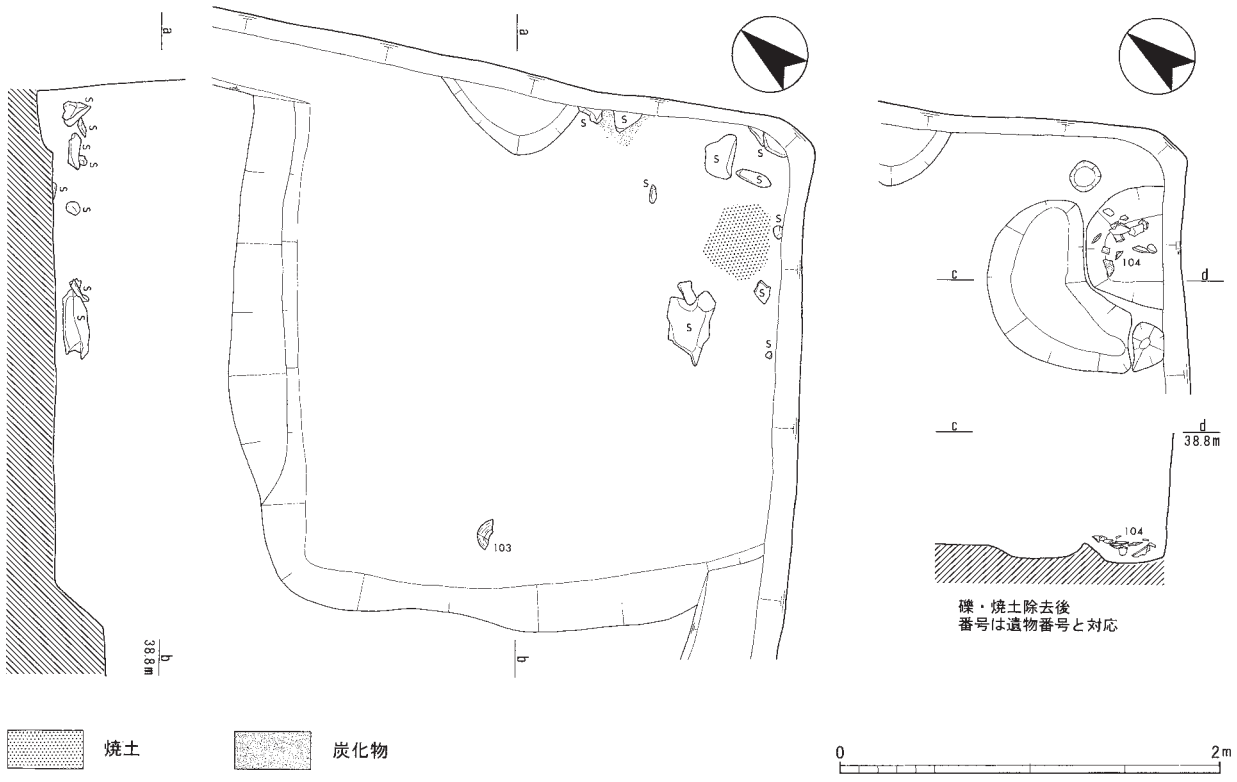
著しく破砕した17の土器棺は上部で横位に埋置されたと推定される。口縁部の向きが同一方向で、土器のサイズも異なっていたため、「入子」構造とも思われたが、17の底部が18の外側で出土しており、その他の破片の出土位置からも「入子」構造は考えにくい。従って、当遺構のあり方については解釈しがたいが、可能性として以下のような解釈を挙げておきたい。

・時期を違えて同一地点に埋置
・個々の土器棺を同時に同一地点に埋置
・破損した18上半部の閉塞目的で17を設置

なお、口縁部付近で拳大の礫が複数検出されているため、どちらに伴うものかは決しがたいが、土器棺の開口部を閉塞するために置かれた礫の可能性がある。また、土器棺内に残存していた土から検出された骨片の同定を行ったところ、獣類の焼骨という結果が示されている。土器棺（17・18）は、共に突帯の付かない口唇部にキザミが施文された深鉢である。

ＳＸ41（第15図） 調査区の北側に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、斜位に埋置された単棺と考えられる。埋設土坑は長軸約0.9mの不整楕円形で、土坑北側はピット状に落ち込み、その周囲で径10㎝程の自然礫が４個体出土した。土器棺の口縁部は南側を向いており、出土した自然礫は土器棺の底部側となるため、開口部の閉塞に関わるものとは考えられない。判断材料が無いが、土器棺に付随して何かが埋置されていたのであろうか。土器棺（27）は体部下半のみの残存のため器形の全容は不明であるが、尖底に近い小径平底の深鉢と考えられる。

ＳＸ43（第16図） 調査区の北側に位置する。遺構上部が近年掘削されたと考えられる溝によって撹乱されていたため、土器棺上半部の破砕が著しい。土器棺は波状口縁深鉢（22）、突帯文の深鉢（23）、黒色磨研系の深鉢（24）の３個体で構成され、出土状況から22の鉢と23の深鉢を合口とし、さらに24の浅鉢を23の底部に連結させていることが確認できた。埋位は横位埋設である。埋設土坑は長軸約1.0mの不整楕円形を呈する。土器棺内に残存していた土の微細遺物分析及びリン酸分析を行ったところ、前者では微細な炭化材や骨片が検出されたが同定はできなかった。後者ではリン酸含有量が高く、骨の埋納が

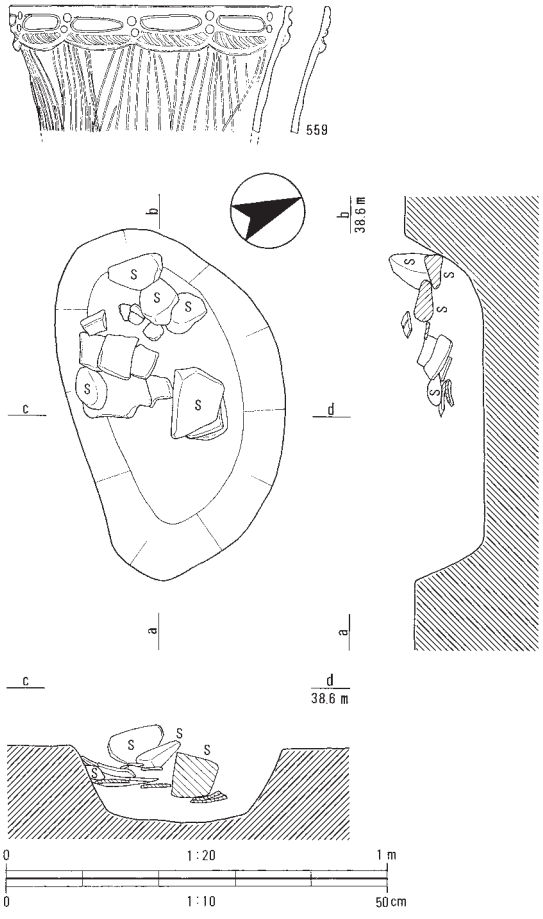


第20図　ＳＨ11平面図・断面図(1:40)

推測される結果が得られている。

ＳＸ44（第16図） 調査区の北側に位置する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、ほぼ横位に埋置されたと考えられる。土器棺は突帯文の深鉢２個体（20・21）で構成され、出土状況から合口構造と考えられる。埋設土坑は、長軸約0.7mの楕円形土坑として検出したが、検出段階において非常に不鮮明で、土器棺の大きさから考えると、本来はもう少し西側に広がるものと考えられる。また、土坑底部は段を呈し、一部が深くなっている。この底部の形状は不自然であるため、調査時の判断ミスで掘りすぎた結果とも考えられ、有段形状に意味は無いと考えられる。

ＳＸ42（第16図） 調査区の北側に位置し、ＳＸ41・43に隣接する。土器棺の残存状況は不良で、上半部が欠失しているが、ほぼ横位に埋置されたと考えられる。埋設土坑は平面的には全く検出できず、包含層掘削時に土器棺のみ検出した。土器棺（15）は無突帯で口唇部にキザミが施された深鉢による単棺で



第21図　ＳＫ83平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)

あるが、別個体の土器片が口縁部に接して立った状態で検出されていることから、土器棺開口部を土器片で閉塞したものと推定される。

土壙墓（第17・18図・第２表）

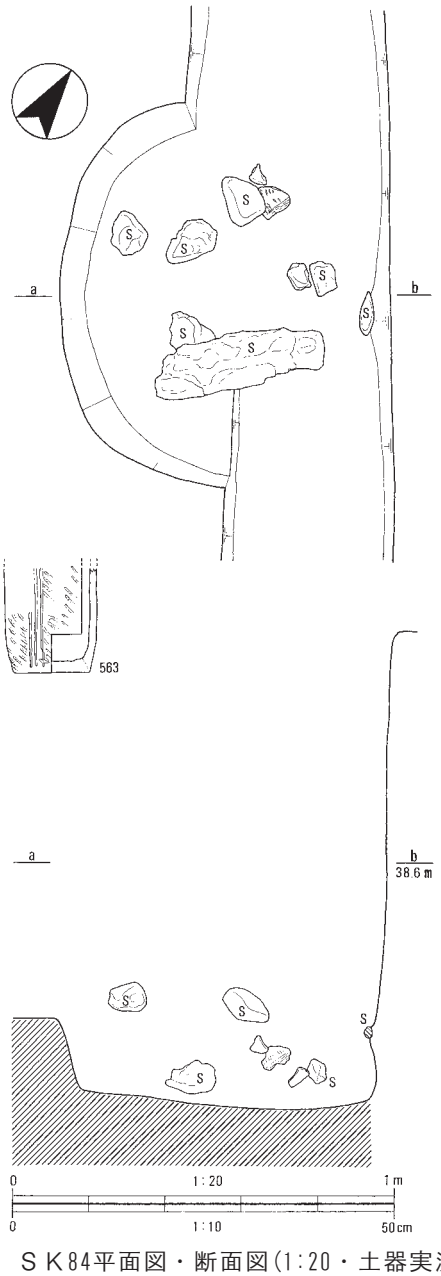
ＳＸ50（第17図） 調査区の北側に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約1.8m・短軸約0.7mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは、深いところで0.25m程度あり、東側が浅くなっている。埋土は褐色土の単層である。西側で集中的に土器が出土しており、中央から東側ではほとんど出土していない。土器の出土状況は、口縁部～体部の口縁部1/2分の深鉢（32）が倒立状態に置かれ、その内面側に下から口縁部～体部の口縁部1/4分の深鉢（30・外面が上）、口縁部～体部の口縁部1/4分の深鉢（31・内面が上）、再び口縁部～体部の口縁部1/4分の深鉢（30・内面が上）が順に重ねて置かれ、最後に深鉢の口縁部小片（33）他が置かれている。以上のような出土状況から、人為的に土器片が組まれたことは確実であり、そのあり方から何かを載せることを意図した組み方と考えられる。出土位置が西側に偏在していることから、被葬者の頭部がここに置かれ、東側に脚部を向けた状態で埋葬された蓋然性が高いと考えられる。上部に位置する土器小片は規則性が感じられず、他よりも若干浮いた状態で出土していることから、全くの推測に過ぎないが、被葬者の顔面に置かれていたものかもしれない。埋土の微細遺物分析では、同定はできなかったものの微細な炭化材や骨片が検出された。リン酸分析でもリン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。さらに遺構外で採取した対照試料においてもリン酸含有量が高い数値を示したことから、遺構内への多量の骨の投棄、若しくは遺構外への投棄も可能性として示されている。

ＳＸ14（第17図） 調査区の南端西側壁際に位置する。主軸は概ね東西方向で、長軸約1.1m・短軸約0.8mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.22mで、埋土は褐色土の単層である。底部中央南寄りに口縁部と底部が欠失した深鉢体部片（34）の1/3分が外面を上部にして伏せたような状態で出土した。その他の出土遺物（35～38）は埋土上面で浮いた状態で出土しているため、混入遺物の可能性が高い。

当遺構は埋土の科学分析は行っておらず、骨片も検出されていないため、土壙墓としての根拠にかけるが、土器の出土状況がＳＸ50に類似するため土壙墓と推定した。

ＳＸ37（第17図） 調査区の北側に位置し、ＳＸ50の東端部と重複する。包含層掘削時に口縁部1/4分の底部を欠失した深鉢片（44）が外面を上部にして横位の状態で出土した。墓壙は検出していないため土壙墓とは認めがたいが、土器のあり方がＳＸ14・50に類似するため、土壙墓と推定した。

ＳＸ33（第18図） 調査区の中央部に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約1.8m・短軸約0.6mの不整長楕円形を呈する。検出面からの深さは0.17m程度で、埋土は灰褐色土の単層である。当遺構は埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、ＳＸ50と類似の遺構形状や出土状況を確認できなかったものの玉（1364）が出土しているため、土壙墓の傍証になると考えられる。土器は条痕調整された深鉢口縁部片（43）が１点出土した。



第22図　ＳＫ84平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:10)

ＳＸ48（第18図） 調査区の北側に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約2.0m・短軸約0.7mの不整長楕円形を呈する。検出面からの深さは0.24m程度で、埋土は褐色土の単層である。埋土の微細遺物分析から、同定はできなかったものの、微細な炭化材や骨片が検出されている。また、リン酸分析の結果から、リン酸含有量が高く、骨の埋納が推測される結果が得られている。さらに遺構外で採取した対照試料においてもリン酸含有量が高い数値を示したことから、遺構内への多量の骨の投棄、若しくは遺構外への投棄も可能性として示されている。条痕調整が施された土器小片と下呂石製と考えられる石鏃（1064）、サヌカイト製石核（1352）が出土した。

ＳＸ15（第18図） 調査区の南側に位置する。主軸は北西～南東方向で、平面形態が長軸約1.6m・短軸約0.9mの不整隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは0.1m程度、埋土は黒褐色土の単層で、炭化物の混入が認められた。遺構の北半部で径20㎝程の礫を２個体検出しており、墓標を想定した。当遺構は埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壙墓と推定した。条痕調整が施された深鉢片とサヌカイト製の石鏃（1409）が出土している。

ＳＸ54（第18図） 調査区の北側に位置する。主軸は概ね東西方向で、西端が撹乱により残存していないが、平面形態が推定長軸約1.6m・短軸約0.6mの不整長楕円形を呈する。検出面からの深さは僅かに0.04mで、埋土は黒褐色土の単層である。中央北隅で径30㎝程の礫を検出しており、墓標を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壙墓と推定した。出土遺物は条痕調整が施

された土器小片のみである。

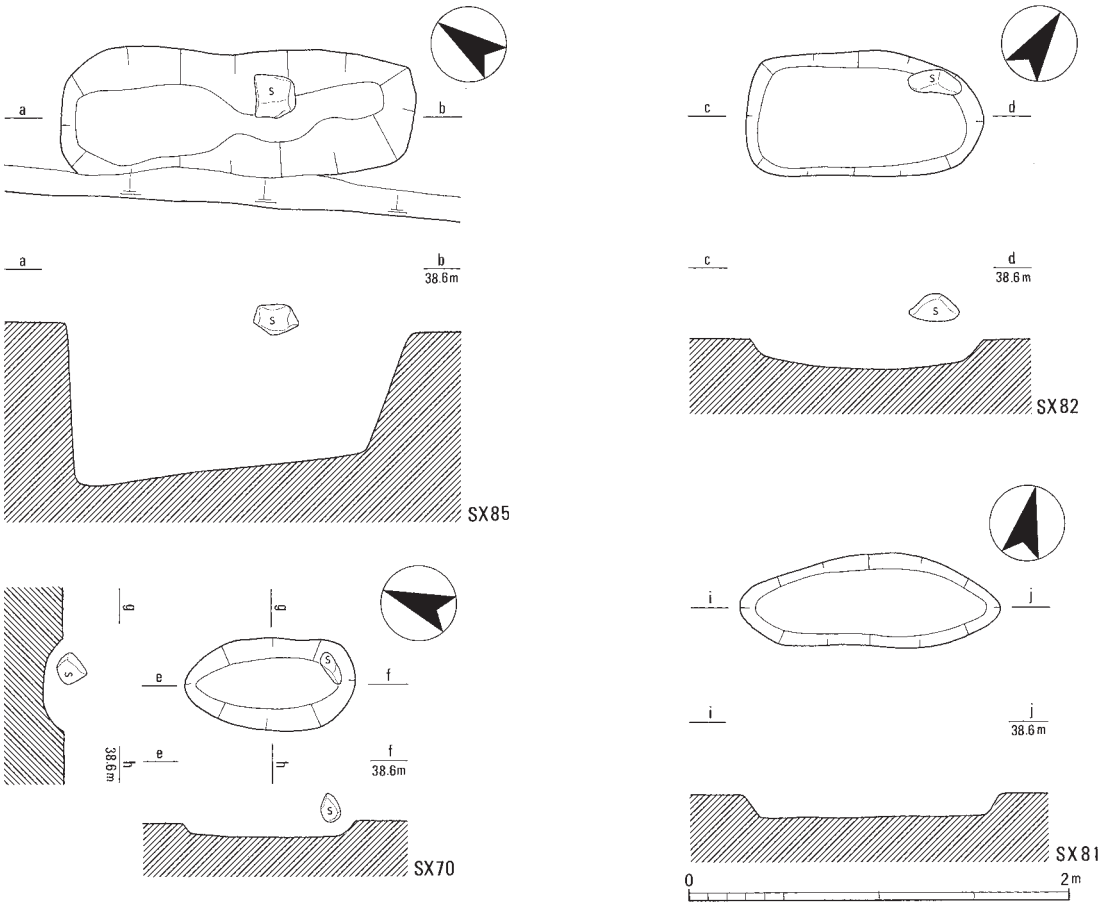
ＳＸ32（第18図） 調査区中央部東よりに位置する。主軸は北西～南東方向で、平面形態が長軸約1.5m・短軸約0.8mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.23m程度で、埋土は黒褐色土の単層である。遺構端部で径30㎝以下の礫が複数検出され、北端部の２個体は立石状を呈するため、墓標を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壙墓と推定した。出土遺物は深鉢片４個体(39～42）やサヌカイト製石鏃未製品（1464)、下呂石製使用痕有剥片（1501）等である。

ＳＸ45（第18図） 調査区の中央付近に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約0.9m・短軸約0.5mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは、0.21mで、埋土は褐色土の単層である。南側で立石が検出されたため、墓標を想定した。当遺構からは骨片が出土しており、骨同定の結果、現在ではみられない大形のイノシシの焼かれた右距骨と判明している。深鉢の口縁部片が２片（45・46）とサヌカイト製の石鏃２点（1047・1071)、下呂石製楔形石器（1482)、砂岩製敲石（1610）が出土している。

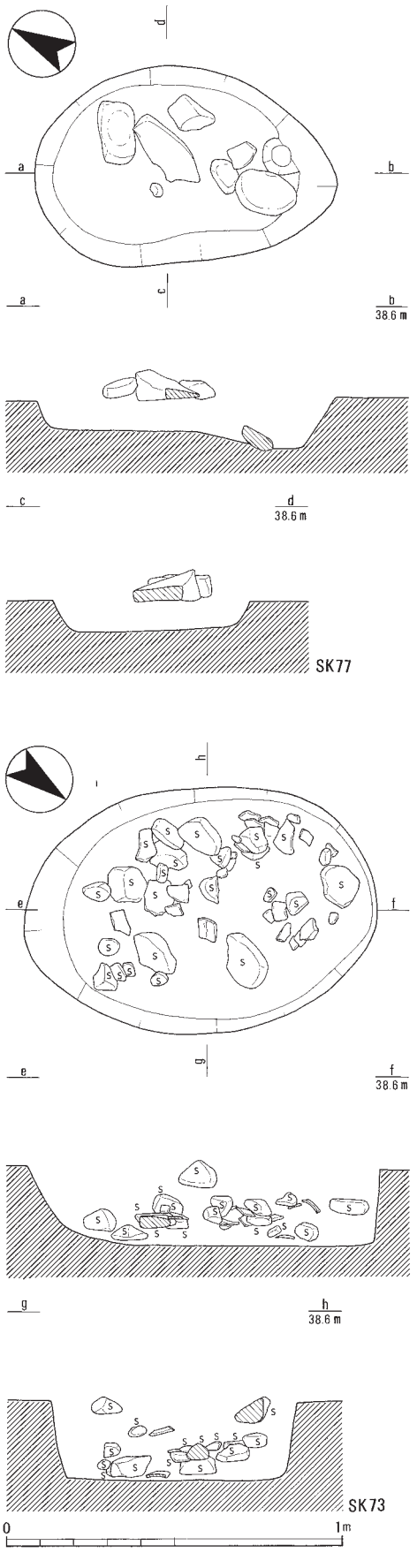
ＳＸ60（第18図） 調査区の南側に位置する。平面形態が径0.5mの不整円形を呈し、検出面からの深さは0.1m程度で、埋土は褐色土の単層である。中央部で立石が検出されたため、墓標を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壙墓と推定した。出土遺物は土器小片のみである。

集石土坑（第19図・第３表）

ＳＫ56 調査区の北側西寄りに位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約1.1m・短軸約0.7mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは､0.26m程度で、埋土は黒褐色土の単層である。土坑内で径30㎝以下の礫が複数検出され、一部は石皿等の石器と認められるものである。埋土の微細遺物分析からは、炭化材は検出されていない。当遺構からは骨片が出土しており、骨同定の結果、ニホンジカ鹿角



第23図　ＳＸ70・81・82・85平面図・断面図(1:40)



第24図　ＳＫ73・77平面図・断面図(1:20)

片と中節骨遠位端片と判明している。また、リン酸分析では含有量が極端に高い値を示している。土器片が４個体（92～95）出土しているが、この内の１個体は異系統（大洞系）の体部片（94）である。また、前述の花崗岩製石皿（1172）に加え、サヌカイト製石鏃３点（1103・1104・1434）、硬砂岩製粗製剥片石器（1163）等の石器やサヌカイト・下呂石の剥片も22片出土している。遺構の性格は判断し難いが、石器や剥片類が多数出土していることから、石器製作に関わる遺構の可能性も考えられる。なお、土坑東側に近接する位置で立石が検出されたため、当遺構に伴うものと判断した。地上標識的なものと推定される。

配石・立石遺構（第19図）

ＳＳ61（配石）　流紋岩素材の楕円体礫２個体と砂岩素材の不整楕円体の立石が弧状に配置されることにより、平面的に半円形を形成する。半円の中央部付近に径0.4m程のピットが所在するが、これらの配石と関係するかは不明である。

ＳＳ62（立石）　デイサイト素材の長楕円体の石材が利用され、地面にほぼ垂直に立てられている。

ＳＳ63（立石）　チャート素材の円盤状の石材が利用され、地面にほぼ垂直に立てられている。これは台石（1755）として使用されたもので、表面には赤色顔料（水銀朱）が付着している。

ＳＳ64（立石）　花崗岩素材の不整柱状の石材が利用され、やや傾斜した状態で地面に立てられている。

ＳＳ65（立石）　砂岩素材の不整柱状の石材が利用され、やや傾斜した状態で地面に立てられている。これは石皿破損品（1178）に敲打を加えて柱状に整形したものが使用されている。

②奈良時代の遺構

ＳＨ11（第20図）　調査区の南東隅に位置する。調査区外に延長するため全体の規模は不明であるが、検出した範囲では南北2.5m、東西2.9mの平面方形を呈する。調査区壁際で0.1～0.5m大の礫が弧状に検出され、これらの中央は被熱により焼土化していた。礫及び焼土面を除去したところ、小土坑２基・ピット２基が検出され、壁際の小土坑内から破砕した土師器甕（104）が出土した。これらはカマドの痕跡と考えられ、焼土の周囲の礫はカマドの芯材と

推定される。西側床面では須恵器杯蓋（103）も出土している。

（３）第２・第３検出面

①縄文時代中期の遺構

集石土坑（第21・22図・第３表）

ＳＫ83　調査区の北側に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約0.9m・短軸約0.6mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.2m程度で、埋土は褐色土の単層である。土坑内で径20㎝以下の礫が６個体検出され、中期末葉の深鉢片（559・560）が出土した。

ＳＫ84　調査区北側東壁際に位置する。調査区外に延長するため、全体の規模・形態は不詳であるが、検出の範囲内では長軸約1.0m・短軸約0.5mで、平面形態は楕円形を呈すると推定される。検出面からの深さは0.21m程度、埋土は赤褐色土の単層で、炭化物及び焼土粒が認められた。土坑内で長さ50㎝程の楕円体状の礫や拳大程の礫が７個体検出され、中期以降の深鉢片（561～563）が出土した。

②縄文時代晩期の遺構

土壙墓（第23図）

ＳＸ85　調査区北側西壁際に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約1.8m・短軸約0.6mの不整隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは0.83mあり、埋土は黒褐色粘土の単層である。埋土上面中央部に径30㎝程の礫が据え置かれたような状態で検出されたため、墓標を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壙墓と推定した。深鉢片（589～593）及び砂岩製の磨石（1235）、チャート製使用痕有剥片（1524）が出土している。

ＳＸ82　調査区中央部に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約1.2m・短軸約0.7mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.17m程度、埋土は褐色土の単層で、炭化物や焼土が認められた。埋土上面の北隅で径30㎝程の礫が据え置かれたような状態で検出されたため、墓標を想定した。当遺構も埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壙墓と推定した。出土遺物は土器小片のみである。

ＳＸ70　調査区の南側に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約0.9m・短軸約0.5mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.08m程度である。遺構の南端で一部が打割された残存径15㎝程の扁平礫が埋土上面で立てられたような状態で検出されたため、墓標を想定した。当遺構は埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状及び墓標を想定した礫から土壙墓と推定した。条痕調整が施された土器小片とサヌカイト製石鏃（1471）が出土している。

ＳＸ81　調査区中央部に位置する。主軸は概ね東西方向で、平面形態が長軸約1.3m・短軸約0.5mの不整長楕円形を呈する。検出面からの深さは0.1m程度で、埋土は暗褐色土の単層である。当遺構も埋土の科学分析を行っておらず、骨片も検出されていないが、遺構の形状から土壙墓と推定した。出土遺物は土器小片のみである。

集石土坑（第24図・第３表）

ＳＫ77　調査区南側に位置する。主軸は概ね南北方向で、平面形態が長軸約0.8m・短軸約0.6mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.09m程度である。５～25㎝程度の比較的扁平な礫が７個体土坑底部～上面で検出された。黒色磨研系と思われる浅鉢片（588）とサヌカイト製石鏃（1097）及びサヌカイト剥片10片が出土している。遺構の性格は判断し難いが、当遺構も石器製作に関わる遺構の可能性が考えられる。

ＳＫ73　調査区南側に位置する。主軸は北西～南東方向で、平面形態が長軸約1.0m・短軸約0.7mの楕円形を呈する。検出面からの深さは0.34m程度で、埋土は褐色土の単層である。土坑内で拳大程度の礫が多数検出され、その内の一点は敲石（1632）と認められるものである。深鉢等の土器片（574～583）の他、サヌカイト製石鏃（1085）、サヌカイト製楔形石器（1491）、サヌカイト製二次加工痕有剥片（1542）、サヌカイト剥片118片、粘土塊、軽石、炭化物、骨片など多様な遺物が出土した。遺構の性格は判断し難いが、出土遺物から石器等の製作に関わる遺構の可能性が考えられる。なお、出土した骨片の骨同定を行ったところ、獣類の骨との結果が得られている。

（小山憲一）

	遺構番号	グリッド	埋設構造	埋　位	主軸（N基準）	埋設土坑の規模（m）	土器の器形	出土遺物
1	ＳＸ25	Ｄ６	単棺	横　位	Ｎ10° Ｗ（口縁部方向）	不明	深鉢	－
2	ＳＸ28	Ｄ５	単棺	横　位	Ｎ169° Ｗ（口縁部方向）	不明	深鉢	－
3	ＳＸ29	Ｂ５	単棺	横　位	Ｎ89° Ｅ（口縁部方向）	長軸　1.0　短軸　0.6　深さ　0.26	深鉢	炭化物・不明骨片
4	ＳＸ30	Ｂ８	単棺か	横　位	Ｎ153° Ｅ（口縁部方向）	長軸　0.9　短軸　不明　深さ　0.15	深鉢	－
5	ＳＸ31	Ｂ８	単棺	横　位	Ｎ153° Ｅ（口縁部方向）	長軸　0.7　短軸　0.6　深さ　0.33	鉢鉢	炭化物
6	ＳＸ38	Ｂ４	複合棺か	斜　位	Ｎ11° Ｅ（口縁部方向）	径　0.5　深さ　0.22	深鉢２個体	獣骨片
7	ＳＸ39	Ｄ４	単棺	斜　位	Ｎ79° Ｅ（口縁部方向）	長軸　0.7　短軸　0.5　深さ　0.28	深鉢	炭化物・不明骨片
8	ＳＸ40	Ｂ４	単棺	斜　位	Ｎ83° Ｅ（口縁部方向）	長軸　0.8　短軸　0.6　深さ　0.31	深鉢	炭化物・獣骨片
9	ＳＸ41	Ｃ３	単棺	斜　位	Ｎ137° Ｅ（口縁部方向）	長軸　0.8　短軸　0.4　深さ　0.37	深鉢	－
10	ＳＸ42	Ｃ３	単棺＋土器片蓋	横　位	Ｎ77° Ｅ（口縁部方向）	不明	深鉢	－
11	ＳＸ43	Ｃ２	合口＋底部連結	横　位	Ｎ69° Ｅ（　主　軸　）	長軸　1.0　短軸　0.7　深さ　0.17	深鉢＋深鉢＋深鉢	炭化物・不明骨片
12	ＳＸ44	Ｃ１	合口	横　位	Ｎ65° Ｅ（　主　軸　）	長軸　0.7　短軸　0.5　深さ　0.08	深鉢＋深鉢	－
13	ＳＸ46	Ｃ５	単棺	横　位	Ｎ133° Ｅ（口縁部方向）	不明	深鉢	－
14	ＳＸ59	Ｂ５	単棺	横　位	Ｎ159° Ｗ（口縁部方向）	不明	深鉢	－

第１表　土器棺墓一覧表

	遺構番号	グリッド	平面形態	規模（m）	長幅比	付帯物	主軸（N基準）	出土遺物			備　考
								土　器	石器・石製品等	その他	
1	ＳＸ14	Ｂ９	不整楕円形	長軸　1.1 短軸　0.8 深さ　0.22	0.73	土器片	Ｎ82° Ｗ	深鉢片４個体 黒色磨研系浅鉢片１個体	台石１・剥片20（サヌカイト）	－	
2	ＳＸ15	Ｃ７	不整隅丸長方形	長軸　1.6 短軸　0.9 深さ　0.1	0.56	据え石	Ｎ60° Ｗ	深鉢片１個体	石鏃１・剥片17（サヌカイト）	－	
3	ＳＸ32	Ｅ５	不整楕円形	長軸　1.5 短軸　0.8 深さ　0.23	0.53	立石	Ｎ59° Ｗ	深鉢片４個体	石鏃未製品１・使用痕有剥片１・剥片８（サヌカイト７・チャート１）	－	
4	ＳＸ33	Ｃ５	不整長楕円形	長軸　1.8 短軸　0.6 深さ　0.17	0.33	－	Ｎ76° Ｅ	深鉢片１個体	有孔垂飾１・使用痕有剥片１・剥片５（サヌカイト４・下呂石１）	－	
5	ＳＸ37	Ｃ４	不明	不明	－	土器片	不明	深鉢片１個体	－	炭化物	
6	ＳＸ45	Ｄ６	不整楕円形	長軸　0.9 短軸　0.5 深さ　0.21	0.56	立石	Ｎ３° Ｗ	深鉢片２個体	石鏃２・楔形石器１・敲石１・剥片13（サヌカイト）	イノシシ右距骨	
7	ＳＸ48	Ｃ４	不整長楕円形	長軸　2.0 短軸　0.7 深さ　0.24	0.35	－	Ｎ21° Ｗ	小片のみ	石鏃１・石核１（サヌカイト）	炭化物・不明骨片	
8	ＳＸ50	Ｃ４	不整隅丸長方形	長軸　1.8 短軸　0.7 深さ　0.25	0.39	土器片	Ｎ73° Ｅ	深鉢片４個体		炭化物・不明骨片	甕被葬か
9	ＳＸ54	Ｂ・Ｃ３	不整長楕円形	長軸　1.6(推定) 短軸　0.6 深さ　0.04	0.38	据え石	Ｎ77° Ｅ	小片のみ	－	－	
10	ＳＸ60	Ｄ９	不整円形	径　0.5 深さ　0.1	－	立石	－	小片のみ	－	－	
11	ＳＸ70	Ｂ８	不整楕円形	長軸　0.9 短軸　0.5 深さ　0.08	0.56	立石	Ｎ23° Ｗ	小片のみ	石鏃未製品１・剥片７（サヌカイト）	－	
12	ＳＸ81	Ｃ５	不整長楕円形	長軸　1.3 短軸　0.5 深さ　0.1	0.38	－	Ｎ76° Ｅ	小片のみ	－	－	
13	ＳＸ82	Ｃ・Ｄ５	不整楕円形	長軸　1.2 短軸　0.7 深さ　0.17	0.58	据え石	Ｎ56° Ｅ	小片のみ	－	－	
14	ＳＸ85	Ｂ２	不整隅丸長方形	長軸　1.8 短軸　0.6 深さ　0.83	0.33	据え石	Ｎ34° Ｗ	深鉢片４個体	磨石１・剥片８（サヌカイト）	－	

第２表　土壙墓一覧表

	遺構番号	グリッド	時　期	平面形態	規模（m）	出　土　遺　物			備　考
						土　　器	石　　器	そ　の　他	
1	ＳK56	Ｃ２	晩　期	不整楕円形	長軸　1.1 短軸　0.7 深さ　0.26	深鉢片３個体 異系統土器（大洞式系）１個体	石鏃３・粗製剥片石器１・石皿１・台石1・剥片22（サヌカイト21・下呂石１）	ニホンジカ中節骨遠位骨端片・鹿角片	直近に立石
2	ＳK73	Ｃ７	晩　期	楕円形	長軸　1.0 短軸　0.7 深さ　0.34	深鉢片10個体 浅鉢片１個体	石鏃１・楔形石器１・蔽石１・二次加工痕有剥片１・剥片118（サヌカイト）	粘土塊・炭化物・獣骨片・軽石	
3	ＳK77	Ｃ８	晩　期	不整楕円形	長軸　0.8 短軸　0.6 深さ　0.09	黒色磨研系浅鉢１個体	石鏃１・剥片10（サヌカイト）	－	
4	ＳK83	Ｃ２	中期末	不整楕円形	長軸　0.9 短軸　0.6 深さ　0.2	深鉢片２個体	剥片１（サヌカイト）	－	
5	ＳK84	Ｅ３	中期末	楕円形	長軸　1.0(残存) 短軸　0.5(残存) 深さ　0.21	深鉢片３個体	－	－	

第３表　集石土坑一覧表

５　ＢＩ地区

（１）基本層序と検出遺構

近畿自動車道の西側に位置する当調査区は、北側の丘陵部から南西方向へ張り出す低位段丘面に位置する。

基本層序は１～５層（盛土・耕作土・床土）、６・19・22・28層（遺物包含層）、７・23・24層（地山）に大別される。調査当初は４・６層下面で検出し、掘立柱建物・土坑・ピット等を検出したが、調査区の北半部を中心に検出層に遺物が包含していたため、記録作業終了後、７・23層上面で再度検出作業を行った。調査の結果、縄文時代の落ち込み等を検出した。以下、時代順に主な遺構のみ詳述するが、その他の遺構については第４・５表の遺構一覧表を参照されたい。なお、検出した遺構は、第25・26図の通り、検出面毎に第１検出面・第２検出面と表現している。

（２）縄文時代の遺構

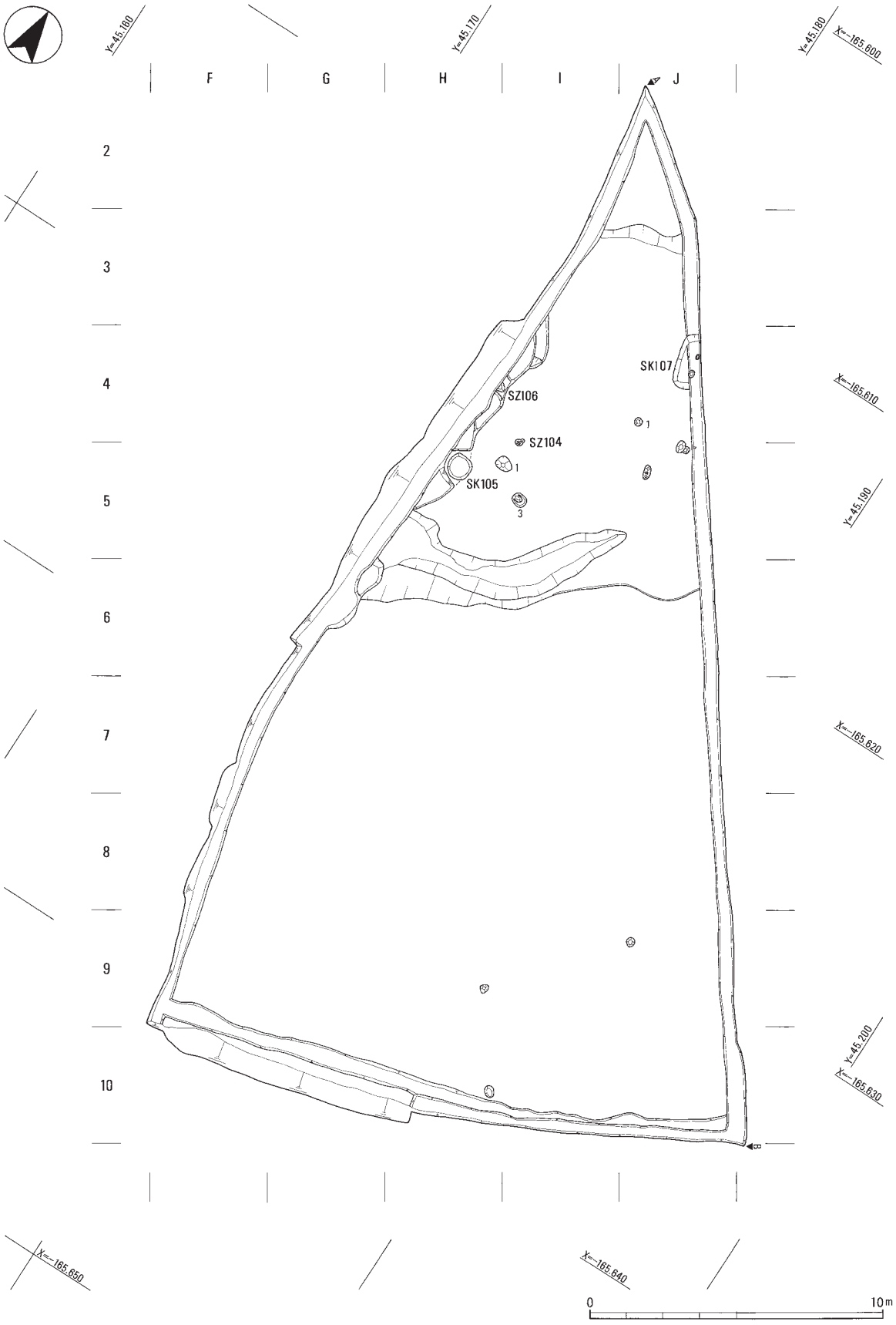
ＳＫ98　調査区北側に位置する。長軸約1.2m、短軸約0.8m、検出面からの深さが0.1m程度の不整楕円形を呈する土坑である。埋土は褐色土の単層で、中期末葉～後期初頭の深鉢片（717・718）が出土した。

ＳＫ100（第28図）　調査区中央付近に位置する。長軸約1.1m、短軸約0.7mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは0.24m程度であるが、底部北側が大きく落ち込み、段を持つ。埋土は黒褐色土の単層で、中央部で径20㎝程の自然礫２個体とともに中期末葉～後期初頭の深鉢片（719～724）と壺体部片（725）が出土した。

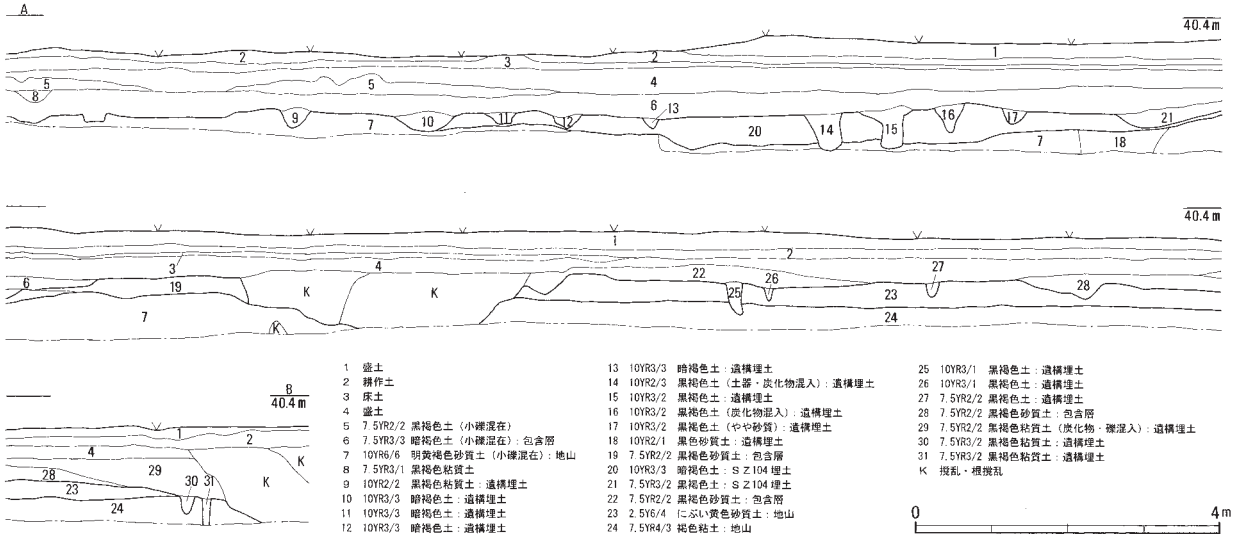
ＳＺ104　調査区中央部やや北寄りに位置する落ち込みである。南北幅が12m程度で、検出面からの深さが最も深いところで0.49mを測る。埋土は暗褐色土の単層である。埋土からは中期前半・中期末葉・後期前半・晩期後半の土器片（726～734・736～780・782～815）や、サヌカイト製石鏃２点（1053・1394）、サヌカイト製削器２点（1285・1477）、硬砂岩製及び片岩製楔形石器２点（1309・1311）、片岩製及び硬砂岩製礫器３点（1342・1343・1572）、砂岩製及び花崗岩製粗製剥片石器２点（1165・1166）、玢岩製磨製石斧（1247）、片岩製・緑色片岩製・緑色岩製・火砕岩製・砂岩製打欠石錘５点（1117・1131・1135・1150・1151）・チャート製使用痕有剥片（1527）・斑レイ岩製磨石（1641）・砂岩素材の受熱礫等の石器他が出土している。

ＳＺ106　ＳＺ104に重複し、調査区西壁際に位置する南北に長い落ち込みである。検出面からの深さは最も深いところで0.47mを測る。調査及び報告時にも一応単独遺構としたが、ＳＺ104と一連の落ち込み地形と考えても差し支えないと思われる。埋土から中期末葉及び後期前半の深鉢片（735・781）とサヌカイト製使用痕有剥片（1513）が出土している。

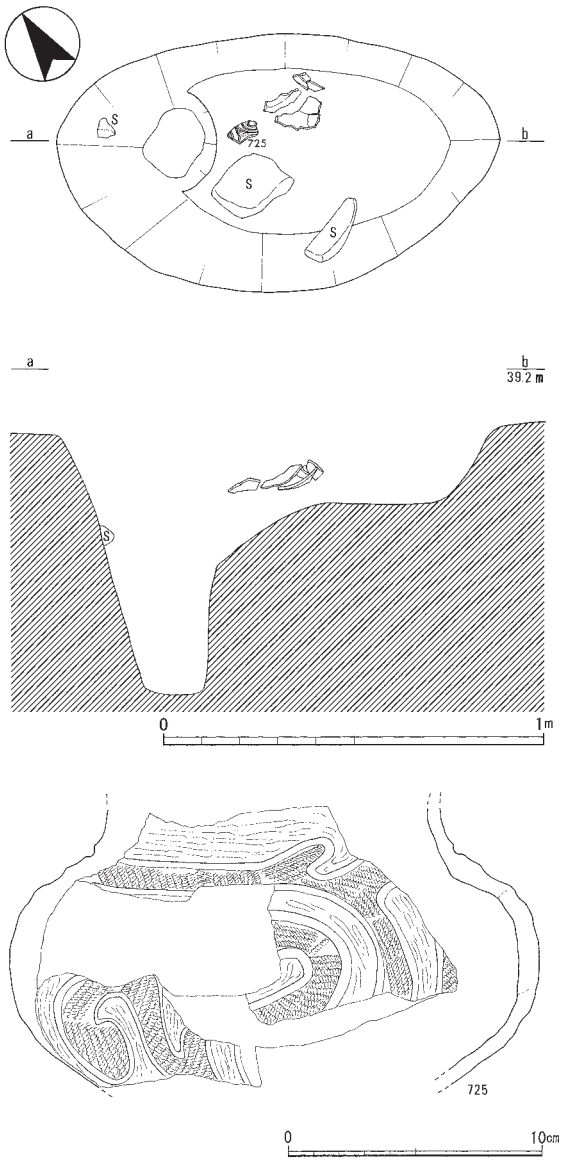
第25図　ＢＩ地区第１検出面遺構平面図(1:200)



第26図　ＢＩ地区第２検出面遺構平面図(1:200)



第27図　ＢⅠ地区土層断面図(1:100)



第28図　ＳＫ100平面図・断面図(1:20・土器実測図は1:3)

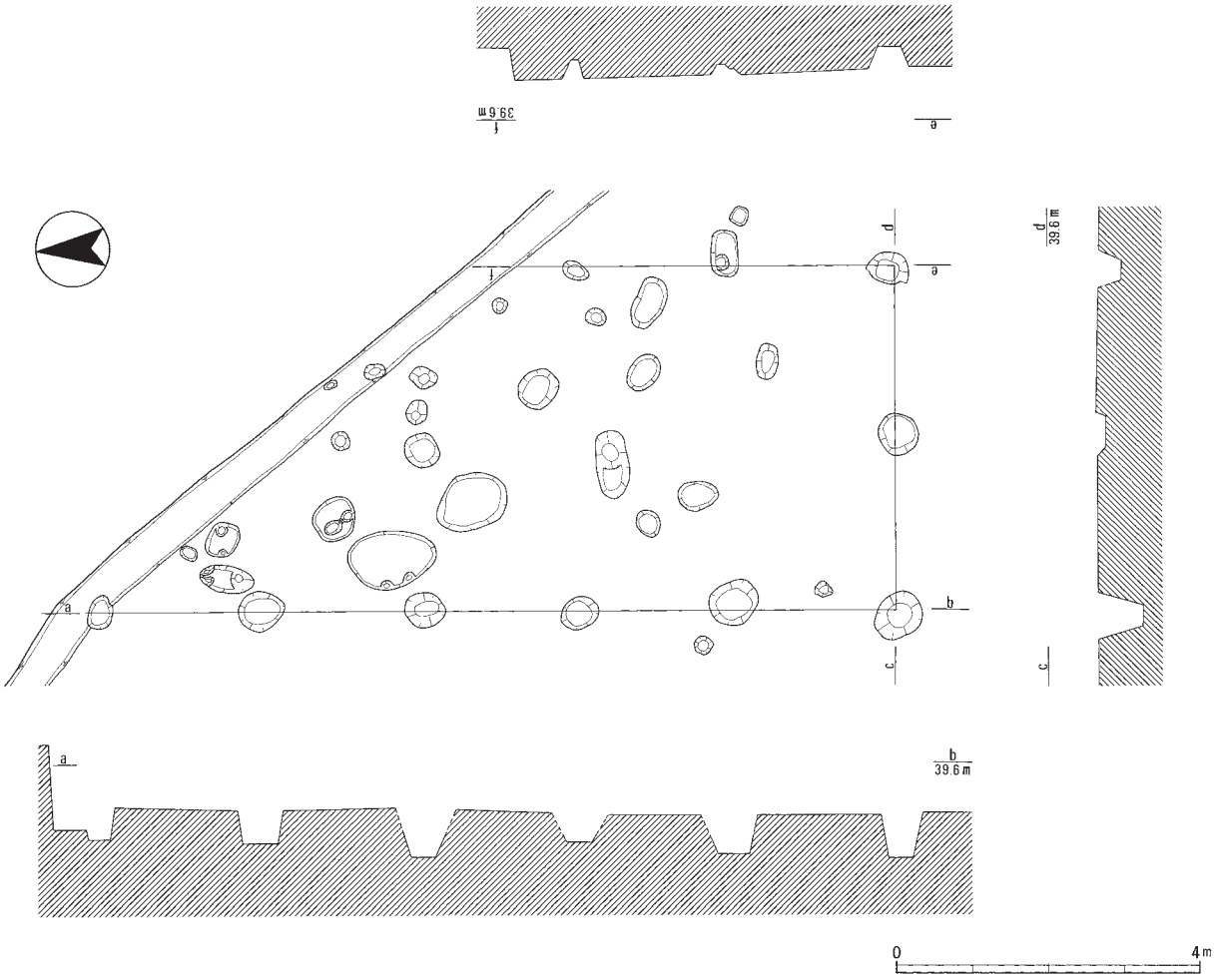
（３）平安時代の遺構

ＳＢ108（第29図）　調査区北端部に位置する。５間以上×２間の南北棟で、主軸が４度東に振っているものの、ほぼ方位に沿って構築されている。柱間は桁行各2.1m、梁行各2.3mの等間である。土師器小片のみの出土のため時期判断の材料に乏しいが、概ね平安時代の後半期の建物跡と思われる。

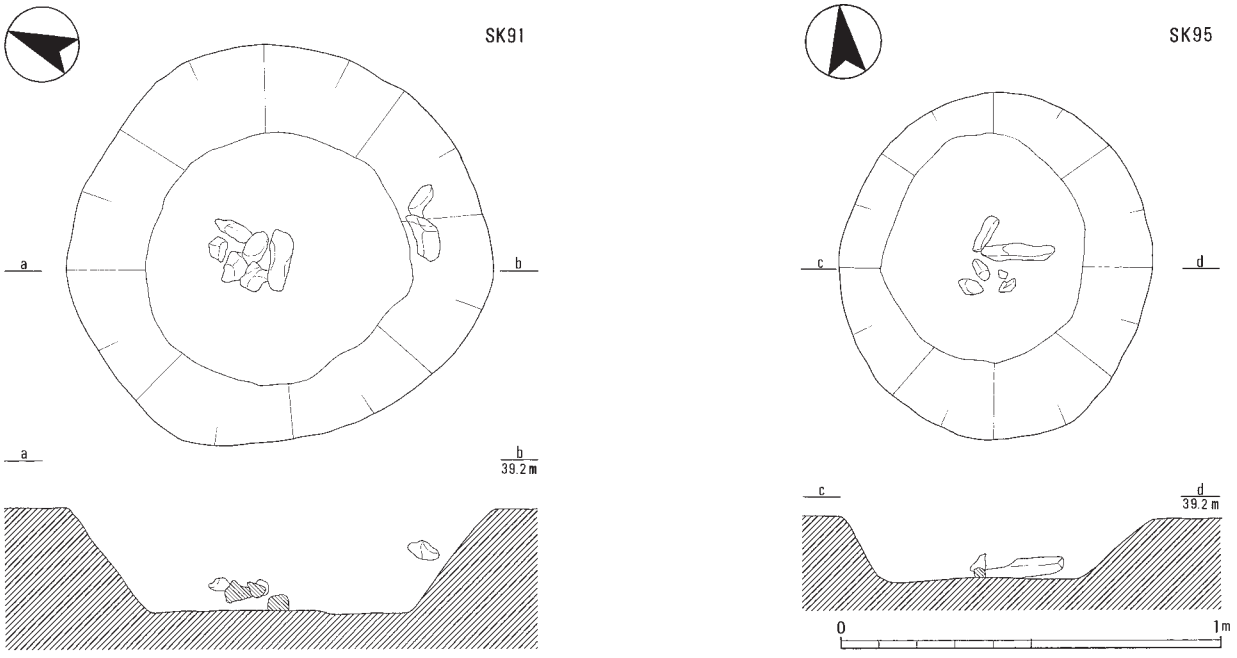
ＳＫ105　調査区の中央西壁際に位置し、径0.9m、検出面からの深さ0.2m程度の円形土坑で、埋土は黒色粘土の単層である。底部外面に「東」と墨書された完形の土師器杯（816）が土坑底部東よりに伏せた状態で出土し、併せてほぼ完形の鉄製紡錘車（817）も出土した。当遺構は、第２検出面で検出した縄文期の落ち込みＳＺ104の埋土掘削途上で鉄製紡錘車が出土したことにより初めて認識できたもので、掘削作業中の不注意により紡錘車を取り上げてしまったため、出土状況は不明である。しかしながら、土師器杯との共伴は確実であり、意図的な埋納土坑と考えられる。遺構の時期は、土師器杯が斎宮Ⅱ期第３段階[5]に相当することから、10世紀代と考えられる。

（４）時期不明の遺構

ＳＫ91（第30図）　調査区の南端付近に位置する径約1.1m、検出面からの深さが0.28m程の不整円形土坑である。底部中央に棒状及び拳大程度の自然礫が６個体、据え置かれたような状態で出土している。埋土は暗褐色土の単層で、焼土粒や炭化物が混入していた。出土遺物は皆無で時期は不明である。



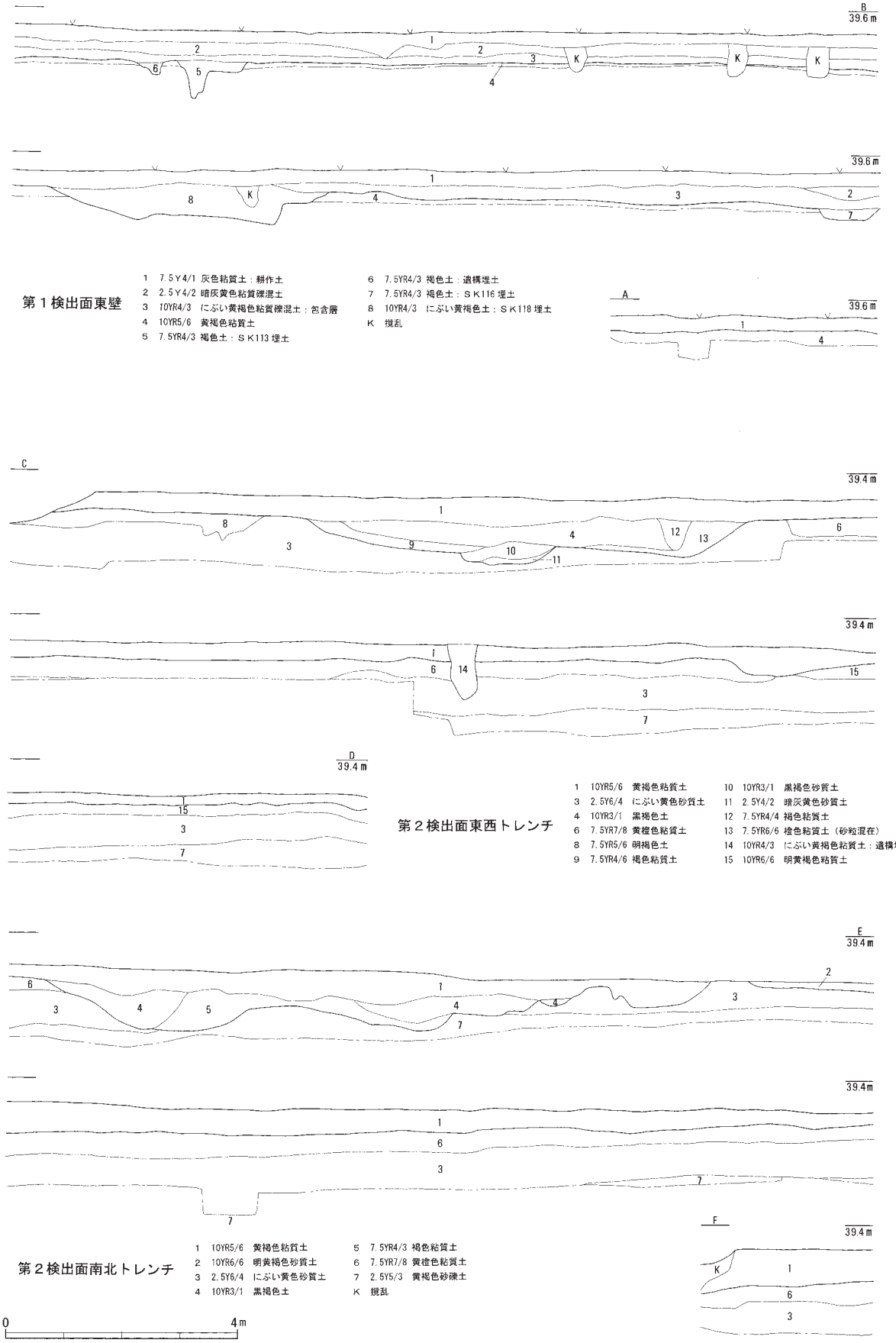
第29図　ＳＢ108平面図・断面図(1:100)



第30図　ＳＫ91・95平面図・断面図(1:20)

第31図　ＢⅡ地区第１検出面遺構平面図(1:300)

第32図　ＢⅡ地区第２検出面遺構平面図(1:300)



第１検出面東壁

1　7.5Y4/1 灰色粘質土：耕作土
2　2.5Y4/2 暗灰黄色粘質礫混土
3　10YR4/3 にぶい黄褐色粘質礫混土：包含層
4　10YR5/6 黄褐色粘質土
5　7.5YR4/3 褐色土：ＳＫ113 埋土
6　7.5YR4/3 褐色土：遺構埋土
7　7.5YR4/3 褐色土：ＳＫ116 埋土
8　10YR4/3 にぶい黄褐色土：ＳＫ118 埋土
K　撹乱

第２検出面東西トレンチ

1　10YR5/6 黄褐色粘質土
3　2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土
4　10YR3/1 黒褐色土
6　7.5YR7/8 黄橙色粘質土
8　7.5YR5/6 明褐色土
9　7.5YR4/6 褐色粘質土
10　10YR3/1 黒褐色砂質土
11　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土
12　7.5YR4/4 褐色粘質土
13　7.5YR6/6 橙色粘質土（砂粒混在）
14　10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土：遺構埋土
15　10YR6/6 明黄褐色粘質土

第２検出面南北トレンチ

1　10YR5/6 黄褐色粘質土
2　10YR6/6 明黄褐色砂質土
3　2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土
4　10YR3/1 黒褐色土
5　7.5YR4/3 褐色粘質土
6　7.5YR7/8 黄橙色粘質土
7　2.5Y5/3 黄褐色砂礫土
K　撹乱

第33図　ＢⅡ地区土層断面図(1:100)

ＳＫ95（第30図） 調査区の南端付近に位置する径0.9m、検出面からの深さ0.19m程の不整円形土坑である。底部中央に棒状及び拳大程度の自然礫が６個体、据え置かれたような状態で出土している。埋土は黒褐色土の単層で、焼土粒や炭化物が混入していた。遺物は全く出土していない。遺構の規模や形態、自然礫の出土状況、埋土の状況がＳＫ91と酷似しており、両者は同様の性格を持った遺構と考えられる。ともに出土遺物が皆無のため時期は不明であるが、当遺跡の西方約100mに位置する上ノ広遺跡で検出された平安時代の火葬墓と、遺構の規模や形態、出土礫の有り様、埋土の状況などが類似していることから、ＳＫ91・ＳＫ95は平安時代の火葬墓もしくはその関連遺構の可能性がある[6]。（小山憲一）

６　ＢⅡ地区

（１）基本層序と検出遺構

ＢⅠ地区の南側に隣接する調査区である。ＢⅠ地区と同様、北側の丘陵部から南西方向へ張り出す低位段丘縁辺部に位置する。

基本層序は１・２層（耕作土）、３層（遺物包含層）、４層に大別される。４層上面で検出し、土坑・ピット等を確認した。記録作業終了後、調査区内に十字トレンチを設定して下層の確認調査を行ったところ、土坑等を検出した層に遺物の包含が認められたため、下層調査を行った。１層（＝上層の４層に相当）が遺物包含層、２層以下は無遺物層であるため、１層下面で検出を行った。検出の結果、土坑やピットが検出されたが、不定形の性格不明遺構がほとんどである。以下、時代順に主な遺構のみ詳述するが、その他の遺構については第４・５表の遺構一覧表を参照されたい。また、検出した遺構は、第31・32図の通り、検出面毎に第１検出面・第２検出面と表現した。なお、下層調査で設定した十字トレンチの土層観察から畦畔状の土層断面が観察できたため、水田遺構等の存在が想定されたが、平面的にはまったく検出することができなかった。

（２）縄文時代の遺構

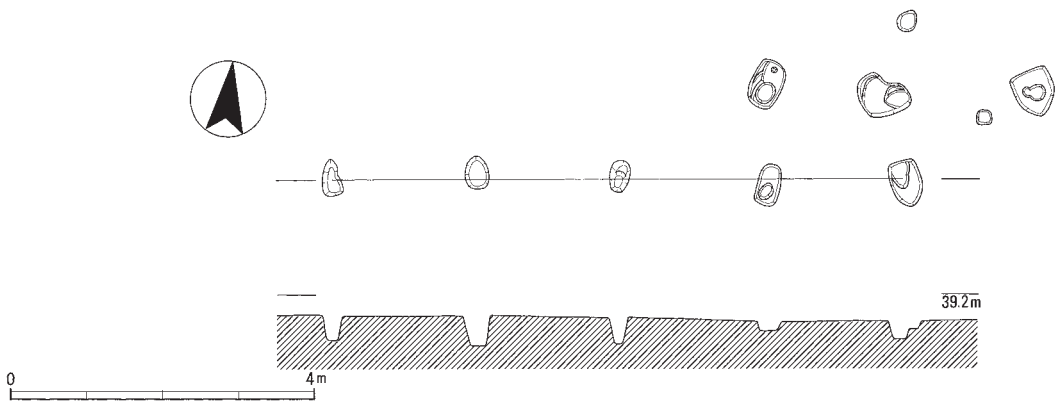
ＳＫ119　調査区北壁際に位置する。調査区外に延長するため遺構の全容は不明であるが、検出範囲から径0.9m程の円形を呈すると推定される。埋土は茶褐色礫混土の単層で、検出面からの深さが0.14m程度である。縄文中期末葉～後期初頭の所産と考えられる沈線文系の土器片（960）が出土した。

ＳＫ127　調査区中央部付近に位置する。径1.8m、検出面からの深さが0.28m程度の不整円形を呈する土坑である。底部にピット状の落ち込みがあり、不定形の形状を呈する。埋土は暗褐色粘質土の単層で、炭化物の混入が認められた。縄文中期末葉～後期初頭の所産と考えられる沈線文系の土器片が出土した。

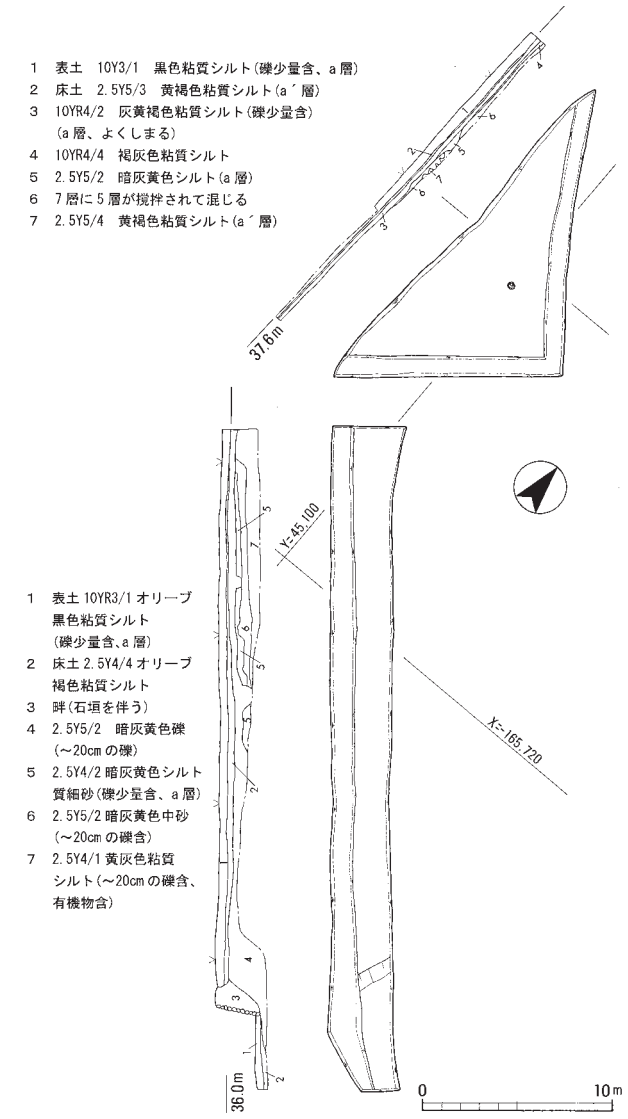
（３）平安時代の遺構

ＳＫ111　調査区南端部に位置する。長軸2.8m、検出面からの深さが0.29m程度の不整楕円形を呈する。底部には不定形の小土坑が２基認められた。埋土は淡褐色土の単層である。土師器甕（1031）が出土している。

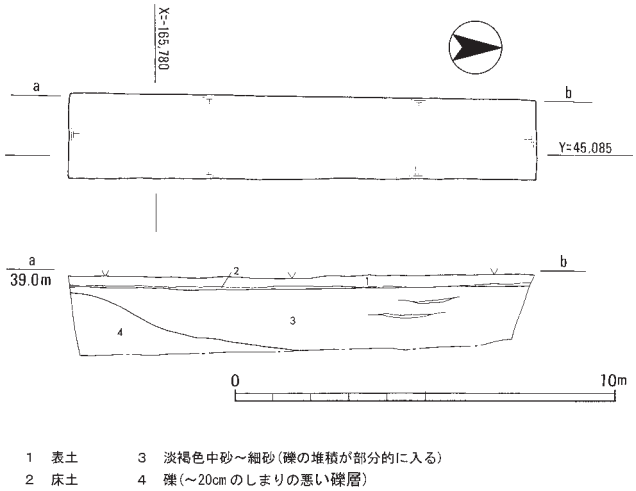
ＳＫ113　調査区東壁際に位置する。調査区外に延長するため遺構の全容は不明であるが、検出の範囲内では長軸3.3m程の不整楕円形を呈する。遺構の南半部が一段深くなり、検出面からの深さが0.29mを



第34図　ＳＡ128平面図・断面図(1:100)



第35図　C地区平面図・土層断面図(1:400、横1:100・縦1:200)



第36図　D地区平面図・土層断面図(1:200)

測る。灰褐色土の単層埋土から完形のロクロ土師器皿（1014）が出土しているため、平安時代末期の遺構と判断される。なお、当遺構では混入遺物であるが浮線文系の縄文土器（994）と玢岩製小型磨製石斧(1243)・チャート製の打欠き石錘（1116）も出土している。

ＳＡ128（第34図）　調査区北端に位置するピット列である。北端部にはこれら以外にピットが比較的集中しているが、建物としてまとまらなかったため、柱列と判断した。軸はＮ９°Ｅで、柱間は４間、各柱間が1.9mの等間である。各ピットからは土師器の杯皿類や甕、山茶椀等が出土している。出土遺物はいずれも小片で詳細な時期は不明であるが、平安期の遺構と推定される。　（小山憲一）

7　ＣＩ地区

本調査区は、北西の丘陵部から南東方向へ張り出す段丘縁辺部に相当する。

基本層序は４層が自然堆積層であることから、表土・床土・３～４層・５～７層に大別される。

３層下面にて検出しPit １カ所を確認したが、断面形態が不定形であり植物由来の痕跡である可能性が高い。また、３層からは近世陶磁器片が出土した。

（川崎志乃）

8　ＣⅡ地区

本調査区は、西側のＤ地区および東側のＢⅡ地区の位置する段丘の合間の谷部に相当する。

基本層序は、調査区南方へと土砂を押し出す４層を境に、表土・床土・畦・４層・５～７層に大別される。

４層上面にて検出したが、遺構は確認できなかった。遺物は近世陶磁器片が出土した。

（川崎志乃）

9　Ｄ地区

本調査区は、北西の丘陵部から南東方向へ張り出す段丘縁辺部に相当する。

基本層序は、１表土（現代の耕作土）・２床土・３淡褐色中砂～細砂（レキの堆積が部分的に入る）・４締まりの悪いレキ層である。４は調査区南端で堆積

が厚く、丘陵寄りの北部ほど堆積が薄い。

現在の調査区南端付近には、櫛田川に沿う形で、水田の区画として石垣が高く積まれており、河川に則した地形の傾斜を利用している可能性を想定していたが、断面で確認できた４の堆積の厚さからは４が櫛田川の埋没自然堤防と考えられる。また、３はその上に北部の丘陵から流れ出た土砂が堆積し、後背低地を埋積したと判断できる。　　（川崎志乃）

［註］

①伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」（『Mie　history』Vol.1　三重歴史文化研究会　1990年）

②松阪市史編さん委員会『松阪市史　第二巻資料篇考古』（1978年）

③後掲の「Ⅴ　自然科学分析」参照。以下、土壌等の分析にかかる記述は前記に拠る。

④滋賀県志那湖底遺跡では２個体の土器の底部を打ち欠き、打ち欠いた底同士を合わせた土器棺が検出されており、中村健二氏はこれを近畿地方における土器棺使用法の一分類としている（中村健二「土器棺よりみた近畿地方縄文晩期後半の地域色について」（『滋賀考古』第10号　1993年　滋賀考古学研究会）。ＳＸ30の土器棺残存状況からは不自然さも否めず、混入遺物の可能性もある。

⑤斎宮歴史博物館「斎宮跡の土器様相」（記念シンポジウム「斎宮の土器・みやこの土器」資料　2000年）

⑥上ノ広遺跡の当該土壙墓ＳＸ１は、一辺約１ｍの隅丸方形で、壁面が焼け締まり焼土帯を形成している点は異なるが、近隣地であり、規模や埋土の状況が類似する点を重視した（三重県教育委員会「上ノ広遺跡」（『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告－第１分冊１－』 1989年）。

報告書遺構番号	調査時遺構番号	調査次数	地区	グリッド	性　格	規　模（m）	時　期	備　　考
ＳＢ１	ＳＢ１	2	ＡⅠ	Ａ３～Ｂ５	掘立柱建物	２間以上×３間の東西棟	平安末～鎌倉初頭	南東隅土坑を伴う
ＳＫ２	ＳＫ２	2	ＡⅠ	Ｂ４・５	土坑	長軸4.2　短軸2.1　深さ0.25	平安末～鎌倉初頭	ＳＢ１の南東隅土坑
欠　番	ＳＢ３	2	ＡⅠ	Ａ２～Ｂ３	－	－	－	
ＳＤ４	ＳＤ４	2	ＡⅠ	Ｄ・Ｅ６	溝	延長1.9　幅　0.3　深さ0.13	中世前期	
ＳＨ11	ＳＨ１	2	ＡⅢ	Ｅ９	竪穴住居	調査区内2.9×2.5　深さ0.29	奈良	南東隅に焼土・礫集中（カマド痕跡）
ＳＫ12	ＳＫ２	2	ＡⅢ	Ｄ・Ｅ９	土坑	長軸3.6　短軸1.2　深さ0.85	縄文晩期	ＳＫ13・66と同一遺構の可能性あり
ＳＫ13	ＳＫ３	2	ＡⅢ	Ｄ・Ｅ９	土坑	長軸2.0　短軸0.8　深さ0.54	縄文晩期	ＳＫ12・66と同一遺構の可能性あり
ＳＸ14	ＳＫ４	2	ＡⅢ	Ｂ９	土壙墓	長軸1.1　短軸0.8　深さ0.22	縄文晩期	土器片埋設
ＳＸ15	ＳＫ５	2	ＡⅢ	Ｃ７	土壙墓	長軸1.6　短軸0.9　深さ0.1	縄文晩期	据え石あり
ＳＫ16	ＳＫ６	2	ＡⅢ	Ａ８・９	土坑	長軸1.2　短軸0.6　深さ0.19	縄文晩期	
ＳＫ17	ＳＫ７	2	ＡⅢ	Ｂ７	土坑	長軸1.2　短軸0.5　深さ0.1	縄文晩期	
ＳＫ18	ＳＫ８	2	ＡⅢ	Ｂ７	土坑	長軸1.0　短軸0.6　深さ0.22	縄文晩期	
ＳＫ19	ＳＫ９	2	ＡⅢ	Ｃ７	土坑	長軸1.2　短軸0.6　深さ0.3	縄文晩期	
ＳＫ20	ＳＫ10	2	ＡⅢ	Ｃ７	土坑	長軸1.1　短軸0.6　深さ0.25	縄文晩期	
ＳＫ21	ＳＫ11	2	ＡⅢ	Ｅ７	土坑	長軸1.4　短軸0.6　深さ0.22	縄文晩期か	
ＳＫ22	ＳＫ12	2	ＡⅢ	Ｂ６	土坑	長軸1.8　短軸0.8　深さ0.15	縄文晩期か	
ＳＫ23	ＳＫ13	2	ＡⅢ	Ｂ６	土坑	長軸0.8　短軸0.6　深さ0.38	縄文晩期	
ＳＫ24	ＳＫ14	2	ＡⅢ	Ｄ６	土坑	長軸1.4　短軸0.7　深さ0.41	縄文晩期	
ＳＸ25	ＳＸ15	2	ＡⅢ	Ｄ６	土器棺墓	不明	縄文晩期	
ＳＫ26	ＳＫ16	2	ＡⅢ	Ｄ７	土坑	長軸1.5　短軸1.2　深さ0.29	縄文晩期	
ＳＫ27	ＳＫ17	2	ＡⅢ	Ｄ７	土坑	長軸1.3　短軸1.2　深さ0.31	縄文晩期	
ＳＸ28	ＳＸ18	2	ＡⅢ	Ｄ５	土器棺墓	不明	縄文晩期	
ＳＸ29	ＳＸ19	2	ＡⅢ	Ｂ５	土器棺墓	長軸1.0　短軸0.6　深さ0.26	縄文晩期	規模は土器棺埋設土坑の規模を示す
ＳＸ30	ＳＸ20	2	ＡⅢ	Ｂ８	土器棺墓	長軸0.9　短軸不明　深さ0.15	縄文晩期	規模は土器棺埋設土坑の規模を示す
ＳＸ31	ＳＸ21	2	ＡⅢ	Ｂ８	土器棺墓	長軸0.7　短軸0.6　深さ0.33	縄文晩期	規模は土器棺埋設土坑の規模を示す
ＳＸ32	ＳＫ22	2	ＡⅢ	Ｅ５	土壙墓	長軸1.5　短軸0.8　深さ0.23	縄文晩期	立石あり
ＳＸ33	ＳＫ23	2	ＡⅢ	Ｃ５	土壙墓	長軸1.8　短軸0.6　深さ0.17	縄文晩期	有孔垂飾出土
ＳＫ34	ＳＫ24	2	ＡⅢ	Ｃ５	土坑	長軸1.0　短軸0.5　深さ0.15	縄文晩期	
ＳＫ35	ＳＫ25	2	ＡⅢ	Ｂ５	土坑	長軸1.1　短軸0.8　深さ0.25	縄文晩期か	
ＳＫ36	ＳＫ26	2	ＡⅢ	Ｂ５	土坑	長軸1.0　短軸0.5　深さ0.21	縄文晩期	
ＳＸ37	ＳＸ27	2	ＡⅢ	Ｃ４	土壙墓	不明	縄文晩期	土器片埋設
ＳＸ38	ＳＸ28	2	ＡⅢ	Ｂ４	土器棺墓	径　0.5　深さ0.22	縄文晩期	規模は土器棺埋設土坑の規模を示す
ＳＸ39	ＳＸ29	2	ＡⅢ	Ｄ４	土器棺墓	長軸0.7　短軸0.5　深さ0.28	縄文晩期	規模は土器棺埋設土坑の規模を示す
ＳＸ40	ＳＸ30	2	ＡⅢ	Ｂ４	土器棺墓	長軸0.8　短軸0.6　深さ0.31	縄文晩期	規模は土器棺埋設土坑の規模を示す
ＳＸ41	ＳＸ31	2	ＡⅢ	Ｃ３	土器棺墓	長軸0.8　短軸0.4　深さ0.37	縄文晩期	規模は土器棺埋設土坑の規模を示す
ＳＸ42	ＳＸ32	2	ＡⅢ	Ｃ３	土器棺墓	不明	縄文晩期	
ＳＸ43	ＳＸ33	2	ＡⅢ	Ｃ２	土器棺墓	長軸1.0　短軸0.7　深さ0.17	縄文晩期	規模は土器棺埋設土坑の規模を示す
ＳＸ44	ＳＸ34	2	ＡⅢ	Ｃ１	土器棺墓	長軸0.7　短軸0.5　深さ0.08	縄文晩期	規模は土器棺埋設土坑の規模を示す
ＳＸ45	ＳＫ35	2	ＡⅢ	Ｄ６	土壙墓	長軸0.9　短軸0.5　深さ0.21	縄文晩期	立石あり
ＳＸ46	ＳＸ36	2	ＡⅢ	Ｃ５	土器棺墓	不明	縄文晩期	
ＳＫ47	ＳＫ37	2	ＡⅢ	Ｅ２	土坑	長軸0.9　短軸0.7　深さ0.26	縄文晩期か	
ＳＸ48	ＳＫ38	2	ＡⅢ	Ｃ４	土壙墓	長軸2.0　短軸0.7　深さ0.24	縄文晩期	
ＳＫ49	ＳＫ39	2	ＡⅢ	Ｂ・Ｃ４	土坑	径　0.6　深さ0.42	縄文晩期	
ＳＸ50	ＳＫ40	2	ＡⅢ	Ｃ４	土壙墓	長軸1.8　短軸0.7　深さ0.25	縄文晩期	甕被葬か
ＳＫ51	ＳＫ41	2	ＡⅢ	Ｂ・Ｃ３	土坑	径　0.6　深さ0.35	縄文晩期	
ＳＫ52	ＳＫ42	2	ＡⅢ	Ｃ３	土坑	長軸1.2　短軸0.7　深さ0.26	縄文晩期	
ＳＫ53	ＳＫ43	2	ＡⅢ	Ｃ３	土坑	長軸1.0　短軸0.6　深さ0.3	縄文晩期	
ＳＸ54	ＳＫ44	2	ＡⅢ	Ｂ・Ｃ３	土壙墓	長軸1.6　短軸0.6　深さ0.04	縄文晩期	
ＳＫ55	ＳＫ45	2	ＡⅢ	Ｄ４	土坑	長軸0.9　短軸0.8　深さ0.27	縄文晩期	
ＳＫ56	ＳＫ46	2	ＡⅢ	Ｃ２	集石土坑	長軸1.1　短軸0.7　深さ0.26	縄文晩期	
ＳＫ57	ＳＫ47	2	ＡⅢ	Ｄ１	土坑	長軸1.0　短軸0.5　深さ0.27	縄文晩期	
ＳＫ58	ＳＫ48	2	ＡⅢ	Ｃ１	土坑	長軸2.0　短軸0.8　深さ0.14	縄文晩期か	
ＳＸ59	ＳＸ49	2	ＡⅢ	Ｂ５	土器棺墓	不明	縄文晩期	
ＳＸ60	Pit５	2	ＡⅢ	Ｄ９	土壙墓	径　0.5　深さ0.1	縄文晩期か	立石あり
ＳＳ61	－	2	ＡⅢ	Ｄ７・８	配石	－	縄文晩期か	半円状に礫を配置
ＳＳ62	－	2	ＡⅢ	Ｃ２	立石	－	縄文晩期か	
ＳＳ63	－	2	ＡⅢ	Ｄ３	立石	－	縄文晩期か	
ＳＳ64	－	2	ＡⅢ	Ｅ６	立石	－	縄文晩期か	

第４表　遺構一覧表1

報告書遺構番号	調査時遺構番号	調査次数	地区	グリッド	性　格	規　模（m）	時　　期	備　　考
ＳＳ65	－	2	ＡⅢ	Ｂ９	立石	－	縄文晩期か	
ＳＫ66	下層ＳＫ１	2	ＡⅢ	Ｅ９	土坑	－	縄文晩期	ＳＫ12・13と同一遺構の可能性あり
ＳＫ67	下層ＳＫ２	2	ＡⅢ	Ｂ８	土坑	長軸0.7　短軸0.4　深さ0.12	縄文中期末か	土器細片のみ
ＳＫ68	下層ＳＫ３	2	ＡⅢ	Ｂ８	土坑	長軸1.0　短軸0.6　深さ0.19	縄文晩期	
ＳＫ69	下層ＳＫ４	2	ＡⅢ	Ｂ８	土坑	長軸1.0　短軸0.6　深さ0.27	縄文晩期	
ＳＸ70	下層ＳＫ５	2	ＡⅢ	Ｂ８	土壙墓	長軸0.9　短軸0.5　深さ0.08	縄文晩期	立石あり
ＳＫ71	下層ＳＫ６	2	ＡⅢ	Ｃ８	土坑	長軸0.7　短軸0.5　深さ0.05	縄文晩期か	
ＳＫ72	下層ＳＫ７	2	ＡⅢ	Ｂ８	土坑	長軸1.8　短軸0.7　深さ0.3	縄文晩期か	
ＳＫ73	下層ＳＸ８	2	ＡⅢ	Ｃ７	集石土坑	長軸1.0　短軸0.7　深さ0.34	縄文晩期	
ＳＫ74	下層ＳＫ９	2	ＡⅢ	Ｃ７	土坑	長軸1.5　短軸1.0　深さ0.18	縄文晩期	
ＳＫ75	下層ＳＫ10	2	ＡⅢ	Ｄ７	土坑	長軸1.2　短軸0.4　深さ0.15	不明	出土遺物なし
ＳＫ76	下層ＳＫ11	2	ＡⅢ	Ｂ７	土坑	長軸1.6　短軸0.5　深さ0.18	縄文晩期	
ＳＫ77	下層ＳＫ12	2	ＡⅢ	Ｃ８	集石土坑	長軸0.8　短軸0.6　深さ0.09	縄文晩期	
ＳＤ78	下層ＳＤ13	2	ＡⅢ	Ｄ８	溝	延長1.0　幅　0.2　深さ0.04	不明	根撹乱の可能性あり・出土遺物なし
ＳＤ79	下層ＳＤ14	2	ＡⅢ	Ｄ８	溝	延長0.6　幅　0.1　深さ0.03	不明	根撹乱の可能性あり・出土遺物なし
ＳＤ80	下層ＳＤ15	2	ＡⅢ	Ｄ８	溝	延長1.0　幅　0.2　深さ0.1	縄文か	根撹乱の可能性あり
ＳＸ81	下層ＳＫ16	2	ＡⅢ	Ｃ５	土壙墓	長軸1.3　短軸0.5　深さ0.1	縄文晩期か	
ＳＸ82	下層ＳＫ17	2	ＡⅢ	Ｃ・Ｄ５	土壙墓	長軸1.2　短軸0.7　深さ0.17	不明	据え石あり
ＳＫ83	下層ＳＫ18	2	ＡⅢ	Ｃ２	集石土坑	長軸0.9　短軸0.6　深さ0.2	縄文中期	
ＳＫ84	下層ＳＫ19	2	ＡⅢ	Ｅ３	集石土坑	長軸1.0　短軸0.5　深さ0.21	縄文中期	
ＳＸ85	下層ＳＫ20	2	ＡⅢ	Ｂ２	土壙墓	長軸1.8　短軸0.6　深さ0.83	縄文晩期	据え石あり
ＳＫ86	下層ＳＫ21	2	ＡⅢ	Ｂ７・８	土坑	長軸0.9　短軸0.4　深さ0.18	縄文晩期	
ＳＫ91	ＳＫ１	3	ＢⅠ	Ｆ・Ｇ９	土坑	径　1.1　深さ0.28	不明	底部中央に拳大の礫集中・出土遺物なし
ＳＫ92	ＳＫ２	3	ＢⅠ	Ｇ９	土坑	長軸0.9　短軸0.6　深さ0.17	不明	出土遺物無し
ＳＫ93	ＳＫ３	3	ＢⅠ	Ｇ９・10	土坑	長軸1.3　短軸0.6　深さ0.26	縄文か	チャート剥片１点出土
ＳＫ94	ＳＫ４	3	ＢⅠ	Ｈ９	土坑	長軸1.2　短軸0.9　深さ0.27	不明	出土遺物なし
ＳＫ95	ＳＫ５	3	ＢⅠ	Ｇ８	土坑	径　0.9　深さ0.19	不明	底部中央に拳大の礫集中・出土遺物なし
ＳＫ96	ＳＫ６	3	ＢⅠ	Ｊ５・６	土坑	長軸1.5　短軸1.0　深さ0.4	平安か	
ＳＫ97	ＳＫ７	3	ＢⅠ	Ｉ６	土坑	長軸0.9　短軸0.7　深さ0.19	縄文か	
ＳＫ98	ＳＫ８	3	ＢⅠ	Ｊ３・４	土坑	長軸1.2　短軸0.8　深さ0.1	縄文中期末～後期初頭	
ＳＫ99	ＳＫ９	3	ＢⅠ	Ｊ４	土坑	長軸1.0　短軸0.7　深さ0.14	不明	土器細片のみ出土
ＳＫ100	ＳＫ10	3	ＢⅠ	Ｊ５・６	土坑	長軸1.1　短軸0.7　深さ0.24	縄文中期末～後期初頭	
ＳＫ101	ＳＫ11	3	ＢⅠ	Ｉ３	土坑	径　0.7　深さ0.33	平安	
ＳＫ102	ＳＫ12	3	ＢⅠ	Ｈ・Ｉ４	土坑	長軸3.8　短軸0.6　深さ0.27	平安	
ＳＫ103	ＳＫ13	3	ＢⅠ	Ｇ６	土坑	長軸3.0　短軸0.6　深さ0.4	平安	
ＳＺ104	ＳＺ14	3	ＢⅠ	Ｉ３～Ｊ６	落ち込み	幅 12.5　深さ0.49	縄文中期～晩期	
ＳＫ105	ＳＫ15	3	ＢⅠ	Ｈ５	土坑	径　0.9　深さ0.2	平安	「東」の墨書土師器杯・鉄製紡錘車出土
ＳＺ106	ＳＺ16	3	ＢⅠ	Ｈ４・５	落ち込み	長軸7.7　短軸0.7　深さ0.47	縄文中期末以降	
ＳＫ107	ＳＫ17	3	ＢⅠ	Ｊ４	土坑	長軸1.9　短軸0.7　深さ0.22	平安か	
ＳＢ108	ＳＢ18	3	ＢⅠ	Ｈ５～Ｊ３	掘立柱建物	５間以上×２間の南北棟	平安	
ＳＫ111	ＳＫ１	2	ＢⅡ	H19・20	土坑	長軸2.8　短軸1.8　深さ0.29	平安	
ＳＫ112	ＳＫ２	2	ＢⅡ	Ｈ・Ｉ19	土坑	長軸1.3　短軸1.0　深さ0.46	平安か	
ＳＫ113	ＳＫ３	2	ＢⅡ	Ｊ18	土坑	長軸3.3　短軸2.1　深さ0.29	平安末	
欠　番	ＳＫ４	2	ＢⅡ	Ｉ17・18	撹乱	－	－	風倒木痕跡
ＳＫ115	ＳＫ５	2	ＢⅡ	Ｇ17	土坑	長軸2.0　短軸0.9　深さ0.05	平安か	
ＳＫ116	ＳＫ６	2	ＢⅡ	Ｊ16・17	土坑	長軸1.5　短軸1.0　深さ0.12	平安	
ＳＫ117	ＳＫ７	2	ＢⅡ	H15	土坑	長軸1.0　短軸0.9　深さ0.11	平安か	
ＳＫ118	ＳＫ８	2	ＢⅡ	Ｊ13・14	土坑	長軸4.2　短軸0.8　深さ0.46	平安か	
ＳＫ119	ＳＫ９	2	ＢⅡ	Ｈ・Ｉ12	土坑	径　0.9　深さ0.14	縄文中期末～後期初頭	
ＳＺ120	ＳＺ10	2	ＢⅡ	Ｂ17～Ｄ19	落ち込み	南北4.5　東西6.5　深さ0.46	平安末～鎌倉初頭	
ＳＫ121	ＳＫ11	2	ＢⅡ	Ｇ13	土坑	長軸1.5　短軸0.7　深さ0.07	不明	出土遺物なし
ＳＫ122	下層ＳＫ１	2	ＢⅡ	Ｉ19～Ｊ18	土坑	長軸3.0　短軸0.9　深さ0.54	平安	
ＳＫ123	下層ＳＫ２	2	ＢⅡ	Ｉ18	土坑	長軸1.5　短軸0.6　深さ0.72	縄文中期末～後期初頭	
ＳＫ124	下層ＳＫ３	2	ＢⅡ	H18	土坑	長軸1.0　短軸0.6　深さ0.59	不明	土器細片のみ出土
ＳＫ125	下層ＳＫ４	2	ＢⅡ	H15	土坑	長軸2.8　短軸0.6　深さ0.32	不明	土器細片のみ出土
ＳＫ126	下層ＳＫ５	2	ＢⅡ	H14	土坑	長軸1.8　短軸0.7　深さ0.29	平安	
ＳＫ127	下層ＳＫ６	2	ＢⅡ	Ｇ14・15	土坑	径　1.8　深さ0.28	縄文中期末～後期初頭	
ＳＡ128	－	2	ＢⅡ	Ｇ12～Ｉ13	柱列	柱間４間	平安	

第５表　遺構一覧表2

Ⅳ　遺　物

1　土器・土製品

詳細については、土器・土製品観察表を参照願いたい。なお、この項については、挿図作成は小山、川崎、文章及び編集は小濵が担当した。

なお、縄文土器については、縄文時代○期、○式あるいは縄文時代○期と報告する。但し、当遺跡の中心時期である縄文時代晩期[1]の土器群の所属時期については、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期、Ⅴ期と表記する。Ⅰ期は元刈谷式及び晩期縁帯文と呼称されるものに、Ⅱ期は稲荷山式・桜井式に、Ⅲ期は西之山式及び山田編年Ⅲ期に、Ⅳ期は五貫森式及び山田編年Ⅱa1・a2・b期に、Ⅴ期は馬見塚式及び山田編年Ⅲa・b期に相当するものと考えている[2]。

（1）ＡⅠ地区

ＳＢ１出土遺物（第37図　１～３）　１は土師器小皿である。口縁部は強いヨコナデで仕上げられる。２は土師器南伊勢系鍋である。時期的には、南伊勢系鍋編年の１段階に相当する[3]。３は混和材を多く含む土師質の粘土塊であるが、内面には植物圧痕がみられる。ＳＫ２から鉄滓や同様の粘土塊片が出土していることから、鍛冶作業に関わる遺物の可能性がある。

ＳＫ２出土遺物（第37図　４～７）　４・５は土師器皿である。６はロクロ土師器椀である。７は２と同様の土師器南伊勢系鍋である。

Ａ５Ｐｉｔ１掘方出土遺物（第37図　８・９）　８・９は渥美産の陶器椀である。時期的には、藤澤良祐氏による山茶椀編年[4]（以下、山茶椀編年と省略）のⅢ段階５型式に相当する。　（川崎志乃）

（2）ＡⅢ地区第１検出面

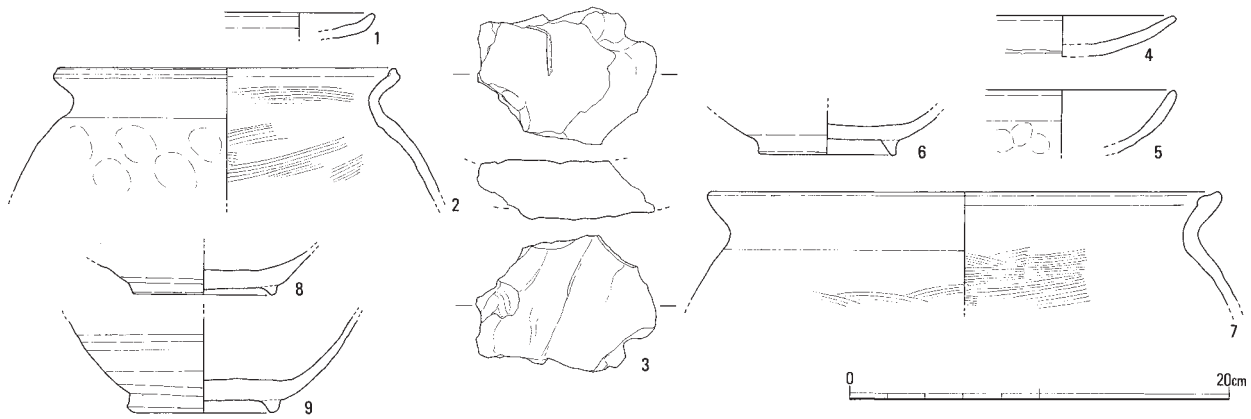
ＳＸ30出土遺物（第38図　10～12）　10は縄文土器深鉢上半部である。平縁の口縁部が若干外反し、底部が窄む器形。口縁部に穿孔がみられる。11は縄文土器深鉢上半部。波状の口縁が若干外反し、底部が窄む器形。口縁部には肥厚がみられる。縄文時代晩期、Ⅱ期のものであろう。時期的に遡る可能性もあろう。12は管状土製品。新しい時期の混入遺物か。

ＳＸ31出土遺物（第38図　13）　13は縄文土器深鉢。平縁の口縁部がほぼ直立し底部が窄む器形である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

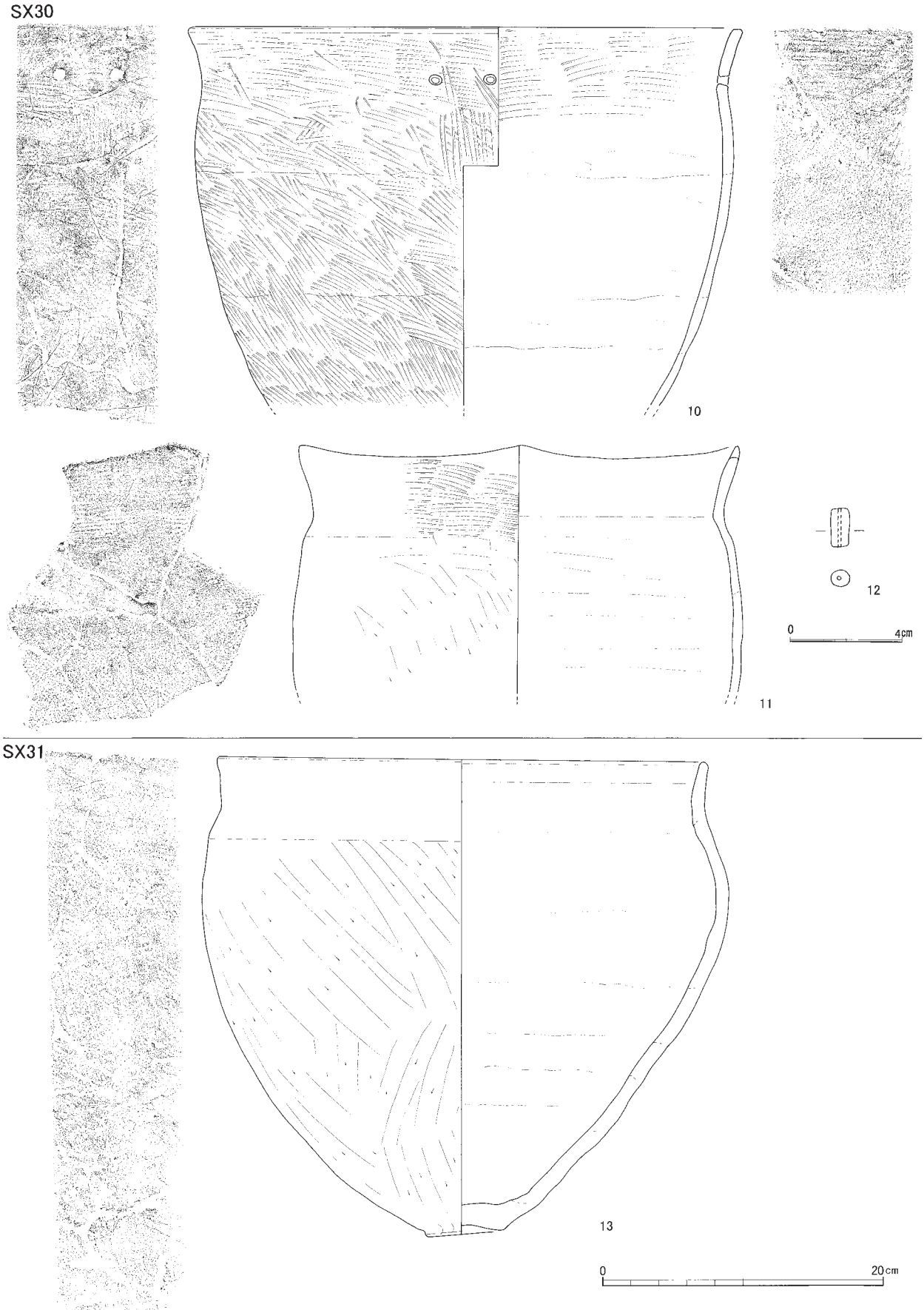
ＳＸ39出土遺物（第39図　14）　14は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による押圧が施された平縁の口縁部が若干外反し、底部が窄む器形である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。

ＳＸ42出土遺物（第39図　15）　15は縄文土器深鉢で、底部は欠失。口縁端部に工具による刻みが施された平縁の口縁部が若干外反し、底部が窄む器形。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

ＳＸ29出土遺物（第40図　16、第63図　388）　16は縄文土器深鉢である、底部は欠失している。口縁端部に工具による刻みが施され、口縁部が若干外反し底

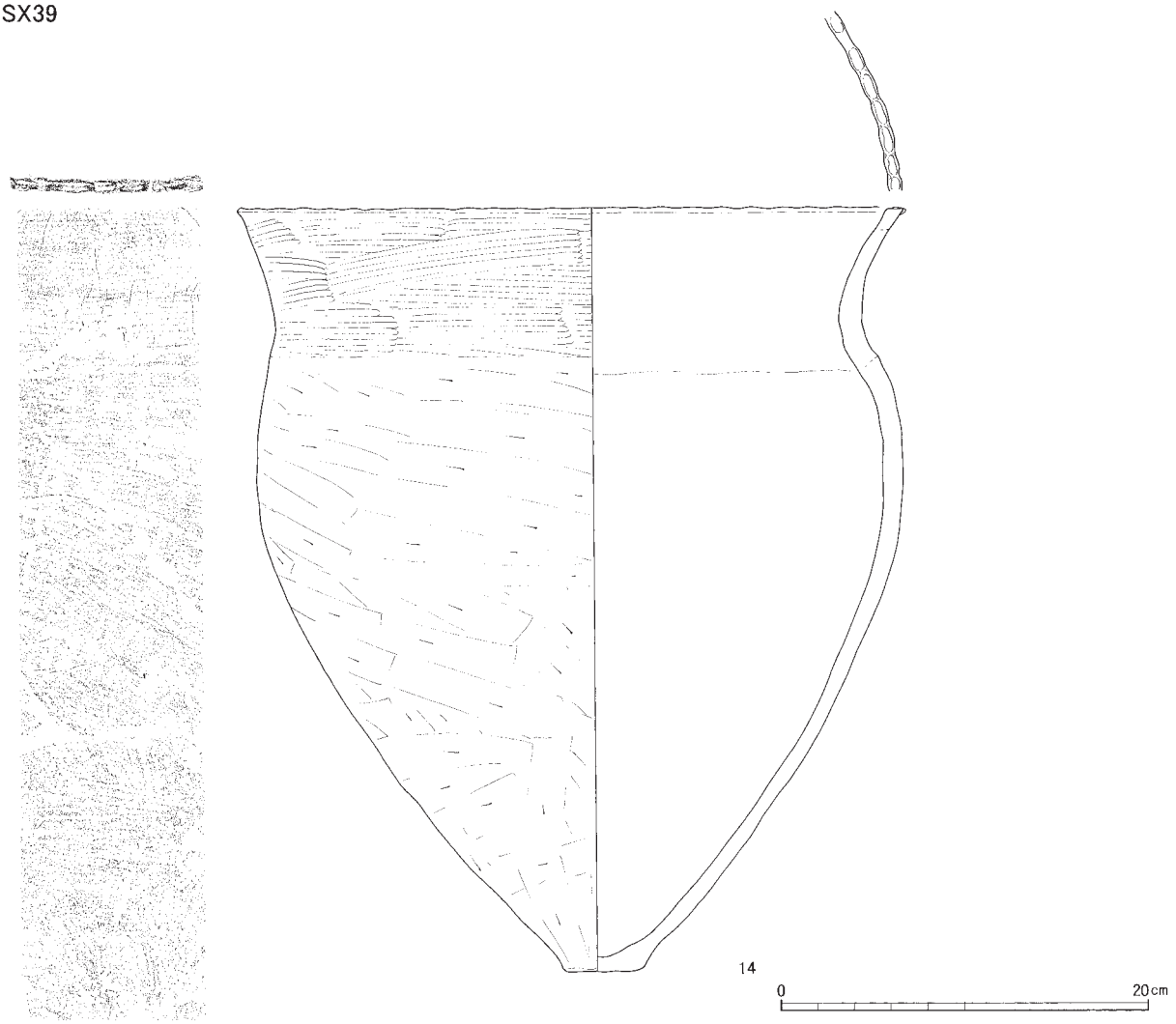


第37図　ＡⅠ地区出土遺物実測図(1:4)

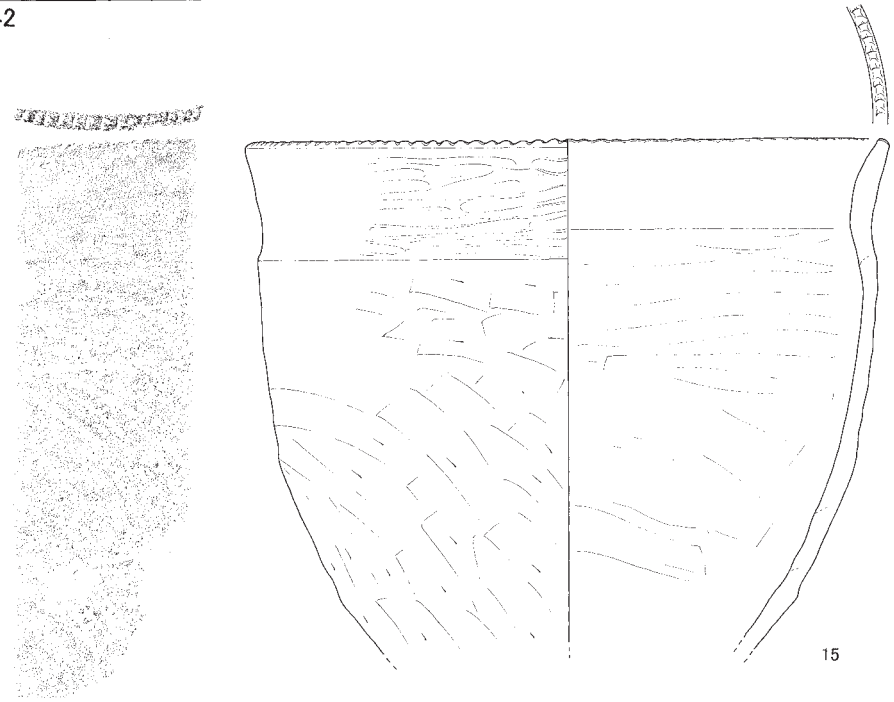


第38図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ30・31出土遺物実測図(1:4、12は1:2)

SX39



SX42



第39図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ39・42出土遺物実測図(1:4)

部が窄む。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。388は縄文土器深鉢口縁部片で、口縁端部や外面には加飾があまりみられない。縄文時代晩期のもので、16とは時期差がみられる。

ＳＸ38出土遺物（第41・42図 17・18） 17・18は縄文土器深鉢。平縁の口縁端部に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部が外反し、底部が窄み尖底のような器形である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

ＳＸ40出土遺物（第43図 19） 19は縄文土器深鉢。平縁の口縁端部内面に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部が若干外反し、底部が窄み尖底のような器形である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。

ＳＸ44出土遺物（第44図 20・21、第68図 554） 20は縄文土器深鉢で、底部は欠失。平縁の口縁端部に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部が若干外反し、底部が窄み尖底のような器形である。21は縄文土器深鉢である。口縁部に１条の刻みのある突帯が巡る。底部が窄む器形である。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。20については、時期が遡る可能性もあろう。554は縄文土器底部片で、丸底を呈する。

ＳＸ43出土遺物（第45図 22～24、第58図 237、第59図 262、第64図 408、第68図 550） 22は波状口縁の縄文土器深鉢である。口縁部が内弯し、底部が窄む。23は縄文土器深鉢である。口縁端部には工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部には刻みの

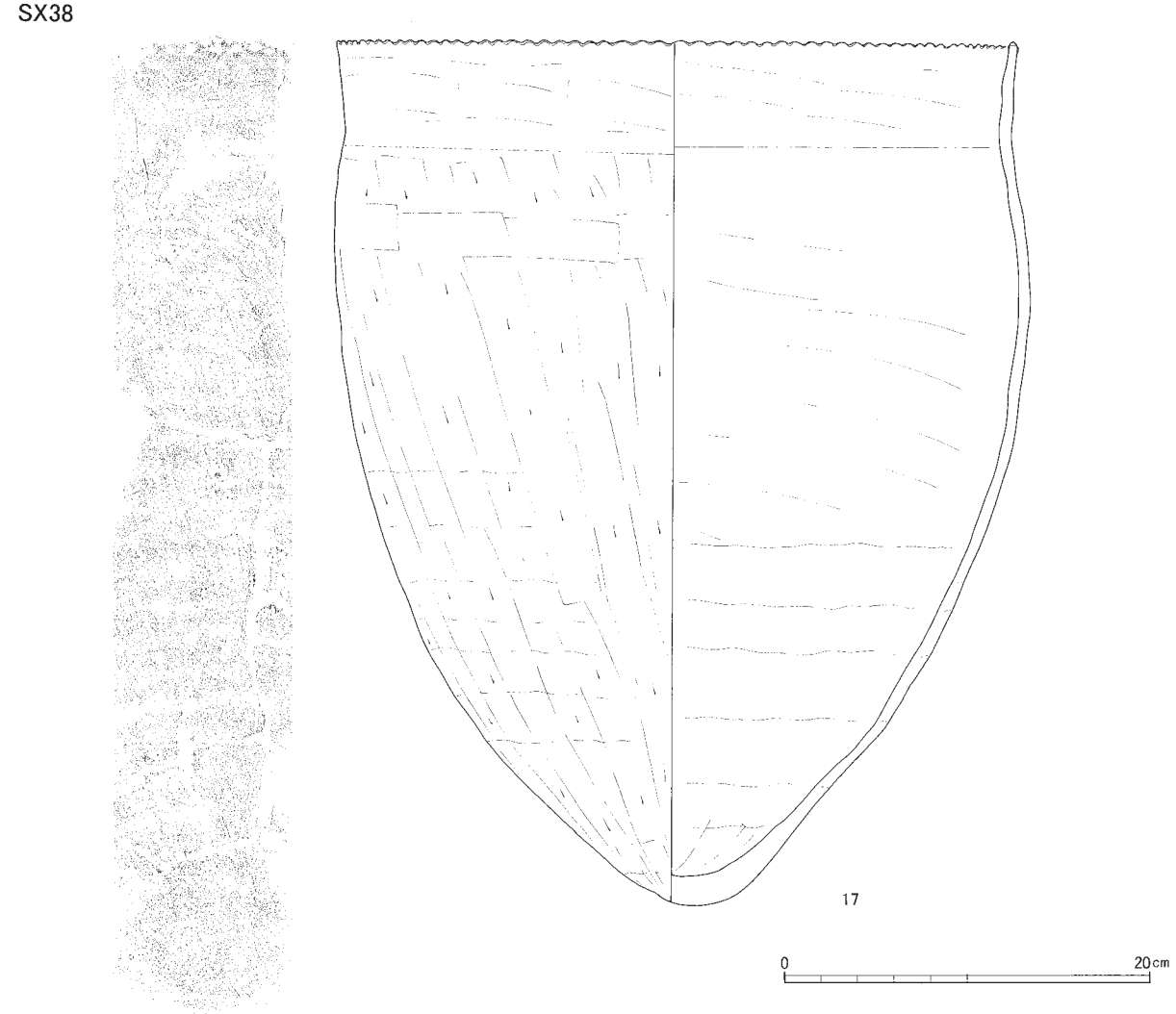
第40図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ29出土遺物実測図(1:4)

ある突帯が１条巡る。底部が窄む器形である。24は平縁である口縁部が内折する縄文土器深鉢である。これらは、縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。237は口縁部に刻みのある突帯が１条巡り、口縁端部にも刻みがみられる縄文土器深鉢片。262は口縁部に刻みのある突帯が１条巡る縄文土器深鉢片。408は縄文土器深鉢口縁部片。加飾がみられない。550は縄文土器底部片である。加飾があまりみられないものである。これらは縄文時代晩期のもので、24とは時期差がみられる。

ＳＸ28出土遺物（第46図 25、第62図 344、第64図 412、第65図 458） 25は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部に刻みのある突帯が１条巡る。底部付近に近づくに従い窄いんでいく器形で、底部外面は凹底である。縄文時代晩期、Ⅲ期のものといえよう。土器棺ではないが、口縁端部に刻みが施された縄文土器口縁部片である344、412は縄文土器深鉢口縁部片で、加飾がみられない。458は縄文土器深鉢。これらは、縄文時代晩期のものと考えられ、25とは時期差があると思われる。

ＳＸ25出土遺物（第46図 26、第52図 80～83） 26は縄文土器深鉢である。口縁部が外反し、底部に近づくに従い窄んでいく。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。80～82は外反する口縁部をもつ縄文土器深鉢である。平縁の口縁端部には、工具による刻みが施され、小波状にみえるものである。83は文様といった加飾がみられない縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅰ～Ⅱ期のものと考えられる。

ＳＸ41出土遺物（第47図 27、第62図 357、第63図 387） 27は縄文土器深鉢である。底部に近づくに従



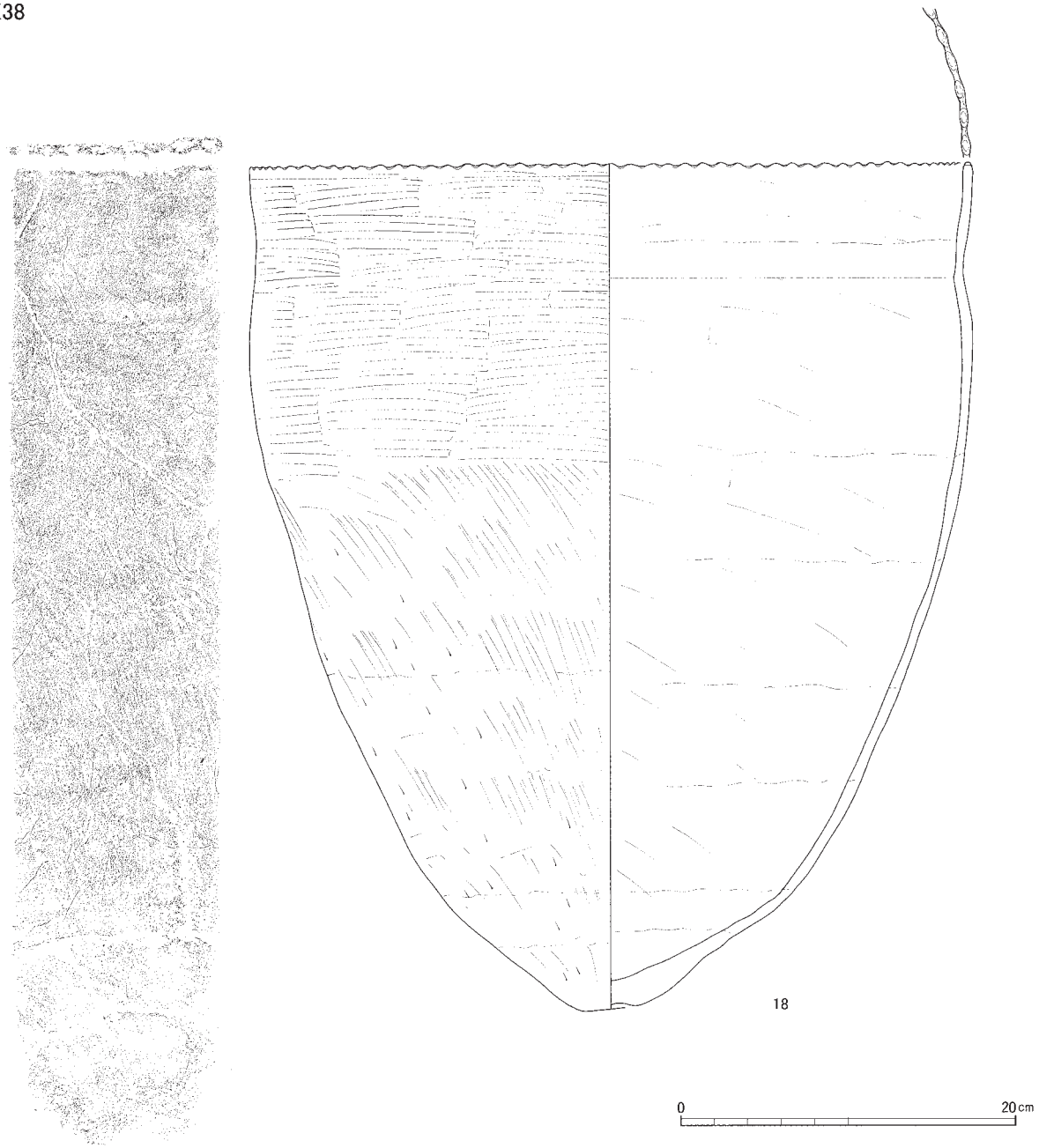
第41図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ38出土遺物実測図1(1:4)

い窄んでいく。縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。357は縄文土器口縁部片で、口縁端部に刻みが施され､小波状にみえる。387は縄文土器口縁部片で、口縁端部や外面には加飾があまりみられない。これらは縄文時代晩期のものであるが、27とは時期差が感じられる。

ＳＸ46出土遺物（第47図 28） 28は縄文土器深鉢。底部に近づくに従い窄んでいく器形である。縄文時代晩期、Ⅳ期のものと思われる。

ＳＸ59出土遺物（第48図 29） 29は縄文土器深鉢である。平縁である口縁部が内折し、３条の素文突帯が施されている。底部に近づくに従い窄んでいく。底部外面は凹底である。伊勢タイプと呼称されているものである⑥。縄文時代晩期、Ⅴ期のものと考えられる。

ＳＸ50出土遺物（第49図 30～33） 30は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頸部にかけて横位に条痕が施されている。底部については欠失している。31は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頸部にかけては丁寧なナデである。底部につ



第42図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ38出土遺物実測図2(1:4)

いては欠失している。32は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頸部にかけて横位に条痕が施されている。口縁部に刻みのある突帯が１条巡る。底部が窄み尖底のような器形である。33は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のようにみえ、口縁部に刻みのある突帯が１条巡る。これらは、縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。なお、30・31は時期が遡る可能性がある。

ＳＸ14出土遺物（第50図 34～38） 34～38は縄文土器深鉢である。34は頸部が若干外反する体部片である。口縁部・底部は欠失している。35～37は口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅲ期に属するものと考えられる。38は底部片。凹底である。縄文時代晩期後半に属するものといえる。

ＳＸ32出土遺物（第50図 39～42） 39～42は縄文土器深鉢口縁部片である。39は口縁端部の肥厚、40は内面に段がみられる。縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。

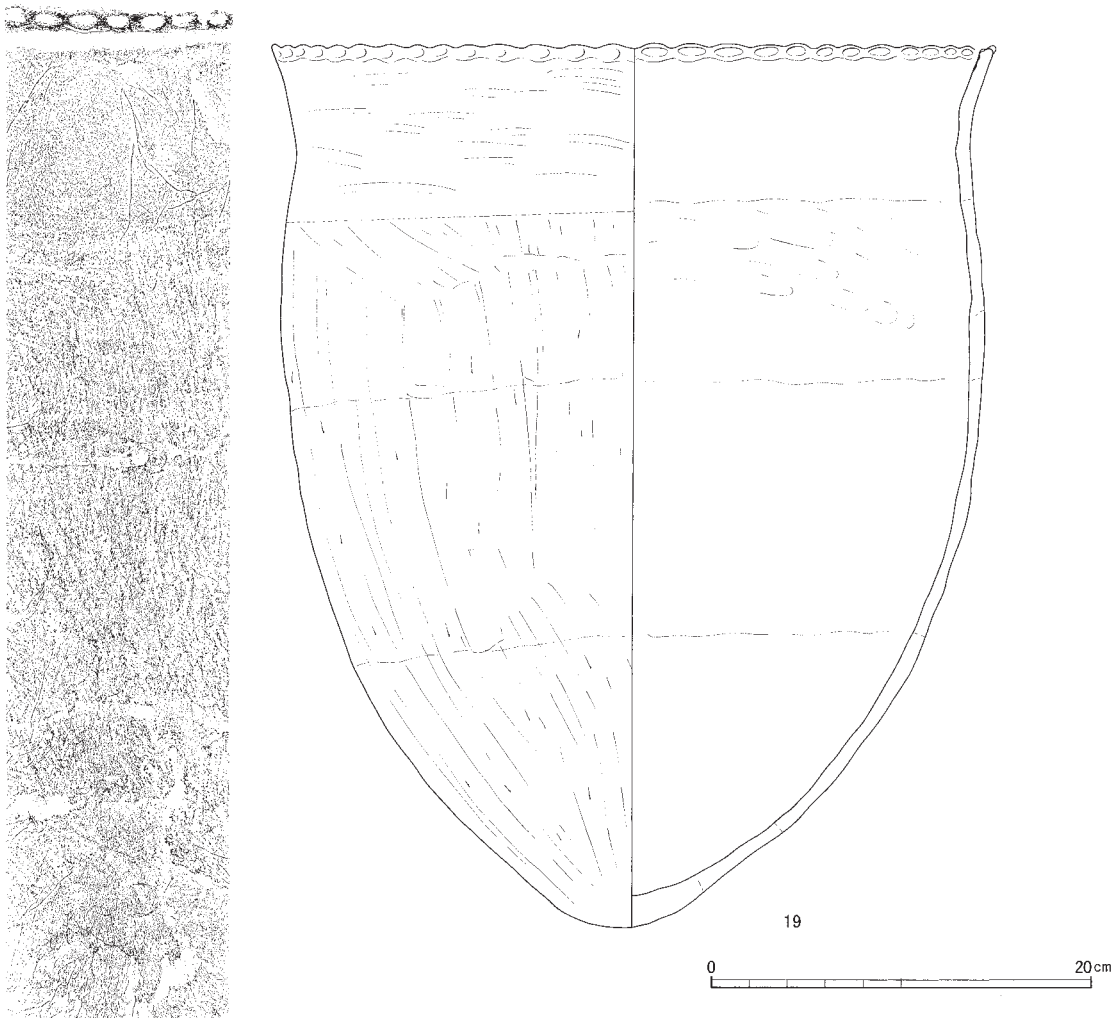
ＳＸ33出土遺物（第50図 43） 43は直立気味の縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。

ＳＸ37出土遺物（第50図 44） 44は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のようにみえる。口縁部から頸部にかけて横位に条痕が施され、口縁部に刻みのある突帯が１条巡る。底部は欠失。縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。

ＳＸ45出土遺物（第50図 45・46） 45・46は縄文土器深鉢口縁部片である。45は口縁端部に工具による刻みが施され小波状にみえる。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。

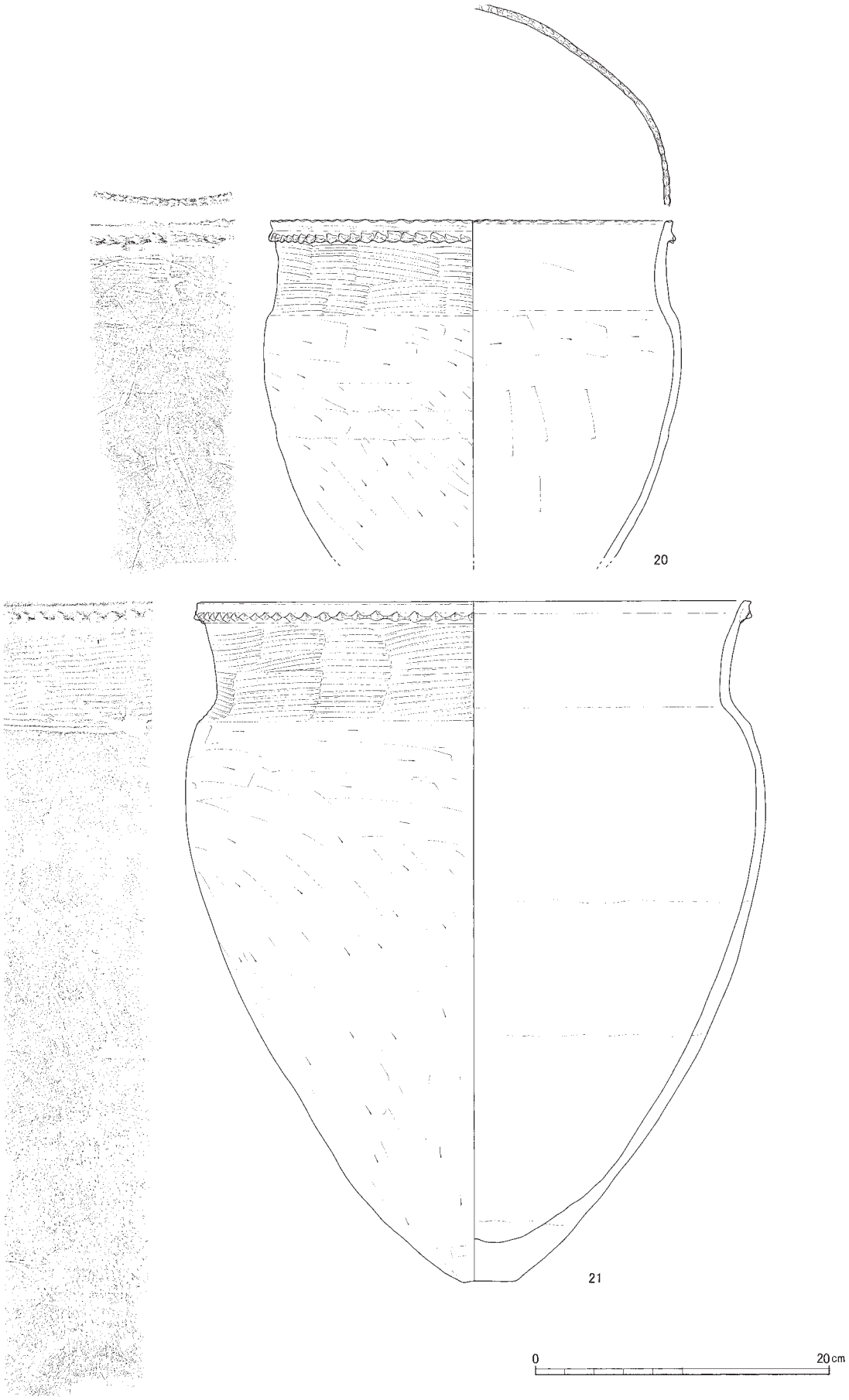
ＳＫ13出土遺物（第51図 47～53） 47は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頸部にかけて斜格

SX40

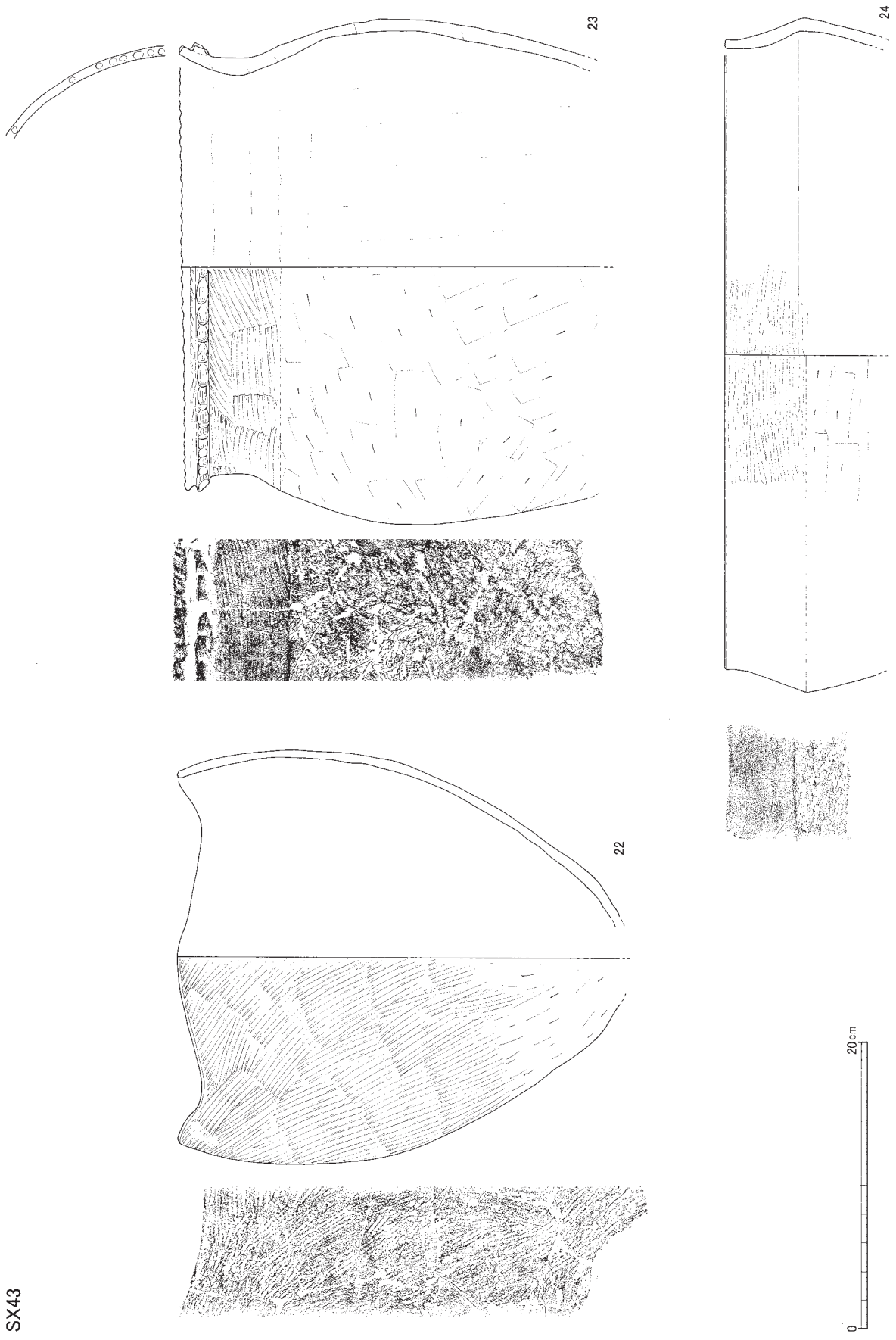


第43図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ40出土遺物実測図(1:4)

SX44

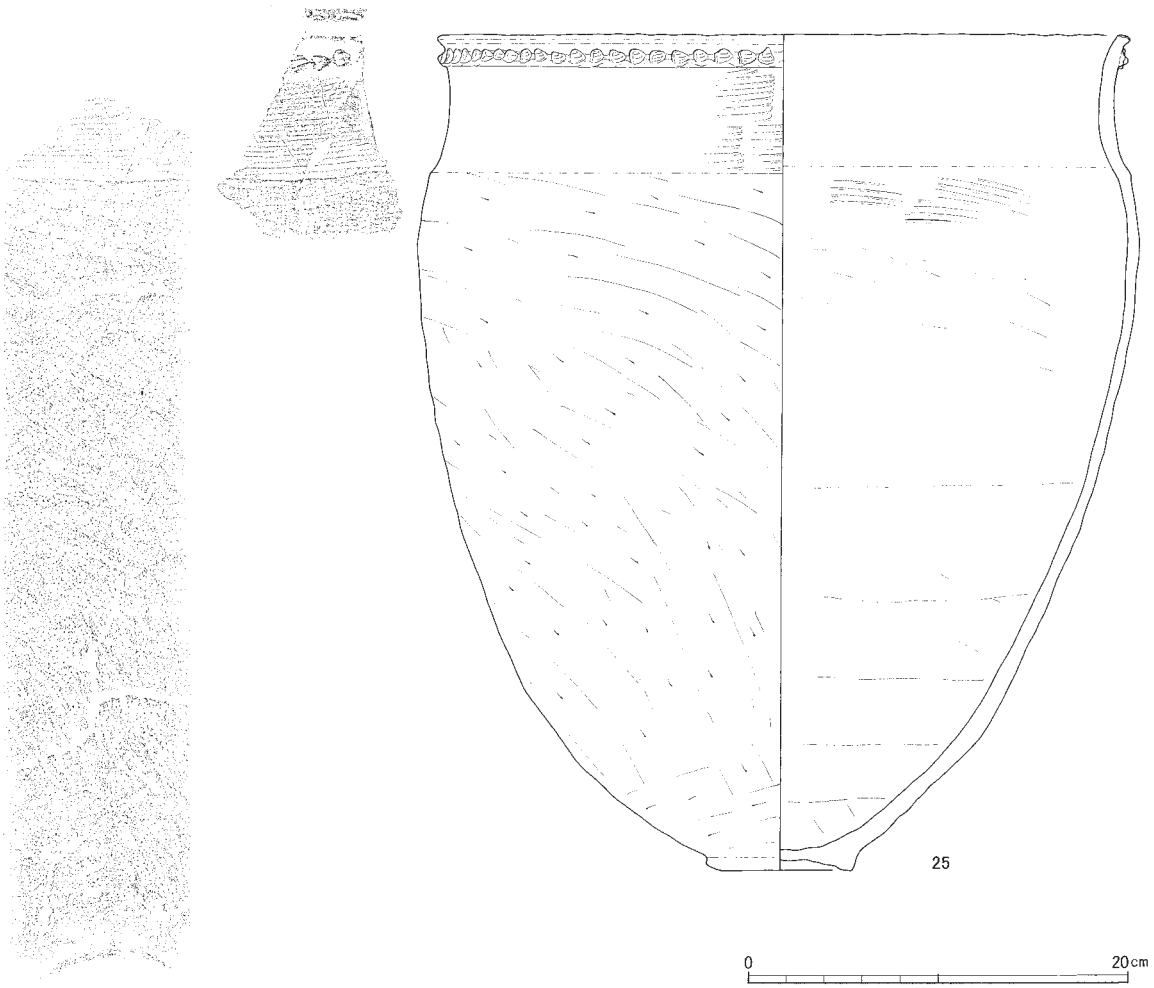


第44図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ44出土遺物実測図(1:4)

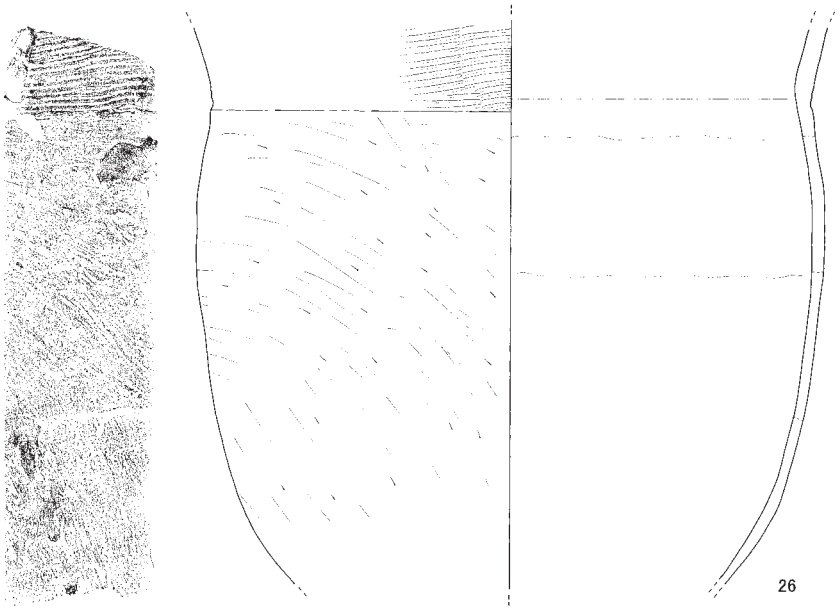


第45図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ43出土遺物実測図(1:4)

SX28

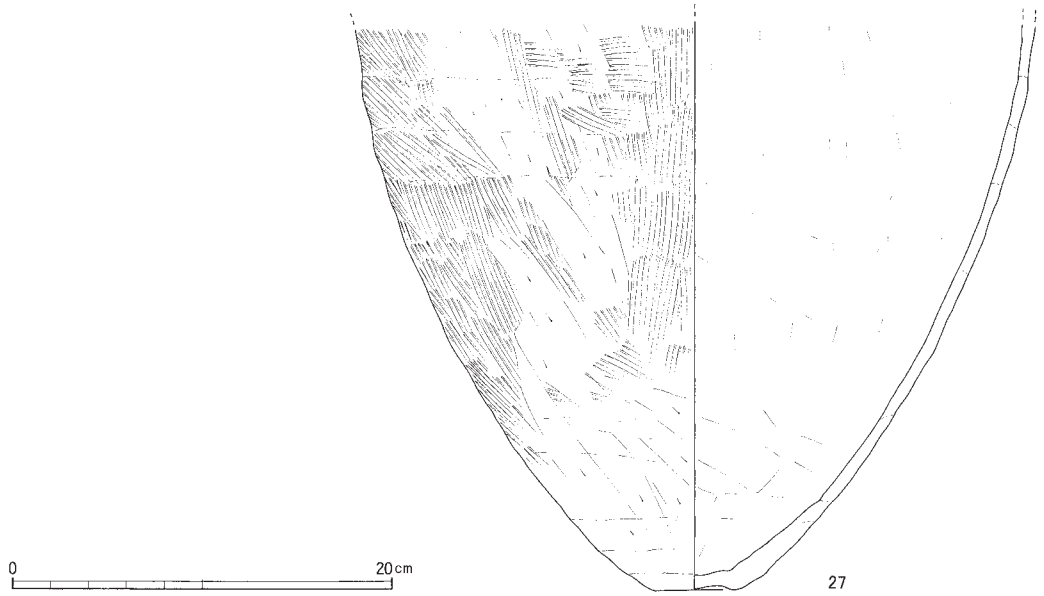


SX25

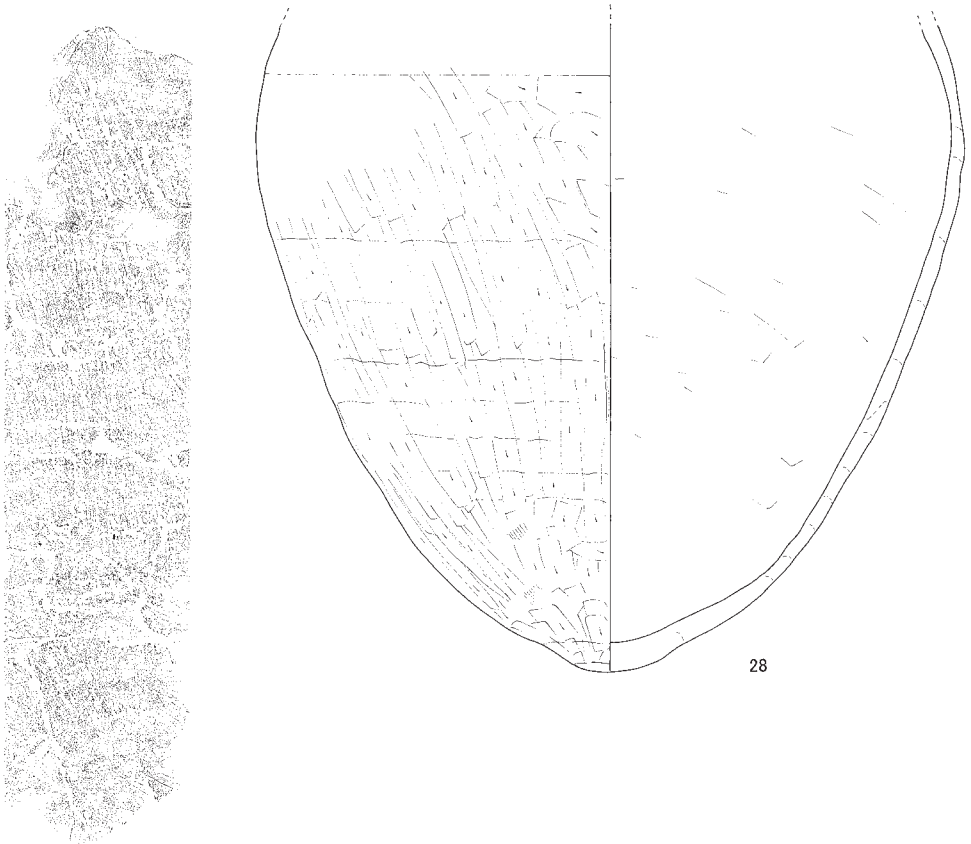


第46図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ25・28出土遺物実測図(1:4)

SX41



SX46



第47図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ41・46出土遺物実測図(1:4)

子状の条線が施されている。48は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状で、加飾がみられない。49は縄文土器深鉢。口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状で、加飾のないものである。内面に１条の沈線が巡る。50～52は縄文土器深鉢で、文様等の加飾がなく、口縁部が外反する。53は縄文土器浅鉢であろうか。低い突帯状の隆起が見られる体部片である。これらは縄文時代晩期、Ⅱ期のものといえよう。47は時期が遡り、53は時期が下る可能性がある。

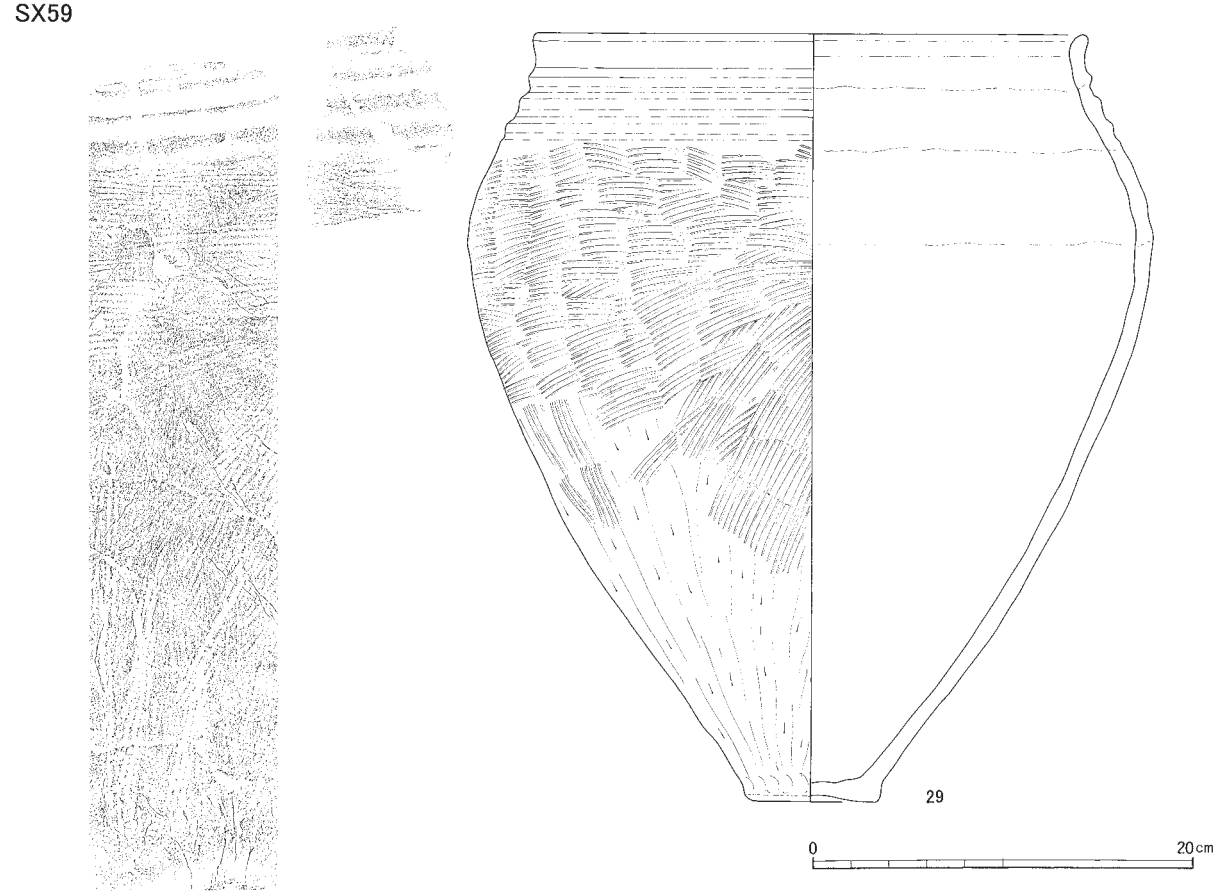
ＳＫ51出土遺物（第51図 54･55） 54･55は縄文土器深鉢である。口縁端部に工具による刻みが施され小波状にみえる。口縁部から頸部にかけて横位に条痕が施されている。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

ＳＫ16出土遺物（第51図 56） 56は縄文土器深鉢底部片である。凹底の形状である。縄文時代晩期後半のものと考えられる。

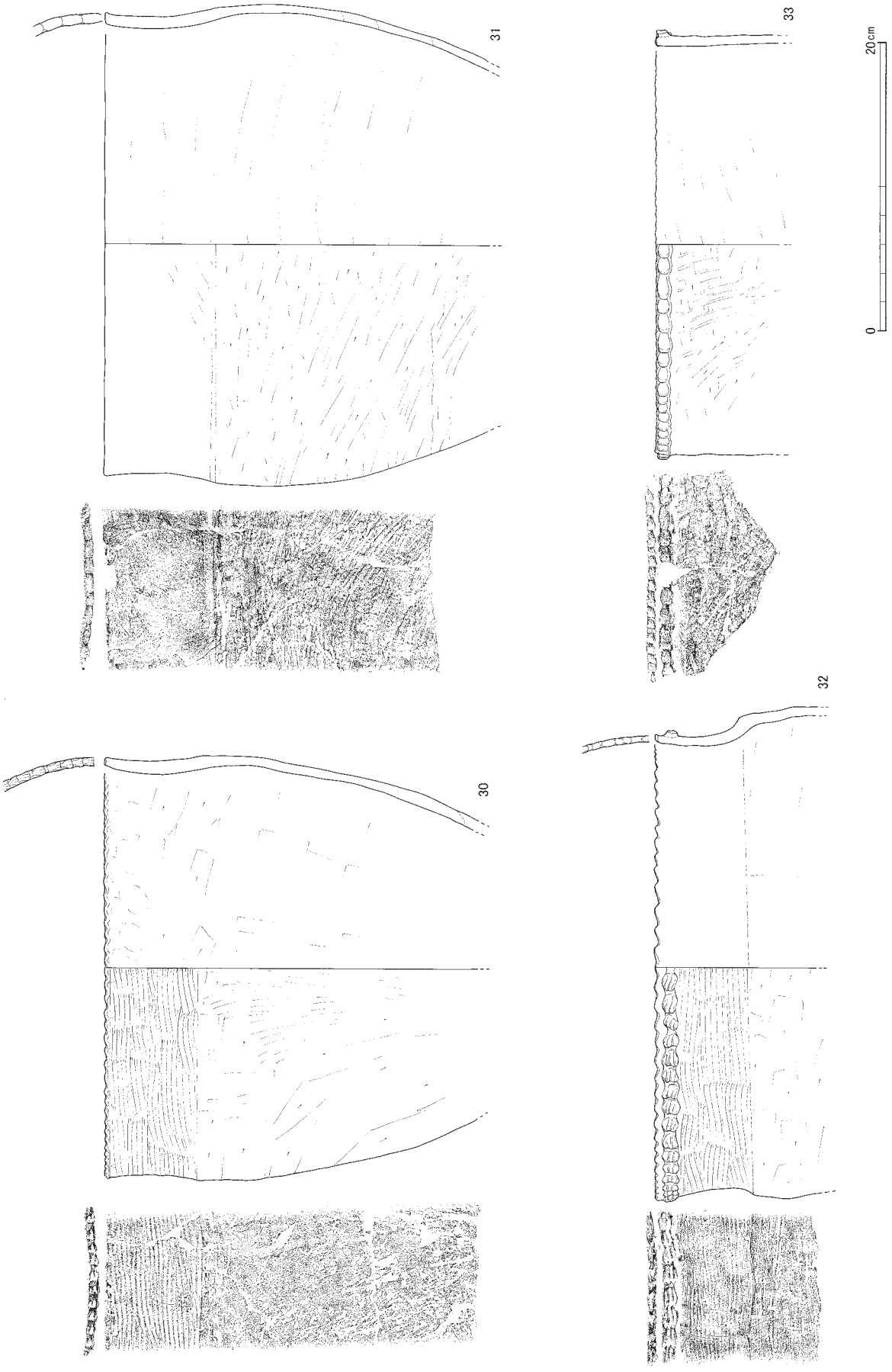
ＳＫ57出土遺物（第51図 57～61） 57･58は縄文土器深鉢口縁部片である。口縁端部に工具による刻みが施され小波状にみえるものである。59は口縁部外面の上端に低い突帯が１条めぐる縄文土器深鉢の口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。60は口縁部外面の上端に低い突帯が１条めぐる縄文土器深鉢の口縁部片である。61は縄文土器深鉢であろうか。口縁部内面に突帯が１条巡る。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。

ＳＫ23出土遺物（第51図 62～65） 62は縄文土器深鉢口縁部片。口縁端部に工具による刻みが施され小波状にみえるものである。口縁部直下には１条の刻目突帯が巡る。63は口縁部端部に沈線が１条巡る縄文土器深鉢口縁部片。64・65は縄文土器深鉢口縁片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。

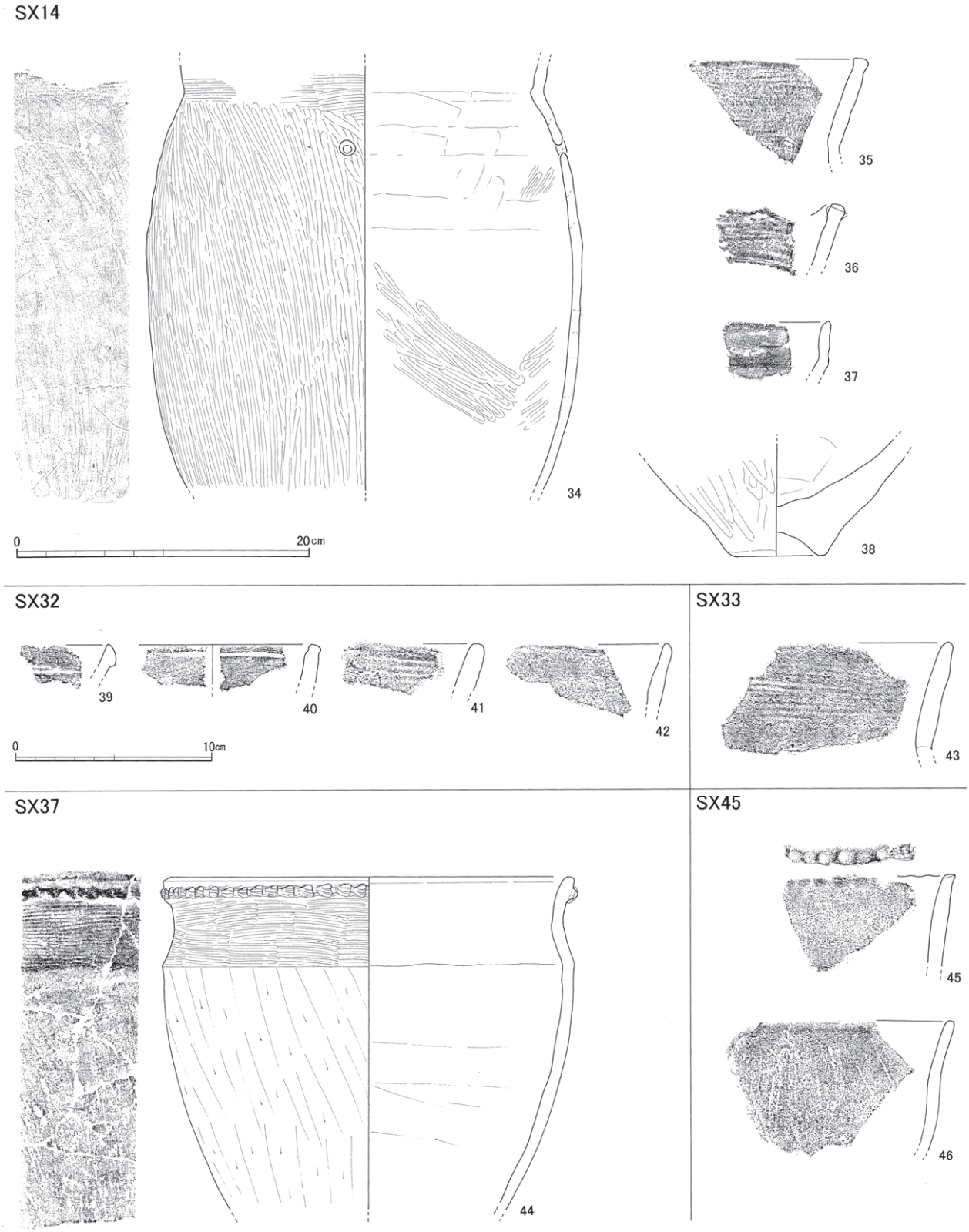
ＳＫ12出土遺物（第51図 66 ～70、第56図 171） 66は縄文土器深鉢口縁部片である。２条の突帯が確認できる。67は縄文土器深鉢である。口縁部上端に１条の突帯が施されている。68･70は縄文土器深鉢で、文様等の加飾がなく、口縁部が外反するものである。



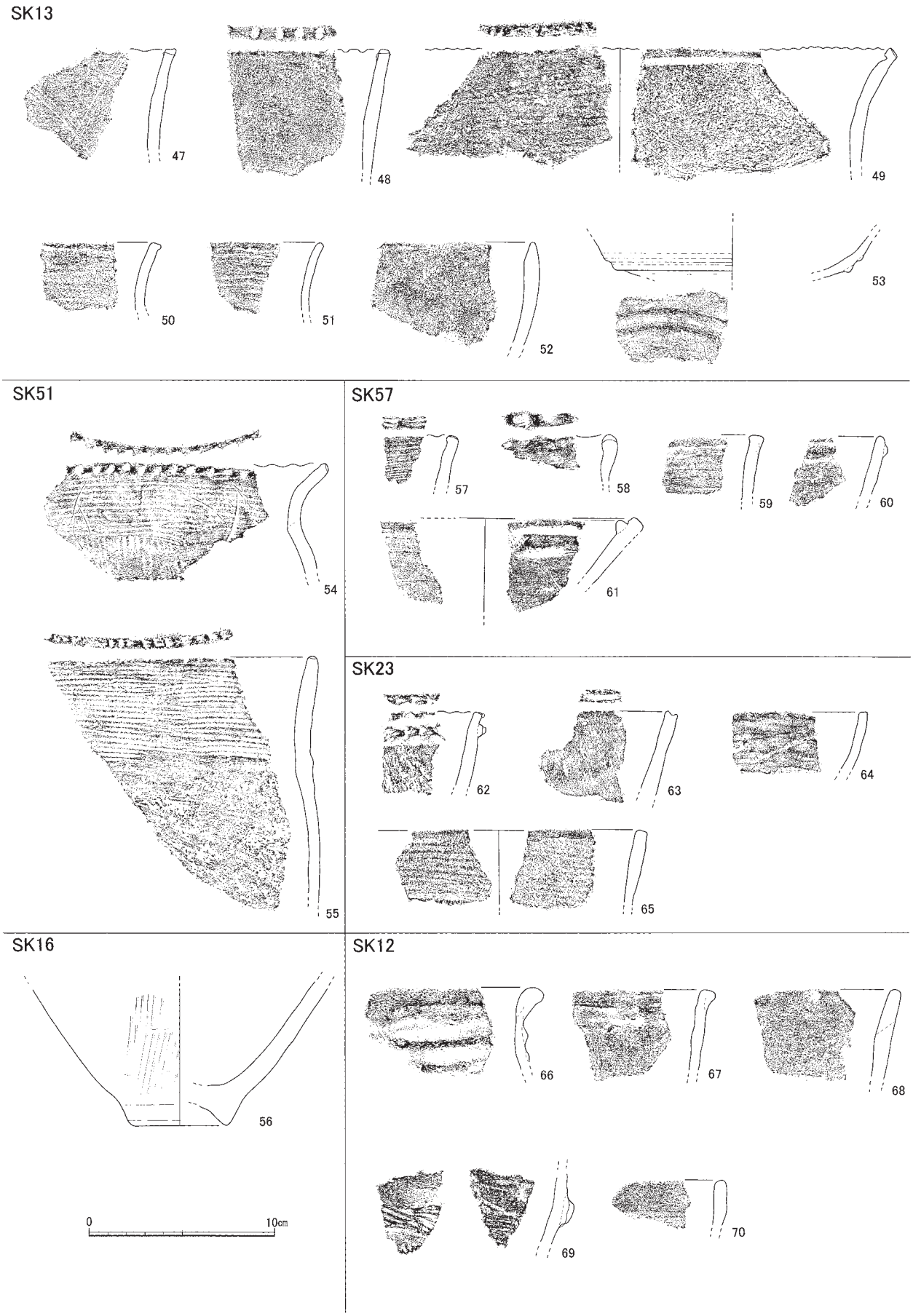
第48図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ59出土遺物実測図(1:4)



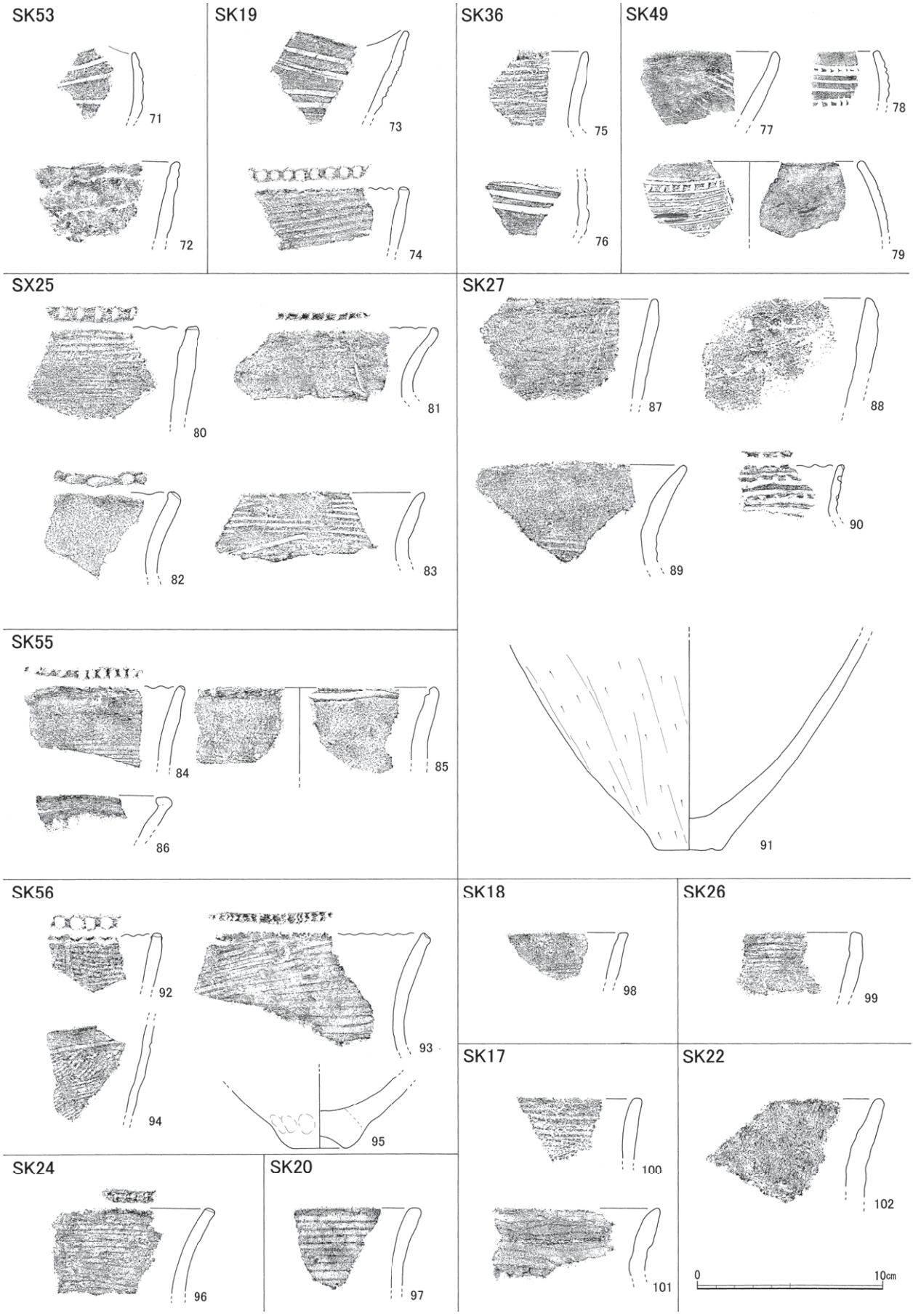
第49図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ50出土遺物実測図(1:4)



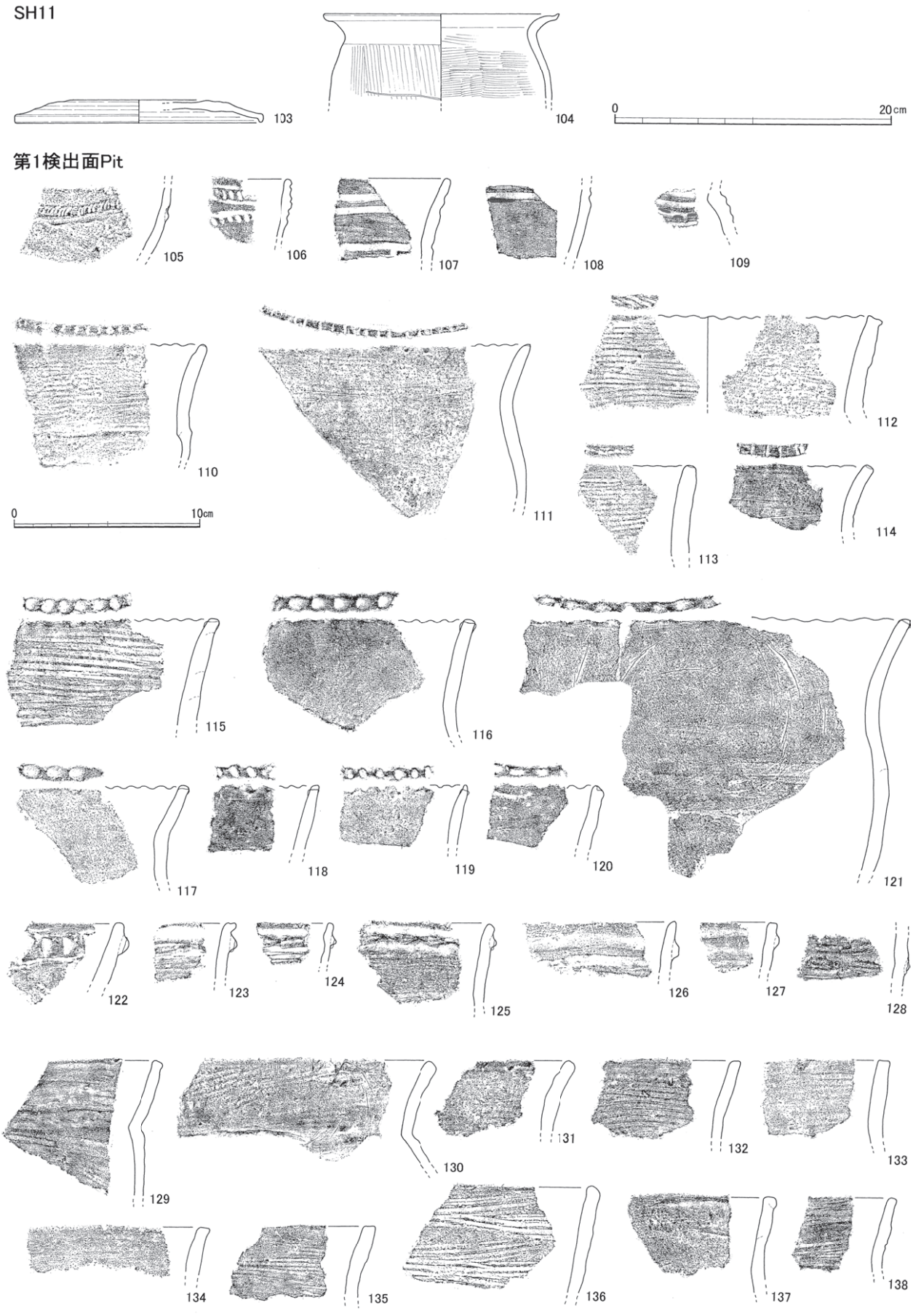
第50図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＸ14・32・33・37・45出土遺物実測図(35～43・45は1:3、34・44は1:4)



第51図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＫ12・13・16・23・51・57出土遺物実測図(1:3)



第52図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＫ17・18・19・20・22・24・26・27・36・49・53・55・56・ＳＸ25出土遺物実測図(1:3)



第53図　ＡⅢ地区第１検出面ＳＨ11・Ｐｉｔ出土遺物実測図(1:3、103・104は1:4)

69は縄文土器深鉢で、刻みがみられる１条の突帯が施された体部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期のものと考えられる。171は同心円状の沈線による文様がみられる口縁部片、縄文時代中期のものと思われる。

ＳＫ53出土遺物（第52図 71･72） 71は波状の口縁部から頸部にかけて横位の沈線が施されている縄文土器口縁部片である。72は縄文土器深鉢と思われる。文様といった加飾がみられないものである。これらは縄文時代晩期、Ⅰ期に属するものか。

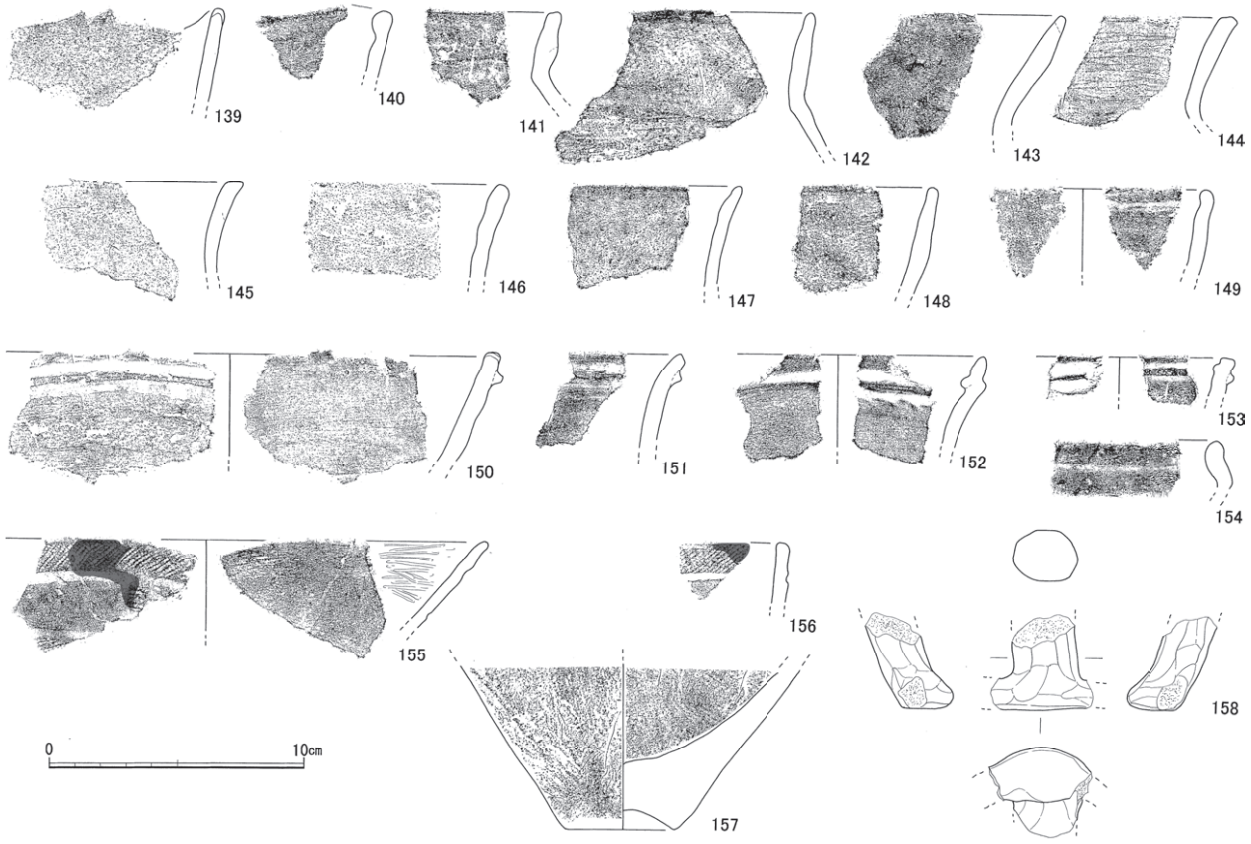
ＳＫ19出土遺物（第52図 73･74、第69図 558） 73は波状の口縁部から頸部にかけて横位の沈線が施されている縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅰ期に属するものか。74は縄文土器深鉢。平縁の口縁端部に工具による刻みが施され小波状のようである。縄文時代晩期、Ⅱ期のものといえよう。558は、縄文時代晩期の土偶の一部分であろうか。

ＳＫ36出土遺物（第52図 75･76） 75は文様といった加飾のない、縄文土器深鉢口縁部片である。76は横位の２条沈線がみられる縄文土器深鉢体部片。これらは縄文時代晩期、Ⅰ期のものと思われる。

ＳＫ49出土遺物（第52図 77～79） 77は文様といった加飾のない縄文土器深鉢口縁部片。縄文時代晩期のものであろうか。78は内傾する口縁部をもつ縄文土器深鉢である。横位の沈線間に刺突列が２条見られる。79は内傾する口縁部をもつ縄文土器深鉢である。横位の沈線間に刺突列が１条確認できる。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期のものと考えられる。

ＳＫ55出土遺物（第52図 84～86） 84は口縁端部に、工具等による刻みが施され、小波状にみえる縄文土器深鉢口縁部片である。85は口縁端部直下の内面に１条の沈線が巡る縄文土器深鉢である。86は縄文土器深鉢で、口縁端部が肥厚し内側に膨らむ。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

ＳＫ27出土遺物（第52図 87～91、第57図 209） 87･88は外傾する口縁部の縄文土器深鉢である。文様といった加飾がみられないものである。89は縄文土器深鉢口縁部片である。文様等の加飾がなく、口縁部が大きく外反する。90は平縁の口縁端部には、工具による刻みが施され、小波状にみえる縄文土器深鉢口縁部片である。沈線と刺突が外面に確認できる。大洞Ｃ１式に併行するものか(?)。91は底部に近づくほ



第54図　ＡⅢ地区第１検出面Ｐｉｔ出土遺物実測図(1:3)　※網点は赤色顔料

ど窄まっていく。これらは、縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。209は混入遺物であろう。縄文土器深鉢口縁部片で、縄文時代後期前半期のものと思われる。

ＳＫ56出土遺物（第52図 92 ～95） 92は外傾する口縁部の縄文土器深鉢である。文様といった加飾がみられない。93は縄文土器深鉢口縁部片である。文様等の加飾がなく、口縁部が大きく外反する。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。94は１条の沈線と縄文が施された縄文土器深鉢の体部片である。95は縄文土器で、凹底の底部片である。縄文時代晩期のものと思われる。

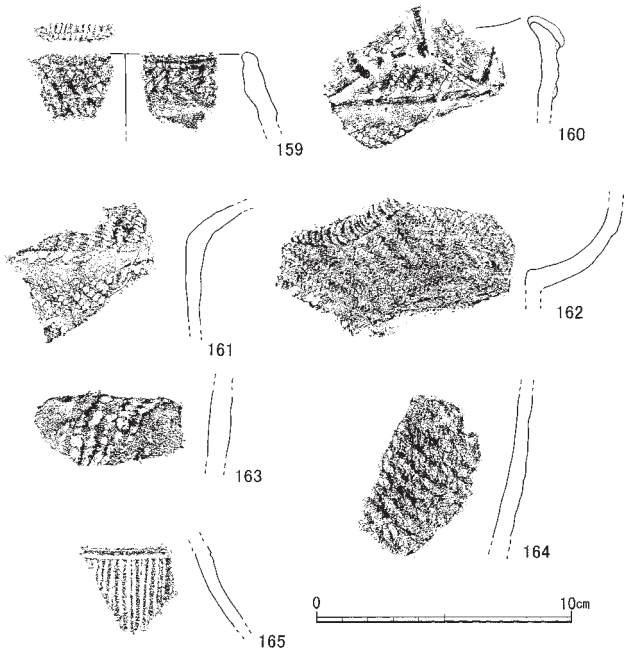
ＳＫ24出土遺物（第52図 96） 96は文様等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

ＳＫ20出土遺物（第52図 97） 97は文様等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと考えられる。

ＳＫ18出土遺物（第52図 98） 98は文様等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと思われる。

ＳＫ26出土遺物（第52図 99） 99は文様等の加飾がなく、口縁部が内弯する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと思われる。

ＳＫ17出土遺物（第52図 100･101） 100･101は文様等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと思われる。

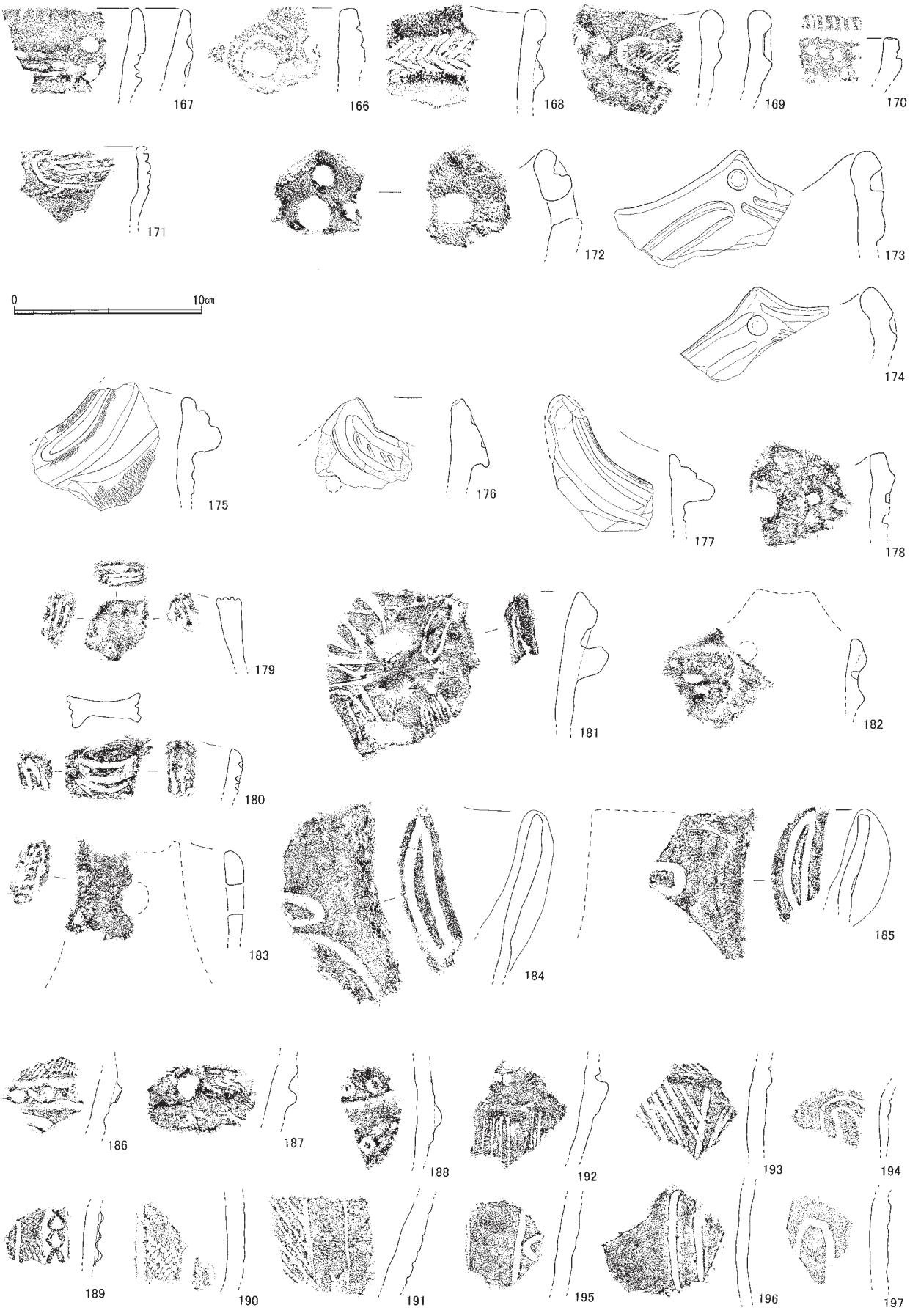


第55図 ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図1(1:3)

ＳＫ22出土遺物（第52図 102） 102は文様等の加飾がなく、口縁部が外反する縄文土器深鉢である。縄文時代晩期のものと思われる。

ＳＨ11出土遺物（第53図 103･104、第57図 204、第68図 540） 103は須恵器杯蓋である。ツマミは確認することができなかった。104は口縁端部が面取りされ、大きく外反する口縁部を持つ土師器甕である。外面にはハケメが施されている。これらは、斎宮編年第Ⅰ期第３～４段階[8]、奈良時代後半期（８世紀代）のものと思われる。また、縄文時代後期の深鉢204や縄文時代晩期の底部片540も出土している。

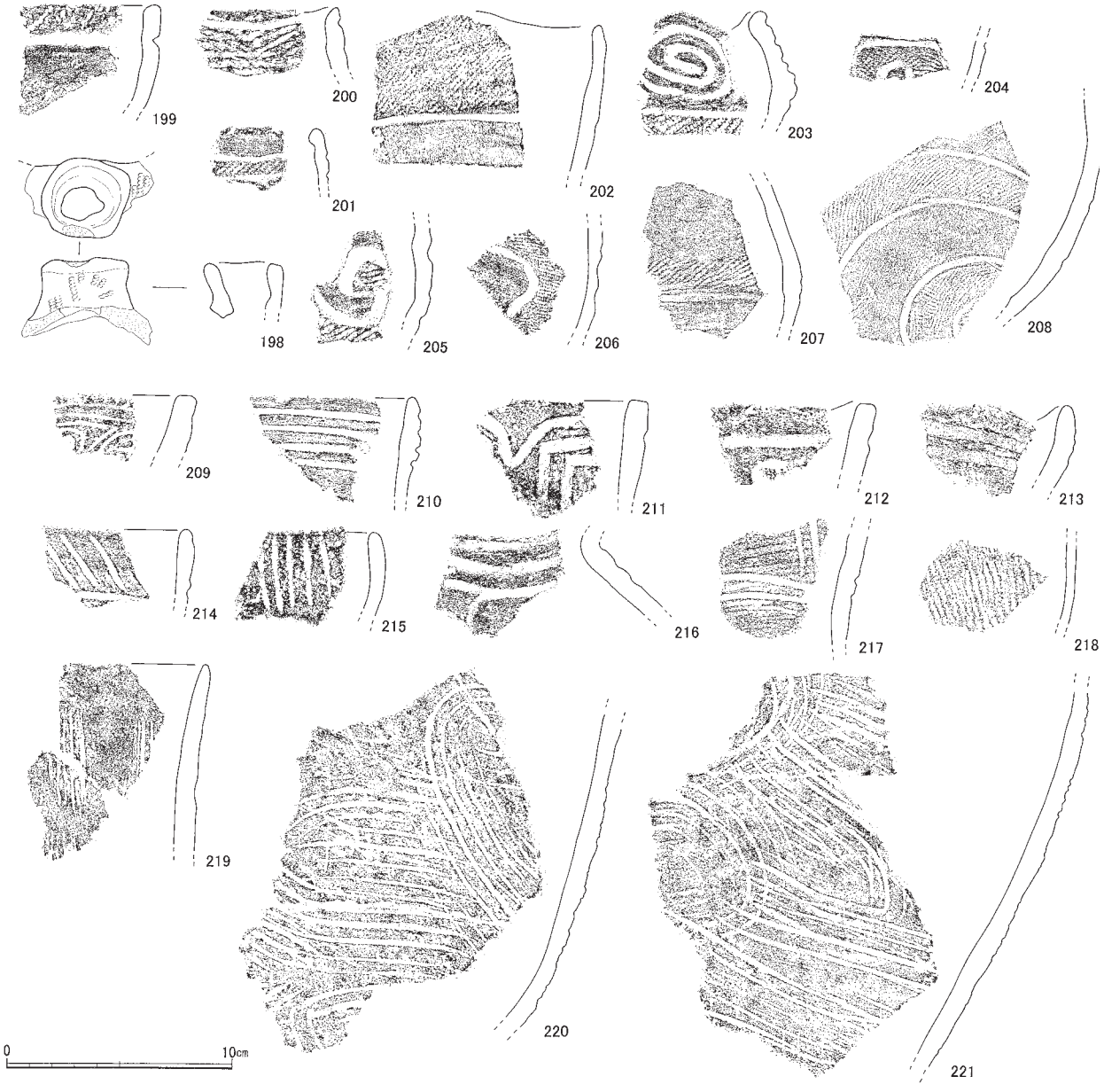
Ｐｉｔ出土遺物（第53・54図 105～158） 出土位置やそれ以外の情報については土器・土製品等観察表を参照願いたい。105･106は半截竹管状工具よる刺突列がみられる縄文土器体部片である。縄文時代前期大歳山式併行[9]のものと考えられる。107は沈線が施されている縄文土器口縁部片、108･109は沈線が施されている縄文土器体部片である。これらは、縄文時代後期後半に属するものであろう。109の土器外面には赤色顔料が施されている。110～115は口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、口縁部から頸部にかけて横位の条痕が施された縄文土器深鉢口縁部片である。116～121は口縁端部に工具による刻みが施され小波状のような形状にみえ、文様といった加飾が施されていない縄文土器口縁部片である。口縁部の傾きはバラエティに富んでいるようである。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。122は口縁部に１条の刻みのある突帯がみられる縄文土器口縁部片である。123～127は口縁部に１条の突帯が施された縄文土器口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものといえよう。128は１条の突帯が施された縄文土器体部片である。129～149は文様等の加飾がなく、口縁部が外反及び外傾する縄文土器深鉢である。140・141は西日本系土器といえなくもない。これらは縄文時代晩期に属するものと考えられる。150～152は口縁部に１条の突帯が施された縄文土器浅鉢口縁部片である。153は口縁部内外面に１条の突帯が施された縄文土器鉢口縁部片である。154は逆



第56図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図2(1:3)

く字状口縁をもつが縄文土器浅鉢であろう。151 ～153は西日本系土器と思われる。これらは縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものであろう。155･156は沈線と縄文の文様構成である縄文土器浅鉢口縁部片である。土器外面に赤色顔料がみられる。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。157は縄文土器深鉢底部である。158は土製品。土偶の一部分である可能性もある。これらは縄文時代晩期に属するものであろう。

包含層出土遺物（第55～69図 159～557、171・204・209・237・262・343・344・357・387・388・399・408・412・458・540・550・554は除く） 159～161は縄文土器深鉢口縁部片である縄文時代前期後半、北白川下層Ⅱc式併行[10]の深鉢口縁部片である。162は縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代中期、船元Ⅰ式併行[11]のキャリパー形口縁部を呈するものである。163･164は縄文施文がみられる縄文土器体部片。165は縄文土器体部片である。外面には半截竹管状工具による文様構成がみられる。これらは、縄文時代中期末葉に属するものであろうか。166～185は縄文土器深鉢。166～170、172～185は口縁部片である。166･168･169は窓枠状文の中に短沈線が施された口縁部片、167は同心円状の沈線による文様がみられる口縁部片、172は２ヶ所上下に配置された盲孔と貫孔が

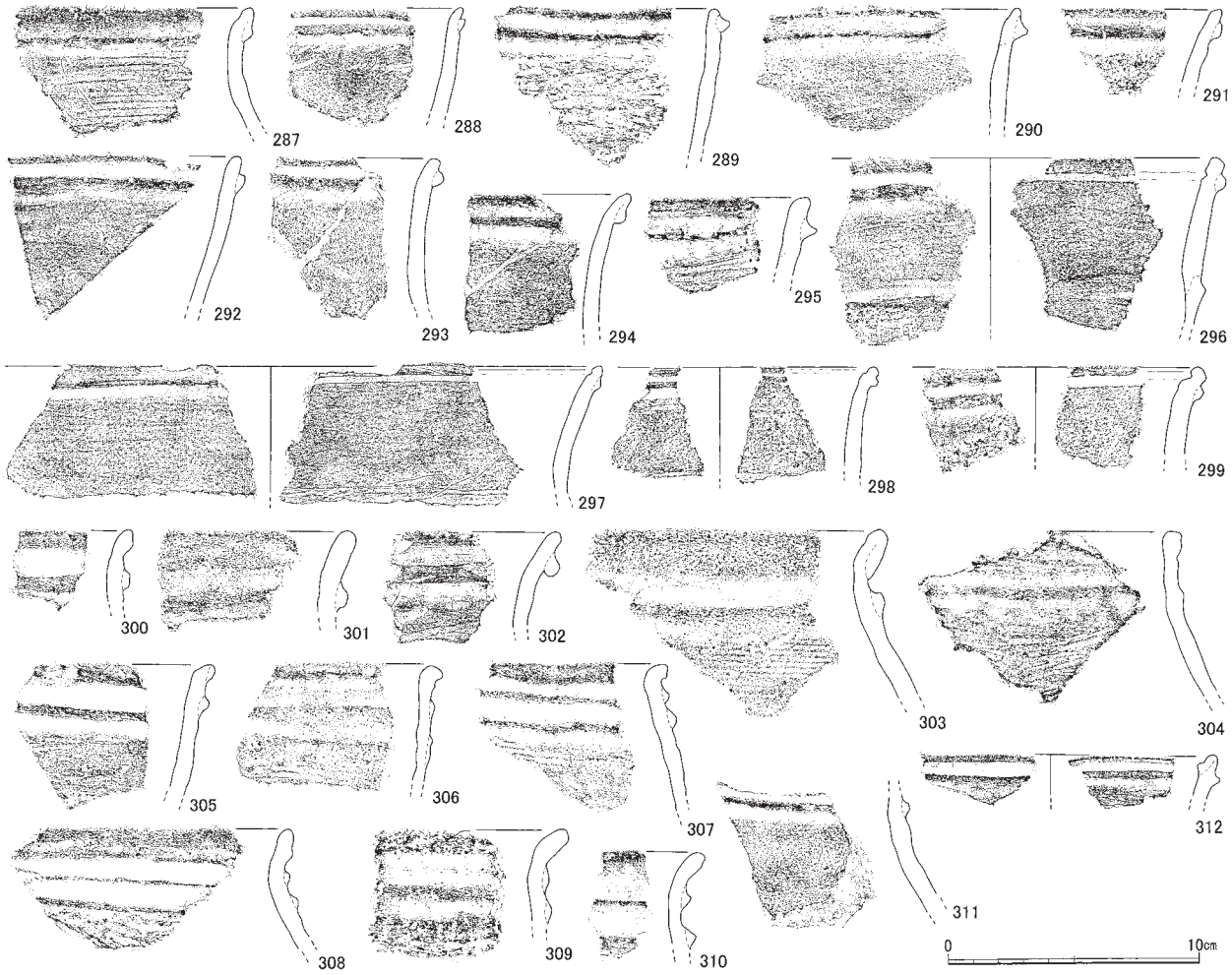


第57図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図3(1:3)

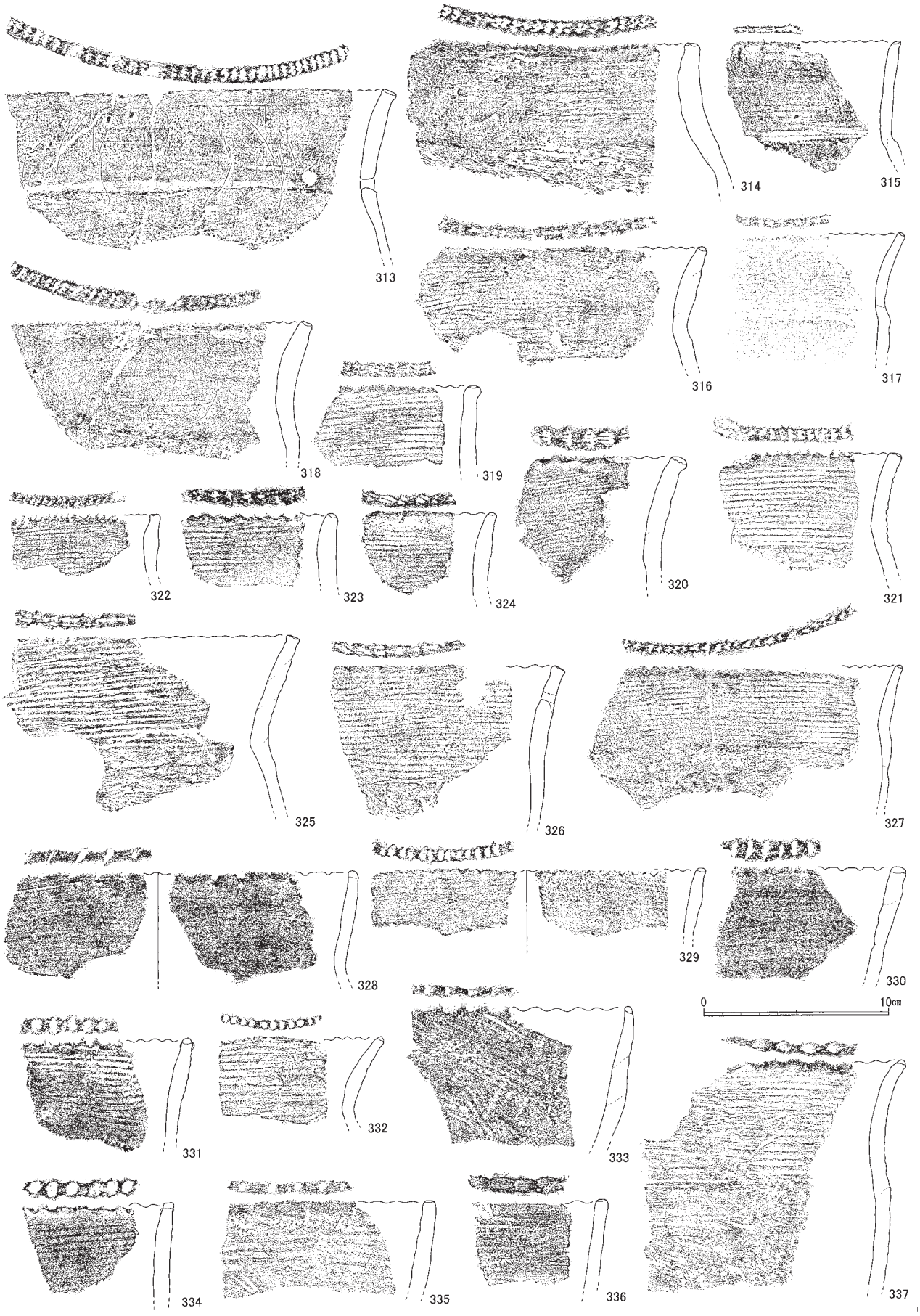
第58図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図4(1:3)　※網点は赤色顔料

第59図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図5(1:3)

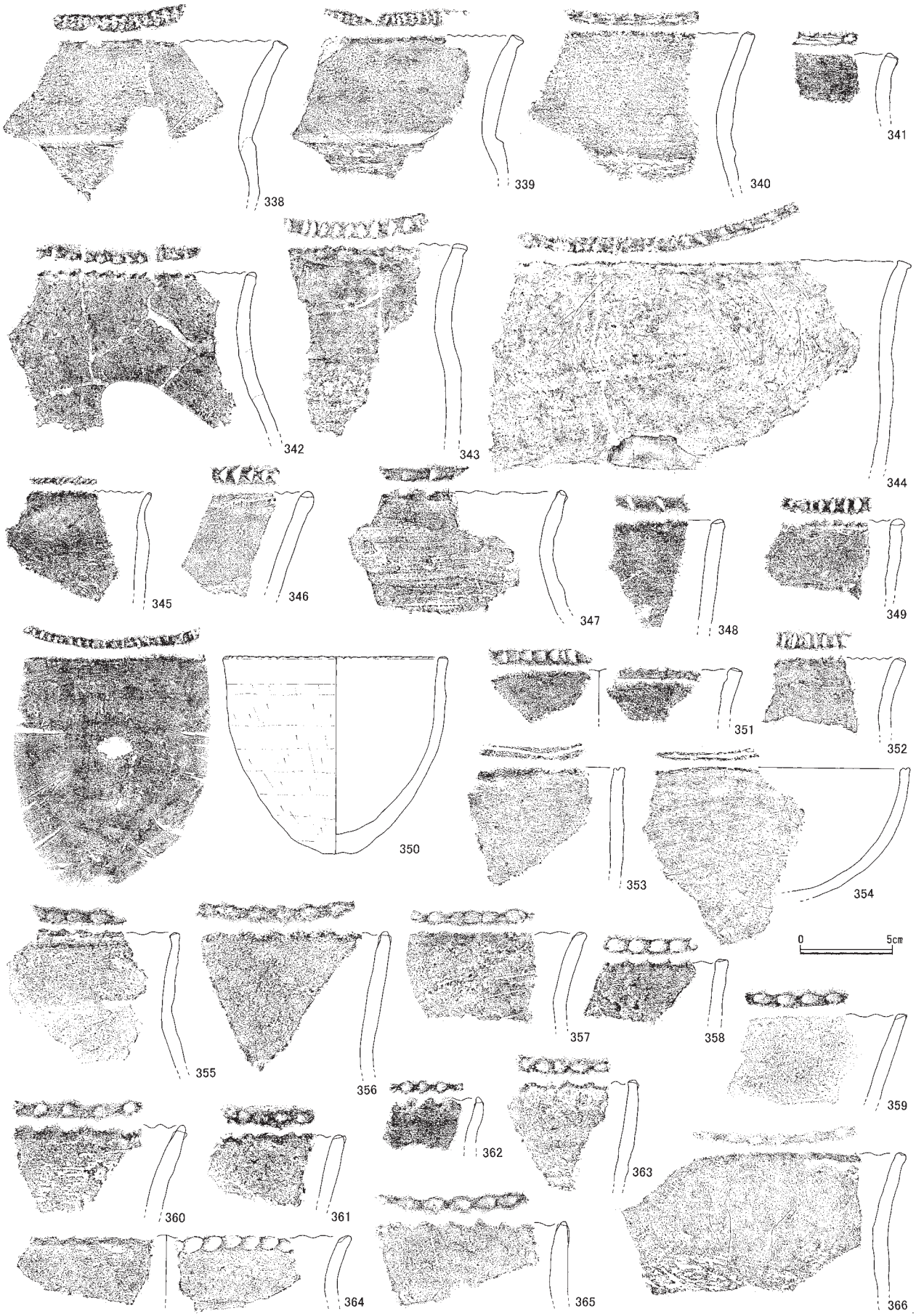
みられる口縁部片、173･174は波頂部に１ヶ所盲孔がみられ沈線による文様構成が確認できる口縁部片、175～185は口縁波頂部が富士山状に延びるものの破片と考えられる。186～197は縄文土器体部片である。186～188･192は隆帯による文様構成がみられるものである。189～191、195～197は沈線による文様構成が主となるものである。193･194は沈線と縄文が施されたものである。これらは、縄文時代中期末葉に属するもので、北白川Ｃ式併行するものと考えられる[12]。198～203は縄文土器深鉢口縁部片である。198は口縁波頂部に延びる筒状突起といえよう。199～203は沈線と縄文による文様が施されたものである。205～207は沈線と縄文による文様が施された縄文土器深鉢体部片である。208は沈線と縄文による文様が施された縄文土器浅鉢体部片である。これらは縄文時代後期初頭中津式[13]の範疇のものと考えられる。210～215は縁帯化した沈線文の文様がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代後期前半、北白川上層式期[14]のものと思われる。216は沈線による文様構成が確認できる縄文土器体部片である。文様や器形から鉢あるいは注口土器である可能性がある。概ね縄文時代後期前半、北白川上層式期に属するものといえよう。217･220･221は沈線文がみられる縄文土器深鉢体部片、218は縄文が全面に見られる縄文土器深鉢体部片、219は一部分に条線の単位が確認できる縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代後期前半、北白川上層式期のものと思われる。222･223は直線的な沈線文がみられる縄文土器鉢口縁部片と思われる。224は複数の条線が施された縄文土器浅鉢口縁部片である。225は直線的な沈線文がみられる縄文土器鉢口縁部片と思われる。226は横位に展開する沈線が複数施された縄文土器浅鉢体部片である。土器外面には赤色顔料が施されている。227は横位の半截竹管文と



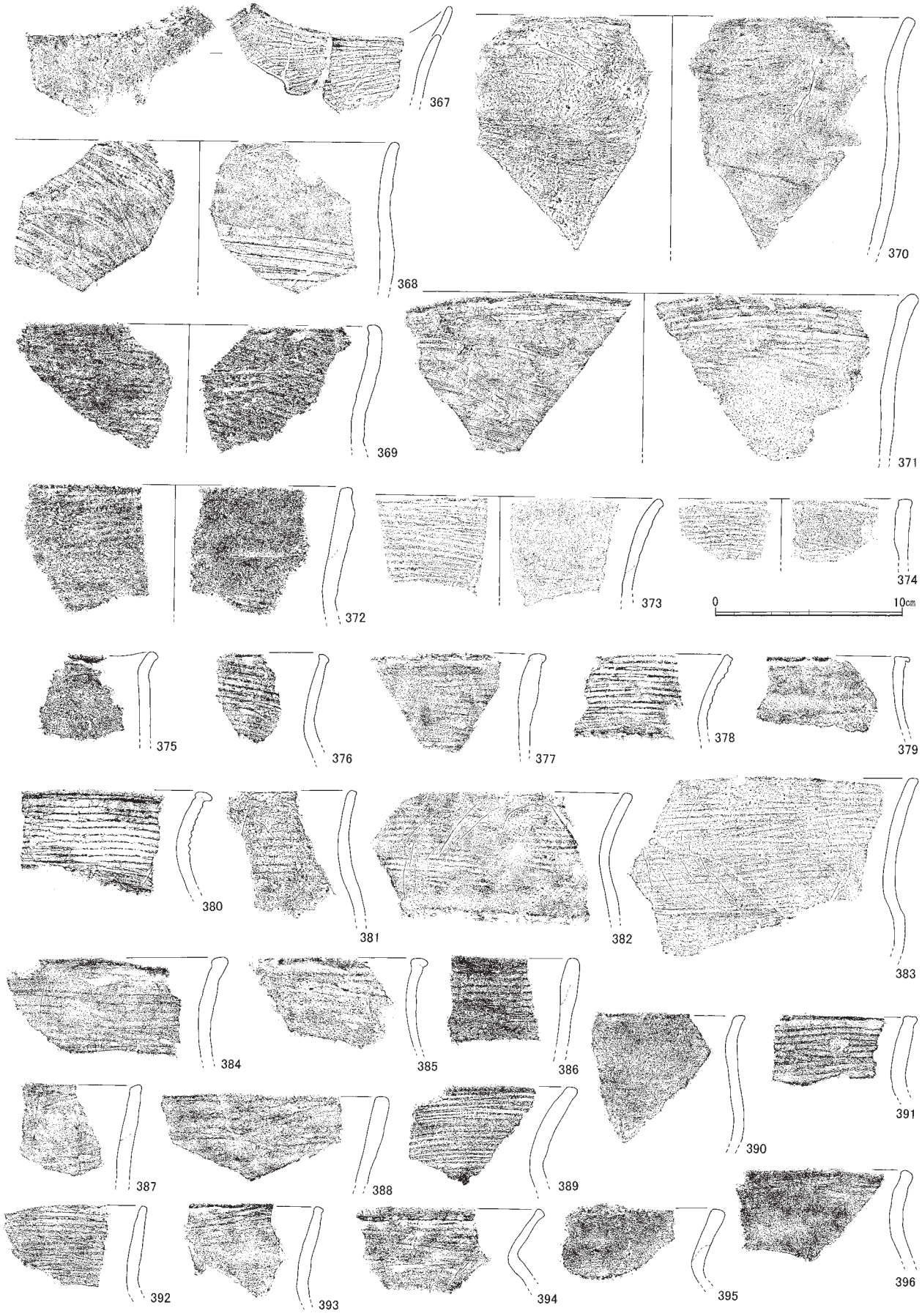
第60図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図6(1:3)



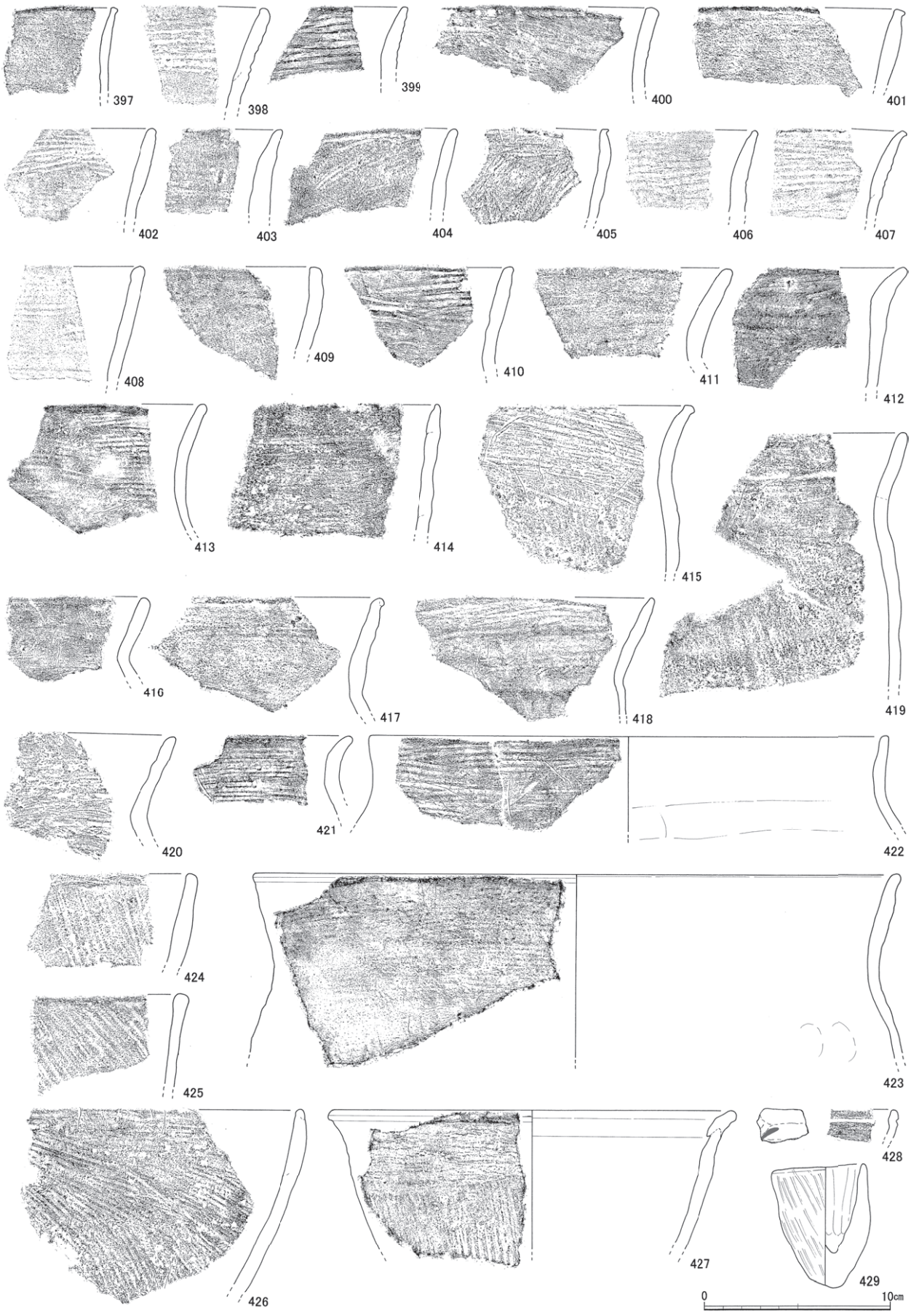
第61図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図7(1:3)



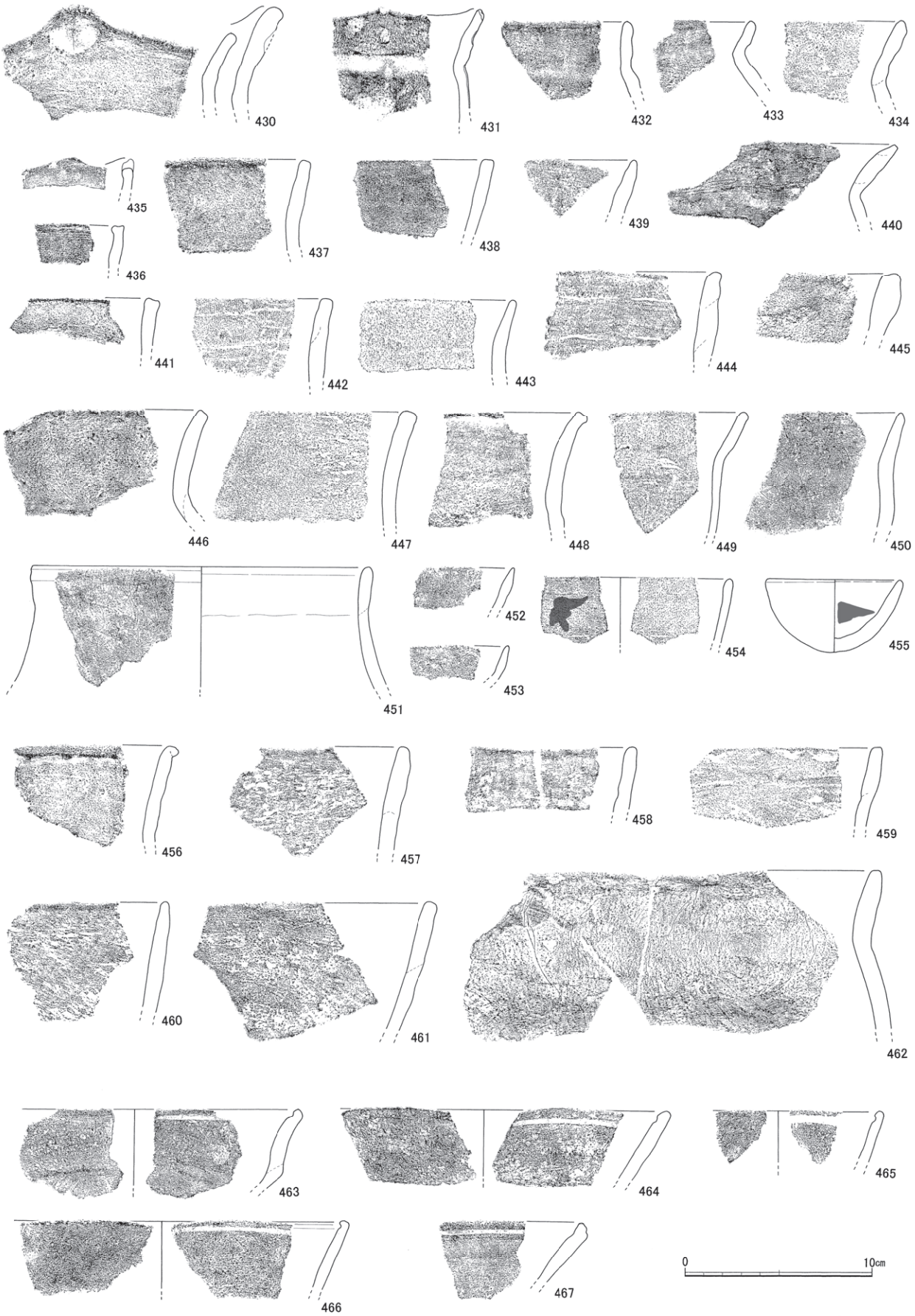
第62図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図8(1:3)



第63図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図9(1:3)

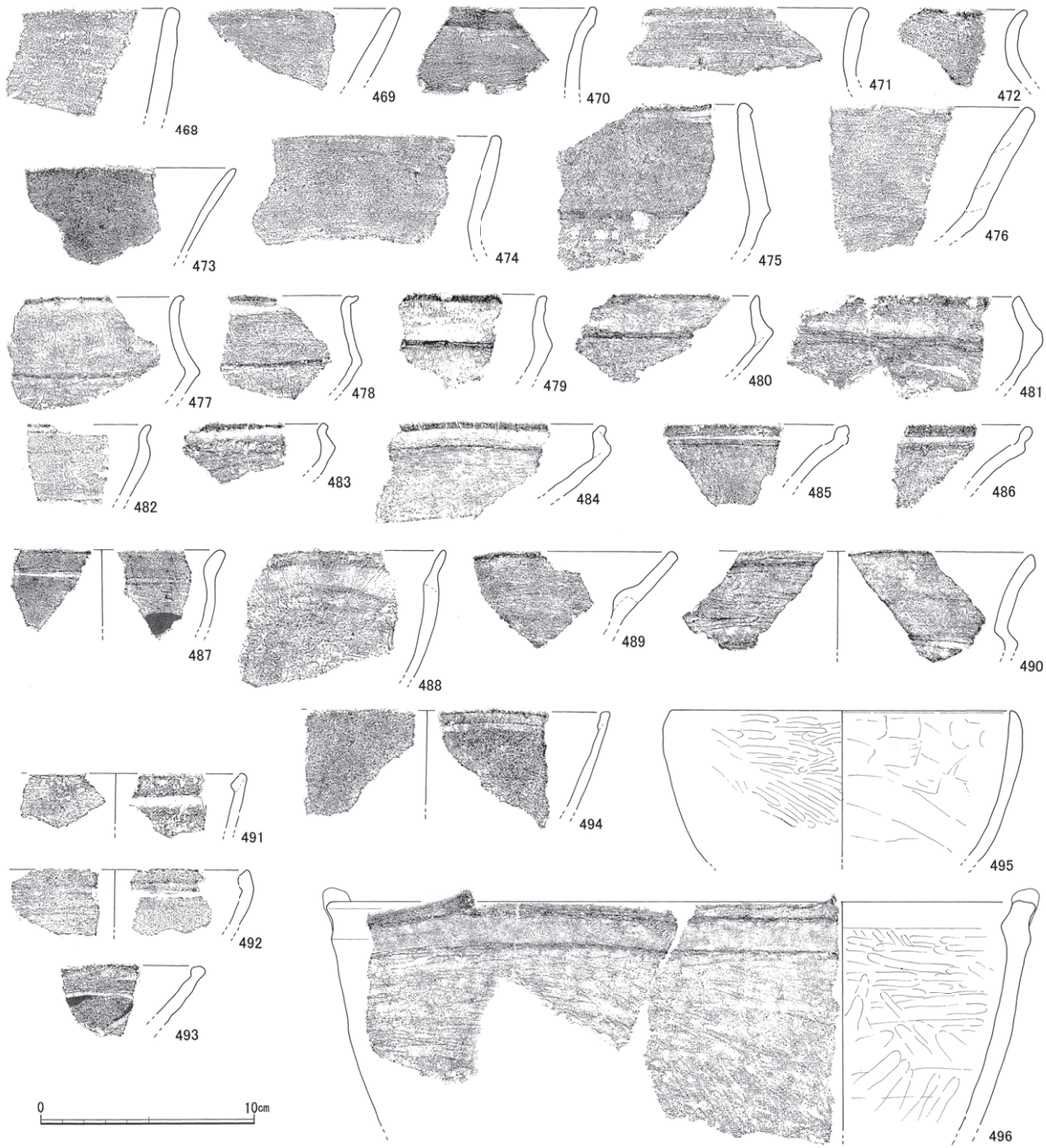


第64図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図10(1:3)　※網点は赤色顔料



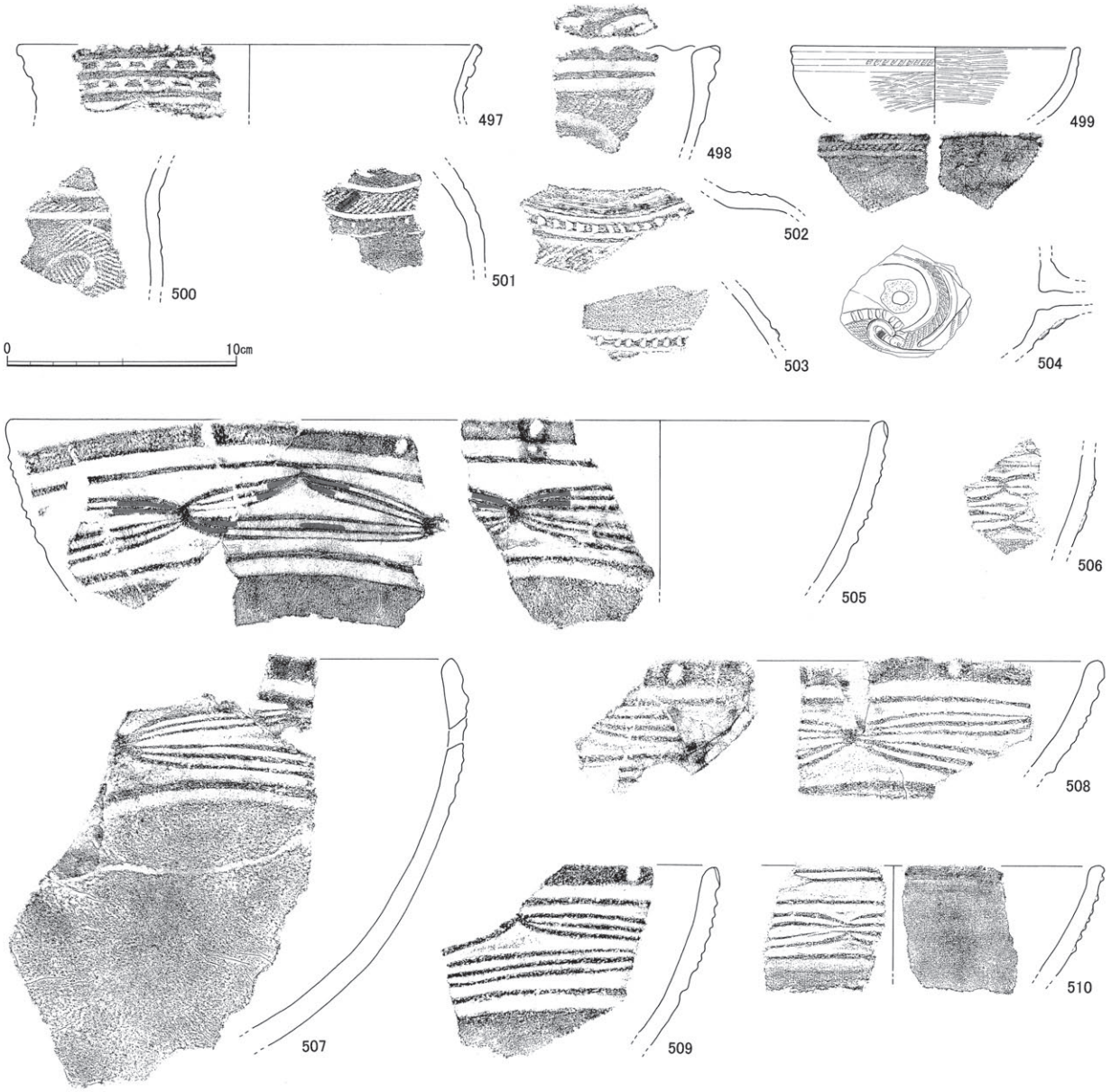
第65図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図11(1:3)　※網点は赤色顔料

沈線が施された縄文土器浅鉢口縁部片である。228～233は横位に展開する半截竹管文と沈線が施された縄文土器浅鉢体部片である。いわゆる橿原文系の土器といえよう[15]。これらは縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものといえよう。234～236、238～250は口縁部には刻みのある突帯が１条巡り、口縁端部にも刻みがみられ、突帯以下の頸部には横位に条痕が施された縄文土器深鉢片である。器形に古い要素を残す。これらは縄文時代晩期、Ⅲ期に属するものと考えられる。251～261、263～277は口縁部には刻みのある突帯が１条巡り、突帯以下の頸部には横位に条痕やナデが施された縄文土器深鉢片である。これらは縄文時代晩期前半、Ⅳ期に属するものと考えられる。278～282は口縁部には幅広の刻みのある突帯が１条巡る、縄文土器深鉢片である。これらは縄文時代晩期、Ⅴ期に属するものと考えられる。283～286は刻みのある突帯がみられる縄文土器深鉢体部片である。これらは縄文時代晩期、Ⅴ期のものと思われ

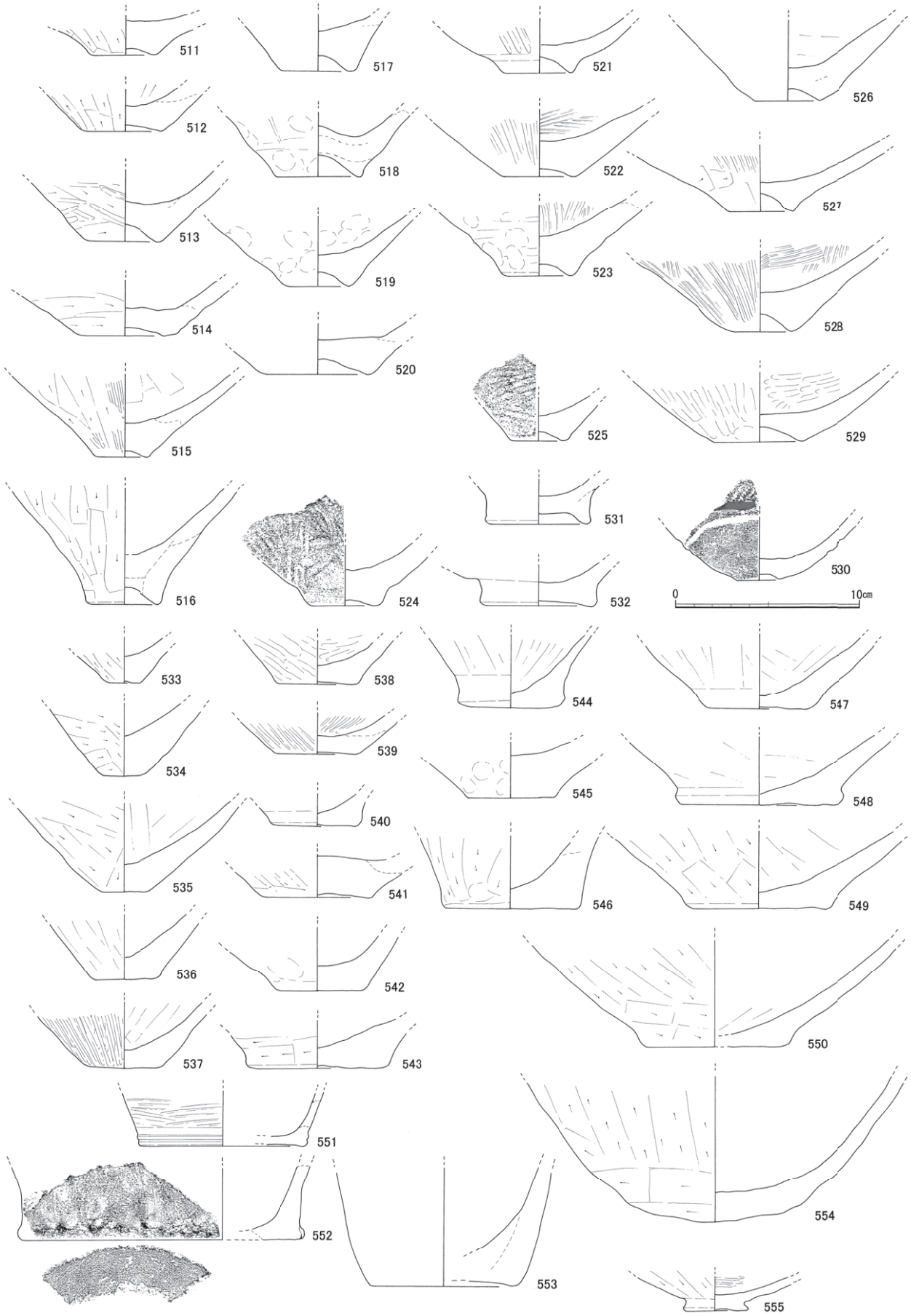


第66図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図12(1:3)　※網点は赤色顔料

る。287は口縁部には素文の突帯が１条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅴ期のものと思われる。288～295は口縁部には素文の突帯が１条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。口縁部から頸部にかけての屈曲のバラエティに富むようである。これらは縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。296～299は外面には素文の突帯が１条巡り、内面には沈線が１条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは縄文時代晩期前半、Ⅳ期に属するものと考えられる。300～310は口縁部あるいは口縁部上端が大きく屈曲し、口縁部には素文の突帯が１条ないし２条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。311は素文の突帯が１条施された縄文土器体部片である。312は外面には素文の突帯が１条巡り、内面には凹線が１条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは縄文時代晩期、Ⅴ期に属するものと考えられる。313～337は縄文土器深鉢口縁部片である。平縁の口縁端部に工具による刻みが施され、小波状にみえる。口縁部が若干外反する。313と326には穿孔がみられ、313･315～317には頸部と体部の境界に沈線と見間違えるような強い屈曲がみられるものもある。縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものと考えられる。338～342、345～356・358～366は縄文土器口縁部片である。平縁の口縁端部に工具による刻みが施され、

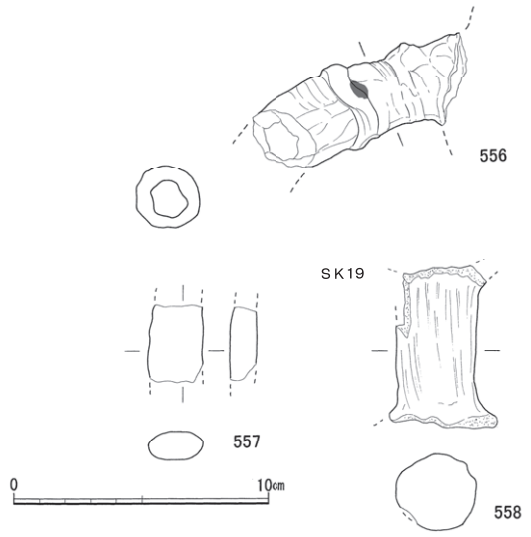


第67図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図13(1:3)　※網点は赤色顔料

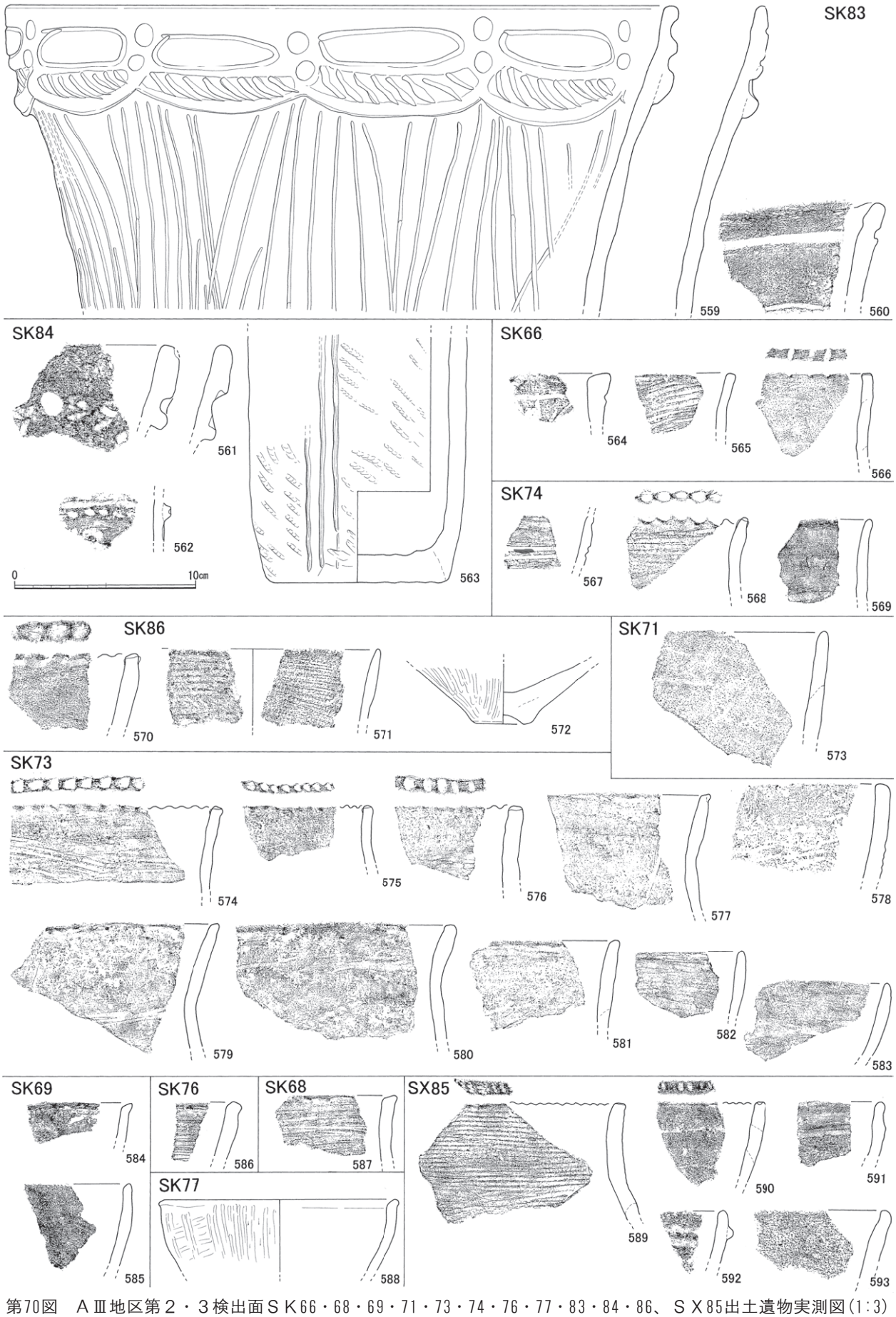


第68図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図14(1:3)　※網点は赤色顔料

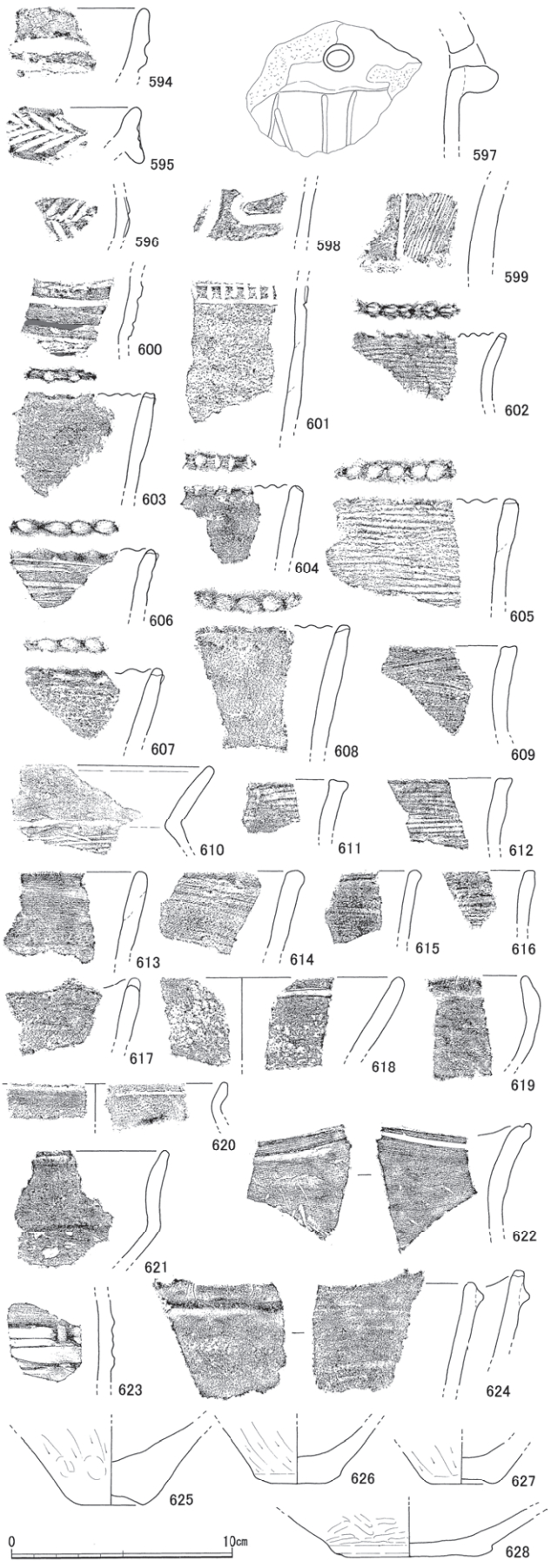
小波状にみえる。外面への加飾はあまりみられないものである。350は鉢、354は浅鉢と思われる。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものと考えられる。367～386、389～396は縄文土器口縁部片である。面取りしたかのような口縁端部や外面には加飾があまりみられない。367は波状口縁の形状となろう。器形としては概ね深鉢となるものがほとんどといえよう。しかし、一部には壺と考えられるものも存在する。ここでは深鉢として報告する。縄文時代晩期、Ⅲ期に属するものと考えられる。397、398、400～407、409～411、413～425は縄文土器深鉢口縁部片。外面には加飾がみられない。口縁端部の断面形状が丸みを帯びるものである。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。426・427は縄文土器浅鉢口縁部片と思われる。外面には条痕がみられる。428・429は呼称に問題はあろうかと思うが、小形土器と呼んでも差し支えないものと思われる。428の土器内面には、赤色顔料が施されている。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。430は波状口縁である。縄文時代後期末ものと思われる。431～457、459 ～462は縄文土器深鉢口縁部片と考えられる。431は波状口縁である。これ以外は平縁のものと思われる。概ね器種については深鉢と考えられるが、一部には器形が壺形である可能性もある。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。454は土器外面に、赤色顔料がみられるものである。455は小形土器の鉢といっても差し支えはなかろう。朱精製に使用された可能性のあるものと思われる[16]。463～467は縄文土器浅鉢口縁部片である。口縁部内面に沈線が１条巡るものである。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。468～474は縄文土器深鉢口縁部片である。口縁部が直線的に外傾するものや曲線状に外反するものが見られる。476は縄文土器浅鉢口縁部片と思われる。口縁部末端に屈曲がみられる。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。477～481は縄文土器浅鉢口縁部片で、口縁部下端でく字状に屈曲する。482～486は縄文土器浅鉢口縁部片で、口縁部上端が外反しその直下から大きく屈曲するものである。487・488は縄文土器深鉢口縁部片で、口縁部先端部分が若干外反するものである。なお487については、土器内面に、赤色顔料が施されている。489は縄文土器浅鉢口縁部片で直線的に大きく外傾し、内面には隆起がみられる。490は口縁部直下で段がつくほどの屈曲がみられる縄文土器浅鉢片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。491～494は口縁端部内面が肥厚し内側に屈折がみられるものである。縄文土器浅鉢片である。493には土器外面に赤色顔料がみられる。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。495は加飾のないボウル状の器形のものである。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。縄文時代後期前半土器群が多く確認された多気町新徳寺遺跡おいても時期が古くはなるもののこのような器形のものを確認している[17]。496は4単位の突起状の隆起がみられる縄文土器浅鉢片である。西日本系土器と思われる。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。497～504は大洞式系土器と考えられる。縄文時代晩期、Ⅴ期のものと思われる。497は口縁端部に刺突、以下横位に展開する羊歯状文帯が見られる。497は深鉢、498～500・501・503は浅鉢、502・504は注口土器であろう。501の土器外面には朱と考えらえるものの付着がみられる。504の土器外面には赤色顔料がみられる。505～510は浮線網状文系土器。氷Ⅰ式土器に併行するもの。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期のものと考えられる。511～539、541～549・551～553・555は底部片を一括した。511～529・532は凹底の範疇のものである。530・531は上



第69図　ＡⅢ地区第１検出面上包含層出土遺物実測図15(1:3)　※網点は赤色顔料



第70図　ＡⅢ地区第２・３検出面ＳＫ66・68・69・71・73・74・76・77・83・84・86、ＳＸ85出土遺物実測図(1:3)



第71図　ＡⅢ地区第２・３検出面Ｐｉｔ出土遺物実測図(1:3)
※網点は赤色顔料

げ底である。530には赤色顔料の付着がみられる。533～539・541～549・551・552は接地面がほぼ平らとなるものである。553は凹底気味のもの。555は接地面がボタン状になるものである。縄文時代晩期のものと思われる。556・557は土製品である。土偶の一部分である可能性がある。556には一部に朱と考えられるものがみられる。縄文時代晩期のものと思われる。

（３）ＡⅢ地区第２・３検出面

ＳＫ83出土遺物（第70図 559・560） 559は窓枠状文により区画された口縁部である。北白川Ｃ式に併行するものであろう。津市大石遺跡に出土例がみられる[18]。560は口縁部下に横位展開する沈線がみられる。縄文時代中期のものと思われる。

ＳＫ84出土遺物（第70図 561～563） 561は窓枠状に区画された文様がみられ、刺突が施されている口縁部片である。562は隆帯上に刺突がみられる体部片、563は縄文と垂下する３条の沈線がみられる底部片である。これらは概ね縄文時代中期のものと考えられる。

ＳＫ66出土遺物（第70図 564～566） 564は口縁部直下に沈線文による文様がみられるものである。565は外面に条痕がみられる。566は口縁端部に刻みが施されている。これらは縄文土器深鉢と考えられ、縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものであろう。

ＳＫ74出土遺物（第70図 567～569） 567は口縁部直下に沈線文による文様がみられる体部片である。568は口縁端部に刻みが施され、外面には条痕がみられる。569は加飾のないものである。これらは縄文土器深鉢である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。

ＳＫ86出土遺物（第70図 570～572） 570は口縁端部に刻みが施され、外面には条痕がみられる。571は内外面に条痕がみられる。これらは縄文土器深鉢と考えられ、縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。572は凹底の底部片である。縄文時代晩期のものと思われる。

ＳＫ71出土遺物（第70図 573） 573は加飾のない無文系土器で、これらは縄文土器深鉢である。概ね縄文時代晩期のものと考えられる。

ＳＫ73出土遺物（第70図 574～583） 574～576は口

縁端部に刻みが、外面には条痕がみられる。577～583は加飾のないものである。これらは縄文土器深鉢で、縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものであろう。

ＳＫ69出土遺物（第70図 584・585） 584・585は加飾のない無文系土器[19]で、これらは縄文土器深鉢である。概ね縄文時代晩期のものと考えられる。

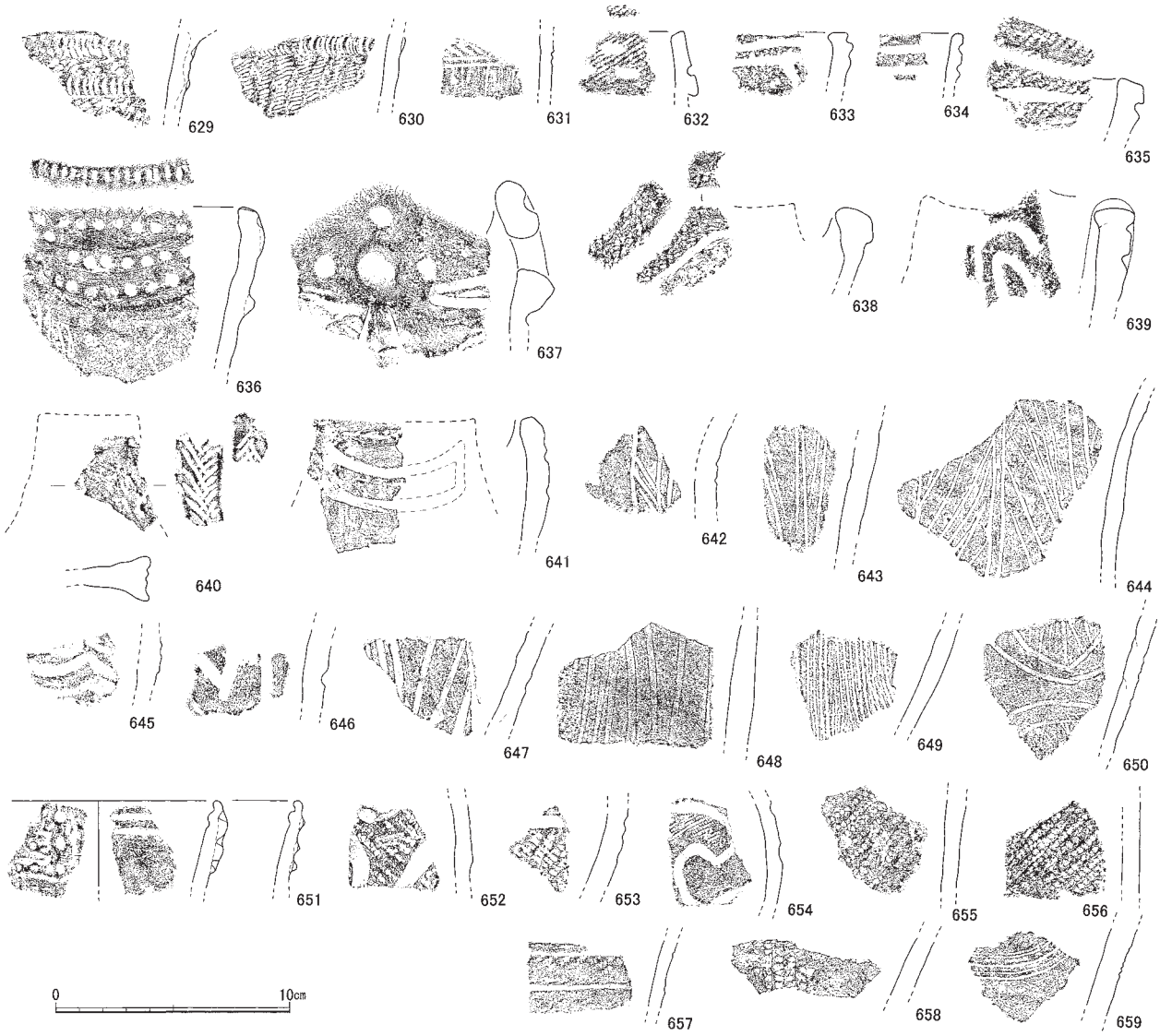
ＳＫ76出土遺物（第70図 586） 586は加飾のない無文系土器で、条痕がみられる。縄文土器深鉢、縄文時代晩期のものと思われる。

ＳＫ68出土遺物（第70図 587） 587は加飾のない無文系土器で、条痕が施されている。縄文土器深鉢、縄文時代晩期のものと考えられる。

ＳＫ77出土遺物（第70図 588） 588は縄文土器浅鉢。椀状である。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものであろう。

ＳＸ85出土遺物（第70図 589～593） 589は口縁端部に刻みが施され、外面には条痕がみられる。590は口縁端部に刻みが施されたものである。591は加飾のないものである。これらは縄文土器深鉢で、概ね縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものであろう。592は低めの突帯がみられるものである。593は加飾のないものである。これらは縄文土器深鉢で、概ね縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものであろう。

Ｐｉｔ出土遺物（第71図 594～628） 594は口縁部下に沈線による文様帯がみられる。595・596は矢羽根状の文様帯が施された口縁部片である。597は沈線による文様がみられる口縁部片である。598は沈線文が施された体部片である。599は沈線により区画しその中に条線が施されている。これらは縄文土器深鉢で、概ね縄文時代中期、北白川C式に併行するもの



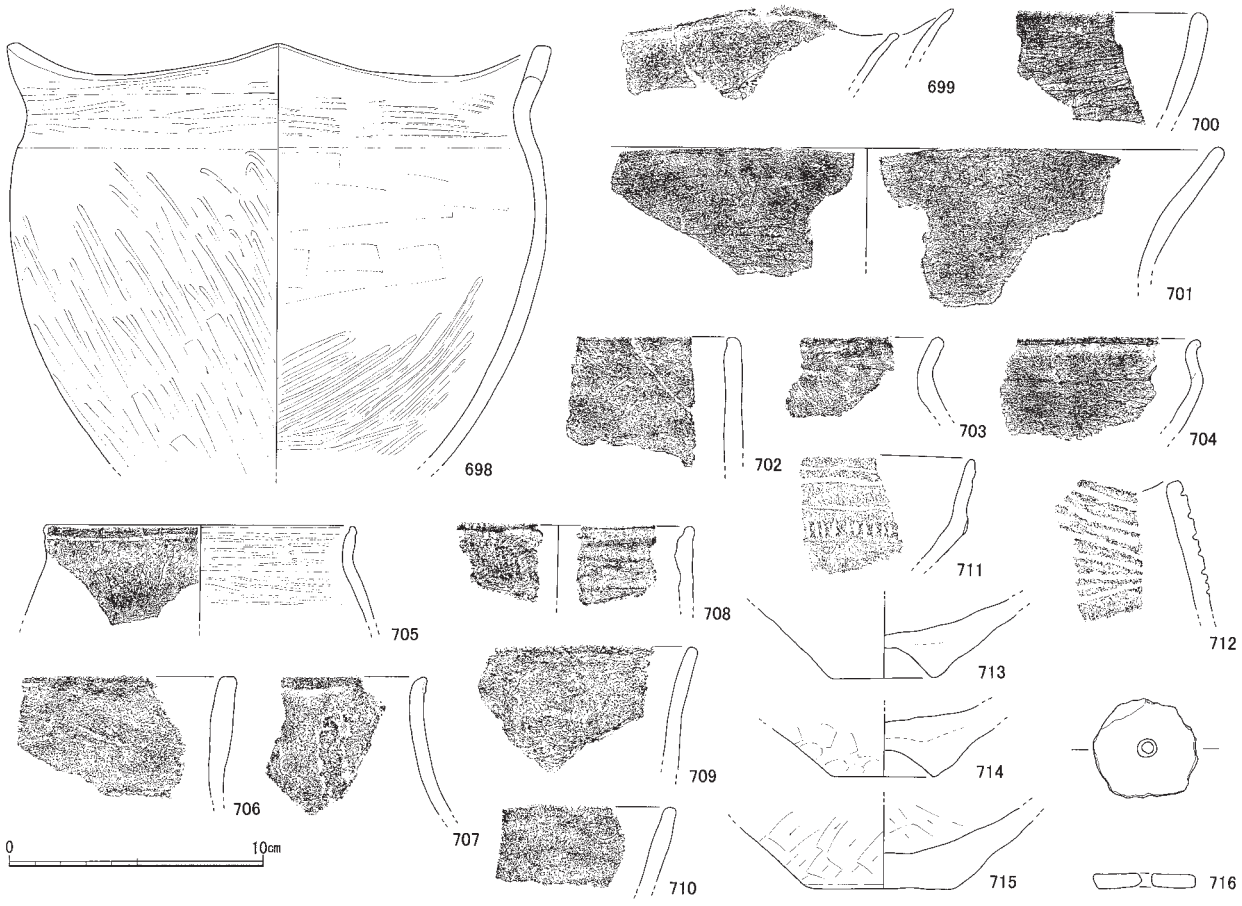
第72図　ＡⅢ地区第２・３検出面上包含層出土遺物実測図1(1:3)

第73図　ＡⅢ地区第２・３検出面上包含層出土遺物実測図2(1:3)

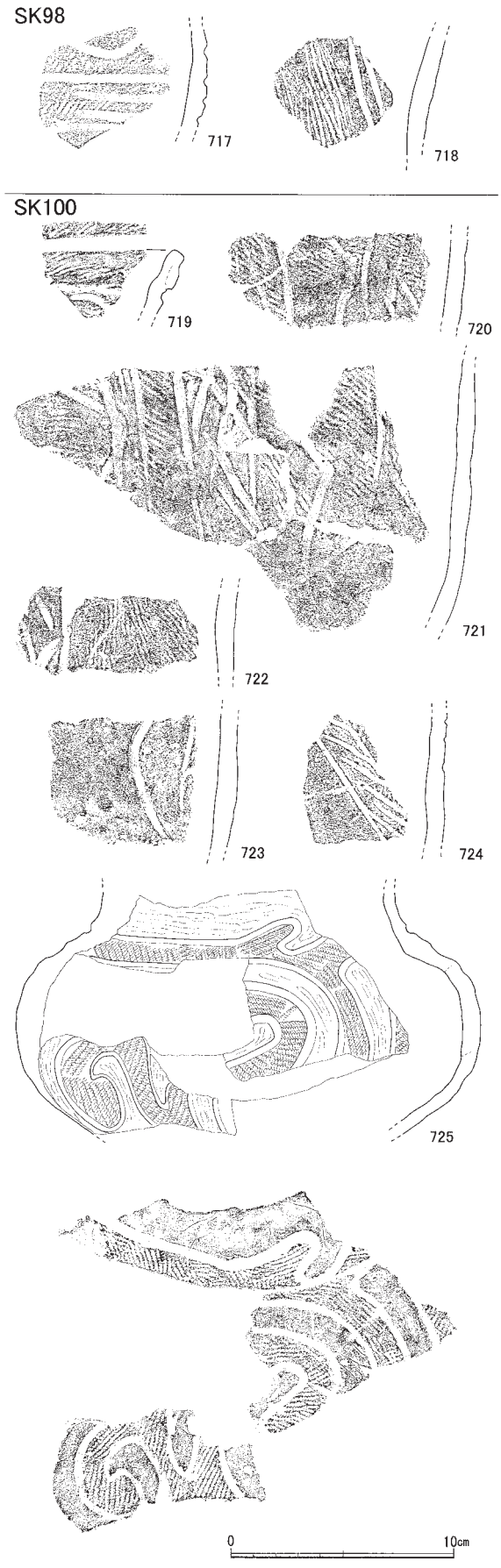
と思われる。600は沈線文が施された深鉢体部片。赤色顔料が内外面にみられる。601は沈線と刻みが施された体部片である。これらは縄文時代後期に属するものであろう。602～608は口縁端部に刻みがみられ、以下に条痕あるいはナデが施される縄文土器深鉢である。縄文時代晩期、Ⅱ期に属するものであろう。609は口縁端部が若干凹む縄文土器深鉢である。610は頸部が屈曲し、以下に条痕がみられる縄文土器深鉢である。611・612は口縁端部が若干凹み、外面には貝殻条痕がみられる縄文土器深鉢。613～616は加飾があまりみられない縄文土器深鉢である。617は小波状となる形状の縄文土器深鉢口縁部片である。618は口縁部内面に１条の凹線がみられる。浅鉢であろうか。619は内弯する口縁部を持つ縄文土器深鉢である。620は肥厚する口縁部が屈曲し、内面には１条の沈線がみられるものである。壺であろうか。621は屈曲する口縁部をもつ縄文土器浅鉢である。622は口縁部の外面に面が見られ、内面に1条の沈線が巡る縄文土器深鉢である。623は浮線網状文系浅鉢と思われる。624は口縁部外面に１条の素文突帯が巡り、口縁端部には小突起が施されている。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。625～628は縄文土器底部片である。628の土器外面には赤色顔料がみられる。

（４）ＡⅢ地区下層第２・３検出面上

包含層出土遺物（第72～74図 629～716） 629・630は縄文に連続する刺突が施されている縄文土器体部片。631は条線地に連続する刺突がみられる縄文土器体部片である。これらは、縄文時代中期、船元式の範疇のものと思われる。632～635は縄文地に刺突あるいは沈線による文様帯が施された縄文土器深鉢口縁部片である。636は口縁端部に刻み、低い隆帯に区画された中に連続する刺突列がみられる縄文土器口縁部片である。637は波頂部下に貫孔と刺突が施され、以下に沈線文による文様がみられる縄文土器口縁部片。638～641は富士山状に口縁部突起が大きく延びるものと考えられる。638は縄文地に沈線が施されている。639～641は沈線文による文様構成であろう。これらは縄文時代中期、北白川Ｃ式に属するものと考えられる。642～644は綾杉状の沈

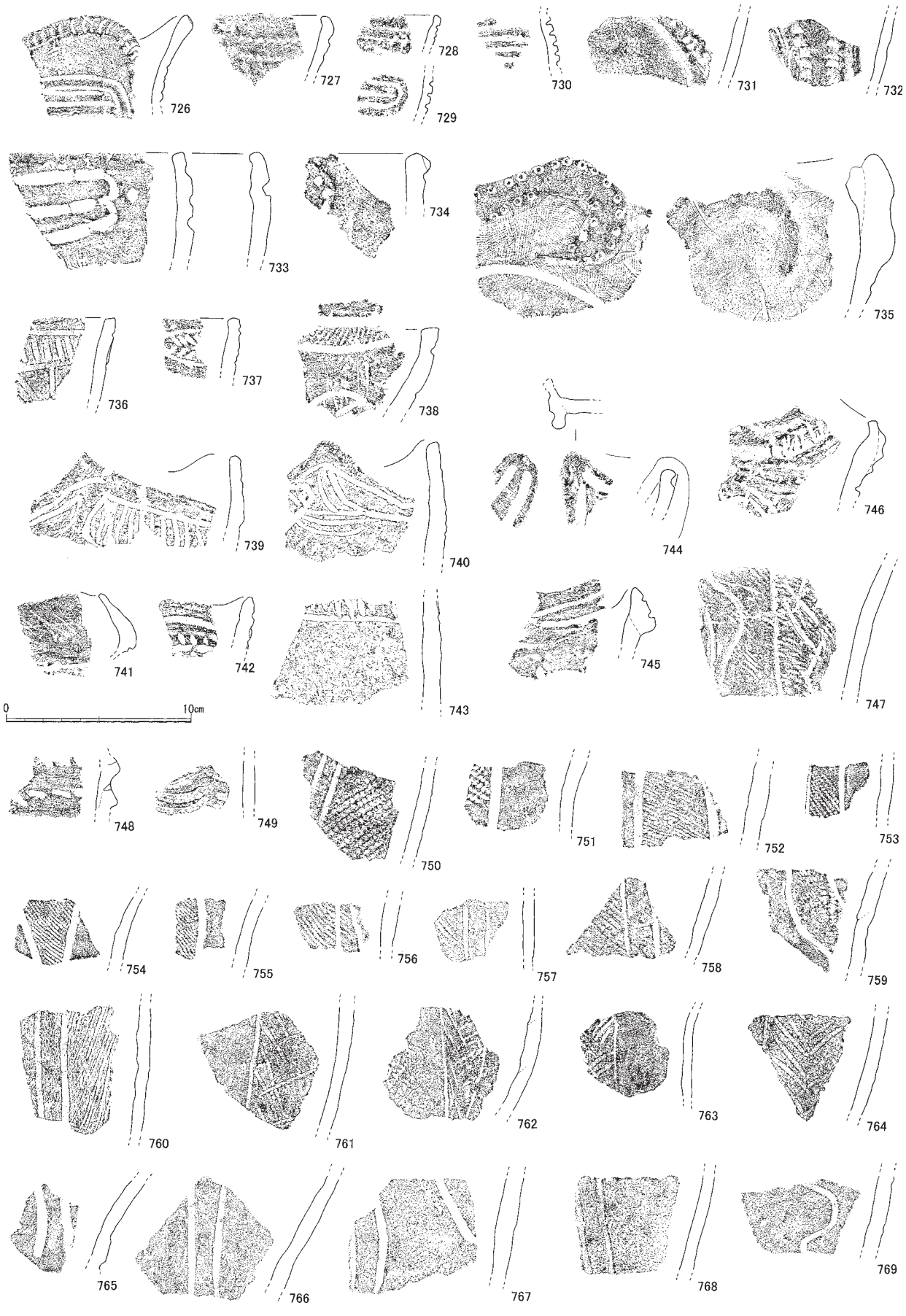


第74図　ＡⅢ地区第２・３検出面上包含層出土遺物実測図3(1:3)



第75図　ＢⅠ地区ＳＫ98・100出土遺物実測図(1:3)

線による文様が施された縄文土器体部片である。これらは縄文時代中期、北白川Ｃ式期のものと思われる。645・646は沈線による幾何学的な文様が施された縄文土器体部片である。647・648は垂下する沈線がみられる縄文土器体部片である。649は垂下する条線がみられる縄文土器体部片である。650は沈線により区画されたものの中に条線が施された縄文土器体部片である。これらは縄文時代中期、北白川Ｃ式期のものと考えられる。651は口縁部内面には2条の凹線がみられ、外面は細い刻まれた隆帯による文様が施された縄文土器深鉢である。縄文時代後期前半、堀之内Ⅱ式[20]に併行するものであろうか。652～654は磨消縄文系の縄文土器体部片と思われる。縄文時代後期､中津式の範疇に属するものといえよう。655・656・658は縄文地土器の体部片である。657は縄文地に沈線が縄文土器体部片であろうか。659は条線がみられる縄文土器体部片である。これは概ね縄文時代後期、北白川上層式期に属するものと考えられる。660～672は口縁端部に刺突が施され、口縁部の形状が小波状にみえる縄文土器深鉢口縁部片である。660～663、667、671、672は土器外面に横位の条痕が施されているもの、665は上縁部内面に1条の沈線が巡るものである。これらは、縄文時代晩期、Ⅱ期と考えられる。673は口縁端部に刻み、１条の刻みのある突帯が巡る。縄文時代晩期、Ⅲ期に属するものと考えられる。674・675・677は１条の刻みのある突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。676・678は貝殻による押圧が施された１条の突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅴ期に属するものと考えられる。679～681は１条の素文突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものであろうか。682～693は加飾のないいわゆる無文系土器である。縄文土器深鉢口縁部片である。682～686、689、690、692、693は外面に横位の条痕が施されているものである。694～696は口縁部内面に1条の沈線が巡るものである。697は波状口縁を呈し、屈曲する頸部下に横位に条痕がみられる。縄文時代晩期のものと考えられる。698は４単位波状の口縁部をもつ縄文土器深鉢である。699は波状口縁を持つ縄文土器深鉢口縁部



第76図　ＢⅠ地区ＳＺ104・106出土遺物実測図1(1:3)

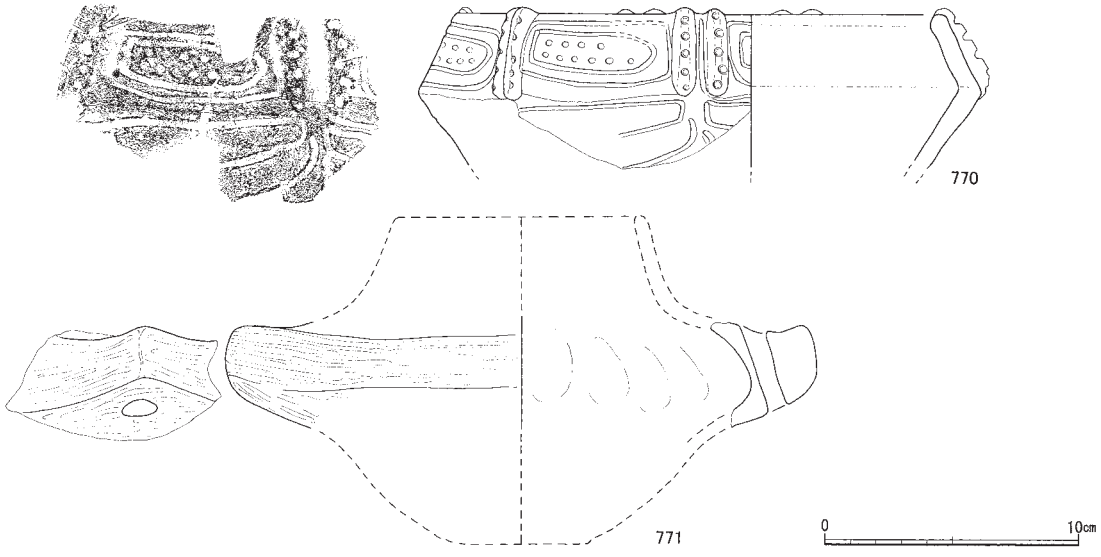
片である。700～702は加飾のない縄文土器深鉢口縁部片である。703・705は加飾がなく頸部が屈曲する縄文土器壺口縁部片である。704は口縁部が内傾する縄文土器浅鉢口縁部片である。706～710は加飾のない縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、西日本系土器の範疇のものであろう。711は口縁部に沈線、屈曲部分に連続する刻みが施されている縄文土器浅鉢である。712は波状口縁の外面に多条の沈線が施された縄文土器浅鉢口縁部片である。これらは、縄文土器晩期、Ⅳ期に属するものであろうか。713～715は縄文土器底部片である。713・714は凹底である。716は穿孔がみられる土器片である。土器片錘である可能性があるもの。

（５）ＢⅠ地区

ＳＫ98出土遺物（第75図 717・718） 717は地文縄文に沈線が施されている縄文土器体部片である。718は沈線と条痕が施されている縄文土器体部片である。縄文時代中期後半に属するものと考えられる。

ＳＫ100出土遺物（第75図 719～725） 719は縄文と沈線が施された縄文土器口縁部片である。720～722は縄文と垂下する沈線に斜行する沈線が施された縄文土器体部片である。723・724は垂下する沈線に斜行する沈線が施された縄文土器体部片である。これらは縄文時代中期後半、北白川Ｃ式の範疇のものと思われる。725は頸部以下に磨消縄文による幾何学的な文様帯が施された縄文土器双耳壺と考えられる。縄文時代後期、中津式期のものと考えられる。

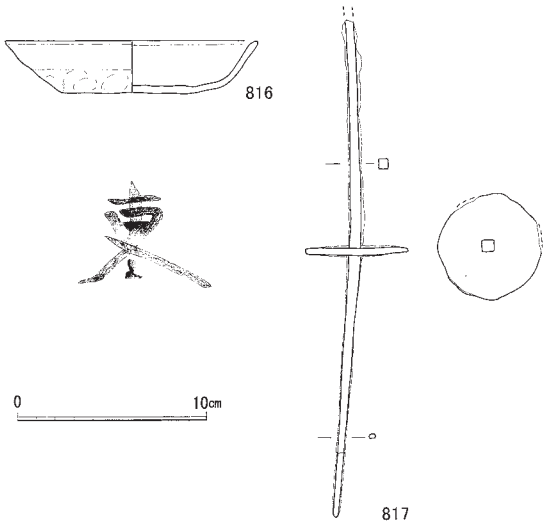
ＳＺ104・106出土遺物（第76～78図 726～815、743を除く、第80図 821、第82図 934） 726～728は口縁端部に連続する刺突、以下に断面カマボコ状となる隆帯による文様帯がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。729・730は断面カマボコ状となる隆帯による文様帯がみられる縄文土器深鉢体部片。731・732は沈線による区画の中に連続する刺突が施された縄文土器深鉢体部片。これらは、縄文時代中期前半、山田平式[21]に併行するものと思われる。733は口縁部下に盲孔、沈線による窓枠状の文様帯がみられる縄文土器口縁部片である。縄文時代中期、北白川Ｃ式に併行するものであろうか。734・735は低い隆帯で区画された内に連続する刺突列が円形に展開する文様帯が施された縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代中期、加曾利Ｅ式[22]の範疇のものであろうか。736・737は沈線による区画が口縁にみられる縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代中期末に属するものと考えられる。738は沈線と縄文による文様帯が確認できる縄文土器口縁部片である。縄文時代中期末のものと思われる。後続する磨消縄文系土器群の萌芽ともとれるものであろうか。739～742は縄文土器口縁部片である。口縁部下に沈線による区画文が施されたものである。743は沈線に区画された文様帯がみられる縄文土器体部片である。これらは、縄文時代中期に属するものであろうか。744～746は沈線による区画等の文様構成がみられる縄文土器口縁部片である。747は縄文と垂下する沈線間に斜行す



第77図　ＢⅠ地区ＳＺ104・106出土遺物実測図2(1:3)

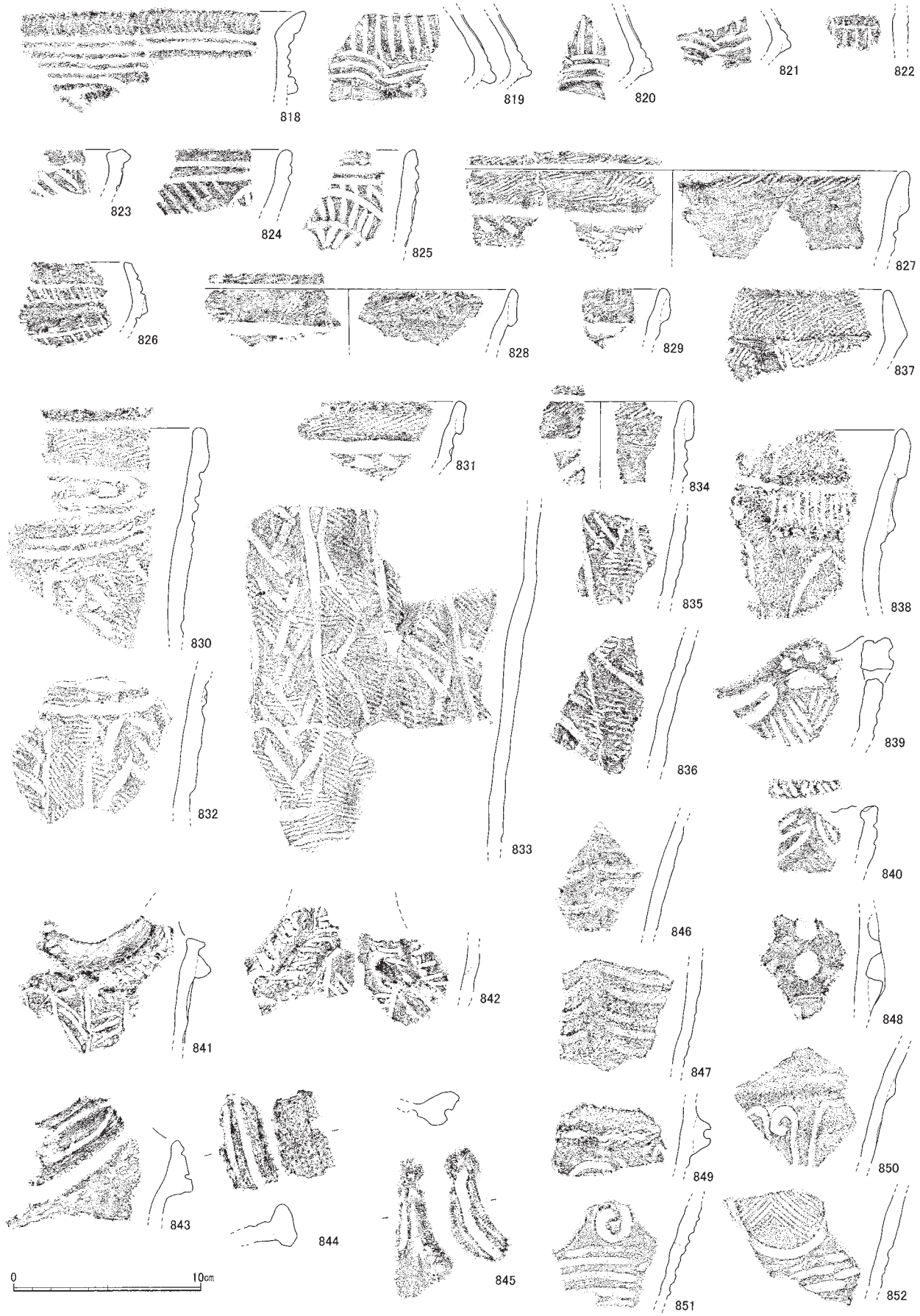
第78図　ＢⅠ地区ＳＺ104・106出土遺物実測図3(1:3)

る沈線が施された縄文土器体部片である。748は縄文土器体部片。隆帯と刺突による文様であろうか。749は多条の曲線的な沈線文が施された縄文土器体部片である。750～759は縄文土器体部片。縄文と垂下する沈線が施されたものである。760は垂下する沈線間に斜行する条線が施された縄文土器体部片である。761～764は垂下する沈線間に斜行する沈線が施された縄文土器体部片である。765～768は縄文土器体部片。垂下する沈線が施されたものである。769は蛇行する沈線が施された縄文土器体部片である。蕨手文の一部分であろうか。これらは縄文時代中期後半、北白川Ｃ式の範疇と考えられる。770は縄文土器口縁部片。屈曲する口縁部に垂下隆帯と沈線による窓枠状文内には刺突列がみられ、以下には沈線による文様帯が施されたものである。771は加飾のない縄文土器双耳壺と考えられる。これらは縄文時代中期末、北白川Ｃ式の範疇のものと思われる。772・773は沈線による文様が施された縄文土器口縁部片である。774～777は沈線文が施された縄文土器体部片。これらは縄文時代中期末から後期初頭にかけてのものと考えられる。778・784・785は縄文土器口縁部片である。磨消縄文の文様帯が施されているものか。縄文時代後期、中津式併行のものと考えられる。779・780～783・786は磨消縄文による文様帯が施された縄文土器口縁部片である。786は口縁部内外面に縄文による文様帯がみられる。いわゆる縁帯文土器の特徴を示している。787～792は磨消縄文による文様帯が施された縄文土器体部片である。これらは、北白川上層式期に属するものと考えられる。793は縄文土器口縁部片である。土器外面に縄文が施されたものであろうか。794は縄文が外面にみられる縄文土器体部片である。795は縄文土器口縁部片である。土器外面に条線が施されたものである。796は条線が施された縄文土器体部片である。これらは無文系土器と呼称できるものである。概ね、北白川上層式期のものと思われる。797は口縁端部が工具の押圧により刻まれ、小波状のような形状となっている縄文土器口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。798は縄文土器口縁部片である。外面には口縁端部に刻みが施され１条の刻目突帯が巡る。内面には１条の沈線が巡る。これらは、縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。799・800は貝殻押圧による連続する刻みのある突帯が口縁部に巡る縄文土器口縁部片である。801・803は１条ないし２条の素文突帯が巡る縄文土器口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと考えられる。802は１条の素文突帯が巡る縄文土器口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅴ期のものと考えられる。804～807は縄文土器体部片。貝殻による押圧で刻まれた突帯がみられる。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期に属するものと考えられる。808は口縁部内面に１条の沈線が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。809は波状口縁を呈する浅鉢口縁部片である。口縁部下の屈曲部に１条の沈線が巡る。810は直線的に外傾する口縁部をもつ縄文土器深鉢片である。加飾はみられない。811は内弯気味の口縁を持つ縄文土器鉢口縁部片である。加飾の見られないものである。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期のものと思われる。812～815は接地面が扁平な縄文土器底部片である。これらは、縄文時代晩期に属するもの。821は縄文土器深鉢体部片で、縄文時代中期前半、子種式に併行するもの[23]。934は土師器甕。奈良時代（８世紀代）のものと思われる。

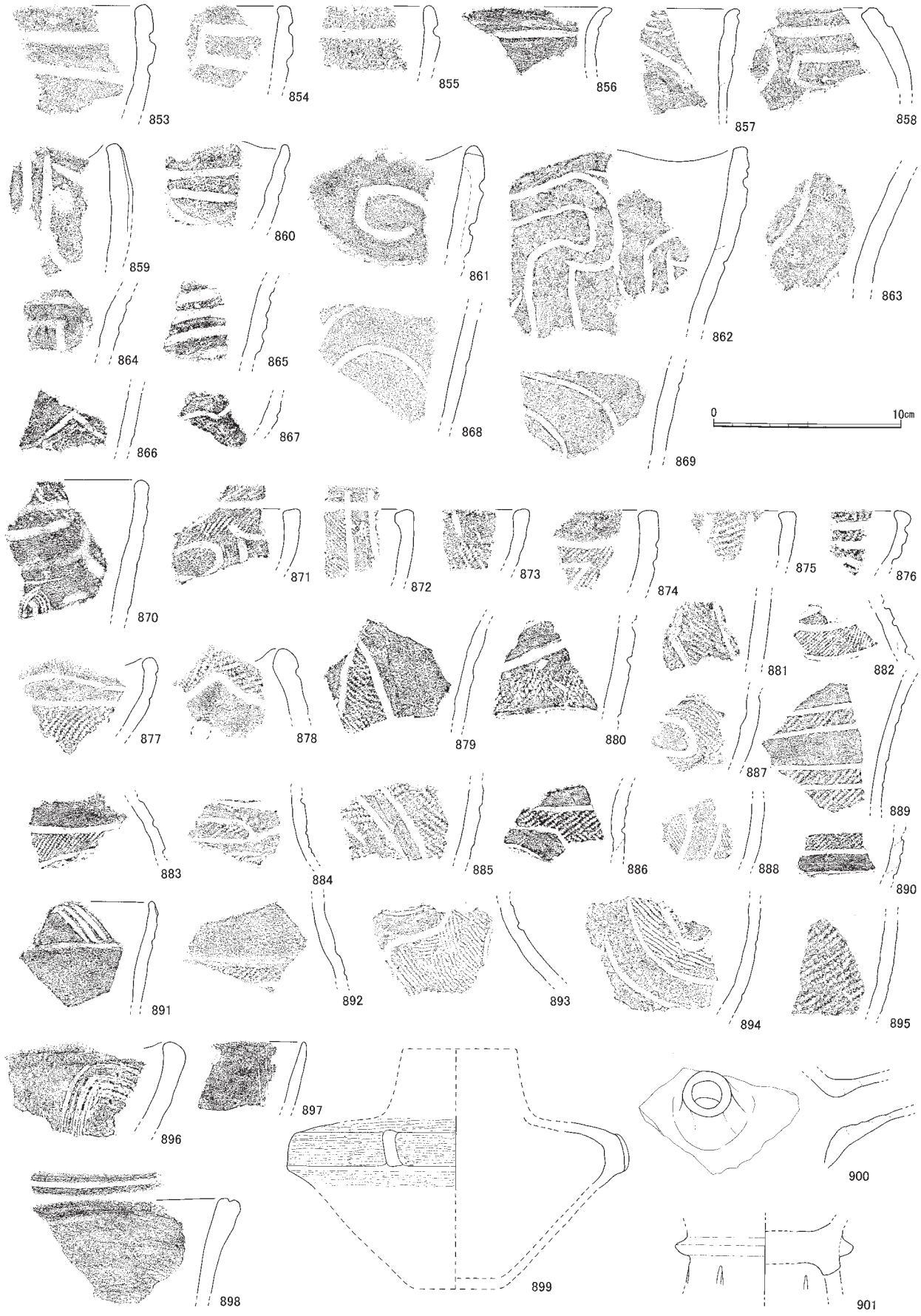


第79図　ＢⅠ地区ＳＫ105出土遺物実測図(1:4)

ＳＫ105出土遺物（第79図 816・817） 816は土師器杯である。底部外面に「東」の墨書がみられる。平安時代、斎宮Ⅱ期第３段階（10世紀代）に属するものと考えられる。817は鉄製紡錘車である。一部に木質が残存している。

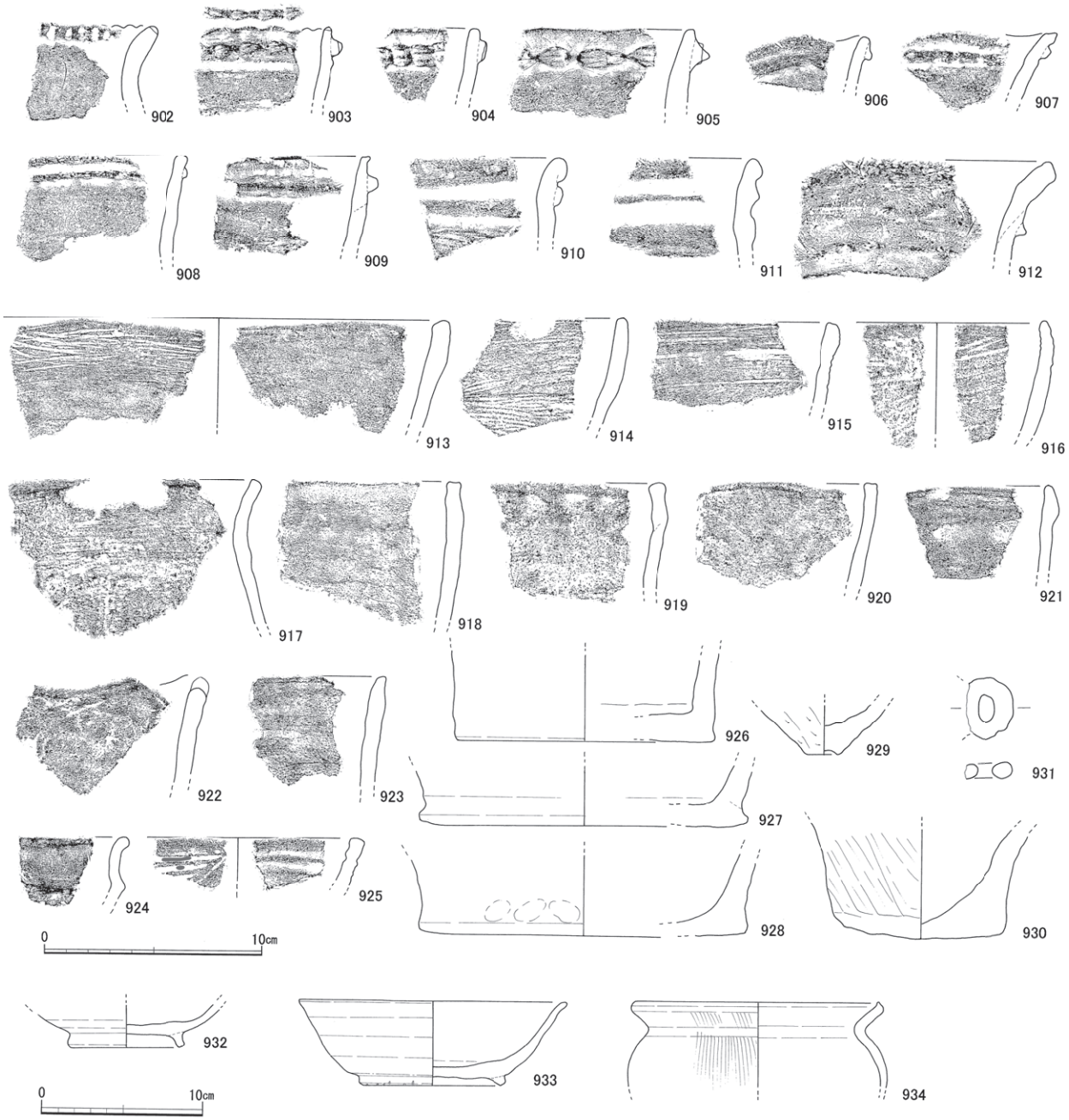


第80図　ＢⅠ地区包含層出土遺物実測図1(1:3)

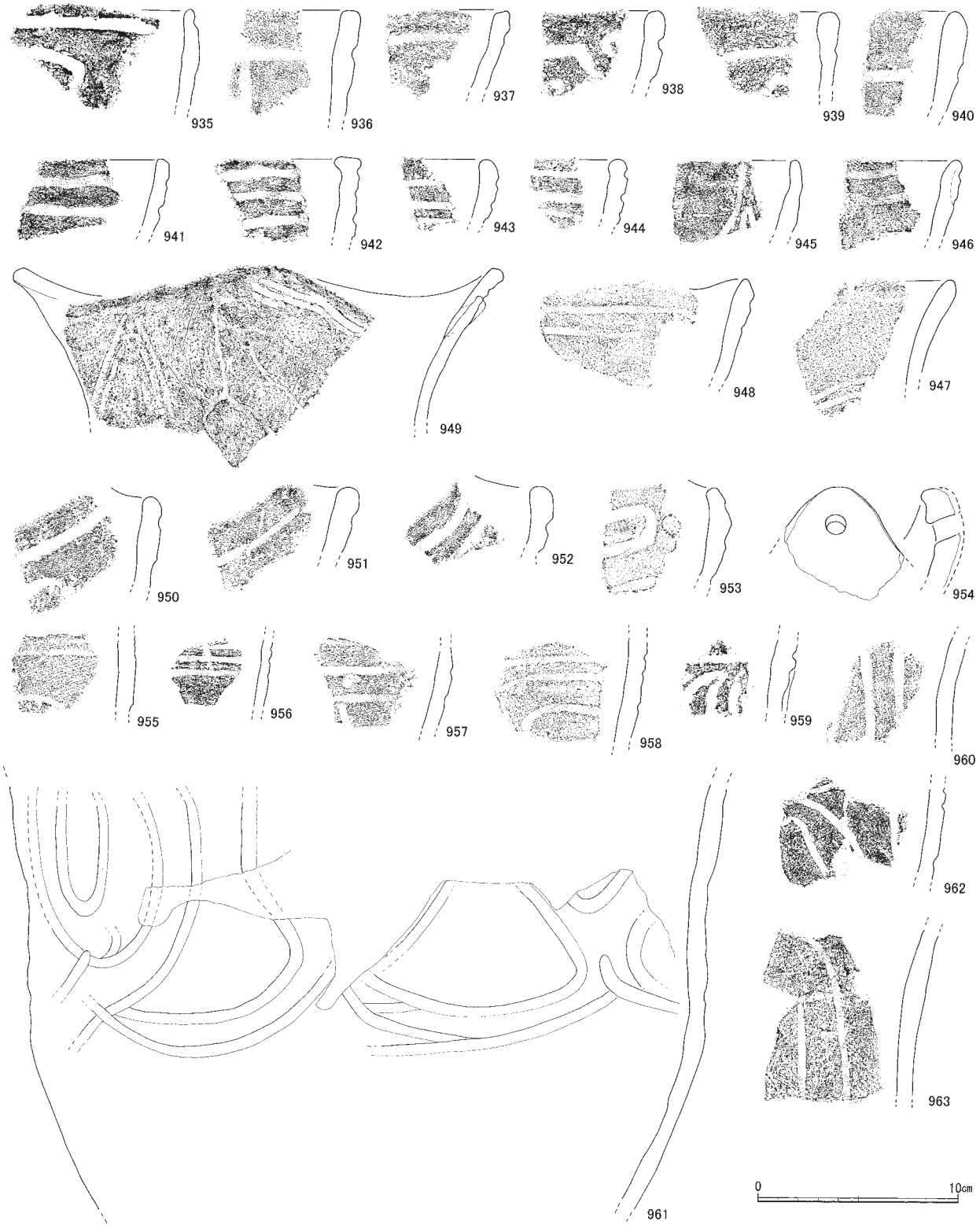


第81図　ＢⅠ地区包含層出土遺物実測図2(1:3)

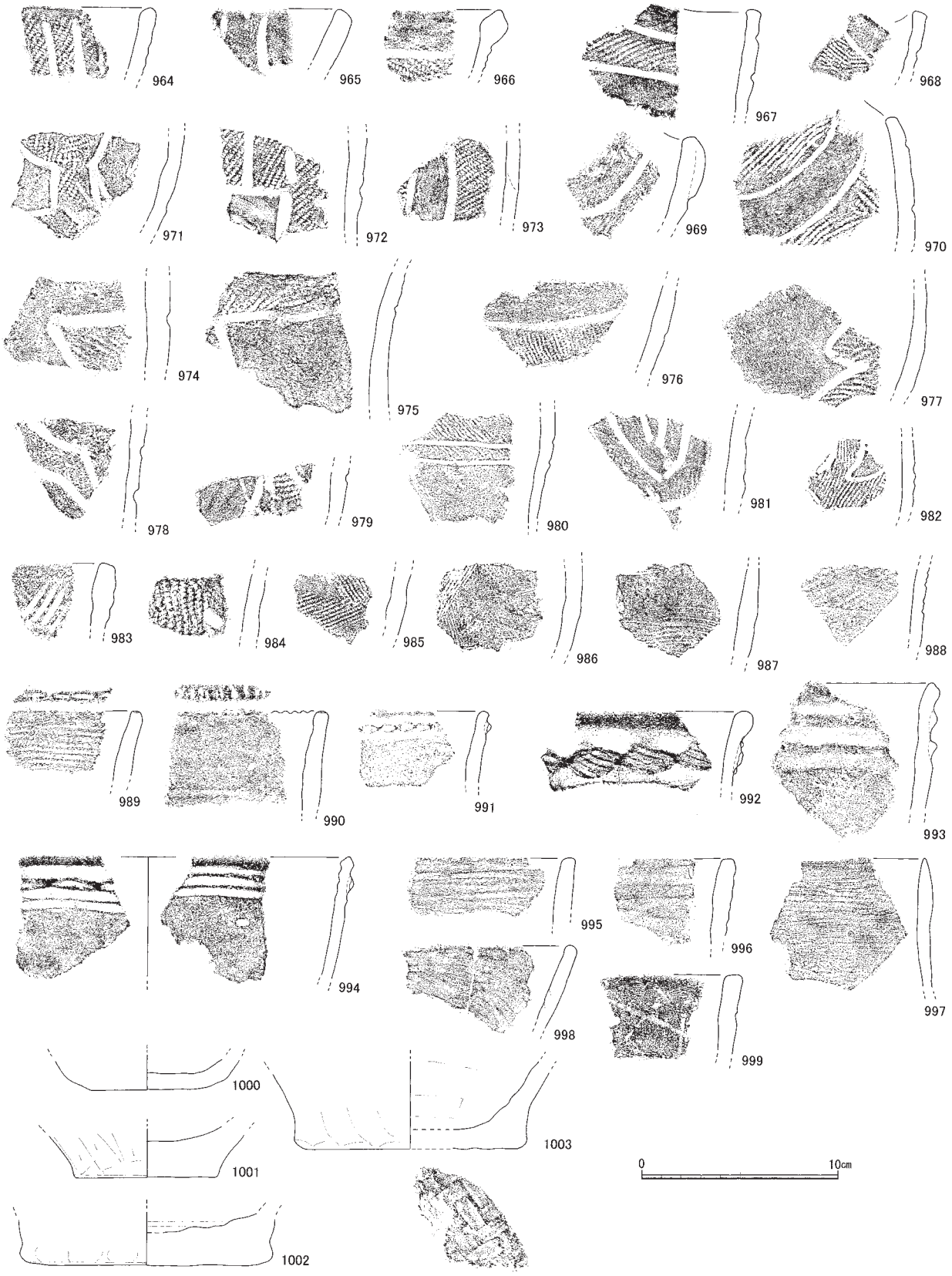
Pit・包含層出土遺物（第76・80～82図 743・818～820、822～933） 818は口縁端部に連続する刺突、以下に断面カマボコ状の隆帯による文様帯がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代中期前半、山田平式に併行するものと思われる。いわゆる東海系土器[29]と呼称されているもの。819・820・822は屈曲する頸部付近に垂下及び波状の沈線による文様帯が確認できる縄文土器深鉢体部片。これらは、縄文時代中期前半、子種式に併行するものと思われる。いわゆる東海系土器と呼称されているものである。823～825は縄文土器深鉢口縁部片である。沈線による幾何学的な文様帯が施されている。これらは、縄文時代中期後半、北白川C式に併行するものと思われる。826は内弯する口縁部に沈線による区画と条線がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。827～829は肥厚する口縁部に細かい縄文が施され、以下に沈線及び刺突の文様が施されたものである。これらは、縄文時代中期後半、北白川C式に併行するものと思われる。830・831・834は、肥厚する口縁に縄文が端部に至るまで施され、以下には沈線による



第82図　ＢⅠ地区包含層出土遺物実測図3(902～931は1:3、932～934は1:4)



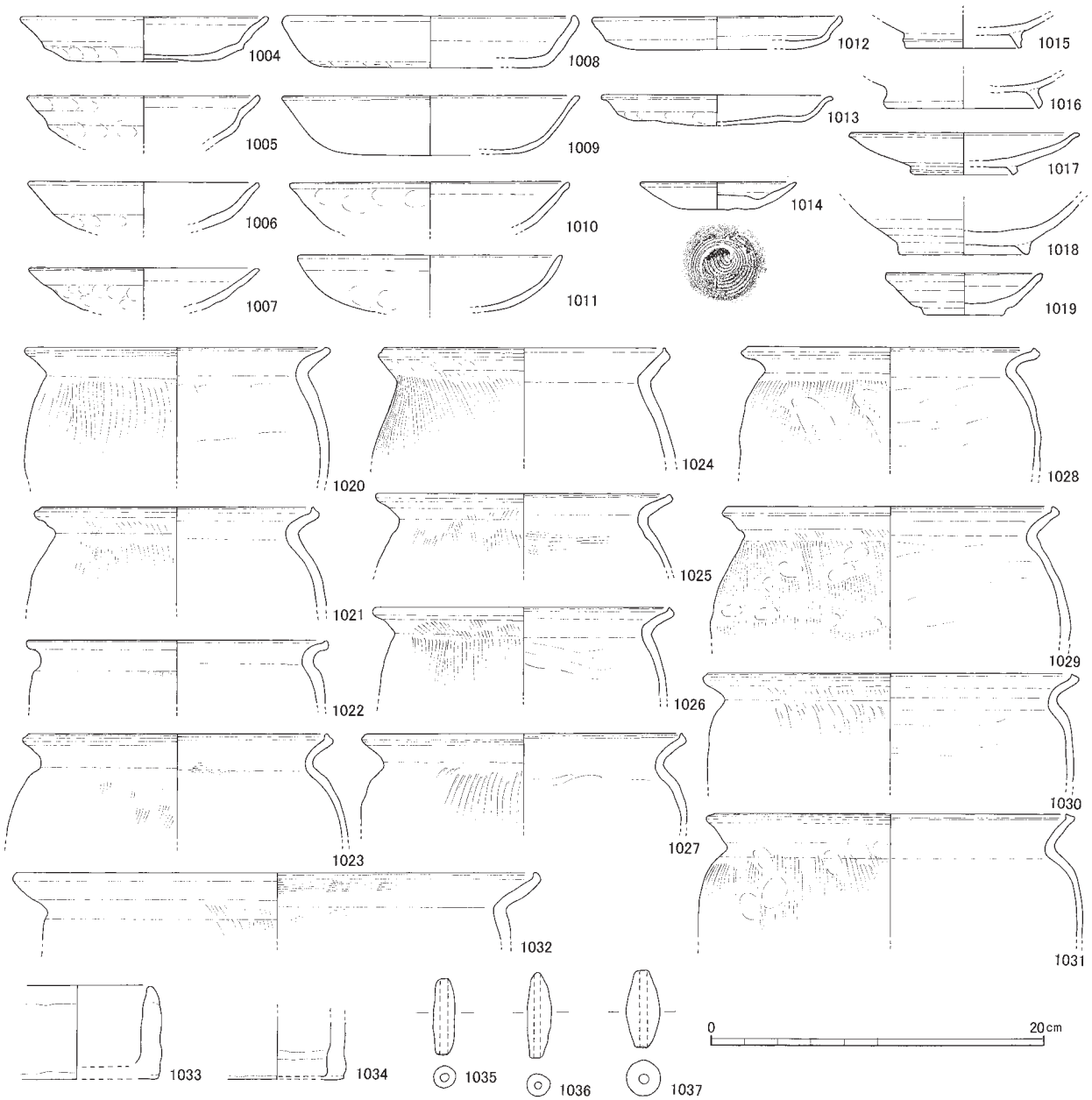
第83図　ＢⅡ地区出土遺物実測図1(1:3)



第84図　ＢⅡ地区出土遺物実測図2(1:3)

長楕円状の区画内には横位の刺突列がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。832・833・835・836は縄文土器深鉢体部片。垂下する沈線間には綾杉状に沈線が配されている。830～836は同一固体の可能性があるが、ここでは破片ごとに報告する。838は低い隆帯による窓枠状文内に条線が施された縄文土器口縁部片である。839は波頂部に貫孔、それを囲う刺突が3箇所、沈線による窓枠状文と斜行する沈線文が施された縄文土器口縁部片である。840は縄文土器深鉢口縁部片である。口縁端部に刻みが施され、以下沈線による文様構成であろうか。841は隆帯上に連続する沈線文が施された縄文土器深鉢口縁部片である。842は841と同様の文様帯であろうか。843・844・845は縄文土器深鉢口縁部片である。肥厚する部分に沈線による文様が施されている。846・847は工具による浅めの押圧が波状に施された縄文土器体部片である。848は縦位の刺突列がみられる縄文土器深鉢体部片である。849・850は隆帯と沈線による文様が施された縄文土器深鉢体部片である。851は沈線文による文様がみられる縄文土器深鉢体部片である。852は沈線による区画内に、綾杉状の条線、以下連続する途切れた短沈線が横位に展開する縄文土器深鉢体部片である。これらは、縄文時代中期末、北白川Ｃ式に比定できるものと思われる。853～855は縄文土器深鉢口縁部片である。平縁の口縁部に沈線による直線的な文様が施されている。858は内弯する口縁部に沈線による幾何学的な文様が施されている縄文土器深鉢口縁部片である。859・860は縄文土器深鉢口縁部片である。波状の口縁部に沈線による直線的な文様が施されている。861・862は波状の口縁部に沈線による渦巻状文がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。863～869は沈線による幾何学的な文様が施された縄文土器深鉢体部片である。これらは縄文時代後期初頭、中津式併行のものと考えられる。856・857は沈線による文様がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代後期前半、北白川上層式の範疇のものと思われる。870・871は縄文土器深鉢口縁部片である。沈線と縄文による文様構成である磨消縄文系土器と考えられる。これは縄文時代後期初頭、中津式の範疇であろう。872～878は縄文土器深鉢口縁部片。872は口縁端部から２条の垂下する沈線と縄文がみられる。873は短沈線と縄文が施されている。874・875は沈線と縄文による文様帯が施されたもの。876は地文縄文が見られる口縁部に３条の沈線が横位に展開している。877・878は口縁部に平行する沈線と縄文の文様帯が施されたものである。これらは概ね縄文時代後期前半、北白川上層式に属するものと考えられる。879～890は沈線と縄文による磨消縄文に文様帯が見られる縄文土器深鉢体部片である。これらは概ね縄文時代後期前半、北白川上層式に属するものと考えられる。891は口縁部に沈線による文様帯の集約がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。これらは概ね縄文時代後期前半、北白川上層式のものと思われる。892～895は縄文土器深鉢体部片である。磨消縄文の文様帯が施されている。896・897は条線が施された縄文土器深鉢口縁部片である。898は口縁端部に１条の沈線が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、これらは概ね縄文時代後期前半、北白川上層式に属するものといえよう。899・900は縄文土器注口土器と考えられる。899は注口の部分が欠失している。900は注口部分が残存している。縄文時代後期に属するものであろうか。901は台付の縄文土器深鉢の台部分と考えられる。縄文時代中期のものといえよう。902は外反する口縁端部に刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅱ期のものと思われる。903は口縁端部に刻みがみられ、それによる押圧で小波状のようにみえ、１条の突帯が巡っている縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅲ期のものと考えられる。904は突帯に貝殻による刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅳ期に属するものと考えられる。905は突帯に貝殻による刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期Ⅴ期に属するものと考えられる。906は縄文土器深鉢口縁部片。波状口縁である。縄文時代晩期、Ⅳ期のものであろうか。907・908は縄文土器深鉢口縁部片。低い素文突帯が１条口縁部に巡るものである。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期に属するものであろう。909は素文突帯が１条口縁部に巡る縄文土器深鉢口縁部片である。910・911は口縁部の上部に１条の低い素文突帯がみられる縄文土器深

鉢口縁部片である。912は大きく外反する口縁部下に断面三角形の素文突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期に属するものであろう。913～915は若干外傾する口縁部をもつ縄文土器深鉢片である。加飾はみられない。いわゆる無文系土器である。916は内弯気味の口縁を持つ縄文土器深鉢口縁部片である。加飾のみられないものである。917は口縁部が大きく外に屈曲する縄文土器深鉢口縁部片である。加飾がみられないものである。918～920は口縁端部に面がみられ、若干口縁部が屈曲気味の縄文土器深鉢口縁部片である。加飾がみられないものである。921は口縁部の肥厚がみられる縄文土器深鉢口縁部片である。加飾がみられないものである。922は口縁部が波状となる縄文土器深鉢口縁部片である。加飾がみられないものである。923は加飾がみられない縄文土器深鉢口縁部片である。924は口縁部が外反し頸部が屈曲する縄文土器浅鉢口縁部片である。925は口縁部外面には横位の多条沈線が施され、内面には低い突帯状のものが１条巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期に属するものであろう。926～928は接地面が扁平な縄文土器底部片である。これらは縄文時代晩期前半に属するものといえよう。929は接地が凹底の縄文土器底部片である。930



第85図　ＢⅡ地区出土遺物実測図3(1:4)

は接地面の径が小さい縄文土器底部片である。これらは、概ね縄文時代晩期前半に属するものと考えられる。931は把手部分であろうか。縄文土器と思われる。これらは、概ね縄文時代晩期前半に属するものであろう。932は灰釉陶器椀底部片である。平安時代後期のものと思われる。933は底部に籾殻痕がみられる陶器椀である。通称山茶椀と呼称されているものである。13世紀代のものと考えられる。

（６）ＢⅡ地区

遺構・包含層出土遺物（第83～85図　935～1037）

994・1014はＳＫ113出土である。935～954は縄文土器深鉢口縁部片である。935～946は沈線による幾何学的な文様帯が施されている。これらは、縄文時代中期末、北白川Ｃ式に併行するものと思われる。947～953は縄文土器深鉢口縁部片である。947・949は口縁部下に沈線による文様が施されたものである。948は外反する口縁部下に沈線による幾何学的な文様がみられるものである。950・951は直線的に外傾する口縁部に沈線による文様がみられる。952・953は内弯気味の口縁部に沈線よる文様帯が施されたものである。これらは、縄文時代後期初頭、中津式併行のものと考えられる。953は口縁波頂部に貫孔が見られる縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代後期前半期のものと思われる。955は縄文土器深鉢体部片である。磨消縄文による文様構成のものであろうか。957～963は沈線による文様が施された縄文土器深鉢体部片である。961は沈線による０字状の文様とそれを繋ぐ文様がみられる。これらは、縄文時代後期初頭、中津式に併行するものと考えられる。964～970は縄文土器深鉢口縁部片である。沈線と縄文による磨消縄文による文様構成のものと考えられる。971～977は縄文土器深鉢体部片である。沈線と縄文による磨消縄文による文様構成のものと思われる。これらは、縄文時代後期初頭、中津式に併行に比定できよう。978～982は磨消縄文による幾何学的な文様を構成する縄文土器深鉢体部片である。これらは、縄文時代後期前半、北白川上層式期に属するものと考えられる。983は肥厚する口縁部に縄文と３本沈線による文様が施された縄文土器深鉢口縁部片である。984～986は縄文が施された縄文土器深鉢体部片であろう。987・988は加飾のない縄文土器深鉢体部片と考えられる。これらは、概ね縄文時代後期前半、北白川上層式期に比定できよう。989は口縁端部が刻まれ、口縁部に横位の条痕が見られる縄文土器深鉢口縁部片である。990は口縁端部に貝殻による刺突列がみられ、小波状のようにみえる縄文土器深鉢口縁部片である。これらは縄文時代晩期、Ⅱ期のものと考えられる。991は低く細い突帯上に刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。縄文時代晩期、Ⅳ期のものであろうか。992は突帯上に貝殻に押圧による刻みが施された縄文土器深鉢口縁部片である。993は低い２条の素文突帯が巡る縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期のものと思われる。994は浮線網状文が施された縄文土器深鉢口縁部片である。これらは、縄文時代晩期、Ⅴ期に比定できよう。995～999は加飾がみられない縄文土器深鉢口縁部片である。条痕が土器外面にみられるものである。1000～1003は縄文土器底部片である。1000は丸底気味。1001～1003は接地面が平らなものである。1003は底部外面に網代が見られる。これらは、縄文時代晩期のものと思われる。1004～1007は土師器皿である。口縁部が若干外反し、底部付近の調整が粗い。平安時代前半期、斎宮編年Ⅱ期１～２段階（９世紀代）に比定できよう。1008～1011は土師器杯である。平安時代前半期、斎宮編年Ⅱ期１～２段階に比定できよう。1012・1013は浅い土師器皿である。口縁部が若干外反し、底部付近の調整が粗い。平安時代、斎宮編年Ⅱ期1～２段階に比定できよう。1014はロクロ土師器皿。底部に糸切痕がみられる。1015～1017は灰釉陶器椀底部片である。平安時代、斎宮編年Ⅱ期３段階（11世紀代）のものと思われる。1020～1031は土師器甕、小形のものである。調整については粗い。平安時代、斎宮編年Ⅱ期１～２段階に比定できよう。1032は大形の土師器甕である。平安時代前半期、斎宮編年Ⅱ期１～２段階に比定できよう。1033・1034は志摩式製塩土器底部片である。平安時代に属するものと考えられる。1035～1037は円筒状の土錘である。

（小濵 学・小山憲一）

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
1	37	008-02	土師器小皿	AⅠ	B4	SB1 Pit1	—	—	—	ナデ	ナデ	ヨコナデ	密	良	7.5YR8/4	口縁部小片	柱掘方	
2	37	007-02	土師器鍋	AⅠ	B4	SB1 Pit1	15.4	—	—	オサエ	ハケメ	ヨコナデ	やや密	良	10YR8/3	口縁部2/12	柱掘方	
3	37	008-04	粘土塊	AⅠ	B4	SB1 Pit1	—	—	—	ナデ	—	—	やや密	良	7.5YR7/4	体部小片	柱掘方	
4	37	007-06	土師器皿	AⅠ	B4	SK2	—	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	やや密	良	7.5YR7/4	口縁部小片		
5	37	008-01	土師器皿	AⅠ	B4	SK2	—	—	—	オサエ	ナデ	ヨコナデ	密	良	10YR8/4	口縁部小片		
6	37	007-05	土師器椀	AⅠ	B4	SK2	—	—	7.0	ロクロナデ、貼付け高台、糸切痕	ロクロナデ	—	やや粗	良	10YR8/4	高台部6/12		
7	37	007-01	土師器鍋	AⅠ	B4	SK2	26.6	—	—	ナデ、ハケメ	ハケメ	ヨコナデ	やや密	良	7.5YR8/4	口縁部1/12		
8	37	007-04	陶器椀	AⅠ	A5	Pit1	—	—	7.4	ロクロナデ、貼付け高台、糸切痕	ロクロナデ	—	密	良	N8/	高台部10/12	柱掘方P2	
9	37	007-03	陶器椀	AⅠ	A5	Pit1	—	—	8.0	ロクロナデ、貼付け高台、糸切痕	ロクロナデ	—	密	やや良	2.5Y8/1	高台部完存	柱掘方P1	
10	38	031-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	SX30	38.6	—	—	条痕、補修孔	条痕、ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR5/1 内：2.5Y7/1	口縁部3/12		Ⅱ
11	38	030-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	SX30	31.0	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	ヨコナデ	やや粗	並	外：10YR4/2 内：10YR5/3	口縁部3/12		Ⅱ
12	38	044-07	管状土製品	AⅢ	B8	SX30	長さ1.4	幅0.6	穴径0.1	—	—	—	密	良	10YR6/4	完存		
13	38	013-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	SX31	34.7	34.0	5.5	ケズリ、ナデ	ナデ、オサエ	ヨコナデ	粗	並	外：10YR6/3 内：7.5YR4/1	口縁部8/12		Ⅱ
14	39	009-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	SX39	36.0	41.8	—	条痕、ケズリ、ナデ	ナデ	押圧	粗	並	外：10YR8/3 内：7.5YR4/1	口縁部一部欠		Ⅱ
15	39	021-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SX42	33.0	—	—	ケズリ、ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	良	10YR7/3	口縁部2/12		Ⅱ
16	40	020-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	SX29	39.6	46.3	3.6	条痕、ケズリ	ナデ、条痕	キザミ	粗	良	10YR8/2	口縁部6/12		Ⅱ
17	41	010-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	SX38	37.0	47.5	—	ケズリ	ナデ	キザミ、ヨコナデ	やや粗	並	7.5YR6/1	口縁部6/12		Ⅱ
18	42	011-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	SX38	43.0	50.8	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ、ヨコナデ	やや粗	並	2.5Y7/6	口縁部2/12		Ⅱ
19	43	012-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	SX40	38.0	46.7	—	条痕、ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ、ヨコナデ	粗	並	外：7.5YR7/2 内：10YR3/1	口縁部8/12		Ⅱ
20	44	015-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C1,2	SX44	27.5	—	—	条痕、ヘラケズリ	ケズリ、工具ナデ	キザミ	やや粗	やや良	10YR8/3	口縁部4/12		Ⅲ
21	44	014-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C1,2	SX44	37.0	46.5	—	条痕、ケズリ、ナデ	ナデ	突帯・キザミ	やや粗	やや良	外：10YR3/2 内：10YR2/2	口縁部4/12		Ⅳ
22	45	017-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SX43	体部径28.9	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR8/3	体部5/12		Ⅲ
23	45	016-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SX43	31.0	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	突帯・キザミ	粗	良	10YR8/3	口縁部10/12		Ⅲ
24	45	017-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SX43	43.6	—	—	ミガキ、ヘラケズリ	ミガキ、ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR7/3	口縁部5/12		Ⅲ
25	46	029-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	SX28	35.6	44.3	—	突帯、条痕、ケズリ、ナデ	条痕、ナデ	ヨコナデ、刺突	粗	やや良	外：10YR8/3 内：10YR2/1	口縁部小片		Ⅲ
26	46	028-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	SX25	体部径33.0	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR7/3	体部4/12		Ⅱ
27	47	022-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SX41	体部径35.6	—	4.7	条痕、ケズリ	ナデ、工具ナデ	—	粗	不良	外：10YR7/2 内：2.5Y7/2	底部完存		Ⅳ
28	47	018-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	SX46	体部径37.0	—	—	ヨコナデ、ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR4/1 内：10YR6/1	体部2/12		Ⅳ
29	48	019-01	縄文土器深鉢	AⅢ	西壁	SX59	29.0	40.5	7.0	3条突帯、条痕、ケズリ、ナデ	ナデ	ヨコナデ	粗	並	外：10YR8/3 内：10YR6/1	口縁部小片		Ⅴ
30	49	026-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	SX50	29.0	—	—	条痕、ケズリ	ケズリ、ナデ	キザミ	粗	並	10YR7/3	口縁部6/12		Ⅲ
31	49	023-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	SX50	31.9	—	—	ヨコナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	並	10YR7/2	口縁部3/12		Ⅲ
32	49	025-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	SX50	32.0	—	—	突帯・キザミ、条痕、ケズリ	ヨコナデ	キザミ	粗	並	10YR8/3	口縁部6/12		Ⅲ
33	49	024-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	SX50	28.8	—	—	突帯・キザミ、ケズリ、ミガキ	ヨコナデ	キザミ	粗	並	10YR4/2	口縁部2/12		Ⅲ
34	50	035-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B9	SX14	体部径30.0	—	—	条痕、ミガキ	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	—	粗	並	10YR6/2	体部4/12	補修3ヶ所	Ⅲ

第６表　土器・土製品観察表1

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
35	50	036-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B9	SX14	—	—	—	条痕	ナデ	ヨコナデ	やや粗	並	2.5Y5/1	口縁部小片		Ⅲ
36	50	036-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B9	SX14	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y6/1	口縁部小片		Ⅲ
37	50	036-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B9	SX14	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや粗	並	外：10YR6/1 内：2.5Y7/1	口縁部小片		Ⅲ
38	50	036-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B9	SX14	—	—	5.1	ミガキ、オサエ、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR6/2 内：2.5Y5/1	底部8/12		Ⅲ
39	50	039-08	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	SX32	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	やや粗	やや良	N3/	口縁部小片		Ⅳ
40	50	040-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	SX32	—	—	—	ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや密	やや良	10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ
41	50	039-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	SX32	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
42	50	040-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	SX32	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
43	50	040-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	SX33	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/6	口縁部小片		Ⅲ
44	50	027-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	SX37	27.5	—	—	突帯・キザミ、条痕、ケズリ	ナデ	ヨコナデ	粗	並	外：5YR7/6 内：10YR6/2	口縁部3/12		Ⅳ
45	50	040-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	SX45	—	—	—	ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	外：10YR7/3 内：10YR8/3	口縁部小片		Ⅱ
46	50	040-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	SX45	—	—	—	ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR2/1	口縁部小片		Ⅱ
47	51	032-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E9	SK13	—	—	—	条線	ナデ	キザミ	粗	並	外：2.5Y8/2 内：2.5Y6/1	口縁部小片		Ⅱ
48	51	033-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E9	SK13	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	10YR7/3	口縁部小片		Ⅱ
49	51	033-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E9	SK13	—	—	—	条痕	沈線、ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR7/3 内：2.5Y7/3	口縁部小片		Ⅱ
50	51	033-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E9	SK13	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR4/1 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅱ
51	51	033-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E9	SK13	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR7/3 内：7.5YR6/4	口縁部小片		Ⅱ
52	51	034-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E9	SK13	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁部小片		Ⅱ
53	51	033-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	E9	SK13	—	—	—	ナデ、突帯、ケズリ	ナデ	—	粗	並	7.5YR7/4	体部小片		Ⅱ
54	51	041-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SK51	—	—	—	条痕、ケズリ	ヨコナデ・ナデ	キザミ	粗	良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅱ
55	51	043-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SK51	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	良	10YR8/3	口縁部小片		Ⅱ
56	51	032-08	縄文土器深鉢	AⅢ	B8,9	SK16	—	—	5.3	条痕、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：2.5YR7/4 内：10YR7/1	底部小片		
57	51	042-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	SK57	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	良	10YR4/2	口縁部小片		Ⅰ
58	51	043-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	SK57	—	—	—	ミガキ	ナデ、オサエ	指オサエ	粗	良	7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅱ
59	51	042-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	SK57	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/4	口縁部小片		Ⅱ
60	51	042-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	SK57	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
61	51	042-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	SK57	—	—	—	ナデ、一部剥離	突帯、ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR5/3	口縁部小片		Ⅳ
62	51	037-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	SK23	—	—	—	突帯・キザミ、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR5/2 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅲ
63	51	037-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	SK23	—	—	—	ミガキ、ナデ	ナデ	凹線	粗	並	外：7.5YR4/1 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅲ
64	51	037-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	SK23	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/1	口縁部小片		Ⅲ
65	51	036-08	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	SK23	—	—	—	条痕	条痕	ヨコナデ	粗	並	外：10YR8/3 内：10YR4/1	口縁部小片		Ⅲ
66	51	034-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	SK12	—	—	—	貼付け突帯2条	ナデ	ヨコナデ	粗	並	2.5Y8/2	口縁部小片		Ⅴ
67	51	034-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	SK12	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	7.5YR3/2	口縁部小片		Ⅴ
68	51	034-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	SK12	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：2.5Y3/1	口縁部小片		Ⅴ
69	51	034-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	SK12	—	—	—	ナデ、突帯・キザミ	条痕	—	やや粗	並	10YR6/3	体部小片		Ⅴ
70	51	033-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	SK12	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR8/3 内：5YR7/6	口縁部小片		Ⅴ
71	52	043-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SK53	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR4/1	口縁部小片		Ⅰ
72	52	042-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SK53	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR3/1	口縁部小片		Ⅰ
73	52	032-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK19	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	2.5Y6/2	口縁部小片		Ⅰ

第７表　土器・土製品観察表2

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
74	52	032-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK19	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	2.5Y6/1	口縁部小片		Ⅱ
75	52	040-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	SK36	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR7/2 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅰ
76	52	040-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	SK36	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや密	やや良	10YR4/1	体部小片		Ⅰ
77	52	042-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	SK49	—	—	—	ケズリ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/2	口縁部小片		Ⅴ
78	52	042-07	縄文土器浅鉢	AⅢ	C4	SK49	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR4/1	口縁部小片		Ⅴ
79	52	043-04	縄文土器浅鉢	AⅢ	C4	SK49	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	ナデ	粗	良	10YR5/1	口縁部小片		Ⅴ
80	52	038-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	SX25	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	10YR7/2	口縁部小片		Ⅰ
81	52	038-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	SX25	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	10YR7/3	口縁部小片		Ⅰ
82	52	038-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	SX25	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	10YR4/1	口縁部小片		Ⅰ
83	52	038-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	SX25	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	外：7.5YR4/1 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅰ
84	52	041-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	SK55	—	—	—	ナデ、条痕	ナデ	キザミ	粗	良	10YR7/2	口縁部小片		Ⅱ
85	52	042-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	SK55	—	—	—	条痕	沈線、ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/1	口縁部小片		Ⅱ
86	52	043-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	SK55	—	—	—	ミガキか	ミガキか	ミガキか	やや粗	良	10YR6/2	口縁部小片		Ⅱ
87	52	039-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	SK27	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR6/4	口縁部小片		Ⅲ
88	52	039-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	SK27	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR7/3	口縁部小片		Ⅲ
89	52	039-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	SK27	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR7/4	口縁部小片		Ⅲ
90	52	039-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	SK27	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	キザミ	やや密	やや良	7.5YR3/1	口縁部小片		Ⅲ
91	52	038-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	SK27	—	—	3.1	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	やや良	外：10YR8/4 内：10YR7/2	底部8/6		Ⅲ
92	52	043-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SK56	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	良	10YR7/4	口縁部小片		Ⅱ
93	52	041-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SK56	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅱ
94	52	041-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SK56	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	—	やや粗	良	10YR7/3	体部小片		
95	52	041-01	縄文土器	AⅢ	C2	SK56	—	—	3.0	ナデ	ナデ	—	粗	良	5YR7/4	底部6/12		
96	52	037-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	SK24	—	—	—	条痕	ナデ	刺突・キザミ	粗	並	外：7.5YR7/2 内：7.5YR7/3	口縁部小片		Ⅱ
97	52	036-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK20	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	10YR8/2	口縁部小片		
98	52	032-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	SK18	—	—	—	ナデ、条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR3/1 内：10YR6/2	口縁部小片		
99	52	039-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	SK26	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR5/2 内：7.5YR8/4	口縁部小片		
100	52	032-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	SK17	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：2.5Y8/1 内：5Y8/1	口縁部小片		
101	52	032-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	SK17	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR4/2 内：10YR7/1	口縁部小片		
102	52	036-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	SK22	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR6/3 内：7.5YR7/4	口縁部小片		
103	53	003-01	須恵器杯蓋	AⅢ	E9	SH11	—	1.6	17.7	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	やや粗	やや良	外：2.5YR6/2 内：5YR5/1	底部5/12		
104	53	004-01	土師器甕	AⅢ	E9	SH11	16.8	—	—	ハケメ	ハケメ	ヨコナデ	やや良	良	外：10YR8/3 内：10YR5/2	口縁部2/12		
105	53	049-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	Pit5	—	—	—	ナデ、刺突	ナデ	—	粗	やや良	外：7.5YR8/4 内：10YR8/1	体部小片		
106	53	053-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	Pit1	—	—	—	沈線、刺突、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR4/1 内：7.5YR4/2	口縁部小片		
107	53	052-03	縄文土器	AⅢ	B5	Pit2	—	—	—	沈線、条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y3/1 内：10YR5/1	口縁部小片		
108	53	050-04	縄文土器	AⅢ	C4	Pit3	—	—	—	沈線、ミガキ	ミガキ	—	やや密	並	外：10YR6/2 内：7.5YR5/2	体部小片		
109	53	048-04	縄文土器	AⅢ	C2	Pit3	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	N4/	体部小片		
110	53	049-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	Pit4	—	—	—	条痕	ナデ、条痕	キザミ	やや密	やや良	外：7.5YR4/2 内：7.5YR3/1	口縁部小片		Ⅱ

第８表　土器・土製品観察表3

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
111	53	047-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	Pit3	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	7.5YR4/2	口縁部小片		Ⅱ
112	53	048-05	縄文土器深鉢	AⅢ	E1	Pit3	—	—	—	条痕	ケズリ	キザミ	やや粗	やや良	7.5YR8/4	口縁部小片		Ⅱ
113	53	047-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	Pit2	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：2.5Y8/1 内：10YR8/3	口縁部小片		Ⅱ
114	53	050-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	Pit4	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	並	外：5YR4/1 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅱ
115	53	051-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E4	Pit1	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR5/2 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅱ
116	53	054-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	Pit3	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや密	並	10YR5/1	口縁部小片		Ⅱ
117	53	047-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	Pit2	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	外：10YR3/1 内：7.5YR4/2	口縁部小片		Ⅱ
118	53	054-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	Pit5	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや密	並	7.5YR4/1	口縁部小片		Ⅱ
119	53	053-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	Pit10	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR5/1 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅱ
120	53	050-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	Pit6	—	—	—	ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	外：2.5Y6/1 内：2.5Y7/1	口縁部小片		Ⅱ
121	53	052-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	Pit5	—	—	—	条痕、ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR5/3 内：10YR6/3	口縁部小片		Ⅱ
122	53	048-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	Pit3	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR6/3 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
123	53	049-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	Pit5	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
124	53	050-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	Pit1	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	—	ナデ	やや粗	並	2.5Y7/1	口縁部小片		Ⅳ
125	53	053-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	Pit6	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：2.5Y6/1 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
126	53	048-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	Pit3	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR4/1 内：10YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
127	53	049-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	Pit4	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR8/1	口縁部小片		Ⅳ
128	53	053-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	Pit10	—	—	—	条痕、突帯・キザミ	ナデ	—	やや粗	並	10YR7/3	体部小片		
129	53	051-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	Pit8	—	—	—	条痕、ヨコナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR7/3 内：2.5Y6/1	口縁部小片		
130	53	054-07	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	Pit8	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	2.5Y7/2	口縁部小片		
131	53	051-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	Pit4	—	—	—	条痕	ミガキ	ナデ	粗	並	外：10YR5/3 内：7.5YR6/3	口縁部小片		
132	53	054-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	Pit1	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y7/1	口縁部小片		
133	53	048-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	Pit3	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR4/1 内：10YR6/1	口縁部小片		
134	53	049-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	Pit8	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR8/2	口縁部小片		
135	53	051-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	Pit8	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR7/4	口縁部小片		
136	53	051-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	Pit6	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：7.5YR4/1 内：10YR7/2	口縁部小片		
137	53	053-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	Pit2	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR8/2	口縁部小片		
138	53	054-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	Pit2	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR7/4 内：N3/	口縁部小片		
139	54	048-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	Pit3	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	N2/	口縁部小片		
140	54	051-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	Pit3	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR8/3	口縁部小片		
141	54	052-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	Pit11	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR7/1	口縁部小片		
142	54	052-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	Pit2	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR6/4 内：10YR8/4	口縁部小片		
143	54	053-07	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	Pit5	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR7/2 内：2.5Y7/1	口縁部小片		
144	54	048-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	Pit3	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR5/1	口縁部小片		
145	54	049-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	Pit8	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR4/1	口縁部小片		
146	54	047-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	Pit2	—	—	—	ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR8/2	口縁部小片		
147	54	051-08	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	Pit6	—	—	—	—	—	ナデ	粗	並	7.5YR7/6	口縁部小片		

第９表　土器・土製品観察表4

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
148	54	051-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	Pit11	—	—	—	ミガキ	ケズリ、ナデ、ミガキ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/3 内：10YR7/3	口縁部小片		
149	54	050-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	Pit6	—	—	—	ナデ	沈線文、ヨコナデ	ナデ	粗	並	外：10YR6/3 内：7.5YR6/2	口縁部小片		
150	54	049-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	D2	Pit4	—	—	—	突帯、ミガキ	ミガキ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR3/1	口縁部小片		Ⅳ
151	54	053-06	縄文土器浅鉢	AⅢ	E8	Pit4	—	—	—	突帯、ミガキ	ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	やや粗	並	10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
152	54	050-07	縄文土器浅鉢	AⅢ	D4	Pit4	—	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	やや密	並	10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
153	54	050-06	縄文土器鉢	AⅢ	C5	Pit1	—	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
154	54	053-08	縄文土器浅鉢	AⅢ	E6	Pit2	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	7.5YR6/2	口縁部小片		Ⅳ
155	54	054-06	縄文土器浅鉢	AⅢ	C6	Pit9	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ミガキ	縄文	密	良	外：10YR4/1 内：10YR3/1	口縁部小片	赤色顔料	Ⅳ
156	54	047-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	D3	Pit2	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	10YR7/2	口縁部小片	赤色顔料	Ⅳ
157	54	053-09	縄文土器深鉢	AⅢ	E8	Pit3	—	—	4.3	ケズリ、条痕	ナデ	—	やや粗	並	10YR6/2	底部完存		
158	54	052-05	土製品	AⅢ	C5	Pit1	—	—	—	ナデ	—	—	粗	並	10YR4/1	小片		
159	55	120-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	キザミ	粗	良	10YR7/3	口縁部小片		
160	55	120-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	包含層	—	—	—	縄文、突帯	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR7/3	口縁部小片		
161	55	121-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	包含層	—	—	—	縄文、ナデ	ナデ	—	やや粗	良	10YR7/3	体部小片		
162	55	122-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	粗	良	7.5YR5/3	体部小片		
163	55	121-04	縄文土器	AⅢ	E4	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	粗	良	10YR6/2	体部小片		
164	55	121-08	縄文土器	AⅢ	E2	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	やや粗	良	10YR4/1	体部小片		
165	55	123-03	縄文土器	AⅢ	E2	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや密	やや良	7.5YR4/3	体部小片		
166	56	061-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B1	撹乱溝	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR7/2	口縁部小片		
167	56	121-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR7/3	口縁部小片		
168	56	004-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	不良	良	外：2.5Y7/1 内：10YR8/2	口縁部小片		
169	56	120-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	沈線、キザミ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/3	口縁部小片		
170	56	061-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	撹乱溝	—	—	—	ナデ、刺突	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	10YR7/3	口縁部小片		
171	56	033-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	SK12	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR6/2 内：7.5YR6/4	口縁部小片		
172	56	005-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	ナデ、穿孔	ナデ	ナデ	やや良	良	7.5YR7/4	口縁部小片		
173	56	061-01	縄文土器深鉢	AⅢ	—	東壁	—	—	—	ナデ	ケズリ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/4	口縁部小片		
174	56	121-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/2	口縁部小片		
175	56	122-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	良	7.5YR6/4	口縁部小片		
176	56	122-08	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR4/2	口縁部小片		
177	56	122-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	良	5YR7/6	口縁部小片		
178	56	121-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	ナデ、刺突	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR5/4	口縁部小片		
179	56	120-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	沈線	粗	良	5YR6/6	口縁部小片		
180	56	120-09	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	良	10YR3/2	口縁部小片		
181	56	122-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	隆帯、沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/3	口縁部小片		
182	56	120-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	包含層	—	—	—	隆帯、刺突	ナデ	ナデ	粗	良	5YR7/4	口縁部小片		
183	56	122-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/2	口縁部小片		
184	56	120-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/3	口縁部小片		

第10表　土器・土製品観察表5

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
185	56	122-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/3	口縁部小片		
186	56	123-08	縄文土器	AⅢ	D4	包含層	—	—	—	縄文、隆帯、沈線	ナデ	—	粗	やや良	外：10YR6/3 内：10YR7/3	体部小片		
187	56	121-07	縄文土器	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	隆帯、ナデ	ナデ	—	粗	良	5YR7/6	体部小片		
188	56	121-09	縄文土器	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	隆帯、刺突、ナデ	ナデ	—	粗	良	7.5YR6/3	体部小片		
189	56	123-04	縄文土器	AⅢ	B9	包含層	—	—	—	隆帯、沈線	ナデ	—	やや粗	やや良	7.5YR7/4	体部小片		
190	56	061-03	縄文土器	AⅢ	—	東壁	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	やや良	外：N3/ 内：7.5YR6/4	体部小片		
191	56	124-06	縄文土器	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	粗	やや良	外：10YR3/1 内：2.5Y8/2	体部小片		
192	56	121-02	縄文土器	AⅢ	E2	包含層	—	—	—	隆帯、沈線	ナデ	—	やや密	良	10YR7/3	体部小片		
193	56	120-06	縄文土器	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	沈線	ナデ	—	粗	良	10YR8/3	体部小片		
194	56	125-08	縄文土器	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：10YR7/4 内：10YR8/3	体部小片		
195	56	124-01	縄文土器	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR4/3 内：7.5YR6/4	体部小片		
196	56	124-05	縄文土器	AⅢ	D4	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	7.5YR7/4	体部小片		
197	56	061-04	縄文土器	AⅢ	—	東壁	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：10YR7/2 内：N3/	体部小片		
198	57	123-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	ナデ、縄文	ナデ	—	やや粗	やや良	10YR7/3	体部小片		
199	57	125-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	5YR6/4	口縁部小片		
200	57	125-07	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR6/4	口縁部小片		
201	57	126-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	包含層	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	ナデ	密	やや良	10YR7/3	口縁部小片		
202	57	004-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ、ミガキ	ナデ	やや粗	良	外10YR6/2 内：10YR8/1	口縁部小片	第３層	
203	57	125-05	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ミガキ	ナデ	やや粗	やや良	5YR7/6	口縁部小片		
204	57	034-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E9	SH11	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	—	やや密	並	N5/	体部小片		
205	57	123-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E8	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR4/1 内：2.5Y7/1	体部小片		
206	57	124-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	縄文、沈線	ミガキ、ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR7/6 内：10YR7/4	体部小片		
207	57	126-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	ミガキ、縄文、沈線	ナデ、オサエ、工具跡	—	密	良	外：10YR5/1 内：10YR7/3	体部小片		
208	57	061-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	—	東壁	—	—	—	沈線、縄文、ナデ	ナデ	—	やや密	やや良	10YR7/4	体部小片		
209	57	039-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	SK27	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR8/3	口縁部小片		
210	57	125-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	10YR8/3	口縁部小片		
211	57	124-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：5YR5/2 内：10YR3/1	口縁部小片		
212	57	124-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E8	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/4	口縁部小片		
213	57	125-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR7/4	口縁部小片		
214	57	125-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：7.5YR5/1 内：10YR8/3	口縁部小片		
215	57	125-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR8/4	口縁部小片		
216	57	124-07	縄文土器	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ミガキ	—	粗	やや良	外：10YR5/1 内：2.5Y5/2	体部小片		
217	57	124-08	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	条痕、沈線	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR7/4 内：10YR8/4	体部小片		
218	57	126-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	密	やや良	外：2.5Y2/1 内：10YR4/1	体部小片		
219	57	123-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：5YR7/6 内：2.5Y6/1	口縁部小片		
220	57	127-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや密	やや良	外：10YR4/1 内：10YR7/4	体部小片		
221	57	127-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや密	やや良	外：N3/ 内：10YR3/1	体部小片		

第11表　土器・土製品観察表6

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
222	58	099-04	縄文土器鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや密	やや良	7.5YR6/3	口縁部小片		Ⅳ
223	58	103-05	縄文土器鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR4/1 内：2.5Y8/2	口縁部小片		Ⅳ
224	58	103-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR8/3 内：7.5YR3/1	口縁部小片		Ⅳ
225	58	103-06	縄文土器鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	沈線、ミガキ	ミガキ	ナデ	やや粗	やや良	外：7.5YR4/1 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
226	58	001-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	沈線、ミガキ?	ミガキ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR7/3 内：10YR7/1	口縁部小片	赤色顔料	Ⅳ
227	58	102-07	縄文土器浅鉢	AⅢ	B7	包含層	—	—	—	刺突、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：2.5Y5/1 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
228	58	102-08	縄文土器浅鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	刺突、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR5/2 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
229	58	102-06	縄文土器浅鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	ナデ	やや密	やや良	外：5YR5/4 内：10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
230	58	102-04	縄文土器浅鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	—	やや密	やや良	外：7.5YR4/2 内：10YR4/1	体部小片		Ⅳ
231	58	004-04	縄文土器浅鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	—	やや良	良	外：7.5YR4/2 内：10YR8/2	体部小片	第３層	Ⅳ
232	58	102-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	—	やや粗	やや良	外：10YR8/3 内：10YR8/3	体部小片		Ⅳ
233	58	102-09	縄文土器浅鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	沈線、刺突	ナデ	—	やや粗	やや良	外：10YR4/1 内：2.5Y7/1	体部小片		Ⅳ
234	58	059-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	撹乱層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅲ
235	58	091-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	外：7.5YR6/2 内：10YR8/3	口縁部小片		Ⅲ
236	58	094-05	縄文土器深鉢	AⅢ	E1	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	粗	並	外：2.5Y6/1 内：N4/	口縁部小片		Ⅲ
237	58	045-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SX43	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	ヨコナデ	粗	並	外：10YR8/3 内：2.5Y6/1	口縁部小片		Ⅲ
238	58	090-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	外：10YR7/2 内：N3/	口縁部小片		Ⅲ
239	58	089-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	粗	やや不良	外：10YR8/3 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅲ
240	58	058-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	撹乱層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR5/1 内：2.5Y5/1	口縁部小片		Ⅲ
241	58	091-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	外：7.5YR7/3 内：7.5YR4/1	口縁部小片		Ⅲ
242	58	092-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	外：5YR4/1 内：7.5YR3/1	口縁部小片		Ⅲ
243	58	058-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	撹乱層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR6/3 内：10YR4/1	口縁部小片		Ⅲ
244	58	091-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	10YR8/3 内：10R5/6	口縁部小片		Ⅲ
245	58	091-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	外：10YR4/1 内：7.5YR4/2	口縁部小片		Ⅲ
246	58	092-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	7.5YR3/1	口縁部小片		Ⅲ
247	58	091-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	外：10YR8/2 内：10YR8/3	口縁部小片		Ⅲ
248	58	094-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや密	並	10YR5/2	口縁部小片		Ⅲ
249	58	094-08	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	キザミ	やや密	並	10YR7/3	口縁部小片		Ⅲ
250	58	094-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	キザミ	粗	並	2.5Y7/1	口縁部小片		Ⅲ
251	59	001-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	粗	やや良	外：10YR8/2 内：2.5Y4/1	口縁部小片		Ⅳ
252	59	001-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	条痕	ナデ	粗	やや良	外：10YR8/2 内：N4/	口縁部小片		Ⅳ
253	59	059-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	撹乱層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR5/1 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
254	59	093-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y6/1 内：2.5Y4/1	口縁部小片		Ⅳ
255	59	093-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	29.6	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR6/2	口縁部2/12		Ⅳ
256	59	093-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ
257	59	089-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや不良	外：10YR8/2 内：2.5Y6/1	口縁部小片		Ⅳ
258	59	093-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR5/2 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅳ

第12表　土器・土製品観察表7

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
259	59	090-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや密	やや良	外：10YR4/1 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅳ
260	59	094-09	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
261	59	092-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR7/2 内：N3/	口縁部小片		Ⅳ
262	59	045-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SX43	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ミガキ、ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR6/2 内：10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
263	59	092-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR8/3 内：7.5YR4/2	口縁部小片		Ⅳ
264	59	058-06	縄文土器深鉢	AⅢ	—	西壁	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR7/2 内：2.5Y4/1	口縁部小片		Ⅳ
265	59	090-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR6/2 内：10YR5/1	口縁部小片		Ⅳ
266	59	090-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	N3/	口縁部小片		Ⅳ
267	59	001-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	条痕	ナデ	粗	やや良	外：10YR6/2 内：7.5YR8/3	口縁部小片		Ⅳ
268	59	094-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/3 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
269	59	094-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR7/4 内：2.5Y7/2	口縁部小片		Ⅳ
270	59	093-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：7.5YR4/1 内：10YR6/1	口縁部小片		Ⅳ
271	59	092-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：7.5YR8/3 内：7.5YR5/3	口縁部小片		Ⅳ
272	59	058-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	撹乱層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：7.5YR4/2 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
273	59	094-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：2.5Y5/1 内：2.5Y7/1	口縁部小片		Ⅳ
274	59	058-05	縄文土器深鉢	AⅢ	—	西壁	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR6/2 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅳ
275	59	059-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	撹乱層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR7/3 内：10YR8/3	口縁部小片		Ⅳ
276	59	093-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR8/3 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
277	59	058-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	撹乱層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR3/1 内：10YR6/3	口縁部小片		Ⅳ
278	59	059-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	撹乱層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：2.5Y7/1 内：N3/	口縁部小片		Ⅴ
279	59	093-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：2.5Y6/1 内：2.5Y4/1	口縁部小片		Ⅴ
280	59	094-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E1	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/1 内：7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅴ
281	59	058-07	縄文土器深鉢	AⅢ	—	南壁	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR8/3 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅴ
282	59	059-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	撹乱層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR6/2 内：10YR6/1	口縁部小片		Ⅴ
283	59	095-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	—	粗	並	10YR4/2	体部小片		Ⅴ
284	59	123-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR3/1 内：10YR7/3	体部小片		Ⅴ
285	59	095-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ、ミガキ	—	粗	並	外：10YR6/2 内：7.5YR5/1	体部小片		Ⅴ
286	59	094-10	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	7.5YR6/4	体部小片		Ⅴ
287	60	097-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	包含層	—	—	—	突帯、条痕	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/2	口縁部小片		Ⅴ
288	60	095-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/1 内：2.5Y3/1	口縁部小片		Ⅳ
289	60	057-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	撹乱層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	外：10YR4/1 内：10YR5/2	口縁部小片		Ⅳ
290	60	057-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	撹乱層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：5Y8/1 内：7.5YR7/6	口縁部小片		Ⅳ
291	60	095-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	7.5Y3/1	口縁部小片		Ⅳ
292	60	096-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	突帯、ミガキ	ミガキ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/3 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅳ
293	60	057-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	撹乱層	—	—	—	突帯、ミガキ	ミガキ	ナデ	密	並	外：10YR5/2 内：2.5Y5/2	口縁部小片		Ⅳ
294	60	095-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	突帯、ミガキ	条痕	ヨコナデ	粗	並	外：5YR5/2 内：5YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
295	60	097-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	突帯、ミガキ	ナデ	ヨコナデ	粗	並	10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ

第13表　土器・土製品観察表8

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
296	60	096-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E4	包含層	—	—	—	突帯、ミガキ	沈線、ミガキ	ヨコナデ	粗	並	外：10YR4/2 内：2.5Y3/1	口縁部 小片		Ⅳ
297	60	096-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	突帯、ミガキ	沈線、ミガキ	ミガキ	やや粗	並	10YR4/1	口縁部 小片		Ⅳ
298	60	096-07	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	包含層	—	—	—	突帯、ミガキ	沈線、ミガキ	ミガキ	やや密	並	10YR3/1	口縁部 小片		Ⅳ
299	60	096-08	縄文土器深鉢	AⅢ	E4	包含層	—	—	—	突帯、ミガキ	沈線、ナデ	ヨコナデ	粗	並	5YR5/4	口縁部 小片		Ⅳ
300	60	099-10	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ヨコナデ	密	並	外：7.5YR6/4 内：10YR7/3	口縁部 小片		Ⅴ
301	60	100-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ、オサエ	ナデ・オサエ	やや密	やや良	外：10YR5/1 内：10YR7/3	口縁部 小片		Ⅴ
302	60	095-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ミガキ	ナデ	やや粗	並	7.5YR6/2	口縁部 小片		Ⅴ
303	60	097-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	包含層	—	—	—	ナデ、突帯1条、条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR8/2 内：10YR7/2	口縁部 小片		Ⅴ
304	60	001-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	ナデ、突帯1条、条痕	ナデ	ナデ	粗	やや良	外：2.5Y6/1 内：10YR7/1	口縁部 小片		Ⅴ
305	60	095-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	突帯2条、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR6/2 内：10YR6/3	口縁部 小片		Ⅴ
306	60	099-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	突帯3条、条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR3/2 内：7.5YR6/6	口縁部 小片		Ⅴ
307	60	099-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	包含層	—	—	—	突帯3条、条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：7.5YR5/4 内：7.5YR6/6	口縁部 小片		Ⅴ
308	60	097-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B6	包含層	—	—	—	突帯3条、条痕、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR4/1	口縁部 小片		Ⅴ
309	60	001-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	突帯2条、ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR8/4	口縁部 小片		Ⅴ
310	60	099-09	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	突帯2条、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	外：5YR5/4 内：5YR7/6	口縁部 小片		Ⅴ
311	60	097-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	—	粗	並	10YR8/3	体部 小片		Ⅴ
312	60	096-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや密	並	10YR4/1	口縁部 小片		Ⅴ
313	61	085-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	包含層	—	—	—	条痕後ナデ、穿孔（補修孔）、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR6/1	口縁部 小片	穿孔	Ⅱ
314	61	084-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	包含層	—	—	—	条痕後ミガキ、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR7/2 内：10YR7/3	口縁部 小片		Ⅱ
315	61	070-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	ナデ、条痕	ナデ	キザミ	やや密	並	外：2.5Y7/3 内：5YR5/6	口縁部 小片		Ⅱ
316	61	086-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	条痕、ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR8/2 内：5Y6/1	口縁部 小片		Ⅱ
317	61	088-05	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：2.5Y3/1	口縁部 小片		Ⅱ
318	61	085-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ、ケズリ	キザミ	粗	並	外：10YR8/3 内：10YR4/1	口縁部 小片		Ⅱ
319	61	087-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E8	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR6/1	口縁部 小片		Ⅱ
320	61	086-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR7/1 内：10YR8/2	口縁部 小片		Ⅱ
321	61	087-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：7.5YR6/4 内：10YR5/1	口縁部 小片		Ⅱ
322	61	087-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：2.5Y4/1	口縁部 小片		Ⅱ
323	61	088-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E1	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR7/3 内：10YR7/3	口縁部 小片		Ⅱ
324	61	088-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR7/1 内：10YR7/2	口縁部 小片		Ⅱ
325	61	084-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	外：7.5YR5/2 内：7.5YR7/4	口縁部 小片		Ⅱ
326	61	084-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	10YR6/1	口縁部 小片	穿孔	Ⅱ
327	61	086-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR6/2 内：10YR3/1	口縁部 小片		Ⅱ
328	61	081-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	条痕	条痕	キザミ	粗	不良	外：2.5Y5/1 内：5Y2/1	口縁部 小片		Ⅱ
329	61	086-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	条痕	条痕	キザミ	やや粗	並	外：2.5Y7/2 内：10YR8/2	口縁部 小片		Ⅱ
330	61	083-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	不良	10YR8/3	口縁部 小片		Ⅱ
331	61	081-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR7/2 内：2.5Y6/1	口縁部 小片		Ⅱ
332	61	085-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	10YR4/1	口縁部 小片		Ⅱ

第14表　土器・土製品観察表9

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
333	61	081-08	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	やや不良	外：10YR6/2 内：10YR8/4	口縁部小片		Ⅱ
334	61	089-05	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR5/2 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅱ
335	61	056-03	縄文土器深鉢	AⅢ	—	排土	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	密	不良	外：10YR6/3 内：10YR6/4	口縁部小片		Ⅱ
336	61	088-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	やや不良	外：10YR6/2 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅱ
337	61	056-04	縄文土器深鉢	AⅢ	—	西壁	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	キザミ	やや密	並	外：10YR5/2 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅱ
338	62	084-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	外：2.5Y7/2 内：2.5Y6/1	口縁部小片		Ⅱ
339	62	085-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	キザミ	粗	並	外：10YR7/2 内：10YR5/1	口縁部小片		Ⅱ
340	62	056-01	縄文土器深鉢	AⅢ	—	東壁	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	やや不良	外：10YR7/4 内：7.5YR7/6	口縁部小片	突帯脱落?	Ⅱ
341	62	088-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：2.5Y5/1 内：10YR5/2	口縁部小片		Ⅱ
342	62	082-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	粗	良	外：10YR4/1 内：7.5YR5/2	口縁部小片		Ⅱ
343	62	046-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SX42	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	やや密	並	外：10YR8/2 内：2.5Y5/1	口縁部小片		Ⅱ
344	62	044-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	SX28	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	並	10YR5/1	口縁部小片		Ⅱ
345	62	083-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	やや密	良	2.5Y3/1	口縁部小片		Ⅱ
346	62	085-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ミガキ	キザミ	粗	並	10YR4/1	口縁部小片		Ⅱ
347	62	088-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅱ
348	62	081-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	粗	不良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅱ
349	62	081-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	包含層	—	—	—	ナデ	ヨコナデ	キザミ	粗	不良	外：10YR7/2 内：2.5Y7/1	口縁部小片		Ⅱ
350	62	083-01	縄文土器鉢	AⅢ	E5	包含層	11.9	10.6	—	ケズリ後ナデ	ナデ	キザミ	やや不良	やや良	外：2.5Y8/1 内：10YR7/3	口縁部2/12	褐色粘土	Ⅱ
351	62	082-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	ナデ	沈線文、ナデ	キザミ	粗	並	2.5Y8/2	口縁部小片		Ⅱ
352	62	086-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	包含層	—	—	—	ナデ	ヨコナデ	キザミ	粗	並	外：5YR5/2 内：7.5YR6/3	口縁部小片		Ⅱ
353	62	055-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	撹乱層	—	—	—	ナデ	ナデ	ヨコナデ後沈線文	やや粗	不良	外：10YR3/1 内：2.5Y3/1	口縁部小片		Ⅱ
354	62	099-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	沈線	やや密	並	外：N7/ 内：10YR3/1	口縁部小片		Ⅱ
355	62	087-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：2.5Y4/1 内：2.5Y5/1	口縁部小片		Ⅱ
356	62	087-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅱ
357	62	046-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SX41	—	—	—	ケズリ	ヨコナデ	キザミ	やや粗	並	2.5Y4/1	口縁部小片		Ⅱ
358	62	089-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR7/2 内：7.5YR7/3	口縁部小片		Ⅱ
359	62	087-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR4/1 内：10YR5/1	口縁部小片		Ⅱ
360	62	089-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	粗	やや不良	外：10YR6/3 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅱ
361	62	088-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR5/1	口縁部小片		Ⅱ
362	62	081-07	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	良	外：10YR5/2 内：10YR3/1	口縁部小片		Ⅱ
363	62	087-08	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	口縁部小片		Ⅱ
364	62	056-05	縄文土器深鉢	AⅢ	—	西壁	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	密	やや良	外：10YR4/1 内：10YR4/1	口縁部小片		Ⅱ
365	62	087-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C1,2	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR7/3 内：2.5Y5/1	口縁部小片		Ⅱ
366	62	056-02	縄文土器深鉢	AⅢ	—	東壁	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	キザミ	やや密	並	外：10YR7/3 内：2.5Y8/2	口縁部小片		Ⅱ
367	63	103-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	包含層	—	—	—	ナデ	条痕	ナデ	やや密	やや良	外：10YR3/1 内：7.5YR4/1	口縁部小片		Ⅲ
368	63	078-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR4/1	口縁部小片		Ⅲ
369	63	082-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	包含層	—	—	—	条痕	条痕	ナデ	粗	不良	10YR7/3	口縁部小片		Ⅲ

第15表　土器・土製品観察表10

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
370	63	067-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	包含層	—	—	—	条痕	条痕、ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR5/2 内：2.5Y6/2	口縁部 小片		Ⅲ
371	63	078-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	条痕、ナデ	条痕、ナデ	ナデ	粗	良	10YR5/1	口縁部 小片		Ⅲ
372	63	082-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	条痕	条痕、ナデ	ナデ	粗	不良	外：2.5Y8/2 内：2.5Y7/3	口縁部 小片		Ⅲ
373	63	083-05	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	条痕	条痕後ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y2/1	口縁部 小片		Ⅲ
374	63	081-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	条痕	ヨコナデ、条痕	ナデ	粗	並	2.5Y3/1	口縁部 小片		Ⅲ
375	63	068-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y8/3	口縁部 小片		Ⅲ
376	63	079-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/2	口縁部 小片		Ⅲ
377	63	079-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	5YR7/6	口縁部 小片		Ⅲ
378	63	079-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/2	口縁部 小片		Ⅲ
379	63	073-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	やや良	2.5Y8/2	口縁部 小片		Ⅲ
380	63	080-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/2	口縁部 小片		Ⅲ
381	63	079-07	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/3	口縁部 小片		Ⅲ
382	63	080-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/3	口縁部 小片		Ⅲ
383	63	075-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR8/3	口縁部 小片		Ⅲ
384	63	080-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR4/1	口縁部 小片		Ⅲ
385	63	072-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	外：10YR8/3 内：10YR8/4	口縁部 小片		Ⅲ
386	63	082-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D1	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR5/3	口縁部 小片		Ⅲ
387	63	046-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SX41	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR7/3	口縁部 小片		Ⅲ
388	63	044-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	SX29	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR6/4 内：10YR7/3	口縁部 小片		Ⅲ
389	63	081-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	2.5Y2/1	口縁部 小片		Ⅲ
390	63	068-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR3/1 内：10YR3/2	口縁部 小片		Ⅲ
391	63	078-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR3/1	口縁部 小片		Ⅲ
392	63	055-02	縄文土器深鉢	AⅢ	—	西壁	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	良	外：N2/ 内：2.5Y4/1	口縁部 小片		Ⅲ
393	63	072-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	密	良	外：5Y5/1 内：N4/	口縁部 小片		Ⅲ
394	63	078-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR8/4	口縁部 小片		Ⅲ
395	63	068-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：2.5Y8/1 内：2.5Y7/1	口縁部 小片		Ⅲ
396	63	074-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：7.5Y2/1 内：2.5Y7/4	口縁部 小片		Ⅲ
397	64	074-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	外：2.5Y4/1 内：2.5Y6/1	口縁部 小片		Ⅳ
398	64	083-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E8	包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁部 小片		Ⅳ
399	64	046-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	SX42	—	—	—	条痕	ヨコナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR5/2 内：2.5Y6/1	口縁部 小片		Ⅳ
400	64	074-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	外：10YR4/2 内：7.5YR6/6	口縁部 小片		Ⅳ
401	64	072-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	外：10YR7/3 内：10YR8/2	口縁部 小片		Ⅳ
402	64	082-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR7/2 内：2.5Y7/2	口縁部 小片		Ⅳ
403	64	077-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E8	包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：7.5YR4/3 内：10YR7/3	口縁部 小片		Ⅳ
404	64	074-04	縄文土器深鉢	AⅢ	A8	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	外：10YR5/2 内：10YR6/3	口縁部 小片		Ⅳ
405	64	077-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/3	口縁部 小片		Ⅳ
406	64	082-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	10YR8/2	口縁部 小片		Ⅳ

第16表　土器・土製品観察表11

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
407	64	074-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	5Y3/1	口縁部小片		Ⅳ
408	64	045-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SX43	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	良	10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ
409	64	074-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y4/1 内：10YR5/2	口縁部小片		Ⅳ
410	64	080-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y8/2	口縁部小片		Ⅳ
411	64	076-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
412	64	044-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	SX28	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR7/2 内：10YR8/3	口縁部小片		Ⅳ
413	64	080-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y8/2	口縁部小片		Ⅳ
414	64	070-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
415	64	075-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR6/2	口縁部小片		Ⅳ
416	64	073-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B9	包含層	—	—	—	条痕?、ナデ	条痕、ナデ	ナデ	密	やや良	外：10YR6/3 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
417	64	055-04	縄文土器深鉢	AⅢ	—	西壁	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y8/2 内：10YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
418	64	055-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	撹乱層	—	—	—	条痕後ナデ	ナデ	ナデ	密	良	外：2.5Y4/1 内：5Y3/1	口縁部小片		Ⅳ
419	64	071-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	条痕、ナデ	条痕	やや粗	並	外：10YR6/3 内：2.5Y7/2	口縁部小片		Ⅳ
420	64	076-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：7.5YR4/1 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
421	64	078-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
422	64	079-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	28.0	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/2	口縁部2/12		Ⅳ
423	64	002-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E8	包含層	34.6	—	—	条痕、ケズリ	ナデ	ナデ	粗	やや良	外：2.5Y7/1 内：N4/	口縁部2/12		Ⅳ
424	64	076-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ
425	64	055-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C5	撹乱層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	並	外：10YR7/3 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
426	64	079-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y3/2	口縁部小片		Ⅳ
427	64	002-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	D7	包含層	21.6	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR7/2 内：10YR7/2	口縁部1/12		Ⅳ
428	64	057-06	縄文土器小形	AⅢ	—	西壁	—	—	—	沈線、条痕	ナデ	ナデ	密	やや良	外：10YR5/1 内：10YR4/1	口縁部小片	赤色顔料	Ⅳ
429	64	067-04	縄文土器小形	AⅢ	C2	包含層	5.1	6.7	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：2.5Y5/1 内：10YR7/3	体部11/12		Ⅳ
430	65	099-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR3/1 内：10YR8/3	口縁部小片		
431	65	005-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	良	良	外：10YR8/3 内：10YR7/1	口縁部小片		Ⅳ
432	65	073-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外：10YR3/1 内：N2/	口縁部小片		Ⅳ
433	65	073-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR7/3 内：10YR5/2	口縁部小片		Ⅳ
434	65	076-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
435	65	099-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	—	密	やや良	外：7.5YR7/4 内：2.5Y7/2	口縁部小片		Ⅳ
436	65	073-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR8/2 内：2.5Y8/2	口縁部小片		Ⅳ
437	65	072-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y8/2 内：2.5Y8/2	口縁部小片		Ⅳ
438	65	068-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	7.5YR5/1	口縁部小片		Ⅳ
439	65	075-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B9	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	外：7.5YR4/1 内：7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
440	65	070-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR4/1 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ
441	65	072-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E1	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外：7.5YR5/4 内：7.5YR6/4	口縁部小片		Ⅳ
442	65	077-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	2.5Y4/1	口縁部小片		Ⅳ
443	65	077-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ

第17表　土器・土製品観察表12

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
444	65	077-08	縄文土器深鉢	AⅢ	E9	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
445	65	123-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	2.5Y8/1	口縁部小片		Ⅳ
446	65	068-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ
447	65	076-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
448	65	072-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	並	外：10YR8/3 内：10YR7/6	口縁部小片		Ⅳ
449	65	077-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR4/1 内：10YR8/3	口縁部小片		Ⅳ
450	65	068-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	2.5Y7/2	口縁部小片		Ⅳ
451	65	070-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E8	包含層	18.0	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/1	口縁部2/12		Ⅳ
452	65	075-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	やや良	7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
453	65	075-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/6	口縁部小片		Ⅳ
454	65	056-06	縄文土器深鉢	AⅢ	—	西壁	—	—	—	ナデ	ミガキ	ナデ	密	やや良	外：10YR6/3 内：10YR4/1	口縁部小片	赤色顔料	Ⅳ
455	65	002-03	縄文土器小形	AⅢ	B9	包含層	7.0	4.0	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：7.5YR6/2 内：10YR7/1	口縁部3/12	赤色顔料	Ⅳ
456	65	073-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
457	65	055-06	縄文土器深鉢	AⅢ	—	東壁	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	密	やや不良	10YR6/3	口縁部小片		Ⅳ
458	65	044-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	SX28	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
459	65	077-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	条痕	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR8/2 内：2.5Y8/1	口縁部小片		Ⅳ
460	65	074-08	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや密	良	外：10YR5/2 内：10YR5/1	口縁部小片		Ⅳ
461	65	069-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y5/1	口縁部小片		Ⅳ
462	65	067-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/2	口縁部小片		Ⅳ
463	65	069-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	E	包含層	—	—	—	ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/1	口縁部小片		Ⅳ
464	65	069-04	縄文土器浅鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR5/1 内：7.5YR6/3	口縁部小片	第３層	Ⅳ
465	65	069-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR5/2 内：N3/	口縁部小片		Ⅳ
466	65	069-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	D6	包含層	—	—	—	ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや密	並	2.5Y7/2	口縁部小片		Ⅳ
467	65	098-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	沈線	密	やや良	外：10YR6/3 内：10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
468	66	077-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや粗	やや良	外：7.5YR5/1 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅳ
469	66	076-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	10YR8/4	口縁部小片		Ⅳ
470	66	097-08	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	粗	並	外：10YR5/1 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
471	66	076-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	7.5YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
472	66	073-08	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ	ナデ	密	並	外：10YR5/1 内：2.5Y6/1	口縁部小片		Ⅳ
473	66	068-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：N4/ 内：10YR5/1	口縁部小片		Ⅳ
474	66	075-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR7/2 内：10YR4/2	口縁部小片		Ⅳ
475	66	098-05	縄文土器浅鉢	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	ミガキ、ケズリ	ミガキ	ナデ	密	やや良	外：N2/ 内：10YR6/4	口縁部小片		Ⅳ
476	66	076-05	縄文土器浅鉢	AⅢ	E8	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	外：10YR7/3 内：7.5YR3/1	口縁部小片		Ⅳ
477	66	057-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	D6	撹乱層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	密	並	外：2.5Y4/1 内：2.5Y7/3	口縁部小片		Ⅳ
478	66	057-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	B4	撹乱溝	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	密	やや良	外：10YR5/2 内：N3/	口縁部小片		Ⅳ
479	66	004-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	B8	包含層	—	—	—	ミガキ、ケズリ	ナデ	ナデ	不良	良	外：2.5YR4/1 内：10YR3/1	口縁部小片		Ⅳ
480	66	099-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	C1	包含層	—	—	—	ミガキ	オサエ、ナデ	ヨコナデ	密	やや良	外：2.5Y3/1 内：10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
481	66	098-07	縄文土器浅鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	密	やや良	外：7.5Y3/1 内：10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ

第18表　土器・土製品観察表13

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
482	66	103-07	縄文土器浅鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	ナデ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	外：7.5YR6/4 内：10YR8/3	口縁部 小片		Ⅳ
483	66	098-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ	ナデ	やや密	良	外：10YR7/3 内：2.5Y5/1	口縁部 小片		Ⅳ
484	66	098-06	縄文土器浅鉢	AⅢ	D2	包含層	—	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ	ナデ	密	良	外：N2/ 内：2.5Y5/1	口縁部 小片		Ⅳ
485	66	098-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外：N4/ 内：10YR5/1	口縁部 小片		Ⅳ
486	66	098-04	縄文土器浅鉢	AⅢ	D4	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外：2.5Y4/1 内：2.5Y6/2	口縁部 小片		Ⅳ
487	66	103-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや密	やや良	7.5YR4/2	口縁部 小片	赤色顔料	Ⅳ
488	66	070-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	ナデ	やや密	並	2.5Y6/1	口縁部 小片		Ⅳ
489	66	072-07	縄文土器浅鉢	AⅢ	E6	包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	密	良	外：10YR7/3 内：10YR8/2	口縁部 小片		Ⅳ
490	66	080-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	C5	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	粗	良	10YR4/1	口縁部 小片		Ⅳ
491	66	096-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや密	並	10YR3/1	口縁部 小片		Ⅳ
492	66	103-08	縄文土器浅鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：7.5YR8/6 内：10YR8/2	口縁部 小片		Ⅳ
493	66	073-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	ミガキ、沈線	ナデ	ナデ	密	良	外：2.5Y5/1 内：2.5Y4/1	口縁部 小片	赤色顔料	Ⅳ
494	66	070-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	B5	包含層	—	—	—	ミガキ、ナデ	ミガキ	ナデ	やや粗	並	外：10YR5/1 内：N4/	口縁部 小片		Ⅳ
495	66	003-02	縄文土器浅鉢	AⅢ	E7	包含層	16.0	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR7/1 内：10YR7/1	口縁部 3/12		Ⅳ
496	66	100-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	C4	包含層	33.4	—	—	ケズリ、ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	外：10YR4/1 内：N3/	口縁部 4/12		Ⅳ
497	67	004-08	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	包含層	20.2	—	—	刺突、沈線	ナデ	キザミ	やや不良	良	7.5YR4/2	口縁部 1/12	第３層	Ⅴ
498	67	099-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	浅線、縄文	ナデ	キザミ	密	やや良	外：10YR4/1 内：2.5Y4/1	口縁部 小片		Ⅴ
499	67	004-06	縄文土器浅鉢	AⅢ	D7	包含層	12.5	—	—	沈線、縄文、ミガキ	ミガキ	ナデ	やや不良	良	外：7.5YR7/1 内：7.5YR4/1	口縁部 2/12	第２層	Ⅴ
500	67	101-06	縄文土器浅鉢	AⅢ	D4	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR4/1	体部 小片		Ⅴ
501	67	102-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	C3	包含層	—	—	—	ナデ、縄文、刺突	ケズリ	—	やや粗	やや良	外：10YR8/4 内：N3/	体部 小片	赤色顔料	Ⅴ
502	67	101-03	縄文土器注口	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	ナデ、条痕、刺突、縄文	ナデ	—	やや粗	やや良	7.5YR4/1	体部 小片		Ⅴ
503	67	102-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	E5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線、キザミ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：10YR6/2 内：10YR4/1	体部 小片		Ⅴ
504	67	101-02	縄文土器注口	AⅢ	B3	包含層	—	—	—	ナデ、縄文	ナデ	—	やや密	やや良	N3/	体部 小片		Ⅴ
505	67	006-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	B6	包含層	38.6	—	—	浮線、ミガキ	ナデ	ナデ	良	良	外：5YR4/1 内：7.5YR5/1	口縁部 2/12	穿孔	Ⅴ
506	67	101-04	縄文土器浅鉢	AⅢ	C4	包含層	—	—	—	浮線、ミガキ	ナデ	—	やや密	やや良	10YR4/1	体部 小片		Ⅴ
507	67	125-09	縄文土器浅鉢	AⅢ	B6	撹乱層	—	—	—	浮線、ミガキ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR6/6	口縁部 小片		Ⅴ
508	67	101-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	B6	包含層	—	—	—	浮線、ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	やや良	10YR7/4	口縁部 小片		Ⅴ
509	67	005-05	縄文土器浅鉢	AⅢ	B4	包含層	—	—	—	浮線、ミガキ	ナデ	ナデ	良	良	外：7.5YR7/3 内：7.5YR7/4	口縁部 小片		Ⅴ
510	67	101-05	縄文土器浅鉢	AⅢ	E3	包含層	—	—	—	浮線、ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや密	やや良	外：7.5YR7/4 内：10YR7/3	口縁部 小片		Ⅴ
511	68	063-05	縄文土器	AⅢ	C4	包含層	—	—	3.5	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：2.5YR7/4 内：10YR5/1	底部 6/12		
512	68	063-08	縄文土器	AⅢ	D2	包含層	—	—	4.1	ケズリ	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR6/3 内：10YR8/2	底部 完存		
513	68	064-06	縄文土器	AⅢ	E7	包含層	—	—	3.9	ケズリ	ナデ、ケズリ	—	粗	並	外：10YR7/2 内：10YR5/1	底部 完存		
514	68	064-01	縄文土器	AⅢ	D5	包含層	—	—	4.3	ケズリ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/4 内：10YR6/1	底部 完存		
515	68	063-04	縄文土器	AⅢ	C4	包含層	—	—	2.8	ケズリ	ナデ	—	やや粗	並	外：5YR8/4 内：10YR7/1	底部 完存		
516	68	064-03	縄文土器	AⅢ	D5	包含層	—	—	3.8	ケズリ	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR7/1 内：7.5YR7/3	底部 6/12		
517	68	063-03	縄文土器	AⅢ	C4	包含層	—	—	3.9	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR6/3 内：7.5YR6/1	底部 完存		
518	68	064-07	縄文土器	AⅢ	E8	包含層	—	—	4.2	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：5YR6/4 内：N4/	底部 6/12		

第19表　土器・土製品観察表14

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
519	68	062-06	縄文土器	AⅢ	B7	包含層	—	—	3.2	ナデ	オサエ、ナデ	—	粗	並	10YR7/3	底部完存		
520	68	064-02	縄文土器	AⅢ	D5	包含層	—	—	5.8	—	—	—	粗	並	7.5YR7/4	底部完存		
521	68	063-02	縄文土器	AⅢ	C2	包含層	—	—	3.6	条痕、ナデ、ミガキ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：2.5Y8/2	底部7/12		
522	68	063-06	縄文土器	AⅢ	C5	包含層	—	—	3.9	条痕、ナデ	条痕、ナデ	—	粗	並	外：5YR7/4 内：10YR6/1	底部8/12		
523	68	063-07	縄文土器	AⅢ	C8	包含層	—	—	3.6	ケズリ、ナデ	条痕、ナデ	—	粗	並	外：10YR6/2 内：10YR5/1	底部6/12		
524	68	060-01	縄文土器	AⅢ	B6	撹乱層	—	—	3.6	ナデ	条痕、ナデ	—	粗	やや不良	外：7.5YR7/4 内：2.5Y5/1	底部完形		
525	68	059-06	縄文土器	AⅢ	—	東壁	—	—	3.0	ナデ	条痕	—	粗	並	外：7.5YR7/4 内：10YR7/3	底部6/12		
526	68	064-04	縄文土器	AⅢ	D6	包含層	—	—	3.6	ナデ	オサエ、ナデ	—	粗	並	外：7.5YR6/3 内：10YR5/2	底部4/12		
527	68	063-01	縄文土器	AⅢ	B7	包含層	—	—	3.4	条痕、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：2.5Y6/1	底部10/12		
528	68	062-05	縄文土器	AⅢ	B6	包含層	—	—	3.2	条痕、ナデ	条痕	—	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR3/1	底部8/12		
529	68	003-03	縄文土器	AⅢ	B8	包含層	—	—	5.0	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	—	粗	やや良	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/1	底部完存		
530	68	062-03	縄文土器	AⅢ	B7	包含層	—	—	2.3	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	—	粗	並	7.5YR4/1	底部8/12	赤色顔料	
531	68	062-04	縄文土器	AⅢ	B7	包含層	—	—	5.4	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR7/3 内：2.5Y4/1	底部6/12		
532	68	065-05	縄文土器	AⅢ	C1	包含層	—	—	6.3	ナデ、ケズリ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR7/4 内：2.5Y6/1	底部8/12		
533	68	066-04	縄文土器	AⅢ	D2	包含層	—	—	1.8	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR8/3 内：10YR5/1	底部9/12		
534	68	066-02	縄文土器	AⅢ	C2	包含層	—	—	2.3	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	10YR5/1	底部6/12		
535	68	066-01	縄文土器	AⅢ	C3	包含層	—	—	2.4	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：2.5Y7/1	底部6/12		
536	68	066-03	縄文土器	AⅢ	D7	包含層	—	—	3.7	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR6/3 内：7.5YR4/1	底部4/12		
537	68	066-05	縄文土器	AⅢ	D6	包含層	—	—	4.2	ケズリ、ミガキ	ナデ	—	粗	並	外：10YR6/4 内：2.5Y5/1	底部完存		
538	68	066-07	縄文土器	AⅢ	B6	包含層	—	—	4.3	ミガキ、ナデ	ミガキ	—	やや粗	並	外：7.5YR7/6 内：10YR8/3	底部6/12		
539	68	065-07	縄文土器	AⅢ	B5	包含層	—	—	4.3	ミガキ	ミガキ	—	やや粗	並	外：10YR8/3 内：10YR8/2	底部完存		
540	68	034-08	縄文土器	AⅢ	E9	SH11	—	—	4.5	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	2.5Y7/2	底部完存		
541	68	065-01	縄文土器	AⅢ	D4	包含層	—	—	5.8	ミガキ、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/2 内：2.5Y6/1	底部完存		
542	68	060-05	縄文土器	AⅢ	—	南壁	—	—	4.6	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR6/3 内：10YR5/2	底部完形		
543	68	065-02	縄文土器	AⅢ	E6	包含層	—	—	7.7	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/3 内：10YR5/1	底部6/12		
544	68	065-04	縄文土器	AⅢ	E6	包含層	—	—	5.8	ナデ	ナデ	—	粗	並	10YR6/3	底部完形		
545	68	060-03	縄文土器	AⅢ	D5	撹乱層	—	—	4.6	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR6/2 内：2.5Y6/2	底部5/12		
546	68	050-04	縄文土器	AⅢ	B6	撹乱層	—	—	7.1	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：7.5YR7/4	底部8/12		
547	68	066-06	縄文土器	AⅢ	E5	包含層	—	—	5.2	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR8/2 内：2.5Y6/1	底部3/12		
548	68	065-01	縄文土器	AⅢ	E7	包含層	—	—	8.5	ナデ、オサエ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/2 内：10YR7/1	底部4/12		
549	68	065-03	縄文土器	AⅢ	D6	包含層	—	—	8.0	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR5/1	底部3/12		
550	68	045-01	縄文土器	AⅢ	C2	SX43	—	—	7.3	ケズリ	ナデ	—	粗	並	10YR8/3	底部4/12		
551	68	062-02	縄文土器	AⅢ	B3	包含層	—	—	9.0	条痕、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：7.5YR5/1	底部4/12		
552	68	062-01	縄文土器	AⅢ	B2	包含層	—	—	13.0	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR5/3 内：7.5YR6/3	底部2/12		
553	68	060-02	縄文土器	AⅢ	D5	撹乱層	—	—	7.8	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR7/2	底部3/12		
554	68	047-01	縄文土器	AⅢ	C1,2	SX44	—	—	—	ケズリ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：10YR8/3 内：2.5Y7/1	底部小片		
555	68	064-05	縄文土器	AⅢ	E5	包含層	—	—	3.3	ケズリ、ナデ	条痕	—	粗	並	N2/	底部少量		

第20表　土器・土製品観察表15

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
556	69	126-04	土製品	AⅢ	D6	包含層	外径2.4～2.6	内径1.3～1.5	—	ナデ	ナデ	—	密	やや良	N3/		赤色顔料	
557	69	126-05	土製品	AⅢ	E5	包含層	幅2.15	厚み1.1	—	ナデ	—	—	密	並	7.5YR6/6			
558	69	032-01	土製品	AⅢ	C7	SK19	—	—	—	ナデ、条痕	—	—	粗	並	2.5Y8/2	体部片		
559	70	112-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SK83	36.2	—	—	沈線、キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁部6/12		
560	70	113-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	SK83	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR5/3 内：10YR7/3	口縁部小片		
561	70	113-08	縄文土器深鉢	AⅢ		SK84	—	—	—	ナデ、キザミ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR5/3 内：10YR5/2	口縁部小片		
562	70	113-09	縄文土器	AⅢ	E3	SK84	—	—	—	貼付け突帯	ナデ	—	やや粗	並	外：7.5YR6/4 内：10YR5/2	体部小片		
563	70	113-01	縄文土器	AⅢ	E3	SK84	—	—	9.7	隆帯・キザミ、ナデ	ナデ	—	粗	並	2.5Y5/4	底部4/12		
564	70	105-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D,E9	SK66	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR8/4	口縁部小片		Ⅱ
565	70	105-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D,E9	SK66	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR3/2	口縁部小片		Ⅱ
566	70	106-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D,E9	SK66	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	粗	良	10YR7/3	口縁部小片		Ⅱ
567	70	105-08	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK74	—	—	—	沈線、ミガキ	ナデ	—	粗	良	7.5YR5/1	体部小片	赤色顔料	Ⅱ
568	70	106-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK74	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅱ
569	70	104-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK74	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅱ
570	70	107-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	SK86	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR3/2 内：10YR6/3	口縁部小片		Ⅱ
571	70	107-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	SK86	—	—	—	条痕	条痕	ナデ	やや粗	並	外：10YR8/2 内：7.5YR4/2	口縁部小片		Ⅱ
572	70	107-01	縄文土器	AⅢ	B8	SK86	—	—	2.2	条痕	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/4 内：2.5Y6/1	底部6/12		
573	70	105-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C8	SK71	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR5/2	口縁部小片		
574	70	106-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	良	7.5YR8/3	口縁部小片		Ⅱ
575	70	106-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR7/6	口縁部小片		Ⅱ
576	70	106-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	ナデ、条痕	ナデ	キザミ	粗	良	10YR7/4	口縁部小片		Ⅱ
577	70	105-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/2	口縁部小片		Ⅱ
578	70	104-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	ナデ、ケズリ	ケズリ	ナデ	粗	良	10YR3/2	口縁部小片		Ⅱ
579	70	105-01	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅱ
580	70	104-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	ナデ	ナデ、ケズリ	ナデ	粗	良	10YR7/3	口縁部小片		Ⅱ
581	70	104-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	条痕、ナデ、ケズリ	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR4/1	口縁部小片		Ⅱ
582	70	104-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR6/3	口縁部小片		Ⅱ
583	70	106-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	SK73	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR7/4	口縁部小片		Ⅱ
584	70	105-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	SK69	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	N1.5/	口縁部小片		
585	70	104-08	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	SK69	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR5/2	口縁部小片		
586	70	107-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B7	SK76	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	N2/	口縁部小片		
587	70	105-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	SK68	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	やや粗	10YR8/2	口縁部小片		
588	70	104-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	C8	SK77	12.8	—	—	ミガキ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR8/2	口縁部2/12		Ⅳ
589	70	113-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	SX85	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/3 内：2.5Y5/1	口縁部小片		Ⅱ
590	70	113-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	SX85	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR6/2 内：10YR6/3	口縁部小片		Ⅱ
591	70	113-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	SX85	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR6/2	口縁部小片		Ⅱ
592	70	113-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	SX85	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ

第21表　土器・土製品観察表16

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
593	70	113-07	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	SX85	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR7/2 内：10YR5/2	口縁部 小片		Ⅳ
594	71	109-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	下層 Pit8	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/3	口縁部 小片		
595	71	109-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	下層 Pit5	—	—	—	キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	7.5YR7/4	口縁部 小片		
596	71	134-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	下層 Pit8	—	—	—	隆帯・キザミ、沈線	ナデ	—	やや粗	並	10YR5/2	体部 小片	2層目	
597	71	110-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	下層 Pit5	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/3	体部 小片		
598	71	134-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	下層 Pit12	—	—	—	—	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/3 内：2.5Y3/1	体部 小片	2層目	
599	71	108-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	下層 Pit1	—	—	—	条線、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	並	10YR7/3	体部 小片		
600	71	108-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	下層 Pit2	—	—	—	ミガキ、沈線	ミガキ	—	やや密	並	外：10YR2/1 内：10YR4/1	体部 小片	赤色顔料	
601	71	109-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	下層 Pit6	—	—	—	沈線、刺突、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR4/1 内：7.5YR5/2	体部 小片		
602	71	054-02	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	Pit1	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：N4/ 内：N4/	口縁部 小片		Ⅱ
603	71	111-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	下層 Pit2	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR7/2	口縁部 小片		Ⅱ
604	71	109-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	下層 Pit7	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	2.5Y4/1	口縁部 小片		Ⅱ
605	71	109-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	下層 Pit17	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	並	10YR8/3	口縁部 小片		Ⅱ
606	71	108-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	下層 Pit1	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	10YR8/2	口縁部 小片		Ⅱ
607	71	110-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	下層 Pit7	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR4/1 内：10YR4/1	口縁部 小片		Ⅱ
608	71	107-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	下層 Pit1	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR6/3 内：7.5YR6/4	口縁部 小片		Ⅱ
609	71	133-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	下層 Pit18	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	良	2.5Y6/1	口縁部 小片	2層目	Ⅳ
610	71	111-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D7	下層 Pit2	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR6/1	口縁部 小片		Ⅳ
611	71	108-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	下層 Pit1	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR7/4	口縁部 小片		Ⅳ
612	71	108-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	下層 Pit3	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：7.5YR6/4 内：7.5YR5/2	口縁部 小片		Ⅳ
613	71	108-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	下層 Pit3	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR3/1 内：10YR6/3	口縁部 小片		Ⅳ
614	71	107-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	下層 Pit1	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR5/3 内：10YR5/1	口縁部 小片		Ⅳ
615	71	133-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	下層 Pit14	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR8/3 内：2.5Y4/1	口縁部 小片	2層目	Ⅳ
616	71	134-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B4	下層 Pit8	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR7/3	口縁部 小片	2層目	Ⅳ
617	71	109-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B5	下層 Pit2	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR5/3 内：7.5YR6/3	口縁部 小片		Ⅳ
618	71	111-04	縄文土器浅鉢	AⅢ	D7	下層 Pit2	—	—	—	ナデ	沈線、ミガキ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR5/2 内：7.5YR7/4	口縁部 小片		Ⅳ
619	71	111-05	縄文土器浅鉢	AⅢ	D7	下層 Pit6	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR7/2 内：10YR7/3	口縁部 小片		Ⅳ
620	71	110-05	縄文土器壺	AⅢ	D7	下層 Pit5	—	—	—	沈線、ナデ	沈線、ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR4/1 内：5YR4/1	口縁部 小片		Ⅳ
621	71	111-06	縄文土器浅鉢	AⅢ	E6	下層 Pit2	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	やや粗	並	10YR5/2	口縁部 小片		Ⅳ
622	71	108-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	下層 Pit3	—	—	—	ミガキ	ミガキ	沈線	やや密	並	10YR3/1	口縁部 小片		Ⅳ
623	71	107-07	縄文土器浅鉢	AⅢ	C1	下層 Pit1	—	—	—	浮線、ミガキ	ミガキ	—	密	並	10YR5/3	体部 小片		Ⅳ
624	71	107-08	縄文土器深鉢	AⅢ	C1	下層 Pit1	—	—	—	突帯、ミガキ	条痕	ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁部 小片		Ⅳ
625	71	110-01	縄文土器	AⅢ	D6	下層 Pit4	—	—	3.0	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR4/1	底部 6/12		
626	71	110-02	縄文土器	AⅢ	C7	下層 Pit2	—	—	2.5	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR6/2 内：7.5YR6/3	底部 完形		
627	71	110-03	縄文土器	AⅢ	D7	下層 Pit2	—	—	3.0	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	やや不良	外：10YR6/3 内：10YR6/1	底部 9/12		
628	71	109-07	縄文土器	AⅢ	C4	下層 Pit8	—	—	7.0	ミガキ、ケズリ	ナデ	—	粗	並	10YR5/1	底部 4/12	赤色顔料	
629	72	128-02	縄文土器	AⅢ	E2	下層 包含層	—	—	—	爪形、縄文	ナデ	—	粗	並	7.5YR6/6	体部 小片		

第22表　土器・土製品観察表17

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
630	72	128-01	縄文土器	AⅢ	D3	下層包含層	—	—	—	爪形、縄文	ナデ	—	やや粗	並	外：5YR6/4 内：7.5YR5/2	体　部 小　片		
631	72	128-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	下層包含層	—	—	—	沈線?、キザミ	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR5/4 内：10YR6/4	体　部 小　片		
632	72	132-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	縄文、刺突	ナデ	縄文	やや粗	並	2.5Y6/2	口縁部 小　片	2層目	
633	72	133-08	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	ヨコナデ	粗	並	7.5Y5/4	口縁部 小　片	2層目	
634	72	131-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ヨコナデ	やや密	並	外：10YR5/3 内：5YR5/4	口縁部 小　片		
635	72	128-07	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	縄目、沈線	ナデ	縄目	粗	並	5YR5/4	口縁部 小　片		
636	72	129-02	縄文土器	AⅢ	C3	下層包含層	—	—	—	隆帯・刺突、ナデ	ナデ	キザミ	粗	並	10YR6/4	口縁部 小　片		
637	72	129-01	縄文土器	AⅢ	D6	下層包含層	—	—	—	ナデ、刺突、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外：7.5YR6/4 内：10YR7/3	口縁部 小　片	穿孔	
638	72	134-02	縄文土器	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	縄文	粗	並	外：7.5YR5/2 内：5YR5/4	口縁部 小　片	2層目	
639	72	134-01	縄文土器	AⅢ	E2	下層包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/4	口縁部 小　片	2層目	
640	72	128-06	縄文土器	AⅢ	C2	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線	オサエ	キザミ	粗	並	外：7.5YR7/4 内：10YR8/3	口縁部 小　片		
641	72	128-05	縄文土器	AⅢ	C2	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR6/4 内：10YR8/3	口縁部 小　片		
642	72	129-06	縄文土器	AⅢ	C3	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	並	外：5YR7/4 内：10YR5/1	体　部 小　片		
643	72	129-03	縄文土器	AⅢ	C4	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：5YR7/6 内：10YR7/4	体　部 小　片		
644	72	128-03	縄文土器	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	並	7.5YR7/4	体　部 小　片		
645	72	131-01	縄文土器	AⅢ	E6	下層包含層	—	—	—	沈線	ナデ	—	やや密	並	外：10YR7/6 内：7.5YR6/6	体　部 小　片		
646	72	130-02	縄文土器	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	並	7.5YR6/4	体　部 小　片		
647	72	129-07	縄文土器	AⅢ	C2	下層包含層	—	—	—	ナデ・沈線文	ナデ	—	粗	並	外：10YR4/1 内：10YR6/3	体　部 小　片		
648	72	132-02	縄文土器	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR7/3	体　部 小　片	2層目	
649	72	129-05	縄文土器	AⅢ	D2	下層包含層	—	—	—	条線	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR5/4 内：10YR7/3	体　部 小　片		
650	72	130-07	縄文土器	AⅢ	D7	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/2 内：10YR8/3	体　部 小　片		
651	72	128-08	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	下層包含層	—	—	—	隆帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR8/3 内：7.5YR6/6	口縁部 小　片		
652	72	130-01	縄文土器	AⅢ	E2	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	並	10YR6/2	体　部 小　片		
653	72	130-08	縄文土器	AⅢ	D2	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	—	粗	並	5YR5/4	体　部 小　片		
654	72	130-05	縄文土器	AⅢ	B3	下層包含層	—	—	—	沈線、縄文、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	10YR6/4	体　部 小　片		
655	72	130-03	縄文土器	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	粗	並	外：10YR4/1 内：10YR6/4	体　部 小　片		
656	72	134-03	縄文土器	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR3/2 内：7.5YR7/4	体　部 小　片	2層目	
657	72	129-08	縄文土器	AⅢ	E6	下層包含層	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	—	やや粗	並	外：7.5YR8/4 内：2.5Y8/1	体　部 小　片		
658	72	130-06	縄文土器	AⅢ	C3	下層包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR4/2 内：10YR5/2	体　部 小　片		
659	72	129-04	縄文土器	AⅢ	C3	下層包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	—	粗	並	7.5YR6/4	体　部 小　片		
660	73	118-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D4	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR5/3 内：N4/	口縁部 小　片		Ⅱ
661	73	118-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E7	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：2.5Y5/1 内：2.5Y3/1	口縁部 小　片		Ⅱ
662	73	116-08	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	並	7.5YR5/2	口縁部 小　片		Ⅱ
663	73	132-06	縄文土器深鉢	AⅢ	E1	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：7.5YR7/4 内：2.5Y4/1	口縁部 小　片	2層目	Ⅱ
664	73	117-09	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや密	並	10YR3/1	口縁部 小　片		Ⅱ
665	73	119-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ、沈線	キザミ	やや粗	並	外：10YR7/2 内：5Y2/1	口縁部 小　片		Ⅱ
666	73	118-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	下層包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR7/1 内：N6/	口縁部 小　片		Ⅱ

第23表　土器・土製品観察表18

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
667	73	117-10	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや密	並	外：7.5YR5/1 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅱ
668	73	118-05	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	10YR3/1	口縁部小片		Ⅱ
669	73	118-08	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや密	並	2.5Y3/1	口縁部小片		Ⅱ
670	73	118-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	下層包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR5/1	口縁部小片		Ⅱ
671	73	132-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	並	外：10YR7/3 内：N5/	口縁部小片	2層目	Ⅱ
672	73	132-05	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	並	外：10YR6/3 内：2.5Y7/2	口縁部小片	2層目	Ⅱ
673	73	118-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	下層包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	キザミ	やや粗	並	7.5YR4/1	口縁部小片		Ⅲ
674	73	117-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	下層包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR8/3 内：2.5Y5/1	口縁部小片		Ⅳ
675	73	117-06	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	下層包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：N3/ 内：2.5Y7/1	口縁部小片		Ⅳ
676	73	134-04	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	下層包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ヨコナデ	ヨコナデ	粗	並	10YR8/2	口縁部小片	2層目	Ⅴ
677	73	117-03	縄文土器深鉢	AⅢ	D2	下層包含層	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/1 内：10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
678	73	117-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	下層包含層	—	—	—	ナデ、突帯・キザミ	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/2	口縁部小片		Ⅴ
679	73	117-04	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	下層包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR4/1 内：7.5YR4/2	口縁部小片		Ⅳ
680	73	117-02	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	下層包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：7.5YR6/3 内：2.5Y4/1	口縁部小片		Ⅳ
681	73	119-05	縄文土器深鉢	AⅢ	C2	下層包含層	12.0	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR3/1	口縁部小片		Ⅳ
682	73	116-02	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	条痕	条痕	ナデ	やや粗	並	7.5YR7/4	口縁部小片		
683	73	116-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	下層包含層	—	—	—	条痕、ナデ	条痕	ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁部小片		
684	73	133-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR8/2	口縁部小片	2層目	
685	73	116-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C8	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：5YR6/6 内：10YR3/1	口縁部小片		
686	73	119-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E4	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y3/1 内：2.5Y6/1	口縁部小片		
687	73	115-04	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR4/2 内：2.5Y7/1	口縁部小片		
688	73	115-06	縄文土器深鉢	AⅢ	C7	下層包含層	—	—	—	条痕	ヨコナデ	ヨコナデ	粗	並	10YR7/3	口縁部小片		
689	73	115-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	下層包含層	—	—	—	条痕	条痕	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR6/3 内：10YR7/4	口縁部小片		
690	73	133-03	縄文土器深鉢	AⅢ	C4	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y6/1	口縁部小片	2層目	
691	73	115-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B3	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR4/1	口縁部小片		
692	73	115-07	縄文土器深鉢	AⅢ	D6	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR6/3 内：2.5Y5/1	口縁部小片		
693	73	132-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/2	口縁部小片	2層目	
694	73	115-05	縄文土器深鉢	AⅢ	E2	下層包含層	—	—	—	ミガキ?	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR5/1	口縁部小片		
695	73	132-08	縄文土器深鉢	AⅢ	D3	下層包含層	—	—	—	条痕	条痕、沈線	ナデ	やや密	並	10YR7/2	口縁部小片	2層目	
696	73	133-06	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	ナデ	ヨコナデ、沈線	ナデ	やや粗	並	外：10YR5/2 内：7.5YR6/4	口縁部小片	2層目	
697	73	133-07	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y4/1	口縁部小片	2層目	
698	74	114-01	縄文土器深鉢	AⅢ	E3	下層包含層	20.5	—	—	ナデ、条痕、ミガキ	ミガキ、ナデ	ナデ	粗	並	7.5YR6/4	口縁部4/12		Ⅳ
699	74	117-07	縄文土器深鉢	AⅢ	C6	下層包含層	—	—	—	ナデ、ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	並	10YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
700	74	117-01	縄文土器深鉢	AⅢ	B8	下層包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR2/1 内：10YR7/2	口縁部小片		Ⅳ
701	74	119-02	縄文土器深鉢	AⅢ	C3	下層包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	並	N2/	口縁部小片		Ⅳ
702	74	116-05	縄文土器深鉢	AⅢ	D5	下層包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	粗	並	7.5YR6/4	口縁部小片		Ⅳ
703	74	115-02	縄文土器壺	AⅢ	C5	下層包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR6/2 内：10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ

第24表　土器・土製品観察表19

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
704	74	118-01	縄文土器浅鉢	AⅢ	C1	下層包含層	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ナデ	やや密	並	外：10YR4/1 内：10YR5/1	口縁部小片		Ⅳ
705	74	119-03	縄文土器壺	AⅢ	C4	下層包含層	12.0	—	—	沈線、ミガキ	沈線、ミガキ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y5/1 内：N4/	口縁部小片		Ⅳ
706	74	115-03	縄文土器深鉢	AⅢ	E6	下層包含層	—	—	—	ケズリ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：2.5Y4/1 内：2.5Y6/1	口縁部小片		Ⅳ
707	74	116-06	縄文土器深鉢	AⅢ	A8	下層包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	7.5YR4/1	口縁部小片		Ⅳ
708	74	116-04	縄文土器深鉢	AⅢ	E5	下層包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	粗	並	外：5YR5/4 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅳ
709	74	132-03	縄文土器深鉢	AⅢ	B2	下層包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR4/2 内：10YR7/3	口縁部小片	2層目	Ⅳ
710	74	116-01	縄文土器深鉢	AⅢ	D9	下層包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR6/3 内：7.5YR4/2	口縁部小片		Ⅳ
711	74	131-03	縄文土器浅鉢	AⅢ	E3	下層包含層	—	—	—	沈線、キザミ、ミガキ	ナデ	ナデ	密	並	外：10YR7/3 内：2.5Y3/1	口縁部小片		Ⅳ
712	74	131-04	縄文土器浅鉢	AⅢ	C7	下層包含層	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	密	並	外：10YR7/6 内：10YR7/4	口縁部小片		Ⅳ
713	74	114-03	縄文土器	AⅢ	B3	下層包含層	—	—	4.0	ナデ	ナデ	—	粗	並	7.5YR7/4	底部完存		
714	74	114-04	縄文土器	AⅢ	C5	下層包含層	—	—	4.0	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	—	粗	並	10YR6/2	底部8/12		
715	74	114-02	縄文土器	AⅢ	C8	下層包含層	—	—	5.3	ケズリ、ナデ	ケズリ、ナデ	—	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR6/1	底部完存		
716	74	131-06	土製品	AⅢ	C3	下層包含層	残存長4.0	厚み0.5～0.55	円孔径0.45	ナデ	ナデ	—	密	並	外：10YR4/1 内：N3/		土器片錘	
717	75	164-04	縄文土器	BⅠ	J4	SK98	—	—	—	縄文、沈線	ミガキ	—	やや粗	並	2.5Y6/3	体部小片		
718	75	168-09	縄文土器	BⅠ	J4	SK98	—	—	—	沈線、条痕	ナデ	—	粗	並	10YR7/4	体部小片		
719	75	174-04	縄文土器	BⅠ	J5,6	SK100	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ヨコナデ・ナデ	縄文	粗	並	10YR6/3	口縁部小片		
720	75	170-04	縄文土器	BⅠ	J6	SK100	—	—	—	縄文	ナデ	—	やや粗	やや良	外：10YR7/4 内：7.5YR7/6	体部小片		
721	75	171-01	縄文土器	BⅠ	J5,6	SK100	—	—	—	縄文、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：N3/ 内：7.5YR6/4	体部小片		
722	75	170-05	縄文土器	BⅠ	J6	SK100	—	—	—	縄文	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR6/4 内：7.5YR7/6	体部小片		
723	75	170-03	縄文土器	BⅠ	J6	SK100	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：10YR6/3 内：10YR7/4	体部小片		
724	75	171-03	縄文土器	BⅠ	J6	SK100	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	やや良	外：2.5Y7/2 内：10YR3/1	体部小片		
725	75	181-01	縄文土器双耳壺	BⅠ	J6,5	SK100	—	—	—	ミガキ、縄文	ナデ	—	粗	良	10YR3/1 2.5Y4/1	体部小片		
726	76	173-05	縄文土器深鉢	BⅠ	J5	SZ104	—	—	—	隆帯、ナデ	ナデ	キザミ	やや密	並	10YR6/3	口縁部小片		
727	76	176-02	縄文土器深鉢	BⅠ	J4	SZ104	—	—	—	刺突	ナデ	ナデ	密	やや不良	外：2.5Y4/2 内：2.5Y7/4	口縁部小片		
728	76	175-02	縄文土器深鉢	BⅠ	J3	SZ104	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR5/2	口縁部小片		
729	76	175-01	縄文土器深鉢	BⅠ	J5	SZ104	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	密	やや不良	10YR5/3	体部小片		
730	76	175-03	縄文土器深鉢	BⅠ	I5	SZ104	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	密	やや不良	外：10YR6/4 内：10YR5/3	体部小片		
731	76	180-07	縄文土器深鉢	BⅠ	I5	SZ104	—	—	—	隆帯・キザミ、ナデ	ナデ	—	やや密	並	外：2.5Y6/2 内：10YR5/2	体部小片		
732	76	180-08	縄文土器深鉢	BⅠ	I5	SZ104	—	—	—	隆帯・キザミ、ナデ	ナデ	—	やや密	並	外：10YR6/3 内：10YR5/2	体部小片		
733	76	173-02	縄文土器深鉢	BⅠ	H5	SZ104	—	—	—	沈線、刺突、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR7/3 内：2.5Y7/3	口縁部小片		
734	76	174-06	縄文土器深鉢	BⅠ	H5	SZ104	—	—	—	隆帯、刺突、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR6/2 内：2.5Y6/3	口縁部小片		
735	76	182-02	縄文土器深鉢	BⅠ	H14	SZ106	—	—	—	隆帯、刺突、縄文、沈線	ナデ	ナデ	粗	良	2.5Y7/3	口縁部小片		
736	76	178-05	縄文土器深鉢	BⅠ	I3	SZ104	—	—	—	沈線	ミガキ	ナデ	やや粗	並	外：10YR7/3 内：2.5Y7/4	口縁部小片		
737	76	175-06	縄文土器深鉢	BⅠ	I5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線、キザミ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR6/4 内：10YR4/2	口縁部小片		
738	76	159-04	縄文土器	BⅠ	I5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y7/3	口縁部小片		
739	76	177-07	縄文土器	BⅠ	I5 I6	SZ104	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	やや密	やや良	5YR5/4	口縁部小片		
740	76	177-06	縄文土器	BⅠ	H5	SZ104	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	やや密	やや良	外：5YR5/4 内：7.5YR4/1	口縁部小片		

第25表　土器・土製品観察表20

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
741	76	180-01	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y5/1 内：2.5Y7/3	口縁部 小片		
742	76	175-08	縄文土器	B I	I6	SZ104	—	—	—	沈線、キザミ	ナデ	ナデ	密	並	10YR6/4	口縁部 小片		
743	76	177-04	縄文土器	B I	I5	包含層	—	—	—	沈線、ミガキ	ナデ	—	やや密	やや良	5YR5/4	体部 小片		
744	76	172-03	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁部 小片		
745	76	172-02	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR7/3 内：7.5YR7/4	口縁部 小片		
746	76	171-04	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	隆帯・キザミ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：10YR7/2 内：10YR5/1	口縁部 小片		
747	76	168-01	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線文	ナデ	—	粗	やや良	外：10YR6/3 内：10YR7/4	体部 小片		
748	76	175-07	縄文土器	B I	I3	SZ104	—	—	—	隆帯・刺突	ナデ	—	密	並	7.5YR7/6	体部 小片		
749	76	180-06	縄文土器	B I	J4	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや密	並	7.5YR6/4	体部 小片		
750	76	168-06	縄文土器	B I	I3	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	体部 小片		
751	76	161-02	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/2 内：2.5Y5/1	体部 小片		
752	76	161-07	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR6/4 内：5YR6/6	体部 小片		
753	76	160-04	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	—	やや密	並	外：7.5YR4/1 内：10YR7/3	体部 小片		
754	76	159-05	縄文土器	B I	J4	SZ104	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	—	やや密	並	外：10YR6/3 内：10YR4/1	体部 小片		
755	76	159-08	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	—	やや粗	並	2.5Y5/1	体部 小片		
756	76	161-03	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR4/1 内：10YR6/3	体部 小片		
757	76	164-05	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：2.5Y4/1 内：10YR6/3	体部 小片		
758	76	161-08	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：7.5YR4/1 内：10YR6/4	体部 小片		
759	76	160-07	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	—	粗	並	10YR7/3	体部 小片		
760	76	177-02	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	条線、沈線	ナデ	—	やや密	並	外：5YR5/4 内：2.5Y6/4	体部 小片		
761	76	169-02	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	条線、沈線	ナデ	—	粗	並	10YR7/3	体部 小片		
762	76	179-02	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	沈線、条線	ナデ	—	やや密	並	外：10YR7/3 内：2.5Y6/2	体部 小片		
763	76	179-06	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや密	並	外：10YR7/4 内：2.5Y7/2	体部 小片		
764	76	169-06	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	沈線	ミガキ	—	粗	並	外：2.5Y6/2 内：2.5Y5/1	体部 小片		
765	76	165-04	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや密	不良	2.5Y6/2	体部 小片		
766	76	165-07	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	不良	2.5Y5/2	体部 小片		
767	76	166-01	縄文土器	B I	J5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	やや不良	外：7.5Y3/1 内：10YR7/4	体部 小片		
768	76	168-05	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	並	外：5YR4/3 内：5YR6/4	体部 小片		
769	76	165-02	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	やや良	外：5YR6/6 内：2.5Y5/2	体部 小片		
770	77	178-01	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	隆帯・刺突、沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR5/3	口縁部 小片		
771	77	183-01	縄文土器双耳壺	B I	I5	SZ104	—	—	—	ミガキ	オサエ	—	粗	良	10YR7/4 2.5Y6/2	体部 小片		
772	78	168-08	縄文土器深鉢	B I	I4	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/4	口縁部 小片		
773	78	169-01	縄文土器深鉢	B I	J4	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR6/3	口縁部 小片		
774	78	168-03	縄文土器	B I	H6	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：2.5Y4/1 内：2.5Y5/1	体部 小片		
775	78	165-03	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	不良	外：10YR5/1 内：10YR7/4	体部 小片		
776	78	168-07	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	不良	外：7.5YR4/1 内：10YR5/1	体部 小片		
777	78	165-06	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ、隆帯、沈線	ナデ	—	粗	不良	外：10YR7/4 内：10YR7/4	体部 小片		

第26表　土器・土製品観察表21

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
778	78	163-06	縄文土器深鉢	B I	I5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	ナデ	粗	並	7.5Y3/1	口縁部小片		
779	78	163-02	縄文土器深鉢	B I	J3	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR6/4 内：2.5Y5/2	口縁部小片		
780	78	162-03	縄文土器深鉢	B I	I3 J4	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	2.5Y6/2	口縁部小片		
781	78	163-07	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや密	並	2.5Y7/3	体部小片		
782	78	162-01	縄文土器深鉢	B I	I3	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR6/3 内：10YR5/1	口縁部小片		
783	78	165-05	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	粗	不良	外：5Y4/1 内：10YR8/3	口縁部小片		
784	78	162-06	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文	ミガキ	ナデ	やや粗	並	2.5Y7/3	口縁部小片		
785	78	162-04	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y6/2 内：2.5Y5/2	口縁部小片		
786	78	162-05	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文、ミガキ、沈線	縄文、ミガキ	縄文	やや密	並	10YR4/1	口縁部小片		
787	78	160-02	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	ミガキ、縄文、沈線	ミガキ	—	密	並	10YR6/1	体部小片		
788	78	160-01	縄文土器	B I	H4	SZ104	—	—	—	ミガキ、縄文、沈線	ミガキ	—	密	並	10YR6/1	体部小片		
789	78	180-02	縄文土器	B I	J5	SZ104	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや密	並	外：10YR6/3 内：10YR4/1	体部小片		
790	78	161-05	縄文土器	B I	H4	SZ104	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	—	粗	並	外：10YR7/4 内：2.5Y6/3	体部小片		
791	78	165-08	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：2.5Y4/1 内：10YR6/4	体部小片		
792	78	165-01	縄文土器	B I	H4	SZ104	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	粗	やや不良	外：7.5YR5/2 内：10YR7/4	体部小片		
793	78	178-08	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	縄文	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR6/3	口縁部小片		
794	78	180-04	縄文土器深鉢	B I	H6	SZ104	—	—	—	縄文	ナデ	—	やや密	並	10YR7/4	体部小片		
795	78	178-02	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	ミガキ、沈線	ミガキ	ナデ	やや密	並	7.5YR6/4	口縁部小片		
796	78	179-03	縄文土器	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ、条線	ナデ	—	やや粗	並	10YR7/3	体部小片		
797	78	158-07	縄文土器深鉢	B I	I5	SZ104	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	良	10YR8/2	口縁部小片		Ⅱ
798	78	157-06	縄文土器深鉢	B I	I4	SZ104	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	沈線、ナデ	キザミ	やや粗	良	10YR7/4	口縁部小片		Ⅲ
799	78	158-04	縄文土器深鉢	B I	I5	SZ104	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/3	口縁部小片		Ⅳ
800	78	158-08	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	良	2.5Y7/3	口縁部小片		Ⅳ
801	78	158-06	縄文土器深鉢	B I	I5	SZ104	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	良	10YR8/4	口縁部小片		Ⅳ
802	78	157-02	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR7/4	口縁部小片		Ⅴ
803	78	176-06	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	良	外：N3/ 内：2.5Y7/4	口縁部小片		Ⅳ
804	78	158-05	縄文土器深鉢	B I	H4	SZ104	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	—	粗	良	2.5Y7/4	体部小片		Ⅴ
805	78	157-08	縄文土器深鉢	B I	I4	SZ104	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	—	粗	良	7.5YR6/4	体部小片		Ⅴ
806	78	158-02	縄文土器深鉢	B I	H4	SZ104	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	—	粗	良	10YR7/3	体部小片		Ⅴ
807	78	158-01	縄文土器深鉢	B I	I4	SZ104	—	—	—	突帯・キザミ、条痕	ナデ	—	粗	良	10YR8/4	体部小片		Ⅴ
808	78	158-03	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ、条痕	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/4	口縁部小片		Ⅳ
809	78	156-03	縄文土器浅鉢	B I	I5	SZ104	—	—	—	ミガキ、沈線	ミガキ	ミガキ	やや粗	良	外：10YR7/4 内：2.5Y4/1	口縁部小片		Ⅳ
810	78	155-01	縄文土器深鉢	B I	H5	SZ104	—	—	—	ナデ・オサエ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：7.5YR7/6 内：5YR6/6	口縁部小片		Ⅳ
811	78	155-03	縄文土器鉢	B I	I5	SZ104	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR4/1 内：10YR5/1	口縁部小片		Ⅳ
812	78	153-03	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	10.8	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR7/6 内：10YR8/4	底部4/12		
813	78	153-02	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	9.2	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：2.5Y7/3 内：2.5Y6/3	底部9/12		
814	78	153-04	縄文土器	B I	I5	SZ104	—	—	9.8	ナデ	ナデ	—	やや密	やや良	外：2.5Y7/4 内：2.5Y8/4	底部4/12		

第27表　土器・土製品観察表22

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
815	78	153-05	縄文土器	BI	I5	SZ104	—	—	8.6	ナデ	ナデ	—	密	やや良	外：5YR7/4 内：2.5Y4/1	底部 3/12		
816	79	152-04	土師器杯	BI	H5	SK105	13.0	2.7	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	良	10YR7/4	口縁部 完存		
817	79	151-01	鉄製紡錘車	BI	H5	SK105	長 26.0	幅 5.4	重さ 39.93	—	—	—	—	—	—	完形		
818	80	173-04	縄文土器深鉢	BI	H5 J6	包含層	—	—	—	隆帯・刺突	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/3 内：10YR5/2	口縁部 小片		
819	80	172-06	縄文土器深鉢	BI	J5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR5/3 内：10Y4/2	体部 小片		
820	80	172-08	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	10YR5/2	体部 小片		
821	80	172-07	縄文土器深鉢	BI	I5	SZ104	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR5/3 内：10Y4/2	体部 小片		
822	80	180-05	縄文土器深鉢	BI	H8	Pit1	—	—	—	沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/2 内：2.5Y6/2	体部 小片		
823	80	178-07	縄文土器深鉢	BI	I6	包含層	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR5/2 内：10YR7/2	口縁部 小片		
824	80	178-04	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	ミガキ・沈線文	ナデ	ナデ	粗	並	7.5YR7/4	口縁部 小片		
825	80	175-05	縄文土器深鉢	BI	I6	包含層	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR6/4 内：7.5YR7/6	口縁部 小片		
826	80	176-05	縄文土器深鉢	BI	I4	包含層	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	密	並	外：2.5Y8/4 内：5Y6/2	口縁部 小片		
827	80	174-01	縄文土器深鉢	BI	J6 J5	包含層	—	—	—	縄文、ナデ	縄文、ナデ、ケズリ	縄文	粗	並	10YR6/3	口縁部 小片		
828	80	174-02	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	縄文、ナデ	縄文、ナデ	縄文	粗	並	外：10YR4/1 内：10YR5/3	口縁部 小片		
829	80	173-03	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	縄文、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	7.5YR6/4	口縁部 小片		
830	80	171-02	縄文土器深鉢	BI	J6	Pit1	—	—	—	縄文	ナデ	縄文	やや粗	やや良	外：7.5YR7/4 内：10YR3/2	口縁部 小片		
831	80	174-03	縄文土器深鉢	BI	J4	包含層	—	—	—	縄文、刺突	ナデ	縄文	粗	並	10YR7/4	口縁部 小片		
832	80	174-07	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	縄文、沈線	縄文、ナデ	縄文	粗	並	10YR6/3	口縁部 小片		
833	80	170-01	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	やや良	外：10YR7/4 内：7.5YR7/4	体部 小片		
834	80	170-02	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR4/1 内：7.5YR6/4	体部 小片		
835	80	169-07	縄文土器深鉢	BI	J6	Pit2	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	粗	並	外：10YR6/4 内：10YR7/4	体部 小片		
836	80	169-05	縄文土器深鉢	BI	J6	Pit2	—	—	—	沈線	ナデ	—	粗	並	外：10YR5/2 内：7.5YR7/4	体部 小片		
837	80	172-05	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR5/3 内：10YR5/1	口縁部 小片		
838	80	173-01	縄文土器深鉢	BI	J2	包含層	—	—	—	ナデ、沈線、隆帯・キザミ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/4	口縁部 小片		
839	80	177-05	縄文土器深鉢	BI	I6	包含層	—	—	—	刺突、沈線	ナデ	ナデ	やや密	やや良	外：5YR5/4 内：5YR6/6	口縁部 小片		
840	80	175-04	縄文土器深鉢	BI	J5	包含層	—	—	—	沈線	ナデ	キザミ	やや密	やや良	7.5YR6/6	口縁部 小片		
841	80	171-05	縄文土器深鉢	BI	J5	包含層	—	—	—	隆帯・キザミ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR7/3	口縁部 小片		
842	80	171-06	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	10YR8/2	体部 小片		
843	80	172-01	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	7.5YR6/4	口縁部 小片		
844	80	174-05	縄文土器深鉢	BI	H5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	2.5Y7/3	口縁部 小片		
845	80	172-04	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR7/4 内：10YR4/2	口縁部 小片		
846	80	179-05	縄文土器	BI	J5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	5YR6/4	体部 小片		
847	80	179-04	縄文土器	BI	J4	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	並	5YR6/4	体部 小片		
848	80	173-06	縄文土器	BI	J5	包含層	—	—	—	刺突、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR5/2 内：7.5YR7/4	体部 小片		
849	80	177-01	縄文土器	BI	J5	包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや密	やや良	2.5YR5/6	体部 小片		
850	80	166-06	縄文土器	BI	I6	包含層	—	—	—	隆帯、沈線	ナデ	—	やや粗	やや良	外：2.5Y3/2 内：7.5YR6/6	体部 小片		
851	80	166-07	縄文土器	BI	I6	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	やや良	外：10YR5/2 内：10YR7/3	体部 小片		

第28表　土器・土製品観察表23

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
852	80	161-01	縄文土器	BI	H5	包含層	—	—	—	沈線、条線	ナデ	—	粗	並	外：7.5YR4/2 内：7.5YR8/3	体部 小片		
853	81	166-05	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	良	外：2.5Y5/2 内：10YR7/3	口縁部 小片		
854	81	167-03	縄文土器深鉢	BI	J4	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	不良	2.5Y6/2	口縁部 小片		
855	81	166-08	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	良	外：10YR6/3 内：5Y4/1	口縁部 小片		
856	81	176-03	縄文土器深鉢	BI	J4	下層 Pit1	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ヨコナデ	密	やや良	外：2.5Y5/3 内：5Y4/1	口縁部 小片		
857	81	166-04	縄文土器深鉢	BI	H5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	やや不良	10YR5/2	口縁部 小片		
858	81	166-03	縄文土器深鉢	BI	I8	Pit3	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	不良	外：10YR3/2 内：10YR6/3	口縁部 小片		
859	81	167-06	縄文土器深鉢	BI	J10	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	良	5YR6/6	口縁部 小片		
860	81	169-08	縄文土器深鉢	BI	—	表土	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR7/3 内：10YR7/2	口縁部 小片		
861	81	167-01	縄文土器深鉢	BI	I4	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	キザミ	やや粗	良	外：5YR6/4 内：10YR6/4	口縁部 小片		
862	81	167-05	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	粗	良	外：10YR5/3 内：5Y4/1	口縁部 小片		
863	81	167-04	縄文土器深鉢	BI	J5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ミガキ	—	やや粗	やや良	10YR7/3	体部 小片		
864	81	166-02	縄文土器深鉢	BI	H8	Pit1	—	—	—	沈線	ナデ	—	粗	不良	外：10YR6/2 内：10YR6/3	体部 小片		
865	81	169-04	縄文土器深鉢	BI	J6	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/3 内：10YR7/3	体部 小片		
866	81	169-03	縄文土器深鉢	BI	H8	Pit1	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR7/4	体部 小片		
867	81	168-04	縄文土器深鉢	BI	I5	下層 Pit1	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/3 内：10YR6/4	体部 小片		
868	81	167-07	縄文土器深鉢	BI	—	排土	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	やや不良	外：2.5Y7/3 内：10YR8/4	体部 小片		
869	81	167-02	縄文土器深鉢	BI	J4	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ミガキ	—	粗	不良	10YR6/3	体部 小片		
870	81	176-04	縄文土器深鉢	BI	—	表土	—	—	—	沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR7/4	口縁部 小片		
871	81	159-03	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ミガキ	縄文	やや粗	並	10YR6/2	口縁部 小片		
872	81	163-03	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	ナデ	やや粗	並	2.5Y6/2	口縁部 小片		
873	81	163-04	縄文土器深鉢	BI	J3	包含層	—	—	—	ナデ、縄文	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：2.5Y7/3 内：2.5Y5/2	口縁部 小片		
874	81	163-01	縄文土器深鉢	BI	—	表土	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	ナデ	粗	並	10YR5/2	口縁部 小片		
875	81	162-08	縄文土器深鉢	BI	I8	Pit1	—	—	—	縄文	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/2	口縁部 小片		
876	81	168-02	縄文土器深鉢	BI	J6	Pit2	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR6/2 内：10YR5/2	口縁部 小片		
877	81	162-02	縄文土器深鉢	BI	I6	包含層	—	—	—	ナデ、沈線、縄文	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR7/3 内：10YR4/1	口縁部 小片		
878	81	162-07	縄文土器深鉢	BI	—	表土	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR5/2 内：7.5YR5/3	口縁部 小片		
879	81	160-05	縄文土器	BI	J6	包含層	—	—	—	ミガキ、沈線、縄文	ナデ	—	粗	並	10YR6/2	体部 小片		
880	81	160-06	縄文土器	BI	I5	包含層	—	—	—	沈線、ミガキ、縄文	ミガキ	—	やや粗	並	外：10YR6/3 内：10YR7/3	体部 小片		
881	81	161-04	縄文土器	BI	—	排土	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	—	粗	並	10YR6/3	体部 小片		
882	81	161-06	縄文土器	BI	J5	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ	—	やや粗	並	10YR6/2	体部 小片		
883	81	159-07	縄文土器	BI	I10	包含層	—	—	—	沈線、ミガキ、縄文	ナデ	—	やや粗	並	外：7.5YR5/2 内：10YR4/1	体部 小片		
884	81	163-08	縄文土器	BI	J5	包含層	—	—	—	ミガキ、沈線	ミガキ	—	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR7/3	体部 小片		
885	81	164-01	縄文土器	BI	I5	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ナデ	—	やや粗	並	2.5Y6/2	体部 小片		
886	81	159-06	縄文土器	BI	J5	包含層	—	—	—	ミガキ、沈線、縄文	ナデ・ミガキ	—	やや密	並	外：10YR5/1 内：10YR7/3	体部 小片		
887	81	164-07	縄文土器	BI	J4	包含層	—	—	—	沈線、縄文	ナデ・ケズリ	—	やや粗	並	外：7.5YR6/6 内：7.5YR4/2	体部 小片		
888	81	164-06	縄文土器	BI	H5	下層 Pit1	—	—	—	ミガキ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR5/3 内：10YR5/2	体部 小片		

第29表　土器・土製品観察表24

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
889	81	160-03	縄文土器	BI	I4	包含層	—	—	—	ミガキ、縄文、沈線	ミガキ	—	密	並	7.5YR4/1	体部小片		
890	81	160-08	縄文土器	BI	J3	包含層	—	—	—	縄文、ミガキ、沈線	ミガキ	—	密	並	10YR6/3	体部小片		
891	81	179-07	縄文土器深鉢	BI	I4	Pit1	—	—	—	ナデ、沈線	ミガキ	ナデ	やや密	並	10YR7/3	口縁部小片		
892	81	163-05	縄文土器	BI	J4	包含層	—	—	—	ナデ、縄文、沈線	ナデ	—	やや粗	並	7.5YR7/4	体部小片		
893	81	164-03	縄文土器	BI	J5	包含層	—	—	—	沈線、ミガキ、縄文	ミガキ	—	やや粗	並	外：7.5YR4/3 内：10YR7/3	体部小片		
894	81	164-02	縄文土器	BI	H6	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ミガキ	ミガキ	—	やや粗	並	10YR7/3	体部小片		
895	81	180-03	縄文土器	BI	J5	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	粗	並	7.5YR6/4	体部小片		
896	81	179-01	縄文土器深鉢	BI	I8	包含層	—	—	—	ナデ・条線	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：10YR7/3	口縁部小片		
897	81	178-03	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	7.5YR5/3	口縁部小片		
898	81	176-07	縄文土器深鉢	BI	J4	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ、沈線	密	やや良	外：10YR7/6 内：2.5Y6/3	口縁部小片		
899	81	182-01	縄文土器注口	BI	I5	Pit4	—	—	—	ミガキ	ナデ	—	粗	良	2.5Y4/1	体部小片		
900	81	181-03	縄文土器注口	BI	H6	包含層	—	—	—	ナデ、ミガキ	ナデ	—	粗	良	10YR7/4	体部小片		
901	81	181-02	縄文土器深鉢	BI	H6	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	—	粗	良	10YR7/4	脚部片	穿孔	
902	82	157-07	縄文土器深鉢	BI	J4	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	キザミ	粗	良	10YR8/3	口縁部小片		Ⅱ
903	82	157-01	縄文土器深鉢	BI	J4	包含層	—	—	—	突帯、キザミ、ナデ	ナデ	キザミ	粗	良	10YR8/3	口縁部小片		Ⅲ
904	82	156-04	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	突帯、キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/4	口縁部小片		Ⅳ
905	82	156-02	縄文土器深鉢	BI	—	表土	—	—	—	突帯、キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	外：10YR6/4 内：10YR4/2	口縁部小片		Ⅴ
906	82	176-01	縄文土器深鉢	BI	I6	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外：10YR8/2 内：10YR6/2	口縁部小片		Ⅳ
907	82	156-06	縄文土器深鉢	BI	I4	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR4/1 10YR8/3	口縁部小片		Ⅴ
908	82	156-07	縄文土器深鉢	BI	J5	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/3	口縁部小片		Ⅴ
909	82	157-04	縄文土器深鉢	BI	I4	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	5YR7/4	口縁部小片		Ⅴ
910	82	156-05	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	やや密	良	10YR7/3 10YR7/4	口縁部小片		Ⅴ
911	82	156-08	縄文土器深鉢	BI	I4	包含層	—	—	—	突帯2条、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	10YR8/4	口縁部小片		Ⅴ
912	82	157-05	縄文土器深鉢	BI	I3	包含層	—	—	—	突帯、ナデ	ナデ	ナデ	粗	良	7.5YR8/4	口縁部小片		Ⅴ
913	82	155-05	縄文土器深鉢	BI	H5	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	やや良	外：10YR4/1 内：7.5YR6/4	口縁部小片		Ⅴ
914	82	176-08	縄文土器深鉢	BI	J4	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	やや良	外：5YR6/6 内：5YR6/6	口縁部小片		Ⅴ
915	82	177-03	縄文土器深鉢	BI	—	表土	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	密	良	5YR6/6	口縁部小片		Ⅴ
916	82	155-06	縄文土器深鉢	BI	J10	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR3/2 内：5YR5/4	口縁部小片	東壁	Ⅴ
917	82	154-02	縄文土器深鉢	BI	J10	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや密	並	外：7.5Y2/1 内：2.5Y3/1	口縁部小片		Ⅴ
918	82	154-03	縄文土器深鉢	BI	J4	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR4/1 内：2.5Y4/1	口縁部小片		Ⅴ
919	82	154-04	縄文土器深鉢	BI	—	排土	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	外：10YR6/4 内：5YR7/6	口縁部小片		Ⅴ
920	82	154-05	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：2.5Y7/3 内：10YR6/4	口縁部小片		Ⅴ
921	82	154-06	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	やや良	7.5YR6/4	口縁部小片		Ⅴ
922	82	155-02	縄文土器深鉢	BI	I6	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR7/3 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅴ
923	82	155-04	縄文土器深鉢	BI	I5	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	良	外：N3/ 内：N4/	口縁部小片		Ⅴ
924	82	159-01	縄文土器浅鉢	BI	I10	包含層	—	—	—	ミガキ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：2.5Y6/3 内：10YR7/3	口縁部小片		Ⅴ
925	82	178-06	縄文土器深鉢	BI	—	表土	—	—	—	ミガキ、浮線	ナデ	ナデ	やや密	並	10YR6/4	口縁部小片		Ⅴ

第30表　土器・土製品観察表25

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
926	82	153-06	縄文土器	BⅠ	H6	包含層	—	—	12.0	ナデ	ナデ	—	やや密	並	外：7.5YR6/6 内：10YR6/4	底部 3/12		
927	82	153-01	縄文土器	BⅠ	J6	包含層	—	—	15.0	ナデ	ナデ	—	やや粗	やや不良	7.5YR7/6	底部 3/12		
928	82	154-01	縄文土器	BⅠ	I6	包含層	—	—	15.0	ナデ	ナデ	—	やや密	不良	外：7.5YR7/6 内：7.5YR7/6	底部 3/12		
929	82	156-01	縄文土器	BⅠ	I4	包含層	—	—	1.6	ケズリ、ナデ	ナデ	—	粗	良	10YR8/3	底部 完存		
930	82	153-07	縄文土器	BⅠ	H5	包含層	—	—	7.0	ケズリ、ナデ	ナデ	—	やや密	やや不良	外：2.5Y7/4 内：2.5Y6/4	底部 完形		
931	82	181-04	縄文土器	BⅠ	J5	包含層	—	—	—	ナデ	—	—	やや粗	良	10YR7/4	体部 小片		
932	82	152-02	灰釉陶器椀	BⅠ	I4	包含層	—	—	7.0	ロクロナデ、貼付け高台、糸切り痕	ロクロナデ	—	やや粗	軟	外：10YR8/3 内：2.5Y8/2	高台部 完存		
933	82	152-01	陶器椀	BⅠ	—	包含層	16.4	5.1	8.9	ロクロナデ、貼付け高台、糸切り痕	ロクロナデ	ロクロナデ	密	良	5Y7/1	口縁部 4/12	西壁崩落土中	
934	82	152-03	土師器甕	BⅠ	I4	SZ104	14.8	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ	やや密	並	2.5Y7/3	口縁部 2/12		
935	83	005-02	縄文土器深鉢	BⅡ	J14	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ヨコナデ	やや良	良	外：7.5YR5/1 内：7.5YR8/2	口縁部 小片		
936	83	142-07	縄文土器深鉢	BⅡ	G15	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	口縁部 小片		
937	83	143-03	縄文土器深鉢	BⅡ	E13	包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR8/3	口縁部 小片		
938	83	147-05	縄文土器深鉢	BⅡ	—	T-3 第1層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁部 小片		
939	83	147-03	縄文土器深鉢	BⅡ	C15	下層 包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/4	口縁部 小片		
940	83	142-08	縄文土器深鉢	BⅡ	G16	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	やや良	外：10YR8/4 内：7.5YR7/4	口縁部 小片		
941	83	147-06	縄文土器深鉢	BⅡ	E14	下層 包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外：7.5YR6/6 内：2.5Y4/1	口縁部 小片		
942	83	146-07	縄文土器深鉢	BⅡ	D16	下層 包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁部 小片		
943	83	147-08	縄文土器深鉢	BⅡ	—	下層 包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR5/3 内：7.5YR6/4	口縁部 小片	SecⅡ	
944	83	143-08	縄文土器深鉢	BⅡ	F13	Pit1	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：5YR6/6 内：10YR5/3	口縁部 小片		
945	83	147-07	縄文土器深鉢	BⅡ	—	T-3 第1層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR5/2	口縁部 小片		
946	83	146-04	縄文土器深鉢	BⅡ	C16	下層 包含層	—	—	—	沈線、ミガキ	ナデ	ナデ	粗	並	外：7.5YR6/4 内：10YR5/2	口縁部 小片		
947	83	143-05	縄文土器深鉢	BⅡ	I17	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	5YR6/6	口縁部 小片		
948	83	150-02	縄文土器深鉢	BⅡ	—	T-3 第1層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR7/4 内：10YR5/2	口縁部 小片		
949	83	144-03	縄文土器深鉢	BⅡ	E16 F16	下層 包含層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：10YR5/2 内：10YR7/2	口縁部 小片		
950	83	143-04	縄文土器深鉢	BⅡ	H17	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	10YR8/3	口縁部 小片		
951	83	142-06	縄文土器深鉢	BⅡ	F16	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：2.5Y7/2 内：10YR7/4	口縁部 小片		
952	83	145-03	縄文土器深鉢	BⅡ	B14	下層 包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/4	口縁部 小片		
953	83	146-01	縄文土器深鉢	BⅡ	—	T-3 第1層	—	—	—	沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：10YR6/2 内：7.5YR6/4	口縁部 小片		
954	83	145-08	縄文土器深鉢	BⅡ	C14	下層 包含層	—	—	—	ナデ?	ナデ	ナデ	粗	並	10YR7/2	口縁部 小片	穿孔	
955	83	142-04	縄文土器深鉢	BⅡ	F16	Pit1	—	—	—	ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	10YR7/4	体部 小片		
956	83	148-03	縄文土器深鉢	BⅡ	E16	下層 包含層	—	—	—	沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR5/2 内：10YR8/3	体部 小片		
957	83	142-03	縄文土器深鉢	BⅡ	G17	包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	やや良	7.5YR6/6	体部 小片		
958	83	148-05	縄文土器深鉢	BⅡ	—	T-3 第1層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR6/2 内：7.5YR6/4	体部 小片		
959	83	149-04	縄文土器深鉢	BⅡ	—	T-3 第1層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	並	10YR7/4	体部 小片		
960	83	142-02	縄文土器深鉢	BⅡ	H12	SK119	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	やや良	外：7.5YR4/2 内：5YR7/6	体部 小片		
961	83	150-01	縄文土器深鉢	BⅡ	—	T-3 第1層	体部径 35.1	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	不良	外：10YR7/3 内：10YR7/3	体部片		
962	83	148-07	縄文土器深鉢	BⅡ	B14	下層 包含層	—	—	—	ナデ、沈線	ナデ	—	粗	並	外：10YR3/1 内：2.5Y5/2	体部 小片		

第31表　土器・土製品観察表26

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
963	83	149-01	縄文土器深鉢	BⅡ	B16	下層包含層	—	—	—	沈線	ナデ	—	粗	並	10YR6/3	体部小片		
964	84	145-05	縄文土器深鉢	BⅡ	E14	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	外：2.5Y4/1 内：10YR6/2	口縁部小片		
965	84	145-07	縄文土器深鉢	BⅡ	E15	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	10YR5/2	口縁部小片		
966	84	145-01	縄文土器深鉢	BⅡ	B14	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/2	口縁部小片		
967	84	004-05	縄文土器深鉢	BⅡ	G15	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	ナデ	不良	良	外：7.5YR4/1 内：10YR6/3	口縁部小片		
968	84	145-02	縄文土器深鉢	BⅡ	D16	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	ナデ	やや粗	並	10YR7/3	口縁部小片		
969	84	145-06	縄文土器深鉢	BⅡ	—	T-2第1層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁部小片		
970	84	142-01	縄文土器深鉢	BⅡ	J15	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	ナデ	粗	やや良	外：10YR7/4 内：10YR7/3	口縁部小片		
971	84	145-04	縄文土器深鉢	BⅡ	D16	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	並	10YR5/2	体部小片		
972	84	144-05	縄文土器深鉢	BⅡ	E14	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ミガキ	—	粗	並	外：10YR5/2 内：10YR7/3	体部小片		
973	84	146-02	縄文土器深鉢	BⅡ	D15	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR3/2 内：10YR7/3	体部小片		
974	84	141-07	縄文土器深鉢	BⅡ	G15	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	やや良	外：2.5Y4/1 内：2.5Y7/2	体部小片		
975	84	149-02	縄文土器深鉢	BⅡ	E14	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	並	10YR7/3	体部小片		
976	84	141-05	縄文土器深鉢	BⅡ	D16	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	10YR8/3	体部小片		
977	84	141-08	縄文土器深鉢	BⅡ	D14	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	やや良	7.5YR7/4	体部小片		
978	84	148-01	縄文土器深鉢	BⅡ	C15	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	粗	並	7.5YR4/2	体部小片		
979	84	148-04	縄文土器深鉢	BⅡ	C16	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	やや密	並	10YR6/3	体部小片		
980	84	141-03	縄文土器深鉢	BⅡ	I17	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR3/2 内：5YR6/6	体部小片		
981	84	142-05	縄文土器深鉢	BⅡ	C14	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ミガキ	—	やや粗	やや良	10YR7/2	体部小片		
982	84	141-06	縄文土器深鉢	BⅡ	G16	包含層	—	—	—	縄文、沈線、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR7/4 内：2.5Y8/2	体部小片		
983	84	147-02	縄文土器深鉢	BⅡ	I18	下層包含層	—	—	—	縄文、沈線	ナデ	ナデ	やや密	並	外：10YR5/2 内：5YR6/6	口縁部小片		
984	84	149-05	縄文土器深鉢	BⅡ	D15	下層包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	粗	並	10YR6/4	体部小片		
985	84	141-04	縄文土器深鉢	BⅡ	J18	包含層	—	—	—	縄文	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR5/3 内：10YR7/3	体部小片		
986	84	148-06	縄文土器深鉢	BⅡ	D15	下層包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	—	粗	並	外：10YR6/3 内：10YR7/2	体部小片		
987	84	149-03	縄文土器深鉢	BⅡ	D16	下層包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	—	やや粗	並	外：10YR4/2 内：10YR7/3	体部小片		
988	84	141-02	縄文土器深鉢	BⅡ	—	包含層	—	—	—	条痕、ナデ	ナデ	—	やや粗	やや良	外：7.5YR7/6 内：5YR7/6	体部小片		
989	84	143-02	縄文土器深鉢	BⅡ	F16	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	粗	やや良	5YR6/6	口縁部小片		Ⅱ
990	84	143-01	縄文土器深鉢	BⅡ	H19	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	キザミ	やや粗	やや良	外：7.5YR4/3 内：10YR8/3	口縁部小片		Ⅱ
991	84	146-05	縄文土器深鉢	BⅡ	E16	下層包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR8/2	口縁部小片		Ⅳ
992	84	005-01	縄文土器深鉢	BⅡ	J16	包含層	—	—	—	突帯・キザミ、ナデ	ナデ	ナデ	やや不良	良	外：5YR7/6 内：5YR6/6	口縁部小片		Ⅴ
993	84	144-04	縄文土器深鉢	BⅡ	C15	下層包含層	—	—	—	突帯2条、ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	10YR5/2	口縁部小片		Ⅴ
994	84	006-02	縄文土器深鉢	BⅡ	J18	SK113	—	—	—	浮線、ミガキ	ミガキ、沈線	ナデ	やや良	良	外：10YR5/2 内：10YR6/3	口縁部小片		Ⅴ
995	84	143-07	縄文土器深鉢	BⅡ	E16	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	外：7.5YR4/1 内：10YR7/3	口縁部小片		
996	84	143-06	縄文土器深鉢	BⅡ	J16	包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	やや良	7.5YR4/1	口縁部小片		
997	84	144-01	縄文土器深鉢	BⅡ	E17	下層包含層	—	—	—	条痕	ナデ	ナデ	やや粗	並	外：7.5YR7/4 内：7.5YR5/1	口縁部小片		
998	84	144-02	縄文土器深鉢	BⅡ	—	T-4第1層	—	—	—	条痕	ナデ	ヨコナデ	やや密	並	7.5YR5/4	口縁部小片		
999	84	147-01	縄文土器深鉢	BⅡ	E16	下層包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	調整不明	粗	並	10YR7/3	口縁部小片		
1000	84	141-01	縄文土器	BⅡ	G15	包含層	—	—	6.0～6.4	ナデ	ナデ	—	粗	やや良	2.5Y7/2	底部完存		
1001	84	149-08	縄文土器	BⅡ	E16	下層包含層	—	—	7.4	ナデ	ナデ	—	粗	並	2.5Y7/3	底部6/12		

第32表　土器・土製品観察表27

報告番号	挿図番号	実測番号	器種	出土位置			法量(cm)			成形・調整・文様の様相			胎土	焼成	色調	残存	備考	時期
				調査区	グリッド	遺構・層位	口径	器高	底径	外面	内面	口縁端部						
1002	84	149-06	縄文土器	BⅡ	—	T-3 第1層	—	—	12.7	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：2.5Y7/2 内：10YR7/3	底部 4/12		
1003	84	149-07	縄文土器	BⅡ	—	T-3 第1層	—	—	11.8	ナデ	ナデ	—	粗	並	10YR7/3	底部 4/12	網代	
1004	85	139-02	土師器皿	BⅡ	F19	下層包含層	14.8	2.7	—	ナデ	ナデ	ナデ	密	並	5YR7/6	口縁部 2/12		
1005	85	139-01	土師器皿	BⅡ	I18	包含層	13.8	—	—	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	密	並	外：7.5YR7/6 内：5YR7/6	口縁部 小片		
1006	85	138-06	土師器皿	BⅡ	I18	包含層	13.7	—	—	ヨコナデ、ナデ、オサエ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密	並	5YR7/6	口縁部 2/12		
1007	85	138-07	土師器皿	BⅡ	I20	包含層	13.6	—	—	ヨコナデ、ナデ、オサエ	ヨコナデ、ナデ、オサエ	ヨコナデ	密	並	5YR7/6	口縁部 2/12		
1008	85	138-02	土師器杯	BⅡ	H19	包含層	17.4	3.1	—	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密	並	5YR6/6	口縁部 2/12		
1009	85	139-03	土師器杯	BⅡ	I18	包含層	17.6	—	—	ヨコナデ・ナデ・オサエ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密	並	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	口縁部 2/12		
1010	85	138-03	土師器杯	BⅡ	I19	包含層	16.8	—	—	ナデ、オサエ	ナデ	ヨコナデ	密	並	5YR6/6	口縁部 2/12		
1011	85	138-05	土師器杯	BⅡ	I18	包含層	15.8	—	—	ヨコナデ・ナデ・オサエ	風化により調整不明	ヨコナデ	密	並	外：5YR6/6 内：7.5YR7/6	口縁部 2/12		
1012	85	138-01	土師器皿	BⅡ	J12	Pit3	15.0	2.0	—	ヨコナデ・ナデ・オサエ	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密	並	5YR6/6	口縁部 2/12		
1013	85	138-04	土師器皿	BⅡ	I19	包含層	13.8	1.6	—	ヨコナデ、オサエ	風化により調整不明	ヨコナデ	密	並	10YR7/4	口縁部 3/12		
1014	85	140-07	ロクロ土師器皿	BⅡ	J18	SK113	9.3	1.7	—	ロクロナデ、糸切り痕	ロクロナデ	ロクロナデ	やや密	並	10YR8/3	ほぼ完形		
1015	85	139-05	灰釉陶器椀	BⅡ	—	表土	—	—	7.0	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	—	密	並	2.5Y7/1	底部 3/12		
1016	85	139-04	灰釉陶器椀	BⅡ	I19	包含層	—	—	9.2	ナデ、ロクロナデ	ロクロナデ	—	密	並	2.5Y7/2	底部 2/12		
1017	85	140-01	灰釉陶器椀	BⅡ	G12	Pit1	13.6	2.5	6.0	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	密	並	外：2.5Y7/1 内：2.5Y8/1	口縁部 2/12		
1018	85	139-06	陶器椀	BⅡ	J17	包含層	—	—	7.8	ロクロナデ、ナデ、糸切り痕	ロクロナデ	—	やや密	並	2.5Y8/1	底部 5/12		
1019	85	139-07	陶器小皿	BⅡ	—	表土	9.3	2.5	4.7	ロクロナデ、糸切り痕	ロクロナデ	ロクロナデ	やや密	並	2.5Y8/1	口縁部 2/12		
1020	85	135-06	土師器甕	BⅡ	J15	包含層	18.0	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	密	並	外：5YR7/4 内：2.5Y6/2	口縁部 1/12		
1021	85	135-01	土師器甕	BⅡ	J18	包含層	16.2	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	密	並	外：10YR6/3 内：10YR6/3	口縁部 1/12		
1022	85	135-04	土師器甕	BⅡ	J18	Pit3	17.8	—	—	ヨコナデ、摩耗著しい	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	密	並	外：5YR8/3 内：7.5YR4/3	口縁部 2/12		
1023	85	135-05	土師器甕	BⅡ	I12	Pit1	18.0	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ	密	並	外：10YR3/1 内：2.5Y7/3	口縁部 3/12		
1024	85	136-05	土師器甕	BⅡ	H19	包含層	16.8	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	ヨコナデ	密	並	外：10YR7/4 内：7.5YR7/4	口縁部 3/12		
1025	85	137-01	土師器甕	BⅡ	E19	包含層	17.4	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	密	良	7.5YR6/4	口縁部 4/12		
1026	85	135-02	土師器甕	BⅡ	H20	包含層	17.6	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	密	やや良	外：2.5Y7/3 内：2.5Y7/4	口縁部 2/12		
1027	85	135-03	土師器甕	BⅡ	F19	下層包含層	19.0	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	密	並	外：7.5YR7/6 内：10YR5/2	口縁部 1/12		
1028	85	136-02	土師器甕	BⅡ	H19	包含層	17.0	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	密	並	2.5Y7/3	口縁部 3/12		
1029	85	137-02	土師器甕	BⅡ	H14	下層Pit1	19.5	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	密	並	外：10YR4/2 内：10YR8/4	口縁部 2/12		
1030	85	136-01	土師器甕	BⅡ	H19	包含層	22.0	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	密	並	外：5YR7/4 内：7.5YR8/4	口縁部 1/12		
1031	85	136-03	土師器甕	BⅡ	H19	SK111	21.0	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	密	並	外：10YR8/3 内：10YR8/4	口縁部 2/12		
1032	85	136-04	土師器甕	BⅡ	G19	Pit3	31.0	—	—	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、	ヨコナデ	密	並	外：10YR6/3 内：10YR7/3	口縁部 1/12		
1033	85	140-02	製塩土器	BⅡ	H19	包含層	—	5.6	—	ナデ	ナデ	ナデ	粗	並	外：5YR6/4 内：2.5YR6/8	小片		
1034	85	140-03	製塩土器	BⅡ	I18	包含層	—	—	—	ナデ	ナデ	—	粗	並	外：5YR6/4 内：5YR6/6	体部 小片		
1035	85	140-04	土錘	BⅡ	J18	Pit2	最大長 4.5	最大幅 1.3	重さ 7.55	—	—	—	密	並	10YR8/2	完存		
1036	85	140-05	土錘	BⅡ	—	包含層	最大長 5.2	最大幅 1.4	重さ 9.3	—	—	—	密	やや良	10YR8/2	完存		
1037	85	140-06	土錘	BⅡ	I18	包含層	最大長 4.7	最大幅 2.1	重さ 16.73	—	—	—	密	並	10YR7/3	完存		

第33表　土器・土製品観察表28

2　石器・石製品

（1）概要

本遺跡で出土した土器群の主体は、晩期後半である。しかし、それ以外に中期末葉から後期前葉の土器が約３分の１出土している。石器群も一部がこの時期に属すると考えられる。出土状況を見るとＡⅢ区下層とそれに伴う遺構が中期末葉から後期前葉に概ね該当するが、この時期を更に細分して検討することは難しい。ＡⅢ区下層出土の石器・石製品は石器器種別・出土地別一覧表に示したが、下層出土に「石刀１点」が含まれるなど、上層遺構による攪乱その他を原因とする浮き上がり・沈み込みが一定数考えられる。調査区全体としても、中期末葉から後期前葉と晩期後半の石器・石製品を明確に分離することはできない。そのため定量的な検討は行わず、形態的特徴から明らかに中～後期に属すると考えられるものは適宜判断して、以下の記述を進めていく。石器・石製品は2964点ある。石器は2956点で、その内訳は、石鏃203点（未成品54点含む）、打欠き石錘42点、切目石錘２点、有溝石錘１点、打製石斧８点、石皿11点、台石46点、敲石104点（うち槌石15点）、磨石36点、磨製石斧18点（うち槌石２点）、砥石４点、石錐18点、石匙２点、削器16点、楔形石器64点、礫器57点、異形石器１点、粗製剥片石器13点、二次加工痕有剥片29点、使用痕有剥片49点、剥片・砕片2201点、石核32点、石核素材１点である。石製品は８点で、その内訳は、石刀７点（未成品３点含む）、玉１点となる。一覧表で「礫剥片」としたものは石器・石製品製作との有意な関係を積極的に見いだせない剥落片ともいうべきものを一括した。なお、整理最終段階で石器認定に漏れがあったため、一部の石器について一覧表に掲載されていない。

（大下明・久保勝正）

（2）石鏃（第86～88図　1038～1112）

加工により先端部を作り出したもので、矢柄の先につける鏃と考えられるものを本器種とした。茎の有無・基部形態（Ⅰ類～Ⅴ類）と側縁形態（Ａ類～Ｄ類）の組み合わせで全体形を大略表すこととする。この組み合わせ分類は、かつて関西地方の後・晩期の石鏃を概観した際に用いたものである。本遺跡のみに限ってみると、存在しない組み合わせもあるが、他遺跡との比較・検討や旧稿との整合性を考え、組み合わせ分類はそのままとした。未成品54点と欠損により組み合わせ分類不能な29点（Ⅰ類15点、Ⅳ類１点、Ⅴ類２点、Ａ類３点、Ｂ類２点、Ｄ類５点、不明１点）を除く120点の分類内訳は、ⅠＡ類37点、ⅠＢ類８点、ⅠＣ類６点、ⅠＤ類41点、ⅡＡ類３点、ⅡＢ類１点、ⅡＤ類７点、ⅢＢ類１点、ⅣＡ類１点、ⅤＡ類４点、ⅤＣ類３点、ⅤＤ類８点となる。出土状況は約半数が包含層出土、約半数が土坑・ピット等の遺構出土である。

【茎の有無・基部形態】

Ⅰ類……凹基無茎鏃。

Ⅱ類……平基無茎鏃。

Ⅲ類……円基鏃。

Ⅳ類……尖基鏃。

Ⅴ類……有茎鏃。

【側縁形態】

Ａ類……側縁が直線的なもの。

Ｂ類……側縁が緩やかに外に張る（膨らむ）もの。

Ｃ類……側縁が緩やかに内に張る（膨らむ）もの。

Ｄ類……側縁が屈曲するもの。

ⅠＡ類（1038～1059）……抉りは明瞭・不明瞭があるが全体的に浅い。細身で抉りが不明瞭な1038、正三角形状で片面もしくは両面に一次面を残す1039・1044・1045、側縁がやや鋸歯状となる1049・1055、二等辺三角形状を呈し、抉りが明瞭で丁寧な整形を行う1054・1056～1059などがある。石材は1056が下呂石、1058がチャート、それ以外がサヌカイトである。

ⅠＢ類（1060～1065）……表裏面の中央に一次面を残し、抉りの浅い1060・1065、裏面に大きく一次面を残す1063、抉りが明瞭で丁寧な整形の1064などがある。石材は1064が下呂石、他はサヌカイトである。

ⅠＣ類（1066～1069）……先端部・脚部を細く仕上げる1067、ぼってりとした感じで脚端部が角張る1068、側縁が細かな鋸歯状を呈し脚端部が角張る1069などがある。石材は図示した４点ともサヌカイトである。

ⅠＤ類（1070～1092）……1070～1078は側縁の屈

遺構		器種 / 調査時遺構番号	石鏃	石鏃未成品	打欠き石鏃	切目石鏃	有溝石鏃	石鏃未成品	打製石斧	粗製剥片石器	台石	石皿	敲石	磨石	磨製石斧	砥石	石錐	石匙	削器	楔形石器	礫器	異形石器	RF	UF	礫剥片	剥片（総重量g）	石核	石核素材	石刀	石刀未成品	玉	配石	立石	石材等	受熱礫	計
SH011	AⅢ	SH1	2 2.26	2 1.80							1 3,200.0		4 2,391.65		1 400.00					4 24.82			1 2.86	2 5.08	2 62.98	64 426.96	1 362.39									84 6,880.80
SH合計			2 2.26	2 1.80							1 3,200.0		4 2,391.65		1 400.00					4 24.82			1 2.86	2 5.08	2 62.98	64 426.96	1 362.39									84 6,880.80
SK012	AⅢ	SK2									3 1,316.46		2 1,020.00		2 612.31		1 1.30			1 4.00	1 428.11					5 34.50	1 762.00								16 4,178.68
SK013	AⅢ	SK3			1 134.80						1 625.81									2 14.31					2 62.07	29 46.85									35 883.84
SK016	AⅢ	SK6			1 33.43																					2 2.10									3 35.53
SK017	AⅢ	SK7	3 2.92																							7 14.56									10 17.48
SK018	AⅢ	SK8																							1 60.35	10 24.21	1 10.36								12 94.92
SK019	AⅢ	SK9	1 1.04	1 1.52										1 125.00						1 4.89						8 50.53									12 182.98
SK020	AⅢ	SK10																								6 13.06									6 13.06
SK021	AⅢ	SK11	1 0.39																	1 11.95						5 7.87									7 20.21
SK022	AⅢ	SK12	1 0.90	1 1.07																						12 15.56									14 17.53
SK023	AⅢ	SK13	2 1.44	1 0.97																1 9.71						18 37.41									22 49.53
SK024	AⅢ	SK14									1 11,850.0															4 12.36									5 11,862.36
SK026	AⅢ	SK16		1 1.41																						16 23.92									17 25.33
SK027	AⅢ	SK17	1 0.78	1 3.09							2 2,740.0		1 645.85		1 9.01								1 1.20			28 70.40	1 14.72								36 3,485.05
SK034	AⅢ	SK24																								1 5.07									1 5.07
SK036	AⅢ	SK26																								4 8.06									4 8.06
SK047	AⅢ	SK37	1 0.70																							7 17.43									8 18.13
SK049	AⅢ	SK39			1 17.60																					1 0.93									2 18.53
SK051	AⅢ	SK41																								3 6.96									3 6.96
SK052	AⅢ	SK42	1 1.72																							3 7.43									4 9.15
SK053	AⅢ	SK43									1 912.33				1 484.49									1 4.85		9 18.87									12 1,420.54
SK055	AⅢ	SK45																					1 3.93			16 35.06									17 38.99
SK056	AⅢ	SK46	3 5.81							1 73.30	1 137.43	1 7,775.00														22 32.59									28 8,024.13
SK057	AⅢ	SK47																								2 2.69									2 2.69
SK058	AⅢ	SK48																								2 3.18									2 3.18
SK066	AⅢ	下層SK1																								1 1.21									1 1.21
SK067	AⅢ	下層SK2	1 0.68																	1 8.00						3 8.48									5 17.16
SK068	AⅢ	下層SK3	2 7.95																							3 8.51									5 16.46
SK069	AⅢ	下層SK4																						1 0.82		4 4.58									5 5.40
SK071	AⅢ	下層SK6			1 109.15																					1 2.25									2 111.40

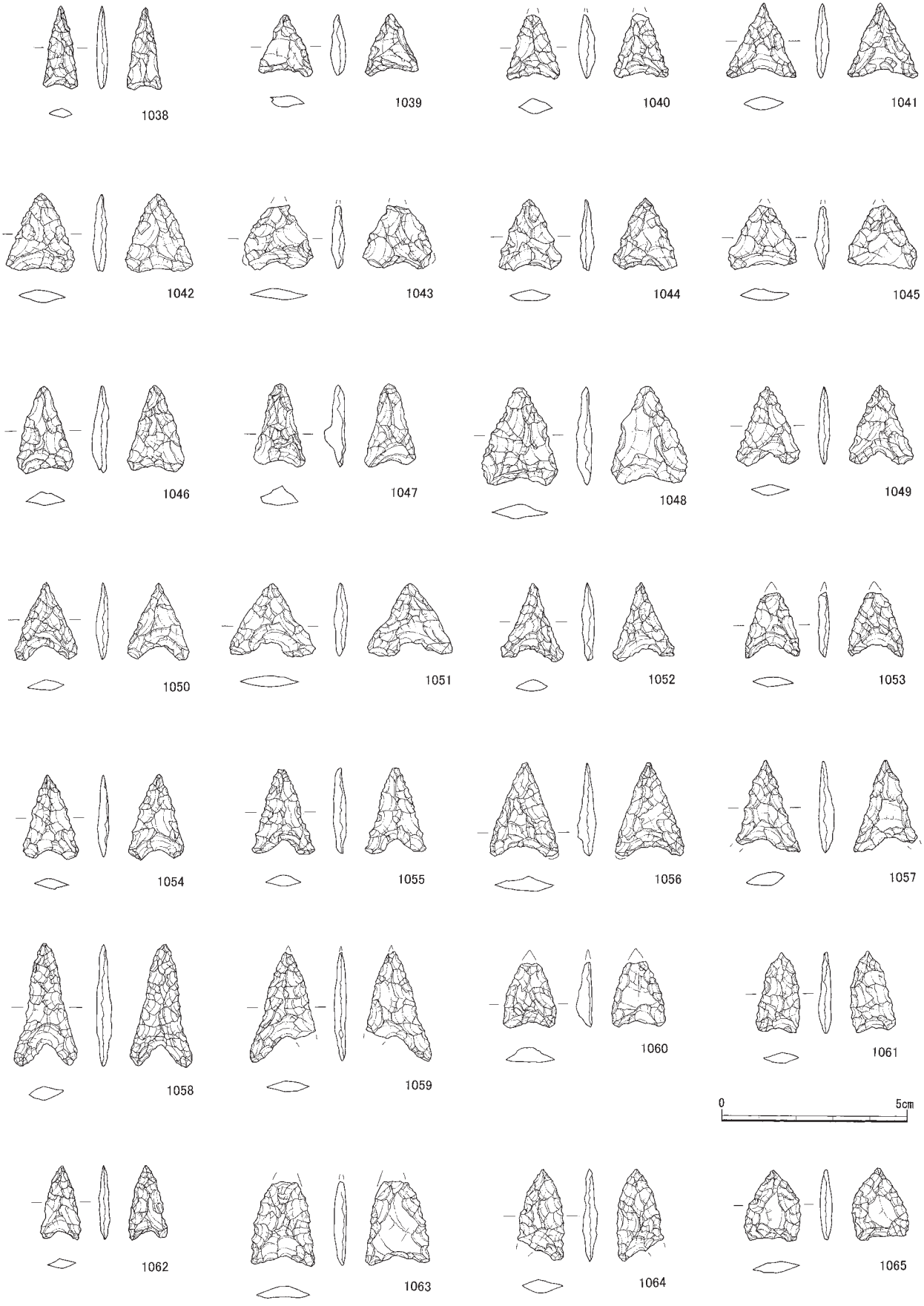
第34表　石器・石製品等出土地点別一覧表1（上段点数、下段重量ｇ）

遺構		器種 / 調査時遺構番号	石鏃	石鏃未成品	打欠き石鏃	切目石鏃	有溝石鏃	石鏃未成品	打製石斧	粗製剥片石器	台石	石皿	敲石	磨石	磨製石斧	砥石	石錐	石匙	削器	楔形石器	礫器	異形石器	RF	UF	礫剥片	剥片（総重量g）	石核	石核素材	石刀	石刀未成品	玉	配石	立石	石材等	受熱礫	計
SK072	AⅢ	下層SK7	1 1.08																						14 14.45										15 15.53
SK073	AⅢ	下層SX8	1 1.20										1 141.08							1 4.81			1 0.72			118 152.21										122 300.02
SK074	AⅢ	下層SK9	1 0.75																						3 3.87										4 4.62
SK077	AⅢ	下層SK12	1 0.50																						10 11.72										11 12.22
SK083	AⅢ	下層SK18																							1 0.30										1 0.30
SK086	AⅢ	下層SK21																							4 3.79										4 3.79
SK093	BⅠ	SK3																					1 8.56												1 8.56
SK100	BⅠ	SK10																							1 4.02										1 4.02
SK102	BⅠ	SK12																		1 6.80	1 339.25				1 6.16										3 352.21
SK103	BⅠ	SK13	1 1.10																						2 0.46										3 1.56
SK113	BⅡ	SK3			1 23.58										1 6.81																				2 30.39
SK合計			22 28.96	5 8.06	5 318.56					1 73.30	9 17,582.03	1 7,775.00	4 1,806.93	1 125.00	4 1,105.81	1 6.81		1 1.30		9 64.47	2 767.36		3 5.85	3 14.23	3 122.42	386 713.61	3 787.08									463 31,306.78
SS061	AⅢ	—																												1 7,050					1 7050
SS062	AⅢ	—																													1 4,600.0			1 4,600.0
SS063	AⅢ	—									1 3,500.0																								1 3,500.0
SS064	AⅢ	—																													1 3,700.0			1 3,700.0
SS065	AⅢ	—										1 2,690.0																							1 2,690.0
SS合計											1 3,500.0	1 2,690.00																	1 7,050.0	2 8,300.0			5 21,540.0
SD080	AⅢ	下層SD15																							2 0.66										2 0.66
SD合計																									2 0.66										2 0.66
SX014	AⅢ	SK4									1 590.0												1 5.36		20 49.22										22 644.58
SX015	AⅢ	SK5	1 1.52																						17 23.85										18 25.37
SX025	AⅢ	SX15		3 3.29							1 643.50													1 103.55	24 76.26	1 5.57									30 832.17
SX028	AⅢ	SX18	4 6.06						1 205.40				1 468.80												18 114.63										24 794.89
SX029	AⅢ	SX19																							11 43.43										11 43.43
SX030	AⅢ	SX20																							8 10.10										8 10.10
SX032	AⅢ	SK22		1 2.57							1 960.0												1 11.12		8 27.25										11 1,000.94
SX033	AⅢ	SK23																					1 0.49		5 8.75					1 10.00					7 19.24
SX038	AⅢ	SX28		1 2.68																		1 1.16			10 30.96										12 34.80
SX039	AⅢ	SX29	1 1.23																						1 2.43										2 3.66
SX040	AⅢ	SX30																							4 13.55										4 13.55

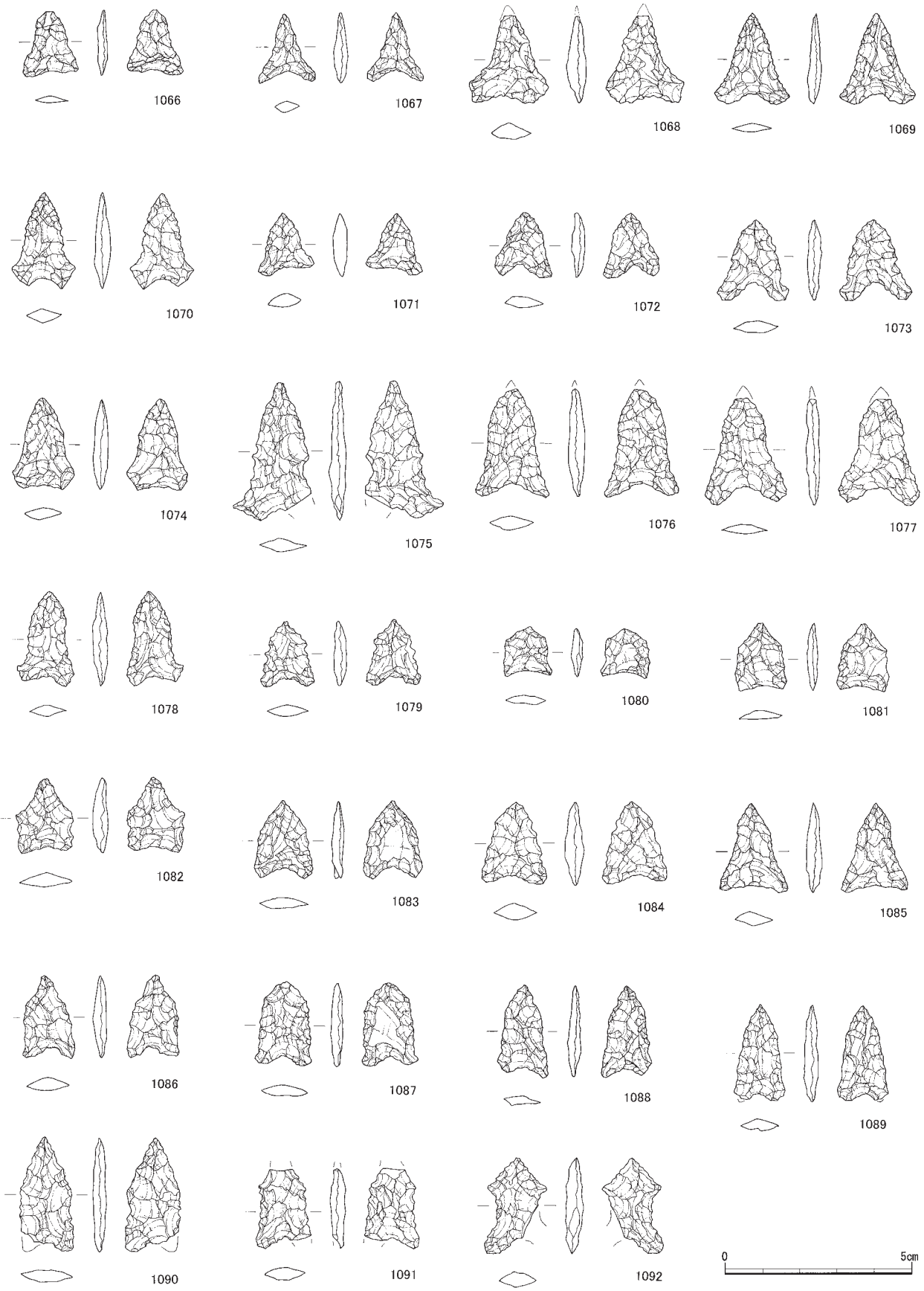
第35表　石器・石製品等出土地点別一覧表2（上段点数、下段重量ｇ）

遺構		器種 / 調査時遺構番号	石鏃	石鏃未成品	打欠き石鏃	切目石鏃	有溝石鏃	石錐未成品	打製石斧	粗製剥片石器	台石	石皿	敲石	磨石	磨製石斧	砥石	石錐	石匙	削器	楔形石器	礫器	異形石器	RF	UF	礫剥片	剥片（総重量g）	石核	石核素材	石刃	石刃未成品	玉	配石	立石	石材等	受熱礫	計
SX041	AⅢ	SX31																		1					8									9
																				389.17					38.41									427.58
SX042	AⅢ	SX32																							1									1
																									0.68									0.68
SX043	AⅢ	SX33																							7									7
																									36.3									36.3
SX044	AⅢ	SX34																					1												1
																							4.49												4.49
SX045	AⅢ	SK35	2										1							1					13							1			18
			1.70										466.01							11.70					17.92							3,700.0			4,197.33
SX048	AⅢ	SK38	1																	1						1									3
			0.90																	5.22						44.00									50.12
SX070	AⅢ	下層SK5	1																						7									8
			1.10																						10.67									11.77
SX085	AⅢ	下層SK20												1									1		8									10
														290.00									1.05		10.11									301.16
SX合計			10	5					1		3		2	1						2	1	2	4	1	170	2			1		1			206
			12.51	8.54					205.40		2,193.50		934.81	290.00						16.92	389.17	6.52	17.15	103.55	514.52	49.57			10.00		3,700.00			8,452.16
SZ104	BⅠ	SZ14	2		5					2			1	3	1				2	2	3		1	1	20	2							2	47
			0.95		229.39					85.06			1,040.0	1,449.44	75.90				6.59	300.60	538.73		1.66	11.93	96.20	73.16							965.35	4,874.96
SZ106	BⅠ	SZ16																					1		1									2
																							1.14		1.73									2.87
SZ合計			2		5					2			1	3	1				2	2	3		2	1	21	2							2	49
			0.95		229.39					85.06			1040.00	1449.44	75.90				6.59	300.60	538.73		2.80	11.93	97.93	73.16							965.35	4877.83
AⅢ第1検出面Pit		Pit	29	10	△ 2								4	1			2			6	2		1	3	403	3								△ 467
			35.28	24.25	61.80								1,528.11	34.23			3.70			247.76	590.00		2.53	11.33	1,001.14	99.72								3,690.94
AⅢ第2検出面Pit		下層Pit	7	5	△ 1						1		1				1		1				1		179			1						△ 198
			6.08	9.85							668.33		56.42				5.20		30.40				1.53		283.48			83.39						1,144.68
AⅢ第3検出面Pit		下層（2層目）Pit																							16									16
																									12.57									12.57
BⅠ第1検出面Pit		Pit	1		2																			1	3									7
			6.60		58.88																			128.07	5.43									198.98
BⅠ第2検出面Pit		下層Pit			1																													1
					43.51																													43.51
BⅡ第1検出面Pit		Pit																					1											1
																							4.81											4.81
Pit合計			37	15	△ 6						1		5	1			3		1	6	2		2	4	2	601	3		1					△ 690
			47.96	34.10	164.19						668.33		1,584.53	34.23			8.90		30.40	247.76	590.00		4.06	16.14	179.16	1,302.62	99.72		83.39					5,095.49
AⅠ包層		包含層																1										1						2
																		10.40										42.60						53.00
AⅠその他									1																									1
									72.50																									72.50
AⅢ第1検出面包含層		包含層	49	17	8	1	1		3	7	28	5	43	11	11	△ 13	3	8		9	28	29	1	15	16	5	665	8		1	3			1		2	△ 991
			49.00	35.66	418.58	36.30	11.60		438.90	517.56	64,979.44	11,375.0	21,532.56	4,530.44	5,840.02	2,908.90	642.68	21.88		329.35	284.32	11,620.15	1.20	143.98	194.45	578.58	2,338.07	690.88		46.32	992.81			5,500.0		480.08	136,538.71
AⅢ第2検出面包含層		下層包含層	9	6	3						2		7	1	3			2		3	6	3		2	5		178	2		1						233
			9.50	26.85	115.34						11,107.84		3,402.67	200.00	1,215.02			4.72		18.80	69.92	884.44		5.90	21.65		485.19	73.33		840.76						18,481.93
AⅢ第3検出面包含層		下層（2層目）包含層											1														7	1							9
													246.24														20.89	62.00								329.13
AⅢその他			15	3	1				2	2	1		13	1	6	3		2		1	4	9		3	2	3	86	5								162
			14.62	4.46	73.03				129.79	147.76	1,140.0		6,592.48	165.00	2,106.79	621.37		3.20		23.60	280.08	3,604.42		17.01	26.78	297.22	219.42	134.50								15,601.53
BⅠ第1検出面包含層		包含層	2	1	10	1		1	1	1		3	5		6		1	1	1		3	6		1	10	5	17	3					4	7		90
			2.72	4.02	645.55	22.87		147.32	35.20	37.39		6,002.19	2,757.90		3,843.86		2,460.0	1.70	9.50		9.68	1,451.30		3.14	48.22	273.32	31.27	76.32					1,540.36	1,261.05		20,664.88
BⅠその他			1																			1			1	2	2								7
			1.30																			555.60			2.21	4.57	351.97								915.65
BⅡ第1検出面包含層		包含層			2								2																					4
					87.52								1,285.00																					1,372.52
BⅡ第2検出面包含層		下層包含層			2							1	2	1								1			1		1					1			10
					106.10							2,700.0	1,416.28	286.00								286.0			7.49		224.58					966.34			5992.79
BⅡその他																									1									1
																									1.34									1.34
包層合計			76	27	26	2	1	1	7	10	31	9	73	14	26	△ 16	4	13	2	13	41	49	1	21	34	13	957	21	1	3	3		1	5	9	△ 1510
			77.14	70.99	1,446.12	59.17	11.60	147.32	676.39	702.71	77,227.28	20,077.19	37,233.13	5,181.44	13,005.69	3,530.27	3,102.68	31.50	19.90	371.75	644.00	18,401.91	1.20	170.03	293.31	1,149.12	3,108.24	1,389.00	224.58	929.68	992.81			5,500.00	2,506.70	1,741.13	200,023.98
総合計			149	54	△ 42	2	1	1	8	13	46	11	89	15	36	△ 18	4	17	2	16	64	57	1	29	49	22	2201	32	1	4	3	1	1	4	5	11	△ 3009
			169.78	123.49	2,158.26	59.17	11.60	147.32	881.79	861.07	104,371.14	30,542.19	44,991.05	5,306.44	16,285.17	3,612.98	3,102.68	41.70	19.90	408.74	1,298.57	20,687.17	1.20	189.32	348.71	1,629.16	6,164.54	2,760.92	224.58	1,013.07	992.81	10.00	7,050.00	17,500.00	2,506.70	2,706.48	278,177.70

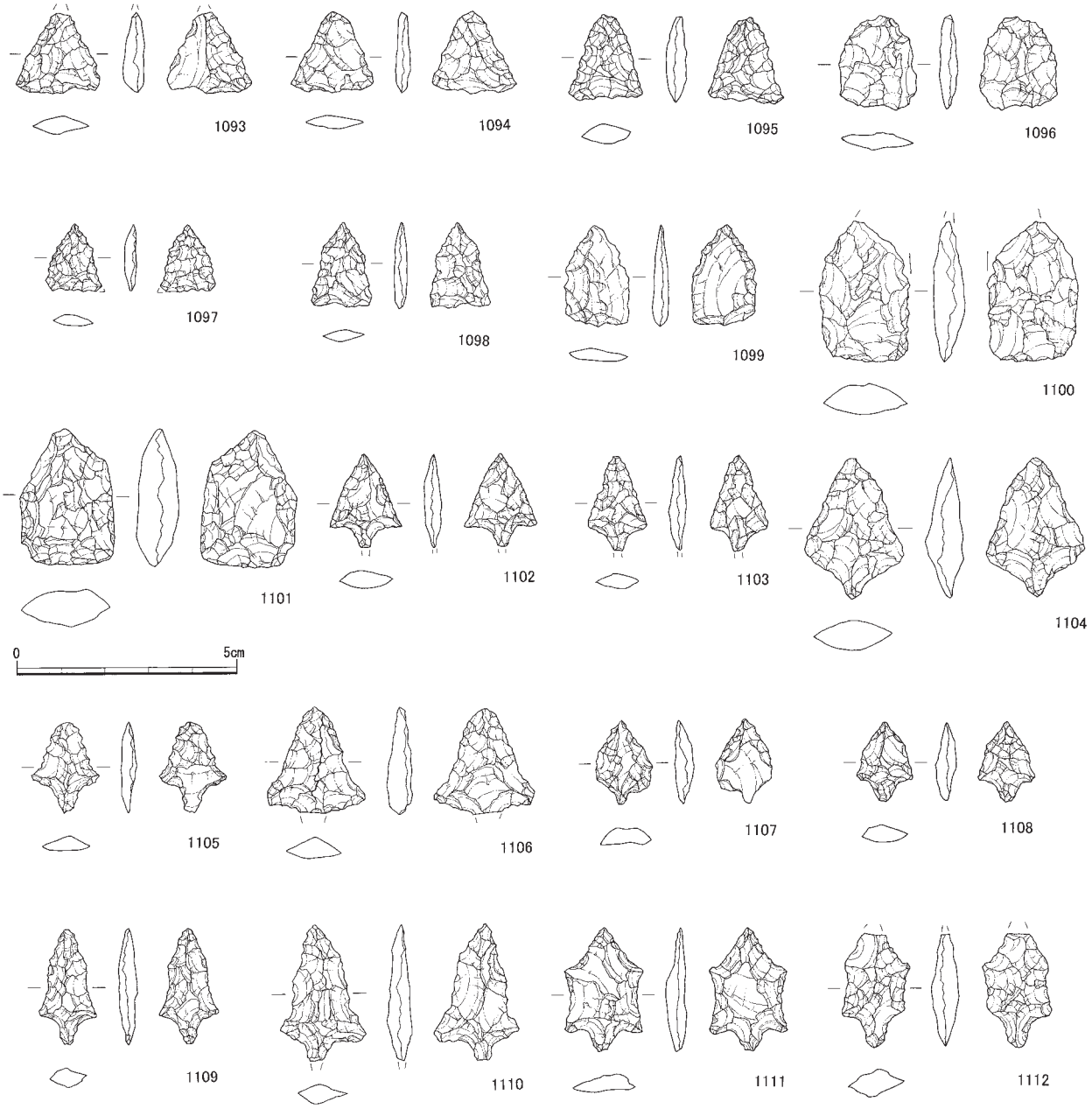
第36表　石器・石製品等出土地点別一覧表3（上段点数、下段重量ｇ）　※計測不能のものも含む。△付数字。



第86図　出土石器・石製品実測図1(2:3)



第87図　出土石器・石製品実測図2(2:3)



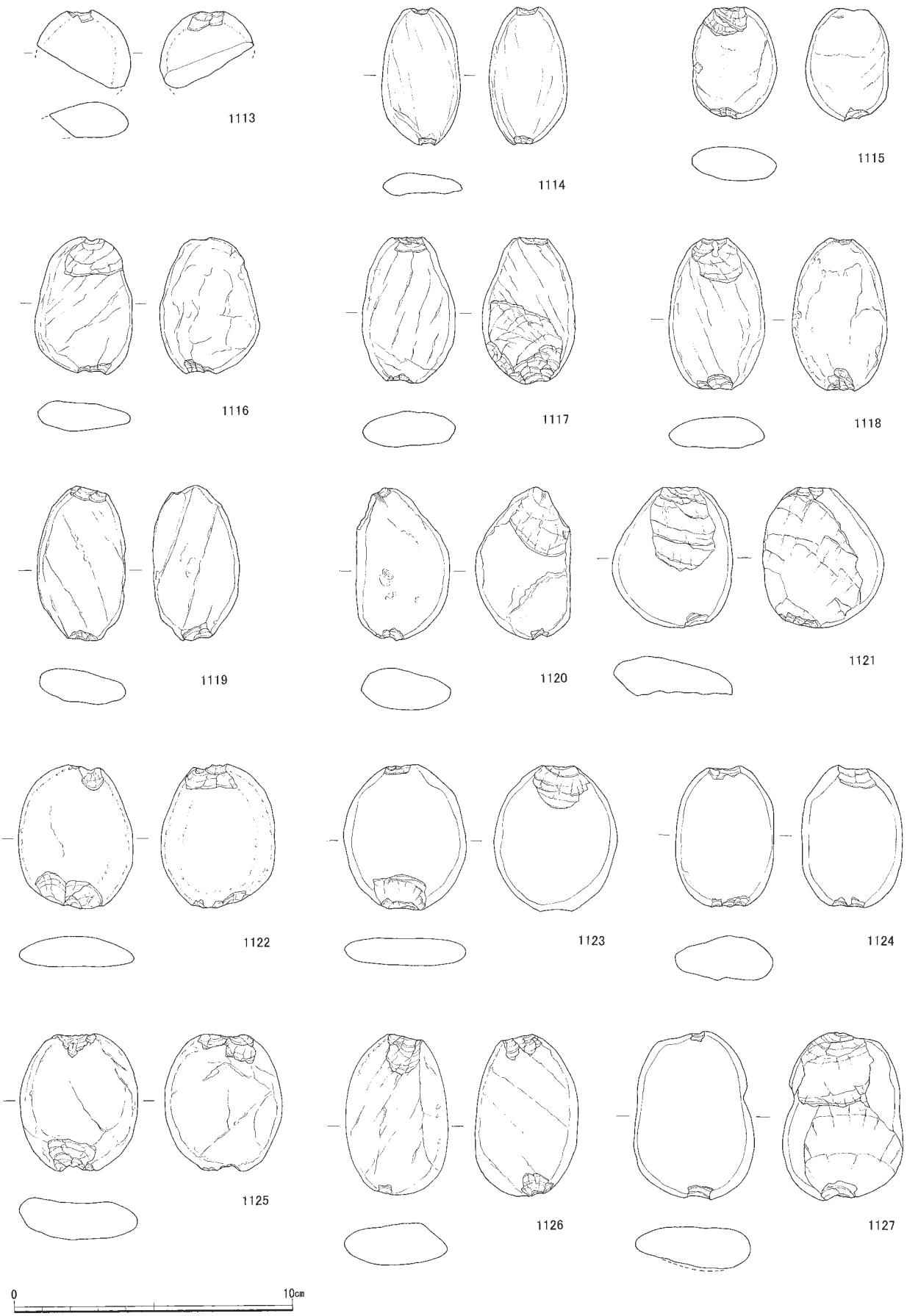
第88図　出土石器・石製品実測図3(2:3)

曲が不明瞭で、屈曲点から脚部にかけて側縁が内に反り、脚部が跳ねた感じとなり、端部が角張る。ただし、1071・1072・1076は左右の脚部形態に違いがありアンバランスな感じがするものである。1079～1084・1086・1087は屈曲点から脚部にかけて側縁が直線的で将棋駒形に近いものである。なかでも1082は屈曲点位置が最大幅となる。1088～1090は将棋駒形を細くした形態である。1085・1091は屈曲点が明瞭で、そこから脚部にかけて緩やかに側縁が内に反る。1092は屈曲点とそこから脚部にかけてのくびれが明瞭である。

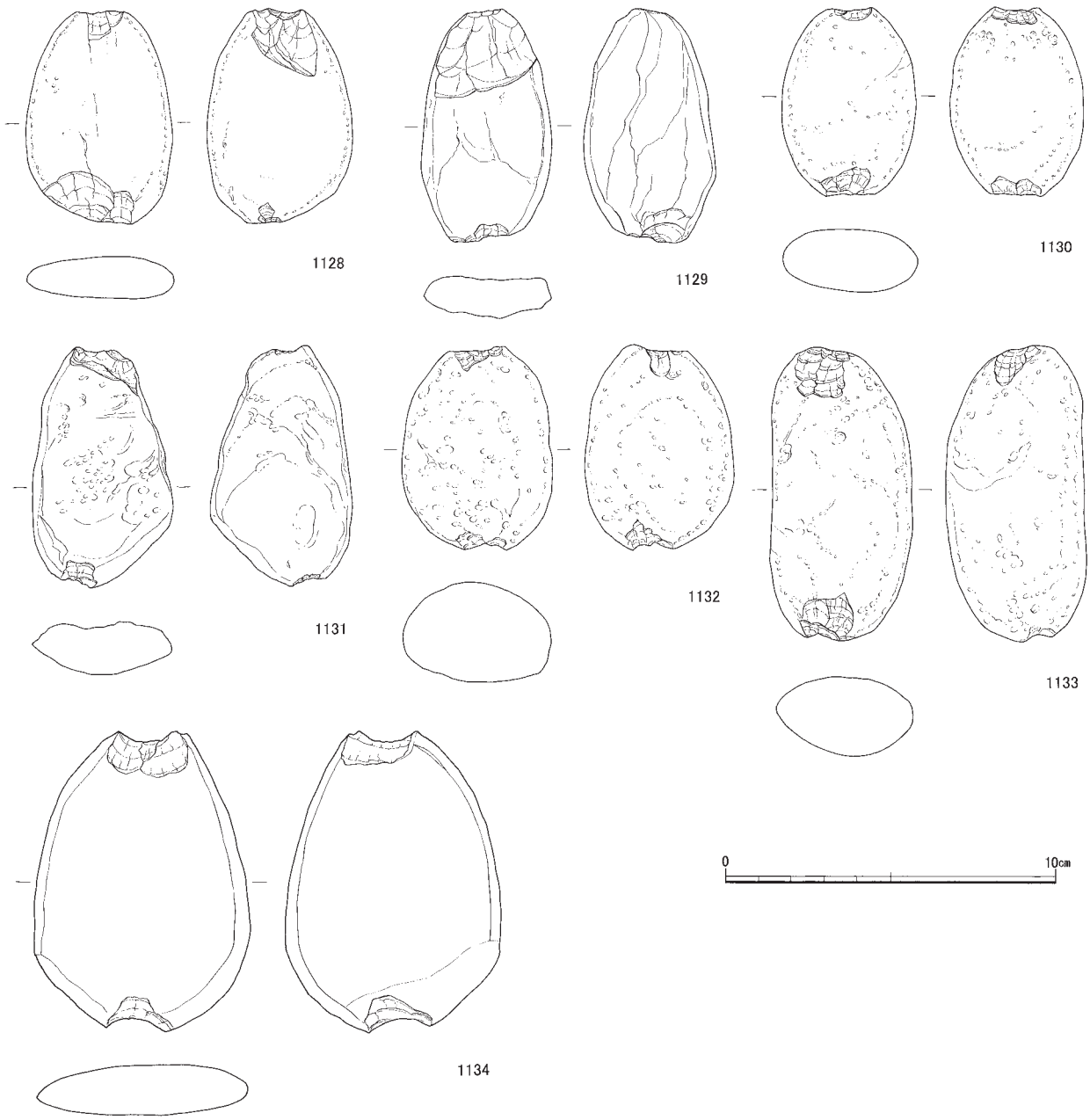
ⅡＡ類（1093～1095）……1093・1094は正三角形状でサヌカイト製、1095は二等辺三角形状でチャート製である。

ⅡＢ類（1096）……基部はいびつであるが平基に含めた。先端部をわずかに折損しているが、おそらく細く作り出すものであったと考えられる。

ⅡＤ類（1097～1101）……1097は小型で側縁の一方の屈曲が不明瞭である。1098は屈曲が明瞭で基部をわずかに新しく欠損する。1099は周縁加工を施し表裏面に一次面を大きく残す。1100・1101はともに厚みがあり未成品の可能性を残すが周縁に調整



第89図　出土石器・石製品実測図4(1:2)



第90図　出土石器・石製品実測図5(1:2)

が及ぶことから完成品として扱った。石材は1101がチャート、それ以外がサヌカイトである。

ＶＡ類（1102～1104）……1102は身部が正三角形状、基部が平基、1103は身部が二等辺三角形状、基部が凸基となる。1104は厚みがあり調整は全体的に粗い。石材はすべてサヌカイトである

ＶＣ類（1105・1106）……1105は側縁が鋸歯状を呈し、裏面下半に一次面を残す。基部は凸基である。1106は裏面に一次面を残すもので、基部は凸基、茎は折損している。石材はともにサヌカイトである。

ＶＤ類（1107～1112）……1107は表裏面に一次面を残す。表面の剥離は急角度となり、裏面は先端部付近中心の調整である。基部は凸基で茎は小さい。1108も1107同様に小型で基部は凸基である。1109・1110はともに身部が縦長で、側縁が屈曲点から基部にかけて内に反るもので、基部は1109が凸基、1110が平基である。1111･1112はともに側縁の屈曲点の幅と基部の幅がほぼ同じで、側縁が屈曲点と基部にかけて内に反るもので、基部は1111が凹基、1112が凸基となる。石材は1111・1112が下呂石、他が

サヌカイトである。　（久保勝正）

（３）打欠き石錘（第89図　1113～1119・1121～1127、第90～92図　1128～1153）

43点が出土した。うち41点を図示した。重量は最軽19.60ｇ、最重134.80ｇで、完形品の平均重量は、56.10ｇとなるが、分布の中心は30～50ｇ台である。紐掛けのための凹部の剥離は、大半が両端の両面に形成され、両極打法によって形成されたと考えられる。浅く形成されたものが多く、後述するように楔形石器の上・下縁に類似した直線状を為すものも一定数みられる。石材は片岩が最も多く半数以上を占め、それについで泥岩・砂岩が多く、他に流紋岩・緑色岩・細粒花崗岩・チャート・礫岩・火砕岩（高見石）もみられる。

出土状況は大半が包含層出土だが、遺構内複数出土例として、ＳＺ104からの1117・1131・1150・1151の４点と、ＳＫ16からの1119・ＳＫ71出土の1146の２点が挙げられる。第91・92図に示したものは、長さが幅の２倍以下となるやや幅広の平面形をもつ一群である。石材は泥岩が多く、砂岩・片岩がこれに次ぐ。但し、50ｇ以上となると流紋岩が砂岩・片岩と並んで多数となる。重さは、30～40ｇ代が主体となる。

1113は半欠品だが、ほぼ正円形の平面形を呈する例として図示した。復元重は35ｇ前後になると思われる。1114～1119・1121～1125は、20ｇ前後から40ｇ強までの重量をもち、形態的には斉一性の高い形態を呈するものである。1121は、図右面では剥離が器体のほぼ全面に及んでいる。1126～1131は、重さ50ｇ前後から60ｇ代までの一群である。1127は、図右面の剥離が上下とも器体中央まで大きく突き抜けている。1132～1134は、重さ100ｇを越える大型の一群である。1131は緑色片岩、1132は流紋岩、1134は砂岩を用いる。形態は軽量のものと大差ない。

1147～1153は、上下端に剥離痕が形成されるものの縁辺がほぼ直線になるものを集めた。これらは石錘として用いられた可能性も否定されるものではないが、円礫を素材とした楔形石器であることも考慮される一群である。1147は、隅丸方形の平面形をもち、上下端の縁辺は潰れ状となり、凹部を全く形成していない。1148は、重複が等しい扁平な自然礫を用いる。上下端には剥離が形成されるが、やはり凹部は形成されない。図左面の中央付近には擦痕が残る。1149･1150は、1148とほぼ同様の平面形をもつ。1151の上下端の縁辺は、完全に潰れ状の痕跡のみによって構成されている。1152は、緑色片岩を用いた縦長品である。1153の縁辺もほぼ潰れ痕のみによって構成される。

第91図は、長さが幅の２倍を越える縦長品の一群である。石材は、緑色片岩ないし片岩が圧倒的多数を占め、他は図示したものでは細流花崗岩・砂岩・緑色岩が１点ずつみられるのみである。重さは1135の16.6ｇから1146の109.15ｇまで幅広いが、40ｇ代と60ｇ代にまとまりがみられる。凹部の形成などに幅広品との相違などはみられない。

（４）切目石錘（第89図　1120・第92図　1154）

1120と1154の２点のみである。1120は、レイアウト時は打欠き石錘としていたが、一見打欠き石錘にみえる器体の上下端に、不明瞭ながら擦り切りを施すもので、本器種として記述する。図上端は、切目とは呼べないほどのわずかな擦切りによる線状痕がみられる。下端には切目状の部分が形成される。1154は、両端の両面に擦り切りによる紐欠け部が形成されていたと推定されるが、図右面に示したように剥離によって片面の約半分が欠落し、一方の端部も失われているが、図左面上部に示したように、わずかに切目の末端が残存している。

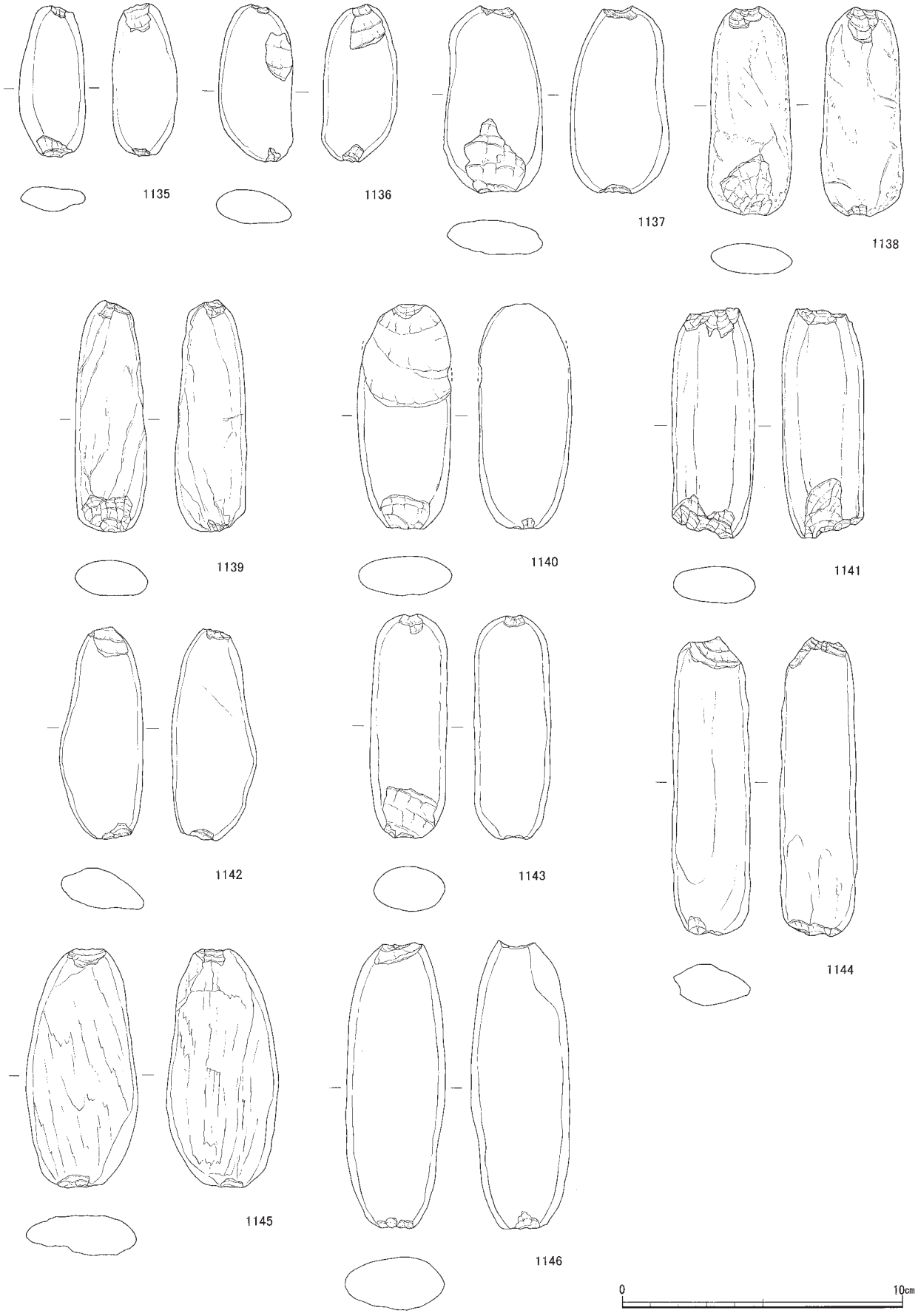
（５）有溝石錘（第92図　1155）

1155は、特徴的な形態をもつ。片岩製で、両端がやや尖る狭長な楕円礫を使用し、両端に近い部分にそれぞれ全周する細い施溝を行っている。他に類例をみない形態を呈していることから、垂飾や小型の石棒状石製品といった器種とすることも考えたが、ここでは溝を紐欠け部と理解し、有溝石錘の一種として記述した。

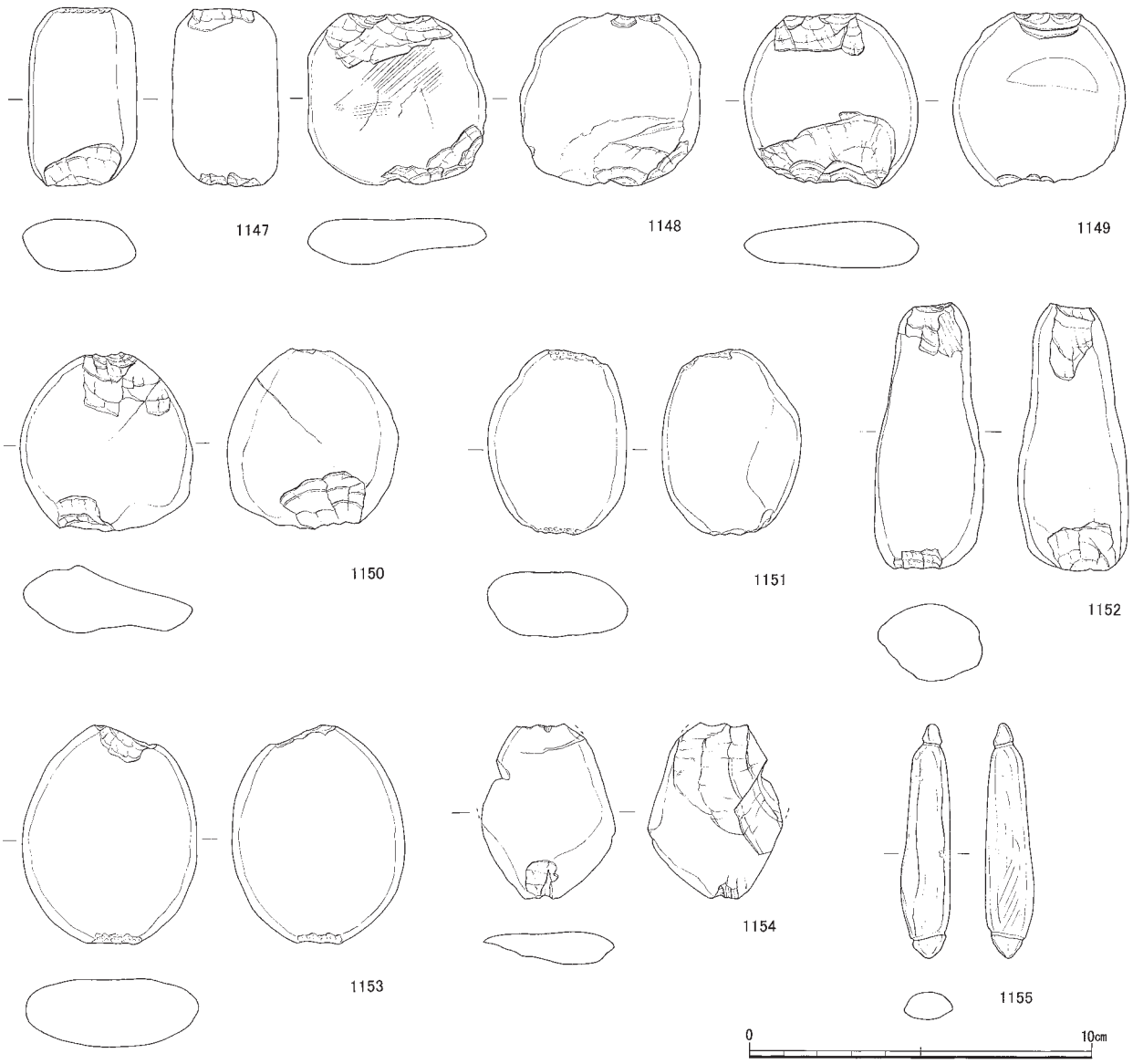
（６）打製石斧（第93・94図　1156～1162）

破片を含め８点を本器種とした。うち完形品７点を図示した。1157～1161は、いずれも背面の一部に原礫表や一次剥離面を、腹面には主剥離面を大きく残し、周縁の調整加工によって器形を作出している。

1156・1157は、柄部と身部によって構成される形態をもつ。1156は、長さ10㎝に満たない小型品だ



第91図　出土石器・石製品実測図6(1:2)



第92図　出土石器・石製品実測図7(1:2)

が使用による刃部の摩耗は著しく、刃縁の周辺には両面ともに線状痕が明瞭に観察される。1157は、柄部の作出が明瞭で平面形は比較的整っているが、器厚はやや厚手である。刃部の背面側には使用による線状痕が多数残り、柄部下半の側縁には結縛によると考えられる潰れ痕が観察される。

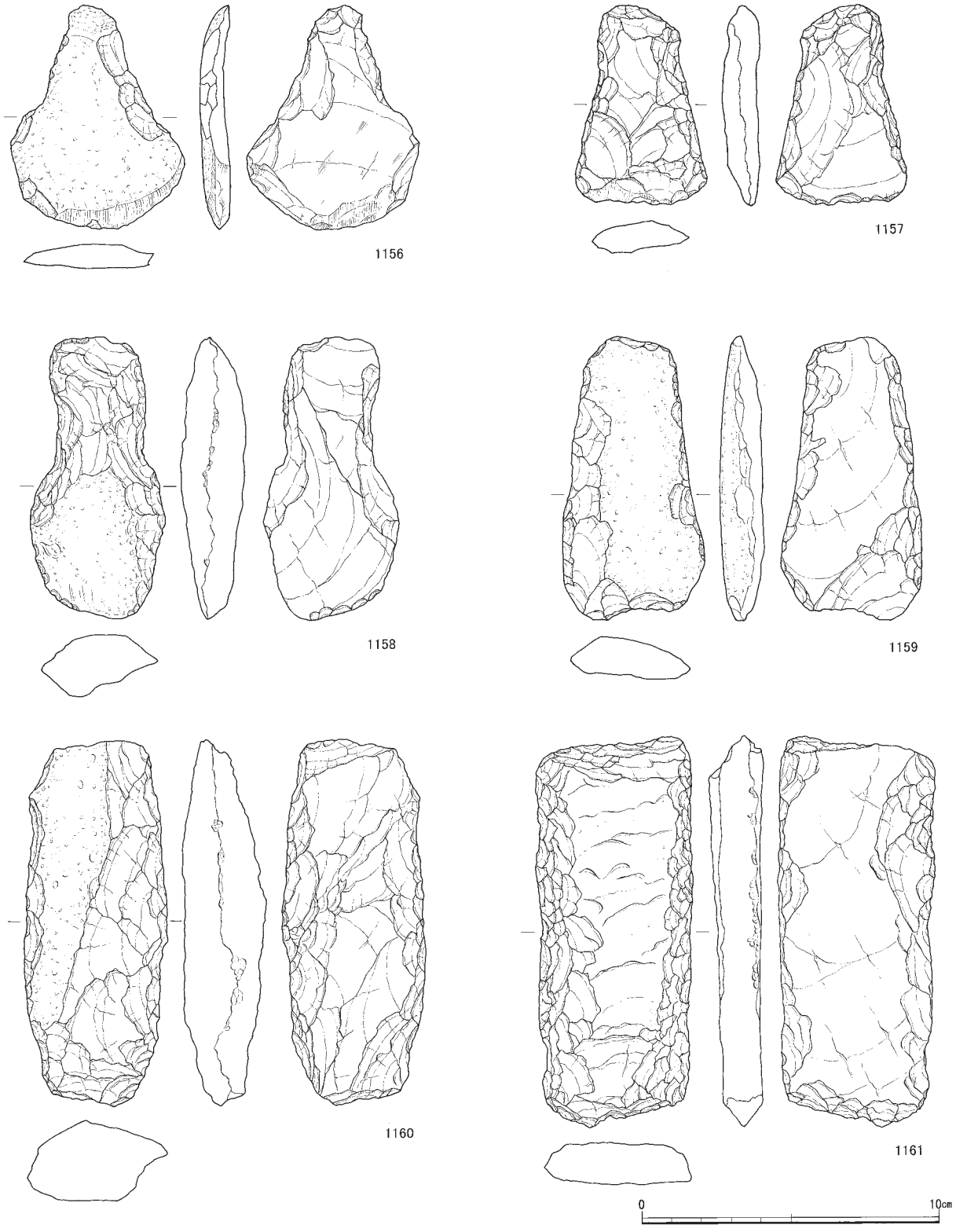
1158・1159の２点は、基部端から刃部にかけて徐々に器幅を増す平面形を呈する一群である。1158は、長さ５cm強の小型品だが、背面刃部周辺には明瞭な線状痕がみられ、腹部側にも潰れ状の小剥離が連続して形成されている。

1160・1161は、ほぼ短冊形を呈する。1160は、他に比して全体に厚手で、石材は砂岩を用いることから、磨製石斧の未成品とも考えられる。1161は、ほぼ長方形の平面形を呈する。刃部の使用痕は明瞭ではない。

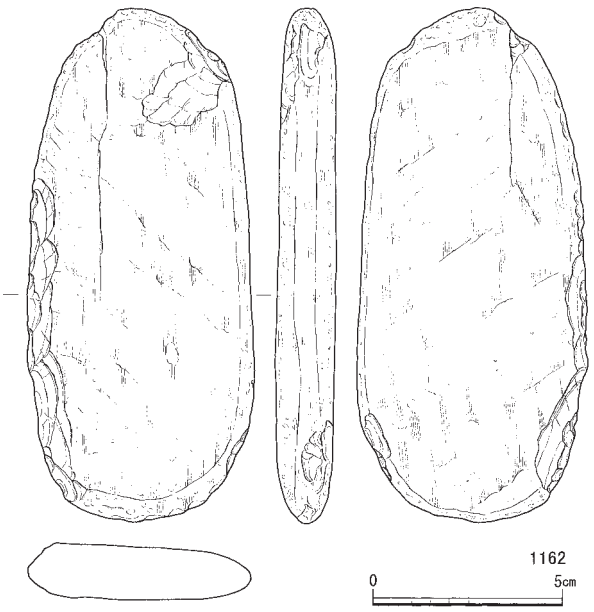
1162は、特徴的な形態をもつ。もともと扁平な楕円礫を用い、周縁の一部にのみ剥離が施される。両面は平滑な平坦面だが、研磨によるものではなく、本来の礫表と考えられる。両端に使用痕はみられない。磨製石斧の未成品とも考えたが、違和感がある。本器種ないしはその未成品と考えて、ここで記述した。

（７）粗製剥片石器（第95図　1163～1168）

円礫から剥取した剥片をそのまま二次加工を加えずに、あるいはわずかに加えて、何かを切るために用いられたと推定される石器をここでは「粗製剥片石器」と仮称している。



第93図　出土石器・石製品実測図8(1:2)



第94図　出土石器・石製品実測図9(1:2)

1163・1164の２点は、刃部の周縁に連続する小剥離と縦方向の線状痕を伴う摩耗が形成される。

1165～1168は、前二者のような明瞭な摩耗はみられないが、小剥離痕などの使用痕がみられるものである。

（８）台石・石皿（第96～100図　1169～1183・1755）

合わせて記述する。台石としたものは、手に持って使用するのではなく、据え置きで使用した石器のうち、敲打痕を残すものを台石とした。それに対して磨面が形成される石器のうち、使用面の性状から砥石と判断した以外の手で持って製粉具の上石として使用できない大きさのものを石皿とした。これらの機能については、第一に堅果類の製粉具として使用されたと推定される。但し、台石に関しては石器製作に寄与するものも一部含まれるが、抽出することは難しい。また、台石・石皿共に赤色顔料の付着したものがあり、赤色顔料＝水銀朱の精製に用いられたものも確実に含まれている。石材の使用傾向に大きな差異はなく、安山岩を主体として、砂岩がこれに次ぎ、他に閃緑岩・花崗閃緑岩・花崗岩・流紋岩・片岩などがみられる。レイアウトは一括して為されているため、両者が混在しており煩雑だが、器種別に進めていくこととしたい。

台石は46点ある。うち14点を図示した。

1169は、片面の中央にわずかに敲打痕が残る。1173は、図右面上部の破損部付近に敲打痕が観察される。1175は、約３分の１を残す破片である。図左面の中央に敲打痕が広く残る。1177は、両面に敲打痕の残る破片である。敲打痕の位置が偏っていることから、破損後に敲石として使用された可能性も考慮される。1182も1177と同様の破片である。但し、周囲に礫器の刃部としても機能し得る剥離痕が形成されることから、ここにレイアウトした。1755は、「立石」として取り上げられたものを、整理の段階で台石と器種認定した。隅丸方形の平面形を呈する整った自然礫を素材とし、表面の中央に広く赤色顔料の付着が確認される。後述の朱付着磨石と共に水銀朱の精製に用いられたものと考えられる。

石皿は11点ある。うち９点を図示した。

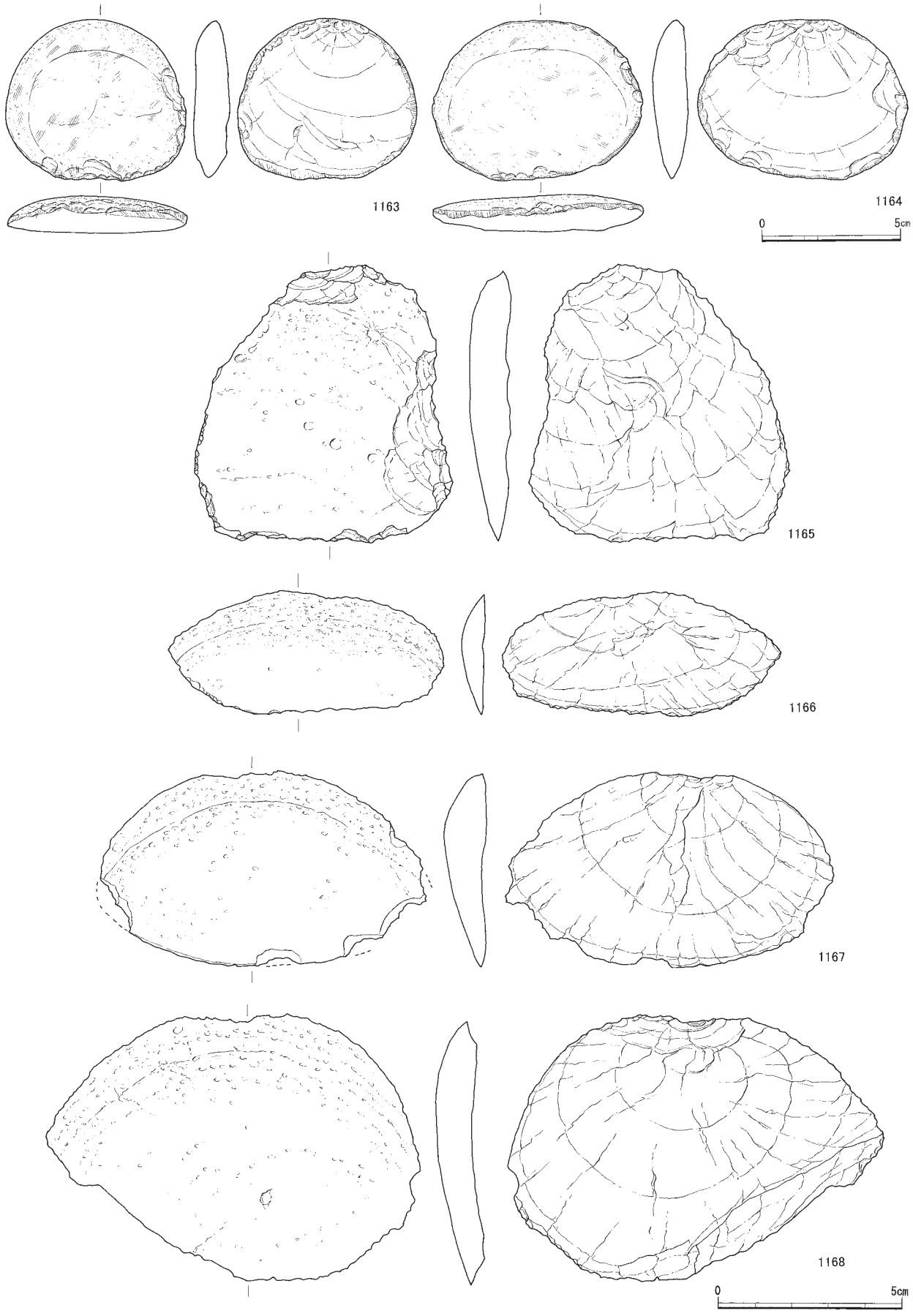
1170は整った楕円形を呈する両面に使用痕がみられるが、横断面をみると上面が凹面となっており、下面は凸面となることから、図左面が製粉のための機能面であり、図右面がいわゆる床擦れと考えられる。

1171も同様の整った形態の自然礫を素材とする。やはり両面に使用面が残るが、一方を床擦れと判断すべきであろう。側縁の一部に剥離面が形成されるが、その意味は不明である。1172は、一部を欠損する。断面形や使用痕の性状から判断して図右面が機能面、図左面が床擦れである。1174は、1171・72と同様の形態をもつものの破損品である。半欠後に周囲に剥離面が形成されるが、その意味は不明である。礫器とするには刃部形成が不十分である。

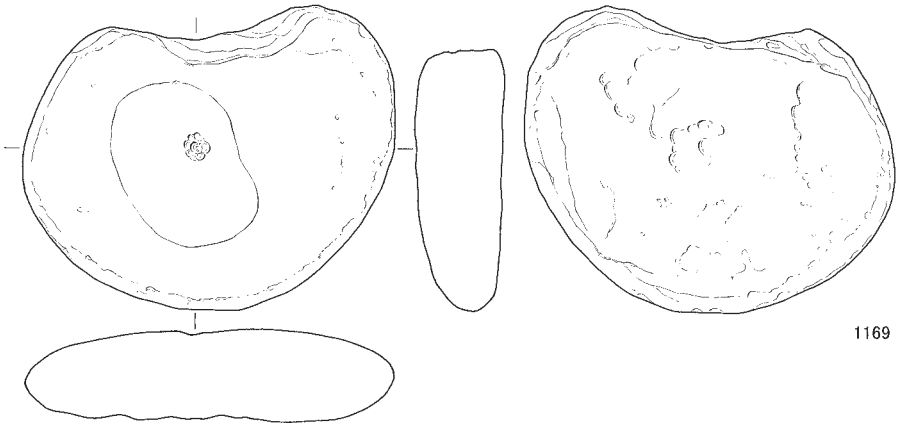
1176は、緑色を呈する薄い板状の片岩礫を素材とし、図左面の一部に広く赤色顔料が付着している。

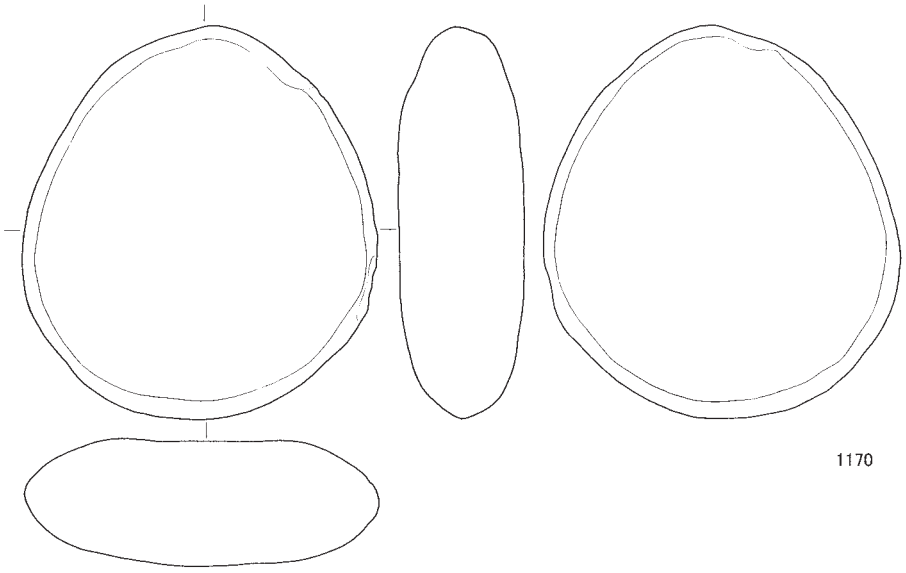
1178は、肌理の細かい砂岩製の石皿片である。図左面は極めて平滑な使用面となっているが、他の面は大きな分割面となっている。1179は、1171・72と同様の形態をもつものの周縁を大きく破損した事例である。図右面が機能面、図左面が床擦れであろう。1180は、約４分の１を残す破片である。図左面が機能面である。1181は、大きく破損面が覆う破片である。1183は、約２分の１を残す破片である。図左面が機能面、右面が床ずれである。図下部に剥離痕をもつが、両面共に一面で構成されており、礫器の刃部を意図したものではないであろう。

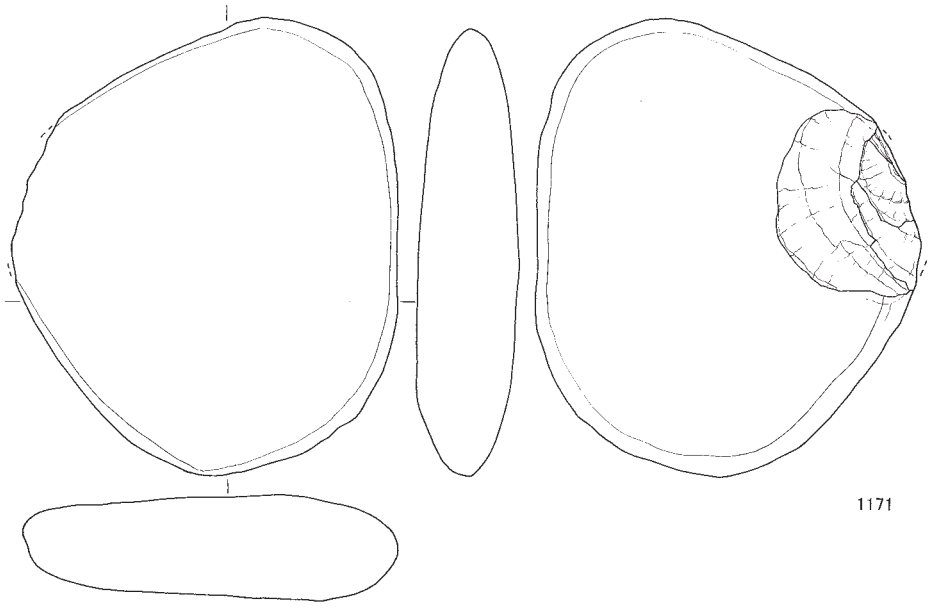
（９）敲石（第101～104図　1184～1219）**・槌石**（第105図　1221～1234）

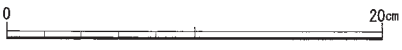


第95図　出土石器・石製品実測図10(1165～1168は2:3、1163・1164は1:2)







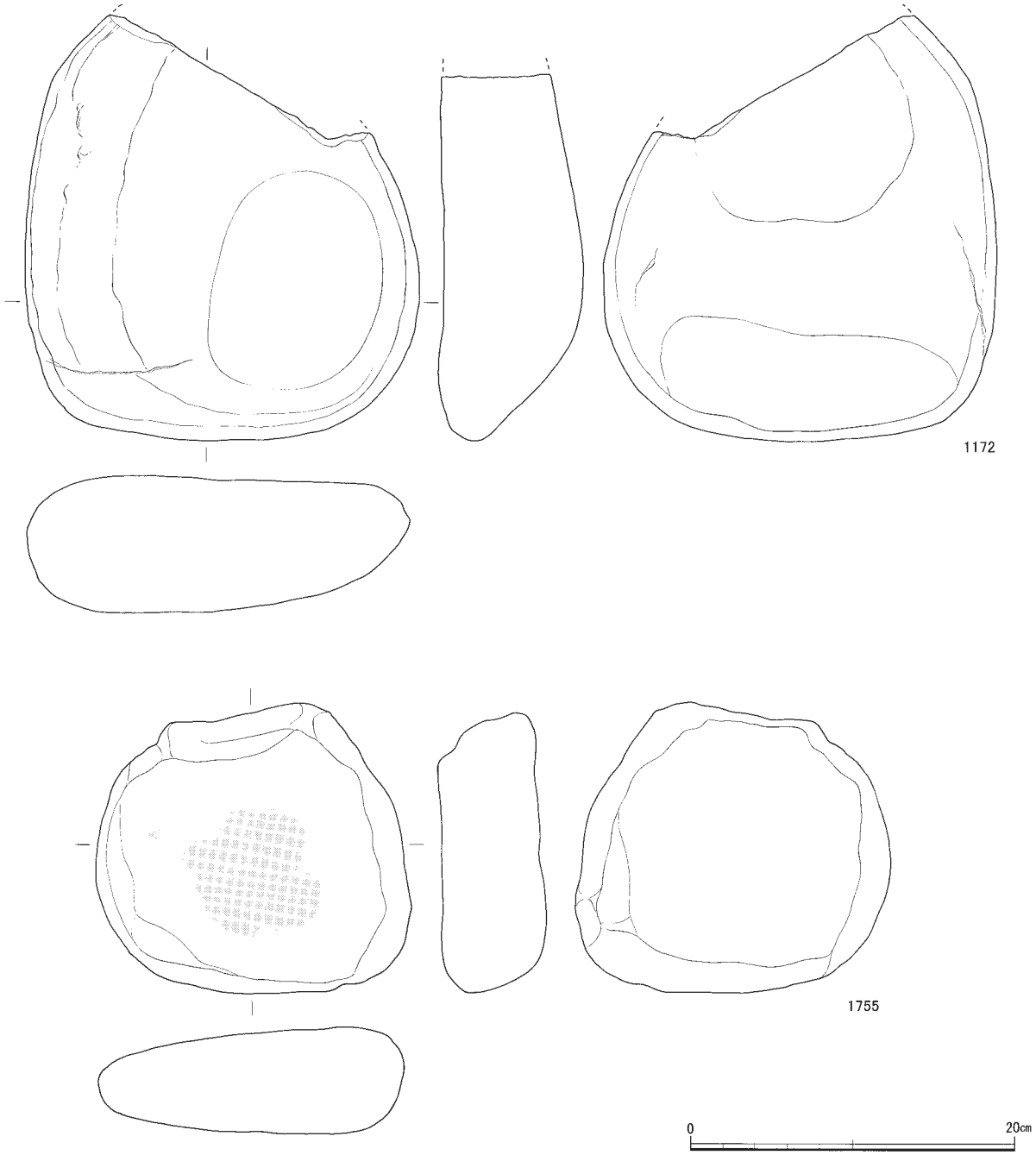


第96図　出土石器・石製品実測図11(1:4)

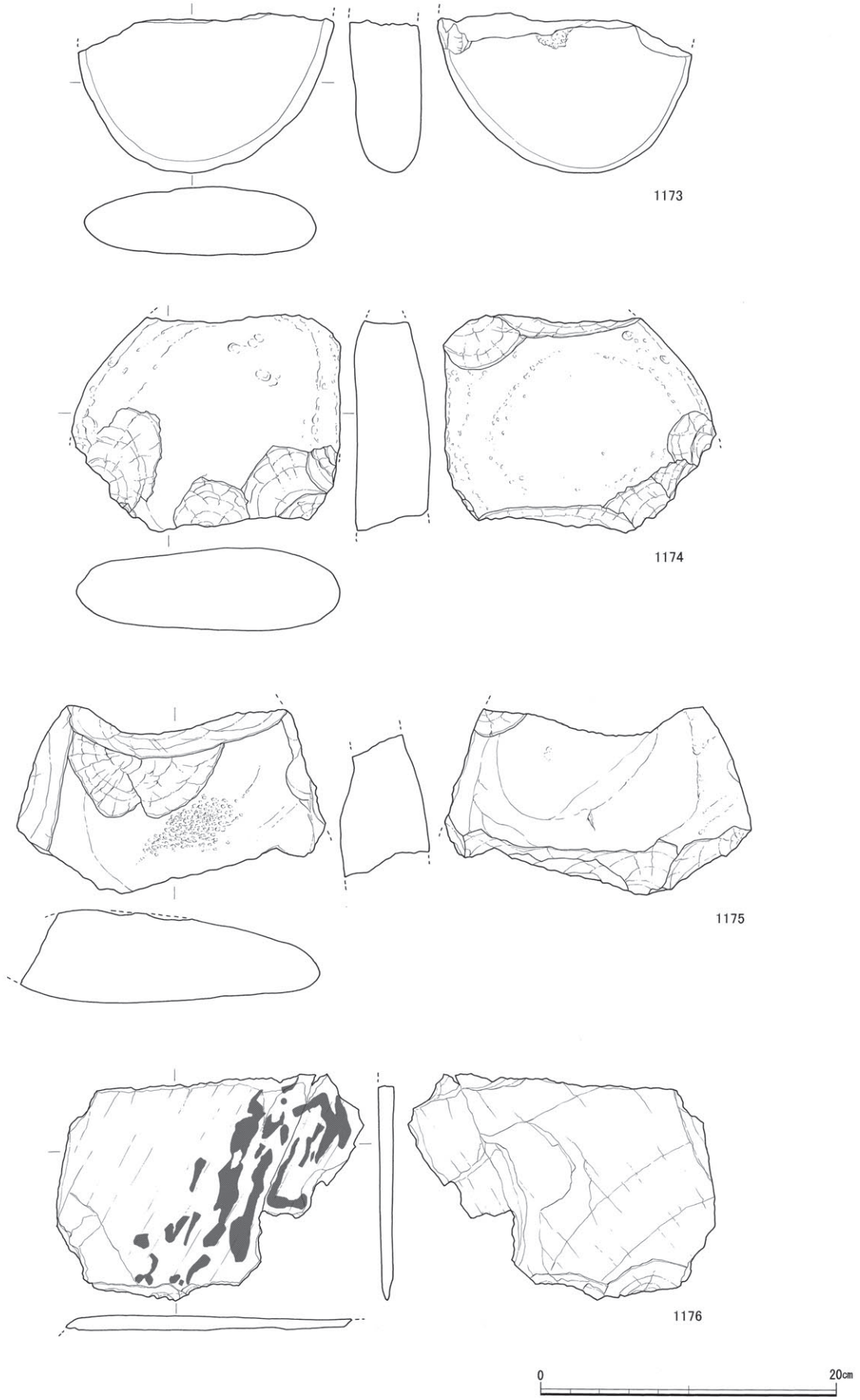
楕円形の自然礫を素材とし、器面に敲打痕を残すものを本器種とした。一部に赤色顔料の付着したものもみられる。組成上は区分して検討する。敲打痕が形成される位置によって細分が可能だが、ここでは一括して記述する。なお、第105図に挙げたものは、石器製作用の「槌石」として理解すべきものだが、ここで続けて記述する。組成上は、植物質食料の加工具と推定されるものとは区分して、別途検討する。石材については、安山岩と砂岩がほぼ拮抗して存在し、花崗岩･デイサイトがそれに次ぐ。他に、閃緑岩・花崗閃緑岩・火砕岩（高見石）がある。槌石には、砂岩が多く用いられ、特徴的な用材としては棒状の片岩礫を用いて一端に敲打痕の形成されるものが、まとまってみられる。

まず、植物質食料の調理・加工具として推定される一群について記述する。敲打痕のみのものもあるが、基本的には磨面の複合するものは、すべてここに含まれると理解される。

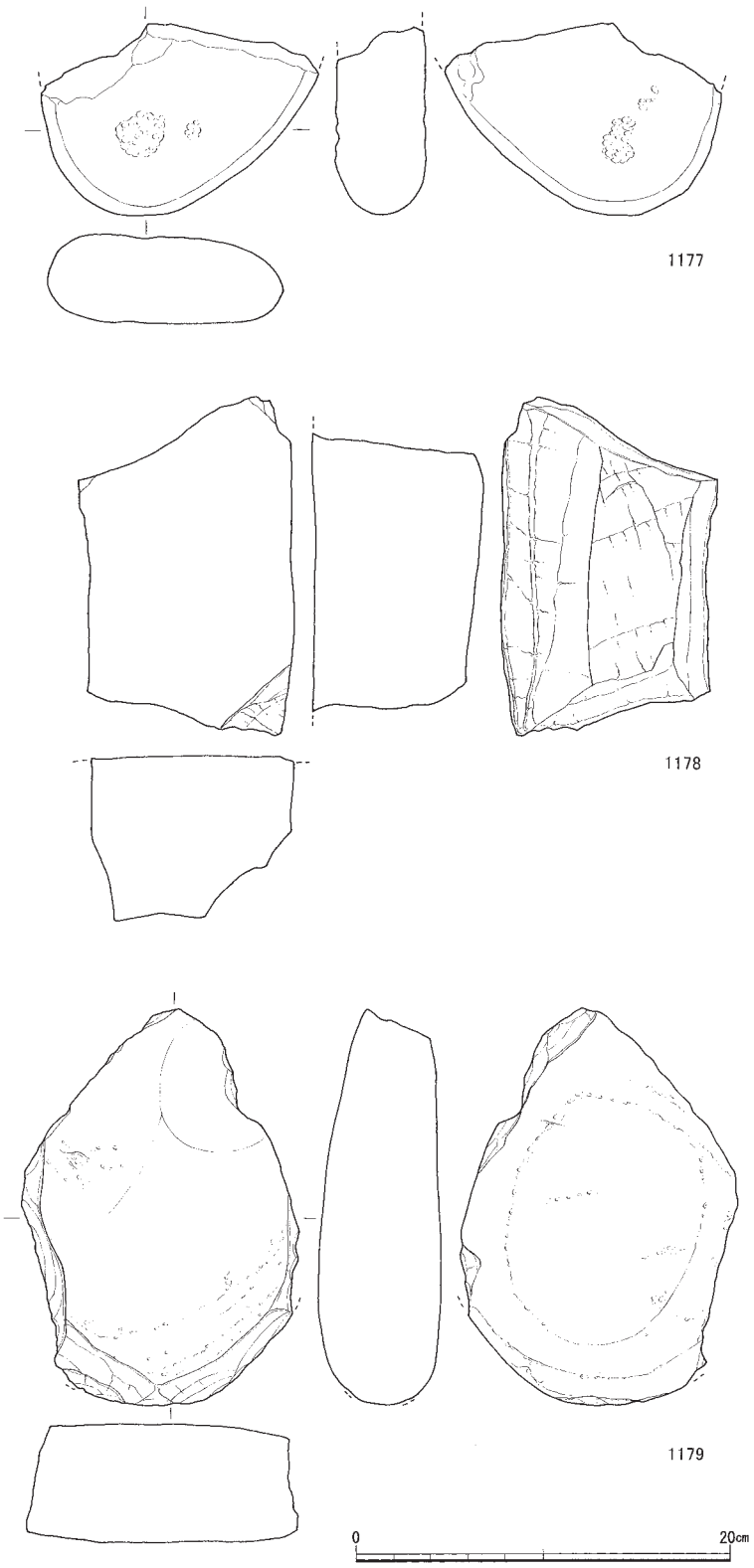
1184・1185は、両面のほぼ中央にのみ敲打痕による凹みをもつ。1184は､図右面が磨面となっている。



第97図　出土石器・石製品実測図12(1:4)　※網点は赤色顔料

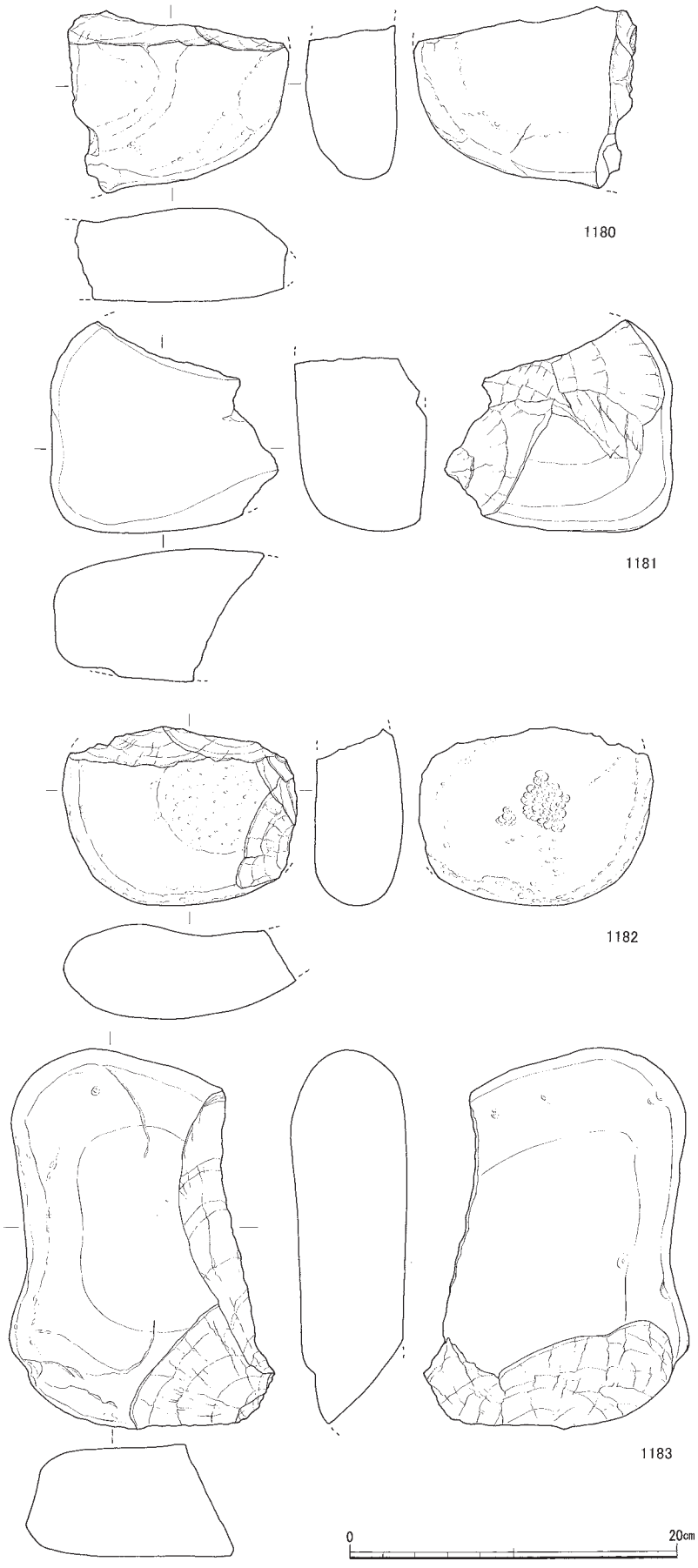


第98図　出土石器・石製品実測図13(1:4)　※網点は赤色顔料



第99図　出土石器・石製品実測図14(1:4)

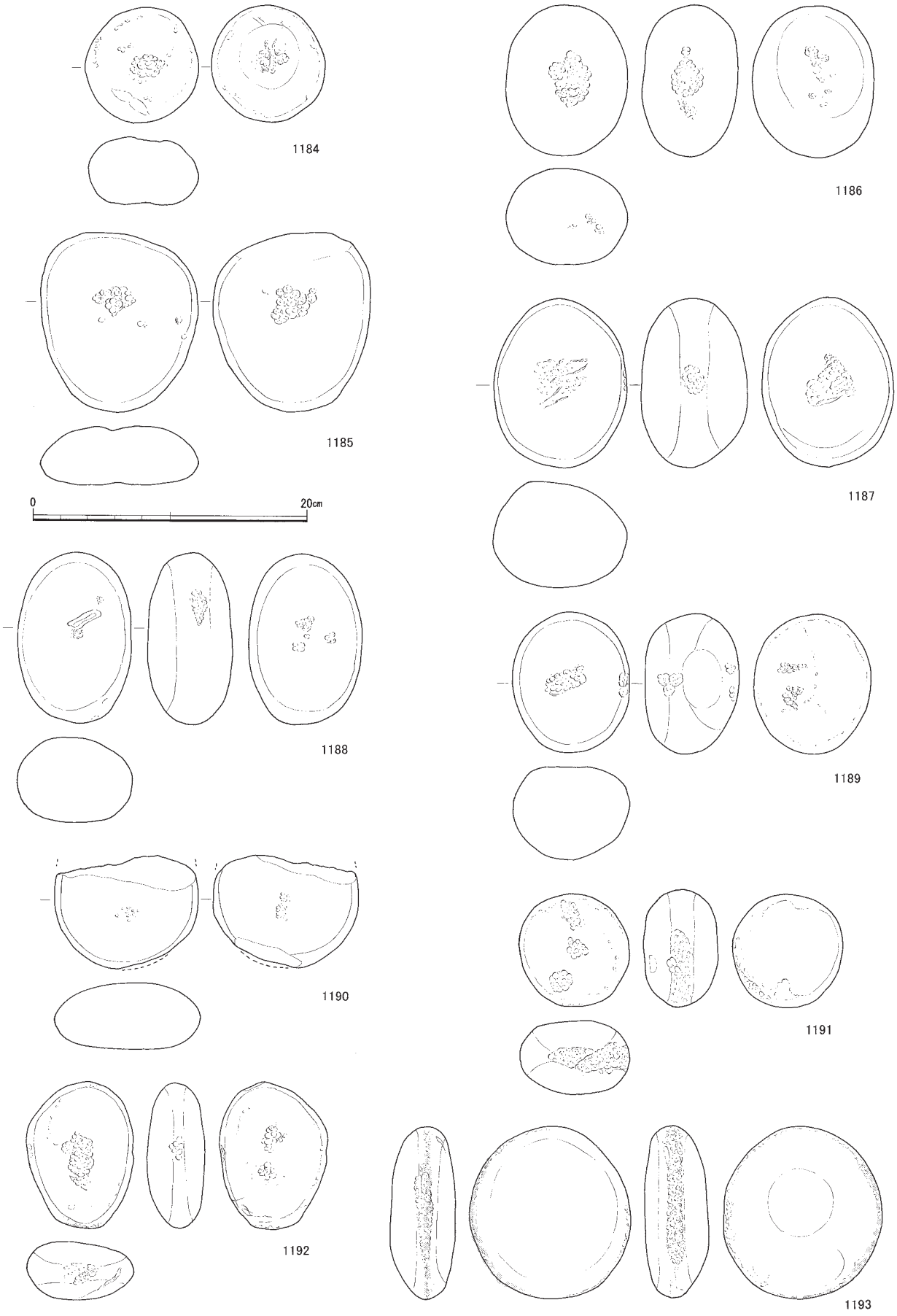
受熱による変色がみられる。1185は表面は極めて平滑だが、磨面ではなく、本来の礫表である。1190は、同様のものの破片だが、敲打痕の形成はわずかである。両面の磨面は明瞭ではない。1186～1189、1191・1192は、両面に加えて側縁の一部にも敲打痕をもつものである。1186～1189は、側縁のごく一部のみに敲打痕が形成される。1186は、両面共に敲打による凹みの周辺にスベスベとした磨面が広く形成されている。1191は、周縁の約半分に敲打痕が帯状に形成されている。1192は側縁に加えて一方の端部にも敲



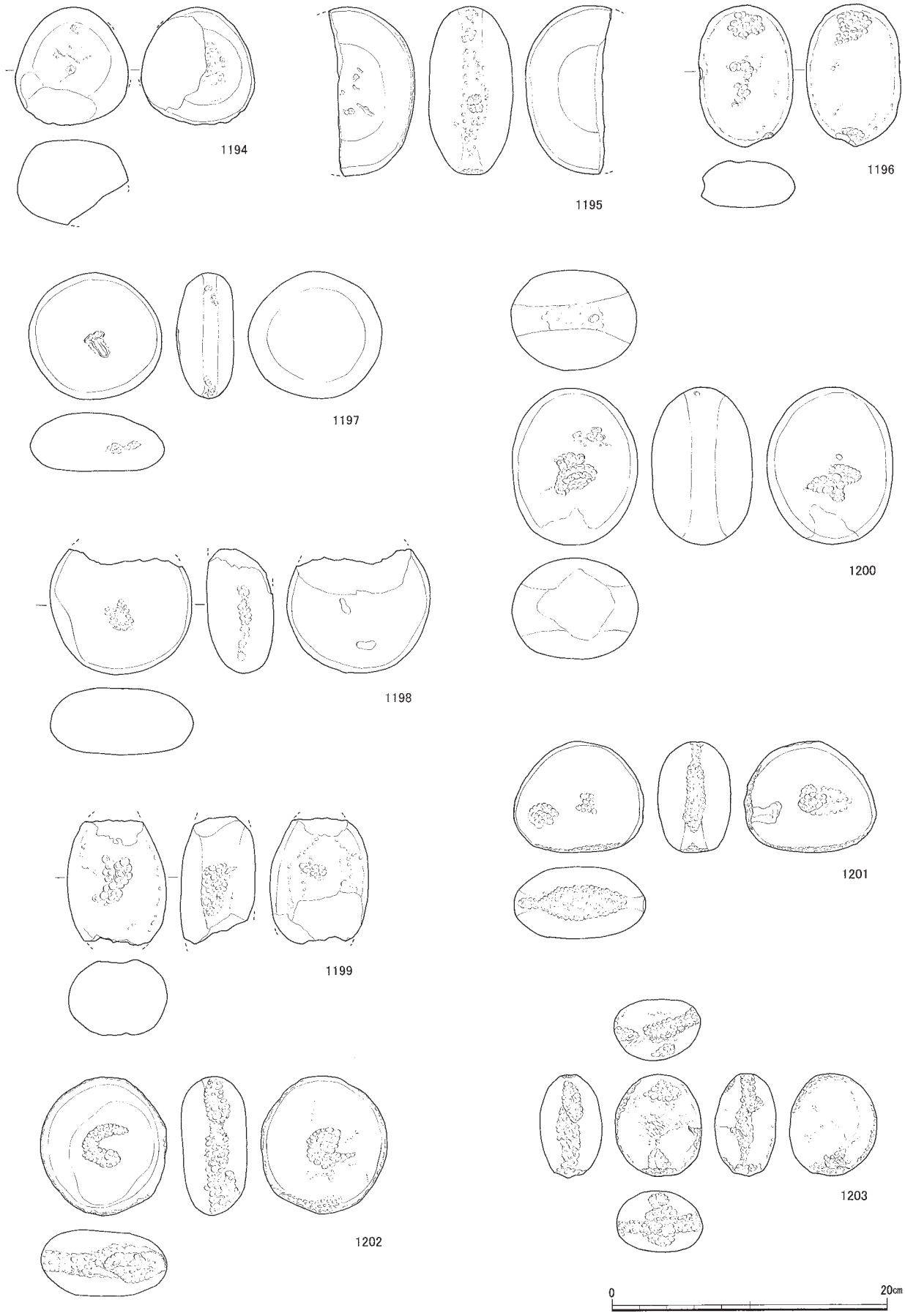
第100図　出土石器・石製品実測図15(1:4)

打痕が形成される。1193は、両面に敲打痕をもたず、周縁のほぼ全周に敲打痕が帯状に形成されている。両面は磨面となっており、特に図左面では磨面が明瞭に形成されている。

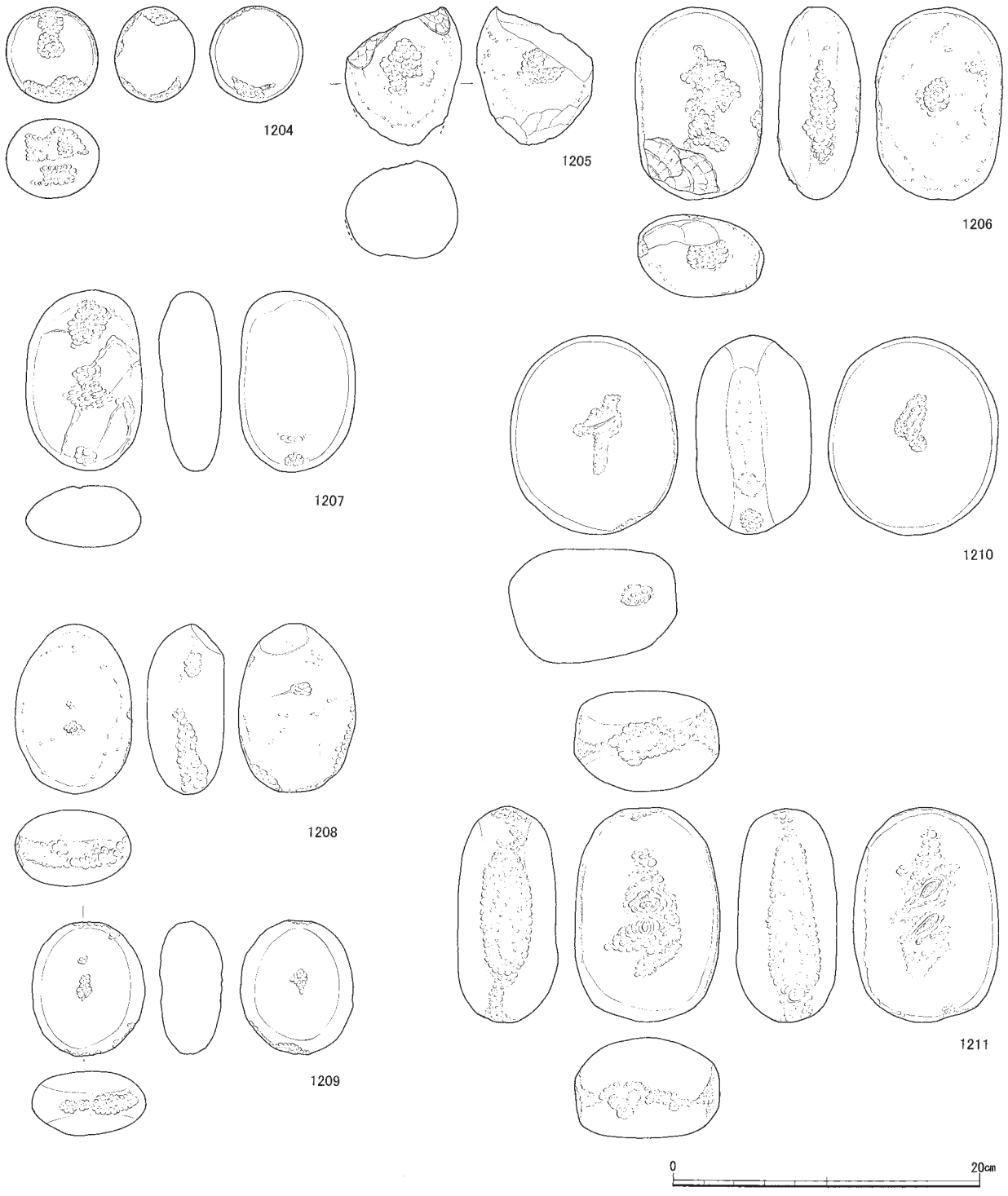
1194は、一部を欠損する小型品である。両面の中央に弱い敲打痕の集中がみられる。1195は、半欠品で両面とも滑らかな磨面となっている。周縁にも敲打痕がみられる。1196は、両端に近い平坦面側に敲打痕が形成される。敲打痕の位置と磨面を複合しないことから、槌石と判断すべきか。1197は、図左面の中央と側縁の一部に敲打痕が残る。図右面は明瞭な磨面となっている。1198は、約３分の１を欠損する。正円形に近い整った自然礫を用い、図左面中央と周縁に敲打痕が形成される。図右面には自然の凹みが２ヶ所ある。現存部の約２分の１にわたる変色部分がみられる。1199は、厚手の楕円礫を用い、両面中央と側面に敲打痕をもつ。両端の欠損は受熱による破砕で、全体も変色している。1200は、厚手の整った楕円礫を用いる。両面の中央に深い敲打痕の集中部が形成されている。長軸の一端に広く炭化物の付着が認められる。1201は、両面の複数箇所と周縁に敲打痕を残す。特に周縁では、図示したように幅広の面を形成する部分がみられる。図右面の敲打痕付近には炭化物の付着がみられる。1202では、両面の中央の敲打痕は深く明瞭で、周縁の全周に幅広・帯状の敲打痕が形成されている。1203もやや小型ながら同様に明瞭な敲打痕がみられる。1204は、球状の自然礫を用い、周縁を中心に明瞭な敲打痕が形成される。1205は、両面の中央に深い敲打痕が形成される。両端を欠損する。1206は、図左面では広く敲打痕が形成され、右面でも中央付近にみられる。両端面と両側縁にも敲打痕が形成される。一部を破損する。1207は、図左面の３ヶ所、右面下の１ヶ所に敲打痕が残る。1208は、両面の中



第101図　出土石器・石製品実測図16(1:4)　※網点は赤色顔料



第102図　出土石器・石製品実測図17(1:4)



第103図　出土石器・石製品実測図18(1:4)

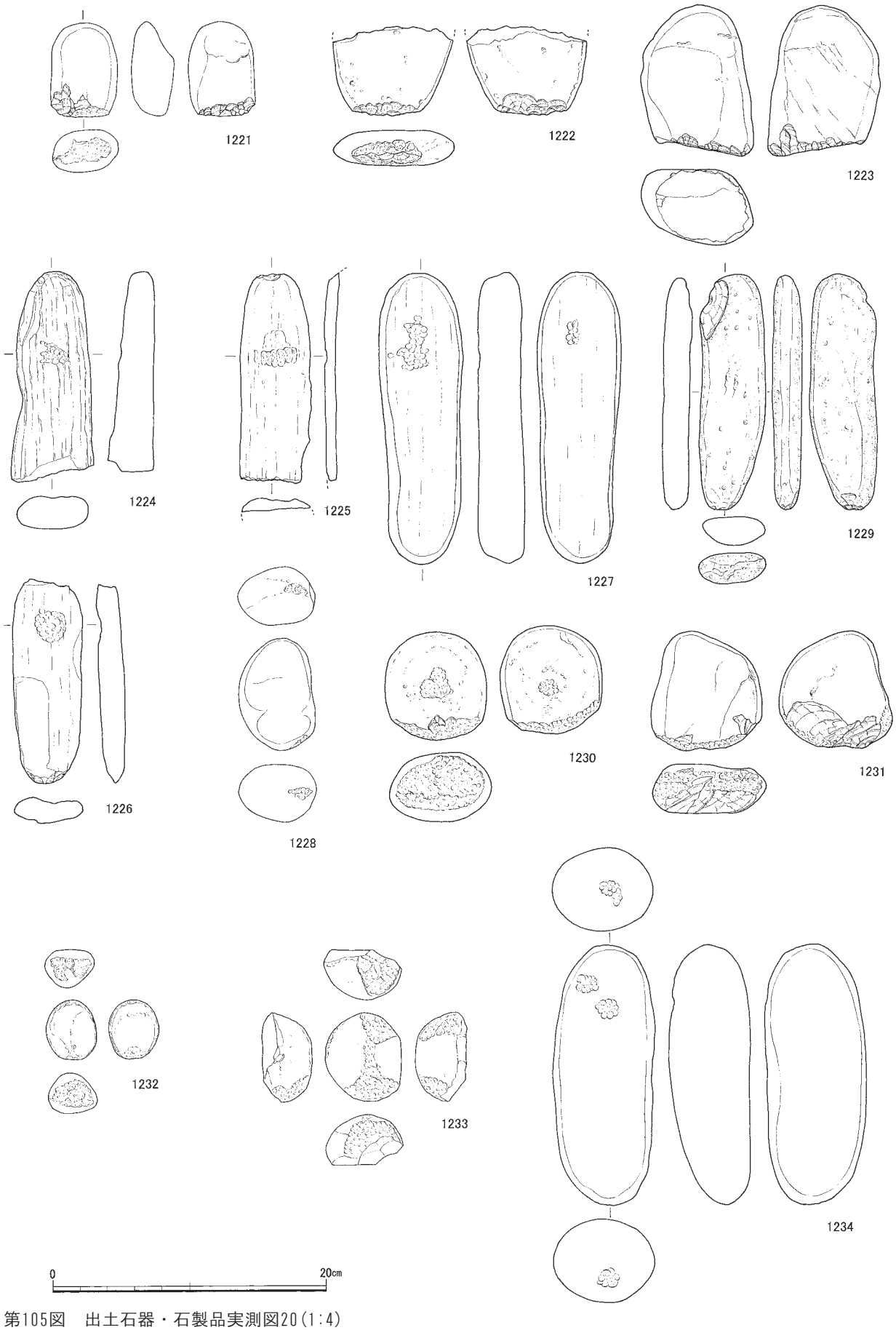
央と周縁に敲打痕が形成される。図上端の平坦面は自然面である。1209は、整った惰円礫の両面と長軸端部の広い範囲に敲打痕が形成される。1210は、大型・厚手の楕円礫を用い、両面中央と側縁に敲打痕が形成され、側縁では面を為す。両面は明瞭な磨面となっている。1211は、両面に複数の凹みと面的な敲打が形成されている。さらに周縁のほぼ全周にも広く敲打痕が形成され、長具端部と両側縁の4ヶ所には面が形成されている。両面は磨面となっている。全体に受熱による赤化がみられ、図左面から右側縁にかけて炭化物の付着がみられる。

1212～1219は、礫器状の刃部をもつもの及び分割礫を使用したものである。

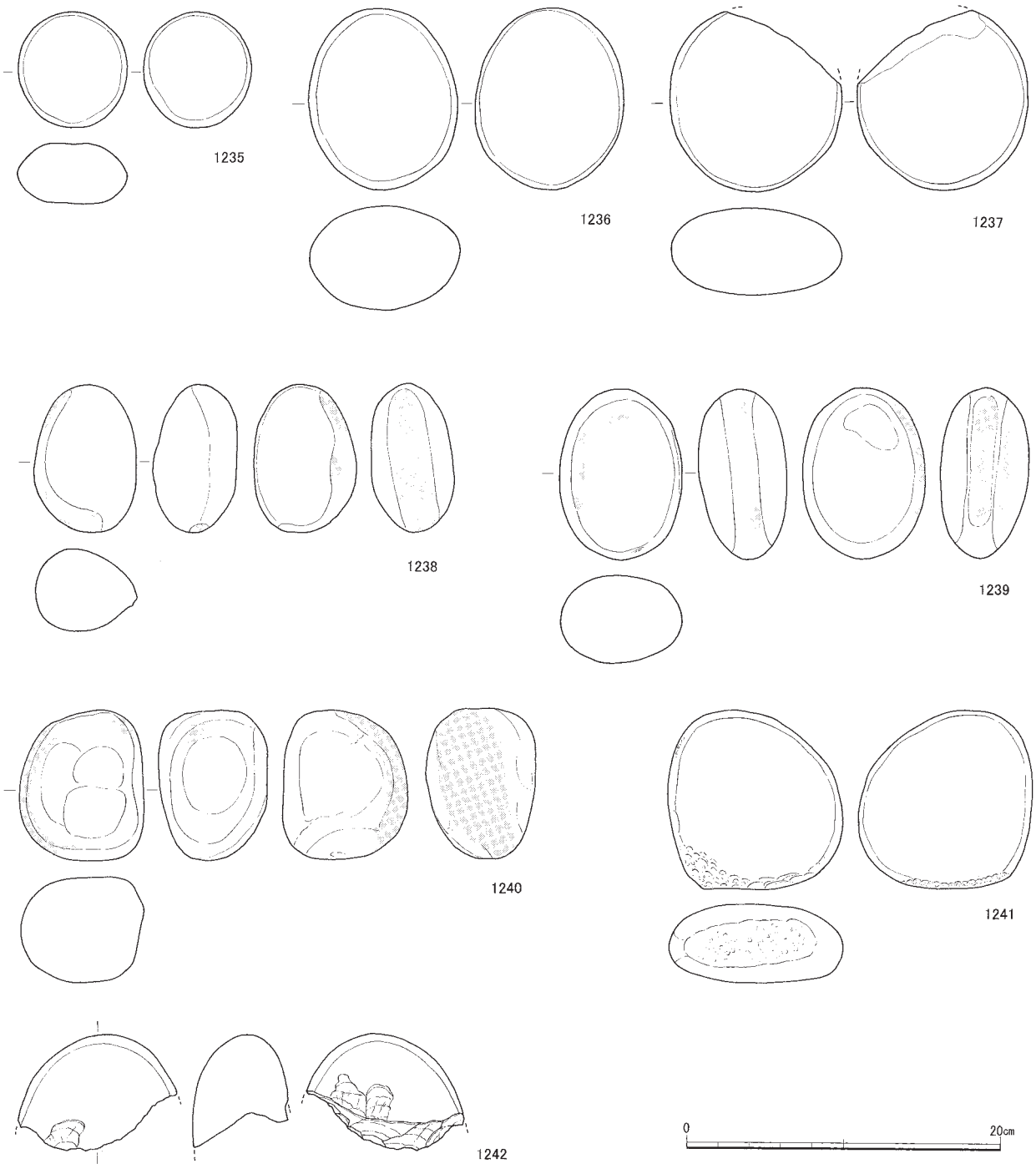
1212は、両面の中央に敲打による弱い凹みが形成

第104図　出土石器・石製品実測図19(1:4)

され、図左面は磨面となっている。右面の一部に複数の剥離が残されるが意図的な刃部形成か否かは判断できない。1213は、周縁に広く剥離面が形成され、一見礫器状を呈するが、刃部としては安定したものではない。1214は、厚手・円柱状の礫を用い、残存する平坦面中央と一端に敲打による凹みが残る。1215は、不整形な楕円礫を用い、両面には敲打による凹みが形成されるが、図下端には剥離痕が形成され、縁辺は弱い潰れ状となっている。何らかの加撃に使用されたと考えられ、敲石からの転用、あるいは槌石として分類すべきか。1216は、一見礫器状を呈する分割礫の残存する周縁に敲打痕が残る。分割後に敲石として使用されたと考えられる。1217は、残存する平坦面と周縁に敲打痕が形成される。図右



第105図　出土石器・石製品実測図20(1:4)



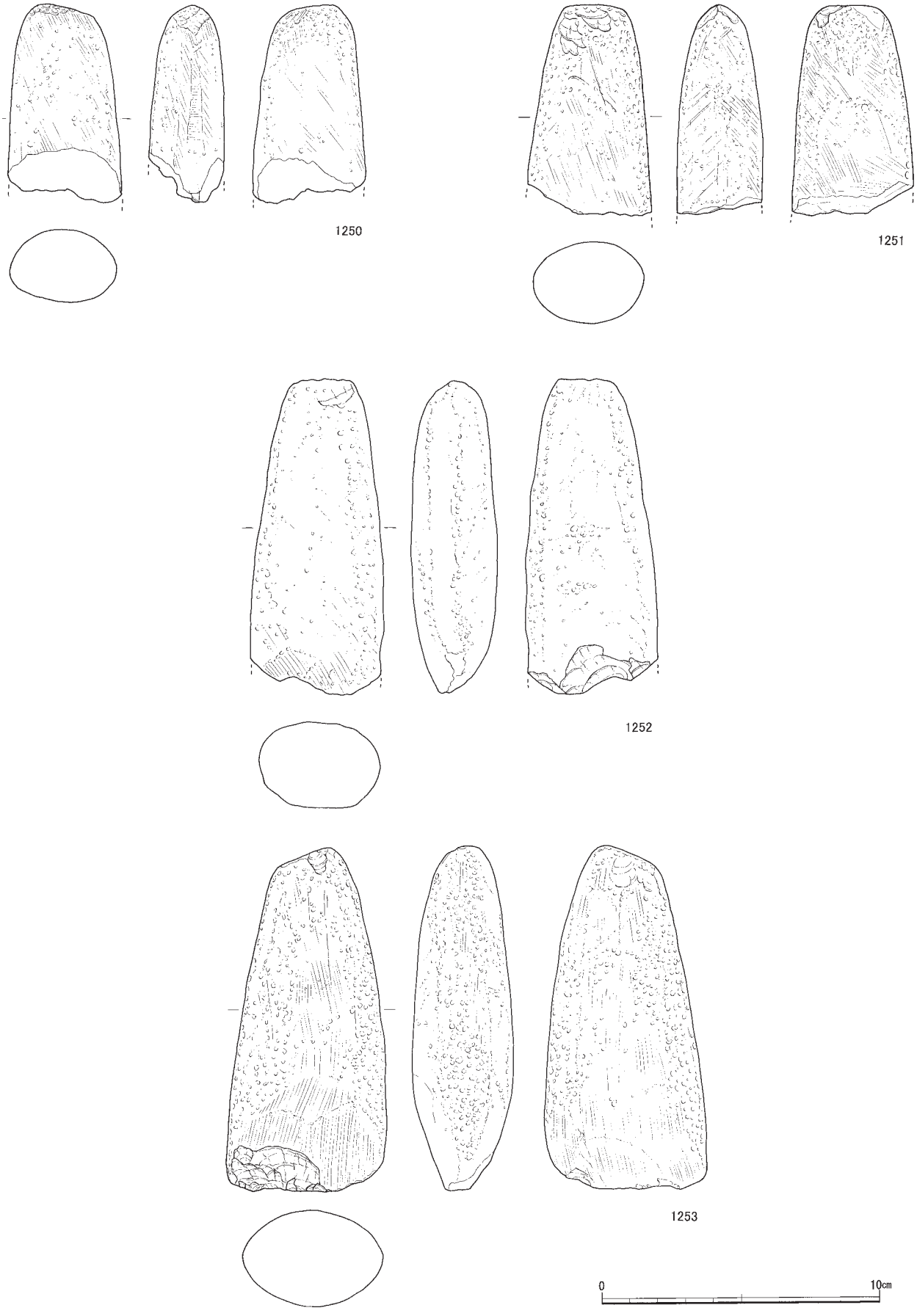
第106図　出土石器・石製品実測図21(1:4)　※網点は赤色顔料

面は多方向からの剥離面で構成されている。1218は、長楕円・扁平な自然礫を用い、一端に剥離面が構成される。1219は、本来は不整形な多角柱状を呈する礫の中央部の破片を敲石と使用したものと考えられる。各面及び稜の一部に敲打痕が残る。

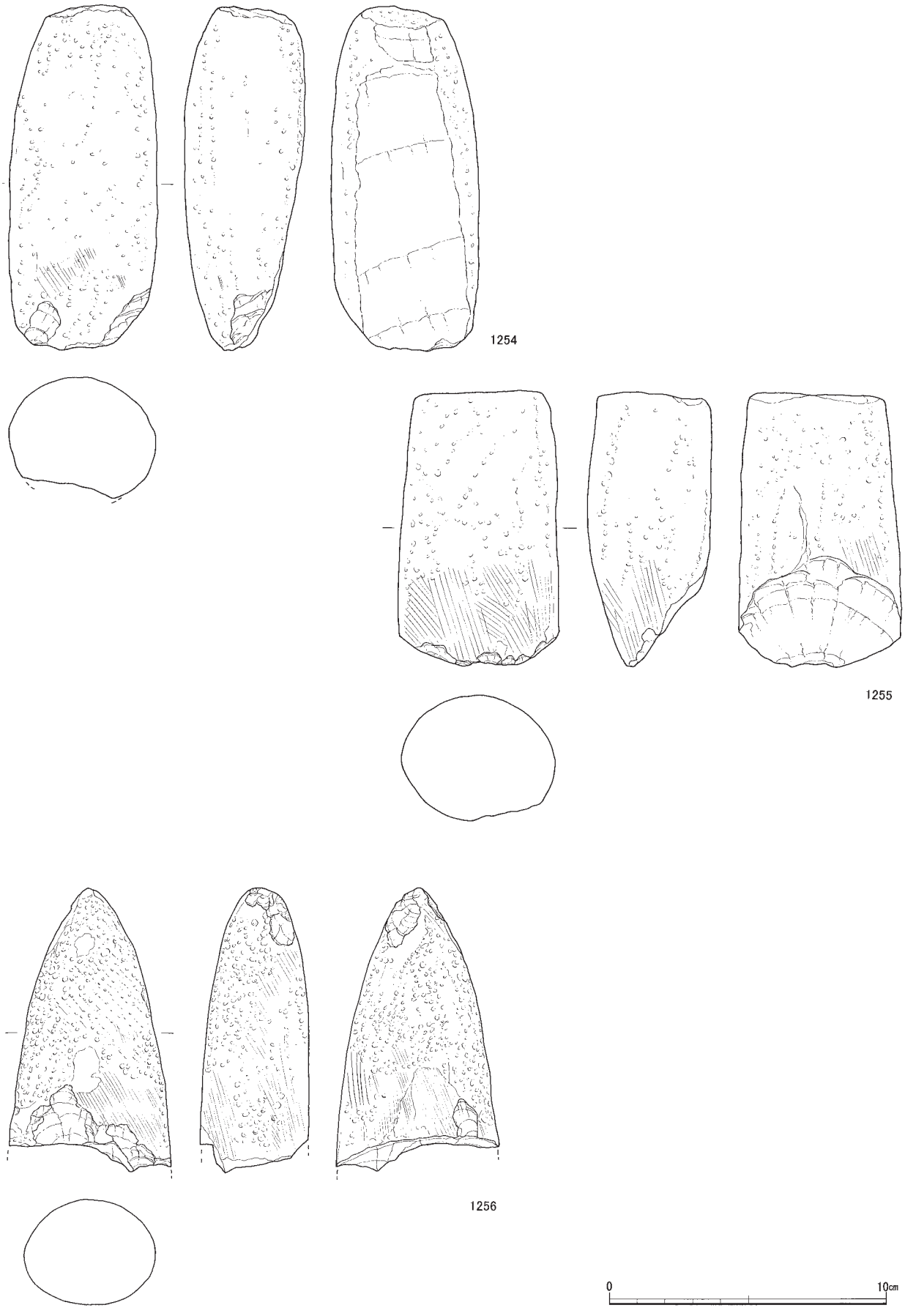
1221～1234は、槌石としたものである。1221～1223は、礫の一端に敲打痕の集中が面を為して形成され、その周囲の側面には剥離面が形成される。1221は小型の完形品。1222は、扁平な礫の一端に敲打痕が形成される半欠品である。1223は、厚手楕円礫の一端が破損面となり、その周囲に剥離痕が形成される。

1224～1229は、扁平な棒状礫を素材とするものである。1224・1225は、共に一端を欠き、同様の性状を示す。残る一端に近い偏った位置に敲打による凹みが形成され、端部にも敲打痕がみられる。1226も

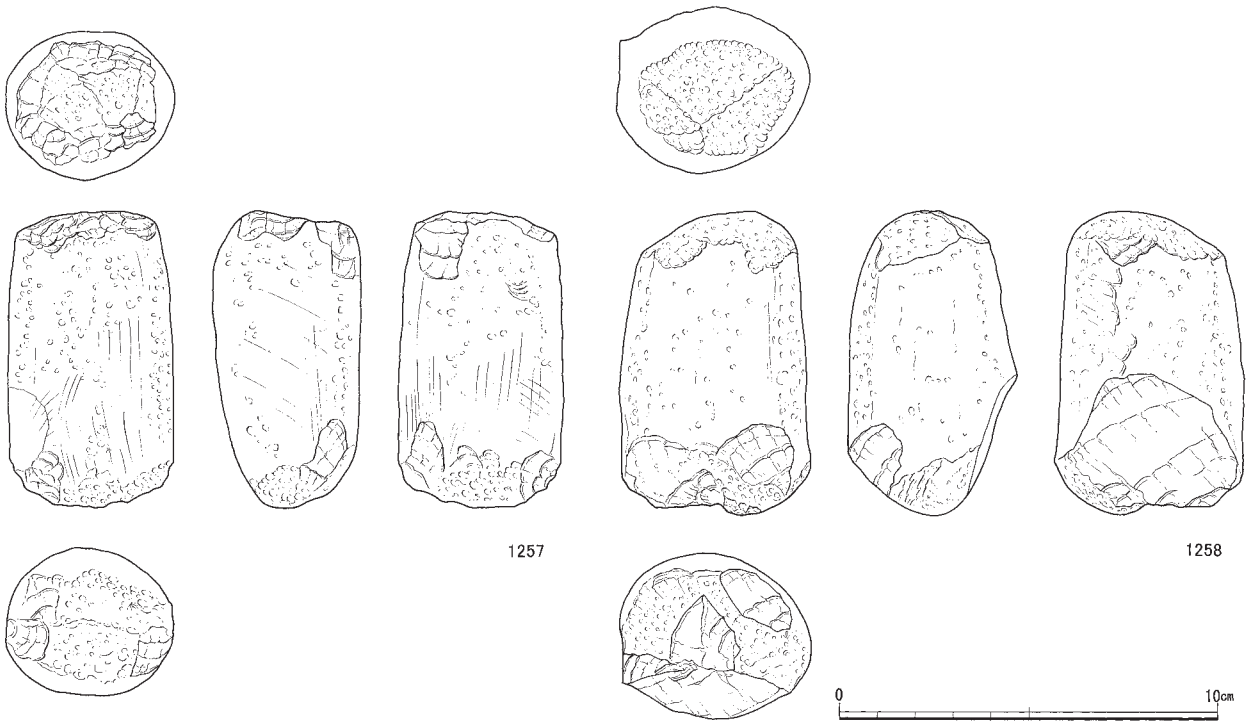
第107図　出土石器・石製品実測図22(1:4)



第108図　出土石器・石製品実測図23(1:2)



第109図　出土石器・石製品実測図24(1:2)



第110図　出土石器・石製品実測図25(1:2)

ほぼ同様のものの破損品である。1227は、完形でやはり一端側へ偏った位置の両面に敲打痕による凹みが形成される。1229は図上端部に近い側縁に加撃による剥離が形成され、下端にはそれに対応すると考えられる小剥離と潰れ痕が形成されている。礫器としたものの中にも近似した例がみられる。

1228・1230～1233は、すべて砂岩を素材とする。1228は、小型の整った楕円礫を素材とし、両端に敲打の集中による小さな面を形成する。1230は、厚手の円礫を素材とし、一端には粗い敲打による広い面が集中される。両面の中央にも敲打痕が形成される。1231は、やはり厚手の亜円礫を素材とし、一端には敲打による面が形成され、それに付随する剥離がその周囲に構成される。1232・1233は、いずれも卵形の小型自然礫を素材とし、両端部のみに敲打による面が形成される。特に1233は、一部を欠損するものの多面体状となる。

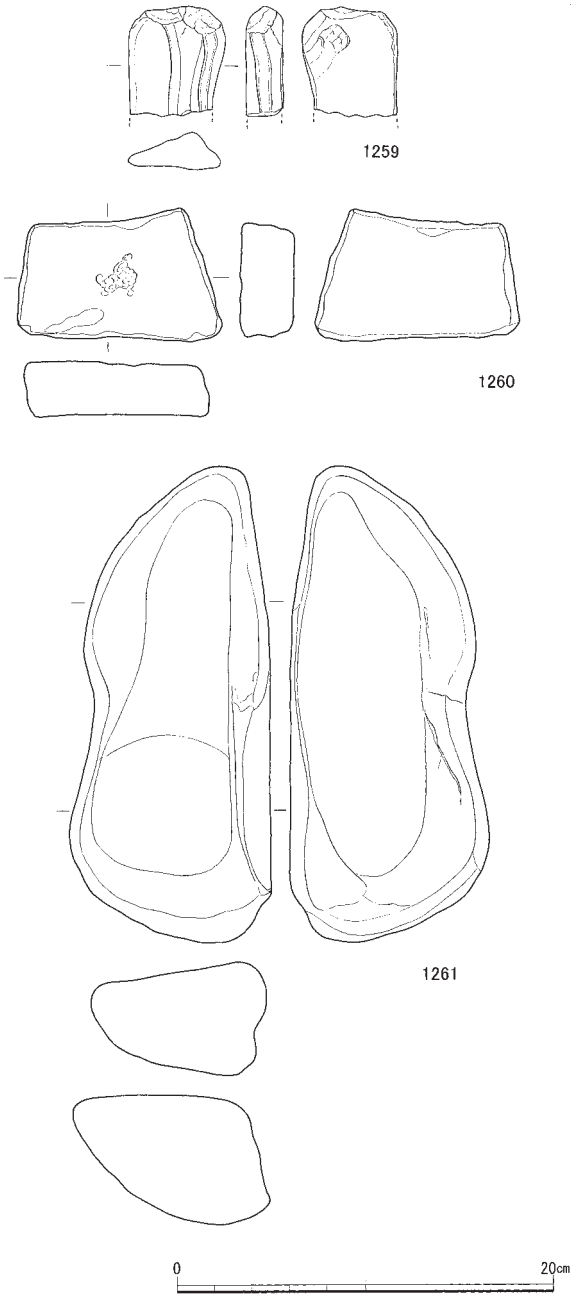
1234は、流紋岩製の円柱状の長楕円礫を素材とし、一端側の偏った位置に２カ所の敲打痕が形成され、長軸の両端にも敲打痕が残る。炭化物の付着がみられる。

(10) 磨石（第106図　1235～1242）

敲石と同様の楕円礫を素材とし、使用痕が磨面のみによって構成されるものを本器種とした。形態によって分類したため、植物質食料の製粉具である磨石と赤色顔料の加工具である磨石をここではまとめて記述するが、組成の検討では、分離して記述する。36点のうち、８点を図示した。うち２点が赤色顔料付着磨石である。石材は、８点のうち６点が砂岩、1238・1241の２点が流紋岩である。砂岩主体の傾向は図示しなかったものを含めても変わらない。

1235は整った形態をもつが、磨面の形成は弱い。1236も整った厚手楕円形の自然礫を素材とする。磨面の形成は、全体がわずかに摩耗している程度である。1237は、一部を欠損する。両面には平滑な磨面が形成されている。

1238・1239の２点は赤色顔料の付着が確認され、水銀朱の粉化に用いられたと推定される。1238は、側縁のかなり広い範囲に赤色顔料の付着が点状に確認され、本来はその範囲全体が機能面となっていたと推定される。1239も、側縁の一部に赤色顔料が付着する。赤色顔料の痕跡は、側縁の一部に斑状に残る。1240は、やはり側面に広く変色部が残り、赤色顔料の可能性が想定される。しかし、全体にくすんだ紫色を呈し、他の資料とは付着の状況が異なることから、断定はできない。



第111図 出土石器・石製品実測図26(1:4)

1241は、不整形な楕円礫を用い、両面に磨面が形成される。図下縁には敲打痕状の部分が広くみられるが、礫本来の自然面である。1242は、約２分の１を残す破損品である。割れ面は一見礫器の刃部のようにも見えるが、平坦面にみられる剥離面も含めて、意図的なものか判断できない。

(11) 磨製石斧（第107～110図　1243～1258）

18点がある。槌石への転用品２点を含めた16点を図示した。組成上は、転用品＝槌石を本器種には含めない。石材は、閃緑岩が大半を占め、選択的に使用されていた可能性が高い。小型の「定角式」石斧には玢岩が使用されている。他に変成岩・砂岩・チャート製がある。第109図は、側縁に面を形成するいわゆる「定角式」の一群である。

1243は、小型斧の刃部側約２分の１の破片である。両面及び利用側縁には、製作時の研磨痕が、刃部周辺には使用時の擦痕が、刃部縁には微細な剥離痕が観察される。図右面右縁には、擦切り分割の痕跡とも考えられる施溝が残る。1244は、緑色岩を素材とし、刃部の破損後に剥離面が形成されている。この２点は玢岩を用いている。1245・1246は、共に基部端をわずかに欠くものの、ほぼ全長を残す資料である。いずれも器幅が器長の２分の１を上回る幅広品であり、着柄が不可能となって、廃棄されたと考えられる。1246は図中の白抜き部分が、火はね状の剥落痕となっているが、受熱によるものか否かは判断できない。1247は、器体のほぼ中央で折損し､そのまま廃棄されたと考えられる破損品である。1248も、同様の破片である。折損面とその周囲に敲打痕が形成される。1249は、堅緻な石材を用いており､全体に光沢が観察される。石材鑑定では､チャートとされている。現状の長さから勘案して、刃部の再研磨を繰り返した結果、着柄して使用することが不可能になり、その後「楔」として転用された可能性が考えられる。基部周辺と刃部に形成された新しい剥離は、それに伴うものであろう。

第108～110図は、横断面が楕円形からほぼ正円形を呈する一群である。

1250～1253は、基部端を直線的に整形するものである。1250は、基部側約２分の１の破片である。全体に整形時の研磨痕が観察される。1251は、1250とほぼ同様の形態を呈するが、研磨はやや粗く、整形時の敲打痕がより多く残っている。1252は、ほぼ全長を残すが、刃部に新しい剥離痕が形成されている。1250・1251の元の形態もこのようなものであろう。

1253も同様のほぼ完形品である。基部側には製作時の敲打痕が多く残るが、刃部周辺には使用時の線状痕が明瞭に残り、残存する刃縁の潰れ・摩耗も著しい。1254は、全体が円柱状を為し、断面形はほぼ正円形を呈する形態をもつ。1255は、1254と同様の形態を呈するものの刃部側約２分の１の破損品で

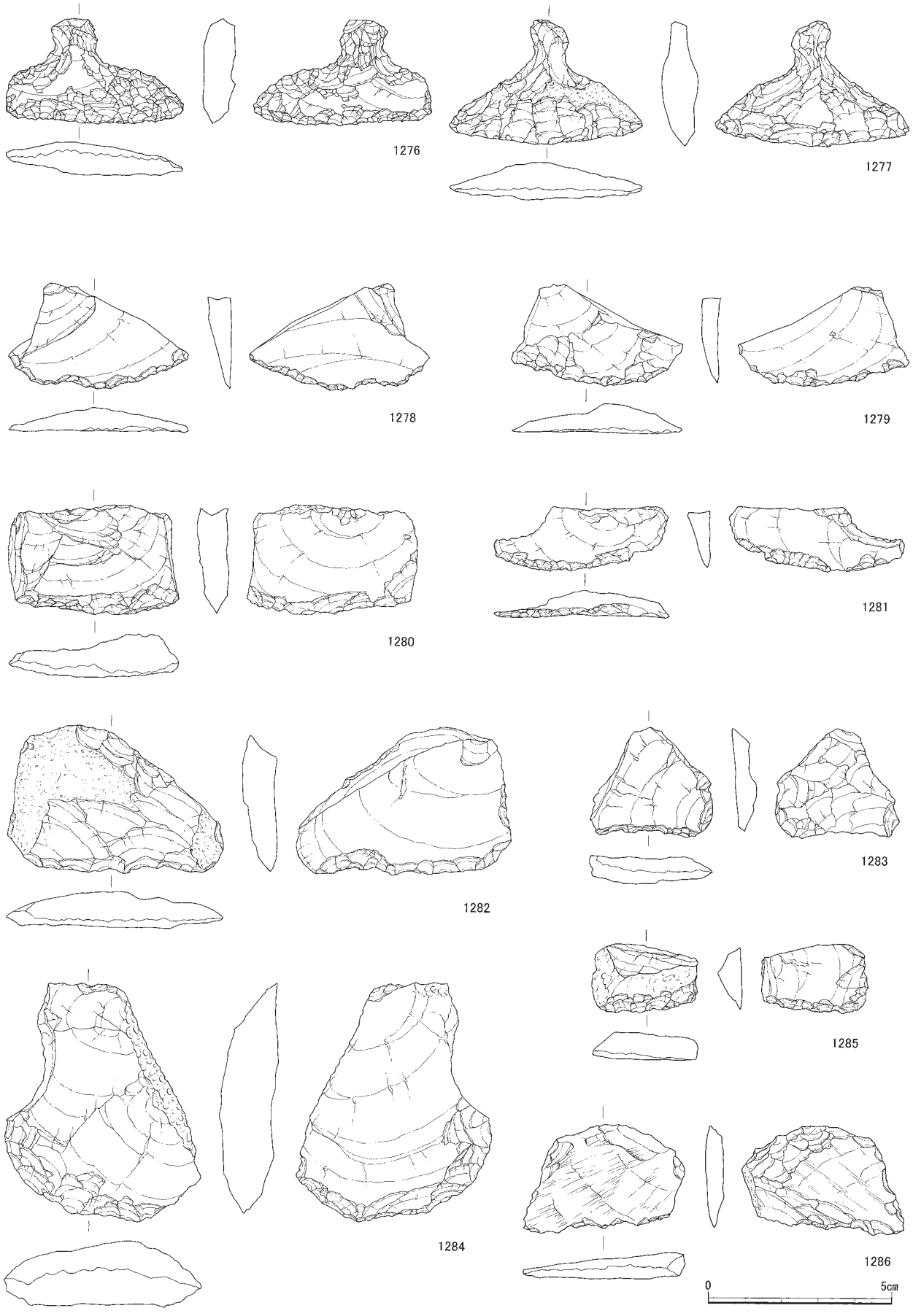
第112図　出土石器・石製品実測図27(2:3)

ある。使用時の加撃、再利用のための加工、もしくは使用によって、刃縁からの一面の剥離により折損している。1256は、横断面形は正円形に近いが、基部端が尖る形態を呈する。

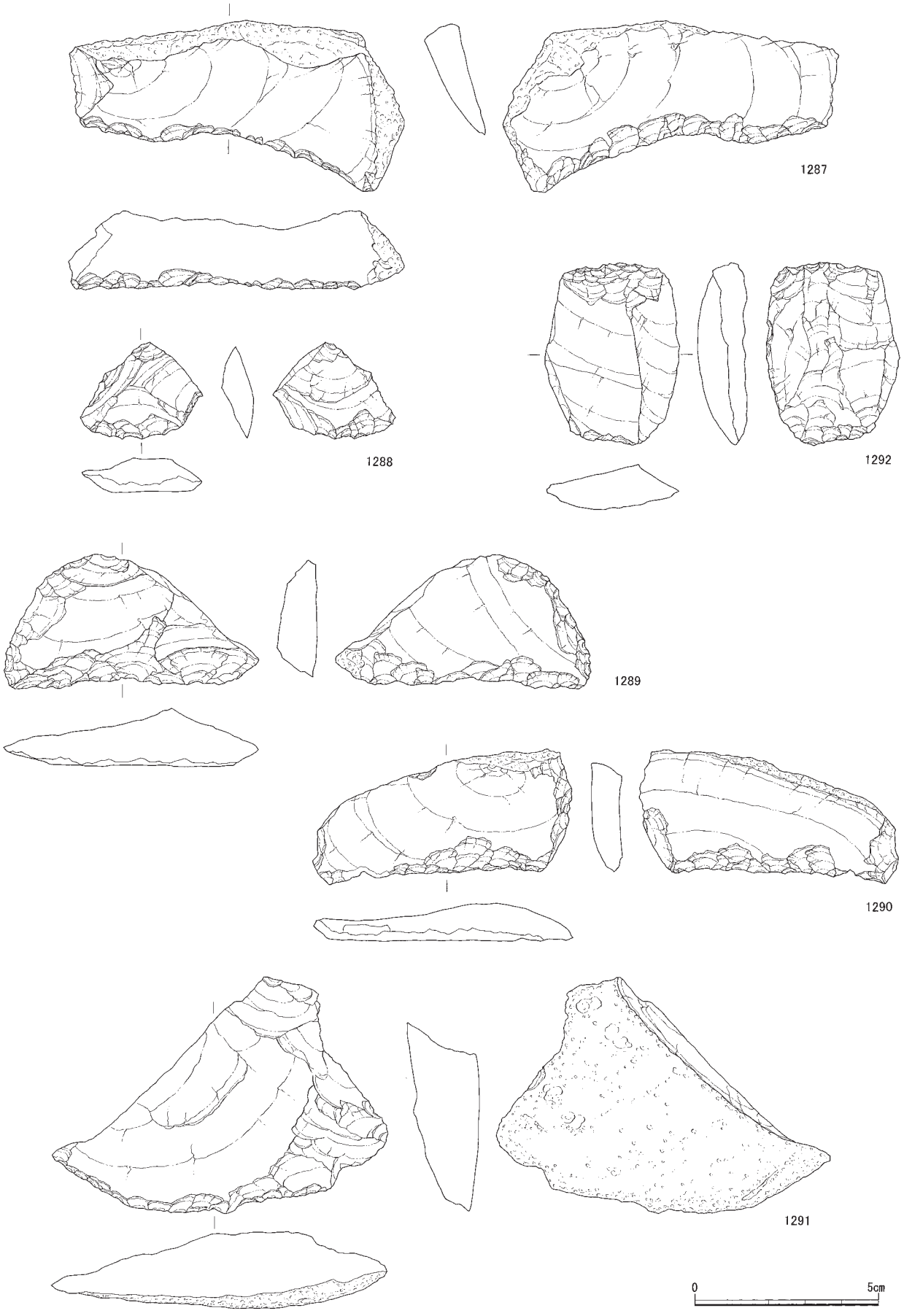
1257・1258は、断面形が円形を呈する磨製石斧の破損品を転用したと推定される槌石である。前述のように、敲打痕の周縁に加撃による剥離痕が形成されたり、敲打面が多面体状を為す敲石＝槌石と同様に植物質食料の製粉具ではなく、その他の加工活動に使用されたと考えられる。

(12) 砥石（第111図　1259～1261）

４点を本器種とし、うち３点を図示した。1259は約半分を欠損する小型品である。断面形は不整形な隅丸三角形を呈し、３面とも研磨面が形成される。うち２面には浅く溝状を為す部分が一条ずつみられる。1260は、一方の面の中央に敲打痕をもち、もう一面には平滑な研磨面が形成される。研磨面の性状から本器種としたが、石皿として判断すべきものかもしれない。1261は、不整形な長楕円礫を用い、３面に研磨面が形成される。　（大下　明）



第113図 出土石器・石製品実測図28(2:3)



第114図 出土石器・石製品実測図29(2:3)

（13）石錐（第112図　1262～1275）

加工により錐状の機能部を作り出したものを本器種とした。1262・1263は明瞭なつまみ部をもち、ほぼ全体に加工を行って、棒状で長く尖鋭な機能部を作り出すものである。1263のつまみ部には打面・バルブが残置する。1264は明瞭なつまみ部をもち、ほぼ全体に加工を行って短い機能部を作り出す。

1265～1268は明瞭なつまみ部をもたず、全体形が長身細身で棒状（針状）となるものである。1265は入念な加工がなされ断面が三角形状を呈す。1267は楔形石器の削片を利用したもので腹面側にわずかながら加工を行う。1268は両面とも片側加工のため断面が平行四辺形状となる。

1269～1271・1273～1275は明瞭なつまみ部をもたず、全体形が二等辺三角形状（1269～1271・1273）もしくは正三角形状（1274・1275）を呈するものである。

1272は素材の一端に加工を施し機能部を作り出したもので、小型の横長剥片を用いる。

（14）石匙（第113図　1276・1277）

つまみ部をもち、他の縁辺に加工を行い、刃部を作り出すものである。1276はＢⅠ区出土で表裏面に一次面を残し、身部は横長で細身である。石材は赤珪岩である。1277はＡⅠ区出土で表面に残る礫表皮以外は表裏面から調整を行う。裏面中央には一次面が残る。身部は横長の三角形状を呈し、刃部表面側は奥にのびる剥離となっている。石材はサヌカイトである。

（15）削器（第113・114図　1278～1291）

縁辺に連続した加工を行い、安定した刃部を作り出すものである。

一辺にのみ刃部を作り出すものには、凸刃となる1278～1280・1284・1288・1291、直刃となる1285、凹刃となる1283・1287がある。1278は細かな剥離面が表裏面に連続するものである。1280は礫面を打面とする横長剥片の長辺に、1283はチャートの寸づまり剥片の一側縁腹面側に細かな加工を施す。1284は礫面を打面とする幅広剥片に両面加工を行い刃部とするものである。1285は縦長剥片の一側縁に表裏面から加工を行う。1287は礫表を打面とする不定型な剥片の長辺に背腹両面から加工がなされる。1288は小型の幅広剥片の長辺に加工を行う。1291は片面が礫表皮に覆われた厚手の剥片に急角度の加工を行う。

二辺以上に刃部（加工部）を作り出すものには1281・1282・1286・1289・1290がある。1281は小型の横長剥片の長辺に刃部を形成し、打面側縁辺にも腹面側から加工を行う。1282は一辺にややいびつな刃部を形成するとともに対辺の背面側にも短い範囲に加工を行う。1286は相対する二辺を凸状と直線状に片面加工するものである。1289は打面側と一側縁に背腹両面から凸状・直線状の加工を行う。1290は横長剥片を素材とし、礫表の打面部以外に背腹両面からの加工を施す。

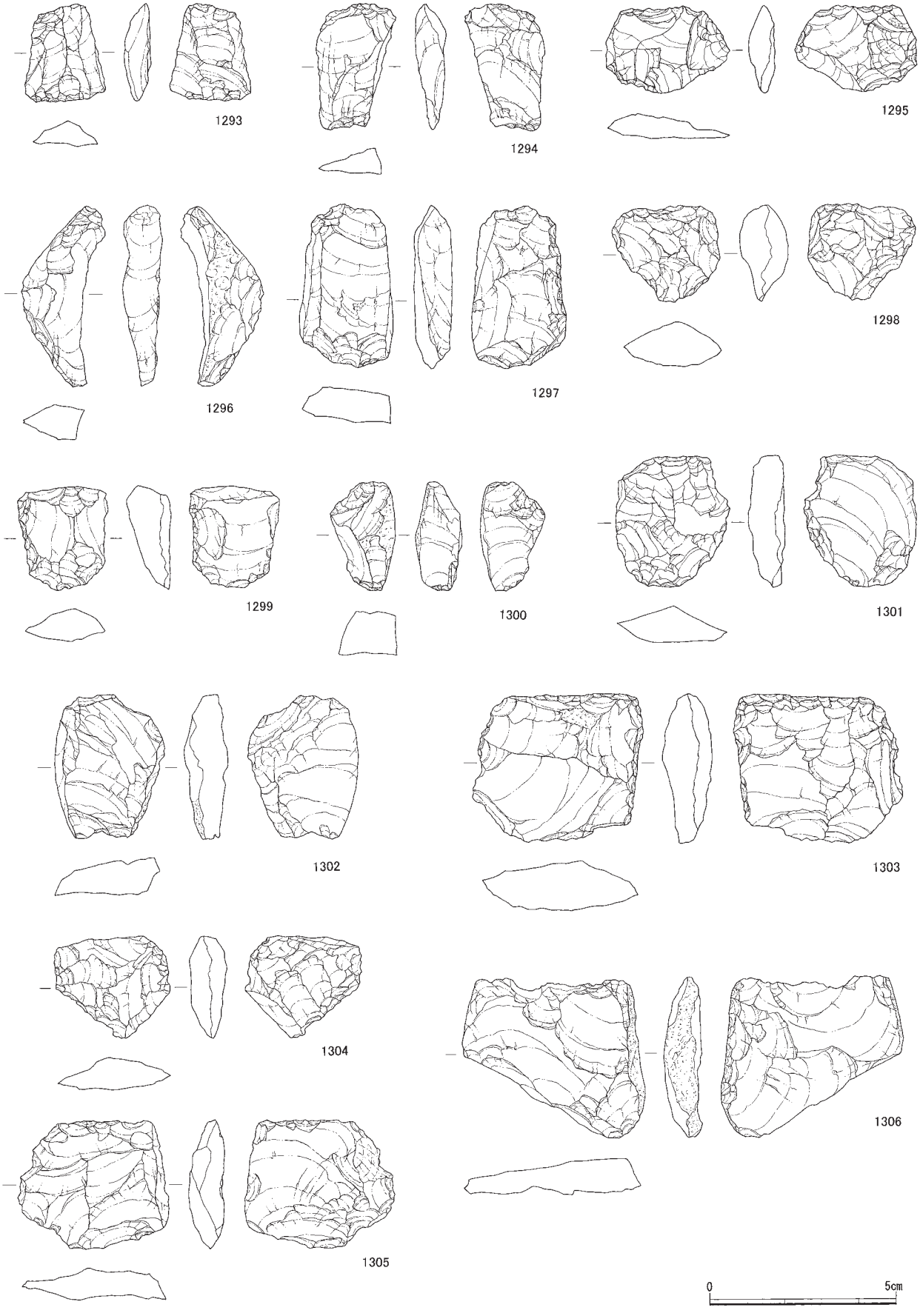
石材は1282・1291が硬砂岩、1283がチャート、それ以外の11点と未実測２点の計13点はサヌカイトである。

（16）楔形石器（第114～116図　1292～1311）

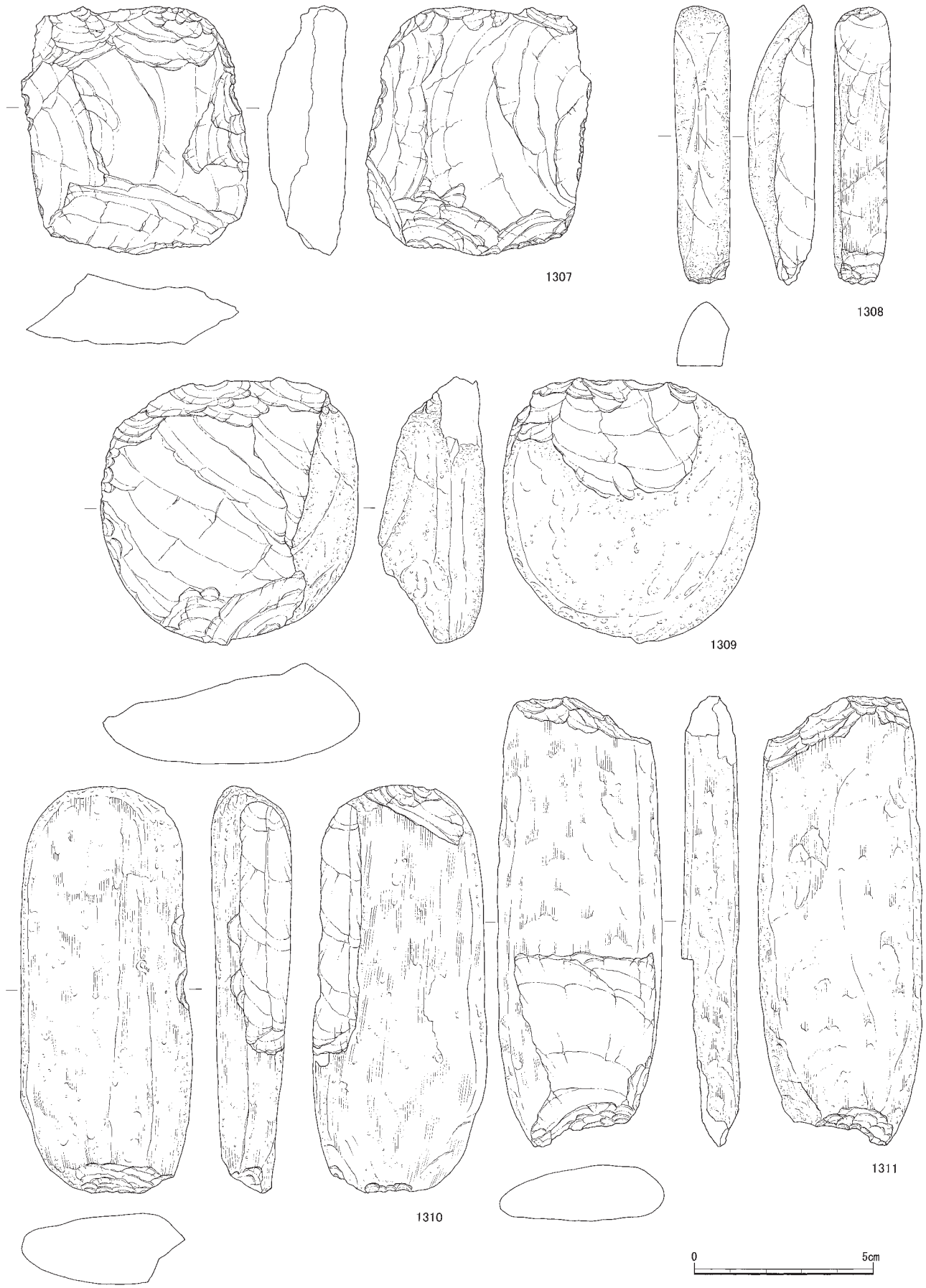
相対する二辺、あるいは上下・左右の四辺に細かな剥離痕、階段状剥離痕、つぶれ状の剥離痕、奥に延びる平坦な剥離痕をとどめるもので、截断面（加撃方向に沿う剥離面）や加撃方向に違う折れ面をもつ場合が多い。

出土した64点の石材の内訳は、サヌカイト38点、下呂石14点、チャート５点、頁岩２点、砂岩１点、緑泥片岩１点、片岩３点となり、サヌカイトが最も多いが、下呂石も目立って存在している。

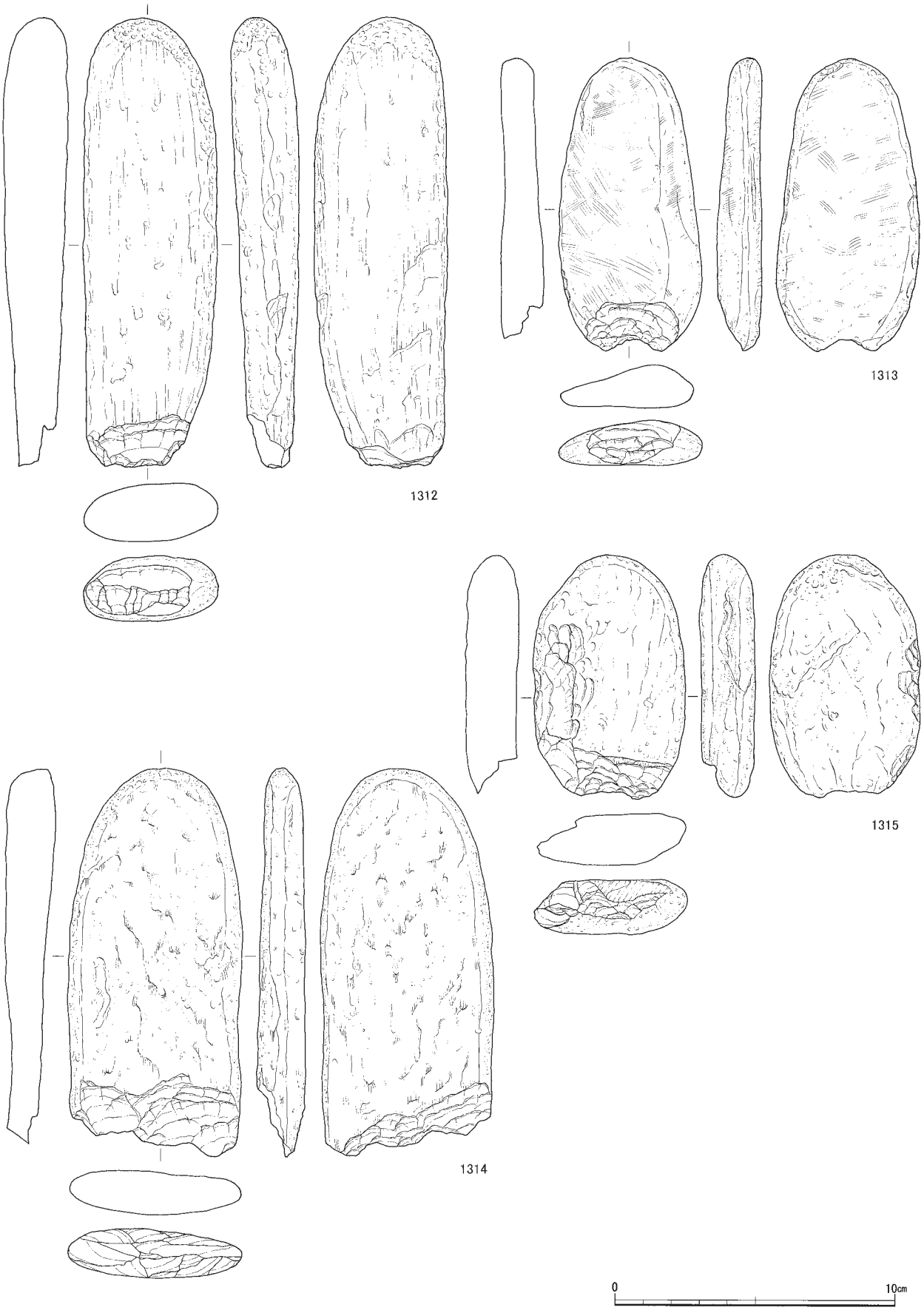
1292・1293は上下端から奥に延びる平坦な剥離が1294は上下端からの剥離と一つの折れ面で構成される。1295・1301・1304も上下端からの剥離によるものであるが、45度ほど軸を移動させているため五角形状となっている。1296は削片状のものである。1297は上下端から剥離が中心で、左右は截断面となっているがそこからの剥離もなされている。1298は四辺からの剥離痕をとどめるもので、大きさの割に厚みがありずんぐりとした感がある。1299は三辺に剥離痕をとどめるが、その剥離痕の状態から本器種認定に躊躇したもので削器の可能性がある。1300は上下端からの加撃を中心とし、截断面等で柱状を呈する。1302・1305は上下端からの加撃による剥離面で構成され、それぞれ上下端に抜ける截断面を一つもつ。1303・1307は四方から剥離がなされ正四角



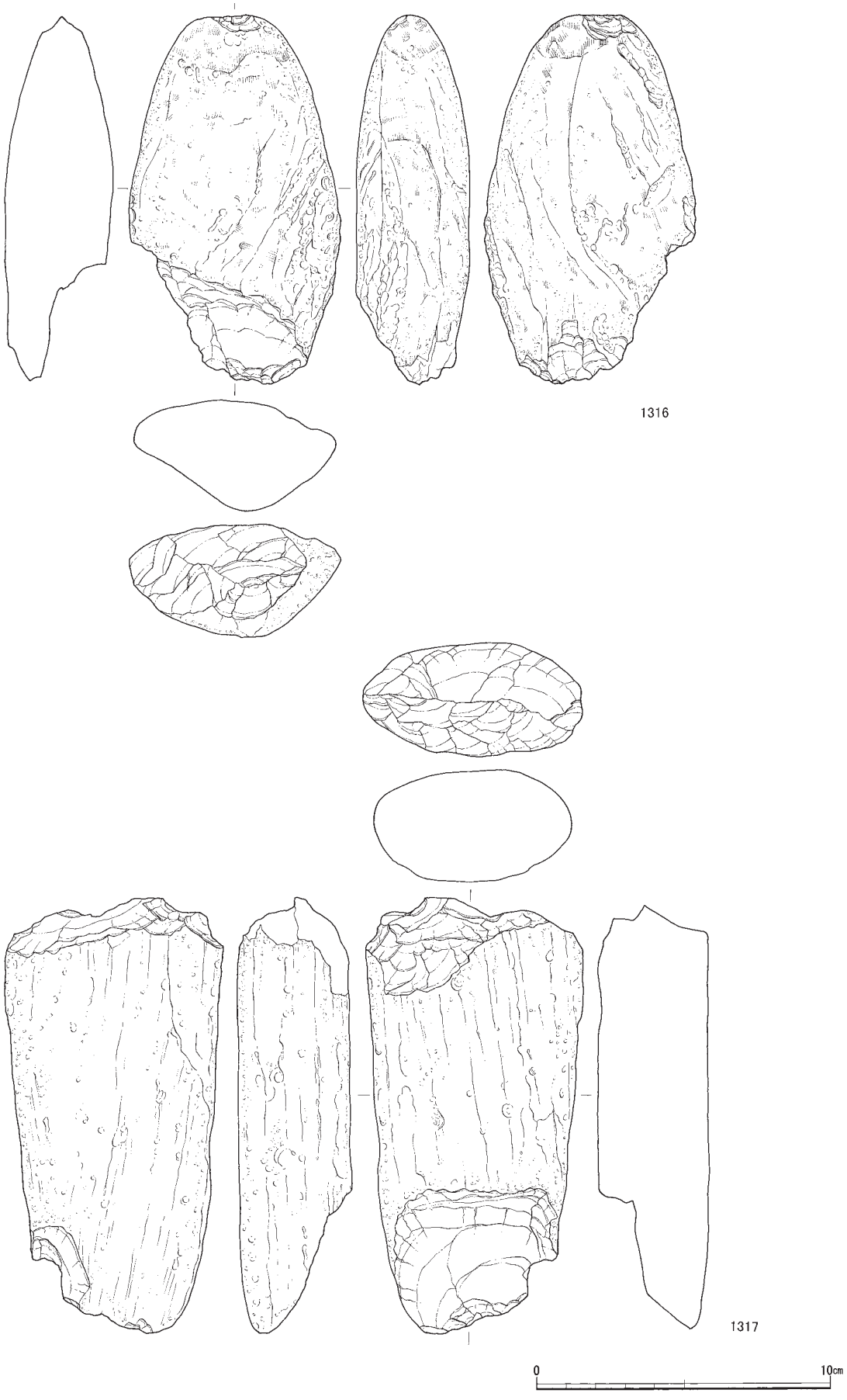
第115図 出土石器・石製品実測図30(2:3)



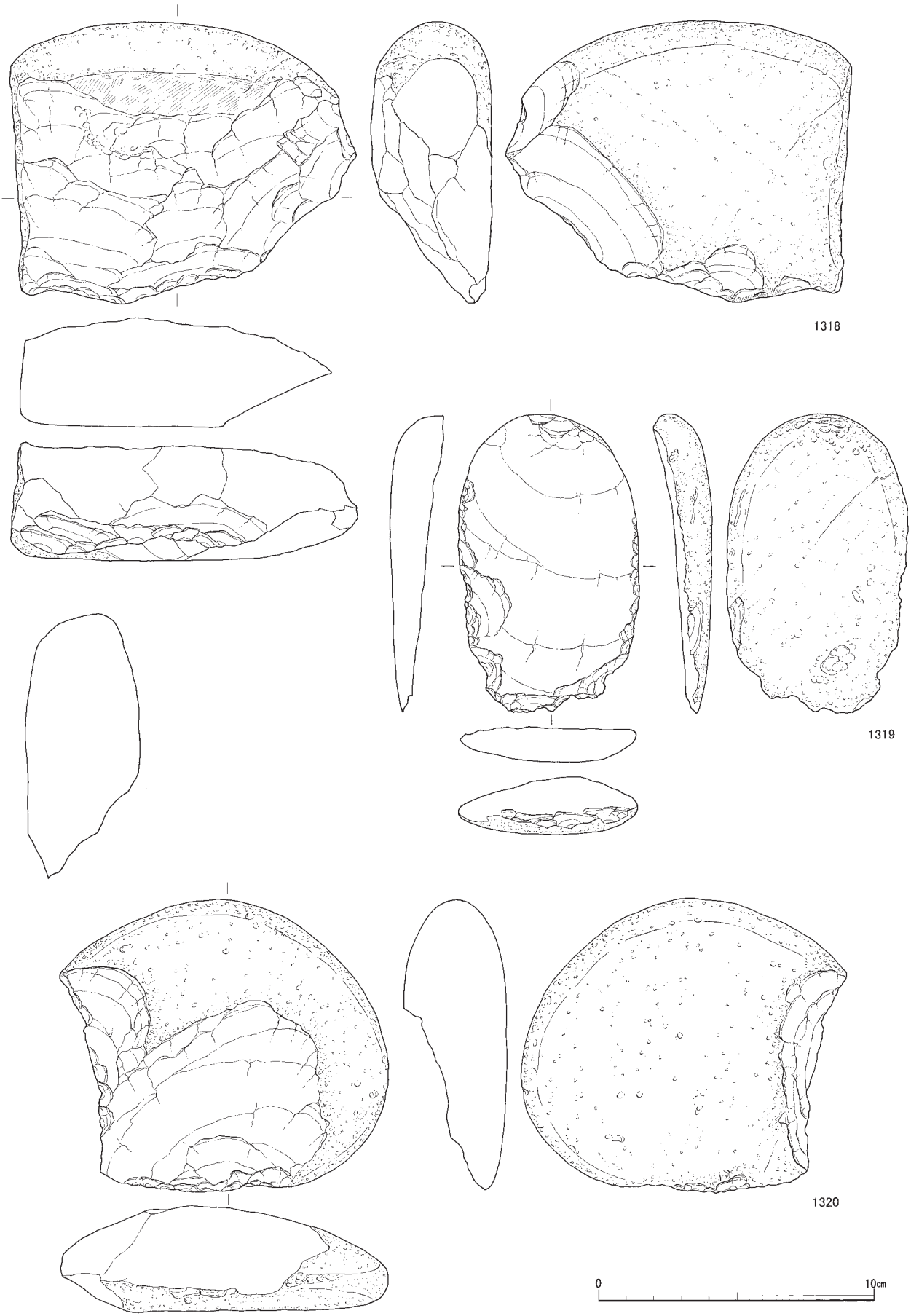
第116図　出土石器・石製品実測図31(2:3)



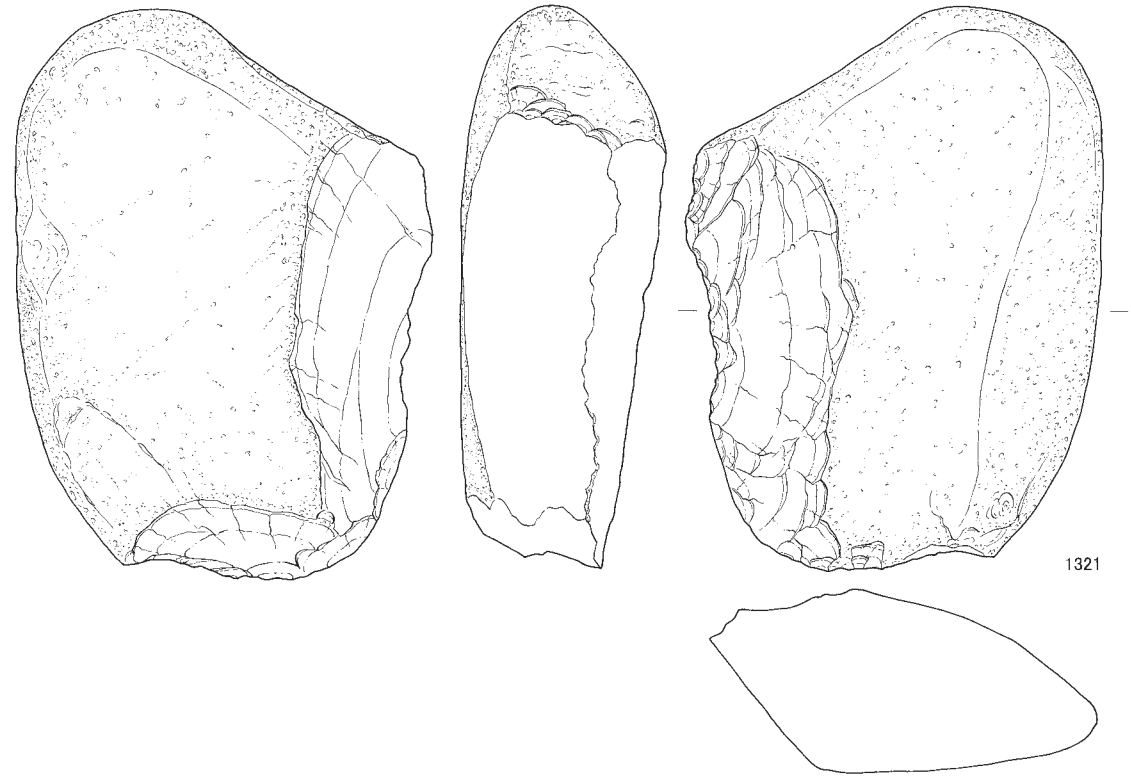
第117図　出土石器・石製品実測図32(2:3)

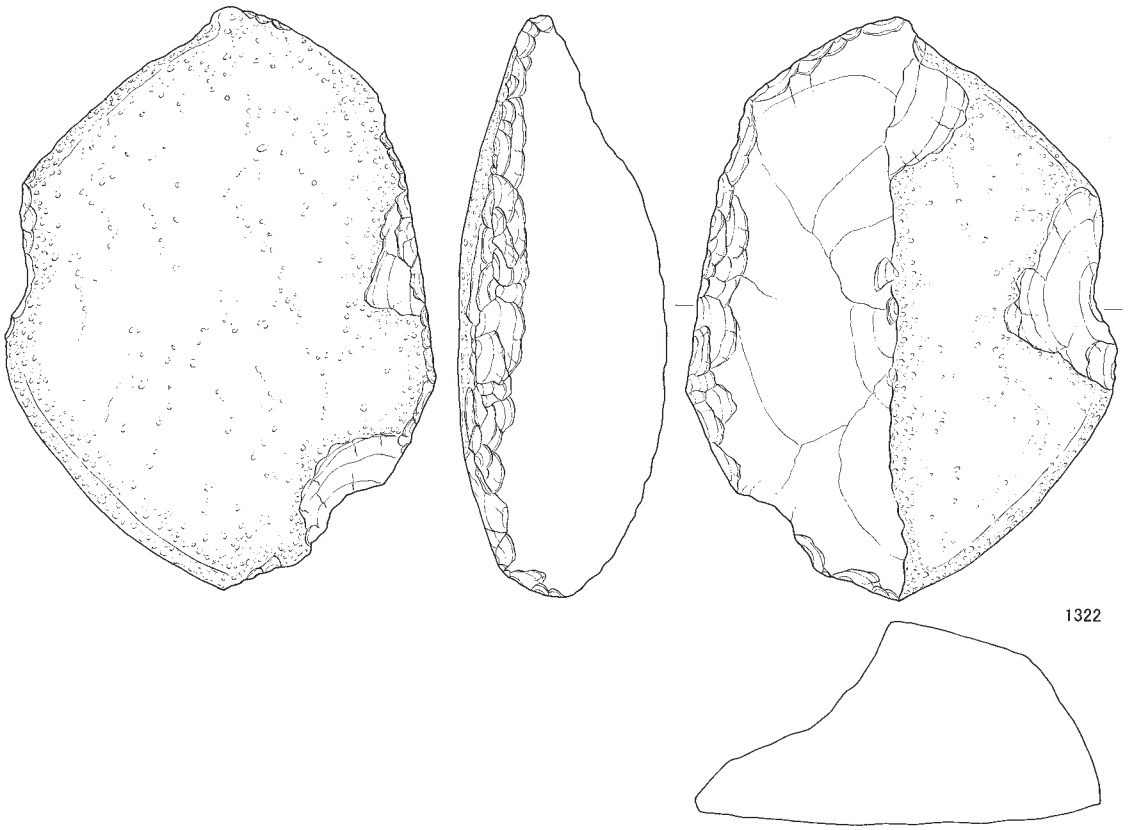


第118図　出土石器・石製品実測図33(1:2)

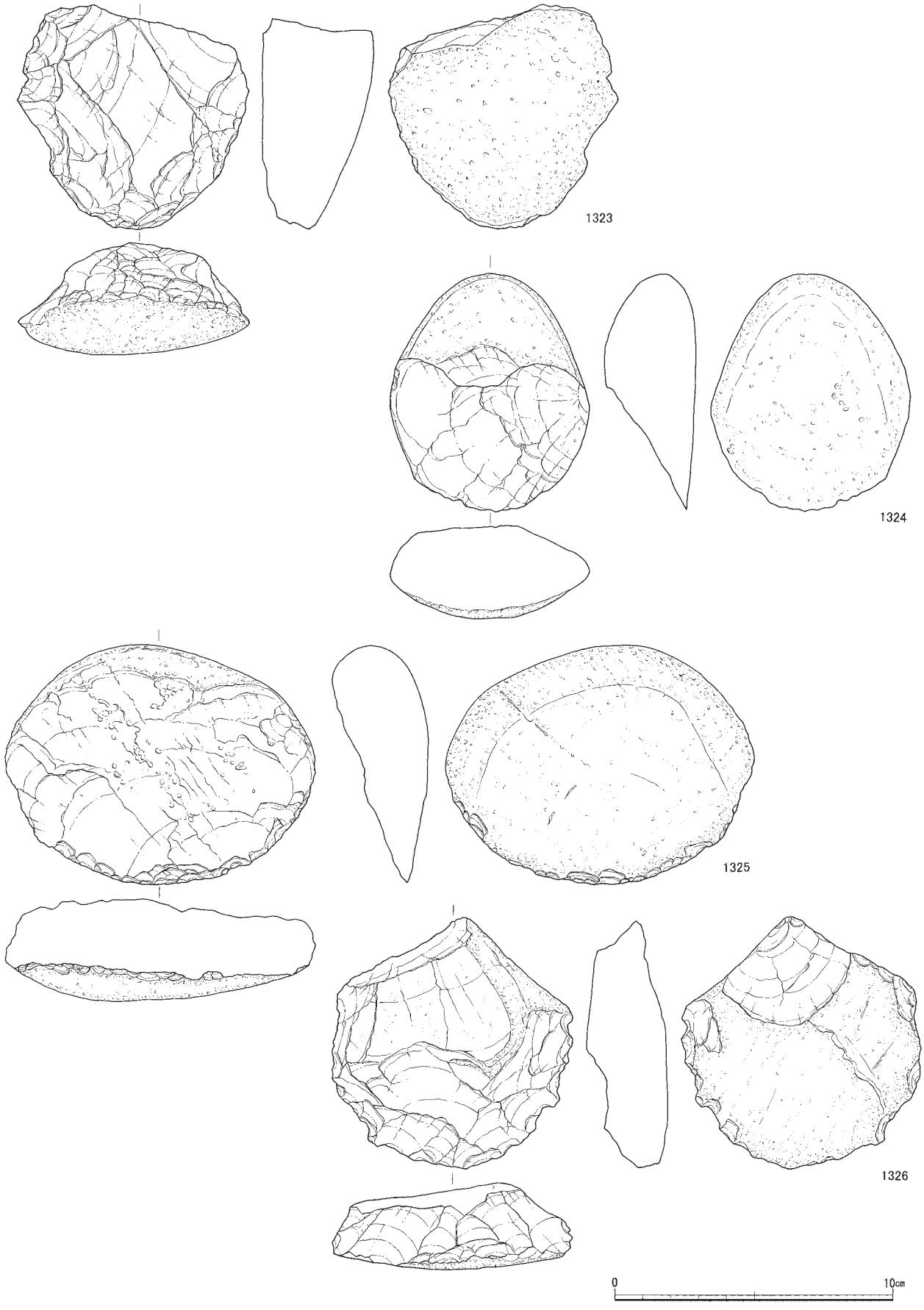


第119図　出土石器・石製品実測図34(1:2)

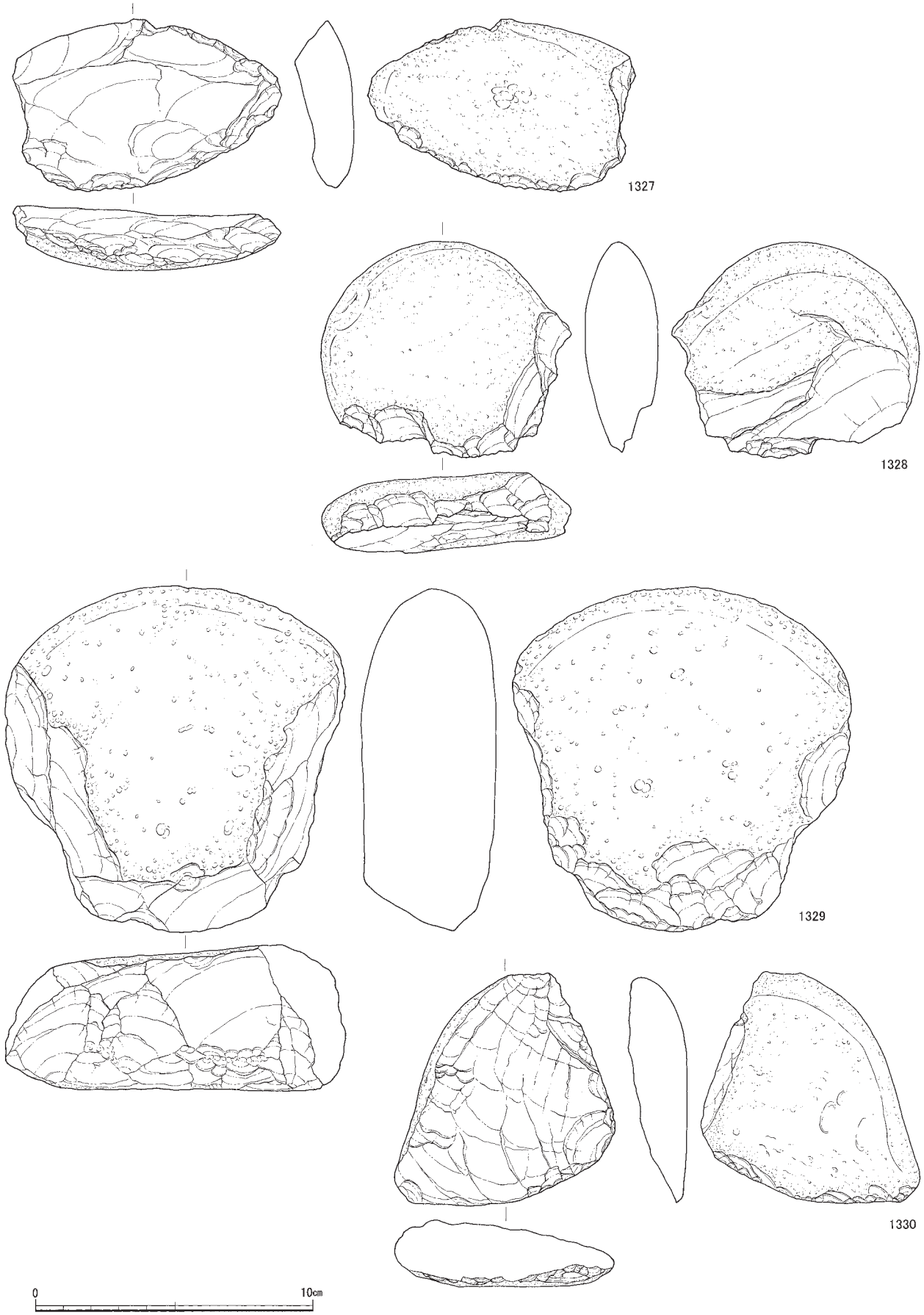




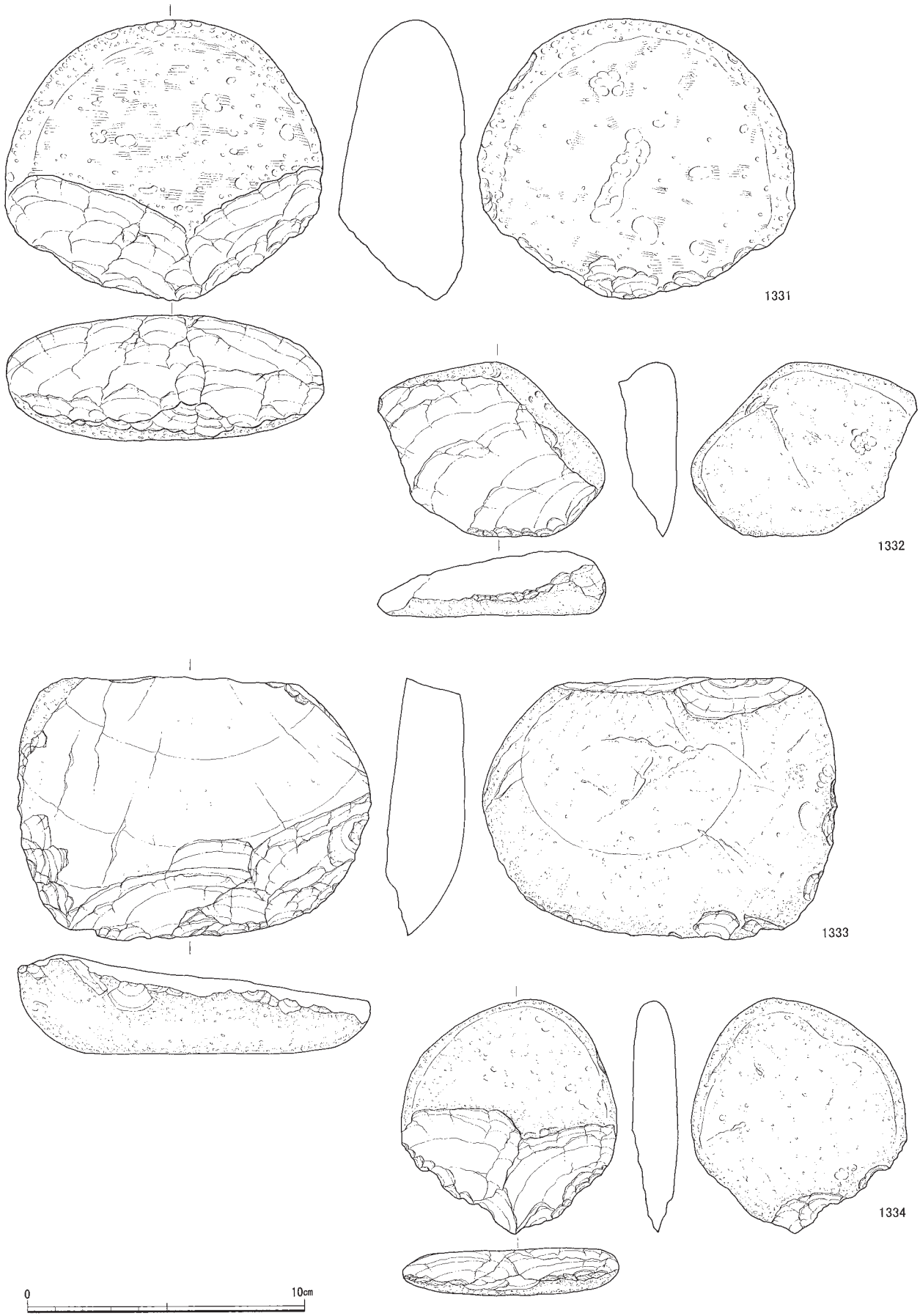
第120図　出土石器・石製品実測図35(1:2)



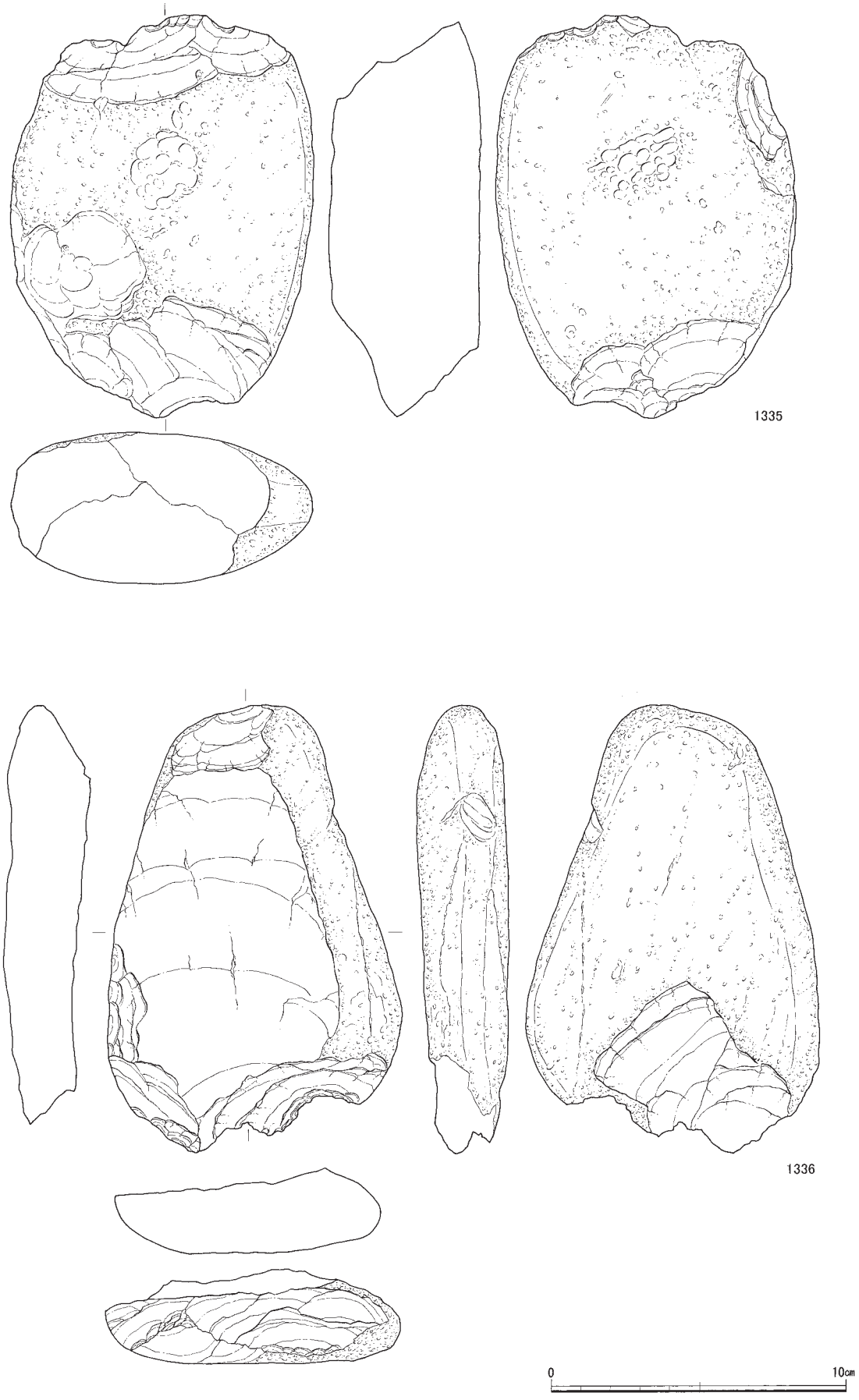
第121図　出土石器・石製品実測図36(1:2)



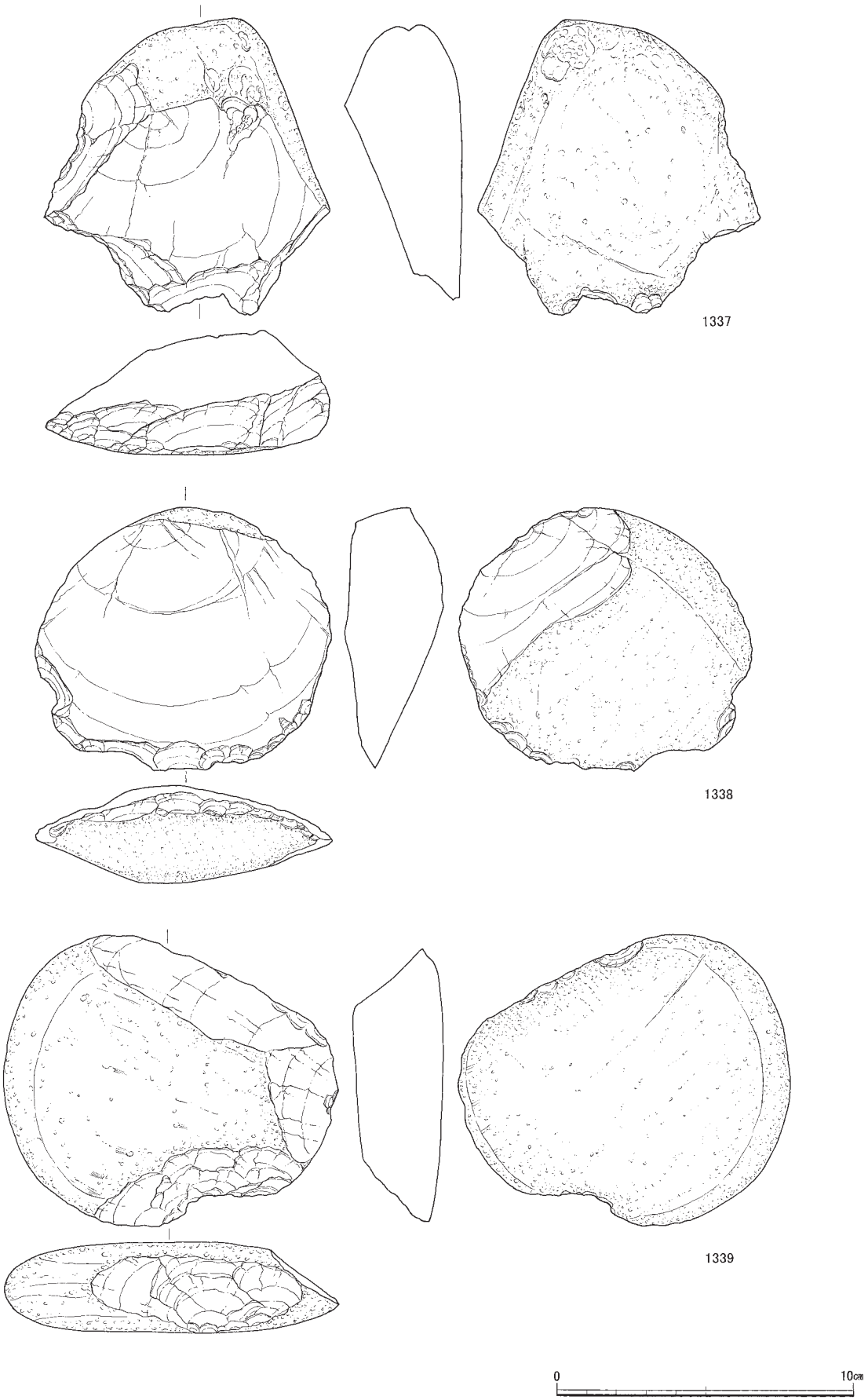
第122図　出土石器・石製品実測図37(1:2)



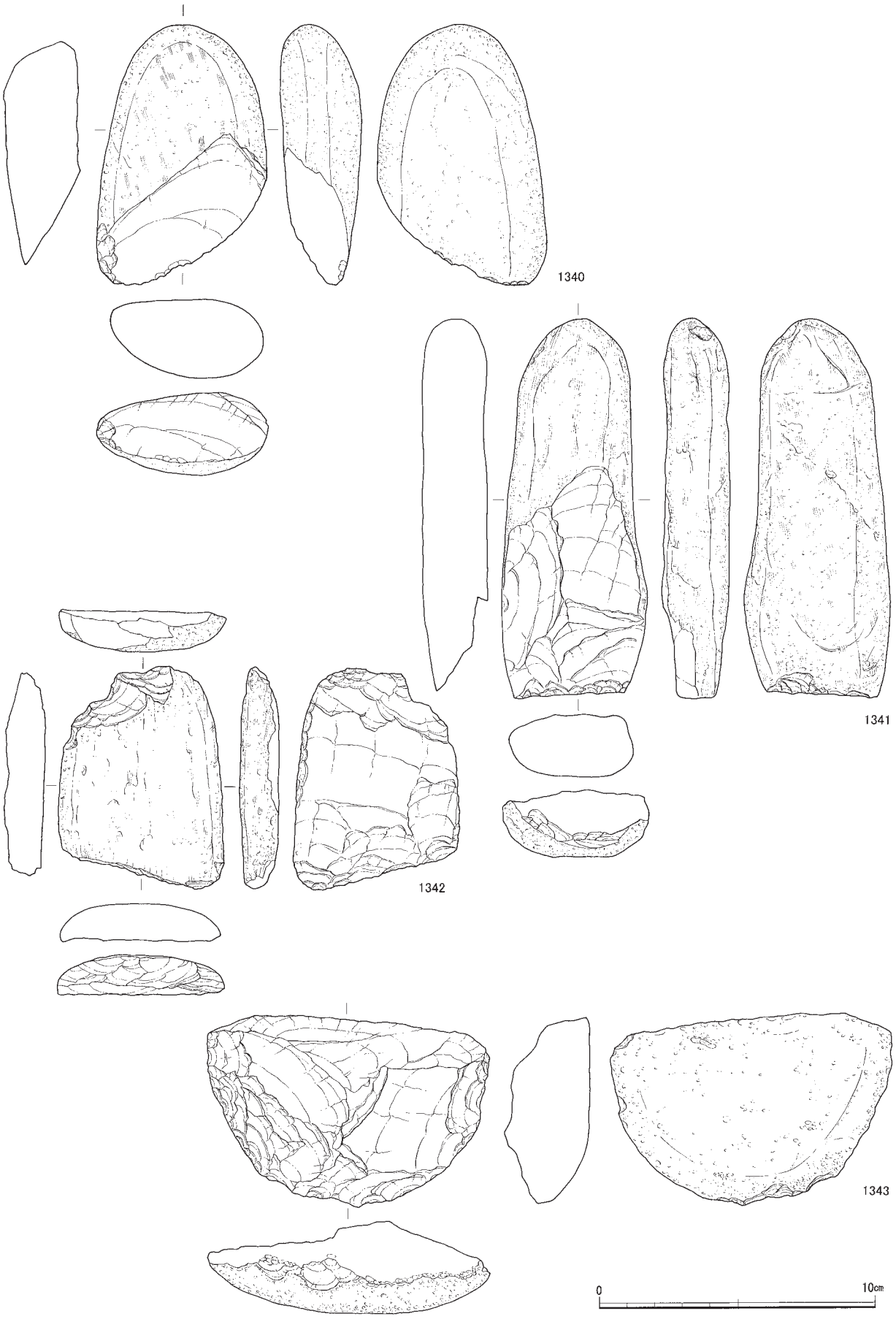
第123図　出土石器・石製品実測図38(1:2)



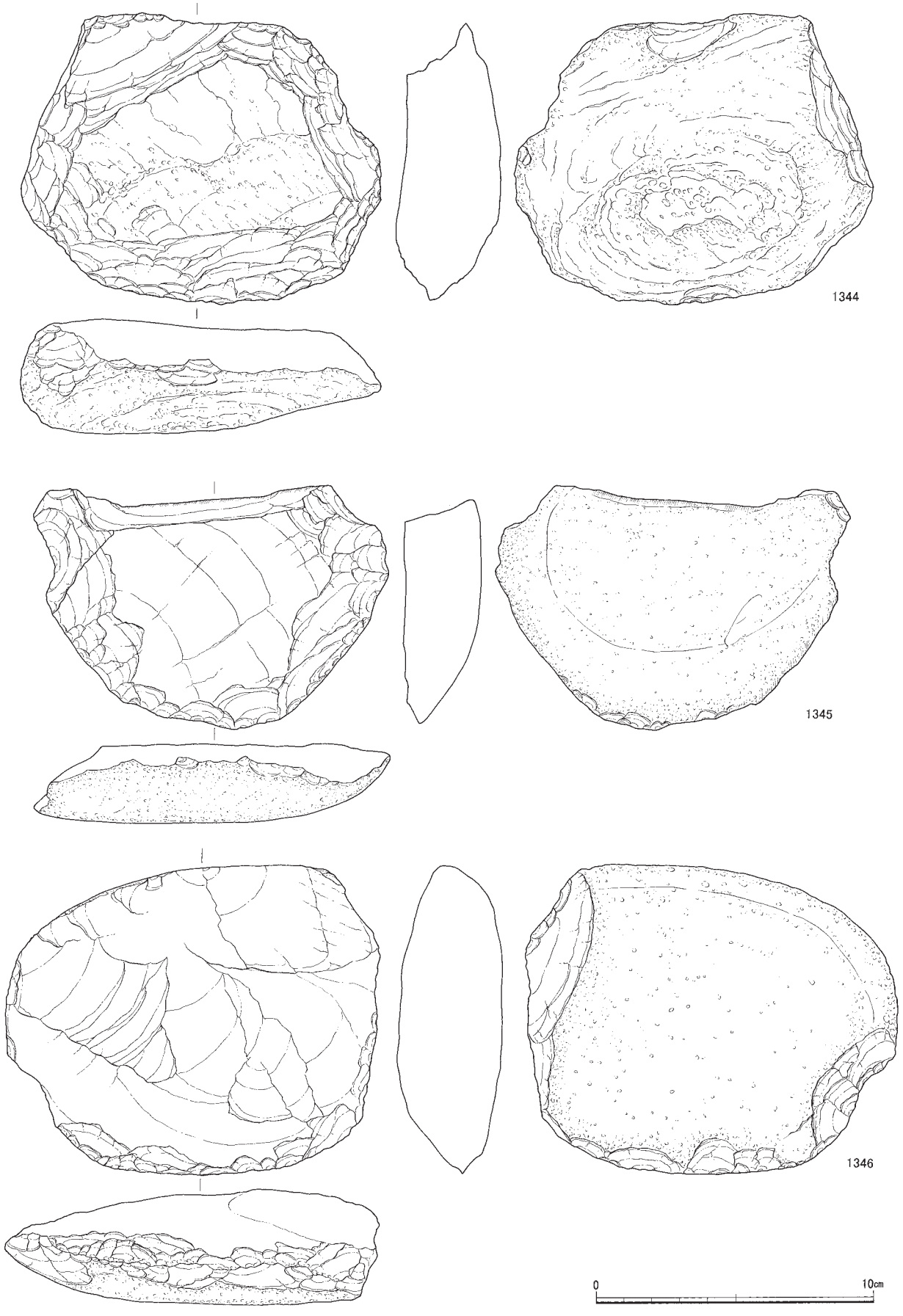
第124図　出土石器・石製品実測図39(1:2)



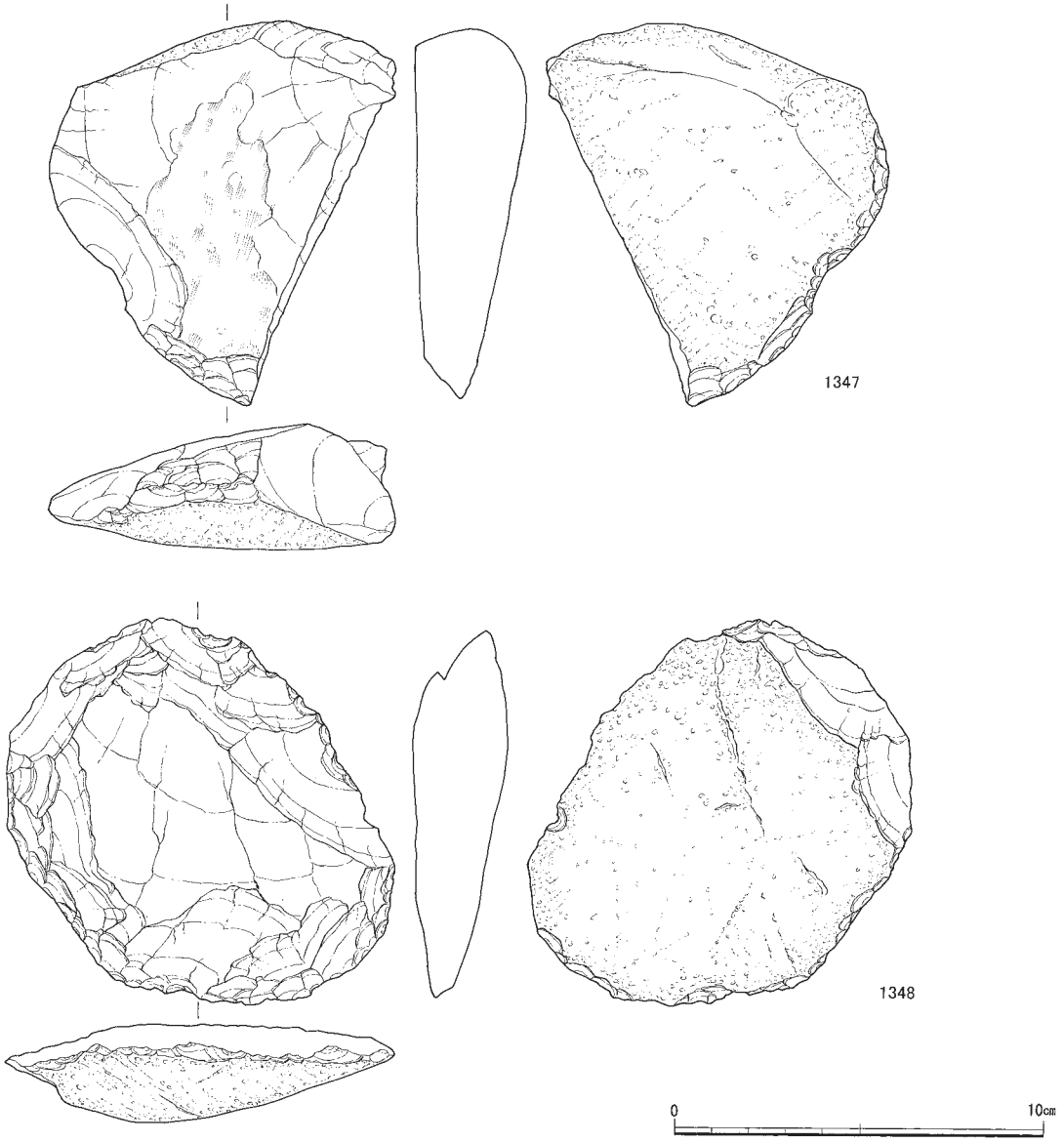
第125図　出土石器・石製品実測図40(1:2)



第126図　出土石器・石製品実測図41(1:2)



第127図　出土石器・石製品実測図42(1:2)



第128図　出土石器・石製品実測図43(1:2)

形状を呈す。1306は側面に礫表をとどめるもので、下端を折損するがおそらく上下端を器軸にするものであろう。1308～1311は自然礫を素材とするものである。1308は円形状礫素材のスポールで截断面には研磨痕をとどめる。1309は円形状の礫に上下方向の剥離を行う。1310・1311は楕円形状の扁平礫の長軸に上下方向の剥離をとどめる。石材は1292･1294・1297・1302～1306が下呂石、1295・1301がチャート、1307・1308は頁岩、1309が砂岩、1310が緑泥片岩、1311が片岩である。

(17) 礫器（第117～128図　1312～1348）

円礫や楕円礫、分割礫などを素材とし、粗い加工を加えたものを本器種とした。加工範囲は多様で、一辺を直線状･弧状に加工するもの､二辺にまたがって∪状・∨状に加工するもの、全周に及ぶものがある。

使用石材は(硬)砂岩38点、片岩７点、凝灰岩３点、閃緑岩４点、安山岩・花崗岩・片麻岩・緑色片岩・泥岩各１点である。

礫器は一般的には片刃礫器（チョッパー）と両刃礫器（チョッピングトゥール）に分類されるが、これとは別に礫石器と礫核石器に二分する考えもある。ここでは、便宜的に前者の分類で記述する。ただし、「両面に剥離面をもつものでも、片面側の剥離が、その下方の礫面や平坦面と角度をなすことなく連なるものは片刃礫器の範疇に含めるものとする[25]」という

定義を採用する。

片刃礫器は1312・1313・1315・1317・1319・1322～1327・1329～1334・1336～1341・1343～1345・1347・1348が該当する。1312・1313・1315・1341は長楕円形・楕円形状自然礫の長軸の一端に１枚～数枚の剥離を行い刃部とするものである。1319・1323・1325・1327・1330・1332・1333・1338・1343～1345・1347・1348は、片面がすべて剥離面で構成されるもの、あるいは片面の一部に自然礫の端部を取り込む以外は剥離面で構成されるもので、礫片または分割礫を素材としていると考えられる。1322・1324・1326・1329･1331・1334･1336・1337・1339・1340は両面に礫表をとどめ、自然礫本体そのものに加工を行った状態を呈するものである。

両刃礫器は1314・1316・1318・1320・1321・1328・1335･1342･1346が該当する。1314･1316は長楕円形･楕円形状自然礫の長軸の一端に数枚の剥離を行い刃部とするものである。1342・1346は礫片を素材とするもの、1318・1320・1321・1328・1335は自然礫本体に加工を行ったものである。

（18）異形石器（第129図　1349）

四辺から剥離がなされる小型品で楔形石器に似るが､三辺が凹状になっていることから本器種とした。サヌカイト製。

（19）二次加工痕有剥片

定型的な石器に分類することが躊躇されるものを一括した。図示していないが、29点出土しており、石材の内訳はサヌカイト24点、チャート５点である。

（20）使用痕有剥片（第129図　1350）

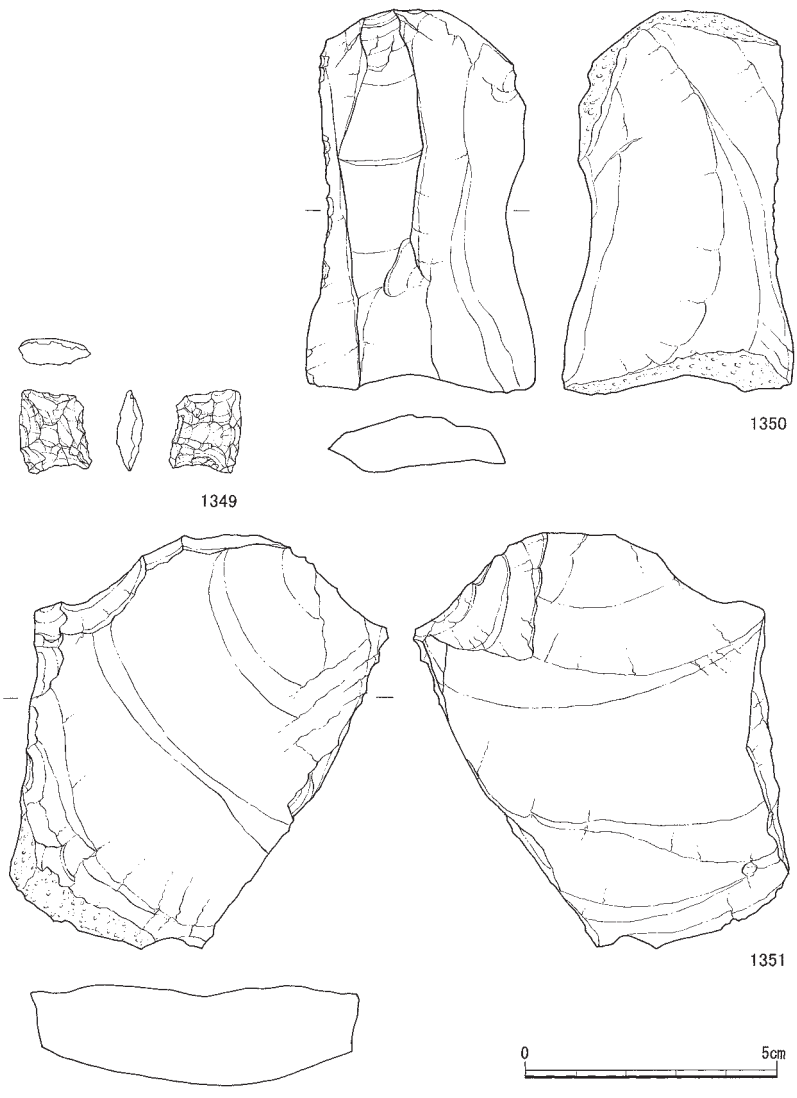
49点の石材内訳は、サヌカイト38点、チャート14点、下呂石７点となる。図示した1350には腹面側の両側面に礫表をとどめる剥片の長辺に微細な剥離痕が残る。サヌカイト製。

（21）剥片（第129図　1351）

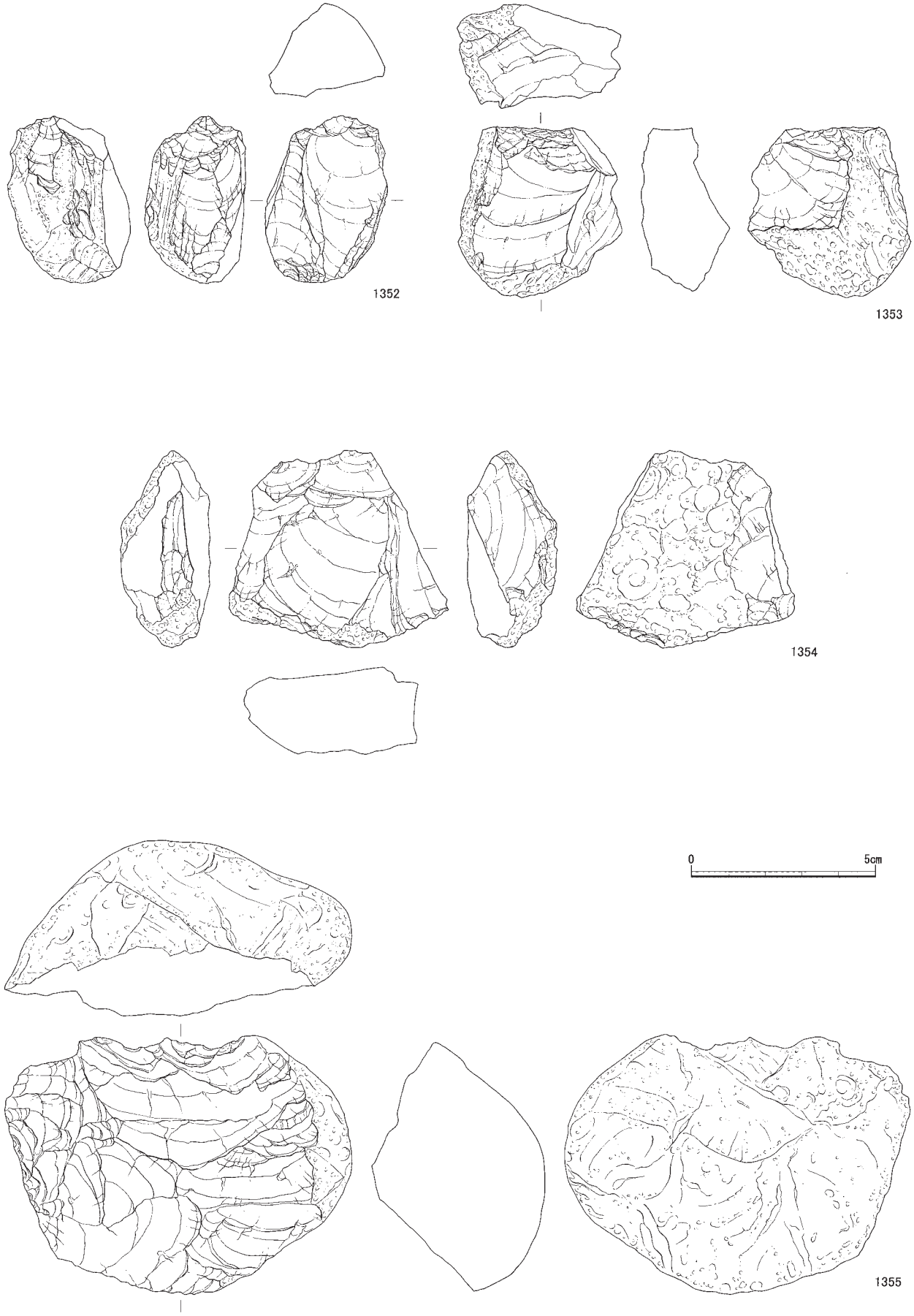
2201点出土した。石材の内訳はサヌカイト2121点、チャート30点、下呂石47点、石英２点、緑色岩１点となる。1351の１点のみを図示した。背腹面ともリングが波打つような厚手の剥片で､背面の末端には礫表をとどめる。一部にクラック状の剥離がみられる。本遺跡における最大の下呂石製石器である。

（22）石核（第130・131図　1352～1358）

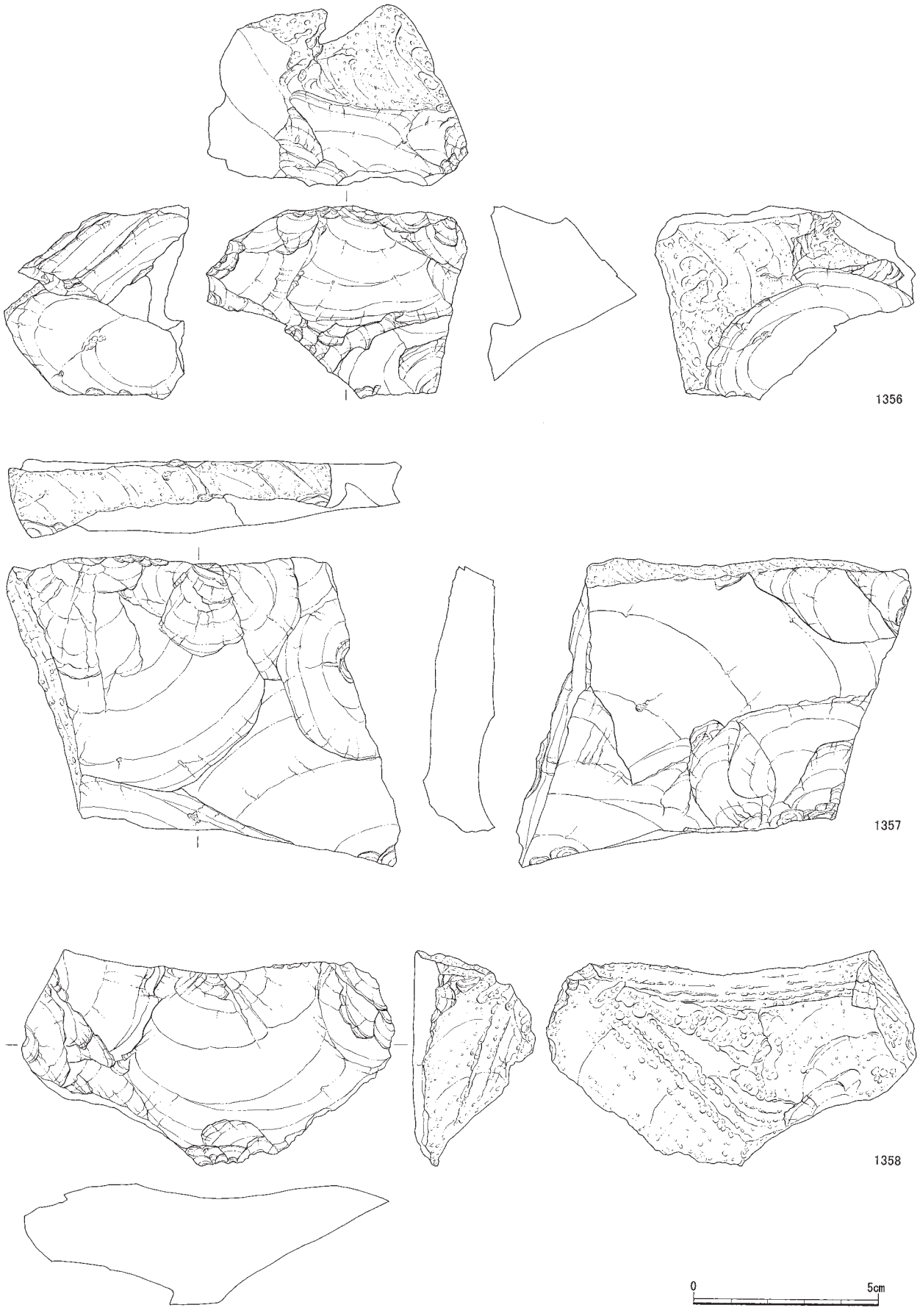
32点の石材内訳は、サヌカイト18点、チャート14点である。1352は図の正面から側面にかけて上下方向の剥離痕がみられるもので、上下端は楔形石器の特徴を呈するが、全体的な形状から本器種に含めた。1353は正面・裏面ともに１枚以上の一定サイズの剥片を剥離している。1354は正面上からの剥離を中心とし両側面が折れ面状を呈するものである。1355は拳大の円礫を素材とし、剥片剥離作業面以外はすべて



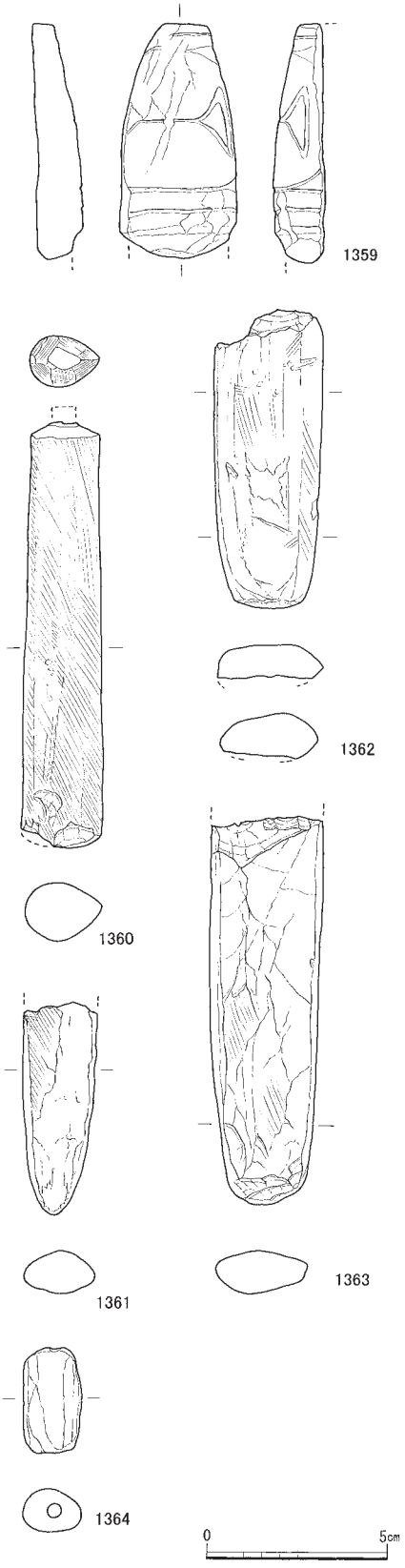
第129図　出土石器・石製品実測図44(2:3)



第130図　出土石器・石製品実測図45(2:3)



第131図　出土石器・石製品実測図46(2:3)



第132図　出土石器・石製品実測図47(1:2)

礫表である。作業面は上方と左方からの剥離がなされている。1356は正面を剥片剥離作業面とし、上下左にそれぞれ剥離による打面を形成している。1357は板状の剥片を素材とするもので、四方の側面は礫表および折れ面で構成されている。1358は正面のみを作業面とし、中央の大きな剥離面と小さな数枚の剥離面で構成される。

図示した７点の石材は1355がチャート、それ以外はサヌカイトである。　（久保勝正）

（23）石刀・同未成品（第132図　1359～1363）

1359は、把頭部の節理に沿って縦に半截した破片である。石材は、灰白色を呈する肌理の細かい片岩を用いている。現状の上端は、把頭の頂部端面を残し、下端は身部との括れ部で折損している。表面の一部が剥落している。紋様は、上下にそれぞれ１本ずつの直線を施し、その間を横方向に展開する３段の三叉紋で充填している。３段の三叉紋のうち、上下は一対の三叉紋がそれぞれ側面に表され、中央は表裏に一対ずつの連続する三叉紋が１㎜ほどの繊細な線で陰刻されている。側面の上下で三叉紋が連結するか否かは、現状では判断できない。身部は全く不明だが、同様の柄頭部をもつ類例から、石刀になると推定した。把頭部の復元厚は、身部との括れに近い最も厚い部分で３cm弱を測ると考えられる。全体の復元長は、30cm以上を測る大型の精品である。

紋様構成や石材と大きさから勘案して、主要分布域の影響を強く受けつつも、在地で製作されたと理解される。

1360～1363は、いずれも刀身部の破片である。

1360は、刀身部のほぼ全体を残す破片である。上端は、６方向以上からの擦り切りによって中心部のみを細く残す加工を施して括れ部を作出しており、この部分で折損している。この括れは把頭部と身部との境界を為すものであろう。身部の末端は、一部に剥離痕がみられるものの完結しており、いわゆる切っ先にはならず、面を形成している。

1361は刃部を明瞭に作出していることから、完成品の破片と考えられる。刀身部の末端には面が形成されている。1362は、泥岩製の刀身部末端破片である。表面が広く剥落し、線状痕を示した部分のみ残存している。刃の形成はみられず、断面形は紡錘形

を呈する。

1363も刀身部下半の破片である。表面の一部に線状痕がみられるものの、大半は剥離面によって構成されており、未成品の可能性が高い。

以上の刀身部の破片は、その側縁の形状から、すべて反りをもたない直身を呈するものと判断される。また、出土した石製遺物全点を精査することができなかったため断言はできないが、1362・1363の存在から本遺跡内でこうした刀剣形石製品が製作されていた可能性も考えられる。

(24) 玉（第132図　1364）

1364の１点のみが出土した。平面形は、長幅比がほぼ２：１の隅丸方形を呈し、古墳時代の棗玉に似た形態をもつ。横断面形はやや偏った楕円形を呈する。縦断面が図示されていないが、穿孔は両側からの回転穿孔である。石材はくすんだ飴色を呈し、変成岩類（大理石？）もしくは火成岩類？と同定されている。垂飾として用いられたものであろうか。

（大下　明）

[註]

①山内清男・佐藤達夫「縄紋土器文化のはじまる頃」(『上代文化』第30集、1960年）において、五期区分から六期区分になることを述べている。

②晩期編年については、増子康眞による一連の研究がある。

「愛知県馬見塚遺跡の縄文式土器」(『考古学手帖』19、1963年)。

「尾張平野における縄文晩期後半期の編年的研究」(『古代学研究』40、1965年)。

「三河新城市大宮町大ノ木遺跡の縄文晩期中葉（西之山式土器）について」(『信濃』第19号４、1967年)。

「東三河における縄文後期末・晩期文化の再検討（1)」(『古代人』35、1979年)。

「東三河における縄文後期末・晩期文化の再検討（2)」(『古代人』36、1980年)。

「東海地方西部の縄文文化」(『東海先史文化の諸段階　本文編・補足改訂版』、1981年)。

「愛知県を中心とする縄文晩期後半土器型式と関連する土器群の研究」(『はいづめ遺跡』岐阜県教育員会、1985年)。

山田編年については、

山田猛「伊勢の突帯文土器－野々田遺跡と蛇亀橋遺跡を中心に－」(『いちのみや考古』終刊号（通巻№20）一宮考古学会　2006年）を参照した。

③土師器鍋については下記の文献に拠った。

伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」(『Mie history』vol.1、三重歴史文化研究会、1990年)。

伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」(『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム、1996年)。

④陶器山茶椀・山皿については下記の文献に拠った。

藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」(『研究紀要』第３号、三重県埋蔵文化財センター、1994年)。

⑤欠番。

⑥第１回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会

突帯文土器研究会『突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり－』(1993年）に拠った。

⑦以下の文献に拠った。

山内清男「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」(『考古学』１、1930年)

中島栄一・渡邊朋和「浮線網状文系土器様式」(『縄文土器大観』４、1989年)

⑧以下の文献による。

泉雄二「斎宮跡の土器様相」(『記念シンポジウム斎宮の土器・みやこの土器』、斎宮歴史博物館、2000年)。

斎宮歴史博物館「斎宮跡の土器」(『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ内院地区の調査』、斎宮歴史博物館、2001年)。

⑨網谷克彦「北白川下層式土器様式」(『縄文土器大観』１、1989年）に拠っている。

⑩⑨と同じ。

⑪泉　拓良「船元・里木土器様式」(『縄文土器大観』３、1989年）に拠っている。

⑫以下の文献に拠っている。

泉　拓良「中期末縄文土器の分析」(『京都大学埋蔵文化財調査報告　Ⅲ　北白川追分町縄文遺跡の調査』京都大学埋蔵文化財研究センター、1985年)

泉　拓良「咲畑・醍醐式土器様式」(『縄文土器大観』３、1989年)

⑬玉田芳英「中津・福田ＫⅡ土器様式」(『縄文土器大観』４、1989年）に拠っている。

⑭泉　拓良「近畿の土器」(『縄文文化の研究』４、縄文土器Ⅱ　1981年）に拠っている。

⑮末永雅雄「橿原」(『奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告』17、1961年)

⑯精製という文言を使用することについては、問題があろうかと思うが、科学的な精製という意味ではなく、辰砂原石の粉砕化等の工程も含むものとして考えている。

⑰三重県埋蔵文化財センター『新徳寺遺跡発掘調査報告』(1997年）に拠った。出土例としては、土師器杯や皿のような器形のものである。

⑱三重県埋蔵文化財センター「大石遺跡」(『平成３年度農業基盤整備事業地域　埋蔵文化財発掘調査報告－第１分冊－』、1992年）に拠った。

⑲拙稿「縄文時代後期前半期における無文系土器の製作と変容」(『考古学フォーラム　18』、考古学フォー

ラム、2005年）に無文系土器の定義を詳細に述べている。

⑳石井　寛「堀之内２式土器の研究（予察）」（『調査研究収録』第５冊　港北ニュータウン埋蔵文化財調査団 、1984年）等の先行研究に拠った。

㉑縄文時代中期、東海系土器については、以下に一連の研究がある。

拙稿「三重県における縄文時代中期前半東海系土器群について」（『研究紀要』第８号　三重県埋蔵文化財センター、2000年）

拙稿「三重県における縄文時代中期前半東海系土器群の変遷」（『かにかくに』、2003年）

加藤賢二「遠江地方における縄文中期中葉の非勝坂式土器」（『静岡県考古学会シンポジウム４』、1980年）

増子康眞「まとめと考察」（『クダリヤマ遺跡』稲武町教育委員会、1995年）

山下勝年「知多半島における中期前半東海系土器」（『縄文時代中期前半の東海系土器群・予稿集』静岡県考古学会、1998年）

中山真治「縄文中期初頭の西関東・中部高地における東海系土器」（『東京考古』、1998年）

㉒以下の文献に拠った。

山内清男「加曾利Ｅ式土器」（『日本先史土器図譜』、1939年）

鈴木保彦・山本暉久「加曾利Ｅ式土器様式」（『縄文土器大観』２、1989年）

㉓㉑と同じ。

㉔㉑と同じ。

㉕織笠明「日本列島における片刃礫器と丹生１－Ｂ地点北区第２群石器の位置付け」（『大分県丹生石器群の研究』古代学協会、1994年）

［参考文献］

土器等関連

度会町遺跡調査会『森添遺跡発掘調査概報Ⅱ』（1988年）

鈴木克彦「伊勢湾沿岸地方における凸帯文深鉢の様相－伊勢地方からの視点－」（『三重県史研究』第６号　三重県、1990年）

三重県教育委員会「蛇亀橋遺跡」（『昭和56年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』、1982年）

能登川町教育委員会『今安楽寺遺跡』（1990年）

南知多町教育委員会『林ノ峰貝塚Ⅰ』（1993年）

石井　寛「堀之内１式期土器群に関する問題」（『牛ヶ谷・華厳台南遺跡』（財）横浜市ふるさと歴史財団 、1993年）

佐野　元「突帯文土器出現以前－所謂「稲荷山式」「桜井式」の評価－」（『突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり－』第１回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会　突帯文土器研究会　1993年）

野口哲也「突帯文土器」（『突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり－』第１回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会　突帯文土器研究会　1993年）

兵庫県教育委員会『佃遺跡』（1998年）

縄文時代文化研究会『縄文時代』第10号（1999年）

（財）大阪府文化財調査研究センター『向出遺跡』（2000年）

名張市教育委員会『下川原遺跡第３次調査概要』（2000年）

（財）愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター『牛牧遺跡』（2001年）

勢和村教育委員会『片野殿垣内遺跡』（2001年）

三重県埋蔵文化財センター『志知南浦遺跡発掘調査報告』（2008年）

石器等関連

石川日出志「伊勢湾沿岸における縄文時代晩期・弥生時代の石器組成」『〈条痕文系土器〉文化をめぐる諸問題』研究編，愛知考古学談話会、1988年）

石黒立人「突帯文土器期から条痕文系土器期の石器について」（『第１回東海考古学フォーラム・豊橋大会　突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり－』同大会実行委員会・突帯文土器研究会、1993年）

大下　明「近畿地域（大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県）の集成と概要」（『縄文・弥生移行期の石製呪術具２』小林青樹編、2001年）

大下　明「関西における縄紋時代後・晩期石器群の概要」（『縄文時代の石器－関西の後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年）

大下　明「兵庫県三田市内神下井沢遺跡出土石剣の復元的検討」（『山下秀樹氏追悼考古論集』山下秀樹氏追悼論文集刊行会、2004年）

大下　明・久保勝正「Ⅶ考察　（３）石器・石製品」（『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1995年）

久保勝正「縄文時代後期・晩期の石鏃について」（『縄文時代の石器－関西の後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年）

後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品について（上）」（『考古学研究』第33巻第３号，考古学研究会、1986年）

後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品について（下）」（『考古学研究』第33巻第４号，考古学研究会、1987年）

西井幸雄「静岡県西部における縄文時代の磨製石斧」（『転機』第５号，転機同人会、1994年）

西脇対名夫「石剣ノート」（『野村崇先生還暦記念論文集　北方の考古学』同刊行会、1998年）

早川正一「磨製石斧」（『縄文文化の研究』第７巻－道具と技術－，雄山閣、1983年）

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1038	86	251-02	AⅢ	E８	包含層	石鏃	ⅠA類	完形	2.23	0.93	0.32	0.5	サヌカイト	
1039	86	251-03	AⅢ	D７	下層Pit２	石鏃	ⅠA類	完形	1.66	1.41	0.40	0.7	サヌカイト	
1040	86	248-03	AⅢ	B２	包含層	石鏃	ⅠA類	先端欠	1.70	1.41	0.45	0.7	サヌカイト	
1041	86	246-04	AⅢ	B７	SK17	石鏃	ⅠA類	完形	1.98	1.88	0.36	0.8	サヌカイト	
1042	86	248-04	AⅢ	B４	下層Pit６	石鏃	ⅠA類	完形	2.09	1.81	0.36	1.0	サヌカイト	
1043	86	254-02	AⅢ	B６	SK22	石鏃	ⅠA類	先端欠	1.71	1.83	0.35	0.9	サヌカイト	
1044	86	248-01	AⅢ	B８	包含層	石鏃	ⅠA類	完形	1.91	1.66	0.37	0.9	サヌカイト	
1045	86	246-03	AⅢ	B６	SK23	石鏃	ⅠA類	先端欠	1.71	1.81	0.37	0.9	サヌカイト	
1046	86	248-02	AⅢ	－	排土	石鏃	ⅠA類	完形	2.31	1.50	0.47	1.1	サヌカイト	
1047	86	249-01	AⅢ	D６	SX45	石鏃	ⅠA類	完形	2.20	1.35	0.56	1.0	サヌカイト	
1048	86	254-03	AⅢ	B８	包含層	石鏃	ⅠA類	完形	2.60	2.01	0.44	1.7	サヌカイト	
1049	86	249-02	AⅢ	B５	包含層	石鏃	ⅠA類	完形	2.11	1.71	0.32	0.8	サヌカイト	
1050	86	247-01	AⅢ	D４	包含層	石鏃	ⅠA類	完形	2.05	1.65	0.33	0.7	サヌカイト	
1051	86	253-01	AⅢ	－	排土	石鏃	ⅠA類	完形	1.94	2.27	0.38	1.0	サヌカイト	
1052	86	258-03	AⅢ	E２	SK47	石鏃	ⅠA類	完形	2.08	1.62	0.35	0.7	サヌカイト	
1053	86	251-04	BⅠ	Ⅰ４	SZ104	石鏃	ⅠA類	先端欠	1.73	1.45	0.30	0.6	サヌカイト	
1054	86	251-01	AⅢ	D４	包含層	石鏃	ⅠA類	完形	2.31	1.46	0.32	0.7	サヌカイト	
1055	86	250-02	AⅢ	B７	Pit４	石鏃	ⅠA類	完形	2.32	1.64	0.37	0.9	サヌカイト	
1056	86	250-01	AⅢ	B４	包含層	石鏃	ⅠA類	完形	2.51	1.84	0.48	1.2	下呂石	
1057	86	250-03	AⅢ	C４	Pit３	石鏃	ⅠA類	左脚欠	2.45	1.67	0.43	1.0	サヌカイト	
1058	86	252-01	AⅢ	E５	下層包含層	石鏃	ⅠA類	完形	3.28	1.66	0.43	1.5	チャート	
1059	86	255-03	AⅢ	D８	包含層	石鏃	ⅠA類	先端・右脚欠	2.93	1.73	0.34	1.0	サヌカイト	
1060	86	253-03	AⅢ	D７	下層包含層	石鏃	ⅠB類	先端欠	1.74	1.42	0.44	0.8	サヌカイト	
1061	86	255-01	AⅢ	C２	Pit３	石鏃	ⅠB類	完形	2.17	1.19	0.35	0.8	サヌカイト	
1062	86	250-04	AⅢ	D７	下層包含層	石鏃	ⅠB類	完形	1.98	1.05	0.30	0.5	サヌカイト	
1063	86	254-04	AⅢ	E７	包含層	石鏃	ⅠB類	先端欠	2.28	1.70	0.35	1.3	サヌカイト	
1064	86	255-02	AⅢ	C４	SX48	石鏃	ⅠB類	左脚欠	2.45	1.24	0.41	0.9	下呂石	
1065	86	253-04	AⅢ	D５	Pit６	石鏃	ⅠB類	完形	1.92	1.52	0.35	1.0	サヌカイト	
1066	87	262-04	AⅢ	D８	Pit２	石鏃	ⅠC類	完形	1.80	1.50	0.28	0.5	サヌカイト	
1067	87	257-01	AⅢ	C２	包含層	石鏃	ⅠC類	完形	1.93	1.51	0.39	0.5	サヌカイト	
1068	87	258-04	AⅢ	C７	下層包含層	石鏃	ⅠC類	先端欠	2.40	2.08	0.56	1.6	サヌカイト	
1069	87	258-01	AⅢ	－	西壁	石鏃	ⅠC類	完形	2.50	1.97	0.37	1.0	サヌカイト	
1070	87	255-04	AⅢ	E６	下層包含層	石鏃	ⅠD類	完形	2.68	1.70	0.45	1.2	サヌカイト	
1071	87	264-01	AⅢ	D６	SX45	石鏃	ⅠD類	完形	1.73	1.48	0.40	0.7	サヌカイト	
1072	87	261-01	AⅢ	B７	下層包含層	石鏃	ⅠD類	完形	1.80	1.50	0.35	0.7	サヌカイト	
1073	87	263-02	AⅢ	C６	Pit２	石鏃	ⅠD類	完形	2.25	1.89	0.40	1.0	下呂石	
1074	87	258-02	AⅢ	C９	包含層	石鏃	ⅠD類	完形	2.46	1.62	0.40	1.2	サヌカイト	
1075	87	256-02	AⅢ	D５	SX28	石鏃	ⅠD類	右脚欠	3.82	2.05	0.47	2.1	サヌカイト	
1076	87	256-03	AⅢ	B７	Pit６	石鏃	ⅠD類	先端欠	2.97	1.95	0.45	1.9	サヌカイト	
1077	87	263-01	AⅢ	D５	SX28	石鏃	ⅠD類	先端欠	2.93	2.13	0.38	1.6	サヌカイト	
1078	87	256-01	AⅢ	－	東壁	石鏃	ⅠD類	完形	2.58	1.49	0.42	1.0	サヌカイト	
1079	87	260-01	AⅢ	C６	下層Pit７	石鏃	ⅠD類	完形	1.79	1.43	0.36	0.7	サヌカイト	
1080	87	259-03	AⅢ	B４	包含層	石鏃	ⅠD類	完形	1.35	1.29	0.30	0.5	サヌカイト	

第37表　石器・石製品一覧表1

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1081	87	260-03	AⅢ	B4	包含層	石鏃	ID類	完形	1.87	1.36	0.30	0.7	サヌカイト	
1082	87	260-02	BⅠ	G6	SK103	石鏃	ID類	完形	2.07	1.53	0.44	1.1	サヌカイト	
1083	87	260-04	AⅢ	C6	Pit9	石鏃	ID類	完形	2.14	1.56	0.37	0.9	サヌカイト	
1084	87	261-03	AⅢ	E8	包含層	石鏃	ID類	完形	2.26	1.70	0.50	1.4	サヌカイト	
1085	87	262-03	AⅢ	C7	SK73	石鏃	ID類	完形	2.46	1.77	0.44	1.2	サヌカイト	
1086	87	259-04	AⅢ	B2	包含層	石鏃	ID類	完形	2.29	1.37	0.40	1.0	サヌカイト	
1087	87	263-03	AⅢ	D6	包含層	石鏃	ID類	完形	2.30	1.48	0.35	1.2	サヌカイト	
1088	87	262-01	AⅢ	C9	包含層	石鏃	ID類	完形	2.54	1.34	0.40	0.8	サヌカイト	
1089	87	261-02	AⅢ	C7	包含層	石鏃	ID類	完形	2.63	1.36	0.41	1.0	下呂石	
1090	87	261-04	AⅢ	B8	Pit3	石鏃	ID類	左脚欠	3.11	1.47	0.38	1.4	下呂石	
1091	87	264-02	AⅢ	E5	Pit4	石鏃	ID類	先端・右脚欠	2.22	1.46	0.41	1.1	サヌカイト	
1092	87	265-01	AⅢ	E7	包含層	石鏃	ID類	右脚欠	2.65	1.65	0.48	1.2	下呂石	
1093	88	246-01	AⅢ	B6	撹乱層	石鏃	IIA類	先端欠	1.83	1.90	0.50	1.3	サヌカイト	
1094	88	245-04	AⅢ	C6	Pit3	石鏃	IIA類	完形	1.85	1.85	0.37	0.9	サヌカイト	
1095	88	246-02	試掘	№47	田面表採	石鏃	IIA類	完形	1.94	1.68	0.49	1.3	チャート	
1096	88	253-02	AⅢ	C9	包含層	石鏃	IIB類	先端欠	2.12	1.76	0.44	1.5	サヌカイト	
1097	88	254-01	AⅢ	C8	SK77	石鏃	IID類	完形	1.54	1.25	0.33	0.5	サヌカイト	
1098	88	262-02	AⅢ	B2	撹乱層	石鏃	IID類	完形	1.97	1.35	0.32	0.7	サヌカイト	
1099	88	243-01	AⅢ	B7	SK17	石鏃	IID類	完形	2.29	1.47	0.39	1.2	サヌカイト	
1100	88	259-01	AⅢ	B7	Pit6	石鏃	IID類	適用外	3.20	2.03	0.74	4.7	サヌカイト	
1101	88	259-02	BⅠ	J3	Pit1	石鏃	IID類	適用外	3.11	2.15	0.95	6.6	チャート	
1102	88	242-01	AⅢ	D4	包含層	石鏃	VA類	茎部部分欠	2.13	1.63	0.42	0.9	サヌカイト	
1103	88	242-02	AⅢ	C2	SK56	石鏃	VA類	茎部部分欠	2.16	1.32	0.41	0.7	サヌカイト	
1104	88	242-03	AⅢ	C2	SK56	石鏃	VA類	完形	3.15	2.22	0.84	3.7	サヌカイト	
1105	88	243-03	AⅢ	C1	Pit2	石鏃	VC類	完形	2.06	1.50	0.36	0.6	サヌカイト	
1106	88	243-02	AⅢ	C2	包含層	石鏃	VC類	茎部欠	2.41	2.22	0.58	2.0	サヌカイト	
1107	88	242-04	AⅢ	D2	包含層	石鏃	VD類	完形	1.89	1.24	0.44	0.9	サヌカイト	
1108	88	245-03	試掘	№18G	土坑？上面	石鏃	VD類	完形	1.80	1.24	0.49	0.7	サヌカイト	
1109	88	243-04	AⅢ	B6	Pit3	石鏃	VD類	完形	2.64	1.30	0.44	1.0	サヌカイト	
1110	88	244-01	AⅢ	D6	Pit1	石鏃	VD類	基部部分欠	3.06	1.90	0.56	1.8	サヌカイト	
1111	88	245-01	AⅢ	D5	SX28	石鏃	VD類	完形	2.81	1.76	0.48	1.6	下呂石	
1112	88	245-02	BⅠ	J5	包含層	石鏃	VD類	先端欠	2.58	1.54	0.63	1.5	下呂石	
1113	89	195-07	BⅠ	I10	Pit1	打欠き石錘		約1/2残存	2.80	3.40	1.50	14.0	泥岩	
1114	89	191-06	AⅢ	C4	SK49	打欠き石錘		完形	4.90	2.80	0.80	17.6	緑色片岩	
1115	89	191-03	AⅢ	C4	下層包含層	打欠き石錘		完形	4.00	3.00	1.20	20.4	泥岩	
1116	89	196-03	BⅡ	J18	SK113	打欠き石錘		完形	4.90	3.50	1.10	23.6	チャート	
1117	89	194-01	BⅠ	I5	SZ104	打欠き石錘		完形	5.20	3.30	1.30	27.7	片岩	
1118	89	191-09	AⅢ	B5	下層包含層	打欠き石錘		完形	5.40	3.40	1.60	31.3	砂岩	
1119	89	191-07	AⅢ	B8 B9	SK16	打欠き石錘		完形	5.50	3.10	1.30	33.4	緑色片岩	
1120	89	191-05	AⅢ	C2	包含層	切目石錘		完形	5.50	3.30	1.50	36.3	礫岩	
1121	89	192-02	AⅢ	C4	包含層	打欠き石錘		完形	5.05	4.40	1.40	35.2	泥岩	両極打法による同時の剥離か

第38表　石器・石製品一覧表2

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1122	89	191-01	AⅢ	D3	包含層	打欠き石錘		完形	5.10	4.10	1.10	35.2	砂岩	
1123	89	196-05	BⅡ	F15	包含層	打欠き石錘		完形	5.20	4.40	1.00	38.9	流紋岩	
1124	89	192-01	AⅢ	D5	包含層	打欠き石錘		完形	5.00	3.60	1.60	40.2	チャート	
1125	89	194-05	BⅠ	J4	包含層	打欠き石錘		完形	4.90	4.20	1.50	42.6	砂岩	
1126	89	196-04	BⅡ	F16	包含層	打欠き石錘		完形	5.80	3.70	1.50	48.6	砂岩	
1127	89	195-04	BⅠ	I5	包含層	打欠き石錘		一部欠損	6.10	4.30	1.50	53.6	泥岩	
1128	90	191-04	AⅢ	B6	包含層	打欠き石錘		完形	6.40	4.40	1.30	56.3	砂岩	
1129	90	191-02	AⅢ	D6	包含層	打欠き石錘		完形	7.00	3.90	1.30	57.0	緑色片岩	
1130	90	191-08	AⅢ	B3	下層包含層	打欠き石錘		完形	5.65	4.00	1.90	63.7	流紋岩	
1131	90	194-03	BⅠ	H6	SZ104	打欠き石錘		完形	7.20	4.30	1.60	65.5	緑色片岩	
1132	90	194-04	BⅠ	J2	包含層	打欠き石錘		完形	6.10	4.50	3.00	113.6	流紋岩	
1133	90	194-06	BⅠ	J6	包含層	打欠き石錘		完形	8.80	4.20	2.40	131.5	流紋岩	風化
1134	90	190-01	AⅢ	E9	SK13	打欠き石錘		完形	9.00	6.50	1.40	134.8	砂岩	
1135	91	195-01	BⅠ	I3	SZ104	打欠き石錘		完形	5.40	2.30	0.90	16.6	緑色岩	
1136	91	195-02	BⅠ	I5	包含層	打欠き石錘		ほぼ完形	5.70	2.70	1.20	26.2	泥岩	
1137	91	193-06	BⅠ	J4	包含層	打欠き石錘		完形	6.70	3.50	1.20	43.3	黒色泥岩	
1138	91	194-02	BⅠ	I5	下層Pit3	打欠き石錘		完形	7.50	3.00	1.10	43.5	片岩	
1139	91	196-01	BⅡ	—	T2第1層	打欠き石錘		完形	8.20	2.50	1.30	44.2	片岩	
1140	91	193-03	BⅠ	I4	Pit1	打欠き石錘		一部欠損	8.00	3.30	1.40	44.9	砂岩	
1141	91	196-02	BⅡ	—	下層包含層	打欠き石錘		完形	8.20	2.90	1.30	61.9	片岩	
1142	91	190-04	AⅢ	B7	包含層	打欠き石錘		完形	7.60	3.00	1.40	51.3	緑色片岩	
1143	91	190-05	AⅢ	B8	Pit4	打欠き石錘		完形	8.00	2.70	1.60	61.8	細粒花崗岩	
1144	91	193-02	BⅠ	I5	包含層	打欠き石錘		完形	10.70	2.80	1.50	68.6	片岩	
1145	91	190-02	AⅢ	—	南壁	打欠き石錘		完形	8.50	4.00	1.40	73.0	片岩	
1146	91	190-03	AⅢ	C8	SK71	打欠き石錘		完形	10.20	3.50	1.90	109.2	片岩	
1147	92	193-05	BⅠ	I6	包含層	打欠き石錘		完形	5.10	3.10	1.50	41.1	砂岩	
1148	92	195-06	BⅠ	I4	包含層	打欠き石錘		完形	5.00	5.15	1.30	44.5	泥岩	
1149	92	192-04	AⅢ	B6	包含層	打欠き石錘		完形	5.00	5.00	1.30	48.6	泥岩	
1150	92	195-03	BⅠ	H4	SZ104	打欠き石錘		完形	5.20	5.00	1.90	56.2	火砕岩(火道破砕岩(高見石))	
1151	92	195-05	BⅠ	I6	SZ104	打欠き石錘		完形	5.40	4.00	1.90	63.5	砂岩	
1152	92	193-04	BⅠ	J5	包含層	打欠き石錘		完形	7.70	3.20	2.20	80.6	緑色片岩	
1153	92	192-03	AⅢ	B8	包含層	打欠き石錘		完形	6.30	5.00	2.00	94.8	砂岩	ツブレ状の痕跡
1154	92	193-01	BⅠ	J4	包含層	切目石錘		約1/4欠損	5.05	3.80	0.90	22.9	緑色岩	
1155	92	184-03	AⅢ	C2	包含層	有溝石錘		完形	6.80	1.40	0.80	11.6	片岩	
1156	93	302-01	AⅢ	C6	包含層	打製石斧		完形	7.55	5.79	1.06	42.9	ホルンフェルス	
1157	93	301-01	AⅢ	D6	撹乱層	打製石斧		完形	9.40	4.58	2.31	81.1	硬砂岩	
1158	93	302-02	BⅠ	H5	包含層	打製石斧		完形	6.71	4.38	1.27	35.2	硬砂岩	
1159	93	303-01	AⅠ	—	側溝	打製石斧		完形	9.55	4.74	1.55	72.5	硬砂岩	
1160	93	300-01	AⅢ	B4	包含層	打製石斧		刃部欠	12.25	4.85	2.83	183.2	硬砂岩	
1161	93	298-01	AⅢ	E7	包含層	打製石斧		刃部欠	13.12	5.30	1.84	212.8	凝灰岩	
1162	94	299-01	AⅢ	D5	SX28	打製石斧		完形	13.56	6.01	1.66	205.4	片岩	
1163	95	343-01	AⅢ	C2	SK56	粗製剥片石器		完形	5.85	6.44	1.38	73.3	硬砂岩	

第39表　石器・石製品一覧表3

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1164	95	342-01	AⅢ	B3	包含層	粗製剥片石器		完形	5.78	7.53	1.33	76.2	硬砂岩	
1165	95	422-02	BⅠ	H5	SZ104	粗製剥片石器		完形	7.00	7.20	1.10	64.8	砂岩	
1166	95	422-03	BⅠ	I4	SZ104	粗製剥片石器		完形	7.50	3.30	0.60	20.2	花崗岩	
1167	95	422-01	AⅢ	B6	包含層	粗製剥片石器		周縁一部欠損	8.80	5.20	1.10	51.2	砂岩	
1168	95	422-04	AⅢ	B2	包含層	粗製剥片石器		完形	10.10	7.10	0.90	96.3	砂岩	
1169	96	233-01	AⅢ	B9	包含層	台石		完形	16.10	19.50	4.80	2170.0	安山岩	
1170	96	234-01	AⅢ	B8	包含層	石皿		完形	20.80	18.70	6.80	3700.0	安山岩	
1171	96	235-01	AⅢ	B5	包含層	石皿		一部欠損	24.20	20.30	5.60	3925.0	玢岩	
1172	97	236-01	AⅢ	C2	SK56	石皿		約7/8残存	26.10	23.90	8.90	7775.0	花崗岩	
1173	98	232-01	AⅢ	D6	包含層	台石		約1/2残存	10.60	17.20	4.90	1100.0	安山岩	
1174	98	227-01	AⅢ	B6	包含層	石皿		約1/2残存	14.70	18.10	5.60	2200.0	安山岩	
1175	98	240-01	AⅢ	D3	包含層	台石		一部残存	12.70	20.60	6.30	1930.0	閃緑岩	
1176	98	231-01	AⅢ	A8	包含層	石皿		一部残存	15.20	20.50	1.00	400.0	片岩	赤色顔料付着
1177	99	239-01	AⅢ	C5	包含層	台石		一部残存	10.20	14.70	4.80	950.0	安山岩	
1178	99	226-01	AⅢ	B9	立石	石皿		一部残存	17.60	11.50	9.00	2690.0	砂岩	
1179	99	241-01	BⅡ	—	T4第1層	石皿		一部残存	20.90	14.60	6.50	2700.0	流紋岩	台石として使用した後に外まわりを割っている？
1180	100	238-02	AⅢ	E5	包含層	石皿		約1/4残存	11.10	13.40	5.60	1150.0	花崗岩	
1181	100	229-01	BⅠ	H6	包含層	石皿		約1/2残存	12.70	13.70	8.00	1660.0	砂岩	
1182	100	228-01	AⅢ	D6	包含層	台石		約1/3残存	10.80	14.10	5.80	1360.0	花崗閃緑岩	くぼみ部をもつ石皿の可能性あり
1183	100	230-01	BⅠ	I5	包含層	石皿		約3/4残存	23.00	16.00	6.80	3640.0	砂岩	
1184	101	217-01	AⅢ	—	西壁	敲石		完形	8.50	8.10	5.00	475.0	安山岩	
1185	101	223-01	BⅡ	I15	包含層	敲石		完形	13.00	11.40	4.30	925.0	安山岩	
1186	101	221-01	AⅢ	C3	包含層	敲石		完形	11.00	8.80	6.90	990.0	砂岩	
1187	101	220-01	AⅢ	B3	包含層	敲石		完形	12.30	9.60	7.70	1240.0	砂岩	
1188	101	221-02	AⅢ	—	西壁	敲石		完形	12.50	8.40	6.20	840.0	花崗岩	被熱による剥落か？
1189	101	219-01	AⅢ	B5	包含層	敲石		完形	10.10	8.40	6.80	790.0	花崗岩	
1190	101	198-01	AⅢ	B8	包含層	敲石		約2/3残存	8.20	10.50	4.90	560.0	砂岩	全体に滑らか
1191	101	217-02	AⅢ	B7	包含層	敲石		完形	8.50	8.00	5.40	500.0	安山岩	
1192	101	216-02	AⅢ	C2	Pit1	敲石		完形	10.60	7.70	4.20	530.0	閃緑岩	
1193	101	200-01	BⅠ	J4	SZ104	敲石		完形	12.50	11.60	4.70	1040.0	砂岩	赤色顔料付着
1194	102	199-02	AⅢ	E5	包含層	敲石		一部欠損	8.50	8.10	6.20	570.0	砂岩	両面に敲打痕
1195	102	208-03	AⅢ	C3	包含層	敲石		約1/2残存	12.20	6.10	6.00	650.0	デイサイト	
1196	102	207-01	AⅢ	—	南壁	敲石		完形	10.20	6.70	3.40	325.0	安山岩	
1197	102	218-01	AⅢ	D9	SK12	敲石		完形	9.10	9.60	4.20	480.0	花崗岩	
1198	102	218-02	AⅢ	B5	下層包含層	敲石		約2/3残存	9.00	10.20	4.80	500.0	安山岩	
1199	102	219-02	AⅢ	D3	包含層	敲石		約5/6残存	9.20	7.10	5.40	475.0	安山岩	両端は受熱により破砕
1200	102	224-01	BⅡ	—	下層包含層	敲石		完形	11.50	9.00	7.30	1050.0	砂岩	煤付着
1201	102	208-02	AⅢ	D3	包含層	敲石		完形	8.00	9.50	5.20	590.0	デイサイト	炭化物付着
1202	102	204-02	AⅢ	B6	包含層	敲石		完形	10.00	9.10	4.80	600.0	安山岩	炭化物付着
1203	102	206-01	AⅢ	D7	包含層	敲石		完形	7.40	6.20	4.40	290.0	デイサイト	
1204	103	208-01	AⅢ	B7	包含層	敲石		完形	6.20	6.00	5.20	240.0	デイサイト	炭化物付着

第40表　石器・石製品一覧表4

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1205	103	205-02	AⅢ	B５	Pit４	敲石		約2/3残存	9.00	8.40	6.30	450.0	花崗岩	
1206	103	216-01	AⅢ	D７	包含層	敲石		一部欠損	12.50	8.20	5.30	700.0	安山岩	
1207	103	210-02	AⅢ	C５	Pit１１	敲石		完形	11.60	7.50	4.20	525.0	砂岩	
1208	103	214-02	AⅢ	B６	撹乱層	敲石		完形	11.00	7.50	5.00	550.0	デイサイト	
1209	103	221-03	BⅡ	B13	包含層	敲石		完形	8.70	7.30	4.10	360.0	安山岩	
1210	103	213-01	AⅢ	E３	下層包含層	敲石		完形	12.80	11.00	7.40	1500.0	流紋岩	
1211	103	215-01	AⅢ	D４	包含層	敲石		完形	14.00	9.40	6.50	1160.0	花崗岩	炭化物付着、被熱赤化
1212	104	214-01	AⅢ	D７	包含層	敲石		完形	12.30	10.50	3.80	700.0	火砕岩(火道破砕岩(高見石))	
1213	104	237-02	AⅢ	E９	SH11	敲石		一部欠損	11.30	13.10	4.20	720.0	花崗岩	
1214	104	237-01	BⅠ	J４	包含層	敲石		完形	13.80	7.40	6.20	760.0	砂岩	
1215	104	222-01	BⅠ	J５	包含層	敲石		一部欠損	13.80	9.00	4.80	825.0	花崗閃緑岩	
1216	104	203-01	AⅢ	E６	包含層	敲石		完形	10.50	8.60	5.20	600.0	砂岩	
1217	104	203-03	AⅢ	D９	SK12	敲石		約1/2残存	10.30	9.50	4.20	540.0	砂岩	
1218	104	212-01	AⅢ	—	南壁	敲石		一部欠損	17.00	9.30	6.20	1400.0	安山岩	
1219	104	239-02	AⅢ	E９	SH11	敲石		一部残存	11.10	9.00	8.80	1300.0	砂岩	
1220		欠番												
1221	105	203-02	AⅢ	D３	撹乱層	槌石		完形	6.80	4.80	3.10	165.0	砂岩	
1222	105	206-03	AⅢ	E６	下層包含層	槌石		一部残存	6.40	8.60	2.60	200.0	安山岩	
1223	105	202-02	AⅢ	C９	包含層	槌石		完形	11.00	8.10	5.50	690.0	砂岩	
1224	105	210-01	AⅢ	E４	包含層	槌石		完形	15.30	5.90	2.40	390.0	片岩	
1225	105	209-01	AⅢ	C７	SK19	槌石		小片	15.30	5.20	1.10	125.0	片岩	
1226	105	209-02	AⅢ	D３	包含層	槌石		一部欠損	14.90	5.00	1.90	210.0	片岩	
1227	105	209-03	AⅢ	B３	包含層	槌石		完形	21.20	6.10	3.40	710.0	片岩	
1228	105	204-01	AⅢ	D３	包含層	槌石		完形	8.10	5.60	4.20	250.0	砂岩	
1229	105	341-01	BⅡ	—	T３第１層	槌石		完形	16.99	4.83	2.18	286.0	凝灰岩	
1230	105	206-02	AⅢ	E５	包含層	槌石		完形	7.80	7.40	5.00	450.0	砂岩	
1231	105	205-01	AⅢ	B４	包含層	槌石		完形	8.60	8.20	3.60	380.0	砂岩	
1232	105	207-02	AⅢ	E１	包含層	槌石		完形	4.20	3.60	2.80	50.0	砂岩	
1233	105	207-03	AⅢ	E１	包含層	槌石		約1/10欠損	6.40	5.50	3.60	150.0	砂岩	
1234	105	211-01	AⅢ	E３	包含層	槌石		完形	14.00	7.30	6.00	1125.0	流紋岩	炭化物付着
1235	106	198-02	AⅢ	B２	SX85	磨石		完形	7.30	6.90	3.80	290.0	砂岩	全体に摩耗不明瞭
1236	106	197-01	AⅢ	C５	包含層	磨石		完形	11.50	9.40	6.70	1010.0	砂岩	全体に弱く摩耗
1237	106	197-02	AⅢ	—	東壁	磨石		約7/8残存	11.40	10.70	5.60	950.0	砂岩	両面ともに滑らか
1238	106	199-01	AⅢ	E９	SH11	磨石		完形	9.40	6.40	5.30	400.0	流紋岩	朱付着
1239	106	201-01	BⅠ	J４	包含層	磨石		完形	10.90	7.70	5.60	660.0	砂岩	朱付着
1240	106	200-02	AⅢ	—	東壁	磨石		完形	9.50	8.80	6.80	760.0	砂岩	
1241	106	202-01	AⅢ	D２	包含層	磨石		完形	11.30	10.90	4.90	900.0	流紋岩	
1242	106	201-02	AⅢ	E３	包含層	磨石		約1/2残存	7.30	10.00	6.00	440.0	砂岩	
1243	107	185-02	BⅡ	J18	SK113	磨製石斧		一部欠損	3.00	2.20	0.60	6.8	玢岩	
1244	107	187-01	AⅢ	C２	包含層	磨製石斧		完形	8.35	4.10	2.60	93.0	緑色岩	
1245	107	187-02	AⅢ	C８	包含層	磨製石斧		完形	6.70	4.40	1.60	77.5	変成岩(ホルンフェルス)	

第41表　石器・石製品一覧表5

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1246	107	186-03	AⅢ	D4	包含層	磨製石斧		ほぼ完形	7.70	5.05	2.30	136.7	閃緑岩	
1247	107	185-01	BⅠ	I5	SZ104	磨製石斧		約1/2残存	5.20	4.50	2.10	75.9	玢岩	
1248	107	186-04	AⅢ	—	排土	磨製石斧		刃部のみ残存	6.40	5.20	3.10	169.0	閃緑岩	
1249	107	188-02	AⅢ	E3	包含層	磨製石斧		刃部一部欠損	10.20	5.80	3.30	335.0	チャート	刃面光沢ある位置に摩耗
1250	108	186-02	AⅢ	E8	包含層	磨製石斧		刃部欠損	7.10	4.00	2.70	123.5	閃緑岩	全体に淡褐色に変色
1251	108	186-01	AⅢ	—	東壁	磨製石斧		刃部欠損	7.50	4.40	3.10	167.4	閃緑岩	
1252	108	189-01	AⅢ	D3	包含層	磨製石斧		刃部一部欠損	11.30	4.70	3.10	295.0	閃緑岩	
1253	108	189-03	AⅢ	B7	包含層	磨製石斧		ほぼ完形	12.30	5.70	3.60	380.0	砂岩	
1254	109	189-02	AⅢ	B8	包含層	磨製石斧		一部欠損	12.40	5.30	4.30	510.0	玄武岩	
1255	109	187-03	AⅢ	E9	包含層	磨製石斧		完形	9.90	5.80	4.40	400.0	砂岩	
1256	109	188-01	AⅢ	E5	包含層	磨製石斧		刃部欠損	10.20	5.90	3.85	310.0	閃緑岩	
1257	110	185-03	AⅢ	B6	包含層	部分磨製石斧		完形	7.80	4.35	3.90	248.1	閃緑岩	槌石に転用
1258	110	185-04	AⅢ	—	南壁	磨製石斧		完形	8.00	5.00	4.40	285.0	細粒花崗岩	槌石に転用
1259	111	222-02	AⅢ	E5	包含層	有溝砥石		一部欠損	5.80	5.00	2.00	75.0	安山岩	
1260	111	238-01	AⅢ	E9	包含層	砥石		完形	7.00	10.70	3.00	300.0	砂岩	煤付着
1261	111	225-01	BⅠ	J5	包含層	砥石		完形	25.20	10.50	6.90	2460.0	砂岩	
1262	112	287-01	AⅢ	D3	包含層	石錐		錐部欠	2.99	2.42	0.50	2.6	サヌカイト	
1263	112	287-02	AⅢ	B7	下層Pit7	石錐		完形	4.68	2.06	0.84	5.2	サヌカイト	
1264	112	287-03	AⅢ	C1	下層包含層	石錐		完形	2.44	1.78	0.62	1.9	サヌカイト	
1265	112	290-02	AⅢ	B8	Pit3	石錐		完形	3.99	1.16	0.75	3.1	サヌカイト	
1266	112	290-03	AⅢ	C8	Pit1	石錐		錐部残	2.04	0.62	0.44	0.6	サヌカイト	
1267	112	289-01	AⅢ	D8	包含層	石錐		完形	3.42	0.80	0.77	1.7	サヌカイト	
1268	112	287-04	AⅢ	D3	包含層	石錐		錐部欠	2.67	0.93	0.60	1.3	サヌカイト	
1269	112	290-01	AⅢ	B6	撹乱層	石錐		完形	2.42	1.07	0.59	1.1	サヌカイト	
1270	112	290-04	AⅢ	D9	SK12	石錐		錐部欠	2.45	1.09	0.56	1.3	サヌカイト	
1271	112	288-02	BⅠ	I5	包含層	石錐		完形	2.64	1.26	0.69	1.7	サヌカイト	
1272	112	288-03	AⅢ	D8	包含層	石錐		完形	2.76	1.22	0.67	1.5	サヌカイト	
1273	112	291-01	AⅢ	B6	包含層	石錐		完形	5.21	2.08	0.99	8.6	サヌカイト	
1274	112	288-01	AⅢ	B6	包含層	石錐		完形	2.84	2.08	0.87	4.1	サヌカイト	
1275	112	288-04	AⅢ	D3	撹乱層	石錐		完形	1.94	1.84	0.72	2.1	サヌカイト	
1276	113	268-01	BⅠ	I4	包含層	石匙		完形	2.87	4.80	0.92	9.5	赤珪岩	
1277	113	267-01	AⅠ	B6	包含層	石匙		完形	3.42	5.25	1.00	10.4	サヌカイト	
1278	113	273-02	AⅢ	C8	下層包含層	削器		完形	2.87	4.85	0.67	6.9	サヌカイト	
1279	113	276-01	AⅢ	E8	下層包含層	削器		完形	2.75	4.61	0.83	6.1	サヌカイト	
1280	113	270-02	AⅢ	C5	包含層	削器		完形	2.99	4.62	1.18	16.9	サヌカイト	
1281	113	272-02	AⅢ	C6	包含層	削器		完形	1.75	4.71	0.75	4.2	サヌカイト	
1282	113	272-01	AⅢ	—	東壁	削器		完形	4.04	5.83	1.00	23.6	硬砂岩	
1283	113	275-02	AⅢ	C9	包含層	削器		完形	2.98	3.32	0.78	6.4	チャート	
1284	113	275-01	AⅢ	D6	包含層	削器		完形	6.52	5.28	1.83	57.2	サヌカイト	
1285	113	276-02	BⅠ	H5	SZ104	削器		完形	1.89	2.87	0.79	4.4	サヌカイト	
1286	113	273-01	AⅢ	C6	包含層	削器		完形	2.96	4.38	0.74	8.9	サヌカイト	
1287	114	269-01	AⅢ	B8	包含層	削器		完形	4.68	9.05	2.15	54.4	サヌカイト	
1288	114	271-02	AⅢ	D3	下層包含層	削器		不明	2.63	3.30	0.93	5.8	サヌカイト	

第42表　石器・石製品一覧表6

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1289	114	271-01	AⅢ	B6	下層Pit1	削器		完形	3.67	6.88	1.63	30.4	サヌカイト	
1290	114	270-01	AⅢ	C2	包含層	削器		完形	3.68	7.01	1.04	25.3	サヌカイト	
1291	114	274-01	AⅢ	B4	包含層	削器		完形	6.40	9.02	2.09	89.3	硬砂岩	
1292	114	278-01	AⅢ	E9	包含層	楔形石器		完形	4.97	3.63	1.36	24.2	下呂石	
1293	115	278-03	AⅢ	B6	包含層	楔形石器		完形	2.62	2.17	0.72	3.5	サヌカイト	
1294	115	279-01	AⅢ	E9	SH11	楔形石器		完形	3.39	2.13	0.83	4.7	下呂石	
1295	115	282-02	AⅢ	B6	包含層	楔形石器		完形	2.34	3.29	0.73	5.6	チャート	
1296	115	280-01	AⅢ	B8	SK67	楔形石器		断片	4.84	2.22	1.05	8.0	サヌカイト	
1297	115	278-02	AⅢ	C5	包含層	楔形石器		完形	4.35	2.54	1.03	13.7	下呂石	
1298	115	281-02	AⅢ	D4	包含層	楔形石器		完形	2.56	2.89	1.30	8.5	サヌカイト	
1299	115	277-01	AⅢ	E9	SH11	楔形石器		完形	2.74	2.44	1.18	7.0	サヌカイト	
1300	115	284-01	BⅠ	I4	SK102	楔形石器		完形	2.97	1.75	1.26	6.8	サヌカイト	
1301	115	282-01	AⅢ	B6	包含層	楔形石器		完形	3.52	3.04	1.00	11.5	チャート	
1302	115	281-01	AⅢ	—	東壁	楔形石器		完形	3.86	2.96	1.18	11.2	下呂石	
1303	115	279-02	AⅢ	B5	Pit2	楔形石器		完形	3.99	4.52	1.39	24.6	下呂石	
1304	115	280-02	AⅢ	E6	包含層	楔形石器		完形	2.73	3.11	1.02	7.1	下呂石	
1305	115	283-02	AⅢ	E6	Pit3	楔形石器		完形	3.42	4.02	0.98	11.7	下呂石	
1306	115	283-01	AⅢ	C2	包含層	楔形石器		完形	4.33	4.87	1.02	19.7	下呂石	
1307	116	285-01	AⅢ	D2	包含層	楔形石器		完形	6.90	6.23	2.20	101.1	頁岩	
1308	116	285-02	AⅢ	C5	下層包含層	楔形石器		完形	7.66	1.58	2.03	31.8	頁岩	
1309	116	284-02	BⅠ	H5	SZ104	楔形石器		完形	7.35	7.08	2.95	173.0	硬砂岩	
1310	116	286-01	AⅢ	D7	Pit3	楔形石器		完形	11.22	4.84	2.24	192.9	緑泥片岩	
1311	116	286-02	BⅠ	I5	SZ104	楔形石器		完形	12.41	4.54	1.63	127.6	片岩	
1312	117	329-01	AⅢ	E2	包含層	礫器	片刃	完形	16.16	4.77	2.40	274.2	片岩	
1313	117	325-01	AⅢ	C3	包含層	礫器	片刃	完形	10.41	5.11	1.59	129.2	片岩	
1314	117	328-01	AⅢ	B3	撹乱層	礫器	両刃	完形	13.73	6.20	1.75	221.8	片岩	
1315	117	339-01	BⅠ	H6	包含層	礫器	片刃	完形	8.65	5.41	1.96	144.1	凝灰岩	
1316	118	330-01	AⅢ	C5	Pit2	礫器	両刃	完形	12.52	7.16	3.84	402.4	凝灰岩	
1317	118	337-01	BⅠ	J5	包含層	礫器	片刃	完形	14.79	7.44	3.88	453.6	片岩	
1318	119	309-01	AⅢ	D4	包含層	礫器	両刃	完形	10.22	12.53	4.36	771.8	硬砂岩	
1319	119	324-01	AⅢ	D5	包含層	礫器	片刃	完形	10.72	6.55	2.13	140.6	硬砂岩	
1320	119	307-01	AⅢ	D4	包含層	礫器	両刃	完形	10.59	11.83	3.78	533.3	硬砂岩	
1321	120	304-01	AⅢ	B7	包含層	礫器	両刃	完形	11.00	14.90	4.80	1038.4	硬砂岩	
1322	120	305-01	AⅢ	C3	撹乱層	礫器	片刃	完形	11.27	15.31	5.49	805.7	閃緑岩	
1323	121	318-01	AⅢ	E1	包含層	礫器	片刃	完形	7.99	8.25	4.36	274.2	硬砂岩	
1324	121	336-01	BⅠ	J10	包含層	礫器	片刃	完形	8.53	7.14	3.36	202.6	硬砂岩	
1325	121	340-01	BⅠ	I6	包含層	礫器	片刃	完形	8.59	11.03	3.69	356.1	硬砂岩	
1326	121	320-01	AⅢ	E9	包含層	礫器	片刃	完形	8.98	8.55	3.15	252.0	硬砂岩	
1327	122	321-01	AⅢ	C7	撹乱坑	礫器	片刃	完形	6.15	9.54	2.34	136.9	硬砂岩	
1328	122	322-01	AⅢ	C2	包含層	礫器	両刃	完形	7.73	8.88	2.80	261.1	硬砂岩	
1329	122	308-01	AⅢ	B2	包含層	礫器	片刃	完形	12.40	12.15	4.80	1050.1	硬砂岩	
1330	122	335-01	BⅠ	J4	包含層	礫器	片刃	完形	8.33	7.84	2.43	179.9	硬砂岩	
1331	123	310-01	AⅢ	—	東壁	礫器	片刃	完形	10.09	11.41	4.53	642.1	閃緑岩	

第43表　石器・石製品一覧表7

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1332	123	338-01	ＢⅠ	Ｊ３	包含層	礫器	片刃	完形	6.29	8.14	2.35	115.0	硬砂岩	
1333	123	334-01	ＢⅠ	Ⅰ４	西壁側溝	礫器	片刃	完形	9.48	12.68	3.61	555.6	硬砂岩	
1334	123	323-01	ＡⅢ	Ｅ３	包含層	礫器	片刃	完形	8.44	7.75	1.70	136.4	硬砂岩	
1335	124	311-01	ＡⅢ	—	東壁	礫器	両刃	完形	13.56	10.17	5.00	976.6	硬砂岩	
1336	124	319-01	ＡⅢ	Ｄ３	包含層	礫器	片刃	完形	15.10	9.93	3.17	537.1	硬砂岩	
1337	125	327-01	ＡⅢ	Ｂ５	包含層	礫器	片刃	完形	9.93	9.52	4.22	368.2	硬砂岩	
1338	125	315-01	ＡⅢ	Ｃ９	包含層	礫器	片刃	完形	8.79	9.87	3.29	276.3	硬砂岩	
1339	125	312-01	ＡⅢ	Ｂ６	包含層	礫器	片刃	完形	9.72	11.18	3.04	434.8	硬砂岩	
1340	126	326-01	ＡⅢ	Ｃ４	Ｐit１	礫器	片刃	断片	9.36	6.11	2.94	187.6	硬砂岩	
1341	126	331-01	ＡⅢ	Ｅ５	包含層	礫器	片刃	完形	13.69	5.23	2.44	284.9	凝灰岩	
1342	126	333-01	ＢⅠ	Ｈ５	ＳＺ104	礫器	両刃	完形	8.00	5.99	1.45	99.7	片岩	
1343	126	332-01	ＢⅠ	Ｈ４	ＳＺ104	礫器	片刃	完形	6.94	10.16	3.34	239.9	硬砂岩	
1344	127	306-01	ＡⅢ	Ｄ６	撹乱層	礫器	片刃	完形	10.48	12.82	4.12	599.2	片岩	
1345	127	314-01	ＡⅢ	Ｂ８	包含層	礫器	片刃	完形	8.79	12.64	2.90	395.8	硬砂岩	
1346	127	313-01	ＡⅢ	—	排土	礫器	両刃	完形	11.09	13.36	4.18	799.8	硬砂岩	
1347	128	317-01	ＡⅢ	Ｄ４	包含層	礫器	片刃	完形	10.33	9.26	3.44	285.1	硬砂岩	
1348	128	316-01	ＡⅢ	Ｂ２	下層包含層	礫器	片刃	完形	10.41	10.40	2.71	267.0	硬砂岩	
1349	129	266-01	ＡⅢ	Ｂ４	包含層	異形石器		完形	1.67	1.40	0.55	1.2	サヌカイト	
1350	129	423-03	ＡⅢ	Ｂ６	包含層	ＵＦ		完形	4.10	7.40	1.40	55.2	サヌカイト	
1351	129	423-01	ＡⅢ	Ｅ６	包含層	剥片		完形	8.30	6.50	1.90	117.1	下呂石	
1352	130	297-01	ＡⅢ	Ｃ４	ＳＸ48	石核		完形	4.51	3.32	2.60	44.0	サヌカイト	
1353	130	291-02	ＡⅢ	Ｅ３	下層(２層目)包含層	石核		完形	4.64	4.39	2.82	62.0	サヌカイト	
1354	130	292-01	ＡⅢ	Ｄ７	Ｐit３	石核		完形	5.33	5.92	2.42	76.7	サヌカイト	
1355	130	295-01	ＢⅠ	－	表土掘削	石核		完形	7.04	9.35	4.73	319.3	チャート	
1356	131	294-01	ＡⅢ	Ｃ２	包含層	石核		完形	5.25	7.00	4.90	133.5	サヌカイト	
1357	131	293-01	ＡⅢ	Ｅ５	包含層	石核		完形	5.33	5.92	2.42	194.8	サヌカイト	
1358	131	296-01	ＡⅢ	Ｃ７	包含層	石核		完形	5.65	9.95	3.29	164.3	サヌカイト	
1359	132	008-03	ＡⅠ	Ｂ２	包含層	石刀		柄部のみ残存	6.50	3.20	1.45	42.6	片岩	
1360	132	184-06	ＡⅢ	Ｄ７	下層Ｐit２	石刀		一部欠損	11.70	2.20	1.60	83.4	片岩	
1361	132	184-05	ＡⅢ	Ｅ７	包含層	石刀未成品		一部残存	5.90	2.00	1.20	21.22	片岩	
1362	132	184-02	ＡⅢ	Ｄ３	包含層	石刀		一部残存	8.30	3.00	1.20	46.32	泥岩	
1363	132	184-04	ＡⅢ	Ｂ８	包含層	石刀未成品		一部残存	10.70	3.10	1.20	71.35	緑色岩	
1364	132	184-01	ＡⅢ	Ｃ５	ＳＸ33	玉		完形	2.90	1.60	1.20	10.0	変成岩類？(大理石？)or火成岩類？	垂飾か
1365			ＡⅢ	Ｂ６	撹乱層	石鏃	ⅣＡ類	一部欠損	3.17	0.81	0.48	1.24	サヌカイト	写真天地逆
1366			ＡⅢ	Ｂ７	Ｐ６	石鏃	Ⅳ類	一部欠損	3.74	1.23	0.60	3.05	サヌカイト	
1367			ＡⅢ	Ｃ４	Ｐ８	石鏃	ＶＡ類	一部欠損	2.62	1.22	0.44	1.23	サヌカイト	
1368			ＡⅢ	Ｄ５	撹乱層	石鏃	－	一部欠損	2.76	1.33	0.41	1.28	下呂石	有茎鏃？
1369			ＢⅠ	Ⅰ５	包含層	石鏃未成品	Ⅴ類	一部欠損	2.92	1.95	0.83	4.02	下呂石	
1370			ＡⅢ	Ｂ８	ＳＫ67	石鏃	ＶＣ類	一部欠損	2.00	1.23	0.40	0.68	下呂石	
1371			ＡⅢ	Ｅ４	包含層	石鏃	Ⅴ類	約1/2残存	1.74	1.82	0.32	0.87	サヌカイト	
1372			ＡⅢ	Ｅ９	ＳＨ11	石鏃	ⅠＡ類	一部欠損	2.32	1.73	0.25	0.76	サヌカイト	

第44表　石器・石製品一覧表8

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1373			AⅢ	E6	P2	石鏃	IA類	一部欠損	2.81	1.15	0.27	0.74	サヌカイト	
1374			AⅢ	E8	包含層	石鏃	IA類	一部欠損	2.75	1.39	0.28	0.92	サヌカイト	
1375			AⅢ	E5	P7	石鏃	IC類	約1/2残存	2.85	0.90	0.31	0.81	サヌカイト	
1376			AⅢ	B5	包含層	石鏃	IA類	一部欠損	3.24	1.40	0.37	1.07	サヌカイト	鋸歯縁
1377			AⅢ	D7	下層包含層	石鏃	ID類	一部欠損	2.28	1.00	0.31	0.61	サヌカイト	
1378			AⅢ	D7	P2	石鏃	ID類	一部欠損	2.56	1.21	0.30	0.92	サヌカイト	
1379			AⅢ	D9	包含層	石鏃	IC類	一部欠損	2.38	1.73	0.40	0.99	サヌカイト	未成品？
1380			AⅢ	D7	P2	石鏃	ID類	一部欠損	2.57	1.50	0.29	1.00	サヌカイト	
1381			AⅢ	D4	包含層	石鏃	ID類	一部欠損	2.36	1.42	0.40	1.19	サヌカイト	
1382			AⅢ	C9	包含層	石鏃	VD類	一部欠損	2.00	1.35	0.36	0.98	サヌカイト	
1383			AⅢ	C7	P4	石鏃	VD類	約1/2残存	1.95	1.25	0.52	1.15	下呂石	
1384			AⅢ	－	排土	石鏃	V類	約1/2残存	1.30	1.35	0.45	0.62	サヌカイト	写真異方向
1385			AⅢ	B4	包含層	石鏃	IA類	一部欠損	1.67	1.41	0.43	0.96	サヌカイト	
1386			AⅢ	B6	包含層	石鏃	IA類	約1/2残存	2.52	0.84	0.32	0.67	サヌカイト	
1387			AⅢ	B7	包含層	石鏃	IA類	一部欠損	3.07	1.54	0.42	1.67	サヌカイト	
1388			AⅢ	E6	P2	石鏃	IA類	一部欠損	1.73	1.10	0.42	0.90	サヌカイト	
1389			AⅢ	E8	P2	石鏃	IA類	一部欠損	2.24	1.74	0.30	0.92	サヌカイト	
1390			AⅢ	B5	P4	石鏃	IA類	一部欠損	1.46	1.43	0.29	0.47	サヌカイト	
1391			AⅢ	D3	下層P9	石鏃	I類	一部欠損	1.62	1.03	0.32	0.53	サヌカイト	写真異方向
1392			AⅢ	B6	SK23	石鏃未成品	－	一部欠損	1.79	1.52	1.28	0.92	サヌカイト	
1393			AⅢ	C6	包含層	石鏃	IA類	一部欠損	1.95	1.55	0.23	0.60	サヌカイト	
1394			BⅠ	I6	SZ104	石鏃	IA類	一部欠損	1.42	1.10	0.29	0.35	サヌカイト	
1395			BⅠ	I4	包含層	石鏃	IA類	約1/2残存	2.29	1.45	0.35	1.22	サヌカイト	
1396			AⅢ	B7	下層包含層	石鏃	IA類	一部欠損	1.93	1.84	0.41	1.26	サヌカイト	
1397			AⅢ	D4	下層P16	石鏃	ID類	一部欠損	2.08	1.58	0.34	0.90	サヌカイト	
1398			AⅢ	C7	包含層	石鏃未成品	－	一部欠損	2.45	1.93	0.25	1.33	サヌカイト	
1399			AⅢ	B5	包含層	石鏃	ID類	一部欠損	1.94	1.30	0.27	0.58	サヌカイト	
1400			AⅢ	D7	SK27	石鏃	I類	約1/2残存	1.50	1.84	0.32	0.78	サヌカイト	
1401			AⅢ	B6	包含層	石鏃未成品		約1/2残存	2.31	2.10	0.35	1.69	サヌカイト	
1402			AⅢ	E9	SH11	石鏃	ID類	約1/2残存	3.33	1.22	0.35	1.50	サヌカイト	鋸歯縁
1403			AⅢ	D7	下層P3	石鏃	ID類	約1/2残存	2.28	1.97	0.36	1.32	サヌカイト	
1404			AⅢ	D4	包含層 土器棺直近	石鏃未成品	－	一部欠損	2.02	1.64	0.51	1.19	サヌカイト	
1405			AⅢ	B7	P6	石鏃	ID類	一部欠損	2.18	2.07	0.39	1.38	サヌカイト	
1406			AⅢ	B2	包含層	石鏃	ID類	約1/2残存	1.75	1.05	0.29	0.61	サヌカイト	写真異方向
1407			AⅢ	B6	SK23	石鏃	ID類	一部欠損	1.66	1.20	0.32	0.54	サヌカイト	
1408			AⅢ	B5	P10	石鏃	ID類	一部欠損	2.17	2.01	0.41	1.26	サヌカイト	
1409			AⅢ	C7	SX15	石鏃	I類	約1/2残存	1.83	1.75	0.40	1.52	サヌカイト	
1410			AⅢ	D4	包含層 SX39直近	石鏃	A類	約1/2残存	2.01	1.96	0.39	1.17	サヌカイト	
1411			AⅢ	－	排土	石鏃	ⅡD類	一部欠損	2.57	1.37	0.43	1.54	サヌカイト	
1412			AⅢ	№18G	土坑？上面	石鏃	ID類？	一部欠損	1.59	1.38	0.38	0.71	サヌカイト	
1413			AⅢ	E6	P4	石鏃	I類	約1/2残存	1.73	1.50	0.33	1.03	サヌカイト	
1414			AⅢ	C7	SK19	石鏃	I類	約1/2残存	1.28	1.93	0.34	1.04	サヌカイト	
1415			AⅢ	C3	SK52	石鏃	I類	約1/2残存	1.53	2.11	0.59	1.72	サヌカイト	
1416			AⅢ	C2	包含層	石鏃	I類	約1/2残存	1.78	1.81	0.31	0.96	サヌカイト	

第45表　石器・石製品一覧表9

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1417			AⅢ	B４	撹乱層	石鏃	ＩD類	約1/2残存	1.42	1.83	0.43	1.02	サヌカイト	
1418			AⅢ	B２	撹乱層	石鏃未成品	－	約1/2残存	1.03	2.15	0.35	0.75	サヌカイト	
1419			AⅢ	D４	ＳX39	石鏃	Ⅰ類	約1/2残存	1.85	1.78	0.44	1.23	サヌカイト	
1420			AⅢ	D３	包含層	石鏃	ＩD類	約1/2残存	1.75	2.00	0.46	1.47	サヌカイト	
1421			AⅢ	D４	包含層 ＳX39直近	石鏃	Ⅰ類	約1/2残存	1.30	1.48	0.32	0.63	サヌカイト	左側縁が鋸歯状
1422			AⅢ	E８	包含層	石鏃	Ⅰ類	約1/2残存	1.77	2.14	0.32	1.15	サヌカイト	
1423			AⅢ	B７	ＳK17	石鏃	Ⅰ類	一部欠損	1.98	1.85	0.33	0.92	サヌカイト	
1424			AⅢ	C７	ＳK74	石鏃	Ⅰ類	約1/2残存	1.46	1.86	0.30	0.75	サヌカイト	
1425			AⅢ	D３	包含層	石鏃	Ⅰ類	約1/2残存	1.62	1.66	0.33	0.88	サヌカイト	
1426			AⅢ	B４	包含層(拡張部)	石鏃	Ⅰ類	一部欠損	1.61	1.80	0.34	0.87	サヌカイト	
1427			AⅢ	－	表土	石鏃	Ⅰ類	約1/2残存	1.15	1.73	0.31	0.58	下呂石	
1428			AⅢ	E３	下層P17	石鏃	A類	約1/2残存	2.10	1.60	0.32	0.93	サヌカイト	
1429			AⅢ	D７	包含層	石鏃	A類	約1/2残存	2.01	1.48	0.42	0.99	サヌカイト	
1430			AⅢ	E９	包含層	石鏃	B類	約1/2残存	2.28	1.08	0.27	0.58	サヌカイト	
1431			AⅢ	B３	下層包含層	石鏃	B類	一部欠損	2.10	1.88	0.31	1.33	サヌカイト	
1432			AⅢ	D５	ＳX28	石鏃	D類	約1/2残存	1.96	1.49	0.32	0.76	サヌカイト	
1433			AⅢ	C９	包含層	石鏃	D類	約1/2残存	1.46	0.93	0.28	0.30	サヌカイト	
1434			AⅢ	C２	ＳK56	石鏃	D類	一部欠損	2.43	1.52	0.35	1.41	サヌカイト	
1435			AⅢ	C２	P３	石鏃	D類	約1/2残存	1.27	1.81	0.41	0.92	下呂石	鋸歯縁
1436			AⅢ	B４	下層P５	石鏃未成品	－	一部欠損	1.83	1.86	0.48	1.35	下呂石	礫面残る
1437			AⅢ	E５	P１	石鏃未成品	V類	完形	2.24	1.95	0.51	1.84	サヌカイト	
1438			AⅢ	C９	包含層	石鏃未成品	V類	一部欠損	2.67	1.52	0.65	2.18	サヌカイト	両面に瘤状の高まり
1439			AⅢ	C９	包含層	石鏃未成品	－	一部欠損	2.21	1.86	0.41	1.54	サヌカイト	
1440			AⅢ	D４	下層包含層	石鏃未成品	－	一部欠損	2.36	2.09	0.74	2.66	サヌカイト	
1441			AⅢ	E９	ＳH11	石鏃未成品	－	完形	2.00	1.49	0.25	0.56	サヌカイト	
1442			AⅢ	B９	P２	石鏃未成品	－	一部欠損	1.70	1.38	0.36	0.78	サヌカイト	
1443			AⅢ	B８	包含層	石鏃未成品	－	一部欠損	2.23	1.70	0.43	1.54	サヌカイト	
1444			AⅢ	B３	下層包含層	石鏃未成品	－	一部欠損	3.32	2.03	0.59	3.78	サヌカイト	
1445			AⅢ	B８	包含層	石鏃未成品	－	完形	3.12	1.98	0.88	3.78	サヌカイト	表面に瘤状の高まり
1446			AⅢ	B７	下層包含層	石鏃未成品	－	一部欠損	1.90	1.54	0.35	0.91	サヌカイト	
1447			AⅢ	B７	P６	石鏃未成品	－	一部欠損	2.52	2.00	0.52	2.41	サヌカイト	
1448			AⅢ	C１	P２	石鏃未成品	－	完形	2.44	2.90	0.62	2.60	サヌカイト	表面に瘤状の高まり
1449			AⅢ	D４	撹乱層	石鏃未成品	－	完形	2.58	1.60	0.55	2.28	サヌカイト	
1450			AⅢ	E６	包含層	石鏃未成品	－	完形	2.51	1.70	0.57	2.08	サヌカイト	写真異方向
1451			AⅢ	B８	ＳK72	石鏃	ＩB類	完形	1.88	1.49	0.32	1.08	サヌカイト	
1452			AⅢ	E８	下層P１	石鏃未成品	－	完形	1.93	1.49	0.25	0.72	サヌカイト	
1453			AⅢ	E３	下層P９	石鏃未成品	－	一部欠損	1.78	1.38	0.48	1.09	サヌカイト	
1454			AⅢ	B８	ＳK68	石鏃	ⅢB類	完形	2.60	1.88	0.46	2.42	サヌカイト	
1455			AⅢ	E４	下層P10	石鏃未成品	－	一部欠損	1.62	1.41	0.30	0.80	サヌカイト	
1456			AⅢ	B７	下層包含層	石鏃未成品	－	一部欠損	3.72	2.70	1.05	10.93	サヌカイト	
1457			AⅢ	B４	包含層	石鏃未成品	－	完形	2.43	1.55	0.52	1.72	サヌカイト	表面に瘤状の高まり
1458			AⅢ	D２	包含層	石鏃未成品	－	完形	2.95	1.96	0.65	3.87	サヌカイト	
1459			AⅢ	D３	撹乱層	石鏃未成品	－	完形	2.31	1.39	0.52	1.43	サヌカイト	
1460			AⅢ	D６	ＳX25	石鏃未成品	－	一部欠損	1.86	1.39	0.29	0.86	サヌカイト	
1461			AⅢ	D４	包含層	石鏃未成品	－	一部欠損	2.55	2.15	0.45	2.22	サヌカイト	

第46表　石器・石製品一覧表10

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1462			AⅢ	B 7	P 1	石鏃未成品	―	完形	3.02	2.11	0.65	3.82	サヌカイト	
1463			AⅢ	B 4	SX38	石鏃未成品	―	完形	2.33	1.93	0.51	2.68	サヌカイト	
1464			AⅢ	E 5	SX32	石鏃未成品	―	完形	2.52	1.95	0.58	2.57	サヌカイト	
1465			AⅢ	B 8	SK68	石鏃	ⅠB類	完形	3.44	2.11	0.85	5.53	サヌカイト	表面に瘤状の高まり
1466			AⅢ	B 7	下層P 7	石鏃未成品	―	完形	2.97	2.48	0.92	5.89	サヌカイト	礫面残る
1467			AⅢ	B 8	P 3	石鏃未成品	―	約1/2残存	3.75	1.16	0.53	2.51	サヌカイト	
1468			AⅢ	B 3	包含層(拡張部)	石鏃未成品	―	約1/2残存	1.74	1.27	0.32	0.65	サヌカイト	
1469			AⅢ	B 6	包含層	石鏃未成品	―	完形	1.93	1.70	0.57	1.49	サヌカイト	
1470			AⅢ	C 6	包含層	石鏃未成品	―	一部欠損	2.67	1.88	0.54	2.48	サヌカイト	
1471			AⅢ	B 8	SX70	石鏃	ⅠD類	一部欠損	2.25	1.38	0.35	1.10	サヌカイト	
1472			AⅢ	E 6	P 3	石鏃未成品	―	一部欠損	2.34	2.05	0.53	2.19	サヌカイト	
1473			AⅢ	B 8	包含層	石鏃	ⅡD類	一部欠損	2.20	1.93	0.58	2.24	サヌカイト	
1474			AⅢ	C 7	包含層	石鏃	ⅠD類	一部欠損	2.08	1.59	0.42	1.17	サヌカイト	
1475			AⅢ	C 6	撹乱層	石鏃	ⅠD類	完形	1.93	1.25	0.30	0.83	サヌカイト	右側縁縦に割れ
1476			AⅢ	E 4	包含層	削器		一部欠損	7.28	6.10	1.31	66.75	サヌカイト	
1477			BⅠ	H 5	SZ104	削器		一部残存	2.13	1.91	0.59	2.19	サヌカイト	
1478			AⅢ	E 4	P 1	石鏃未成品		一部欠損	3.18	2.23	0.70	4.25	下呂石	
1479			AⅢ	B 2	包含層	石錐		約1/2残存	1.93	0.54	0.31	0.78	サヌカイト	
1480			AⅢ	D 4	包含層 (土器棺直近)	石錐？		一部欠損	1.84	1.68	0.50	1.30	サヌカイト	
1481			AⅢ	B 3	包含層(拡張部)	楔形石器		一部欠損か	2.25	1.19	0.67	1.65	下呂石	礫面残る
1482			AⅢ	D 6	SX45	楔形石器		一部欠損か	3.42	3.01	0.94	11.70	下呂石	礫面残る
1483			AⅢ	B 2	包含層	楔形石器		一部欠損か	2.39	1.83	0.43	2.37	下呂石	礫面残る
1484			AⅢ	E 8	P 5	楔形石器		一部欠損か	3.45	2.28	0.70	7.08	下呂石	
1485			AⅢ	B 3	包含層	楔形石器		一部欠損か	2.45	1.74	0.66	2.73	下呂石	
1486			AⅢ	―	壁	楔形石器	棒状礫	一部欠損か	14.50	3.42	1.74	145.51	片岩	
1487			AⅢ	B 6	撹乱層	楔形石器	棒状礫	一部欠損か	10.27	4.22	1.42	109.06	片岩	
1488			AⅢ	E 2	P 2	楔形石器		一部欠損か	2.48	1.90	0.66	2.73	チャート	
1489			AⅢ	D 4	下層包含層	楔形石器		一部欠損か	2.46	2.29	0.82	5.93	チャート	
1490			AⅢ	E 9	SH11	楔形石器		一部欠損か	2.78	2.44	1.03	7.47	(赤)チャート	
1491			AⅢ	C 7	SK73	楔形石器		一部欠損か	2.85	2.30	0.84	4.81	サヌカイト	
1492			BⅠ	I 5	包含層	楔形石器		一部欠損か	2.21	2.22	0.83	4.17	サヌカイト	
1493			BⅠ	I 5	包含層	楔形石器		一部欠損か	1.95	1.38	0.46	1.47	サヌカイト	
1494			BⅠ	I 5	包含層	楔形石器		一部欠損か	2.64	1.55	1.18	4.04	サヌカイト	
1495			AⅢ	E 3	包含層	UF		一部欠損か	4.48	3.94	0.72	13.27	(赤)チャート	
1496			AⅢ	B 7	包含層	UF		一部欠損か	4.39	3.87	0.83	14.73	チャート	
1497			AⅢ	E 3	包含層	UF		一部欠損か	4.34	3.45	0.89	13.21	チャート	同一母岩
1498			AⅢ	B 7	撹乱層	UF		一部欠損か	4.85	4.34	0.94	20.21	チャート	同一母岩
1499			AⅢ	C 8	包含層	UF		一部欠損か	4.75	4.91	1.39	41.14	サヌカイト	
1500			BⅠ	J 10	包含層	UF		一部欠損か	5.69	3.73	0.64	13.62	サヌカイト	
1501			AⅢ	E 5	SX32	UF		一部欠損か	3.90	3.27	0.98	11.12	下呂石	
1502			AⅢ	E 2	包含層	UF		一部欠損か	2.66	1.69	0.60	2.50	サヌカイト	
1503			AⅢ	C 3	下層包含層	UF		一部欠損か	3.50	1.96	0.40	2.19	サヌカイト	
1504			AⅢ	C 2	下層包含層	UF		一部欠損か	4.45	1.50	0.76	3.94	サヌカイト	
1505			AⅢ	C 5	SX33	UF		一部欠損か	2.46	0.98	0.20	0.49	サヌカイト	
1506			AⅢ	D 4	P 4	UF		一部欠損か	2.83	1.95	0.50	2.04	サヌカイト	

第47表　石器・石製品一覧表11

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1507			AⅢ	D6	下層包含層	UF		一部欠損か	2.48	1.36	0.51	1.65	サヌカイト	
1508			AⅢ	B8	SK69	UF		一部欠損か	2.23	1.24	0.43	0.82	サヌカイト	
1509			AⅢ	C7	包含層	UF		一部欠損か	3.58	4.26	0.69	11.36	サヌカイト	
1510			BⅠ	I5	包含層	UF		一部欠損か	2.35	1.42	0.29	0.99	サヌカイト	
1511			BⅠ	I4	包含層	UF		一部欠損か	4.00	1.42	0.89	3.92	サヌカイト	
1512			BⅠ	I5	包含層	UF		一部欠損か	1.90	1.55	0.26	0.76	サヌカイト	
1513			BⅠ	H4 I4	SZ106	UF		一部欠損か	2.87	1.33	0.28	1.14	サヌカイト	
1514			BⅠ	I5	包含層	UF		一部欠損か	2.66	3.19	0.88	5.32	サヌカイト	
1515			BⅠ	J10	包含層	UF		一部欠損か	5.00	2.44	0.55	7.80	サヌカイト	
1516			BⅠ	I5	包含層	UF		一部欠損か	2.70	1.89	0.23	1.03	サヌカイト	
1517			BⅠ	J3	東壁	UF		一部欠損か	1.82	2.06	0.42	2.21	サヌカイト？	受熱で粉砕
1518			BⅡ	I13	P5	UF		一部欠損か	2.52	3.02	0.55	4.81	サヌカイト	
1519			AⅢ	E5	包含層	UF		一部欠損か	1.74	1.46	0.26	0.98	(赤)チャート	
1520			AⅢ	B3	包含層	UF		一部欠損か	3.17	2.62	0.78	7.04	チャート	
1521			AⅢ	D8	P2	UF		一部欠損か	3.97	2.20	0.51	5.05	チャート	
1522			AⅢ	C3	SK53	UF		一部欠損か	3.23	2.51	0.57	4.85	チャート	
1523			AⅢ	D5	下層包含層	UF		一部欠損か	2.71	3.12	1.44	8.41	チャート	
1524			AⅢ	B2	SX85	UF		一部欠損か	2.21	1.26	0.43	1.05	チャート	
1525			BⅠ	I8	包含層	UF		一部欠損か	3.89	2.10	0.56	5.30	チャート	
1526			BⅠ	J10	包含層	UF		一部欠損か	4.40	2.39	0.75	6.44	チャート	
1527			BⅠ	H5	SZ104	UF		一部欠損か	2.35	1.64	0.59	1.66	チャート	
1528			BⅠ	G9	SK93	UF		一部欠損か	3.55	3.10	0.85	8.56	チャート	
1529			AⅢ	－	東壁	UF		一部欠損か	3.59	3.45	0.59	6.57	下呂石	礫面が打面に残る
1530			AⅢ	C7	包含層	UF		一部欠損か	2.48	2.35	0.61	3.02	下呂石	礫面が打面に残る
1531			AⅢ	D1	包含層	UF		一部欠損か	4.02	3.22	0.70	8.64	下呂石	礫面が側面に残る
1532			AⅢ	C1	SX44	UF		一部欠損か	3.33	2.07	0.65	4.49	下呂石	
1533			AⅢ	D3	包含層	UF		一部欠損か	3.72	2.12	0.64	3.56	下呂石	礫面残る
1534			BⅠ	J3	包含層	UF		一部欠損か	2.42	1.95	0.49	3.04	下呂石	
1535			AⅢ	D3	包含層	RF		一部欠損か	3.19	2.94	1.12	12.94	(赤)チャート	
1536			AⅢ	D6	包含層	RF		一部欠損か	5.19	2.62	0.96	12.74	チャート	
1537			AⅢ	C6	包含層	RF		一部欠損か	7.16	4.90	0.68	27.92	サヌカイト	
1538			AⅢ	E9	SH11	RF		一部欠損か	2.79	2.05	0.52	2.86	(赤)チャート	
1539			AⅢ	B2	包含層	RF		一部欠損か	2.93	1.90	0.45	2.55	チャート	
1540			AⅢ	E5	包含層	RF		一部欠損か	2.27	2.21	0.55	3.96	チャート	
1541			AⅢ	E5	包含層	RF		一部欠損か	1.70	0.94	0.29	0.54	サヌカイト	
1542			AⅢ	C7	SK73	RF		一部欠損か	2.73	1.12	0.28	0.72	サヌカイト	
1543			AⅢ	D7	SK27	RF		一部欠損か	2.11	1.67	0.31	1.20	サヌカイト	
1544			AⅢ	D3	下層P6	RF		一部欠損か	1.89	1.47	0.50	1.53	サヌカイト	
1545			AⅢ	B4	SX38	RF		一部欠損か	2.16	1.67	0.32	1.16	サヌカイト	
1546			AⅢ	E5	下層包含層	RF		一部欠損か	3.85	1.86	0.31	2.38	サヌカイト	
1547			AⅢ	C2	包含層	RF		一部欠損か	1.53	1.20	0.35	0.65	サヌカイト	
1548			BⅠ	J6	包含層	RF		一部欠損か	2.84	1.63	0.78	3.14	サヌカイト	
1549			AⅢ	E9	SH11	石核		一部欠損か	8.74	6.79	3.90	362.39	(赤)チャート	
1550			AⅢ	B8	包含層	石核		一部欠損か	3.42	2.88	1.49	17.84	チャート	
1551			BⅡ	T－4	第1層	石核素材		一部欠損か	9.18	6.07	4.19	224.58	黒色泥岩	当初はチャートと判断

第48表　石器・石製品一覧表12

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1552			AⅢ	C４	撹乱層	粗製剥片石器		一部欠損か	6.24	5.02	1.26	57.48	砂岩	(旧称)擦切石器
1553			AⅢ	B７	包含層	粗製剥片石器		一部欠損か	9.51	7.30	1.95	156.96	砂岩	(旧称)擦切石器
1554			AⅢ	D６	撹乱層	粗製剥片石器		一部欠損か	7.34	4.55	2.16	90.28	砂岩	(旧称)擦切石器
1555			AⅢ	D６	包含層	粗製剥片石器		一部欠損か	6.74	3.66	1.09	19.89	砂岩	(旧称)擦切石器
1556			AⅢ	D６	包含層	粗製剥片石器		一部欠損か	4.60	3.49	0.92	16.72	砂岩	(旧称)擦切石器
1557			AⅢ	B３	包含層	粗製剥片石器		一部欠損か	8.89	5.82	1.46	100.34	砂岩	(旧称)擦切石器
1558			BⅠ	Ⅰ５	包含層	粗製剥片石器		一部欠損か	5.33	4.36	0.99	37.39	砂岩	(旧称)擦切石器
1559			AⅢ	B６	下層包含層	礫器	片刃	完形	11.17	5.94	2.48	254.55	砂岩	
1560			AⅢ	B４	包含層	礫器	片刃	一部残存	6.66	5.66	2.15	123.38	砂岩	磨石を素材
1561			AⅢ	B２	撹乱層	礫器	片刃	一部残存	7.29	4.51	2.66	137.17	砂岩	
1562			AⅢ	E５	包含層	礫器	－	完形	6.75	6.25	1.33	94.88	泥岩	
1563			AⅢ	C３	ＳX31	礫器	両刃	一部欠損	11.07	8.51	3.13	389.17	閃緑岩	
1564			AⅢ	D４	包含層	礫器	両刃	一部欠損	12.81	8.23	3.99	572.08	砂岩	
1565			AⅢ	D２	包含層	礫器	片刃	一部欠損	11.48	9.82	4.15	613.90	砂岩	
1566			AⅢ	E５	包含層	礫器	片刃	一部残存	9.08	9.68	1.68	215.06	砂岩	
1567			AⅢ	C３	下層包含層	礫器	片刃	一部残存	13.65	8.10	2.81	362.89	砂岩	
1568			AⅢ	B７	包含層	礫器	片刃	一部残存	9.51	5.27	5.04	369.64	砂岩	
1569			AⅢ	B６	撹乱層	礫器	片刃	一部残存	9.70	5.73	2.66	192.38	砂岩	
1570			AⅢ	B２	撹乱層	礫器	片刃	一部残存	5.42	3.17	2.66	72.98	砂岩	
1571			BⅠ	Ⅰ４	ＳK102	礫器	片刃	一部残存	10.58	5.19	4.81	339.25	砂岩	
1572			BⅠ	H５	ＳZ104	礫器	－	一部欠損	7.12	5.90	3.05	199.13	砂岩	
1573			AⅢ	D４	包含層	礫器	片刃	一部欠損	10.14	9.19	3.78	469.16	安山岩	
1574			AⅢ	D６	撹乱層	礫器	片刃	完形	9.20	3.58	1.42	105.59	緑色片岩	
1575			AⅢ	B４	包含層	礫器？	片刃	完形	10.84	6.62	4.49	357.09	閃緑岩	
1576			AⅢ	D３	包含層	礫器？	両刃	完形	10.02	5.13	2.12	175.52	片岩	
1577			AⅢ	D９	ＳK12	礫器？	片刃	一部欠損	10.15	7.52	4.68	428.11	片麻岩	
1578			AⅢ	C２	包含層	礫器？	片刃	完形	13.30	8.50	6.60	1060.50	細粒花崗岩	
1579			AⅢ	C４	包含層	石刀未成品		一部欠損	24.20	6.52	3.74	900.24	片岩	
1580			AⅢ	－	東壁	打製石斧		完形	7.84	5.00	0.86	48.69	緑色岩	
1581			AⅢ	E４	包含層	磨製石斧							細粒花崗岩	
1582			AⅢ	D４	包含層	磨製石斧							閃緑岩	
1583			AⅢ	D２	Ｐ４	石錘							デイサイト	
1584			AⅢ	C１	下層Ｐ１	石錘							泥岩	
1585			AⅢ	D３	包含層	敲石		完形	10.97	10.47	5.14	834.81	安山岩	
1586			AⅢ	B８	包含層	敲石		完形	12.12	8.36	5.42	790.11	安山岩	
1587			AⅢ	－	東壁	敲石		完形	10.05	9.08	2.69	383.23	安山岩	
1588			AⅢ	D９	包含層	敲石		完形	5.24	4.07	3.38	93.01	安山岩	
1589			AⅢ	B４	撹乱層	敲石		完形	7.68	6.57	3.72	241.68	安山岩	
1590			BⅠ	J10	包含層	敲石		完形	9.99	8.39	5.42	569.79	安山岩	
1591			AⅢ	B８	包含層	敲石		一部欠損	6.43	5.14	2.57	119.40	泥岩	
1592			AⅢ	E３	包含層	敲石		一部欠損	9.16	5.30	1.45	110.04	片岩	
1593			AⅢ	－	東壁	敲石		完形	11.08	11.11	6.14	1130.00	花崗岩	
1594			AⅢ	B７	包含層	敲石		約1/2残存	11.34	5.42	2.68	220.40	砂岩	
1595			AⅢ	D４	包含層	敲石		約1/2残存	12.52	7.07	6.08	821.83	砂岩	
1596			AⅢ	C４	包含層	敲石		一部残存	9.96	7.17	4.77	453.81	砂岩	
1597			AⅢ	C８	下層包含層	敲石		一部残存	7.10	5.02	4.67	279.67	砂岩	

第49表　石器・石製品一覧表13

告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1598			AⅢ	C７	下層包含層	敲石		一部残存	6.69	4.50	4.62	251.07	砂岩	
1599			AⅢ	B８	包含層	敲石		一部残存	7.95	6.15	3.94	244.05	砂岩	
1600			AⅢ	C２	包含層	敲石		一部残存	4.34	3.71	1.19	23.15	砂岩	磨り面有り
1601			AⅢ	B４	下層包（２層目）	敲石		一部残存	7.71	7.31	3.96	246.24	砂岩	
1602			AⅢ	E３	下層P17	敲石		一部残存	4.95	4.45	1.95	56.42	砂岩	
1603			AⅢ	D３	下層包含層	敲石		一部残存	11.46	5.64	2.48	161.17	砂岩	
1604			AⅢ	E９	SH11	敲石		一部残存	9.09	6.51	5.45	263.31	砂岩	
1605			AⅢ	B７	包含層	敲石		一部残存	11.42	6.16	4.57	375.31	砂岩	
1606			AⅢ	D３	包含層	敲石		一部残存	5.38	5.98	3.62	175.69	砂岩	
1607			AⅢ	B８	包含層	敲石		一部残存	4.85	3.82	3.01	88.08	砂岩	
1608			AⅢ	D５	SX28	敲石		一部残存	11.55	7.91	4.06	468.80	砂岩	
1609			AⅢ	E７	下層包含層	敲石		一部欠損	11.35	6.97	4.29	498.60	砂岩	
1610			AⅢ	D６	SX45	敲石		完形	13.05	6.50	3.80	466.01	砂岩	
1611			AⅢ	B８	包含層	敲石		一部残存	13.42	3.70	3.41	263.38	砂岩	
1612			AⅢ	－	南壁	敲石		完形	12.87	5.71	4.62	513.07	砂岩	
1613			AⅢ	D７	SK27	敲石		完形	11.67	7.12	5.58	645.85	砂岩	
1614			BⅡ	B15	下層包含層	敲石		一部残存	10.43	6.51	3.51	366.28	砂岩	
1615			AⅢ	C４	包含層	敲石		完形	12.58	9.98	4.51	881.93	花崗岩	
1616			AⅢ	B３	包含層	敲石		完形	11.96	7.81	6.32	905.02	花崗岩	
1617			AⅢ	B７	撹乱層	敲石		一部残存	6.74	4.77	3.26	133.17	花崗岩	磨り面有り
1618			AⅢ	C７	下層包含層	敲石		一部残存	7.66	6.12	3.71	212.16	花崗岩	受熱
1619			AⅢ	C２	包含層	敲石		約1/2残存	10.94	7.57	4.52	491.40	安山岩	
1620			AⅢ	D９	包含層	敲石		約1/2残存	12.59	8.07	4.55	785.22	安山岩	
1621			AⅢ	C３	包含層	敲石		約1/2残存	17.60	4.19	2.82	390.79	片岩	
1622			AⅢ	D５	包含層	敲石	棒状礫	約1/2残存	13.49	4.41	2.06	219.06	片岩	
1623			AⅢ	－	壁	敲石	棒状礫	完形	16.30	3.29	1.62	166.40	片岩	
1624			AⅢ	E７	撹乱層	敲石	棒状礫	完形	15.90	3.71	2.26	229.94	片岩	
1625			BⅠ	Ⅰ４	包含層	敲石	棒状礫	一部残存	13.20	4.70	3.95	455.79	片岩	
1626			BⅠ	Ｊ９	包含層	敲石？		完形	11.60	4.49	1.66	147.32	緑色片岩	
1627			AⅢ	E４	包含層	敲石？		完形	9.58	5.91	4.89	399.70	砂岩	
1628			AⅢ	D７	Ｐ３	敲石？		一部残存	5.40	3.79	1.25	23.11	砂岩	
1629			AⅢ	E４	包含層	敲石？		一部残存	6.90	5.24	4.04	209.62	砂岩	
1630			AⅢ	B４	包含層	敲石？		一部欠損	9.47	6.32	2.73	290.50	砂岩	
1631			AⅢ	D８	包含層	敲石？		一部残存	12.01	3.73	1.74	94.54	砂岩	
1632			AⅢ	C７	SK73	敲石？		完形	6.38	5.33	2.99	141.08	安山岩	
1633			AⅢ	－	東壁	敲石？		完形	6.40	5.90	4.29	204.99	安山岩	
1634			AⅢ	D４	包含層	敲石？		完形	6.37	5.96	5.85	304.65	安山岩	
1635			AⅢ	E９	SH11	敲石？		一部残存	14.85	2.82	1.44	108.34	片岩	
1636			AⅢ	B３	包含層	敲石？		完形	9.50	3.12	1.35	82.06	片岩	
1637			AⅢ	B２	包含層	敲石？		完形	11.24	8.93	8.57	1210.00	花崗岩	
1638			AⅢ	B２	下層包含層	磨石		完形	12.24	8.89	5.73	914.17	砂岩	
1639			AⅢ	B６	包含層	磨石		完形	15.80	10.01	3.44	900.27	砂岩	
1640			BⅠ	Ｊ５	包含層	磨石		完形	11.33	11.50	4.97	900.99	砂岩	
1641			BⅠ	Ⅰ４	SZ104	磨石		完形	9.89	9.08	4.21	643.13	斑レイ岩	
1642			BⅠ	Ｊ６	包含層	磨石		完形	12.80	10.50	2.40	1200.00	流紋岩	

第50表　石器・石製品一覧表14

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1643			AⅢ	D９	ＳK12	磨石		一部残存	7.83	5.51	3.99	247.59	砂岩	
1644			AⅢ	E３	撹乱層	磨石		一部残存	10.15	3.11	3.71	164.13	砂岩	
1645			AⅢ	D４	包含層	磨石		一部残存	10.00	6.82	4.60	368.83	砂岩	
1646			AⅢ	E６	包含層	磨石		一部残存	5.37	3.83	3.69	66.14	砂岩	
1647			AⅢ	B６	撹乱層	磨石		一部残存	6.21	4.56	3.09	119.32	砂岩	
1648			AⅢ	E９	包含層	磨石		一部残存	7.13	6.08	2.06	120.04	砂岩	受熱
1649			AⅢ	B６	撹乱層	磨石		一部残存	6.33	3.51	1.75	40.67	砂岩	
1650			AⅢ	D７	下層包含層	磨石？		約1/2残存	7.65	7.00	2.07	186.35	砂岩	
1651			AⅢ	E３	包含層	磨石？		一部残存	9.33	6.77	5.13	512.90	砂岩	
1652			AⅢ	C６	撹乱層	磨石		一部残存	6.77	4.71	1.90	72.67	安山岩	
1653			AⅢ	D２	下層包含層	磨石		一部残存	6.34	5.99	2.52	114.50	安山岩	
1654			AⅢ	C５	Ｐ８	磨石		一部残存	6.18	3.50	2.00	34.23	安山岩	
1655			AⅢ	D７	ＳK27	磨石？		一部残存	5.40	1.34	1.41	9.01	砂岩	
1656			BⅠ	Ｊ３	包含層	磨石？		完形	10.95	7.08	3.66	450.10	砂岩	
1657			BⅠ	Ｉ５	ＳZ104	磨石？		約1/2残存	12.62	8.00	3.85	585.11	砂岩	
1658			BⅠ	H６	包含層	磨石？		一部残存	8.69	5.75	3.59	239.02	砂岩	
1659			AⅢ	C３	ＳK53	磨石？		完形	10.98	7.75	4.10	484.49	安山岩	
1660			AⅢ	D９	ＳK12	磨石？		完形	12.14	5.81	3.34	364.72	安山岩	
1661			AⅢ	B４	包含層	磨石？		約1/2残存	8.59	8.30	4.82	470.75	安山岩	
1662			AⅢ	D６	包含層	磨石？		完形	8.97	6.24	4.35	337.50	安山岩	
1663			BⅠ	Ｊ４	ＳZ104	磨石？		完形	6.30	5.50	5.50	221.20	安山岩	
1664			BⅠ	H５	包含層	磨石？		完形	9.34	7.10	4.13	393.75	安山岩	
1665			AⅢ	D２	包含層	磨石？		完形	10.61	9.93	4.99	713.59	花崗斑岩	
1666			BⅠ	Ｊ５	包含層	石皿		一部残存	10.30	5.60	5.20	702.19	砂岩	受熱
1667			AⅢ	D４	下層Ｐ16	台石		一部残存	10.36	9.08	4.96	668.33	砂岩	
1668			AⅢ	D６	包含層	台石		一部残存	6.86	5.73	4.61	174.25	砂岩	
1669			AⅢ	B２	包含層	台石		一部残存	7.80	4.03	3.21	91.56	砂岩	
1670			AⅢ	D９	下層包含層	台石		一部残存	10.30	7.02	4.39	407.84	花崗岩	
1671			AⅢ	E９	ＳK13	台石		一部残存	9.22	7.88	5.15	625.81	細礫岩	受熱
1672			AⅢ	D６	包含層	台石類？		約1/2残存	12.50	12.10	4.20	1150.00	砂岩	
1673			AⅢ	E５	ＳX32	台石類？		一部残存	15.40	7.10	4.50	960.00	砂岩	
1674			AⅢ	B５	包含層	台石類？		一部欠損	17.50	11.20	9.20	4040.00	砂岩	
1675			AⅢ	D９	ＳK12	台石類？		一部残存	9.59	5.58	2.45	154.28	砂岩	
1676			AⅢ	D９	ＳK12	台石類？		一部残存	9.47	4.90	4.74	212.18	砂岩	
1677			AⅢ	E９	ＳH11	台石類？		一部残存	14.20	13.40	7.80	3200.00	花崗岩	
1678			AⅢ	D２	包含層	台石類？		一部欠損	17.40	16.20	4.70	2390.00	花崗岩	
1679			AⅢ	D３	包含層	台石類？		一部残存	18.80	8.60	5.30	1200.00	花崗岩	
1680			AⅢ	D６	包含層	台石類？		完形	14.80	13.20	2.50	1750.00	花崗岩	
1681			AⅢ	D７	包含層	台石類？		一部欠損	19.40	12.10	6.20	2340.00	花崗岩	
1682			AⅢ	D７	ＳK27	台石類？		一部残存	19.40	12.50	11.10	1550.00	花崗岩	
1683			AⅢ	C３	ＳK53	台石類？		一部残存	14.37	7.98	5.93	912.33	花崗岩	
1684			AⅢ	D６	ＳK24	台石類？		完形	34.50	23.20	13.20	11850.00	花崗岩	
1685			AⅢ	D６	ＳX25	台石類？		一部残存	10.63	8.17	4.77	643.50	花崗岩	
1686			AⅢ	C５	包含層	台石類？		一部残存	13.45	10.28	4.96	973.63	花崗岩	
1687			AⅢ	D５	包含層	台石類？		一部欠損	7.50	11.00	5.20	2710.00	花崗岩	
1688			AⅢ	D７	ＳK27	台石類？		一部残存	15.50	12.60	3.80	1190.00	片状花崗岩	

第51表　石器・石製品一覧表15

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1689			AⅢ	D5	包含層	台石類？		一部残存	14.80	11.20	5.40	1260.00	花崗閃緑岩	
1690			AⅢ	B6	包含層	台石類？		完形	30.50	16.40	1.80	5700.00	安山岩	
1691			AⅢ	B7	包含層	台石類？		完形	27.90	21.20	3.00	6350.00	安山岩	
1692			AⅢ	B6	包含層	台石類？		完形	18.90	15.40	1.80	2560.00	安山岩	
1693			AⅢ	B5	包含層	台石類？		一部残存	8.40	6.20	3.20	290.00	安山岩	
1694			AⅢ	D2	包含層	台石類？		完形	24.80	17.70	2.00	3210.00	安山岩	
1695			AⅢ	C5	包含層	台石類？		完形	24.60	19.50	5.80	4940.00	安山岩	
1696			AⅢ	B5	包含層	台石類？		一部残存	11.20	6.20	6.40	720.00	安山岩	
1697			AⅢ	C9	包含層	台石類？		完形	18.20	14.50	2.20	2130.00	安山岩	
1698			AⅢ	D9	SK12	台石類？		約1/2残存	14.80	11.00	3.60	950.00	安山岩	
1699			AⅢ	－	南壁	台石類？		約1/2残存	14.60	11.40	4.80	1140.00	安山岩	
1700			AⅢ	B9	SX14	台石類？		一部残存	9.50	5.20	6.00	590.00	流紋岩	
1701			AⅢ	B3	下層包含層	台石類？		完形	47.50	16.50	3.50	10700.00	流紋岩	
1702			AⅢ	C2	SK56	台石類？		一部残存	7.04	5.81	2.21	137.43	流紋岩	
1703			AⅢ	B3	包含層	台石類？		一部残存	19.50	12.00	6.80	1650.00	流紋岩	
1704			AⅢ	D7	包含層	台石類？		約1/2残存	14.80	15.00	6.50	2400.00	流紋岩	
1705			AⅢ	C4	包含層	台石類？		一部欠損	13.80	11.80	10.00	2890.00	玢岩	
1706			AⅢ	D7	包含層	台石類？		一部欠損	20.50	21.40	9.70	6550.00	デイサイト	
1707			AⅢ	D4	包含層	砥石？		一部残存	7.97	7.15	4.15	267.68	流紋岩	
1708			AⅢ	D3	下層包含層	石刀？		一部欠損	24.40	4.57	4.49	840.76	片岩	
1709			AⅢ	E9	SK13	礫剥片		一部欠損か					緑色岩	石斧使用と同一石材
1710			AⅢ	E9	SH11	礫剥片		一部欠損か					緑色岩	石斧使用と同一石材
1711			AⅢ	D6	SX25	礫剥片		一部欠損か	9.42	7.05	1.34	103.55	砂岩	
1712			AⅢ	E9	SK13	礫剥片		一部欠損か	7.33	6.05	1.48	58.34	砂岩	
1713			AⅢ	C6	P4	礫剥片		一部欠損か	10.59	3.22	1.27	51.09	砂岩	
1714			AⅢ	E6	包含層	礫剥片		一部欠損か	5.35	3.25	1.13	24.72	砂岩	
1715			AⅢ	B8	包含層	礫剥片		一部欠損か	6.52	6.04	1.51	70.46	砂岩	
1716			AⅢ	B6	撹乱層	礫剥片		一部欠損か	8.36	6.24	1.85	107.81	砂岩	
1717			AⅢ	B6	撹乱層	礫剥片		一部欠損か	6.97	5.77	2.21	118.47	砂岩	
1718			AⅢ	E9	包含層	礫剥片		一部欠損か	7.67	6.02	2.57	126.95	砂岩	
1719			AⅢ	D9	包含層	礫剥片		一部欠損か	7.05	6.33	4.34	215.45	砂岩	
1720			AⅢ	C2	包含層	礫剥片		一部欠損か	7.91	5.97	3.17	141.00	砂岩	
1721			AⅢ	B6	撹乱層	礫剥片		一部欠損か	6.51	5.34	1.89	70.94	砂岩	
1722			BⅠ	J2	包含層	礫剥片		一部欠損か	9.20	3.47	2.02	55.91	砂岩	
1723			BⅠ	H4	SZ104	礫剥片		一部欠損か	4.25	3.83	0.68	11.93	砂岩	
1724			BⅠ	J4	P4	礫剥片		一部欠損か	9.80	4.91	1.99	128.07	砂岩	
1725			BⅠ	I5	包含層	礫剥片		一部欠損か	6.10	3.98	0.90	39.59	砂岩	
1726			BⅠ	J5	包含層	礫剥片		一部欠損か	8.11	5.79	1.64	75.16	砂岩	
1727			BⅠ	I4	包含層	礫剥片 (石皿片？)		一部欠損か	6.44	3.68	1.00	24.25	砂岩	
1728			BⅠ	J4	包含層	礫剥片 (磨石片？)		一部欠損か	11.26	4.33	2.31	78.41	砂岩	
1729			AⅢ	B3	包含層	礫剥片							片岩	
1730			AⅢ	E9	SH11	礫剥片		一部欠損か	6.01	5.31	1.12	37.71	流紋岩	
1731			AⅢ	B7	SK18	礫剥片		一部欠損か	8.64	5.60	1.28	60.35	花崗岩	
1732			BⅠ	J4	包含層	石材等		一部欠損か	6.28	6.48	2.42	373.32	片岩	

第52表　石器・石製品一覧表16

報告番号	挿図番号	実測番号	調査区	グリッド	遺構・層位	器　種	分類	残存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
1733			ＢⅠ	G10	包含層	石材等		一部欠損か	10.49	2.45	2.57	98.41	片岩	
1734			ＢⅠ	Ｊ６	包含層	石材等		一部欠損か	11.07	6.15	3.77	301.45	チャート	
1735			ＢⅠ	Ｉ４	包含層	石材等		一部欠損か	12.93	9.41	5.55	767.18	チャート	
1736			ＢⅡ	E16	下層包含層	石材等		一部欠損か	17.30	9.21	4.13	966.34	花崗閃緑岩	
1737			ＢⅠ	Ｊ２	包含層	受熱礫		一部欠損か	7.37	3.77	2.10	66.47	砂岩	
1738			ＢⅠ	Ｊ４	包含層	受熱礫		一部欠損か	7.59	5.96	1.63	73.53	砂岩	
1739			ＢⅠ	Ｊ10	包含層	受熱礫		一部欠損か	7.48	5.86	1.77	97.61	砂岩	
1740			ＢⅠ	Ｈ５	包含層	受熱礫		一部欠損か	5.26	4.28	1.76	51.24	砂岩	
1741			ＢⅠ	Ｉ５	包含層	受熱礫		一部欠損か	9.15	8.24	5.90	865.59	砂岩	
1742			ＢⅠ	Ｈ５	ＳＺ104	受熱礫		一部欠損か	9.63	7.16	4.23	430.30	砂岩	
1743			ＢⅠ	Ｉ５	ＳＺ104	受熱礫		一部欠損か	14.64	6.30	3.84	535.05	砂岩	
1744			ＢⅠ	Ｆ７	包含層	受熱礫		一部欠損か	5.69	5.01	2.26	82.76	花崗閃緑岩	
1745			ＡⅢ	Ｄ６	包含層	受熱礫		一部欠損か	10.60	8.71	3.17	308.90	砂岩	
1746			ＡⅢ	Ｄ５	包含層	受熱礫		一部欠損か	7.10	5.72	4.00	171.18	流紋岩	
1747			ＡⅢ	Ｂ４	撹乱層	受熱礫							片岩	
1748			ＡⅢ	Ｃ２	－	立石 (長楕円体)		一部欠損か	25.50	11.70	5.50	4600.00	デイサイト	
1749			ＡⅢ	Ｄ３	－	立石 (扁平円形)							チャート	
1750			ＡⅢ	Ｄ４	包含層 ＳＸ39直近	立石(長楕円体横半截)		一部欠損か	8.50	15.00	11.10	5500.00	流紋岩	
1751			ＡⅢ	Ｅ６	－	立石(直方体)		一部欠損か	27.40	10.80	7.50	3700.00	花崗岩	
1752			ＡⅢ	Ｄ６	ＳＸ45	立石(長楕円体縦半截)		一部欠損か	29.50	10.00	8.20	3700.00	斑レイ岩	
1753			ＡⅢ	Ｄ７ Ｄ８	－	配石 (長楕円体)		一部欠損か	31.50	12.50	8.40	7050.00	流紋岩	
1754			ＢⅠ	Ｆ７	包含層	受熱礫		一部欠損か	4.79	2.77	1.58	23.85	砂岩	
1755	97	424-01	ＡⅢ	Ｄ３	ＳＳ63	台石		完形	17.70	19.20	6.30	3500.0	チャート	赤色顔料付着
1756			ＢⅠ	Ｉ４	包含層	石材等		一部欠損か	8.84	7.81	5.02	520.00	チャート	
		423-02	ＡⅢ	Ｂ６	包含層	槌石		完形	10.50	4.10	2.20	125.4	砂岩	

第53表　石器・石製品一覧表17

Ⅴ　自然科学分析

１　はじめに

大原堀遺跡（松阪市広瀬町字大原堀他所在）は、櫛田川の中流域左岸の河岸段丘上に立地する。本遺跡は、縄文時代中期～晩期を中心とする遺跡であるが、特に晩期後半の一時期には墓域が形成される。今回の分析では、有機物が多い包含層を中心とした花粉分析を実施し、当時の古植生に関する情報を得る。併せて、墓域と推定される遺構から検出された骨片の同定、また骨片が認められない遺構についてはリン酸分析を実施し、遺体埋納に関する検討を行う。また、墓とされる遺構について、微細植物片分析を行うことにより、副葬品等に関する情報を得る。

２　試料

花粉分析用試料は、ＡⅢ地区東壁から採取した６点である（試料番号１～６）。分析試料のうち、試料番号２が縄文時代晩期後半の墓域の土壌、試料番号４は中期～晩期の遺構が検出される土壌である。骨同定は、ＳＸ38、ＳＸ45、ＳＫ73、ＳＫ74、第２検出面Ｄ４Pit ３、第２検出面Ｅ６Pit ２、第２検出面Ｄ７Pit ２、第２検出面Ｄ７Pit ７の各遺構から検出された骨片９点である。リン酸分析と微細植物片分析は、ＳＸ48（３点あり）、ＳＸ50（３点あり）、ＳＸ29、ＳＸ31、ＳＸ37、ＳＸ39、ＳＸ40、ＳＸ43、ＳＫ56の計13点を分析する。これらは骨片が見られた遺構と見られない遺構が含まれているが、両者の比較を行う目的で行っている。また、ＳＸ48とＳＸ50は３点あるが、遺構内の試料はそれぞれ１点のみで、あとは遺構の外から採取された対照試料である。

３　分析方法

（１）花粉分析

試料約10ｇについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９：濃硫酸１の混合液）処理の順に物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類（Taxa）について同定・計数する。

結果は、木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いたものをそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

（２）微細植物遺体分析

土壌試料200ccを水に一晩液浸し、試料の泥化を促す。0.5㎜の篩を通して水洗し残渣を集め、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な植物遺体等を抽出する。植物遺体の形態的特徴と当社所有の現生標本との比較から種類を同定・計数をおこなう。なお、細片のため個体数推定が困難である種類は、表中に「破」と表示した。

（３）骨同定

試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。なお、同定および解析には金子浩昌先生の協力をお願いし、結果を署名原稿として頂いた。

（４）リン酸分析

分析は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法で実施する[①]。土壌試料を風乾後、軽く粉砕して2.00㎜の篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5㎜φのふるいを全通させる（微粉砕試料）。風乾細土試料2.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約５mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P205）濃度を測定する。測定と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P205mg/g）を求める。

4　結果

（1）花粉分析

結果を第54表に示す。分析を行った試料は、花粉化石の産出量は少なく、また保存も悪かった。試料番号１・２はシダ類胞子が多く認められるものの、他の試料では、花粉化石・シダ類胞子ともに検出量が少ない。

（2）微細植物遺体分析

結果を第55表に示す。微細な炭化材が若干認められる程度で、同定可能な植物遺体は見あたらない。また、微細な骨片が認められるが、種類を特定できるものではなかった。

（パリノ・サーヴェイ株式会社）

（3）骨同定

検出された分類群の一覧を第56表に、同定結果を第57表に示す。いずれも被熱して白色に変色し、ひび割れによって細片化している骨である。大半の試料は、その形状から獣骨と判断され、サイズからイノシシあるいはニホンジカの骨と思われる。ただし、破損が著しく種類・部位を特定できるものが少ない。種類部位を確認できる標本は、Ｃ２グリッドＳＫ56、Ｄ６グリッドＳＸ45、Ｄ４グリッド第２検出面Pit ３に限られる。それぞれは、Ｃ２グリッドＳＫ56の出土骨がニホンジカ鹿角片と中節骨遠位端片、Ｄ６グリッドＳＸ45の出土骨がイノシシ右距骨、Ｄ４グリッド第２検出面Pit ３の出土骨が種類不明の肋骨片である。中でも、イノシシ右距骨は、破損しているが、唯一原形をうかがえる標本である。推定全長30.0mmとみられる。比較的骨質の頑丈な骨であるため、多くの亀裂が入ったにも係わらず原形を保ち得たと考えられる。現在ではみない大形のイノシシの骨である。本遺跡は縄文期の墓域と考えられているが、検出された骨は人骨ではなかった。これらの獣骨は、別の目的で、別の場所で焼かれたものと思われる。こうした焼骨の検出例は多く、はっきりとした意図的な骨を焼いた跡の検出例もある。

（金子浩昌）

（4）リン酸分析

結果を第58表に示す。いずれの試料もリン酸含量が高く、約10mg/g以上を示す試料が多い。また、遺構外から採取した比較試料についても7～8mg/g程度の値を示す。なお、ＳＫ56は極端に値が高いが、これは、分析試料中に肉眼で骨片が認められた試料である。

5　考察

（1）古植生

分析の結果、花粉化石の保存は全体的に悪かった。浅い場所（試料番号１～２）ではシダ類胞子が多くみられたが、深くなるほど花粉化石の保存が悪くなり、遺構が構築された層では、花粉化石、シダ類胞子ともにほとんどみられない。シダ類胞子や針葉樹花粉は、広葉樹花粉に比べて風化に強いと考えられており、広葉樹花粉の多くに風化の痕跡が認められるような試料は、花粉分析に不適であるとされている[②]。花粉化石は、好気的環境下における風化に弱いことから[③]、今回のような段丘堆積物ではその大部分が消失し、分解に強いシダ類胞子のみが残ったと考えられる。したがって、今回得られた花粉化石群集は、当時の植生環境を表しているとは言い難いため、考察は差し控える。なお、現在本遺跡周辺は耕地、植林、市街地などに利用されており自然度の高い植生は残っていないが、潜在自然植生は、シイ・カシなどの常緑樹林で、山間部には温帯針葉樹林が発達すると考えられている[④]。縄文時代の遺跡周辺の古植生もこれに近いものであったと思われるが、花粉化石の保存が悪いため不明である。台地上では古植生に関する情報は得られにくいが、炉跡や消失住居の炭化材同定、植物珪酸体分析など植物利用に関する検討を行うことは可能である。また、河川沿いの低湿地遺跡での花粉分析などは古植生に関する情報を得るには効果的である。このような、古植生に関する情報蓄積が今後の課題である。

（2）遺構の性格

土壌中に自然に存在するリン酸含量すなわち天然賦存量は、Bowen（1983）[⑤]、Bolt and Bruggenwert（1980）[⑥]、川崎ほか（1991）[⑦]、天野ほか（1991）[⑧]などを参考にすると3.0mg/gで、最大でも5.0mg/gと推定される。一方、自然状態における土壌中のある範囲内（単層中など）では、土壌理化学的特性は均質になる。これは、自然条件の中では均質の方が物理・化

学的に安定だからである。ところが、人為的な遺体埋納などによって、この状態がくずれると局所的な濃集が起こり、土壌中の元素含量にばらつきが生じると考えられる。今回の結果をみると、リン酸含量は上記の値を大きく上回っているほか、試料毎のばらつきが大きくなっており、分析を行ったいずれの遺構においても骨が埋納されていたことが推測される。特に微細植物片分析で、骨片が出土した試料は、いずれも高い値になっている。一方、対照試料においても、天然賦存量を大きく上回っている。リン酸は地下水による粘土粒子の移動によって移動すると考えられていることから[9]、遺構内に多量の骨が投棄されたため、リン酸が遺構外にも拡散していったと考えられる。また、骨は遺構外にも投棄された可能性もある。検出された骨は人骨ではなく、シカやイノシシなどの獣骨であった。検出された骨はいずれも焼骨であるが、山梨県の金生遺跡では、焼けたイノシシの下顎骨が多量に検出されおり、供儀の痕跡と考えられている[10]。今回も何らかの儀礼的要素が考えられる。　　（パリノ・サーヴェイ株式会社）

［引用文献］

①土壌養分測定法委員会編『土壌養分分析法』（養賢堂　1981年）440p
土壌標準分析・測定法委員会編『土壌標準分析・測定法』（博友社　1986年）354p

②徳永重元・山内輝子「花粉・胞子」（『化石の研究法』共立出版株式会社　1971年）p50-73

③中村純『花粉分析』（古今書院　1967年）232p

④宮脇昭編著『日本植生誌　近畿』（至文堂　1984年）596p

⑤Bowen,H.J.M.（浅見輝男・茅野充男訳）『環境無機化学　－元素の循環と生化学－』（博友社　1983年）297p［Bowen,H.J.M.（1979）Environmental　Cemistry of Elements］

⑥Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M.（岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳）『土壌の化学』（学会出版センター　1980年）309p［Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M.(1976)SOIL CHEMISTRY］p.235-236

⑦川崎弘・吉田澪・井上恒久「九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量」（『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』農林水産省農林水産技術会議事務局編　1991年）149p.：p.23-27

⑧天野洋司・太田健・草場敬・中井信「中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量」（『土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発』農林水産省農林水産技術会議事務局編　1991年）p.28-36

⑨ジナ・バーンズ、ルール・ブラント、サイモン・ケーナ、デイビット・ロリガー、西田史朗「日本の土壌中での燐酸塩の挙動」（『考古学と自然科学　19』1986年）p.57-68

⑩丹羽百合子「解体・分配・調理」（加藤晋平・小林達雄・藤本強編『縄文時代の研究２　生業』雄山閣　1994年）p.103-121

・馬場悠男・茂原信生・阿部修二・江藤盛治「根古屋遺跡出土の人骨・動物骨」（『霊山根古屋遺跡の研究　－福島県霊山町根古屋における再葬墓群－』福島県霊山町教育委員会　1986年）p.93-113

・『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修　1967年）

・ペドロジスト懇談会編『土壌調査ハンドブック』（博友社　1984年）156p

種類	AⅢ					
試料番号	1	2	3	4	5	6
木本花粉						
ツガ属	1	1	−	−	−	−
マツ属	−	−	−	−	1	−
スギ属	−	1	2	−	−	1
ハンノキ属	−	−	−	−	−	1
コナラ属コナラ亜属	−	−	−	−	−	1
コナラ属アカガシ亜属	−	−	−	−	1	−
カエデ属	1	−	−	−	−	−
トチノキ属	−	−	−	1	−	−
草本花粉						
ガマ属	−	−	−	−	−	1
オモダカ属	1	−	−	−	−	−
イネ科	14	−	1	1	−	−
カヤツリグサ科	6	−	1	4	−	−
キンポウゲ科	1	−	−	−	−	−
アブラナ科	4	−	−	−	−	−
バラ科	−	−	−	−	1	−
セリ科	3	2	−	−	−	−
ヨモギ属	14	4	1	2	−	−
キク亜科	1	2	1	−	−	−
タンポポ亜科	3	2	−	−	−	−
不明花粉	20	−	3	6	−	−
シダ類胞子						
ヒカゲノカズラ属	15	4	−	−	−	−
ゼンマイ属	1	−	−	−	−	−
イノモトソウ属	38	9	−	−	−	−
他のシダ類胞子	400	81	11	3	3	−
合計						
木本花粉	2	2	2	1	2	3
草本花粉	47	10	4	7	1	1
不明花粉	20	0	3	6	0	0
シダ類胞子	454	94	11	3	3	0
総計（不明を除く）	503	106	17	11	6	4

第54表　花粉分析結果

番号	遺構の性格	遺構番号	採取地点	分析量(cc)	炭化材	不明炭化物	動物遺骸	土器片
1	土壙墓	SX48	埋土	200	+	+	+	−
2		SX48	C地点（隣接地点）	100	+	+	−	−
3		SX48	D地点（隣接地点）	200	+	+	−	−
4	土壙墓	SX50	埋土	200	+	+	+	−
5		SX50	A地点（隣接地点）	200	+	+	−	−
6		SX50	B地点（隣接地点）	200	+	−	−	−
7	土器棺墓	SX29	埋土	200	+	+	+	1
8	土器棺墓	SX31	埋土	200	+	−	−	−
9	土壙墓	SX37	埋土	200	+	+	−	−
11	土器棺墓	SX39	埋土	200	+	+	+	2
12	土器棺墓	SX40	埋土	200	+	+	+	−
13	土器棺墓	SX43	埋土	200	+	+	+	−
15	集石土坑	SK56	埋土	微量	−	−	+	−

〔注〕+は細片を含むため個数推定が困難である種類を示す

第55表　微細遺物分析結果

脊椎動物門　Phylum　Vertebrata
　哺乳綱　Class　Mammalia
　　ウシ目（偶蹄目）　Order　Artiodactyla
　　シカ科　Family　Cervidae
　　ニホンジカ　*Cervus nippon*
　　イノシシ科　Family　Suidae
　　イノシシ　*Sus scrofa*

第56表　検出動物分類群

地区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	遺構	採取地点	番号	種類	部位	左右	部分	数量	備考
AⅢ地区	B４	SX38	土器棺内土	10	獣類	破片			1+	
		SX40	土器棺内土	12	獣類	破片			7+	
	D６	SX45	埋土	14	イノシシ	距骨	右		1	推定全長30.0mm
	C２	SK56	埋土	15	ニホンジカ	鹿角		破片	1	他破片1
						中節骨		遠位骨端片	1	
	C７	SK73	埋土	16	獣類	破片			52+	
		SK74	埋土	17	獣類	破片			8	やや大きい骨片
	D４	第2検出面 Pit3	埋土	18	獣類	肋骨		破片	1	
	D６	SX45	埋土	19	獣類	破片			1	第2検出面Pit3で取り上げ
	E６	第2検出面 Pit2	埋土	20	獣類	破片			5	
	D７	第2検出面 Pit2	埋土	21	獣類	破片			5+	
		第2検出面 Pit7	埋土	22	獣類	破片			36+	

〔注〕数量の+は、他に細片が存在することを示す

第57表　骨同定結果

番号	性格	遺構番号	採取地点	土性	土色		P205 (mg/g)
1	土壙墓	SX48	埋土	LiC	10YR3/2	黒褐	8.72
2		SX48	C地点（隣接地点）	LiC	10YR3/2	黒褐	6.94
3		SX48	D地点（隣接地点）	LiC	10YR3/2	黒褐	9.04
4	土壙墓	SX50	埋土	LiC	10YR3/2	黒褐	10.53
5		SX50	A地点（隣接地点）	LiC	10YR3/2	黒褐	8.47
6		SX50	B地点（隣接地点）	LiC	10YR3/2	黒褐	7.52
7	土器棺墓	SX29	埋土	LiC	10YR3/2	黒褐	11.24
8	土器棺墓	SX31	埋土	LiC	10YR3/2	黒褐	7.65
9	土壙墓	SX37	埋土	LiC	10YR3/2	黒褐	10.73
11	土器棺墓	SX39	埋土	LiC	10YR2/2	黒褐	16.41
12	土器棺墓	SX40	埋土	LiC	10YR2/2	黒褐	15.13
13	土器棺墓	SX43	埋土	LiC	10YR3/2	黒褐	10.40
15	集石土坑	SK56	埋土	−	−		71.86

〔注〕（1）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
（2）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
LiC‥軽埴土（粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%）

第58表　リン酸分析結果

Ⅵ　結　　語

1　大原堀遺跡の検出遺構群と縄文時代晩期の埋葬遺構

（1）遺構の変遷と近隣遺跡の状況

今回の調査では、縄文時代前期～晩期、奈良時代～鎌倉時代にかけての遺構・遺物が確認された。ここでは今回調査で検出された遺構や出土遺物に加え、近隣遺跡の状況も交え、大原堀遺跡周辺地域の変遷を概観していきたい。

①旧石器時代～縄文時代

旧石器時代末期～縄文時代草創期　大原堀遺跡においては当期を示す遺構・遺物は確認されていないが、西方約100m、標高62～74mの段丘面に位置する上ノ広遺跡では、明確な遺構は検出されていないものの、当期のものと考えられる尖頭器・掻器・削器や神子柴型石斧も出土している[①]。一方、東方約150m、標高約53mの段丘面に位置する王子広遺跡でも、小型の有茎尖頭器が出土しており[②]、大原堀遺跡の東西の谷を挟んだ標高50～70m程度の段丘上に当期の痕跡が認められる。

第133図　大原堀遺跡周辺の遺跡位置図(1:10,000)

早期　当期に入ると、大原堀遺跡でも人間の営為の跡が確認されるようになる。今回調査を行った位置よりも北側の一段高い標高54～58mほどの段丘上で、道路工事や畑地の整地時の不時発見によるものであるが、大川・神宮寺式の押型文土器やこれらに伴うものと考えられる石鏃・尖頭器・掻器・打製石斧・礫器等が採集されている[③]。今回の第２次・第３次調査区では当該期の遺構・遺物は全く確認されていないため、当期においては一段上の段丘面が専らの活動地点であったと推定される。なお、当遺跡西方の上ノ広遺跡でも少量の押型文土器や早期末の条痕文土器が出土しており、早期末が上ノ広遺跡の盛期とされる[④]。

前期　大原堀遺跡では、ＡⅢ地区で北白川下層Ⅱｃ～Ⅲ式期の深鉢片が３点程出土しており、僅かながらも当期における活動痕跡は残されている。近隣の上ノ広遺跡・王子広遺跡でも当期に所属する土器が出土している[⑤]が、出土量はごく少量で、僅かな痕跡を残すに留まっている。

中期　大原堀遺跡では中期初頭の船元Ⅰ式期の土器片が少量ながらＡⅢ地区で出土しており、また、ＢⅠ地区では落ち込みＳＺ104で中期前半の東海系土器が出土している。また、中期末葉と考えられる遺構として、土坑ＳＫ83・84がＡⅢ地区で検出され、中期末葉～後期初頭と考えられる遺構としては、ＢⅠ・ＢⅡ地区で土坑ＳＫ98・100・119・123・127が検出されている。当遺跡の今回調査で主体となる時期は晩期であるが、中期の遺構・遺物も比較的まとまって確認されており、晩期に次ぐ生活の痕跡を留めている。近隣の王子広遺跡では初頭の陥し穴や野外炉が検出されている[⑥]。上ノ広遺跡においては少量の土器が出土しているのみで、痕跡は疎である。

後期　後期の大原堀遺跡は、中期末葉～後期初頭の遺構として５基の遺構が検出されているが、出土土

器では中津式～北白川上層Ⅰ式期までの前半期の土器も出土している。一方で、後半期の土器は末葉に所属する可能性がある土器は少量出土しているものの、ほぼ空白期といってよい状況である。当遺跡の北東約400mの標高60m余に位置する出郷遺跡では後～晩期の小形定角石斧が出土している。王子広遺跡では後期初頭～前葉が最盛期と考えられ、当該期の竪穴住居や掘立柱建物が検出されている。掘立柱建物の柱穴から出土した後期初頭の土器片には水銀朱と思われる赤色顔料が付着しており[7]、朱彩土器としては国内最古級のもの[8]として特筆される。

晩期　大原堀遺跡では、ＡⅢ地区で多数の遺構と多様な遺物が出土した。当遺跡の今回調査で主体となる時期である。遺構では晩期後半の土器棺墓14基、土壙墓14基が検出され、後述のように立石により墓域が設定されたと推定される遺構群が確認された。出土遺物も今回調査では当期のものが大部分を占め、石刀等の祭祀関連遺物をはじめとする多様な石器類も出土している。浮線文系や大洞式系の東日本の異系統土器も比較的まとまって出土しており、特筆される。特に、浮線文系土器は個体数で９個体を数え、県内の１遺跡における出土数では最多となる。このことから、晩期後葉における三重県の中部域と東日本との交流を示す貴重な資料となろう。また、朱付着の小形土器（455）については、所属時期は不明ながら、朱の精製若しくは保存に使用された可能性があり、晩期の浅鉢を中心とした朱彩土器も出土している。隣接の王子広遺跡においても後期初頭の段階で水銀朱が使用されており、当遺跡周辺地域において当該期の朱の生産及び使用が認められよう。

②古代～中世

奈良時代　大原堀遺跡ではＡⅢ地区で竪穴住居ＳＨ11が検出されている。当遺跡の当期の遺構はこれのみで、遺物もほとんど出土していない。今のところ隣接遺跡でも当期の遺構は確認されていないが、当遺跡の北方約400mの標高約70mの位置に、白鳳期から奈良時代後半期まで存続したと推定されている御麻生薗廃寺があり、ＳH11はこの寺院を支えた集落の一部の可能性が想定される。

平安時代　大原堀遺跡では、ＡⅠ地区でＳＢ１、ＢⅠ地区でＳＢ108、ＳＫ101・102・103・105、ＢⅡ地区でＳＫ111・113・116・122・126、ＳＡ128、ＳＺ120等が検出されている。住居跡として掘立柱建物がＳＢ１・108の２棟検出されており、ＳＡ128検出部周辺のピット集中部にも建物跡が存在した可能性は高い。また、特筆される遺構としては、「東」と墨書された土師器杯と鉄製紡錘車が出土したＢⅠ地区ＳＫ105が挙げられる。近隣遺跡では、上ノ広遺跡で当期の火葬墓と木棺墓が検出されている。前章でも触れたが、ＢⅠ地区ＳＫ91・95は時期不明ながら上ノ広遺跡で確認された平安時代の火葬墓に遺構や埋土の状況が類似しており、当該期の墓もしくはその関連遺構の可能性は残しておきたい。

鎌倉時代　大原堀遺跡では、ＡⅠ地区で溝ＳＤ４が検出されている。これ以外に明確な当期の遺構は検出されておらず、遺物も少量の出土に留まる。隣接遺跡においても当期の遺構は確認されていないが、中世においては伊勢神宮領の御薗が周辺部にあったとされる。

（２）縄文時代晩期の埋葬遺構について

今回の調査では、ＡⅢ地区において多数の埋葬遺構が検出された。ここでは検出された埋葬遺構の整理を行い、若干の考察を行いたい。

①土器棺墓について

埋設土坑　今回の調査で検出した土器棺墓は総数14基であるが、土器棺の検出前に埋設土坑を検出したものは皆無で、土器棺検出後にこれを囲む位置で判然としない状態で土坑のラインを検出したのが実情であるため、明確な埋設土坑が検出できたものは無い。包含層と判断した層の掘削時に土器棺を検出していることから、調査技術の問題から検出できなかったのか、もしくはそもそも土坑に埋設したのではなく、地表面に土器棺を置いた上に、または浅い土坑を掘削し、土器棺を固定した後に盛土を行って埋設した可能性も考えられる[9]。

構造・埋位・方向・配置等　今回の調査で検出した土器棺墓総数14基の内、３基が複合構造の土器棺で、その他はすべて単棺である。単棺のうち、ＳＸ42は土器棺の開口部を別個体の土器片で閉塞した事例であり、蓋が検出されなかったその他の単棺についても有機物で蓋をしていた可能性が考えられる[10]。複合構造の土器棺の内訳は２個体の土器の口縁部同士を

合わせたいわゆる合口棺が１基（ＳＸ44）、合口棺の一方の底部にさらにもう一個体を接続したものが１基（ＳＸ43）、詳細不明ながら複合構造の可能性が高いものが１基（ＳＸ38）である。この内、ＳＸ43については、撹乱溝によって土器棺の破損が著しいものの、鉢と深鉢の合口棺の深鉢底部側に浅鉢をさらに付加する３個体の土器を組み合わせた土器棺であることが確認された。桑名市志知南浦遺跡ＳＸ109が合口棺（ともに深鉢）の一方の底部が欠損し、口縁部を逆位に置いた別個体の深鉢半身で当該部を閉塞しており[11]、類例と考えられよう。また、ＳＸ38については詳細不明ながら可能性として以下のような解釈を前章で行った。

１　時期を違えて同一地点に埋設
２　個々の土器棺を同時に同一地点に埋設
３　破損した18上半部の閉塞目的で17を埋設

１の場合、２個体の土器には明確な時期差は認められず、また、同一地点に偶然もしくは意図して埋置する可能性は低いと思われる。一方、２の場合は可能性としては考えられるが、それを裏付けるような根拠が無く、単なる想像の域を超えない。次に３の場合であるが、18の土器棺の口縁部残存度が1/6であることから、埋設当初から欠損していた可能性が高く、18上半部の欠損部分を閉塞する目的で上部に17が置かれた可能性は認められよう。

次に埋位についてであるが、検出総数14基の内、横位が10基（ＳＸ25・28・29・30・31・42・43・44・46・59）、斜位が４基（ＳＸ38・39・40・41）となっており、正位・逆位は無い。

埋設方向については第１表に示しているが、合口棺（ＳＸ43・44）以外は口縁部の向きを第134図に一で示した。概観する限り、埋設方向に明確な規則性は感じられない。しかし、近接するＳＸ30・31の主軸方位（口縁部方向）はともにＮ153°Ｅ、ＳＸ42・43はＮ77°Ｅ・Ｎ69°Ｅで主軸方位がほぼ揃う。さらにＳＸ29・59の主軸方位の角度は112°、ＳＸ38・40の主軸方位の角度は72°となり、直交に近い方位で配置されたとも見ることができる。これら近接した土器棺墓の主軸方位は概ね同一もしくは直交方位となっており[12]、埋位もＳＸ29・59、ＳＸ30・31、ＳＸ42・43は横位埋設、ＳＸ38・40は斜位埋設で、各組合せで同一埋位となっている。これらは、一定の埋葬原理が働いていた可能性を示唆するものと言えよう。また、合口棺以外の埋設方向（口縁部の方向）は、概ね北・東・南を向けており、西向きに埋設したものが無いことも指摘できる。

埋設位置（配置）については、前述の近接して配置された小群での傾向以外で概観する限り明確な規則性は感じられない。ただし、複合構造や斜位埋設の土器棺は調査区北半部に偏在する傾向がある。

所属時期　検出した土器棺については、器形の全容が判断できるものがある一方、口縁部や底部を欠失するものもある。以下では、個々の器形や施文・調整などを検討し、時期を把握したい（遺構番号の後の括弧付きの番号は遺物番号と対応）。

当該期の時期を把握する指標として突帯の有無が挙げられるが、突帯が付与されたものはＳＸ28の(25)、ＳＸ44の(20･21)、ＳＸ43の(23)、ＳＸ59の(29)で、いずれも深鉢である。ＳＸ28の（25）については突帯及び口唇部にキザミが施される。ＳＸ44の(20・21）は、ともに突帯にキザミが施されるが、口唇部にキザミを施すのは（20）で、(21）は面取りのみでキザミはなされない。ＳＸ43の（23）はＳＸ28の（25）同様、突帯及び口唇部にキザミが施される。ＳＸ59の（29）は素文の突帯が口縁部下に３条付され、口唇部は丸く収められ、やや外反する。伊勢地方の突帯文土器を整理した鈴木克彦氏・山田猛氏の編年[13]で所属時期を検討すると、ＳＸ59の（29）が鈴木編年ではⅣ期、山田編年は３ｂ期、それ以外は鈴木編年・山田編年ともに概ねⅠ期と考えられる。次に突帯の付されない土器棺についてであるが、現状では伊勢地方の編年は無いため、佐野元氏の分類[14]に従って、時期の検討を行いたい。突帯の付されない深鉢としてＳＸ30の（10）、ＳＸ31の（13）、ＳＸ39の（14）、ＳＸ42の（15）、ＳＸ29の（16）、ＳＸ38の(17・18)、ＳＸ40の（19）がある。これらは頸部がくびれる所謂「甕形」を呈し、器面に二枚貝条痕もしくはケズリ調整を施したものである。この内、ＳＸ30の（10）・ＳＸ31の（13）は口唇部にキザミが施されないが、その他には口唇部にキザミが施される。これらは佐野氏の分類では西日本系粗製土器とされたⅢＣ～Ｄ類に概ね相当し、近畿地方の滋賀里Ⅲｂ

式に見られるものとされる[15]。その他の器種としてＳＸ43の浅鉢があるが、佐野氏の分類では西日本系精製土器ⅥＡ類に相当するか。最後に、口縁部や底部の欠失したＳＸ25・41・46の土器棺を検討する。これらはいずれも頸部がくびれる「甕形」深鉢と推定され、体部は二枚貝条痕もしくはケズリ調整が施される。ＳＸ25の（26）は口縁部下半が残存しており、横位条痕が施され、頸部に弱い段が生じている。ＳＸ41・46の底部は、尖底もしくは尖底に近い小径の平底である。突帯の有無や口縁部形態は不明であるが、佐野氏の分類でいうⅢＤ類もしくはⅤ類と推定される。

以上、個々の土器棺の検討を行ったが、突帯文土器も含めて佐野元氏・野口哲也氏の編年[16]に従いこれらの所属時期を検討すると、ＳＸ59を除けば概ね突帯文１期１～２段階の範疇に収まると考えられ、ＳＸ59は２期２段階に概ね相当する。

土器棺出土の骨片について　棺内埋土や棺内出土の骨片について微細遺物分析及び骨同定を行った。詳細は前章の通りであるが、微細遺物分析ではＳＸ29・39・40・43で微細な骨片が検出されたが種類が特定できるものではなかった。また、ＳＸ38・40では被熱して白色に変色した獣類の骨片が出土しているが、種類や部位を特定できるものはなかった。土器棺内から出土した骨片については焼獣骨片であり、人骨は検出されていない。

②土壙墓について

規模・構造・方向・配置等　今回の調査で検出・認定した土壙墓は総数で14基である。土壙墓の認定基準については前章の通りであるが、かねてから土壙墓の認定は埋葬人骨の出土がない限り困難であり、現在までに各地で報告されてきた土壙墓は、認定基準の曖昧なものが少なくないとも言われる。今回の調査では後述の通り埋葬人骨は全く出土しておらず、また、三重県内では現在までに明確な縄文期の埋葬人骨は出土していない。当報告でも前述のような曖昧な基準に基づいて認定したものも少なからずあるが、ここではその規模や構造等を整理し、墓壙の規模について以下の５類型に分類して検討したい。

・１類：長軸1.6～2.0m、短軸0.6～0.7m

ＳＸ33・48・50・54・85の５基（ＳＸ54は残存状況から推定）がある。検出面からの深さはＳＸ85が他の４基に比して深い。平面形態は隅丸長方形もしくは長楕円形を呈する。この内、ＳＸ50については前章で記述の通り、出土土器のあり方から甕被葬の可能性があるものである。また、ＳＸ33については玉が出土していることから、遺体への装着もしくは副葬品と考えられよう。この２基については埋葬人骨の出土はないものの、墓である可能性は高いと考えられる。これらから類推すると、他の３基は平面形態や規模がほぼ同一であることから、墓である蓋然性が高い。ＳＸ48・50の自然科学分析結果やＳＸ54・85の墓標想定礫もこれを補強する。墓壙の主軸はＳＸ33・50・54がＮ73°Ｅ～Ｎ77°Ｅ、ＳＸ48・85がＮ21°Ｗ・Ｎ34°Ｗで、多少のずれはあるものの、主軸が揃えられたとも想定できる。また、ＳＸ33・50・54の配置は、等間隔に配置されたようにも見て取れる。さらに、近接するＳＸ54・85、ＳＸ48・50は、それぞれ主軸方位の角度が111°・94°となり、直交に近い方位で配置されている[17]。従って、主軸方位の揃うＳＸ33・50・54及びＳＸ48・85、あるいは近接して主軸方位が直交するＳＸ54・85及びＳＸ48・50の小群が設定できる。何らかの意図の基に墓壙が配置された可能性も想定されよう。

・２類：長軸1.5～1.6m、短軸0.8～0.9m

ＳＸ15・32の２基がある。平面形態は不整隅丸長方形もしくは不整楕円形を呈する。墓壙の主軸はＮ59°Ｗ・Ｎ60°Ｗで、ほぼ一致する。ともに墓壙の周縁部で複数の礫が検出されており、墓標が想定される。また、出土遺物として石鏃や剥片が出土している点でも共通する。

・３類：長軸1.1～1.3m、短軸0.5～0.8m

ＳＸ14・81・82の３基がある。平面形態は不整楕円形もしくは不整長楕円形を呈する。墓壙の主軸は揃わないが、概ね東西方向と言えよう。他の要素に共通点は認められない。

・４類：長軸0.9m、短軸0.5m

ＳＸ45・70の２基がある。平面形態は不整楕円形を呈する。ともに墓壙の南側に立石が設置され、墓壙の主軸はそれぞれＮ３°Ｗ、Ｎ23°Ｗでややずれがあるが、概ね南北方向であることが言える。出土遺物として石鏃や剥片が出土している点でも共通す

る。ＳＸ45ではイノシシの右距骨も出土している。

・５類：その他

墓壙の規模で分類した１～４類に分類できないものを５類とした。ＳＸ37・60の２基がある。ＳＸ37は墓壙を検出しておらず、包含層と判断した層を掘削中に口縁部1/4分の底部を欠失した深鉢片（44）が外面を上部にして横位の状態で出土した。この土器片は人為的に伏せたような出土状況であり、ＳＸ14と同様の出土状況と言える。当遺構が墓とすると、墓壙が検出されなかったのは、土器棺墓の埋設土坑が検出できなかったのと同様に盛土が行われた可能性も否定できない。当遺構及びＳＸ14は、前田清彦氏の土器棺墓分類でいうⅡ類Ｅ[18]に相当するとも考えられ、土壙墓・土器棺墓の定義の問題もあるが、土壙墓の範疇に入れることも再考する必要があるのかもしれない。また、ＳＸ50と重複していることも解釈上問題が残る。ＳＸ50埋葬後一定期間をおいてＳＸ37が造営されたとも解釈できるが、あるいは両（被葬）者に血縁等、何らかの関係が想定できるのかもしれない。ＳＸ60は径0.5ｍで不整円形を呈し、立石を伴う。立石を墓標と想定し土壙墓と推定したが、推定した墓域範囲を大きく外れる点や規模・出土遺物等からも墓の可能性は低いのかもしれない。何らかの単独標識か他の性格を持った遺構の可能性も否定できない。ただし、伊勢湾東岸地域の晩期の貝塚遺跡で検出されているイヌの埋葬土壙が不整円形を呈し、長軸が0.5ｍ程度に集中している[19]とされており、当遺構もイヌの埋葬遺構の可能性も想定される。推定した墓域範囲を大きく外れるのは埋葬対象が関係するのかもしれない。

以上、墓壙の規模を基にして５類型に分類・検討を行ったが、これらから推定される埋葬姿勢や被葬者の年齢を瀬川拓郎氏と山田康弘氏の分析[20]を基に検討したい。

瀬川氏の分析に拠れば土壙の長幅比の値が0.5以上が屈葬、0.4未満が伸展葬で、屈葬のうち土壙長が80㎝以下、伸展葬のうち土壙長が100㎝以下のものが幼児埋葬であるとする。この基準で埋葬姿勢を推定すれば１類の５基及び３類のＳＸ81の計６基が伸展葬でそれ以外が屈葬となる。土壙長から幼児埋葬と推定されるのは５類のＳＸ60のみであるが、前述の通りヒトの墓以外の可能性もあるため、幼児埋葬と推定できるものは無い。次に山田氏の分析による埋葬姿勢によった土壙長の分析から伸展葬と推定される１類の５基は概ね壮年～熟年期（概ね21～60歳未満）となり、３類のＳＸ81は概ね思春期（概ね13～16歳程度）の年齢と推定される[21]。また、山田氏の分類で言えば１類の５基は「大人」、ＳＸ81は「子供」の墓ということになる。次に屈葬と推定されるその他の土壙墓についてであるが、２類は概ね壮年期以降（概ね21歳以上）、３類は概ね青年期以降（概ね17歳以上）、４類は概ね小児期以降（概ね６歳以上）とそれぞれ推定される[22]。これらのことから、今回検出・認定した土壙墓は、解釈が困難な５類の２基を除くと、被葬者が幼児期段階以下（山田氏の分類で言う５歳程度以下）と考えられるものは認められない。

所属時期　検出した14基の内、出土した土器が確実に墓に伴うのはＳＸ14・37・50の３基のみである。ＳＸ14の（34）は口縁部及び底部が欠失しているが、頸部がくびれる「甕形」深鉢と推定され、体部は二枚貝による条痕調整が施される。佐野氏の分類[23]でいうⅢＤ類もしくはＶ類と推定される。ＳＸ37の（44）は口唇部にキザミの施されない刻目突帯文土器である。概ね鈴木編年Ⅱ期・山田編年Ⅱａ２期[24]に相当する。ＳＸ50は頸部がくびれる「甕形」深鉢で口唇部にキザミが施される（30・31）と、口唇部にキザミが施される刻目突帯文土器（32・33）がある。前者は佐野氏の分類[25]でいうⅢＤ類で、後者は鈴木編年・山田編年[26]ともにⅠ期である。以上の３基は佐野氏・野口氏の編年[27]に従えば、概ね突帯文Ⅰ期１～２段階に相当すると考えられる。その他の土壙墓で出土した混入と思われる土器についても、前記時期の範疇を大きく外れることはないと考えられる。

土壙墓出土の骨片について　出土した骨片について微細遺物分析及び骨同定を行った。詳細は前章の通りであるが、微細遺物分析ではＳＸ48・50で微細な骨片が検出されたが種類が特定できるものはなかった。また、ＳＸ45では被熱して白色に変色したイノシシ右距骨片が出土した。埋土から出土した骨片については焼獣骨片であり、人骨は検出されていない。

集石土坑について　ＡⅢ地区で検出・認定した５基

の内、ＳＫ56・73・77が晩期の集石土坑である。規模は長軸0.8～1.1m、短軸0.6～0.7mの（不整）楕円形を呈する。これらの土坑は前章で記述したように石器製作に関わる遺構の可能性も考えられるが、土壙墓の可能性も十分考えられる。当報告では他の可能性も考慮し集石土坑として一括したが、土壙墓と仮定すると、その規模から前述の分類では３・４類に分類され、小児期以降（概ね６歳以上）の屈葬墓と想定される。いずれも推定墓域内に概ね位置することから、土壙墓の可能性は高いのかもしれない。なお、中期末と考えられるＳＫ83・84は、推定を含む規模が長軸0.9～1.0m、短軸0.5～0.6mの（不整）楕円形を呈するが、これらも埋葬遺構を想定できるであろう。

③墓域について

ここでは、今回の調査で検出した埋葬遺構と配石・立石遺構の関係から、墓域について検討したい。前章で認定した４基の立石（ＳＳ62～65）は、人為的に石材が地表（遺構）面に垂直方向に設置されたと考えられるもので、その下部には土坑等の遺構は無い。また、隣接する遺構との関連性は認められず、地表（遺構）面に単独で設置されたものと判断したものである。これらを一種の「地上標識」と評価した場合、各立石を結ぶと調査区内に半円形のエリアが設定できる。このようなエリアを設定した場合、当調査区で検出した土器棺墓・土壙墓からなる埋葬遺構群は一部外れるものもあるが、概ねこのエリア内に収まることが指摘できる（第134図）。

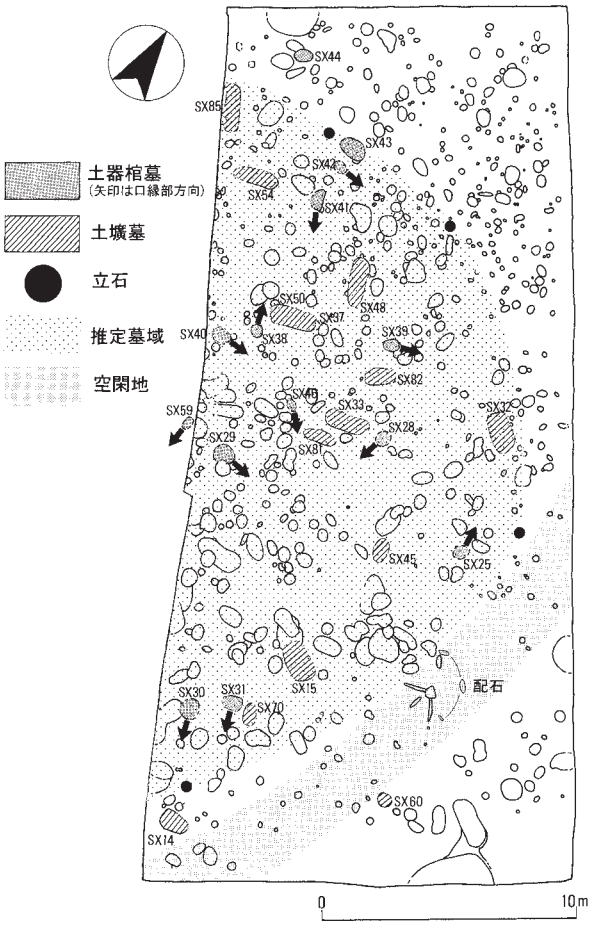
次に、先に設定したエリアに近接する位置に長さ40～50cm程の楕円体礫２個体と立石が弧状に配置され、平面的に半円形を形成する配石（ＳＳ61）がある。この配石も人為的に設置されたことは確実で、何らかの行為を行う「場」を設定した標識とも想定できる。また、当調査区では、ほぼ全面に遺構が検出されているものの、この配石を含んだ南北方向の幅３m程度の帯状範囲は遺構密度が疎であり、空閑地とも考えられる。

以上、埋葬遺構と立石・配石遺構の配置から調査区全体を俯瞰した場合、立石によって埋葬地の指定（一定範囲に埋葬する規制）をしていた、つまり、墓域が設定されていた可能性が指摘できる。また、この墓域の東側に位置する空閑地は、例えば居住域等とのいわば緩衝地帯のようなエリアだったのかもしれない。さらにこの空閑地に配置された配石は、全くの推測になるが、祭祀的な行為が行われる場として設定された場所とも想定される。

④まとめ

土器棺墓・土壙墓・墓域について考察を行ったが、最後にこれらを整理し、まとめとしたい。

大原堀遺跡において墓が営まれた時期は概ね突帯文Ⅰ期１～２段階と考えられ、土器棺墓ＳＸ59のみやや時期が隔絶し、２期２段階となる。三重県における晩期の動向として、前半期は遺跡自体も少なく実態不明な空白期である一方、後半の突帯文土器の時期になると、土器棺墓を検出する遺跡が急増し、集団墓地の様相を呈する土器棺墓群の検出が目立つようになる。当該期の住居跡の検出は稀で、竪穴式ではなく平地式などの別形式の住居が使用されたため発掘調査でも検出されにくいのではと推定されて



第134図　ＡⅢ地区縄文晩期墓域推定図(1:300)(第１～３検出面を合成して作図。縄文晩期以外は除いた。)

いる[28]。当該期の住居跡については、東海地方の傾向として土器棺墓盛行期には住居跡が不明瞭になっており[29]、同様の様相を呈する。大原堀遺跡においても今回調査では墓が営まれた時期の住居跡は検出されておらず、周辺地域の動向と一致する。しかしながら住居跡を想定できるようなまとまりは認められなかったものの、多数のピットや焼土が検出されており、また、調査区全域において多量の土器・石器類が出土している。東海地方の縄文晩期の土器棺墓を多く検出する遺跡では遺物包含層で検出されることが多く、この遺物包含層は土器・石器などの遺物を多量に包含し、土器棺墓が検出されない区域からも多量の遺物や焼土が検出される場合が多いことから、この遺物包含層に遺構が多く存在する可能性が指摘されている[30]。今回調査では墓域と居住域等との分離を推定したが、平地式住居等の可能性も否定できず、今後の課題となろう。

次に、個々の埋葬遺構についてであるが、今回調査で土壙墓と認定したものの中には墓ではないものが含まれている可能性もあり、一方で土壙墓と認定しなかった性格不明土坑の中に土壙墓が含まれている可能性も否定できない。埋葬人骨の出土が無い現状では認定作業にも限界があるが、土壙規模の検討から今回検出した土壙墓は幼児よりも上の年齢に適用された葬法であると推定した。そうであるならば、同一墓域に混在する土器棺墓は土壙墓に埋葬されない年齢である幼児期段階以下の葬法と想定される。土器棺墓は、伊勢湾東岸地域では基本的に３歳児以下の乳幼児の単葬を対象とした葬法と考えられている[31]一方、近畿地方では新生児から成人までの埋葬骨が出土しており、成人の再葬も存在するとされる[32]。大原堀遺跡で検出された土壙墓は再掘削された形跡が認められなかったため、土壙墓を一次埋葬墓、土器棺墓を再葬墓として関連付けることはできない。前述のような検討結果からも、伊勢湾東岸地域と同様の区分原理があったものと推定される。各埋葬遺構の配置については、ＳＸ37・50以外は墓の切り合い（重複）が認められないことから、従前から指摘されているように、各墓に墓標等の地上標識が設置されていた可能性がある。また、唯一例外的に重複関係のあるＳＸ37・50は両（被葬）者に血縁等、何らかの関係が想定できるのかもしれない。

三重県内の縄文晩期土器棺墓検出遺跡は管見の限り大原堀遺跡を含め18遺跡を数え、県内の最も早い段階に位置付けられる名張市下川原遺跡では滋賀里Ⅲａ～Ⅳ式期（Ⅲｂ式期が最盛期）の土器棺墓が26基検出[33]されており、今のところ県内最多の検出数を誇る。大原堀遺跡の14基はこれに次ぐ検出数となり、時期的にも一基を除けば概ねこの後続段階に位置付けられる。検出数で見れば桑名市志知南浦遺跡で五貫森式期の７基[34]、松阪市中谷遺跡で馬見塚式～樫王式期の６基[35]と続く。これ以外の土器棺墓検出遺跡は、１～４基の検出に留まり、群集化するものと単独もしくは少数のものの二様があることが分かる。また、前者の土器棺墓群集遺跡については当該集落の規模にもより一概には言えないが、時期を追って縮小傾向となることも指摘できよう。大原堀遺跡においても末期に位置付けられるものがＳＸ59の１基であり、同一遺跡内でも同様の傾向が窺える。近畿地方では晩期中葉に多く認められる土器棺墓が晩期末にかけて減少傾向をたどり、晩期末には十数基で群集化する墓地と単独もしくは２・３基で構成される墓地の二通りのあり方に分かれるとされており[36]、近畿地方の消長に通ずるものがあると言えよう。無論、調査区の関係で遺跡全体が調査されていなければ早計なことは言えない。大原堀遺跡について言えば、推定墓域が正しければ調査区西側でさらに土器棺墓が多数検出される可能性があり、唯一時期が隔絶したＳＸ59と同様の時期の土器棺墓が複数検出される可能性も否定できないが、現状では前述のような傾向を提示するに留め、今後の資料の蓄積を待ちたい。

大原堀遺跡における晩期後半の埋葬遺構について若干の考察を行ったが、調査区が限定されており、推定した墓域のすべてが確認できたわけではない。しかしながら、近畿地方や東海地方の周辺地域と類似する点も認められ、両地方の結節点に位置する伊勢湾西岸地域の三重県における当該期墓制を考察する上で、貴重な資料が得られたと言えよう。

（小山憲一）

2　大原堀遺跡出土縄文土器群の様相と傾向

大原堀遺跡第２・３次調査で出土した晩期土器群について検討を加えてみたいと思う。

（１）縄文時代晩期土器群の様相

当該期の現時点での、土器編年研究の現状と課題を再認識していきたい。前代の後期も含めて述べたいと思う。なお、対象地域については、現在の行政区画でいうところの近畿地方は兵庫・大阪・京都・和歌山・滋賀・奈良、東海地方は愛知・岐阜・三重・静岡県西部を想定している。なお、東海地方については、伊勢湾岸として捉えていく方が都合が良いと考えている。

近畿地方では、中津Ⅰ・Ⅱ式、福田Ｋ２式、四ッ池式・広瀬土壙40段階（芥川式・新徳寺式）、北白川上層式（１・２・３期）、一乗寺Ｋ式、元住吉山Ⅰ・Ⅱ式、宮滝式、滋賀里Ⅰ～Ⅳ式、船橋式、長原式が一般的な後・晩期の変遷である。なお、家根祥多や大塚達朗の両氏はそれぞれの視点から滋賀里Ⅰ式が後期に溯ることを指摘している。しかしながら、滋賀里Ⅱ式に後期的な要素の有無が問題といえよう。

東海地方の後期から晩期の編年に目を転じてみれば、後期が林ノ峰Ⅱ・Ⅲ式、咲畑Ⅱ式、林ノ峰Ⅳ式、天子神社式、下内田式、八王子式、西北出式、蜆塚ＫⅡ式、長谷式、吉田Ｃ式、馬場Ⅱ式（吉胡Ｋ・馬見塚Ｋ）、伊川津Ⅰ式・寺津下層式、伊川津Ⅱ式・下別所式、晩期に入ると吉胡ＢⅠ式･寺津式、保美Ⅱ式･本刈谷式、稲荷山式・桜井式、西之山式、五貫森式、馬見塚式の設定がなされている。東海地方の晩期土器については、後期後半にいわゆる縁帯文系の深鉢が多数を占め器種単純化の傾向がみられるようになり、晩期前半期には地域色がみられるようになるといわれている。晩期後半期には近畿を含んだ汎西日本土器圏に編入されることになる。東海地方の編年については、土坑資料といった良好な資料の増加により土器編年が補完されることが待たれるところである。三重県における突帯文土器群の研究については、鈴木克彦、山田猛の論考があげられる。これらの編年観については第59表に示してある。

三重県においても晩期土器を考える上で、良好な資料が増加している。松阪市天白遺跡（後期後葉から晩期初頭の土器群）、度会町森添遺跡（凹線文系土器群以降晩期にわたる大量の資料）、松阪市大原堀遺跡（晩期後半期の良好な土器群）、多気町ホソダ遺跡（晩期後半五貫森式が中心）など、当地方の基準となりえる資料群であると評価できる。

（２）大原堀遺跡出土晩期土器の傾向

Ⅳ章でも述べたように、Ⅰ～Ⅴ期に時期区分している。ここでは、各時期の器種構成を比較検討したいと思う。時期が明確にわかる525点を対象とした。器種認定は、第135図のように深鉢、鉢、浅鉢、その他（壺・注口土器・小形土器を含む）である。

縄文時代晩期土器群全体の器種構成としては、深鉢84.6％（444点）、鉢1.1％（６点）、浅鉢12.8％（67点）、その他1.5％（８点）である。その他の内訳としては、壺0.6％（3点）、注口土器0.4％（２点）、小形土器0.6％（３点）という統計結果が出ている（第136図参照）。

各期の出土量については、Ⅰ期が1.9％（10点）、Ⅱ期が26.9％（141点）、Ⅲ期が14.1％（74点）、Ⅳ期が42.7％（224点）、Ⅴ期が14.5％（76点）であった。Ⅱ期以降土器点数の増加が確認できるとともに、縄文時代晩期が当遺跡の中心的な時期であることがわかる（第138図参照）。

Ⅰ期（縄文時代晩期、元刈谷式併行）

当期の器種構成としては、深鉢100.0％（10点）を確認している。深鉢以外の器種については、確認できなった。

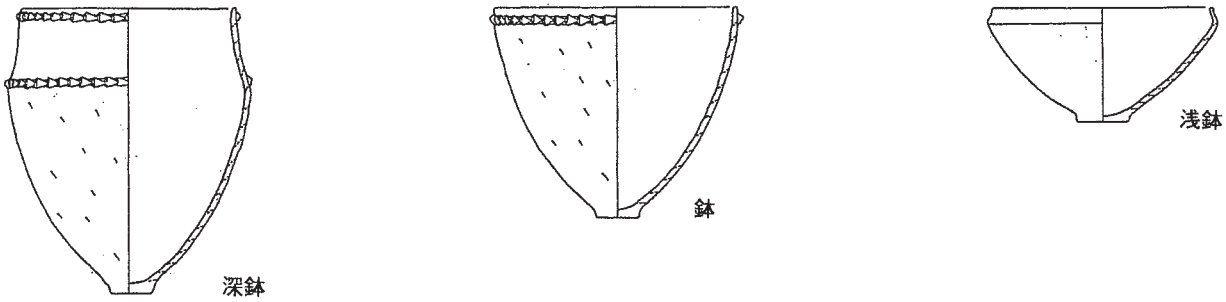
Ⅱ期（縄文時代晩期、稲荷山式・桜井式併行）

当期の器種構成としては、深鉢97.9％（138点）、鉢0.7％（１点）、浅鉢1.4％（2点）という統計結果が出ている。その他の器種については、確認できなかった。

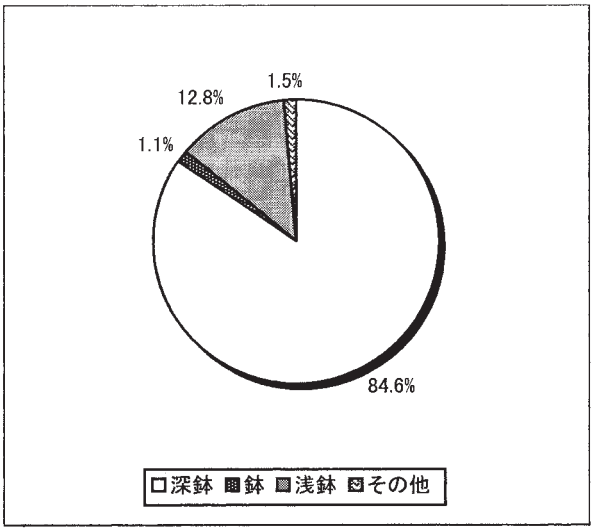
Ⅲ期（縄文時代晩期、西之山式併行及び山田編年Ⅰ期）

当期の器種構成としては、深鉢100.0％（74点）を確認している。深鉢以外の器種については、確認できなった。

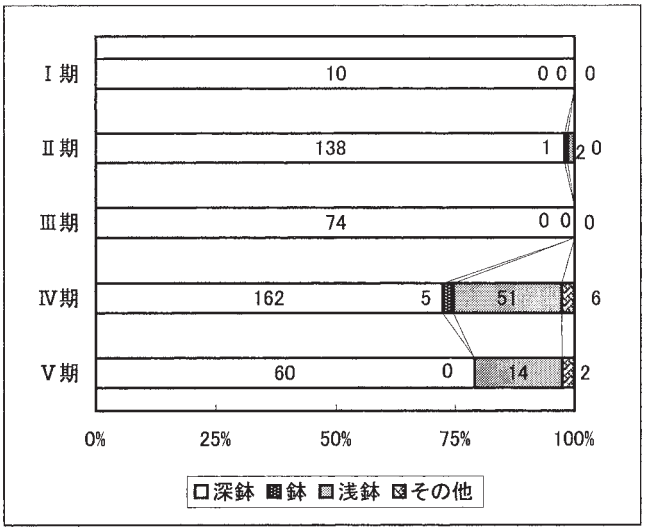
Ⅳ期（縄文時代晩期、五貫森式併行及び山田編年Ⅱa1・a2・b期）



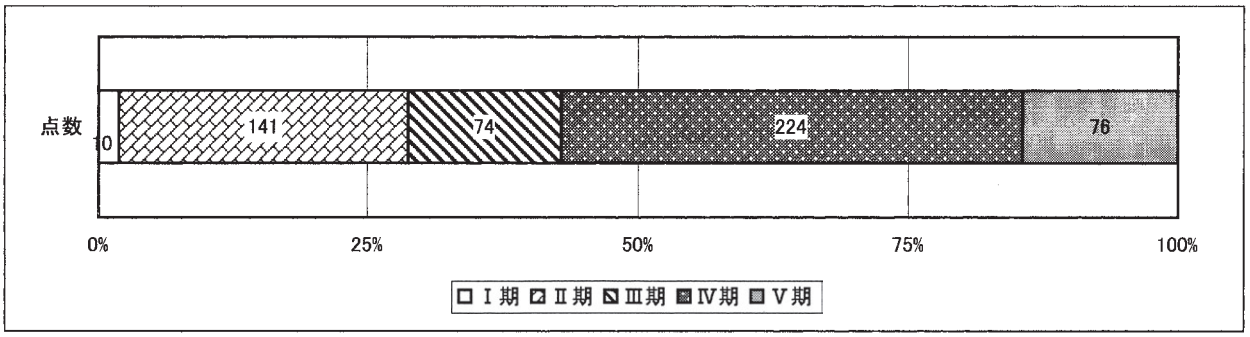
第135図　器種認定概念図



第136図　縄文時代晩期土器群の器種構成



第137図　縄文時代晩期土器群の時期別器種構成



第138図　縄文時代晩期土器群の出土量

近畿	伊勢湾西岸		大原堀遺跡	伊勢湾東岸	東北
滋賀里Ⅲｂ式・篠原式			Ⅰ期	元刈谷式	大洞ＢＣ式
			Ⅱ期	稲荷山式・桜井式	大洞Ｃ１式
滋賀里Ⅳ	鈴木・Ⅰ期	山田・Ⅰ期	Ⅲ期	西之山式	
口酒井式		山田・Ⅱa1期	Ⅳ期	五貫森式	大洞Ｃ２式
船橋式	鈴木・Ⅱ期	山田・Ⅱa2期			
		山田・Ⅱb期			大洞Ａ式
長原式	鈴木・Ⅲ期	山田・Ⅲa期	Ⅴ期	馬見塚式	
	鈴木・Ⅳ期	山田・Ⅲb期			
		山田・Ⅳ期		樫王式	大洞Ａ’式

第59表　縄文時代晩期土器併行関係

当期の器種構成としては、深鉢72.3%（162点）、鉢2.2%（5点）、浅鉢22.8%（51点）、その他2.6%（6点）である。その他の内訳としては、壺1.3%（3点）、小形土器1.3%（3点）という統計結果が出ている。注口土器については、確認できなかった。

Ⅴ期（馬見塚式併行及び山田編年Ⅲa・b期）

当期の器種構成としては、深鉢78.9%（60点）、浅鉢18.4%（14点）、注口土器18.4%（14点）という統計結果が出ている。その他2.6%（2点）である。その他の内訳としては、注口土器2.6%（2点）が確認できた。鉢、壺、小形土器については、確認できなかった（第137図参照）。

統計結果から、各期とも深鉢が主体となる器種構成であることが判明した。Ⅰ～Ⅲ期はほとんどが深鉢という器種構成であることが統計結果から読み取れる。当該期の土器群については、浅鉢が増加する傾向がみられるのだが、それはⅣ期以降にそのような傾向となるようである。三重県（伊勢湾西岸域）では、他遺跡での統計が取られていないこともあり、比較ができない状況である。時間的な制約もあり、これまで、発掘調査により蓄積された資料を活用することができなかった。今後、資料の活用とデータの増加を待ちたいと思う。

（３）今後の課題

「どこまでが縄文土器（時代）で、どこからが弥生土器（時代）になるのか。」という問題は、これまでにも多くの論考により諸説提示されている。朝鮮無文土器から弥生土器へ変遷などがそれにあたる。縄文から弥生への様々な問題は、日本列島内だけではなく、今後は、朝鮮半島もふくめた大陸との比較検討が必要となるのかもしれない。近年、三重県（伊勢湾西岸域）において、縄文時代晩期土器の資料が充実してきている。今後、これらの資料を活用し型式設定が試み、できるだけ小さい範囲の地域で編年を整備していき、それらの併行関係を整理していけば、最終的には広域の編年網が完成することになろう。このことについては、今後、別稿を期したいと思う。

（小濵　学）

３　大原堀遺跡出土石器群の検討と分析

（１）器種構成と石器組成

本遺跡から出土した石器群は、総数2965点に及ぶ。本遺跡は三重県下で近年調査された晩期後半の遺跡としては屈指の内容を有し、石器も大半が当該期の所産と判断される。

器種構成については、形態記述の冒頭に各器種名と出土点数を示した。石器組成の検討に際しては、本来ならば各土器型式ごとに点数と比率を対象とすべきだが、前述のようにそれらを正確に分離することはできない。そのため定量的な検討は各器種の点数の提示に留め、形態的特徴や出土位置などの在り方から中～後期に所属するものを適宜判断し、以下の記述を進めていく。

組成上、最も多数を占めるのは石鏃である。完成品及びその破損品149点、未成品54点の合計203点がある。但し、後述するように、形態的特徴から中期末葉から後期前葉に属するものを含むと考えられる。それらを除いても、一般に指摘されている晩期における石鏃の組成上における優位性は、本遺跡でも確認される[37]。

続いて多数を占めるのは、台石・石皿・敲石・磨石の植物質食料の調理加工具である。４者を合わせた合計は182点となるが、敲石のうち15点は、石器製作具としての槌石として分離した。また、台石１点・石皿１点・敲石（槌石）１点・磨石２点の計５点は、水銀朱付着の資料であることから、その精製具として除外され、これらを差し引いた162点を植物質食料の調理加工具として理解したい。

次に多くみられるのは、石錘である。打欠き石錘40点・切目石錘２点・有溝石錘１点がある。但し、切目石錘は切目の形成が明瞭ではなく、有溝石錘とした資料も典型的なものでないことから、打欠き石錘が漁網錘の主体として使用されているといえる。中・後期のものを一部含むとしても、出土地点と層位から判断して、晩期後半のものが一定数あると判断される。筆者らは、かつて天白遺跡（松阪市・旧嬉野町）で後期後葉を主体とする土器群に伴う石器群を検討した際に、後期後葉以降における石錘の稀少性を指摘し、貝塚を多く形成する地域との分業の可能性も提示したが[38]、本遺跡の状況を見ると、そう

した単純な理解は難しく、改めて個々の遺跡の様相を精査する必要性を痛感した。

楔形石器も64点とまとまった点数が出土している。今回剥片剥離との関係について検討を行うことができなかったが、個々の性状については形態記述の中で観察をおこなっている。

礫器は、縄文時代の石器群の中で十分な注意が払われてこなかった器種だが、筆者らが三重県下の石器群を整理・検討する中で、どの時期にも一定数が含まれていることを確認することができた。本遺跡でも、単独の器種としては第４位の57点が確認されている。多様な素材・形態をもつものが存在し、後述するように幅広い用途を担うものが含まれていると考えられる。

槌石は、上述の15点と磨製石斧破損品の転用品２点の計17点を認定した。

最後に、本遺跡出土の石器群を最も特徴付けるのは、水銀朱と考えられる赤色顔料の付着した台石・石皿・敲石（槌石）・磨石がまとまって出土していることだといえよう。本地方の縄文時代における水銀朱の利用については、奥義次氏が精力的に探求され、最新の成果がまとめられている[39]。それを見ても、本遺跡における朱付着石器の出土点数は、多数出土例といえる。土器棺墓群の形成や他の遺物の在り方から勘案して、本遺跡を形成した人々は、本地域から他地域へ朱を供給する中心的役割を担っていたとも考えられる。

（２）石材

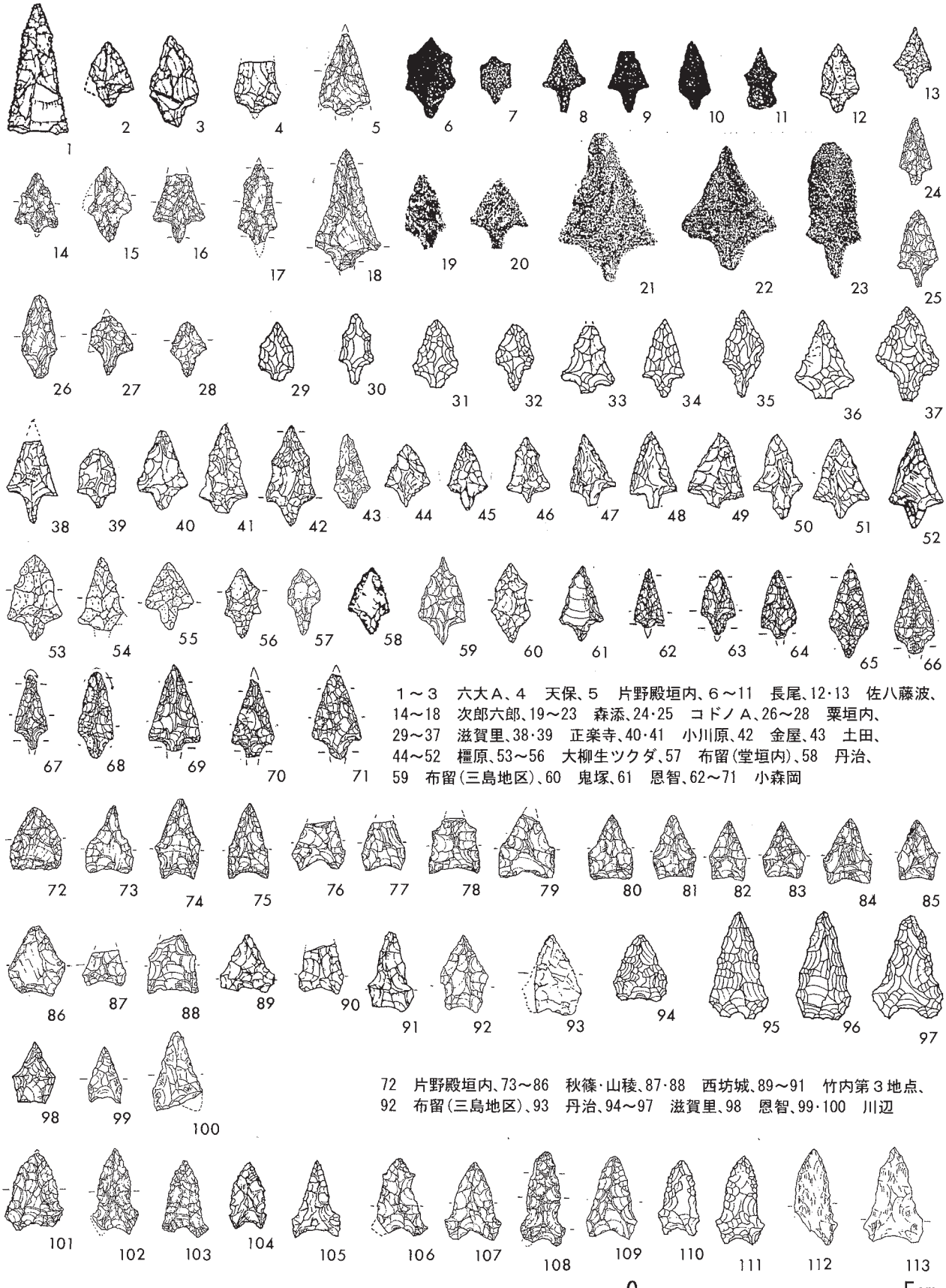
ここでは剥片石器に多用されるサヌカイト、下呂石、チャートの使用傾向を簡単にみておく。先ずサヌカイトは石鏃184点、石匙１点、削器13点、石錐17点、楔形石器38点、異形石器１点、二次加工有剥片14点、使用痕有剥片28点、剥片・砕片2121点、石核18点の計2445点と剥片石器全体の約93％を占めている。ついでチャートは石鏃３点、石匙１点、削器１点、楔形石器５点、二次加工有剥片５点、使用痕有剥片14点、剥片・砕片30点、石核14点の計73点、下呂石は石鏃16点、楔形石器14点、使用痕有剥片７点、剥片・砕片47点の計84点で、それぞれ約３％の占有率にとどまる。その他、頁岩・砂岩・片岩・花崗岩あわせて25点（約１％）みられる。

本遺跡の剥片石器における石材的特徴は、(ｱ) サヌカイトが圧倒的多数を占めること、(ｲ) 楔形石器には約38％の割合で下呂石が用いられていること、(ｳ) 石鏃には約８％の割合で下呂石が用いられ特定形態との強い結びつきがうかがわれること、(ｴ) 下呂石の楔形石器・剥片には比較的多く礫表が残されており、その礫表のあり方からその多くが円礫素材と思われるものの、大型剥片が１点のみ出土していること、(ｵ) チャートは定型的な石器にほとんど用いられていないこと、などである。

(ｱ) (ｵ) に関して、三重県内の石材利用状況として、後期になると全般的に石鏃などの剥片石器類に在地的なチャートを利用することが著しく後退し、サヌカイトにほぼ全面的にとってかわっていくことが奥義次氏によって既に指摘されている[40]。後期後半を中心とする天白遺跡、下沖遺跡、櫛田川流域・宮川流域の後期以降の遺跡の様相はそれを如実に物語っている。

このような後期以降の西からのサヌカイトの流れは、割合で他の石材を圧倒しただけではなく、著しい量的増加を大きな特徴とする。このような大きな西からの波は三重県内に留まらず、伊勢湾を経て渥美半島以東にも及び、その最盛期は後期から晩期にあるという小島隆氏の指摘から分かるように[41]、社会的な状況変化は広範なものである。大下が述べたように「石材の動きと石器器種や土器・遺構などの動きとがどのように関係しているか」を詳細に検討すべきであろうし、そのためには「個々の遺跡の在り方、特に遺構の性格と形成過程をよく見極めることがまず必要」である[42]。

(ｲ) (ｳ) に関しては、松田順一郎氏が製作実験を通して馬場川遺跡の楔形石器資料を石鏃製作のための楔形両極石核とする見解[43]に照らし合わせるならば、本遺跡の下呂石製楔形石器と下呂石製石鏃の強い関係を想定することが可能である。例えば、天白遺跡では下呂石253点の内訳が、石鏃20点、石錐４点、削器５点、楔形石器59点、二次加工痕有剥片13点、使用痕有剥片55点、剥片・砕片91点、石核６点となり、定型的な石器のなかでは楔形石器が最も多い。(ｴ) にあげたように本遺跡の下呂石を見る限り、下呂石を石核素材とする剥片剥離工程の存在を積極



1～3　六大A、4　天保、5　片野殿垣内、6～11　長尾、12・13　佐八藤波、
14～18　次郎六郎、19～23　森添、24・25　コドノA、26～28　粟垣内、
29～37　滋賀里、38・39　正楽寺、40・41　小川原、42　金屋、43　土田、
44～52　橿原、53～56　大柳生ツクダ、57　布留(堂垣内)、58　丹治、
59　布留(三島地区)、60　鬼塚、61　恩智、62～71　小森岡

72　片野殿垣内、73～86　秋篠・山稜、87・88　西坊城、89～91　竹内第3地点、
92　布留(三島地区)、93　丹治、94～97　滋賀里、98　恩智、99・100　川辺

101　片野殿垣内、102・103　次郎六郎、104・105　橿原、106・107　秋篠・山稜、
108　竹内第14次、109　布留(三島地区)、110・111　滋賀里、112・113　芝

0　5cm

第139図　近畿地方における晩期の特徴的な石鏃(1:2、但し19～23は大きさ不明)

的に示す資料はなく、また剥片・砕片の数も少ないことから、今のところ楔形石器と石鏃の関係については十分な検討を行っていないこととあわせて、大下が示したように別の観点もあり[44]、解釈は保留しておきたい。

（３）器種別検討

石鏃

未成品を含む203点の多くはＡⅢ区から出土している。既に述べたようにＡⅢ区下層包含層・遺構からは中期末葉～後期前葉の土器が出土し、量的には全体の３分の１ほどを占めている。ＡⅢ区では約６分の１が下層包含層・遺構から出土しているが、完成品をみる限り明らかに晩期に属すものが幾らか含まれていることから、下層包含層・遺構出土品の一部を除き同時期に帰属するものと考えられる。また、ＢⅠ区出土の1082・1112も形態的特徴からＡⅢ地区同様に捉えることができよう。

晩期の指標となる石鏃形態・技術のうち、ここでは平面形態に着目し、なかでも（ｱ）有茎鏃、（ｲ）身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形状の無茎五角形鏃、（ｳ）脚部が跳ねる感じとなり端部を角張らすもの＝「角脚鏃[45]」を取り上げ概観する。

以下の内容からは、石鏃形態のあり様は象徴的に取り上げられる東からの有茎鏃に収斂されるものではなく、湯浅利彦氏の西日本における五角形鏃の検討結果にも示されているように「西から」[46]の観点なり､「近畿内」の観点が必要であることが理解できる。

①有茎鏃（有茎三角形鏃・有茎五角形鏃、第139図１～71）

東海地方の有茎鏃については鈴木道之助氏の先駆的な論考がある[47]。鈴木氏は有茎鏃が東北地方から西に波及し、東海地方では、「後期の段階では……東海のいずれの地域に於いても初現は見るものの」「晩期中葉より普及を開始し、末葉に至るとやはり大きなウエイトを占めるようになる」とする。そして、晩期初頭にさかのぼる可能性もあるとしながら、晩期中葉に普遍的に存在する無茎五角形鏃と受容した有茎鏃が合わさって、いわゆる「飛行機鏃」が東海地方で発生し､その分布は「東海･中部地方のほぼ全域、および関東・北陸地方の一部に限定される」という。鈴木氏の論考発表当時の分布の西限は愛知・岐阜・富山３県ラインであったが、その30年後の関西縄文文化研究会による後期・晩期石器の集成によって、先の３県に隣接する福井・滋賀・三重３県、そして奈良県・大阪府で有茎五角形鏃の出土が確認され、また、川添和暁氏によって東海地方の後晩期石鏃の数量的傾向･平面形態･多量化･法量変化･製作･部分磨製石鏃の位置づけ・使用石材・他地域との比較など多岐にわたった検討がなされている[48]。

本遺跡では未成品３点を含む20点が出土し、その石材はサヌカイト15点・下呂石５点となっている。有茎鏃は身部が概ね三角形状を呈するＶＡ・ＶＣ類＝有茎三角形鏃と概ね五角形状を呈するＶＤ類＝有茎五角形鏃に大別できるが、後者に分類される８点の石材をみると、サヌカイト５点・下呂石３点となる。一方、有茎鏃以外の未成品を含めた183点の石材別点数をみると、サヌカイト169点・下呂石11点・チャート３点で、このうちＩＤ類＝凹基五角形鏃41点の石材をみるとサヌカイト37点・下呂石４点となる。他の下呂石製７点はＩ類・ＩＡ類・ＩＢ類・Ｄ類各１点、成品で不明1点、未成品で不明２点である。以上のことから、本遺跡での下呂石利用のあり方は有茎五角形鏃・凹基五角形鏃と強く結びつくものと理解される[49]。

三重県内で晩期のものと思われる、あるいはその可能性のある有茎五角形鏃が出土しているのは、本遺跡以外で北一色遺跡・六大Ａ遺跡（弥生時代の可能性あり）・天保遺跡・ホソダ遺跡・下宮前Ａ遺跡・佐八藤波遺跡・長尾遺跡・次郎六郎遺跡群・ヒゲノ森遺跡・登茂山東麓遺跡などである。分布状況をみると、北一色遺跡が鈴鹿川流域に、六大Ａ遺跡が志登茂川流域に、天保遺跡が中村川流域に、大原堀遺跡・ホソダ遺跡・下宮前Ａ遺跡が櫛田川流域に、佐八藤波遺跡が宮川流域に、長尾遺跡・次郎六郎遺跡群・ヒゲノ森遺跡・登茂山東麓遺跡が志摩半島に位置しており、「伊勢湾を隔てた愛知県渥美半島でのサヌカイト利用率が高い状況を考えあわせると、サヌカイト石材が二上山→（吉野川流域）→櫛田川・宮川流域およびその周辺、志摩半島→渥美半島付近という交流ルートで流れる一方、晩期後半には逆に渥美半島付近→櫛田川・宮川流域およびその周辺、

志摩半島に有茎五角形鏃がもたらされた可能性が強い。天保遺跡・大原堀遺跡・長尾遺跡では下呂石製が存在しており、東から西へ先ずは製品がもたらされ、それをサヌカイトで模倣したとも考えられる。有茎五角形鏃以外の有茎鏃は、……（略）……、宮川流域の森添遺跡、時期ははっきりしないが櫛田川流域のいくつかの遺跡でも確認され、下呂石製もみられることから、有茎五角形鏃同様に晩期における伊勢湾を介しての東から西への流れを見て取れる。ただし、これはあくまでも１つのルートであり、当然北からのルートも今後良好な遺跡情報蓄積が進めば明確になろう。」と見通しを述べた[50]。その際、触れることはできなかったが、採集資料である先のヒゲノ森遺跡・登茂山東麓遺跡も下呂石製であり、また明和町の粟垣内遺跡（中期～晩期後半）で「石鏃は百数十点を超えて採集されており……、凸基有茎石鏃が少量みられる。……下呂石は有茎石鏃の大半に使用されている」とあるように[51]、有茎鏃と下呂石は有意な関係にあるといえよう。

中勢・南勢・志摩地域への有茎鏃の波及は、有茎鏃が下沖遺跡（北白川上層３式～滋賀里Ⅲ式期）や天白遺跡（一乗寺Ｋ式～滋賀里Ⅱ式期）で出土していないこと、突帯文期の本遺跡・ホソダ遺跡で出土していることから、現時点において確実に言えることは滋賀里Ⅳ式期になってからとなる。有茎五角形鏃と有茎三角形鏃の波及時期が同時なのか、異なるのかについては、「東海地域において両者の出現時期の差は現状では把握できず、ほぼ同時に出現したようである」とされ[52]、筆者もそれ以上の知見を今のところ持ち合わせていない。

ここで三重県以西の滋賀県・奈良県・兵庫県・大阪府・京都府・和歌山県の様相をみておきたい。

滋賀県では滋賀里遺跡で９点以上、小川原遺跡・正楽寺遺跡で各2点、金屋遺跡･土田遺跡（晩期後半）で各1点の有茎鏃が出土し、そのうち小川原遺跡・金屋遺跡各１点が有茎五角形鏃である。また詳細は分からないが北仰西海道遺跡（晩期中～末）で有茎三角形鏃、福満遺跡（晩期後半）で有茎五角形鏃が少なくとも１点は出土している。滋賀里遺跡のⅢＤ区では有茎鏃が灰褐色泥土層（滋賀里Ⅱ式期主体）にみられず、黒色砂混泥土層のなかでも滋賀里Ⅳ～Ⅴ式期を主体的に含む「表面から－30㎝」から出土している。金屋遺跡の１点は下呂石製の有茎五角形鏃で、三重県と同様に岐阜県→滋賀県湖東地域への製品の流入が見て取れる例と考える。小川原遺跡・正楽寺遺跡はともに後期前半の遺跡であり、これらの有茎鏃が混入でないとすれば、時間的な隔たりから今のところ晩期の有茎鏃につながる初現的なものと見なすことはできない。

奈良県では橿原遺跡で55点、大柳生ツクダ遺跡で複数出土しているが晩期のどの時期か分からない。布留遺跡三島地区（滋賀里Ⅱ・Ⅲ式期）１点、丹治遺跡（滋賀里Ⅲ式期）１点、宮堂遺跡（晩期後半）２点が写真や図で示されている。しかし、秋篠・山陵遺跡（滋賀里Ⅲ式期中心）や西坊城遺跡（滋賀里Ⅱ～Ⅲａ期中心）では有茎鏃は出土しておらず、しかも、三重県の下沖遺跡（北白川上層３式～滋賀里Ⅲ式期）や天白遺跡（一乗寺Ｋ式～滋賀里Ⅱ式期）でも出土していないことから、久保は「奈良県内での有茎鏃出現の時期は、早くとも滋賀里Ⅲ式（下線部は「Ⅳ期」の間違い…筆者註）前後あたりとみることもできる」とした[53]。

兵庫県では篠原Ａ遺跡で有茎鏃１点が出土している他、小森岡遺跡（後期初頭主体）発掘調査区から40ｍ離れた第２地点で有茎三角形鏃が10点採集されている。いずれも凸基式、身部は長幅比1.5程の二等辺三角形状を呈す均整のとれたもので、報告した大下は形態的特徴や近畿以西の日本海側での石器石材・屈折土偶のあり方を踏まえ、日本海沿岸ルートによる東からの流入を考え、時期について正確には判断し得ないとしながら晩期前半以降とする[54]。

大阪府は鬼塚遺跡（晩期後半）で有茎五角形鏃１点、恩智遺跡第４層（滋賀里Ⅲｂ式主体、Ⅳ式・船橋式・長原式あり）で有茎三角形鏃１点、和歌山県は溝ノ口遺跡で１点出土したにとどまり、時期的に限定性をもつのは鬼塚遺跡例のみで京都府も明確な晩期の有茎鏃は出土していない。

このような状況から、近畿地方での有茎鏃の出現は大下が述べたように[55]「滋賀里Ⅲ式期よりも遅れて突帯紋出現期以降になる可能性が今のところ考えられ」、その「主要分布域は伊勢湾沿岸に留まり、琵琶湖南部から奈良盆地まで散漫に分布し、それより西

への波及は、ほぼみられない」といえよう。

②身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏃（第139図72～100）

無茎五角形鏃については、「後期前半・後半のＩＤ類は新徳寺遺跡や天白遺跡にみられるように、先端部付近に側縁の屈曲点をもつやや細身のものが中心となっているが、晩期になると秋篠･山陵遺跡・橿原遺跡・馬見塚遺跡にみられるように、屈曲点が基部方向に下がり、将棋駒形を呈するものが目立ってくる[56]」と簡単な時期的な変化を述べた。本遺跡の無茎五角形鏃についてもこの時期的な特徴に符合する。

ここでは、長さの上方３分の１あたりに屈曲点をもつ将棋駒形状の無茎五角形鏃ではなく、身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏃に限定して概観する。

この形態は本遺跡では図示した1082と図示していない1399の計２点が出土している。三重県では他に森添遺跡・片野殿垣内遺跡・北一色遺跡など晩期の遺跡で出土しているが、細かな時期や出土数は分からない。

奈良県では秋篠･山陵遺跡（滋賀里Ⅲ式期中心）や橿原遺跡でまとまった出土がみられる他、竹内遺跡（試掘第３地点包含層、滋賀里Ⅲ式期）・布留遺跡三島地区（滋賀里Ⅱ・Ⅲ式期）・西坊城遺跡でも確認できる。秋篠・山陵遺跡では屈曲点位置が最大幅となるものが目立って存在している。

滋賀県では滋賀里遺跡・北仰西海道遺跡・福満遺跡で出土しているが詳細は分からない。大阪府では恩智遺跡第５層（滋賀里Ⅲｂ式主体、Ⅳ式あり）で１点、和歌山県では川辺遺跡Ⅶ区（晩期後半）で２点出土している。

目を東に転じて伊勢湾を隔てた愛知県側をみると、牛牧遺跡・馬見塚遺跡等に散見されるが明確なものはまとまってはなさそうである。

このように、身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏃の分布の中心は三重県以西にあるようで、屈曲点位置が最大幅となるような無茎五角形鏃はほぼ三重県以西に限定されるのではないかと思われ、今のところ奈良県で確認例が多い。

③脚部が跳ねる感じとなり端部を角張らすもの＝「角脚鏃」（第139図101～113）

大下が五角形鏃の「類似形態として、上半部が五角形ないし屈曲点をもたない釣鐘形を呈し、基部直上に突出部を形成することにより、角張った脚部を作出するもの（仮称“角脚鏃”）」と表現したものに相当し、以前より滋賀里式土器との関係が漠然と指摘されていた。「脚部が跳ねる感じ」とは側縁が脚部に至るところで内に張る（膨らむ）状態を指しており、この形態は先に述べた、「身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏃」のなかでも、身部下方に屈曲点をもつものと明確に区別できない場合がある。また、各遺跡でどれほどの数が出土しているか明確でない。

本遺跡で角脚鏃とし得るのは、図示したなかでは1068～1071・1073～1975・1077・1078、写真図版の1377・1378・1402・1403・1405などである。三重県内では他に片野殿垣内遺跡・北一色遺跡・森添遺跡・次郎六郎遺跡群・登茂山西岸Ａ遺跡で出土している。

奈良県では秋篠･山陵遺跡・橿原遺跡・布留遺跡三島（木寺）地区・竹内遺跡第14次調査・芝遺跡（滋賀里Ⅲ式期）・曲川遺跡（篠原式～長原式）大柳生ツクダ遺跡・宮滝遺跡などでみられる。

滋賀県では滋賀里遺跡・北仰西海道遺跡、大阪府では恩智遺跡土器集積１（滋賀里Ⅲｂ式期）・長原遺跡で出土し､兵庫県の篠原遺跡では「石鏃約百点（うち特有の翼状のもの六〇点)」とかなり多く出土しているようである。

このようにみてくると、角脚鏃は先に述べた身部中央付近あるいは身部下方に屈曲点をもつ将棋駒形・逆ホームベース形の無茎五角形鏃以上により西側にスライドした分布域、すなわち伊勢湾以西に分布域を形成しているように思われ、(ｲ) の形態同様に時期的には晩期全般にみられるようである。また、(ｲ) (ｳ) の平面形態は有肩石鏃と呼称されるものとも重複する部分があり、整理したうえで取り上げるべきであったができなかった。

対象とした細部にわたる検討が必要と思われるが、ここでは極めて中途半端なものとなった。遺漏･誤解をお許しいただき今後新たな検討を期したい。

敲石

従来は一般的に植物質食料、とりわけ堅果類の殻割り・粉砕具として考えられてきた。但し、主に石器製作具である槌石との区分が問題となる。筆者は敲打痕の性状、位置と共に、磨面を複合しているか否かが大きな判断基準となると考えているが、ここでは詳論しない。

また、本遺跡をはじめとする三重県下の縄文時代後半の事例のように、水銀朱の精製に使用された特殊な例も存在し、用途の区分や粉化対象の特定については、形態分類や使用石材の差異といった考古学的検討だけではなく、近年積極的に進められている付着炭化物や土壌の分析が判断の一助となると考えられ[57]、今後形態や使用痕の性状と合わせて検討を進める機会をもちたい。

磨石

基本的には大半が植物質食料を中心とした食料の製粉具・押し潰し具と理解して問題ないといえよう。また、土器胎土の製粉などの食品加工以外に使用されたものが含まれる可能性も否定できない。さらに、水銀朱の精製も含まれている。敲石と同様に考古学的手法と自然科学的分析の双方からの検討が必要である。

槌石

17点を抽出した。植物質食料の調理加工具として認識されてきた敲石の一部に石器製作用の槌石を含むことは従来から想定されてきた。近年、磨製石斧や石棒など特定の石器・石製品を製作する遺跡において、その敲打作業用具としての槌石が注意されるようになり、筆者も、かつて近畿地方唯一の確実な大型石棒製作遺跡として注目された見蔵岡遺跡（兵庫県豊岡市・旧竹野町）の槌石を報告する機会を得た[58]。それらの使用痕の性状や他遺跡での在り方から判断して、今回の報告では従来敲石と記述されていたものの一部を、石器製作用の槌石として記述した。本遺跡では、その製作対象物を明確し得なかったが、主にサヌカイトを素材とする剥片石器の製作は盛んに行われている。他に未成品が確認されているものとして石剣があり、磨製石斧も製作されていた可能性があると考えている。

周辺地域では、麻生田大橋遺跡などでも磨製石斧製作に伴う槌石が確認されている。また、同遺跡では磨製石斧転用品の槌石ないし「楔」も出土している（第105図）[59]。

磨製石斧

磨製石斧は、縄文時代を代表する器種の１つであり、その在り方はやはり縄文文化の象徴ともいうべき木工技術と密接な関係をもつ。縄文時代から弥生時代の移行期にあっては、いわゆる「大陸系磨製石斧」が導入されると、技術体系が一変するかのような印象を与えるが、縄文系の技術を継承した石斧が一定数残存することが知られている。

筆者は、近畿地方と静岡県を除く東海地方の縄文時代石器群を時期ごとに概観する中で、磨製石斧についても若干の考察を行ったことがある[60]。後・晩期の磨製石斧の検討に当たって、筆者は「Ａ類＝定角式石斧」・「Ｂ類＝乳棒状石斧」・「Ｃ類＝自然礫の形状をほぼそのまま利用し、刃部のみを作出するもの」の三者に大別し、検討を加えた。その結果、後期には伐採斧・加工斧ともに「Ａ類」が使用され、晩期に至ると「Ｂ類」が主体となることを指摘した。この時点では「Ｂ類」を「乳棒状石斧」として、多様な形態をもつものを一括で理解していた。しかし、本遺跡資料の観察を通じて、今回改めて検討を行った結果、以下のように再整理することとしたい。

筆者が、定角式石斧に代わって晩期になって盛行すると理解している形態は、「乳棒状石斧」のなかでも、断面形が主として楕円形を為し、最大幅を刃部付近ないし器体下半にもち、基部に向かって幅を狭め、基部端は尖るかわずかに面を形成するという形態のもので、正円形に近い真正の乳棒状石斧とはやや異なるものである。このような形態的特徴をもつ石斧については、西井幸雄氏が東海地方と関東地方の後・晩期に属する磨製石斧の比較検討を行う中で、関東地方前期の黒浜式や中期の全面磨製の大型石斧といった従来の遠州式磨製石斧に対して、「乳棒状石斧の一型式とし、東海地方西部に於ける縄文時代後期後葉～晩期にみられる基部に敲打痕を残し刃部付近にのみ入念な研磨を施す磨製石斧」を“遠州型磨製石斧”と呼称することを提唱している[61]。筆者の「Ｂ類」としたものもほぼこれに近い理解であるといえる。

伊勢湾岸における当該期の磨製石斧については、佐藤由紀夫氏が詳細な検討を加えている[62]。佐藤氏は、麻生田大橋遺跡報告書のうち、豊橋市調査分の分類基準を単純化して用い、平面形態を４類に分類している（第141図左上）。「Ａ類」は、身部に敲打整形痕を残し、刃部のみを研磨によって作出するもの。「Ｂ類」は、器体を剥離によって作出し、刃部に研磨を施すものである。「Ａ類」は、さらに３細分されており、「Ａ１類」は「厚さが最大幅の２分の１以上の乳棒状の形態であり、遠州型磨製石斧（西井1994）と呼ばれるもの」、「Ａ２類」は「乳棒状ではあるものの、細身・小型化し、形態も指状を呈するもの」、「Ａ３類」を「厚さが最大幅の２分の１以下の扁平な形態のもの」としている。しかし、佐藤氏が分類模式図に「Ａ１類」の代表例として図示された、側縁が基部から刃部までほぼ平行となり、器幅の変わらない形態は、縄文時代の磨製石斧の形態としては一般的ではなく、逆に類例がほとんどないものである。

また、麻生田大橋遺跡の磨製石斧は製作遺跡であることを反映しているためか平面形態の変異が大きく、他の同時期の遺跡の様相も合わせて勘案すると、「Ａ１類」の中でもさらに細分が可能であると筆者は考えている。翻って、麻生田大橋遺跡の市報告書での分類をみてみると、その「Ａ１類」は「頭部の細い乳棒状をなし、断面は楕円形をなす。（中略）側縁形は刃部で幅の広まるもの、側縁がほぼ平行するもの、中央部で幅の広まるものなど多様であるが、これは主として一次工程による素材の姿により定まる要素であろう。」（傍点部は大下）としている。この記述をみると、市報告の分類では、きちんとその特徴を明示し（傍点部）、その上で多様性を指摘し、その原因も述べており、正鵠を射た記述であったと理解されよう[63]。

本遺跡出土の磨製石斧をみてみると、第108図の1250～1253がこの形態に相当する。断面がほぼ円形を為す1254～1256は、より古い様相を示すものともいえる。さらに、佐藤氏が「Ａ２類」とした細身の石斧がみられないこともが注意される。一方、志知南浦遺跡では存在するという事実から、この形態の石斧は、五貫森式段階ではまだ出現しておらず、馬見塚式段階にいたって出現し、麻生田大橋遺跡にみられるように条痕紋系土器段階に盛行すると理解されることを指摘しておきたい[64]。

他に、後期まで磨製石斧の主体的形態であった「定角式」石斧も、第107図に示したように一定数が出土し、1249のような大型の伐採斧もみられるが、これらの大半は出土位置などから土器群の約３割を占める中期末から後期前葉の土器に伴うものと理解される[65]。

本遺跡の周辺で、同時期の資料をみてみよう。幅のある土器群に伴うものが多いが、その中で、上箕田遺跡（鈴鹿市）では、西之山式の新しい部分ないしは五貫森式の古い部分という限定された時期の土器に伴って、本遺跡例と極めて近似する資料が１点（第141図１）出土している。また、周辺の岡田遺跡でもほぼ同形態の資料（第141図２）が採集されており、上箕田と同時期と理解されている。上箕田例についても佐藤氏は、「Ａ１類」としている。

前述のように、筆者は近畿地方全体でもこうした石斧が、晩期に再び増加することをすでに指摘している。土谷崇夫氏も近畿地方から中部地方の磨製石斧について検討する中で、同様の傾向を導き出している。また、中村健二氏は滋賀県下の磨製石斧について講演で触れた際に、若干の言及を行っている[66]。

縄文晩期から弥生前期の磨製石斧の在り方について、より西側の地域に目を転じてみると、紀伊半島西岸の堅田遺跡（和歌山県御坊市）では在地の片岩系石材を用いた抉入柱状片刃石斧や扁平片刃石斧が製作・使用されており、遅くとも前期Ⅰ様式中段階の時期に、そうした石斧を単なる搬入品としてではなく、製作技術体系も合わせて受容している様子をうかがうことができる[67]。一方、贄元洋氏によれば、東海地方において大陸系磨製石斧が揃うのは、中期中葉の瓜郷式段階まで下がるという[68]。

さらに、禰冝田佳男氏は石斧柄の分析から、「直柄Ⅰ類」とした形態を「縄紋時代から弥生時代早期に確認されることから、縄紋系の斧柄」として捉えている。さらに、「太型蛤刃石斧を装着できる直柄ⅡＡ類が成立するのは、弥生前期初頭から前半の時期」として、縄紋～弥生時代の過渡期の「斧」には、縄紋斧（直柄Ⅰ類＋縄紋石斧）、折衷斧（過渡的な直柄

ⅡＡ類＋縄紋石斧)、弥生斧（直柄ⅡＡ類＋弥生石斧）の三者があると指摘している。こうした石斧柄の在り方からみても、この時期には縄文系の石斧が依然として優勢であったことがわかる[69]。

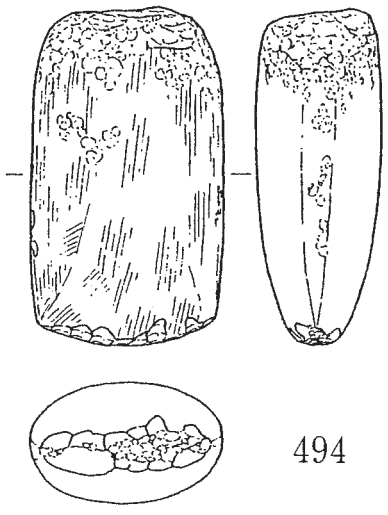
以上のような石斧や石斧柄の在り方から、同じ敲打整形の磨製石斧でも、伊勢湾沿岸地域で共通してみられ、西井氏が遠州型磨製石斧と呼ぶ、基部がすぼまり、楕円形の断面形をもつものと、その他のものとは明らかに分離すべきであり、この形態こそが当該期の主体であると理解される。一方、佐藤氏が「Ａ１類」の典型例として図示した、側縁が平行し、長方形に近い平面形をもつ形態は、太形蛤刃石斧がそうであるように、いわゆる「弥生斧」的な特徴であり、そうした視点からこの石斧をみると、これが樫王遺跡の出土品であることは示唆的である。

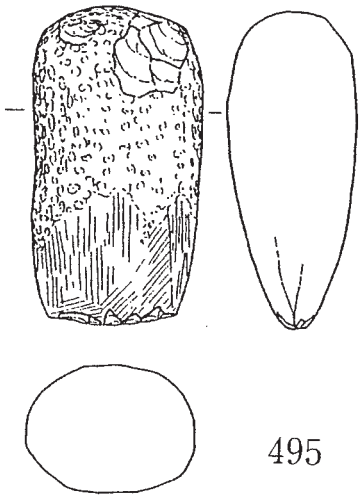
晩期にいたって「定角式」石斧がほぼ消滅し、「先祖返り」ともいうべき敲打整形斧が主体となることは、伊勢湾沿岸においては、伐採斧が技術的には「敲打整形」を残すという縄文時代以来の在り方を維持しながら、徐々に弥生化していく様子が、ここに表現されていると理解したい。但し、こうした敲打整形痕を残す磨製石斧が、西井氏が指摘されるように東からの影響によって出現している可能性が考えられることは、今後詳細に検討する必要があろう。また、こうした石器製作にみられる変化が、他の要素とどのように関係しているのかを有機的に検討することが、今後の課題だといえる。本稿は一遺跡のみ検討で、紙幅も限られているため、今後改めて、当該期の磨製石斧について検討する機会をもちたい。

礫器

礫器は和歌山県高山寺貝塚で注目され、大分県早水台遺跡の調査以降、賀川光夫氏や橘昌信氏などによって検討されることとなる。そして、縄文時代早期にみられる特徴的な石器の一つとして理解されるとともに、縄文時代全時期を通して存在することも指摘され、多様な機能・用途が想定された。

九州地方では主に大分県を中心とする縄文時代早期の遺跡から礫器が出土している。近年の論考をみると、荻幸二氏が大分平野出土の礫器を取り上げ、種々の検討から礫器の機能を「切断・折断・圧潰・裁ち割り・裁ち切りなど」と予察し、「どちらかというと縄文早期のうちでも「礫器文化」は前半期に盛行し、後半期には減少の傾向を見せ、中期以降衰退すると考えられる」とする。そして、早期に礫器がまとまって出土する背景として、他時期に「一定以上の数量の認められる石斧が、早期の段階には余り目立たないという事実が介在している」ことを想定している[70]。また、清水宗昭氏によれば「九州においては、後期旧石器から縄文早期後葉に至るまで連綿と礫器の伝統は継続され」「その断絶は、磨製石





第140図　磨製石斧転用槌石・「楔」(1:2)　※註42文献・石器実測図(17)より。原典器種名は磨製石斧

斧が急速に増加する縄文時代前期に置かれるものと考えられる。」という。そして、「片刃礫器がとくに樹木の伐開等の粗い作業に使用された可能性が大きいことから、それに替わる磨製石斧の定着と盛行は、必然的に機能が重複する礫器類の衰微につながっていったものと推定」している[71]。

なお、両論考には参考文献として取り上げられていないが、鈴木重治氏が早期押型文土器に伴出する礫器の理解として「縄文時代の早期につづく前期以後の遺跡で普遍的に出土する石器のうち、工具としての磨製石斧や土掘り具としての打製石斧などの一般に石斧と呼ばれる石器の出土がきわめて稀であり、まず無いということである。」と1988年にすでに論じている[72]。

中国・四国地方については、敦賀啓一郎氏が縄文時代草創期～晩期の石器組成分析を行うなかで示された主要遺跡の石器組成一覧表が参考になる[73]。これによれば、礫器の出土遺跡はわずかで、例えば早期は23遺跡のうち西ガガラ遺跡第１地点と帝釈弘法滝洞窟で各１点出土しているのみで、前期は14遺跡中１遺跡２点、中期は７遺跡中なし、後期は35遺跡中３遺跡で７点（平城貝塚）・４点・２点、晩期は27遺跡中なしである。ただし、一覧表以外の遺跡での出土例もある。例えば、早期では上黒岩岩陰・宝伝岩陰遺跡・江川中畝遺跡・黄島貝塚などである。

近畿地方では1939年に高山寺貝塚の報告で注目され、1988年に鈴木重治氏が近畿地方も含めた西日本の押型文土器伴出の石器のなかで礫器を論じて以来、積極的な形で検討の俎上に上がることはなかった。とはいえ三重県内では、礫器が中勢・南勢地域、志摩半島から熊野灘にかけての沿岸部・河川流域の遺跡で、発掘調査での出土のみならず、郷土史家によって1950年代以降採集されていたことが知られていた。しかし、かつてヨナゴ浜出土の「礫核石器」が「わが国最古の石器」の見出しで新聞報道されたことが象徴するように、礫器は原始的特徴ゆえに時期の比定が難しい石器であり、これが積極的な評価がなされなかった一つの理由かと思われる。

1990年代に入り、鴻ノ木遺跡（早期前半）で442点と大量に出土したことから、その報文において筆者らは県内縄文時代早期の遺跡を取り上げながら少しばかりの検討を行った。鴻ノ木遺跡ではいろいろな制約があるなか、調査担当者の判断により発掘調査区内のすべての石が回収され、整理段階でその膨大な量の石のなかから石器を選び出す作業や遺構埋土の水洗選別を行い、多くの石器類を抽出することができた。同様な調査法によって、前期後半の山添遺跡で10点、後期前半の新徳寺遺跡で５点の礫器が確認されている。晩期後半の本遺跡でも58点もの出土をみた。

今のところ三重県内でのあり方は地域的・時期的な出土数の多寡はあろうが、早期から晩期にかけて構成される石器といえる。愛知県・岐阜県についても、近年の集成結果から同様の状況を読み取ることができる。

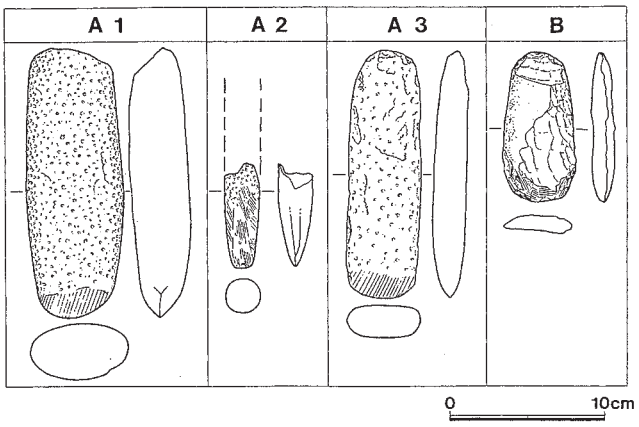
今回、本遺跡資料の十分な検討を行っていないことから若干の特徴を述べることしかできない。それは、(ｱ) 片刃礫器が大部分で両刃礫器は僅かであること、(ｲ) 棒状礫や大型剥片を素材とする少数例を除けば、大多数は一定の厚みをもつ円礫・楕円礫に加工を行い、掌中に収まるようなサイズに仕上げていること、(ｳ) 刃部（加工部位）の平面・断面形態はどの程度の機能・用途差、使用段階の違いを示すのか分からないが一様でないこと、(ｴ) 加工部位を肉眼観察すると、つぶれ・微小剥離（刃こぼれ）・折れなどが幾らか確認できるが、使用石材が砂岩を中心としており、製作時の痕跡か使用時の痕跡か分別し得ていないこと、(ｵ) 磨石・敲石類を転用して製作している例がみられること、などである。これら諸特徴は同じ櫛田川流域に位置し時期の異なる鴻ノ木遺跡と比べても特に相違点を見いだせない。

今後、礫器をもつ遺跡ともたない遺跡の石器組成、河川流域や沿岸部など立地差における礫器形態、礫器の属性、使用痕、などそのあり方を検討していく必要がある。

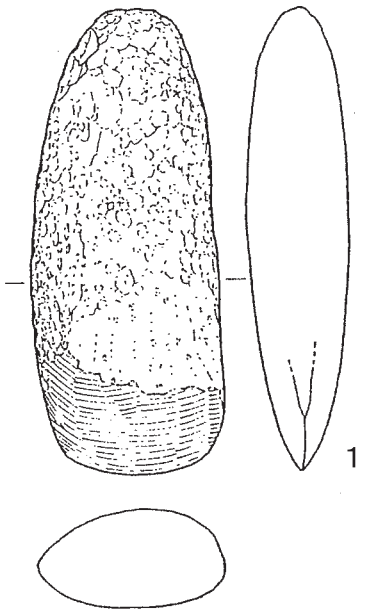
石刀

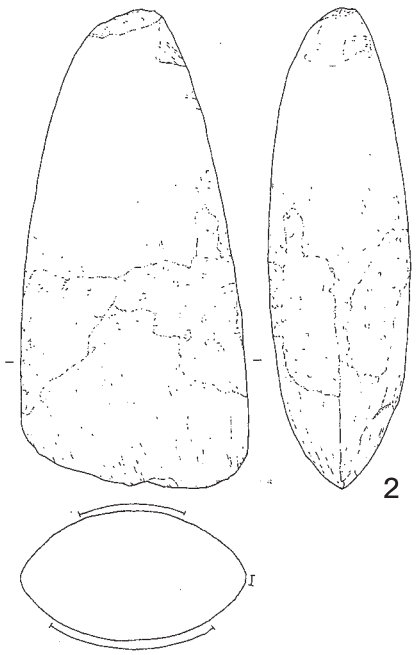
今回の調査では、把頭部破片１点・身部破片２点・身部未成品破片２点の合計５点が確認された。このうち把頭部の破片は、三重県下の同形態の資料としては初の有紋品であり、分布論的にも重要な位置を占めるものである。

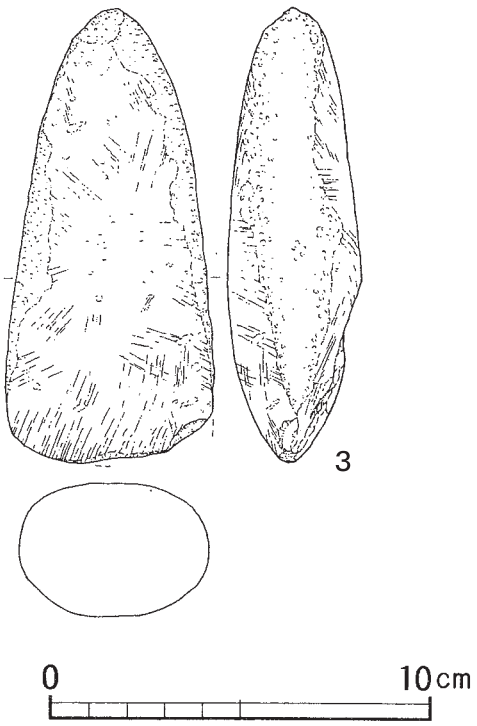
今回出土した有紋把頭部の破片は、身部を欠損す



佐藤由紀男氏による磨製石斧分類（佐藤 1999）
（Ａ１－樫王遺跡，Ａ２・Ｂ－麻生田大橋遺跡，
Ａ３－五貫森遺跡）







（１－麻生田大橋遺跡，２－上箕田遺跡，３－岡田遺跡）

第141図　佐藤由紀男氏による磨製石斧分類と各地の磨製石斧(1:2)

るが石刀の把頭部であると推定される。また、他の身部破片もその断面形から石刀であることがわかる。出土資料に対する具体的検討の前に、まず石刀をはじめとする石製品、とりわけ今回出土したような形態の石刀の出自の問題を中心として、筆者の基本的理解を述べておきたい。

縄文時代の磨製棒状石製品のうち、後期以降に急増する小型品について、断面が円形を呈するものを「石棒（小型石棒）」とし、一方の側縁に刃部を形成する「くさび形」の断面形をもつ「石刀」、鏃を形成する菱形ないしは扁平な楕円形を呈する「石剣」という三分法が一般に使用されている。筆者は、この断面形による三分法は、単なる断面形の三区分という意味では踏襲するが、同じ理解を採らない。つまり、旧稿[75]でも述べたように、ほぼ円形を呈するものを「石棒」とは理解・呼称しないということである。ここで改めて、三者の関係を次のように整理する。

ます、現在こうした石製品の理解の基礎となっている論考として、後藤信裕氏が、「小型石棒」・「石刀」・「石剣」を総称して「刀剣形石製品」と呼ぶことを提唱されたものがある[76]。これに対して、筆者は従来「小型石棒」と呼ばれていた、断面が円形を呈するもののうち、両端に突出した可飾を付すものは、刀剣の「着鞘形態」と理解し、一方の端部に把頭の表現と理解される可飾をもち、身部の断面形が「刀形」もしくは「剣形」をとるものは､刀剣の「抜き身」状態をそれぞれ表現したものと考え、「抜き身形態」と呼称する。

後藤氏はそれらを細分する中で、断面が丸く両端ないしは一端に可飾をもつ形態を「興野型」石棒と呼んで、型式設定している[77]。但し、その標式となった遺跡名から「成興野型」が正しいことは、すでに西脇対名夫氏をはじめ筆者らが指摘したところである[78]。

西脇氏は、こうした形態の石棒は、中国大陸の青銅製剣が日本に渡来し、それをモデルとして、石剣（後藤氏の「興野型」）が成立したというモデル論とその後の同形態の展開に対する理解を提示された[79]。

筆者もかつてこの形態の刀剣形石製品について、若干の検討を加えたことがある。

まず、近畿地方の縄文・弥生移行期を中心とした石製品の集成を行った際には、「成興野型」石棒という名称で各資料を概観した[80]。その後、兵庫県下の採集資料を検討する中で、前述の西脇氏による大陸の青銅製刀剣を模倣したとするモデル論を踏まえ、直身であることから「剣」として捉えて、改めて「成興野型石剣」として呼称し、その理解を提示した[81]。

こうした刀剣形石製品は、主として東日本を中心に分布するが、三重県下はその西縁にあたると理解されている。さらに「成興野型石剣」をはじめとする把頭部を作出する刀剣形石製品は、滋賀県以西の近畿地方では、極めて少ない。特に「成興野型石剣」はごく一部の搬入品と推定される事例を除いては出土しておらず、主要分布域ではないことは、すでに指摘したとおりである。加えて、それ以西の地域では、五指に満たない出土点数であり、その資料の評価についても、若干の言及を行っている[82]。

さて、本遺跡で出土した資料は、後期後葉に出現したと考えられる「成興野型石剣」が各地で変容することによって成立した形態である頭部を形成する「石刀」の一種だと、筆者は考えている。前出の後藤氏の分類では「小谷型」石刀と呼称されている形態に相当する。

出土資料は、把頭部が石理に沿って縦に半截した破片で、推定される全形は、残存部の長さや類例から判断して、形態記述の項でも述べたように30㎝前後を測る。石材は片岩製であり、在地で製作されたと理解しておきたい。

次に、紋様構成を観察してみよう。主要分布域の類例は、一組の三叉紋を縦方向に連結するものが多いが、本資料は形態記述でも述べたように、側面での状況が破損のため不明であるものの、少なくとも表裏面では、３段の連続三叉紋が横方向に展開していることが観察される。こうした紋様構成の差異は、分布の縁辺部に存在していることが反映されている可能性が考慮されよう。

三重県下では、本形態の石刀は従来知られておらず、本遺跡と相前後して調査された前述の志知南浦遺跡において、土器棺墓群域から把頭部無紋の同型品が出土している。本遺跡例が把頭部の破片のみであるのに対して、南浦例は、切っ先をわずかに欠くものの、ほぼ全形をうかがうことができる資料であ

る（第142図）。石材は緑色片岩である。本遺跡例が、身部の破片も含めてシャープな作りであるのに対して、南浦例は全体にぼってりとした印象を受ける。南浦遺跡の土器群は、前出のように本遺跡よりも新しい時期を主体とするもので、南浦例が無紋である点や形態差は、時期差を反映している可能性もある。

第142図に本遺跡とその周辺地域の資料によって、後期後葉以降の刀剣形石製品の変遷案を示してみた[83]。本地域は、縄文時代後半期に日本列島の東半に卓越する刀剣形石製品の主要分布域の西に接する外縁部にあたると理解され、出土例はこの図に示したものがほぼ全てといっても過言ではない状況である。

また、所属時期については、後藤氏は「小谷型」石刀を晩期の中葉としているが、本事例はそれよりもやや下がる時期のもので、南浦例がそれよりも更に新しくなる可能性があることから、同形態の石刀の継続時期は、後藤氏が想定したよりも終末が下降する可能性がある。

ここでは、一遺跡の報告の中での考察という制限もあり、今後本形態の石刀を含む本地域の刀剣形石製品について、今少し検討を進めてみたい。

遺構構成礫と石器・石製品

筆者らは先に述べた鴻ノ木遺跡での石器・石製品の選別作業に関わるなかで認識するに至ったことの１つは、遺構構成礫といえども石器・石製品と無関係とは限らないということである。通常、縄文時代の遺跡ではいわゆる川原石が多く出土するが、それらは集石等の遺構構成礫と認定されないかぎり、消極的ながらでも何らかの意味づけがなされることはほぼないといえよう。

久保は平成15年４月27日に初めて本遺跡の「石」をみる機会を得、翌日調査担当者に簡単なコメントを送信した。その内容の一部をそのまま抜き出すと、「②単独で現場で取り上げられた礫の一部は、遺構として取り上げられた礫との類似性から、本来的には遺構（集石、配石、立石、土壙墓など）に関係するものであった可能性が高い。

③単独で現場で取り上げられた礫には割れ面をもつものが多くみられ、その面の観察から大部分は意図的に割られたものと思われる。また、火はじけによるものと思われる剥落痕跡もみられる。ただし、表面が赤化した礫については、受熱による赤化と脱水等で鉄分の沈着による赤化があり、注意が必要である。

④意図的に割られた面をもつ礫には、敲石、磨石、石皿・台石類も含まれる。

⑤したがって、「礫を割る行為」が何らかの意味をもつ行為であると考えられる。このような同様の行為は晩期のみならず、例えば早期の鴻ノ木遺跡、後期の天白遺跡でもみられる。

⑥立石・配石と認定された礫は、角柱状のもの、長楕円形（なまこ形、フランスパン形）状のもの、円盤状のもの、まな板状のものなど、多様である。

⑦立石の中には、角柱状を呈し、石皿・台石類の機能部の一部と思われる平滑面を留めるものがある。

⑧したがって、「礫を割る行為」の一つは、石器を遺構構成礫に転用するという行為であるが、何故に石器を転用するのかという意味づけが課題となる。

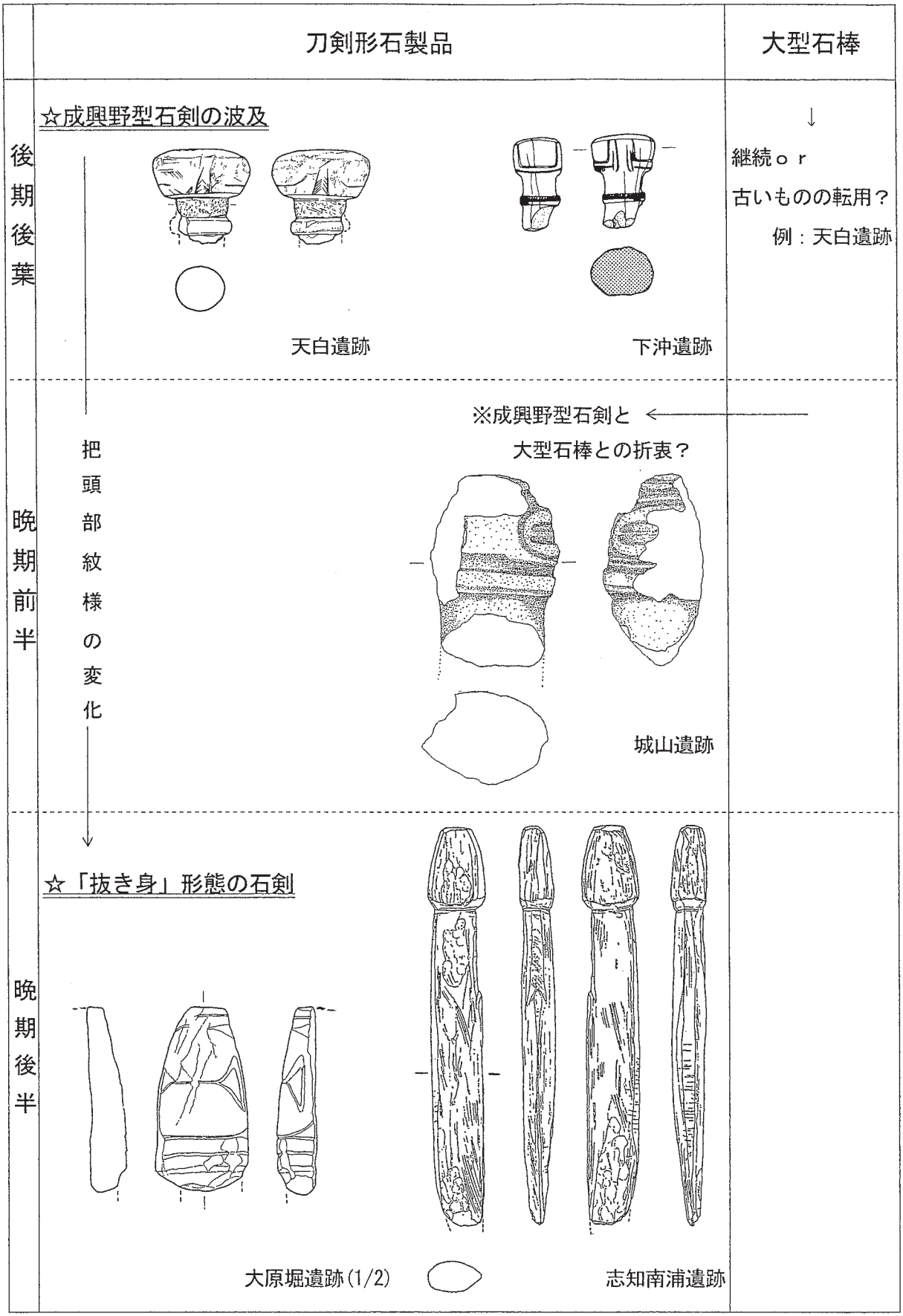
⑨黄白色のまな板状の割れた礫が異なるグリッド間で接合した。「礫を割る行為」を考える上で、時間的な問題等はあるが、特徴的な外観を呈する割れた礫の接合作業を試みることも意味があると考える。

⑩礫片の中には刃こぼれ状の剥離痕がみられたり、縁辺が摩耗した感があったり、腹面中央部に研磨痕（あるいは砥石の機能部）を留めているものなど、石器として使用がみられる。」

以上である。他に参考となる遺跡に奈良県宮の平遺跡（早期中心）がある。ここでは772点ある磨石・敲石類や石皿類の大半が集石遺構・竪穴住居の可能性のある遺構から出土している。筆者らが調査現場を訪れた際、鴻ノ木遺跡での経験から集石遺構に注視したところ、構成礫に意図的な剥離痕跡をもつものが幾らか含まれていることが確認できた。

本遺跡において具体的には石皿1178が立石SS65、台石1755が立石SS63に転用されており、今後、遺構構成礫や一見遺構構成礫と思われないものについても「石器が含まれる」という意識をもって観察する必要がある。

本遺跡の今回の調査成果は、これまでまとまった石器群が少なかった晩期後半の資料として、良好な石器・石製品を得ることができたことにある。小稿



第142図　三重県の後期後葉～晩期の石剣形石製品変遷表（試案）（大原堀遺跡以外は1:4）

が遺跡の理解に対する一助となれば、幸いである。

最後に、志知南浦遺跡の石刀への言及と図の使用許可を頂いた調査担当者に感謝申し上げたい。

（大下　明・久保勝正）

4　自然科学分析からえられた知見

大原堀遺跡第２・３次調査において、花粉分析、微細植物遺体分析、骨同定、リン酸分析を行った。各分析の目的と結果については、以下に述べたいと思う。

（１）花粉分析

古植生に関する情報をえて、遺跡の古環境を復元することにある。結果としては、遺構が確認できた層で、花粉化石やシダ類胞子がほとんどみられないことが判明した。今回の分析は、縄文時代の植生環境を表しているとは言い難いものであった。今後、周辺の古植生の情報の蓄積が待たれるところである。

（２）微細植物遺体分析

墓とされる遺構の土壌試料を水洗することで、肉眼では確認できない遺物等を確認することにある。墓と考えられる遺構、ＳＸ29・31・37・39・40・43・48・50、ＳＫ56を対象とした。結果としては、炭化材・動物遺骸を微量確認することができたものの、種類を特定するには至らなかった。

（３）骨同定

墓と想定されている遺構の、遺体埋納の検討を行うためである。墓と考えられる遺構、ＳＸ38・40・45、ＳＫ56･73･74、Ｐｉｔを対象とした。同定の結果、人骨は確認されず、イノシシ、ニホンジカ、獣骨の骨片であることが判明した。ＳＸ45出土骨は、現在ではみられないような大形のイノシシであることが判明した。また、いずれの骨片も被熱しているものであり、儀礼的な何かに使用されていた可能性があるのかもしれない。松阪市天白遺跡でも骨片の出土が確認されている。縄文時代の精神世界を考える上で、情報の蓄積に貢献するものといえよう。

（４）リン酸分析

骨同定と同様に、墓と想定される遺構の、遺体埋納の検討を行うためである。墓と考えられる遺構、ＳＸ29・31・37・39・40・43・48・50、ＳＫ56を対象とした。すべての土壌から、自然状態よりリン酸の濃集を確認することができた。いずれの遺構にも骨が埋納されていた可能性があることが判明した。ただ、先述にもあるように、骨は人骨ではなく、一概に遺構の性格が墓とは言い難い状況と思われる。遺跡周辺から持ち込まれた骨が遺構埋土に混入した可能性もあり、獣類の埋納も考えられなくもないが、断定はできないと思われる。

（５）発掘調査と科学的な手法

このように、発掘調査からえられる情報が、科学的な手法を導入することにより、飛躍的に増加したことは、紛れもない事実である。実際、発掘調査からえられた試料から、科学的な手法を介して大きな成果がえられる場合も多いといえる。しかしながら、安易に科学的手法に依存し、結果を盲信するのは良い状況とはいえない。目的を明確にもち、情報を確実に読み取る努力を怠らないことが肝要ではないだろうか。

（小濵　学）

5　総　括

大原堀遺跡第２・３次調査の成果としては、以下のことがあげられる。列記して総括としたい。

①櫛田川中流域の河岸段丘上に立地し、遺構検出面が複数存在する複雑な土層堆積状況を呈する遺跡であることが判明した。

②縄文時代前期から晩期、奈良時代（８世紀）～中世（15世紀）の遺構あるいは遺物を確認することができた。

③縄文時代晩期の土器棺墓、土壙墓や立石を多数確認することができた。調査地点については、縄文時代晩期には墓域である可能性とともに、当時の埋葬の状況や墓域と居住域との位置関係、当時の人々の住居形態を考える上で、多くの情報を得ることができた。

④縄文時代前期から晩期の土器が多数出土した。特に、晩期土器群については、西日本系、東海系、東日本系の土器が確認でき、当該期土器群の拡散状況から、日本列島の広範囲で地域間の交流が当時行わ

れていた可能性がある。

⑤大量の縄文時代石器群を確認することができた。石材については、サヌカイトや下呂石の使用が確認でき、晩期土器群と同様に当時の人々の汎日本列島における地域間交流を窺える。

⑥縄文時代晩期土器群にみられる朱彩土器や縄文時代晩期のものと思われる朱付着の石器の存在から、縄文時代晩期には、中央構造線に近接する辰砂産出地域という地理的な特徴を生かした朱の生産と使用が大原堀遺跡では認められる。

⑥自然科学分析を行うことで、肉眼では観察できない土壌に含まれるリン酸の濃集から対象の縄文時代遺構群が墓の可能性があることが判明した。

⑦縄文時代遺構等から出土した骨片の骨同定を行ったことで、骨片のすべてが被熱のみられる獣骨であり何らかの儀礼に使用されていることが判明し、縄文時代晩期の儀礼の一端が窺える情報を考古学的手法以外のアプローチからえることができた。

（小濵　学）

［註］

①三重県教育委員会「上ノ広遺跡」（『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告－第１分冊１－』1989年）

②前掲註①

③松阪市史編さん委員会『松阪市史第二巻史料篇考古』（1978年）

④前掲註①

⑤前掲註①
松阪市教育委員会『王子広遺跡発掘調査報告書』（1990年）

⑥前掲註⑤下段文献

⑦前掲註⑤下段文献

⑧勢和村史編集委員会『勢和村史　通史編』（1999年）

⑨縄文晩期の土器棺墓が多く検出される遺跡の多くは当遺跡と同様の状況で、「土盛り」が行われた可能性が下記の文献等で想定されている。
中村健二「縄文晩期土器棺墓の調査方法についてー近畿地方の場合ー」（『紀要』第９号　財団法人滋賀県文化財保護協会　1996年）
川添和暁「東海地域における「墓場」の様相」（『墓場の考古学』第13回東海考古学フォーラム実行委員会　2006年）

⑩前田清彦「土壙墓の性格」（小杉康他編『縄文時代の考古学９　死と弔いー葬制ー』同成社　2007年）

⑪酒井巳紀子「結語　２　縄文時代の調査成果」（『志知南浦遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター　2008年）

⑫伊勢湾東岸地域で検出された土器棺墓について、近接する土器棺墓の主軸方位が同一か逆方位、あるいは直交方位である事例が認められており、同様の傾向があることが指摘されている（前掲註⑩文献）。

⑬鈴木克彦「伊勢湾沿岸地方における凸帯文深鉢の様相ー伊勢地方からの視点ー」（『三重県史研究』第６号　三重県　1990年）
山田猛「伊勢の突帯文土器ー野々田遺跡と蛇亀橋遺跡を中心にー」（『いちのみや考古』終刊号（通巻№20）一宮考古学会　2006年）

⑭佐野　元「突帯文土器出現以前ー所謂「稲荷山式」「桜井式」の評価ー」（『突帯文土器から条痕文土器へー伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まりー』第１回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会　突帯文土器研究会　1993年）

⑮前掲註⑭

⑯前掲註⑭
野口哲也「突帯文土器」（『突帯文土器から条痕文土器へー伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まりー』第１回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会　突帯文土器研究会　1993年）

⑰伊勢湾周辺地域で検出された晩期の土壙墓（埋葬人骨）について、近接して埋葬された人骨の主軸方位（頭位方向）が同一か逆方位、あるいは直交方位である事例が多くの貝塚遺跡で認められることが指摘されている（前掲註⑩文献）。

⑱前掲註⑩文献。

⑲前掲註⑩文献。

⑳瀬川拓郎「「環状土籬」の成立と解体」（『考古学研究』第27巻第３号　考古学研究会　1980年）
山田康弘「縄文人骨の埋葬属性と土壙長」（『筑波大学先史学・考古学研究』第10号　筑波大学歴史・人類学系　1999年）
以下、本文での分析は上記の文献による。

㉑前掲註⑳の山田論文では、伸展葬の事例が幼児・小児・青年期の段階でないものの、思春期と壮年期以降では0.3mほどの差があり、年齢段階が上がるにつれて土壙長が連続的に大きくなることが指摘されている。従って、近似するデータのある思春期段階と推定した。

㉒前掲註⑳の山田論文では、埋葬遺体の腰及び膝関節の角度が土壙長に直接的な影響を与えるとして、屈葬に関して３パターンのデータを提示しているが、ここではこれらのデータに近似した年齢段階に推定した。

㉓前掲註⑭

㉔前掲註⑬

㉕前掲註⑭

㉖前掲註⑬
㉗前掲註⑯
㉘田村陽一「縄文集落の立地と規模－伊勢湾西岸地域の場合－」(関西縄文文化研究会編『関西縄文時代の集落・墓地と生業　関西縄文論集１』六一書房　2003年)
㉙前掲註⑨川添論文
㉚前掲註⑨川添論文
㉛前掲註⑩
㉜中村健二「墓制の変遷」(第２回関西縄文文化研究会発表要旨集『関西の縄文墓地－葬り葬られた関西縄文人－』関西縄文文化研究会　2000年)
㉝名張市教育委員会『下川原遺跡第３次調査概要』(2000年)　前記文献では総数26基のうち、滋賀里Ⅲａ式が８基、同Ⅲｂ式が17基、同Ⅳ式が１基とされている。
㉞前掲註⑪文献
㉟三重県埋蔵文化財センター『丸野・中谷遺跡発掘調査報告』(2003年)
㊱中村健二「西日本の葬・墓制」(小杉康他編『縄文時代の考古学９　死と弔い－葬制－』同成社　2007年)
㊲石川日出志「伊勢湾沿岸における縄文時代晩期・弥生時代の石器組成」(『〈条痕文系土器〉文化をめぐる諸問題』研究編、愛知考古学談話会、1988年)
石黒立人「突帯文土器期から条痕文系土器期の石器について」(『第１回東海考古学フォーラム・豊橋大会　突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり－』同大会実行委員会・突帯文土器研究会、1993年)
㊳大下　明・久保勝正「Ⅶ考察　(３)石器・石製品」(『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1995年)
㊴奥　義次「朱の生産と供給」(『縄文時代の考古学６　ものづくり－道具製作の技術と組織－』同成社、2007年)
㊵奥義次「第一章　原始」(『飯高町郷土誌』飯高町郷土誌編纂委員会、1986年)
㊶豊川市教育委員会『麻生田大橋遺跡発掘調査報告書』(1993年)
㊷大下明「関西における縄紋時代後・晩期石器群の概要」(『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年)
㊸松田順一郎「楔形両極石核の分割に関する実権－縄文時代晩期サヌカイト製打製石鏃製作技術の復元に向けて－」(『光陰如矢－荻田昭次先生古稀記念論集－』「光陰如矢」刊行会、1999年)
㊹㊷に同じ。
㊺㊷に同じ。
㊻湯浅利彦「「五角形鏃」小考－西日本における縄文時代晩期を中心とした打製石鏃の素描－」(『真朱』創刊号　徳島県埋蔵文化財センター、1992年)
㊼鈴木道之助「縄文時代晩期における石鏃小考－所謂飛行機鏃と晩期石鏃について－」(『古代文化』26－７　古代学協会、1974年)
㊽川添和暁「東海地域における縄文時代晩期の石鏃について」(『関西縄文時代における石器・集落の諸様相　関西縄文論集２』関西縄文文化研究会、2005年)
㊾小山憲一「大原堀遺跡出土の石器」(『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年)
㊿旧稿において遺漏・誤認があり、有茎鏃の出土遺跡例も極力表面採集資料を含め新たに加えている。ただし、旧稿での主旨に基本的に変更はない。久保勝正「縄文時代後期・晩期の石鏃について」(『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年)、久保勝正「近畿地方の黒曜石・下呂石」(『関西縄文時代における石器・集落の諸様相　関西縄文論集２』関西縄文文化研究会、2005年)
(51)森田幸伸ほか「第１章　旧石器・縄文時代」(『明和町史　史料編　第一巻　自然・考古』明和町史編さん委員会、2004年)
(52)㊽に同じ。
(53)久保邦江・久保勝正「奈良県における縄文時代後期・晩期の石器群について」(『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年)
(54)㊷、竹野町教育委員会『小森岡遺跡』(1990年)
(55)㊷に同じ。
(56)久保勝正「縄文時代後期・晩期の石鏃について」(『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年)
(57)渋谷綾子「〈史料紹介〉佃遺跡・更良岡山遺跡の石皿および三宅西遺跡の土器付着物における残存デンプン」(『古代文化』第59巻第２号、財團法人古代學協會、2007年)
(58)大下　明「石器および石製品」(『見蔵岡遺跡　其の二』竹野町教育委員会、1997年)
(59)豊橋市教育委員会(『麻生田大橋遺跡発掘調査報告書』、1993年)
(60)大下　明「関西における縄紋時代草創期・早期石器群の概要」(『縄文時代の石器－関西の草創期・早期－』関西縄文文化研究会、2002年)
大下　明「関西における縄紋時代前・中期石器群の概要と石器組成の検討」(『縄文時代の石器　関西の前期・中期』関西縄文文化研究会、2003年)
大下　明「関西における縄紋時代後・晩期石器群の概要」(『縄文時代の石器　関西の後期・晩期』関西縄文文化研究会、2004年)
(61)西井幸雄「静岡県西部における縄文時代の磨製石斧」(『転機』第５号、転機同人会、1994年)
(62)他に製作段階で４分類し、両者を組み合わせているが、ここでは平面形態のみを採り上げる。佐藤由紀男「第６章　伊勢湾周辺の突帯紋系・条痕紋系土器期における磨製石斧の生産と流通」(『縄文弥生移行期の土器と石器』雄山閣、1999年)
(63)㊽文献参照

㊹関西縄文文化研究会第６回研究集会の際には、佐藤氏が「Ａ２類」とした細身の石斧が、大原堀遺跡と出土していると述べたが（註㊷文献・大下2004）、同時期に遺物を実見した志知南浦遺跡と混同して、誤認していた。研究集会の際にその誤認に気付いたが、訂正できなかったため、この場を借りてお詫び申し上げ、訂正しておきたい。

㊺例えば、筆者らが石器群を検討した後期後葉の天白遺跡（松阪市・旧嬉野町）では、24点の磨製石斧のうち、自然礫の形態を生かして刃部のみを研磨で作出したイレギュラーなもの１点と破片刃部などの破片５点を除くと、形態を判断できるものは、すべてが「定角式」石斧によって占められている。

大下　明・久保勝正「Ⅶ考察　（３）石器・石製品」（『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1995年）

㊻㊾文献のうち、大下2004参照。

土谷崇夫「関西地方の後晩期における磨製石斧の地域性－形態・石材・大きさを主に－」（『縄文時代の石器　関西の後期・晩期』関西縄文文化研究会、2004年）・中村健二「湖辺の縄文時代遺跡」（『丸木舟の時代』サンライズ出版、2006年）。

㊼御坊市教育委員会・御坊市文化財調査会『堅田遺跡－弥生時代前期集落の調査－』（ 2002年）。遺物の実見に際して、お世話になった中村貞史・久貝健・川崎雅史・立岡和人の各氏に感謝申し上げたい。

㊽贄元洋「伊勢湾岸における弥生時代前期の土器様相」（『転機』第５号、転機同人会、1994年）

㊾禰冝田佳男「伐採石斧の柄」『国家形成期の考古学－大阪大学考古学研究室10周年記念論集－』（大阪大学考古学研究室、1999年）。

㊿荻幸二「縄文時代早期の大分平野出土の礫器に関する一考察（２）」（『利根川』24・25　利根川同人、2003年）

(71)清水宗昭「九州における礫器の伝統と展開」（『史学論叢』第36号　別府大学、2006年）

(72)鈴木重治「押型文土器伴出の石器－西日本を中心に－」（『縄文早期を考える－押型文文化の諸問題－』帝塚山考古学研究所、1988年）

(73)敦賀啓一郎「Ⅳ　石器組成分析による縄文時代生産活動の復元－中国、四国地方を中心に－」（『帝釈峡遺跡群発掘調査室年報ⅩⅥ』広島大学大学院文学研究科帝釈峡遺跡群発掘調査室、2002年）

(74)中日新聞　昭和41年10月８日付、伊藤秋男「五ヶ所湾の先史時代－第一次調査・相賀浦、礫浦両地区を中心として－」（『南伊勢五ヶ所湾総合学術調査報告』三重県郷土資料刊行会、1967年）

(75)大下明「兵庫県三田市内神下井沢遺跡出土石剣の復元的検討」（『山下秀樹氏追悼考古論集』山下秀樹氏追悼論文集刊行会、2004年）。

(76)後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品について（上）」（『考古学研究』第33巻第３号、考古学研究会、1986年）・後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品について（下）」（『考古学研究』第33巻第４号、考古学研究会、1987年）。

(77)㊺文献参照。

(78)大下明「近畿地域（大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県）の集成と概要」（『縄文・弥生移行期の石製呪術具２』小林青樹編、2001年）、西脇対名夫「石剣ノート」（『野村崇先生還暦記念論文集　北方の考古学』同刊行会、1998年）、池田淳子「Ｄ　成興野型石棒の変遷と分布について」（『奥三面ダム関連発掘調査報告書ⅩⅣ　元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』新潟県旭村教育委員会、2002年）

(79)(78)西脇文献に同じ。

(80)㊺文献に同じ。

(81)㊺文献に同じ。但し、本来の意図としては着鞘状態の「刀」を表現しようとしていた可能性も否定されるものではない。

(82)㊺・(78)文献で、各遺物の評価や西日本の様相についての概略を整理している。

(83)図は次の各文献から引用した。一部改編したものもある。大下明・久保勝正「Ⅶ考察　（３）石器・石製品」（『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センター、1995年）・嬉野町教育委員会『下沖遺跡発掘調査報告書』（2000年）・明和町史編さん委員会『明和町史』史料編・第一巻－自然・考古－（2004年）。

天白遺跡の大型石棒については、報告書執筆の時点では、古い段階の石棒の再利用である可能性を指摘した。しかし、近年の資料的状況から判断すると、後期末までこうした大型石棒が残存する可能性もあると考えているが、詳細に検討する段階には至っていない。

［参考文献］

遺構・土器

三重県教育委員会「蛇亀橋遺跡」（『昭和56年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財調査報告』、1982年）

『日本歴史地名大系第24巻　三重県の地名』（平凡社　1983年）

川崎志乃「水銀朱精製に関する予察～天白遺跡出土遺跡を中心に～」（『研究紀要　第９号　－特集　三重の生産遺跡－』三重県埋蔵文化財センター、2000年）

森川幸雄「三重県の縄文墓址」（『研究紀要　第11号－特集三重の縄文時代－』　三重県埋蔵文化財センター、2002年）

鈴木克彦「伊勢湾沿岸地方における凸帯文深鉢の様相－伊勢地方からの視点－」（『三重県史研究』第６号　三重県、1990年）

佐野元「突帯文土器出現以前－所謂「稲荷山式」「桜井式」の評価－」（『突帯文土器から条痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まり－』第１回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会　突帯文土器研究会　1993年）

野口哲也「突帯文土器」（『突帯文土器から条痕文土器へ

ー伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まりー』第１回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会　突帯文土器研究会　1993年）
戸沢充則編『縄文時代研究事典』（1994年）
三重県埋蔵文化財センター『天白遺跡』（1995年）
名張市教育委員会『下川原遺跡　５次調査の概要』（1997年）
兵庫県教育委員会『佃遺跡』（1998年）
縄文時代文化研究会『縄文時代』第10号（1999年）
（財）大阪府文化財調査研究センター『向出遺跡』（2000年）
名張市教育委員会『下川原遺跡第３次調査概要』（2000年）
（財）愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター『牛牧遺跡』（2001年）
勢和村教育委員会『片野殿垣内遺跡』（2001年）
三重県埋蔵文化財センター『丸野・中谷遺跡発掘調査報告』（2003年）
三重県埋蔵文化財センター『志知南浦遺跡発掘調査報告』（2008年）
石器
末永雅雄『宮瀧の遺跡』（1944年）
小島俊次「吉野川流域の古文化について」『奈良県綜合文化財調査報告書　吉野川流域』（奈良県教育委員会、1954年）
嶋正央『奥熊野の縄文式文化ー尾鷲市曽根遺跡・熊野市釜平遺跡を中心としてー』（尾鷲市教育委員会・熊野市教育委員会、1959年）
奈良県教育委員会『橿原』（1961年）
鈴鹿市教育委員会『北一色遺跡発掘調査概要報告』（1968年）
澄田正一ほか『新編　一宮市史　資料編一』（一宮市、1970年）
滋賀県教育委員会『湖西線関係遺跡調査報告書』（1973年）
鈴木道之助「縄文時代晩期における石鏃小考ー所謂飛行機鏃と晩期石鏃についてー」（『古代文化』26ー７　古代学協会、1974年）
大場範久「第一編　原始・古代」（『鈴鹿市史　第一巻』鈴鹿市教育委員会、1980年）
早川正一「磨製石斧」（『縄文文化の研究』第７巻ー道具と技術ー、雄山閣、1983年）
奈良県立橿原考古学研究所「竹内遺跡試掘調査概報」（『奈良県遺跡調査概報　1984年度』1985年）
今津町教育委員会『今津町文化財調査報告　第５集』（1986年）
後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品について（上）」（『考古学研究』第33巻第３号、考古学研究会、1986年）
桜井市教育委員会『大輪中学校改築にともなう発掘調査報告書』（1987年）
奈良県立橿原考古学研究所「竹内遺跡第14・15次発掘調査概報」（『奈良懸遺跡調査概報　1997年度』1998年）
後藤信裕「縄文時代後晩期の刀剣形石製品について（下）」（『考古学研究』第33巻第４号、考古学研究会、1987年）
海南市教育委員会『溝ノ口遺跡Ⅱ』（1987年）
八尾市教育委員会『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅰー恩智遺跡の調査ー』（1987年）
度会町遺跡調査会『森添遺跡発掘調査概要Ⅰ』（1987年）
度会町遺跡調査会『森添遺跡発掘調査概要Ⅱ』（1988年）
石川日出志「伊勢湾沿岸における縄文時代晩期・弥生時代の石器組成」（『〈条痕文系土器〉文化をめぐる諸問題』研究編，愛知考古学談話会、1988年）
西脇対名夫「石剣・石刀」（『考古資料図録』財団法人辰馬考古資料館、1988年）
中川道興・服部信博「宮川下流域の縄文遺跡」（『歩跡』第４号　皇學館大学考古学研究会、1989年）
埋蔵文化財天理教調査団『布留遺跡三島（木寺）地区・豊田（三反田）地区発掘調査報告』（1989年）
河合町教育委員会『宮堂遺跡Ⅱ　第３次発掘調査概要報告』（1995年）
竹野町教育委員会『小森岡遺跡』（1990年）
三重県教育委員会『天保遺跡Ｅ地区』（1991年）
多淵敏樹「篠原遺跡」（『兵庫県史　考古資料編』兵庫県史編集専門委員会、1992年）
大下明「第Ⅳ章11　佐々木武門氏収集資料の調査」（『紀伊半島の文化史的研究　考古学編』関西大学文学部考古学研究室、1992年）
湯浅利彦「「五角形鏃」小考ー西日本における縄文時代晩期を中心とした打製石鏃の素描ー」（『真朱』創刊号　徳島県埋蔵文化財センター、1992年）
鈴鹿市教育委員会・鈴鹿市『上箕田遺跡』（鈴鹿市埋蔵文化財調査報告12、1993年）
石黒立人「突帯文土器期から条痕文系土器期の石器について」（『第１回東海考古学フォーラム・豊橋大会　突帯文土器から条痕文土器へー伊勢湾周辺地域における縄文文化の解体と弥生文化の始まりー』同大会実行委員会・突帯文土器研究会、1993年）
豊川市教育委員会『麻生田大橋遺跡発掘調査報告書』（1993年）
贄元洋「伊勢湾岸における弥生時代前期の土器様相」（『転機』第５号、転機同人会、1994年）
西井幸雄「静岡県西部における縄文時代の磨製石斧」（『転機』第５号、転機同人会、1994年）
田村陽一『佐々木武門考古資料図録』（大王町教育委員会　1994年）
大下明・久保勝正「Ⅶ考察　（３）石器・石製品」（『天白遺跡』、三重県埋蔵文化財センター　1995年）
吉村公男『宮堂遺跡Ⅱ　第３次発掘調査概要報告』（河合町教育委員会、1995年）
菅榮太郎「石鏃資料の型式および製作技法の編年的検討」『長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅷ』大阪市文化財協会（1995年）
和歌山県文化財センター『川辺遺跡発掘調査報告書』８（1995年）
三重県埋蔵文化財センター『天白遺跡』（1995年）

前田清彦ほか「座談会　石器の変化からわかること」(『縄文／弥生　変換期の考古学－第１回東海考古学フォーラム・豊橋大会の記録－』東海考古学フォーラム、1995年)
能登川町教育委員会『正楽寺遺跡』(1996年)
滋賀県教育委員会『小川原遺跡３』(1996年)
東大阪市文化財協会『鬼塚遺跡第８次発掘調査報告書』(1997年)
西脇対名夫「石剣ノート」(『野村崇先生還暦記念論文集　北方の考古学』同刊行会、1998年)
奈良県立橿原考古学研究所『大柳生ツクダ遺跡　現地説明会資料』(1998年)
森川実・岡田憲一『秋篠・山陵遺跡』(奈良大学文学部考古学研究室、1998年)
奈良県立橿原考古学研究所「竹内遺跡第14・15次発掘調査概報」(『奈良懸遺跡調査概報　1997年度』(1998年)
佐藤由紀男「第６章　伊勢湾周辺の突帯紋系・条痕紋系土器期における磨製石斧の生産と流通」(『縄文弥生移行期の土器と石器』雄山閣、1999年)
禰冝田佳男「伐採石斧の柄」(『国家形成期の考古学－大阪大学考古学研究室10周年記念論集－』大阪大学考古学研究室、1999年)
滋賀県教育委員会『金屋遺跡』(2000年)
嬉野町教育委員会『下沖遺跡発掘調査報告』(2000年)
勢和村教育委員会『片野殿垣内遺跡』(2001年)
大下　明「近畿地域（大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県）の集成と概要」(『縄文・弥生移行期の石製呪術具２』小林青樹編、2001年)
川添和暁「東海地域における縄文時代晩期の石鏃について」愛知県埋蔵文化財センター　『牛牧遺跡』(2001年)
大下　明「関西における縄紋時代草創期・早期石器群の概要」(『縄文時代の石器－関西の草創期・早期－』関西縄文文化研究会、2002年)
田村陽一「三重県鴻ノ木遺跡の発掘調査～石器を中心に～」(『縄文時代の石器－関西の縄文草創期・早期－』関西縄文文化研究会、2002年)
奈良県立橿原考古学研究所『宮の平遺跡Ⅱ』(2002年)
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『橿原遺跡』(2002年)
三重県埋蔵文化財センター『六大Ａ遺跡発掘調査報告』(2002年)
川添和暁「磨製石斧」(『縄文時代の石器　関西の前期・中期』関西縄文文化研究会、2003年)
阿児町教育委員会『長尾遺跡発掘調査報告書』(2003年)
大下　明「関西における縄紋時代前・中期石器群の概要と石器組成の検討」(『縄文時代の石器　関西の前期・中期』関西縄文文化研究会、2003年)
奈良県立橿原考古学研究所『西坊城遺跡Ⅱ』(2003年)
森田幸伸ほか「第１章　旧石器・縄文時代」(『明和町史　史料編　第一巻　自然・考古』明和町史編さん委員会、2004年)
多賀町教育委員会『土田遺跡－第４次調査・第５次調査－』(2004年)
土谷崇夫「関西地方の後晩期における磨製石斧の地域性－形態・石材・大きさを主に－」(『縄文時代の石器　関西の後期・晩期』関西縄文文化研究会、2004年)
大下　明「関西における縄紋時代後・晩期石器群の概要」(『縄文時代の石器　関西の後期・晩期』関西縄文文化研究会、2004年)
大下　明「兵庫県三田市内神下井沢遺跡出土石剣の復元的検討」(『山下秀樹氏追悼考古論集』山下秀樹氏追悼論文集刊行会、2004年)
平岩欣太ほか『かしはらの歴史をさぐる　11』(橿原市千塚資料館、2004年)
鈴木康二「「楔形石器」雑考」(『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年)
久保勝正「縄文時代後期・晩期の石鏃について」(『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年)
久保邦江・久保勝正「奈良県における縄文時代後期・晩期の石器群について」(『縄文時代の石器Ⅲ－関西の縄文後期・晩期－』関西縄文文化研究会、2004年)
久保勝正「近畿地方の黒曜石・下呂石」(『関西縄文時代における石器・集落の諸様相　関西縄文論集２』関西縄文文化研究会、2005年)
関西縄文文化研究会『関西縄文時代における石器・集落の諸様相　関西縄文論集２』(2005年)
三重県埋蔵文化財センター『弐ノ坪遺跡発掘調査報告』(2005年)
小玉道明『考古の社会史－伊賀・伊勢・志摩・東紀州考古記録－』(光出版、2006年)
滋賀県立安土城考古博物館『扇状地の考古学－愛知・犬上の古代文化－』(2006年)
中村健二「湖辺の縄文時代遺跡」(『丸木舟の時代』サンライズ出版、2006年)
馬場伸一郎「打製石製品の分析」(『朝日遺跡Ⅶ（第２分冊　出土遺物)』愛知県埋蔵文化財センター、2007年)
渋谷綾子「〈史料紹介〉佃遺跡・更良岡山遺跡の石皿および三宅西遺跡の土器付着物における残存デンプン」(『古代文化』，第59巻第２号，財團法人古代學協會、2007年)

写 真 図 版

ＡＩ地区調査前状況（北西から）

ＡＩ地区調査区全景（北西から）

写真図版２

ＡＩ地区ＳＢ１（北から）

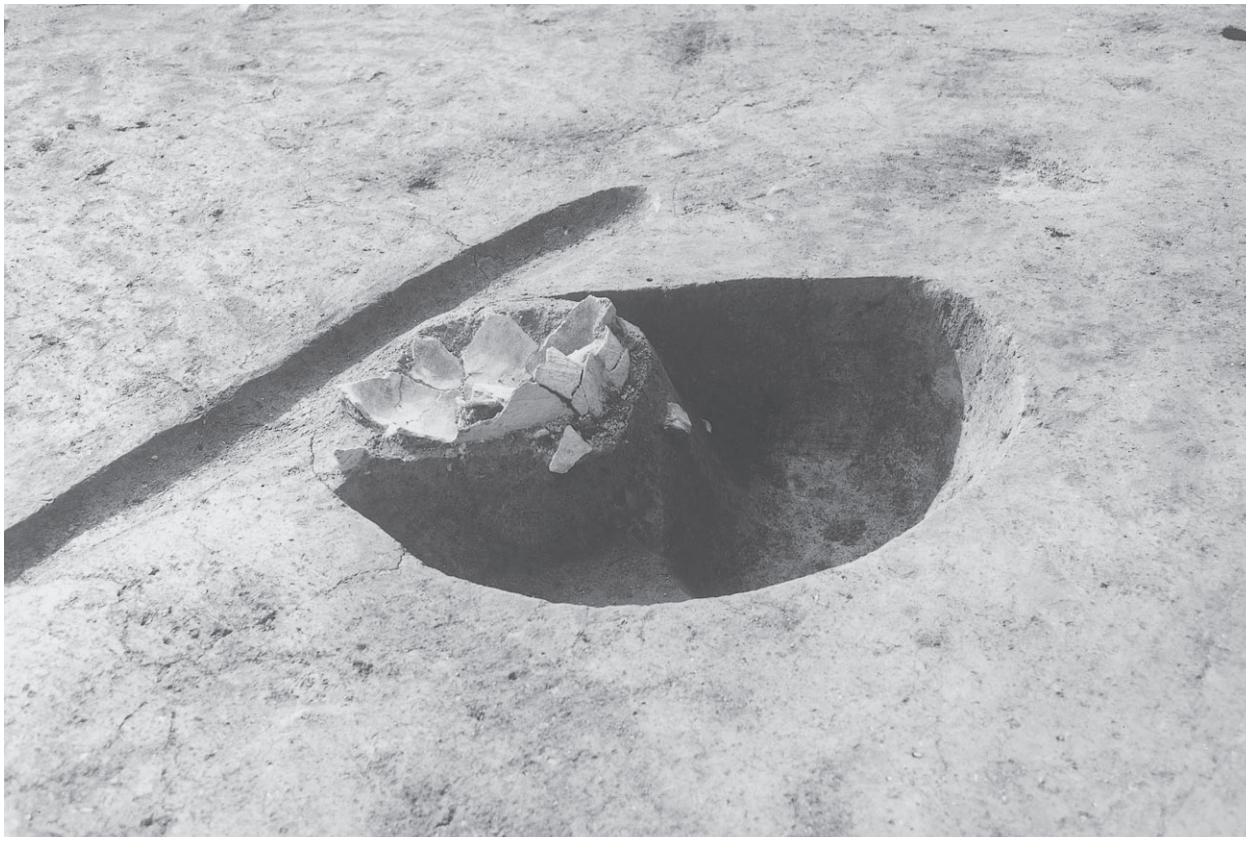
ＡＩ地区Ａ５グリッドPit １遺物出土状況（南から）

ＡⅢ・ＡⅣ地区調査前状況（北西から）

ＡⅢ地区第１検出面調査区全景（北から）

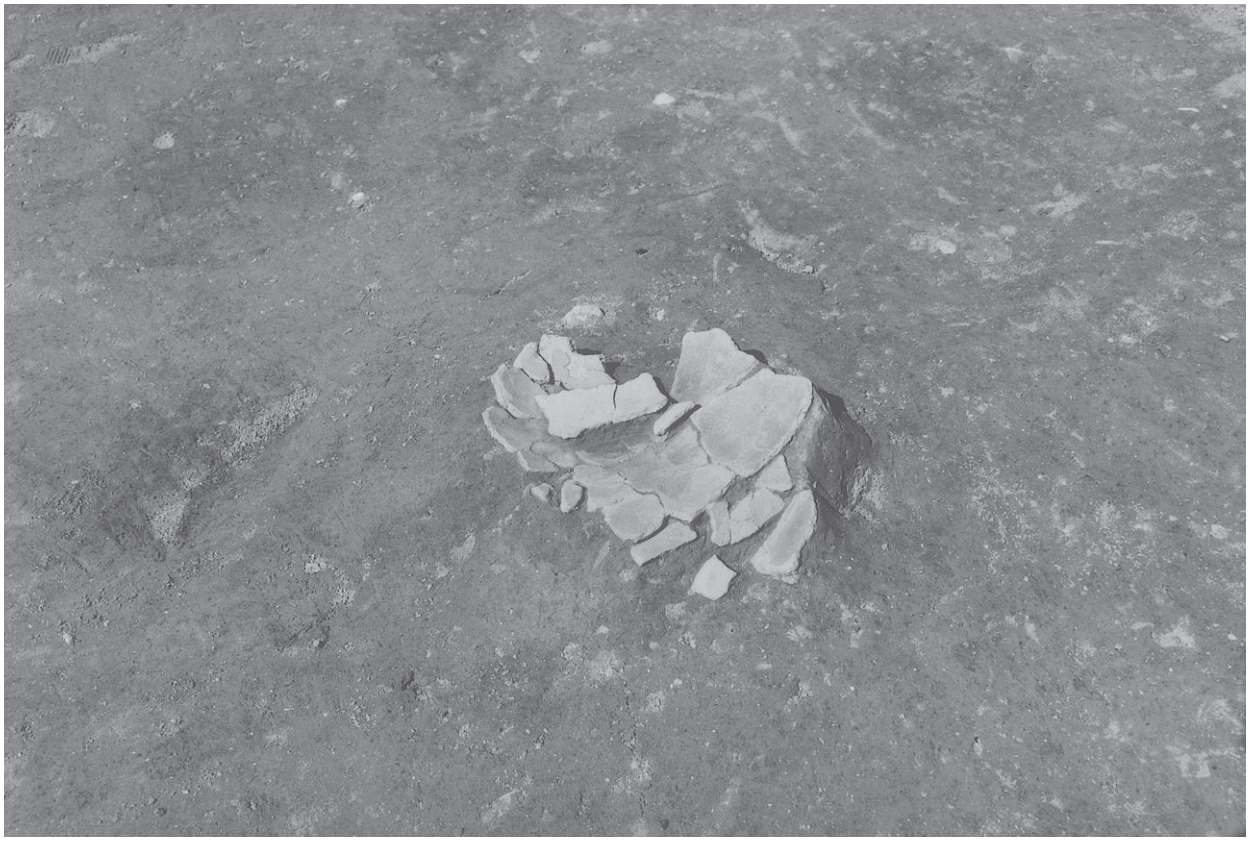
写真図版４

ＡⅢ地区ＳＸ25土器棺出土状況（西から）



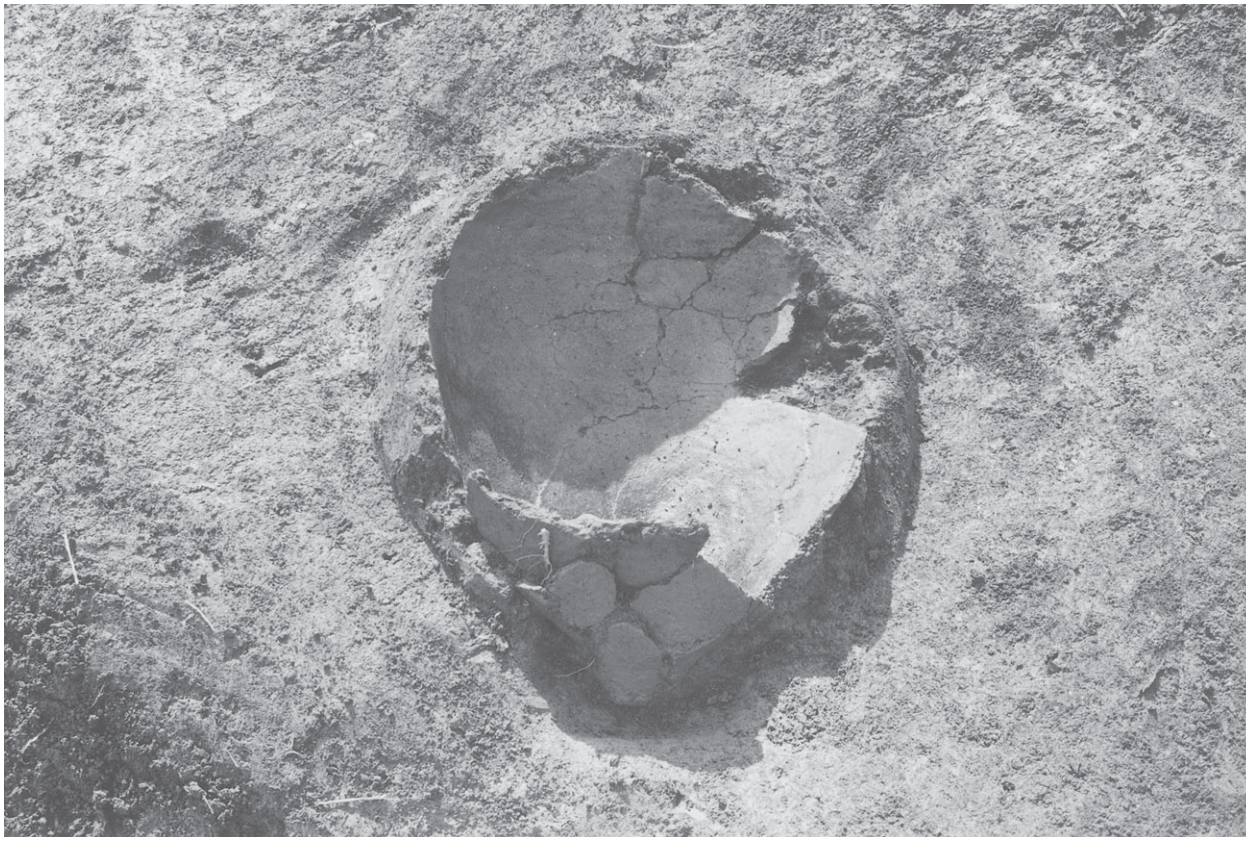
ＡⅢ地区ＳＸ28土器棺出土状況（東から）

ＡⅢ地区ＳＸ29土器棺出土状況（南から）

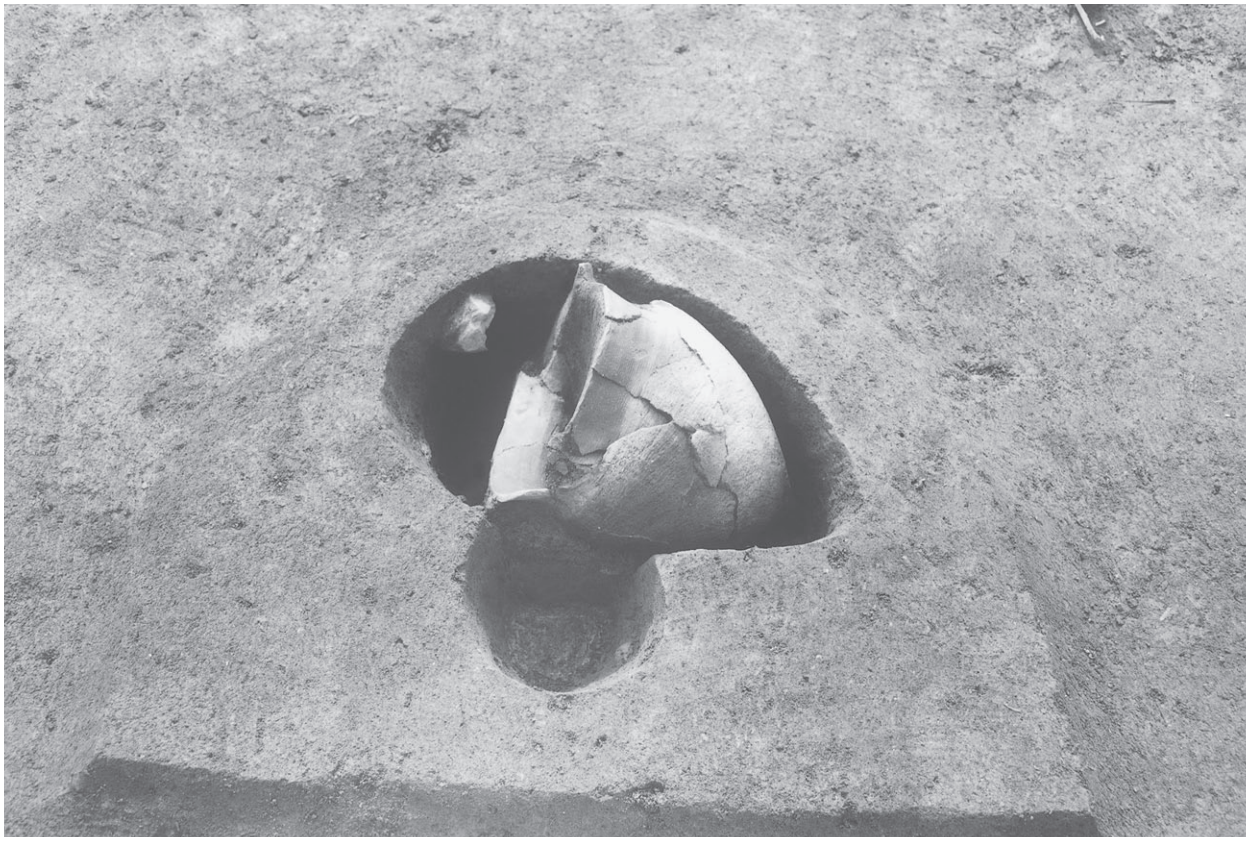


ＡⅢ地区ＳＸ46土器棺出土状況（南から）

写真図版６



ＡⅢ地区ＳＸ59土器棺出土状況（北から）



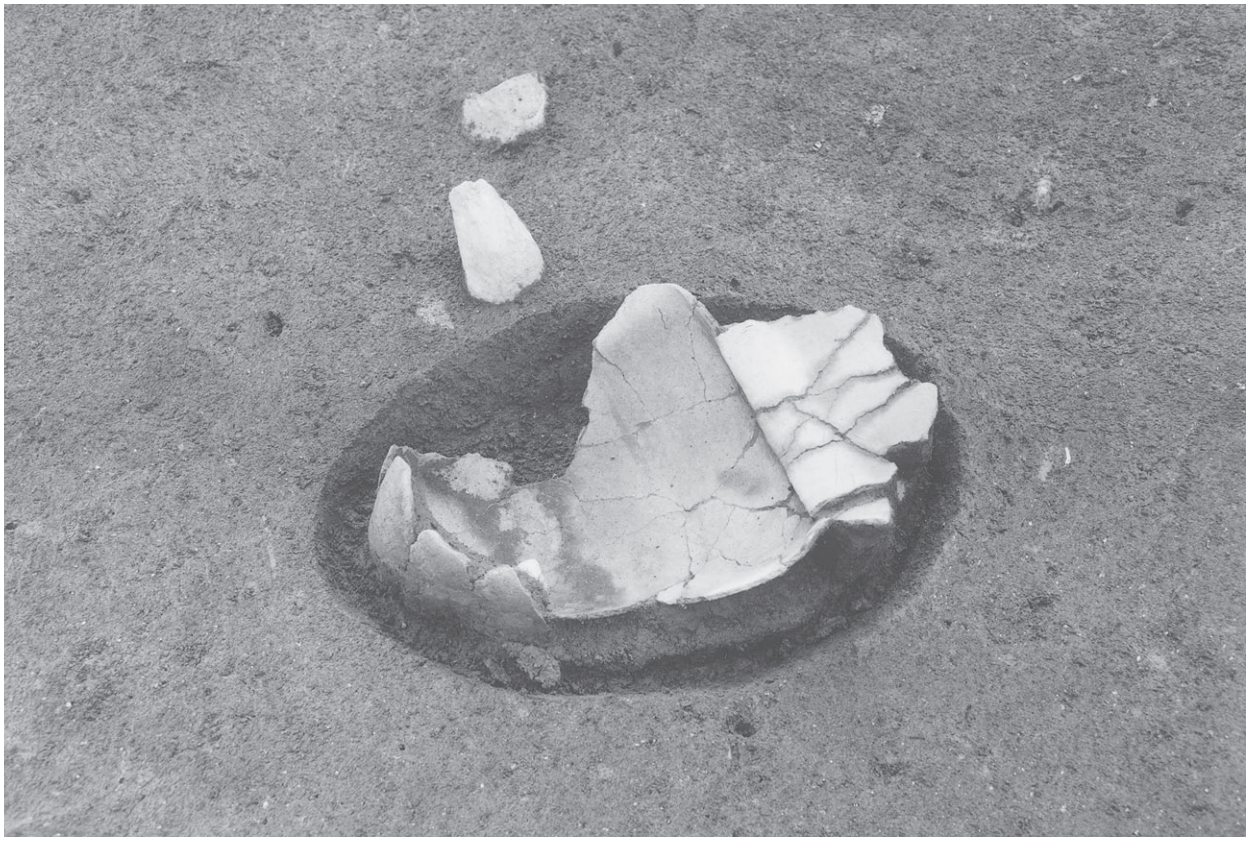
ＡⅢ地区ＳＸ39土器棺出土状況（北から）

ＡⅢ地区ＳＸ38土器棺出土状況（南から）

ＡⅢ地区ＳＸ40土器棺出土状況（南から）

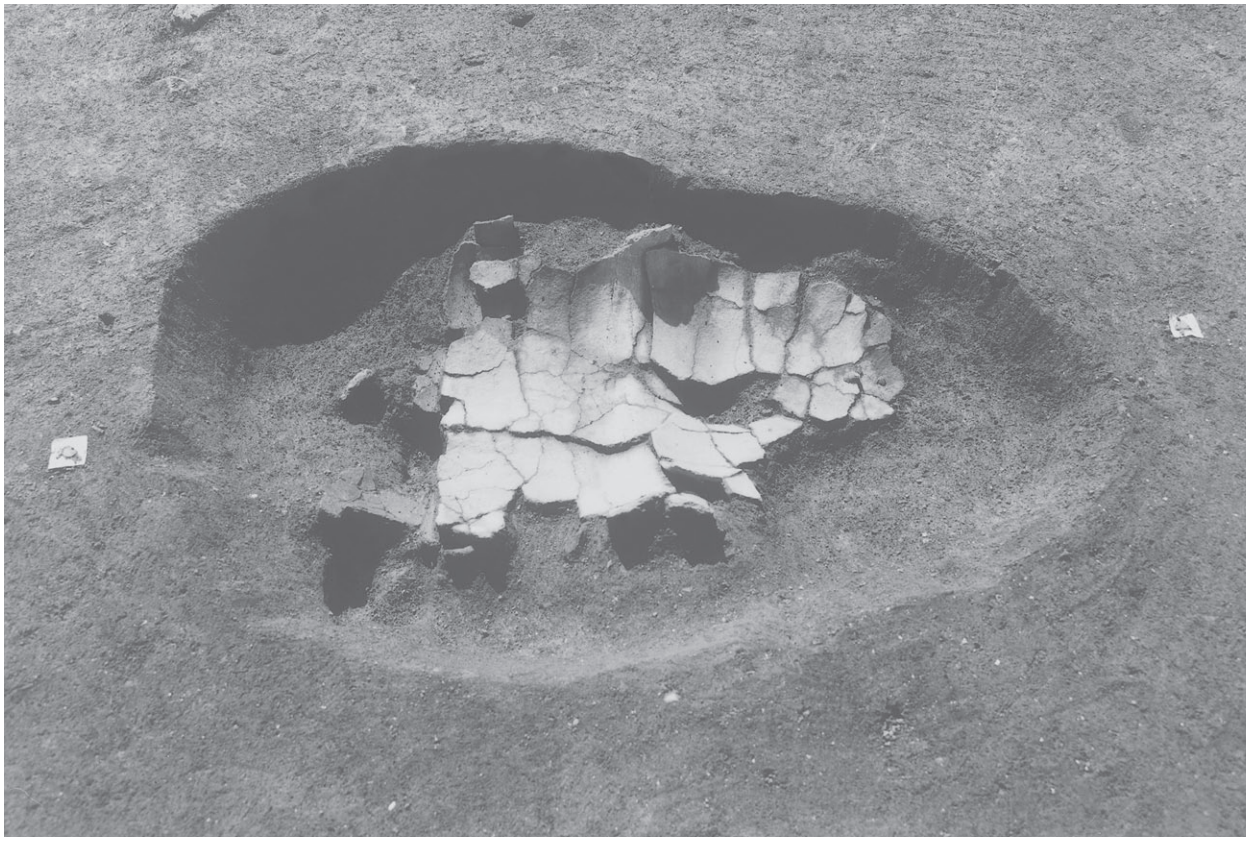
写真図版８

ＡⅢ地区ＳＸ41土器棺出土状況（西から）



ＡⅢ地区ＳＸ44土器棺出土状況（北から）

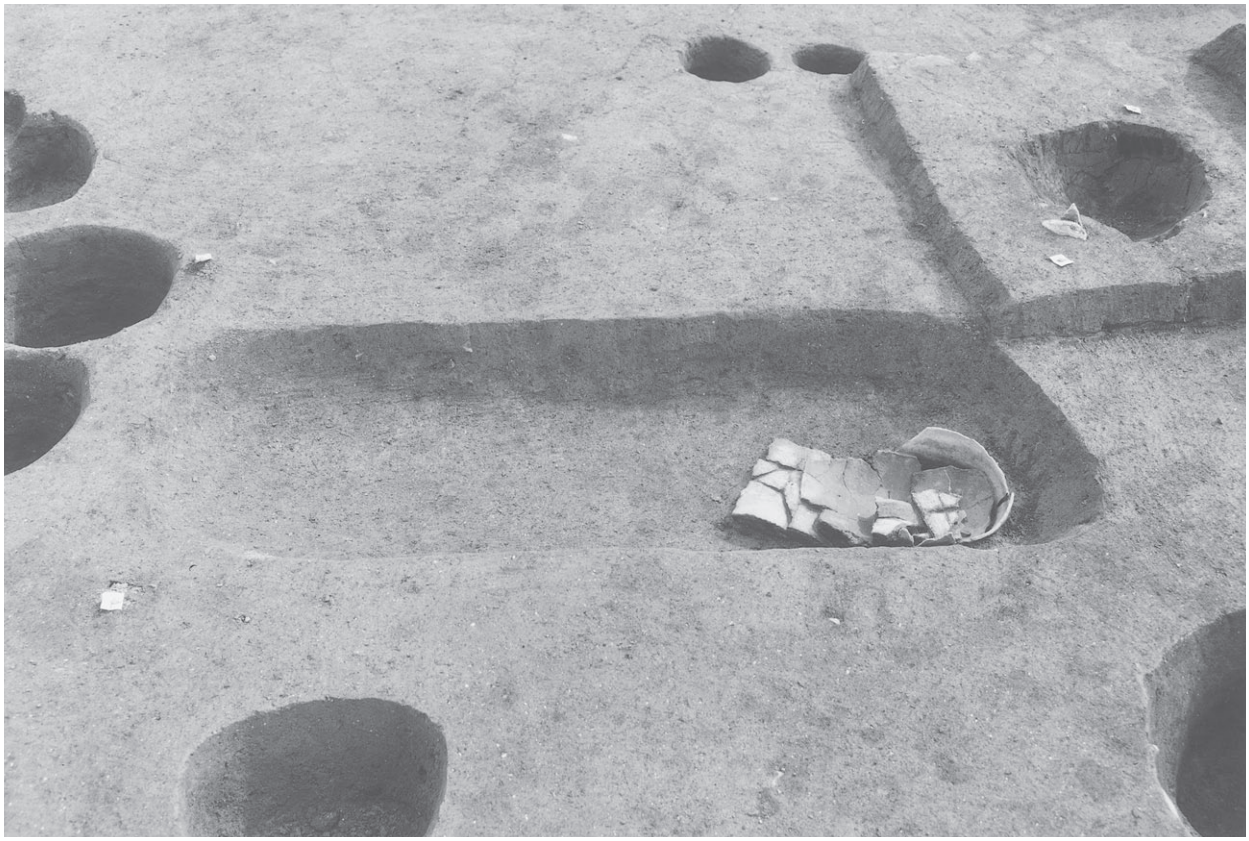
ＡⅢ地区ＳＸ43土器棺出土状況（北から）



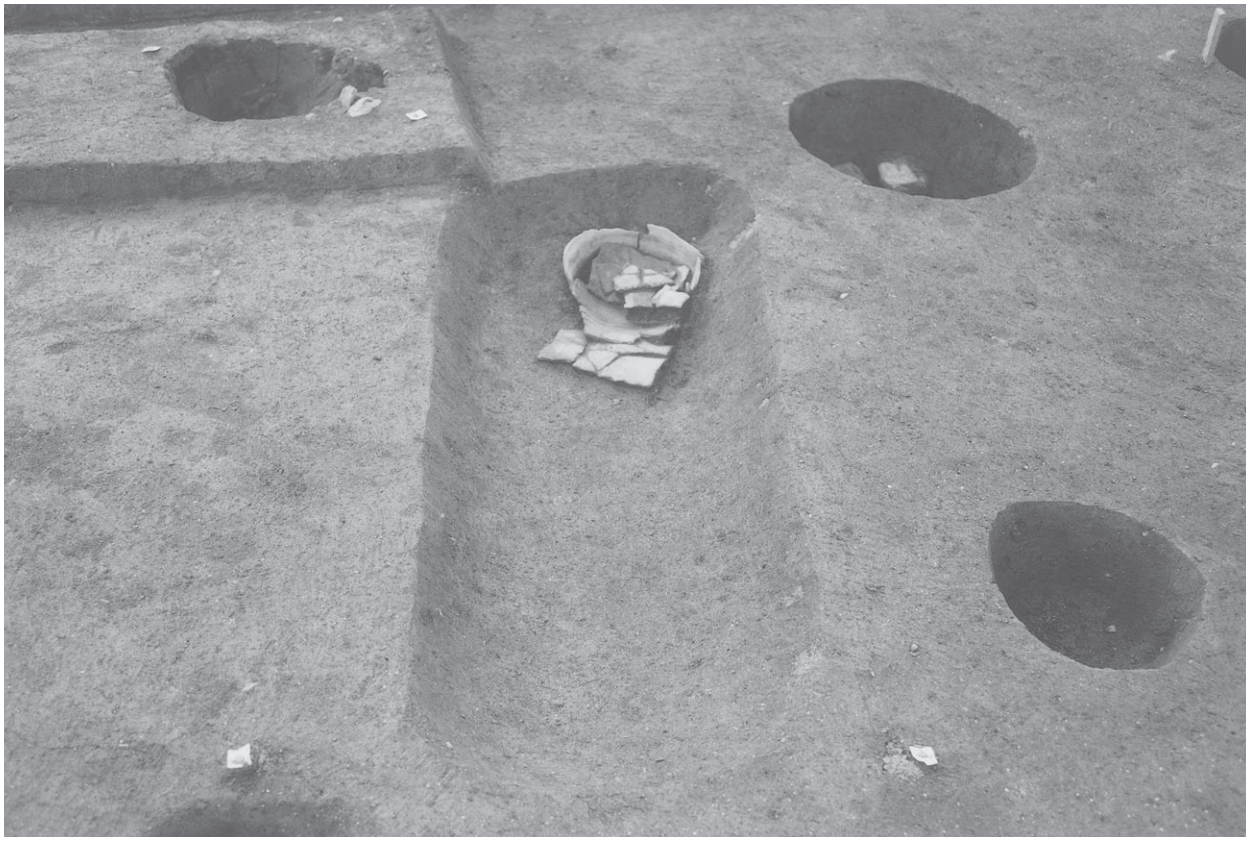
ＡⅢ地区ＳＸ43土器棺上半部取上後状況（北から）

写真図版10

ＡⅢ地区ＳＸ42土器棺出土状況（南から）



ＡⅢ地区ＳＸ50遺物出土状況（北から）

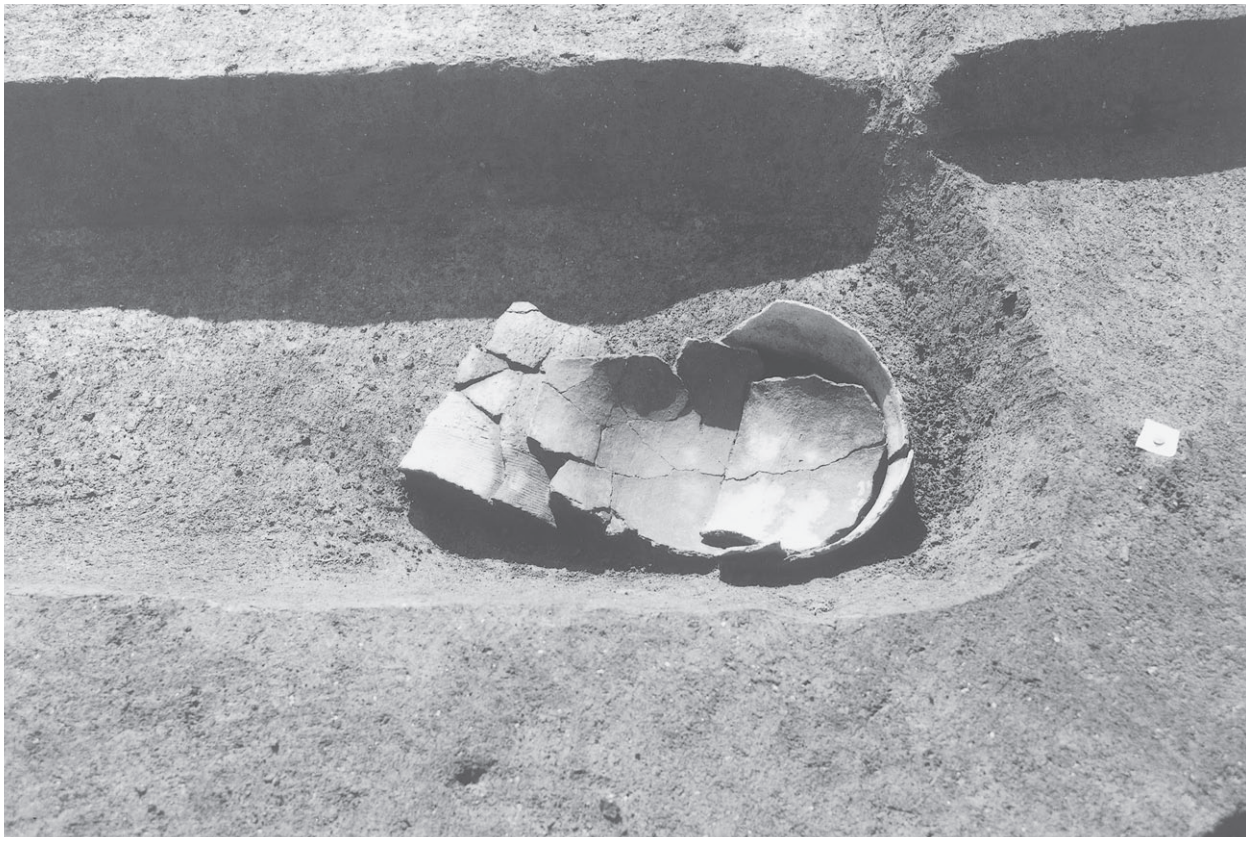


ＡⅢ地区ＳＸ50遺物出土状況（東から）

ＡⅢ地区ＳＸ50遺物出土状況近景（東から）

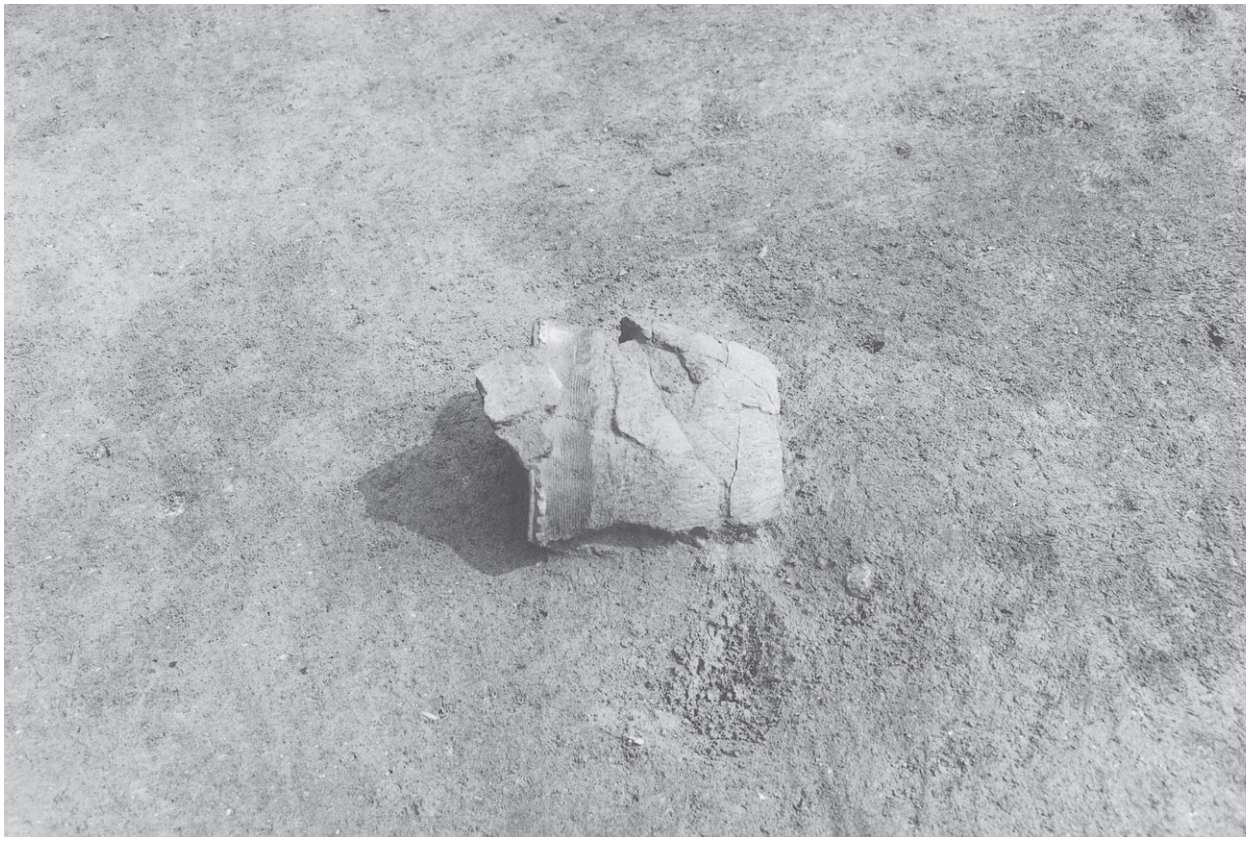
写真図版12

ＡⅢ地区ＳＸ50遺物出土状況近景（南から）



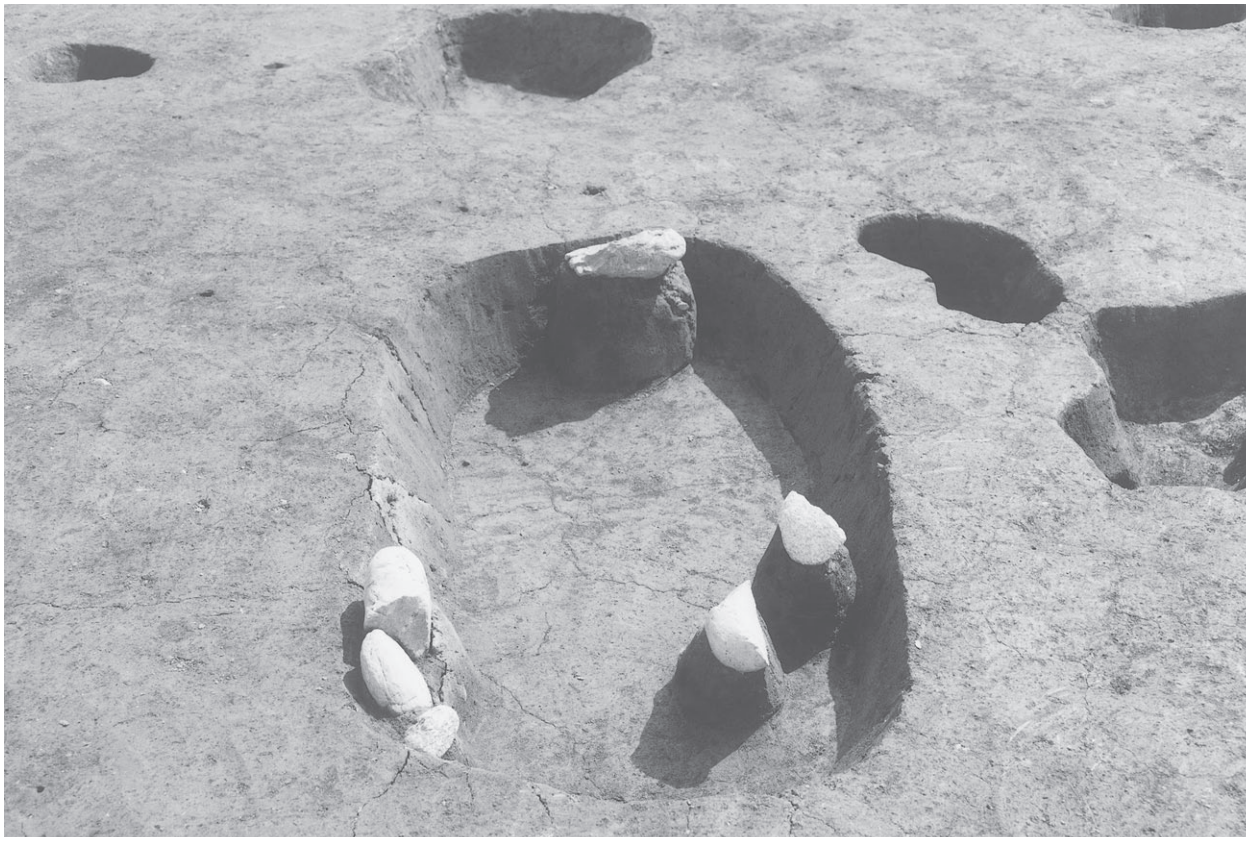
ＡⅢ地区ＳＸ50上部土器小片取上後状況近景（北から）

ＡⅢ地区ＳＸ50上部土器小片取上後状況近景（東から）



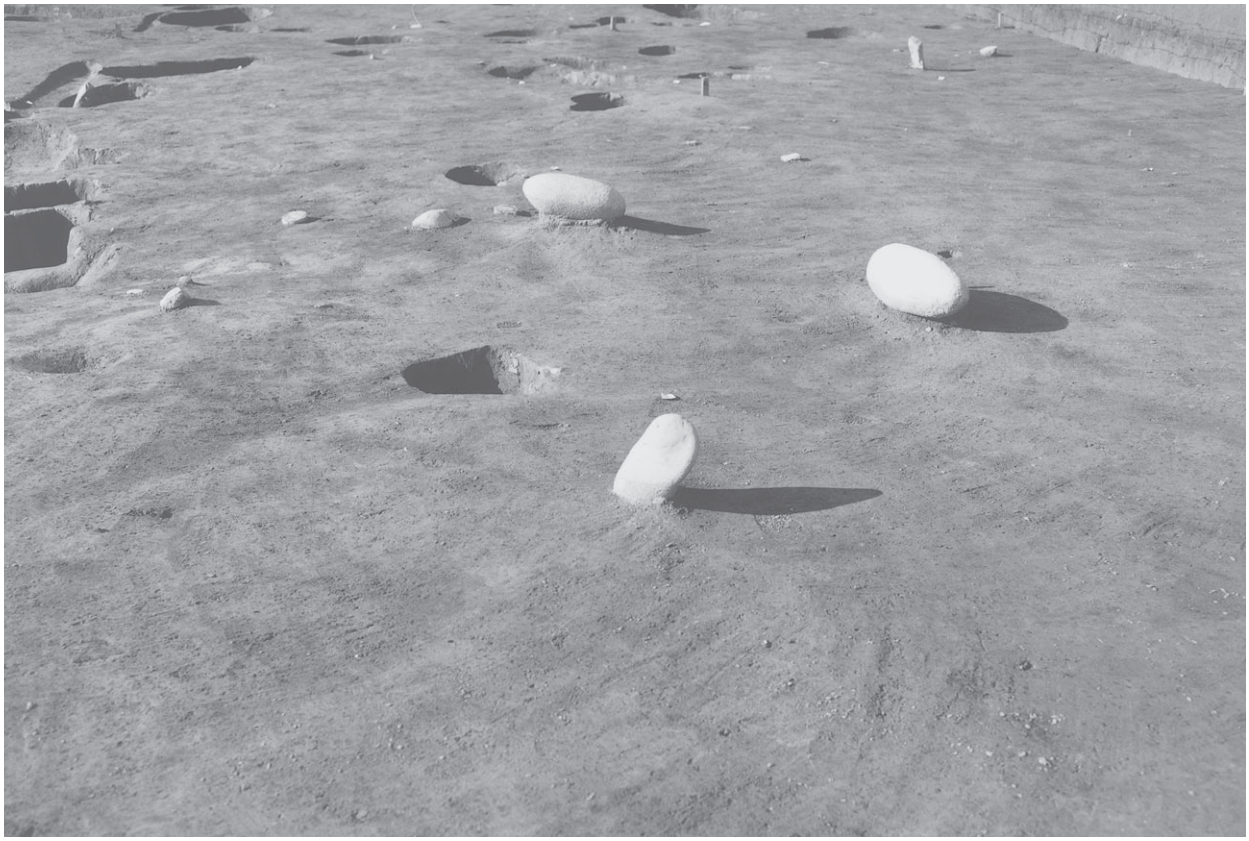
ＡⅢ地区ＳＸ37遺物出土状況（西から）

写真図版14



ＡⅢ地区ＳＸ32（北から）

ＡⅢ地区ＳＸ56（東から）



ＡⅢ地区ＳＳ61（南から）

ＡⅢ地区ＳＳ61（西から）

写真図版16

ＡⅢ地区ＳＳ62（東から）

ＡⅢ地区ＳＳ64（東から）

ＡⅢ地区ＳＳ65（南から）

ＡⅢ地区ＳＨ11（北から）

写真図版18

ＡⅢ地区ＳＨ11カマド痕跡（北から）

ＡⅢ地区ＳＨ11カマド痕跡遺物出土状況（北から）

ＡⅢ地区ＳＨ11完掘状況（北から）

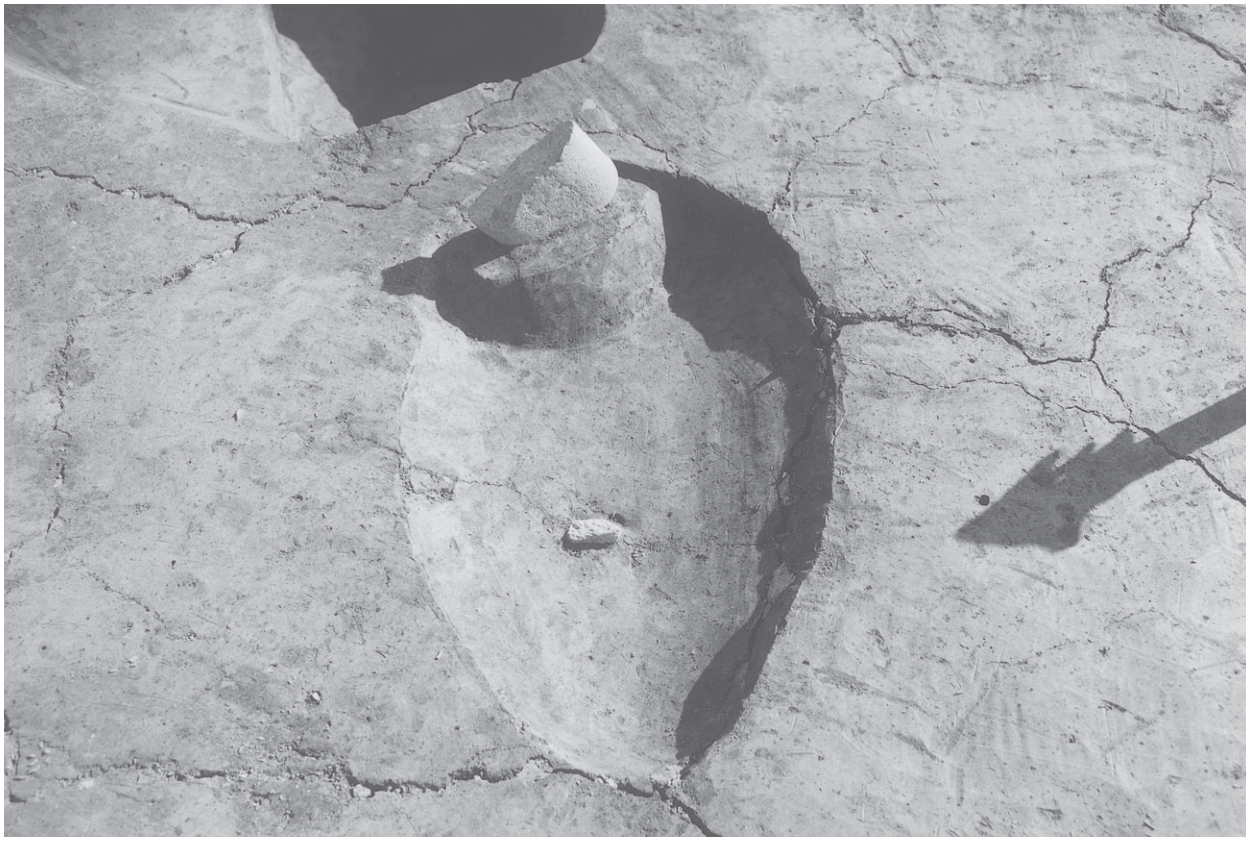
ＡⅢ地区第２・３検出面調査区全景（北から）

写真図版20

ＡⅢ地区ＳＫ83遺物出土状況（北から）

ＡⅢ地区ＳＫ84遺物出土状況（西から）

ＡⅢ地区ＳＸ85（東から）



ＡⅢ地区ＳＸ70（北から）

写真図版22

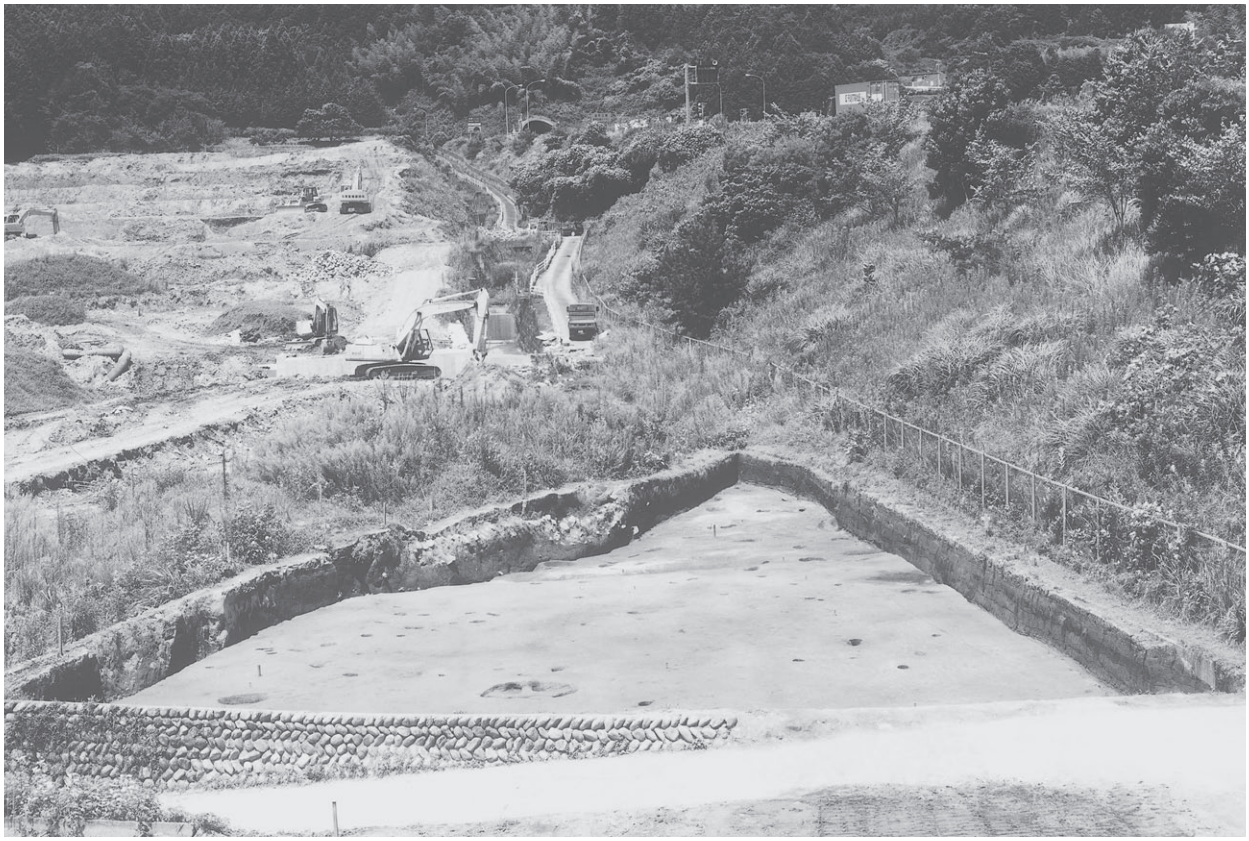
ＡⅢ地区ＳＫ77（北から）

ＡⅢ地区ＳＫ73（西から）

ＢⅠ・ＢⅡ地区調査前状況遠景（北西から）

ＢⅠ地区第１検出面調査区全景（南から）

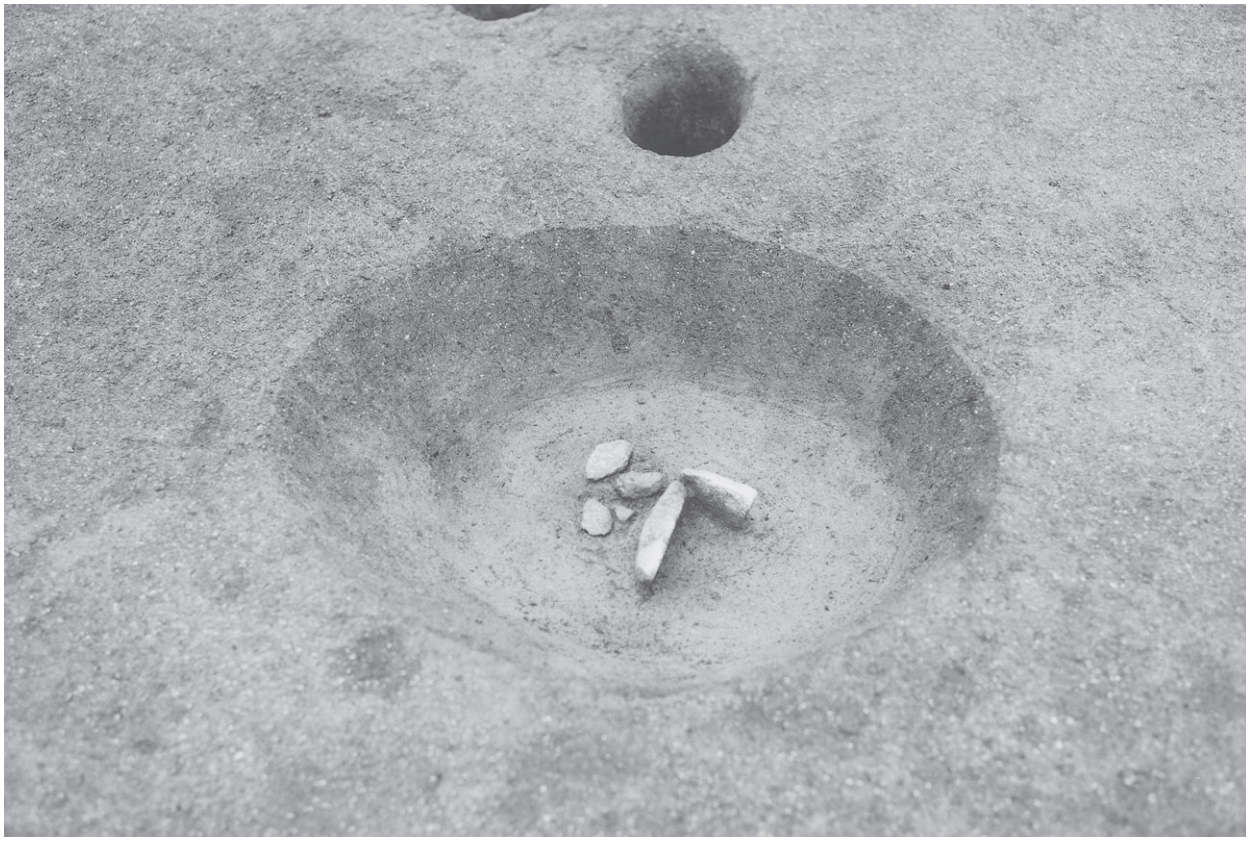
写真図版24



ＢＩ地区第２検出面調査区全景（南から）

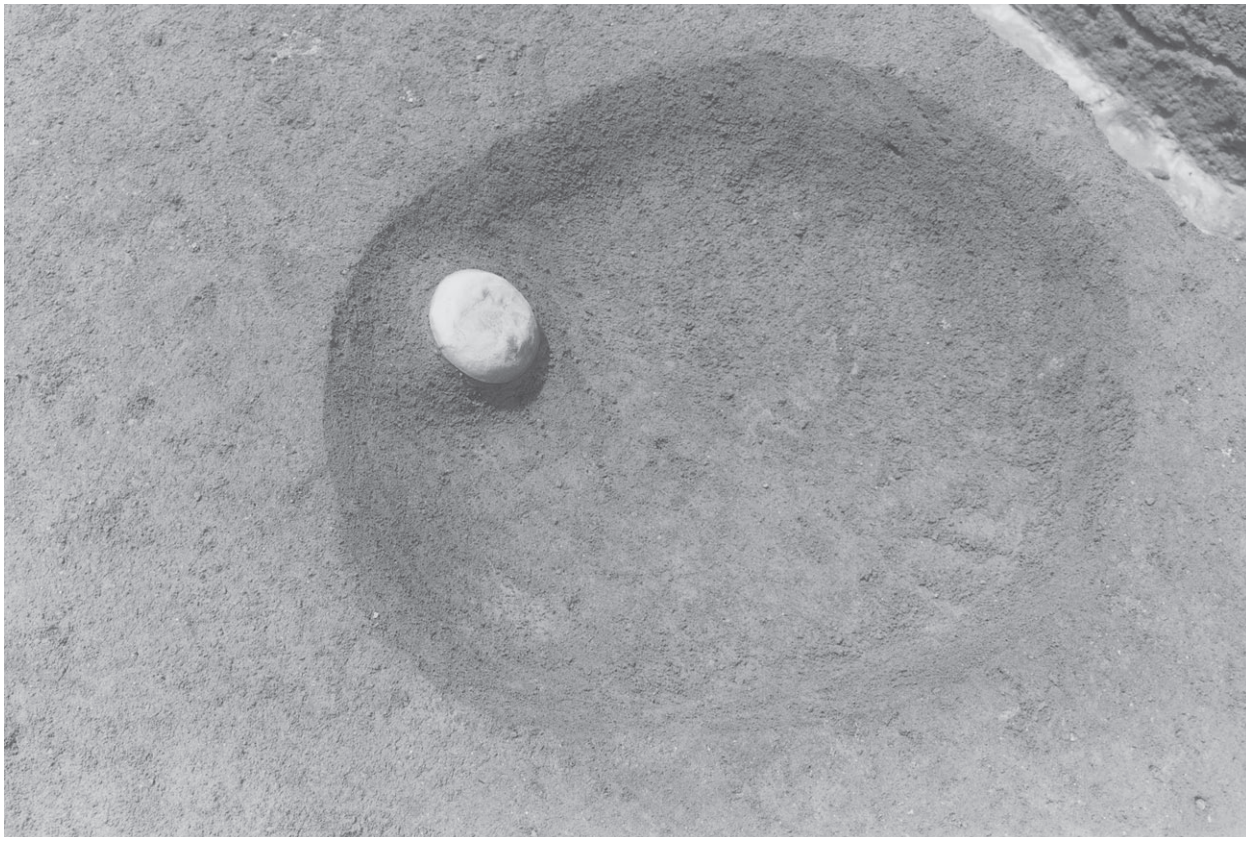
ＢＩ地区ＳＫ100遺物出土状況（北から）

ＢＩ地区ＳＫ91（東から）



ＢＩ地区ＳＫ95（東から）

写真図版26

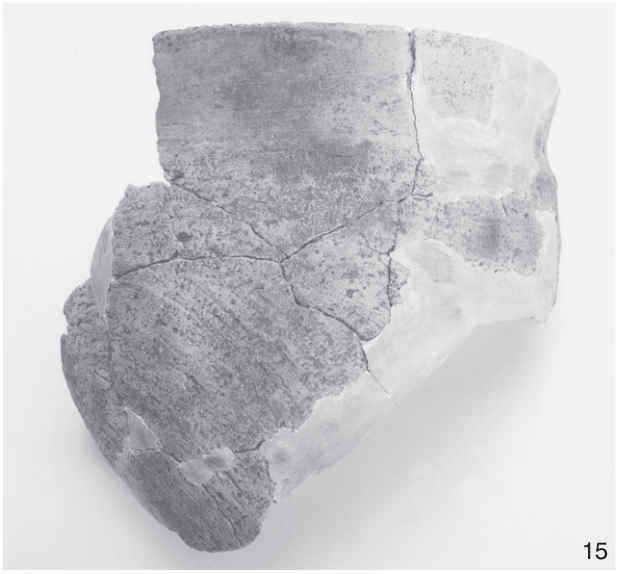


ＢＩ地区ＳＫ105遺物出土状況（北から）

工事完成後（北から）

10

11


15

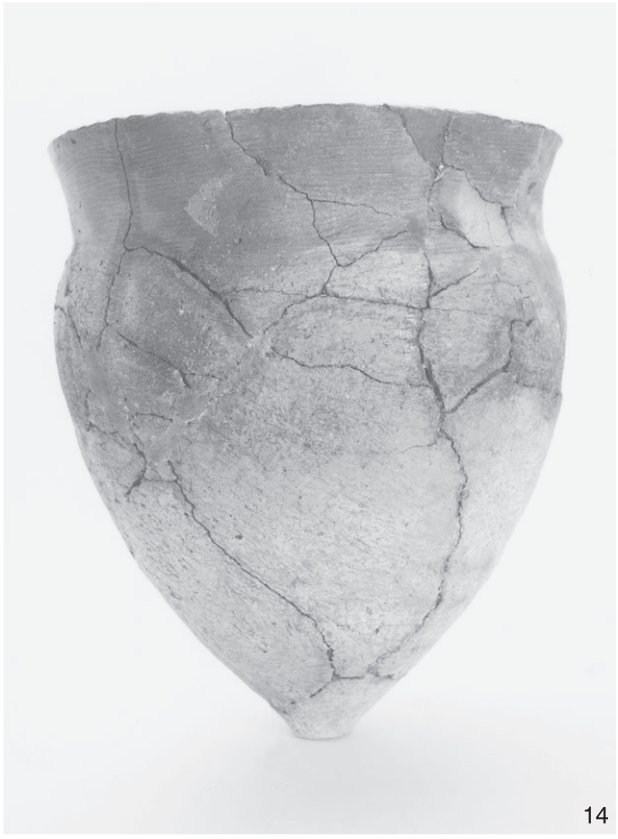
20

22

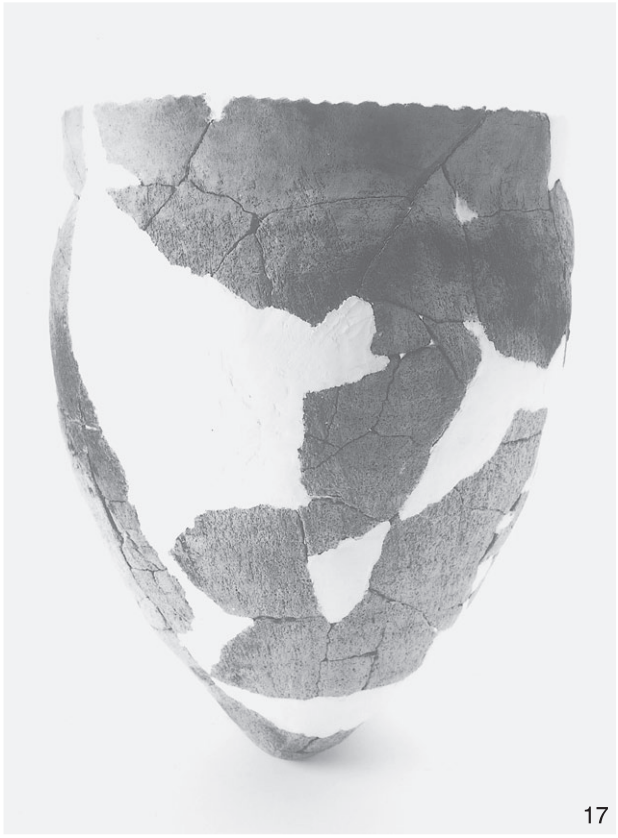
23

出土遺物1

13


14

16


17

18

19

21

25

出土遺物3

写真図版30

26

27

28

29

出土遺物4

30

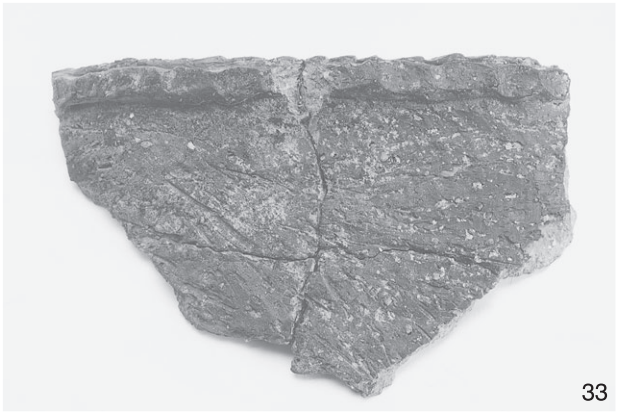
31

24

34

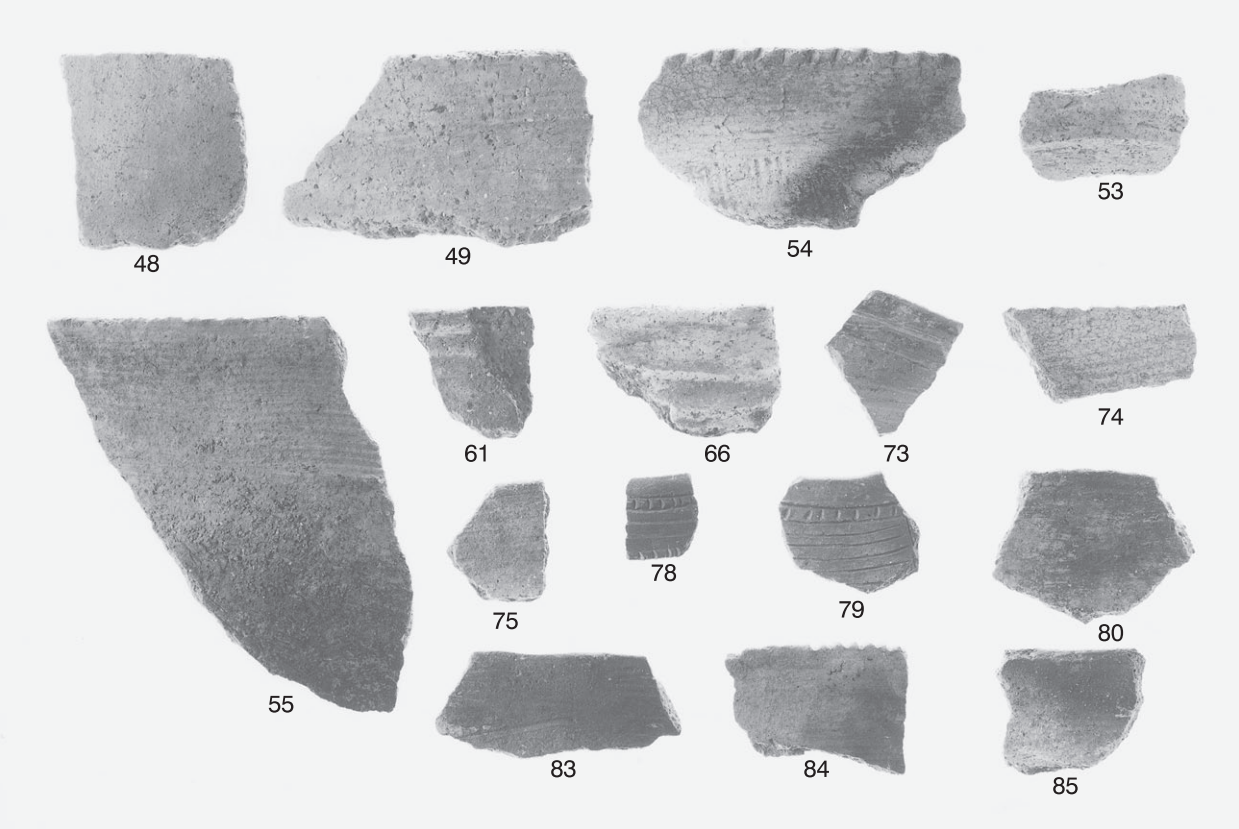
32

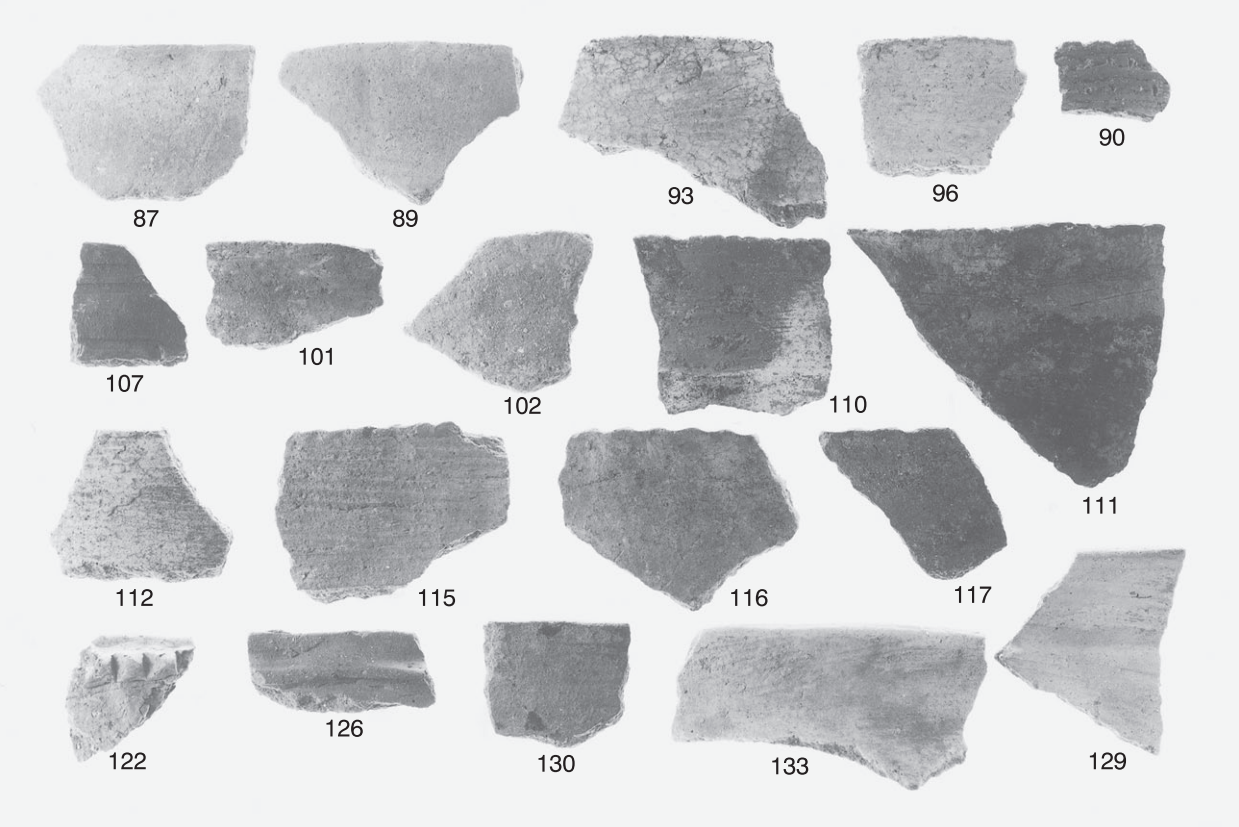
44


33

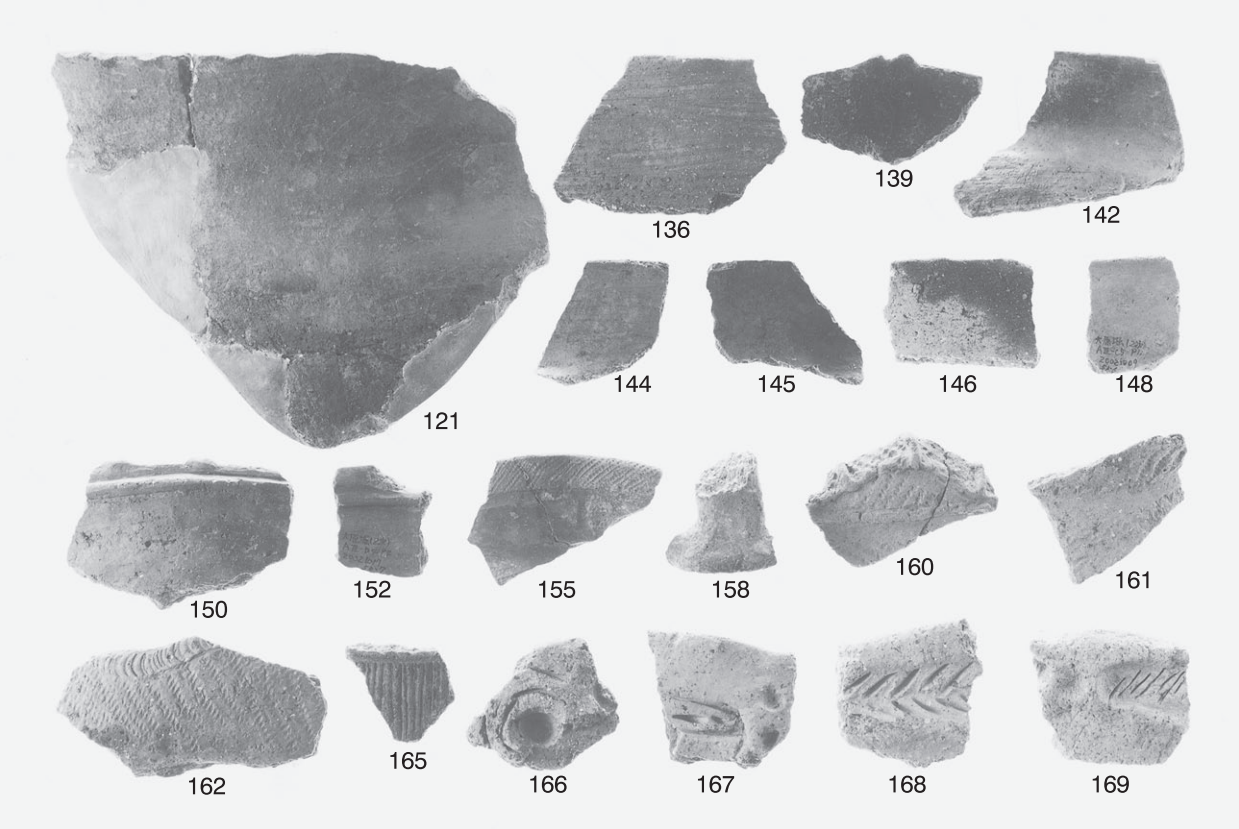
出土遺物5

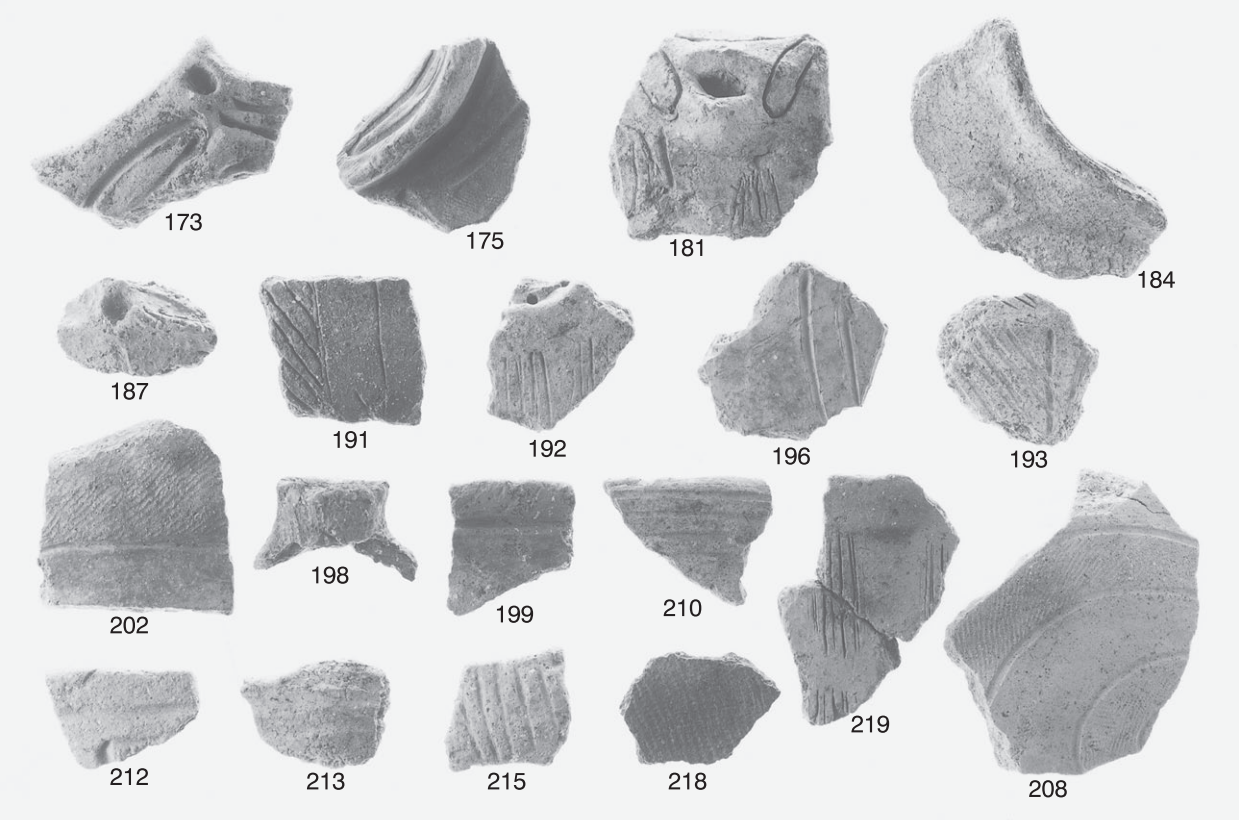
写真図版32





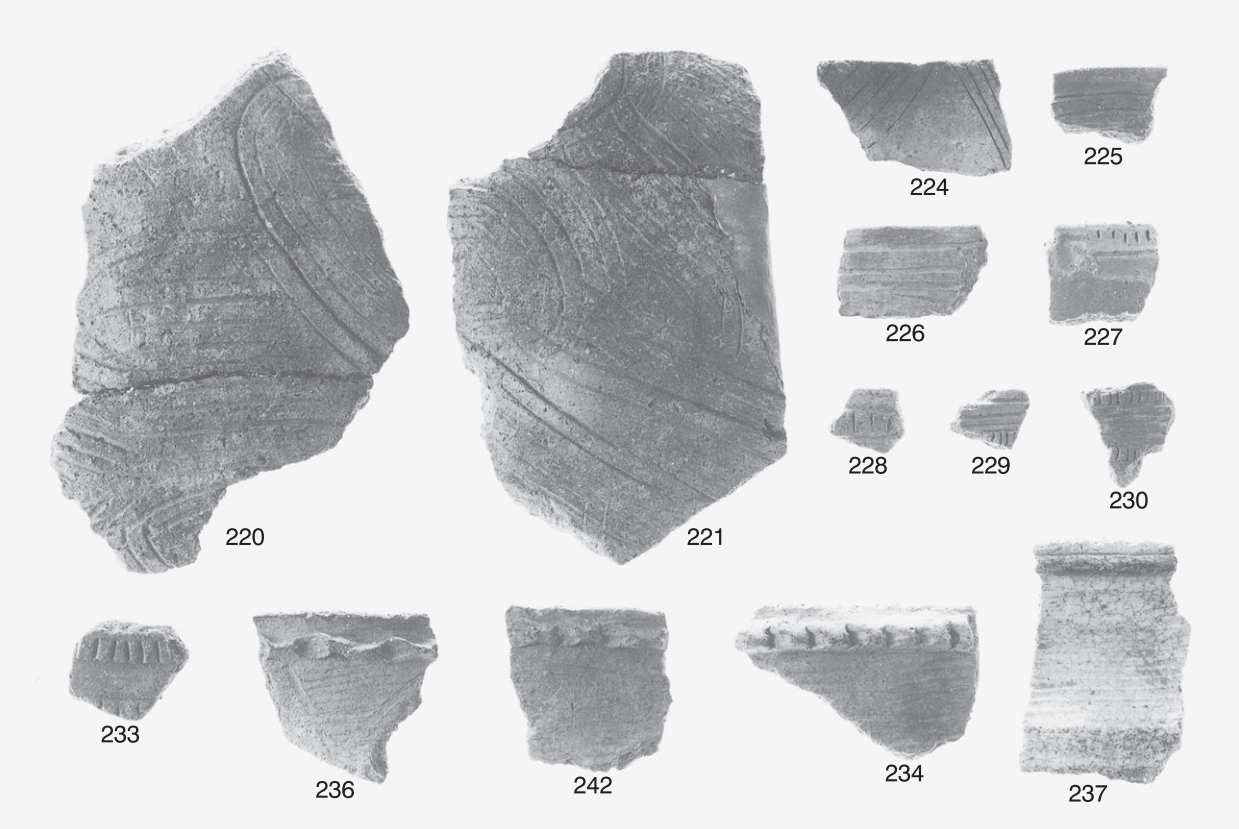
出土遺物6

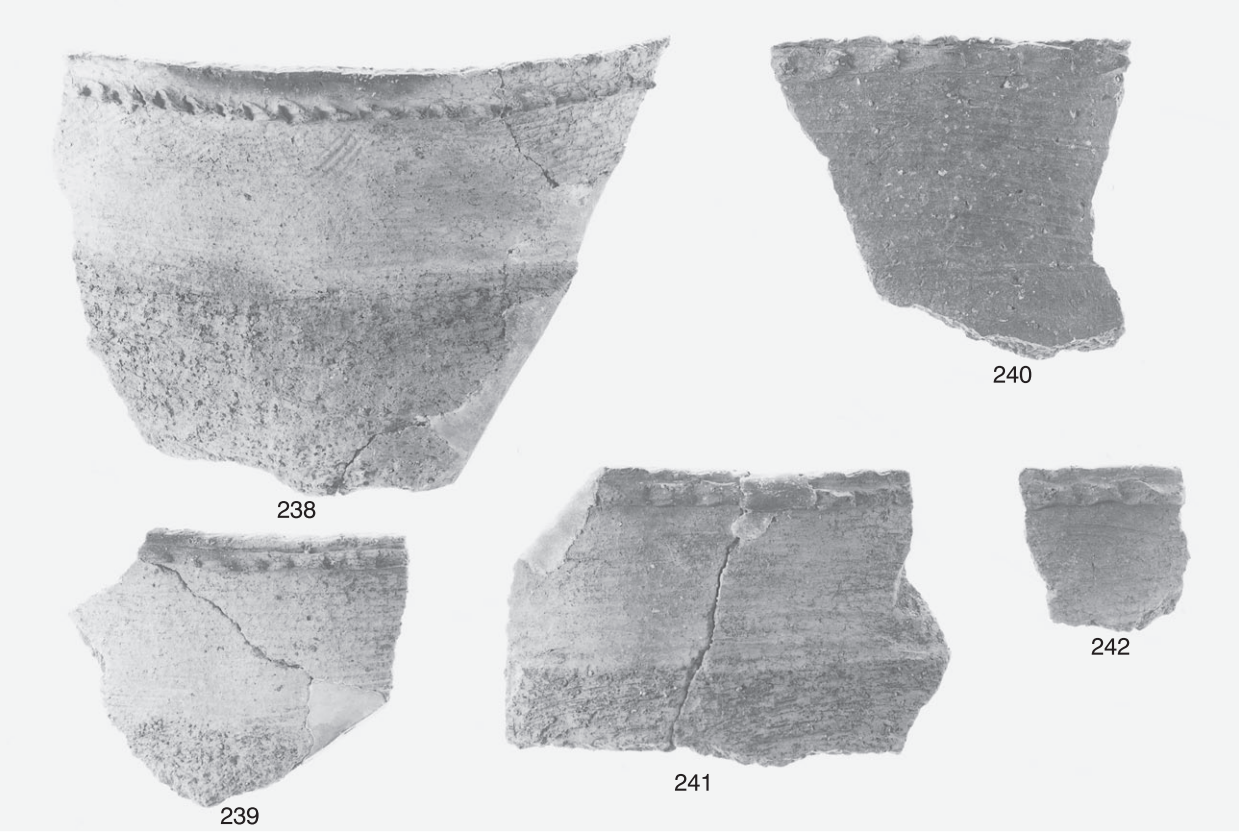

121
136
139
142
144
145
146
148
150
152
155
158
160
161
162
165
166
167
168
169


173
175
181
184
187
191
192
196
193
198
199
210
202
212
213
215
218
219
208

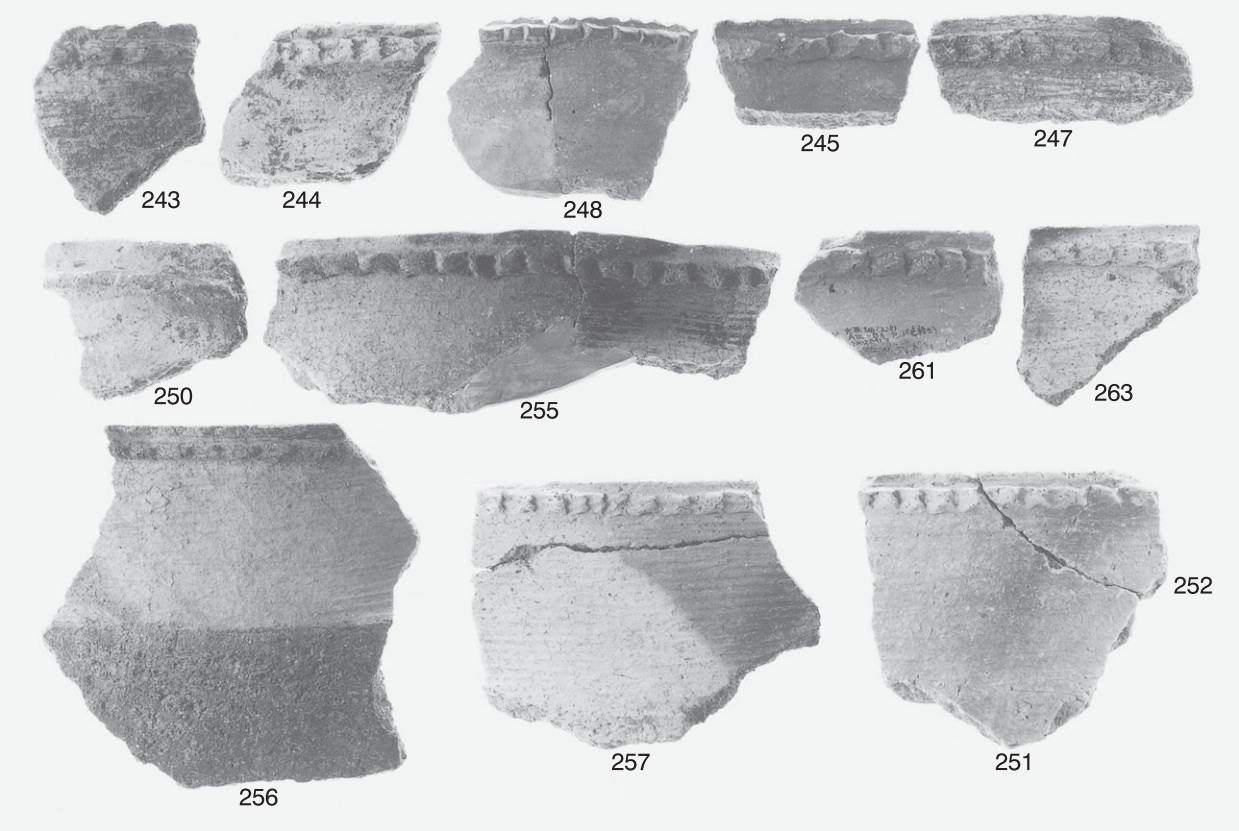
出土遺物7

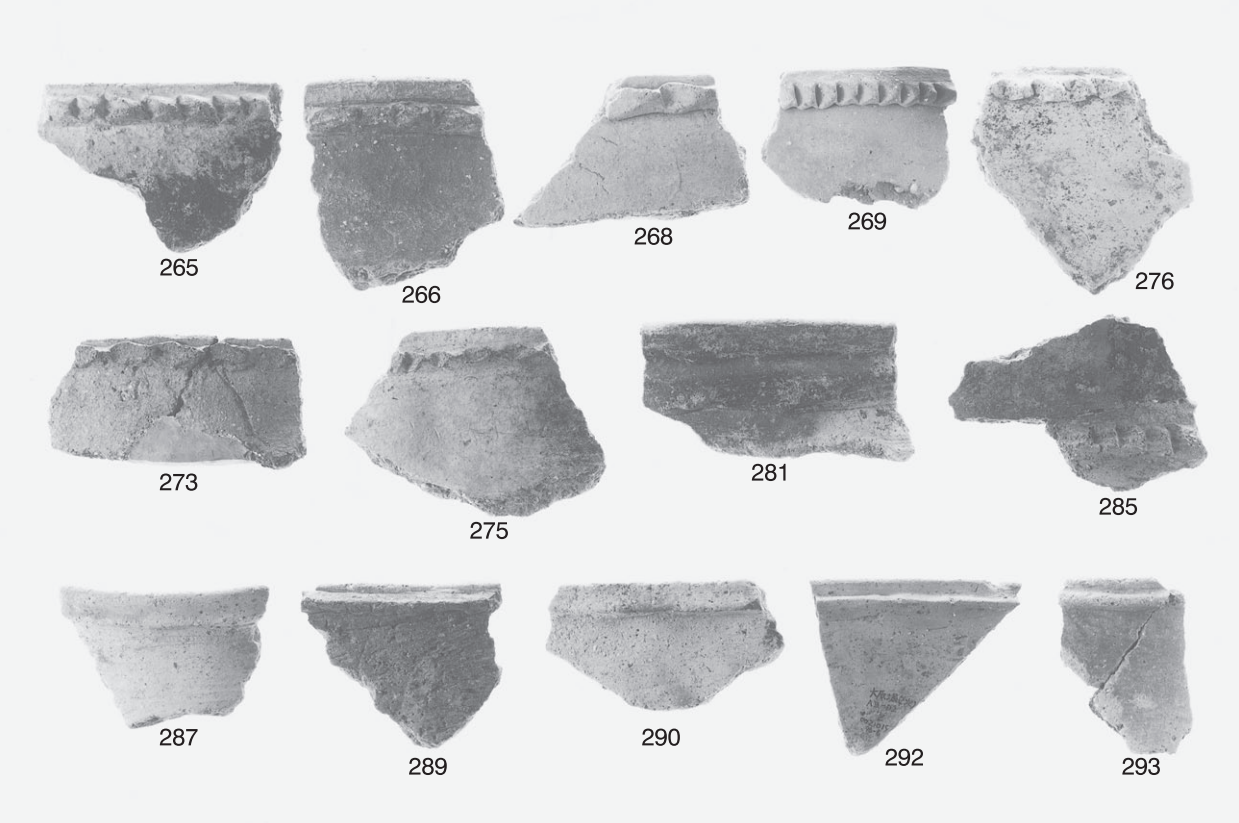
写真図版34





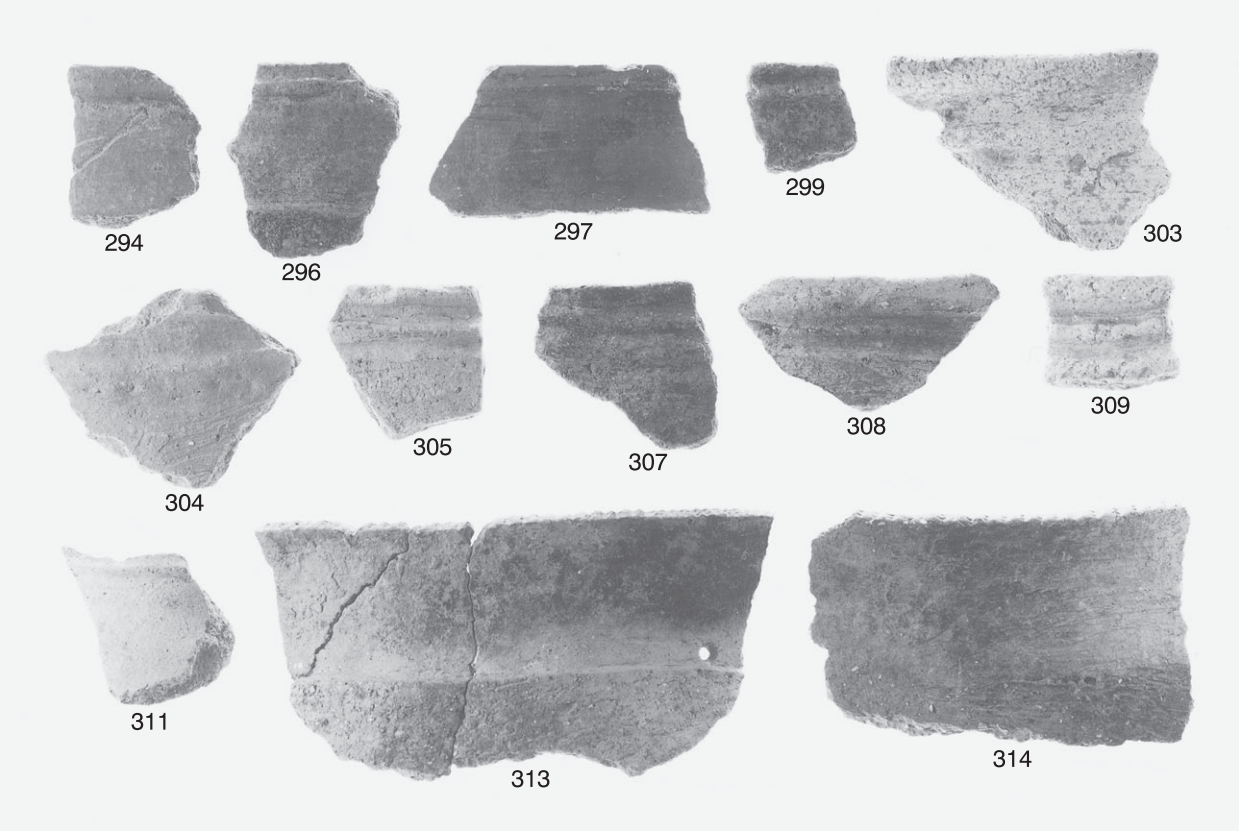
出土遺物8

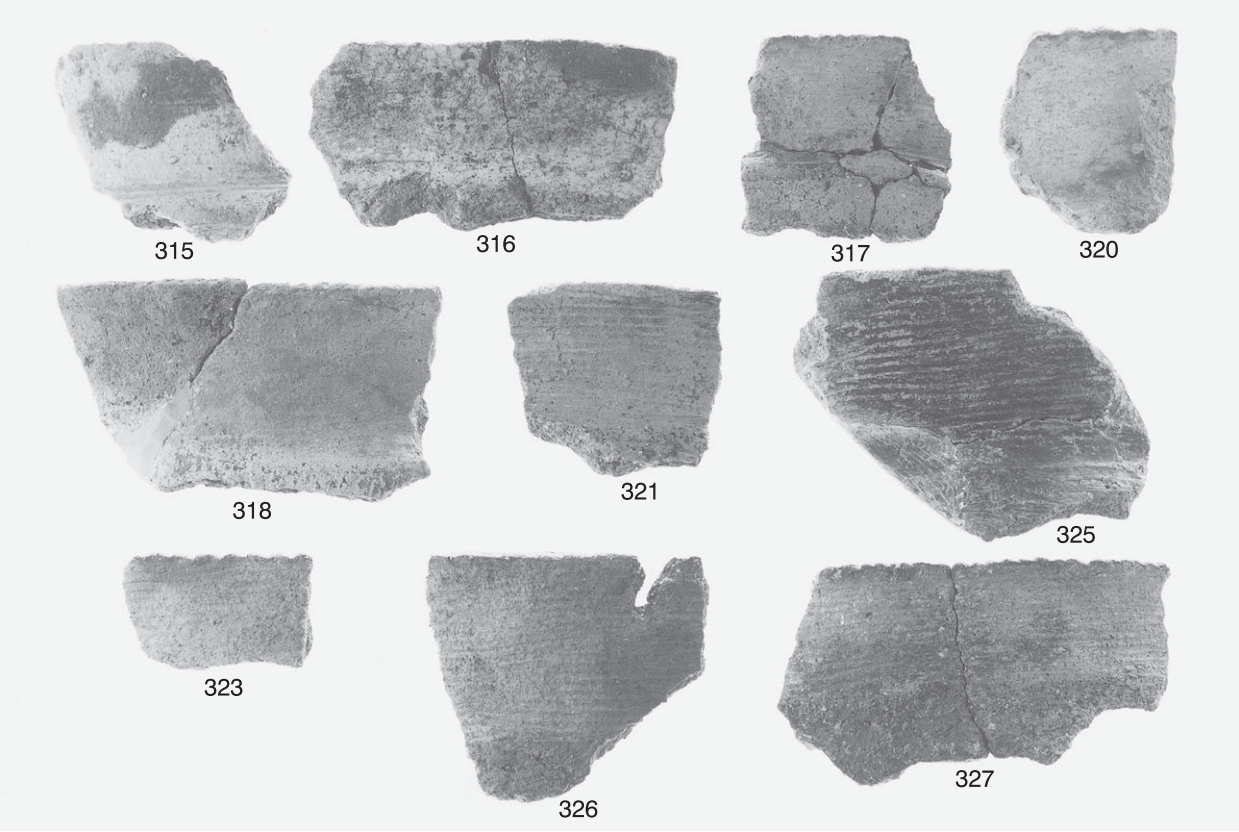

243
244
248
245
247
250
255
261
263
256
257
251
252


265
266
268
269
276
273
275
281
285
287
289
290
292
293

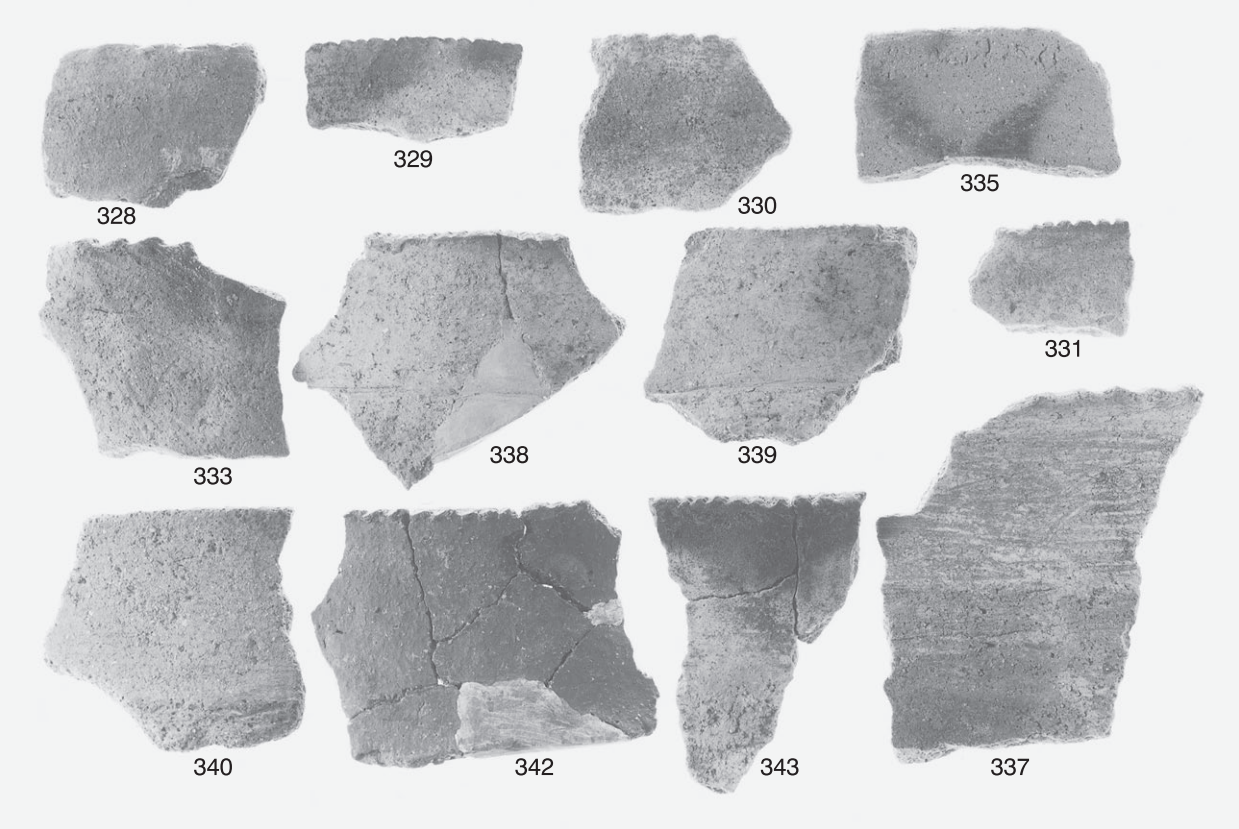
出土遺物9

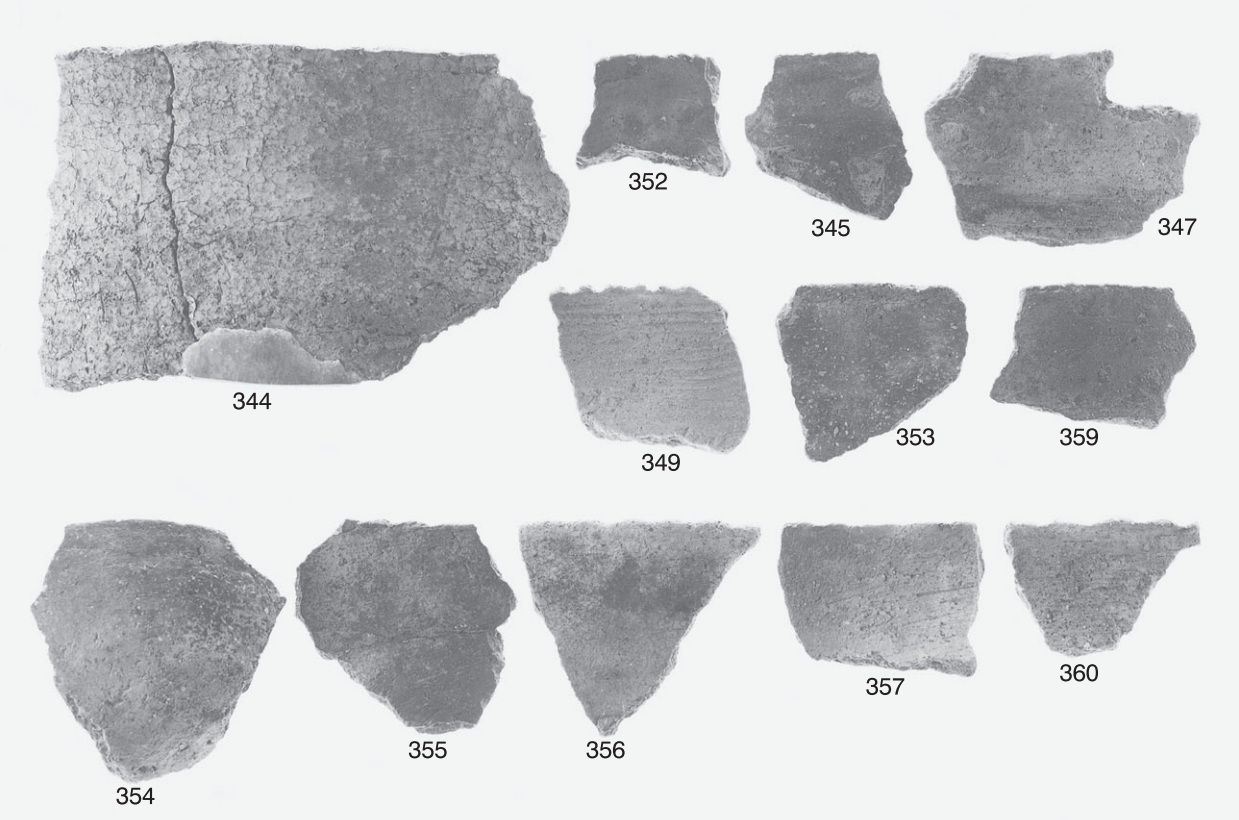
写真図版36





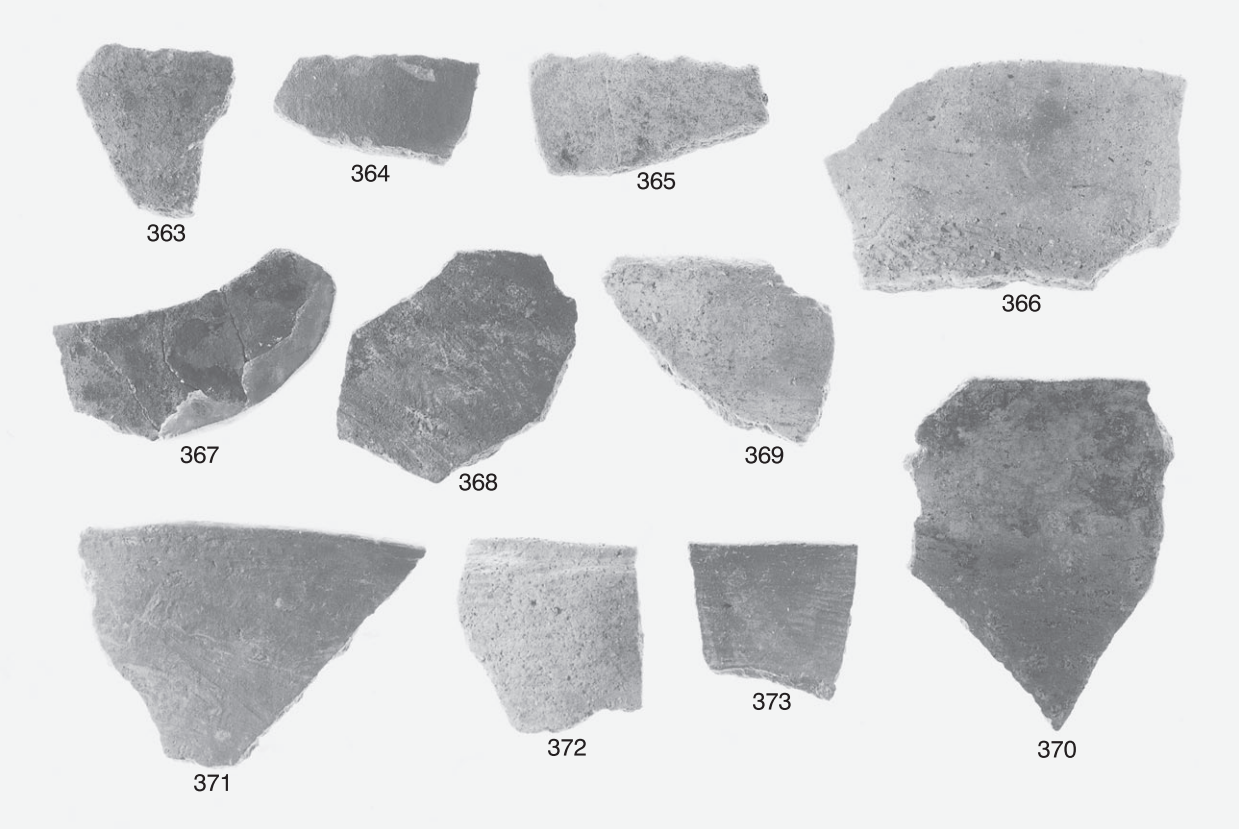
出土遺物10

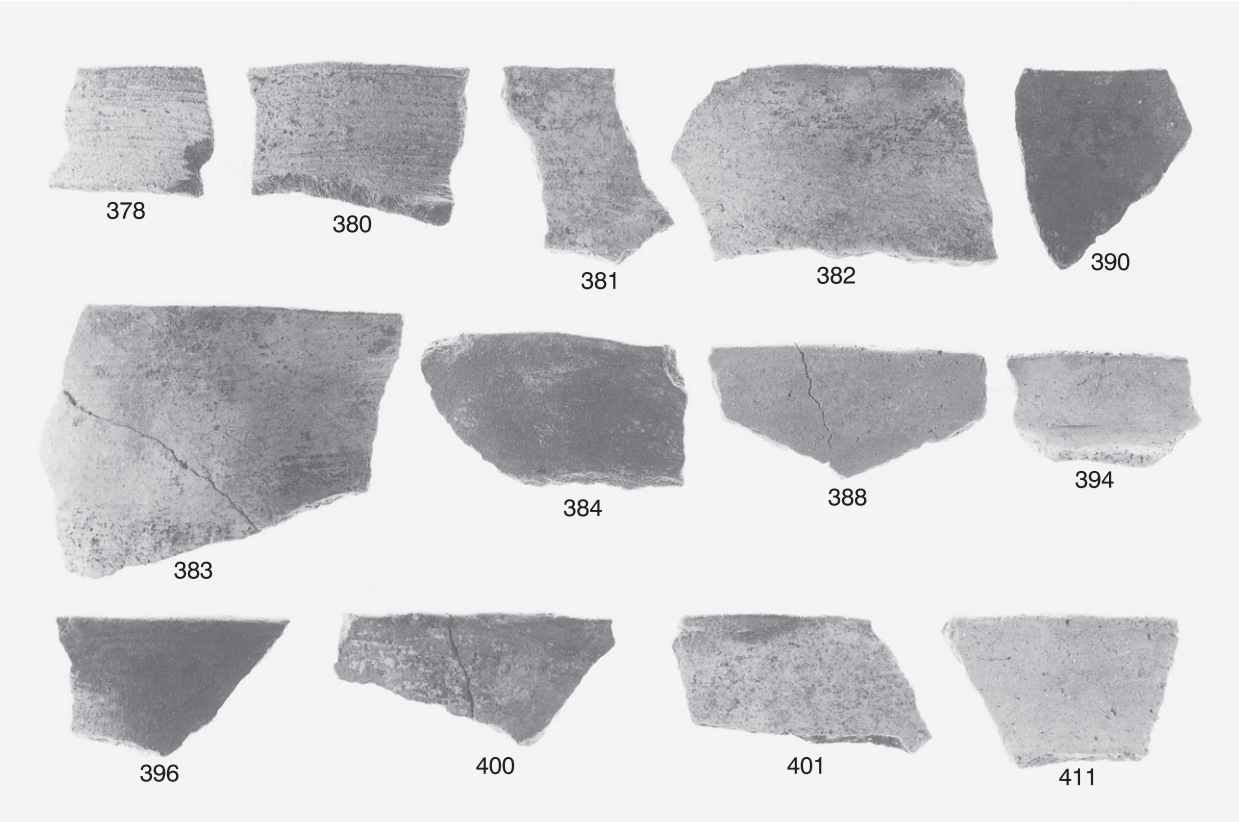

328
329
330
335
331
333
338
339
340
342
343
337


344
352
345
347
349
353
359
354
355
356
357
360

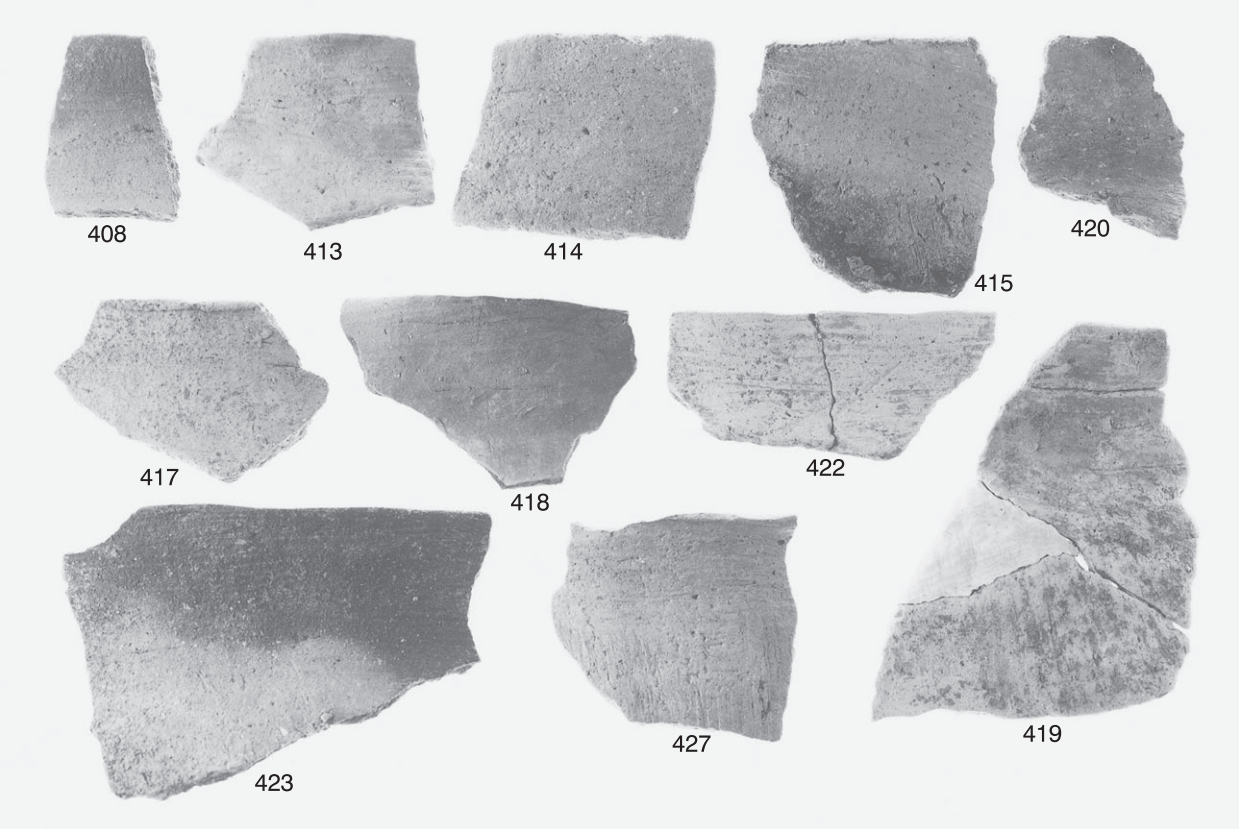
出土遺物11

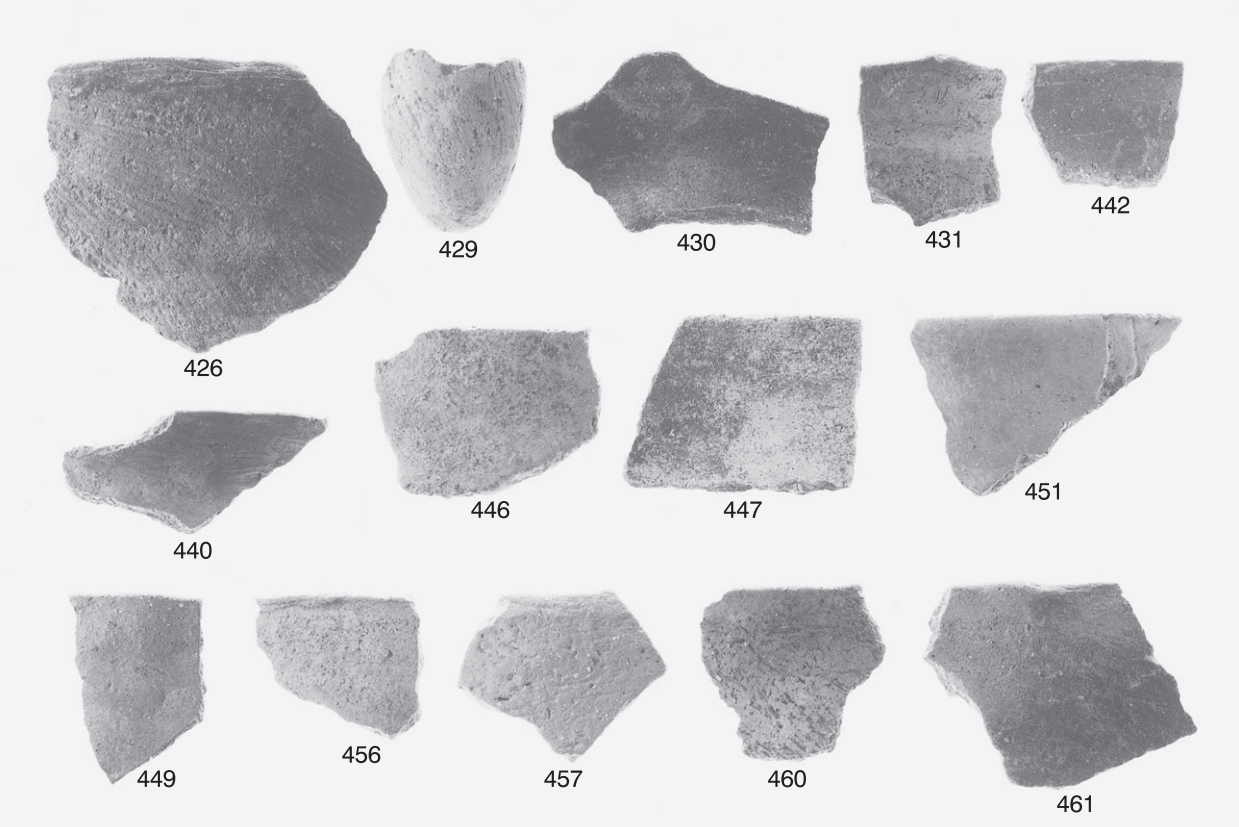
写真図版38





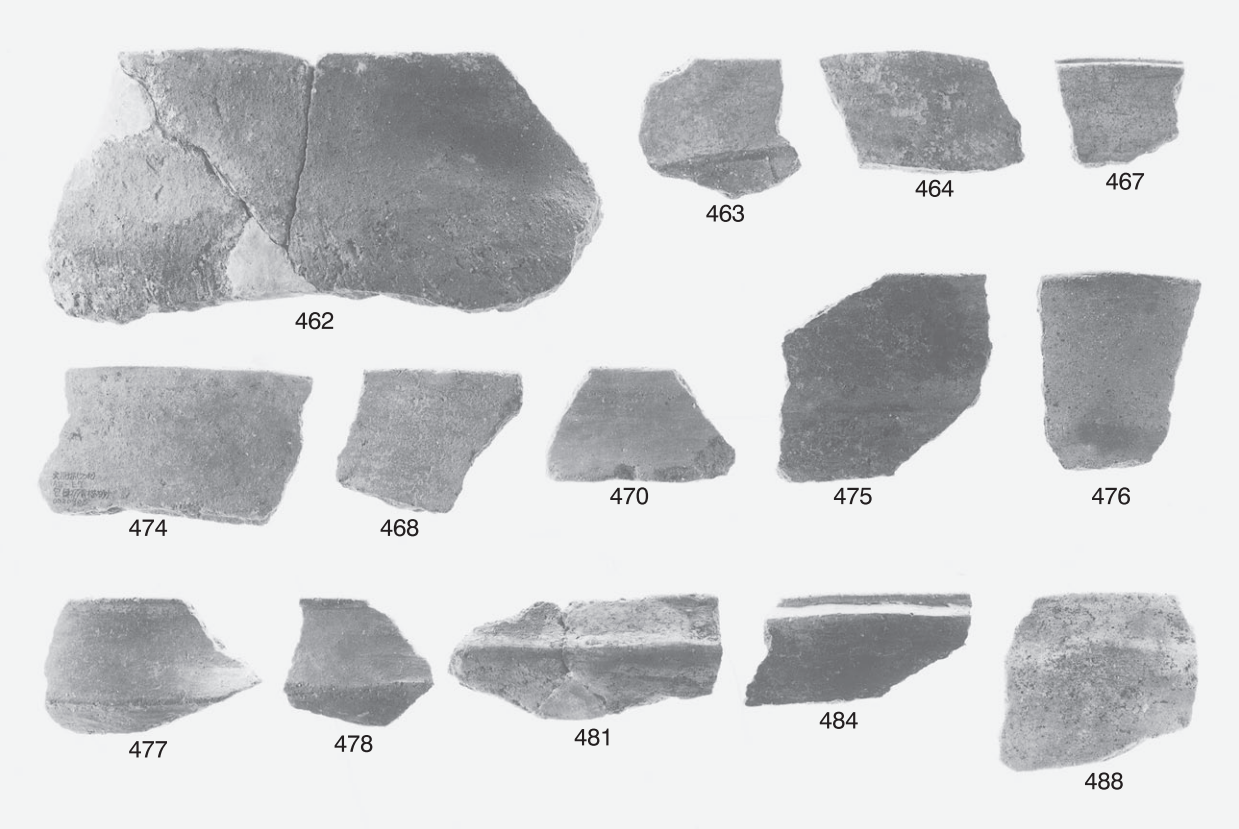
出土遺物12

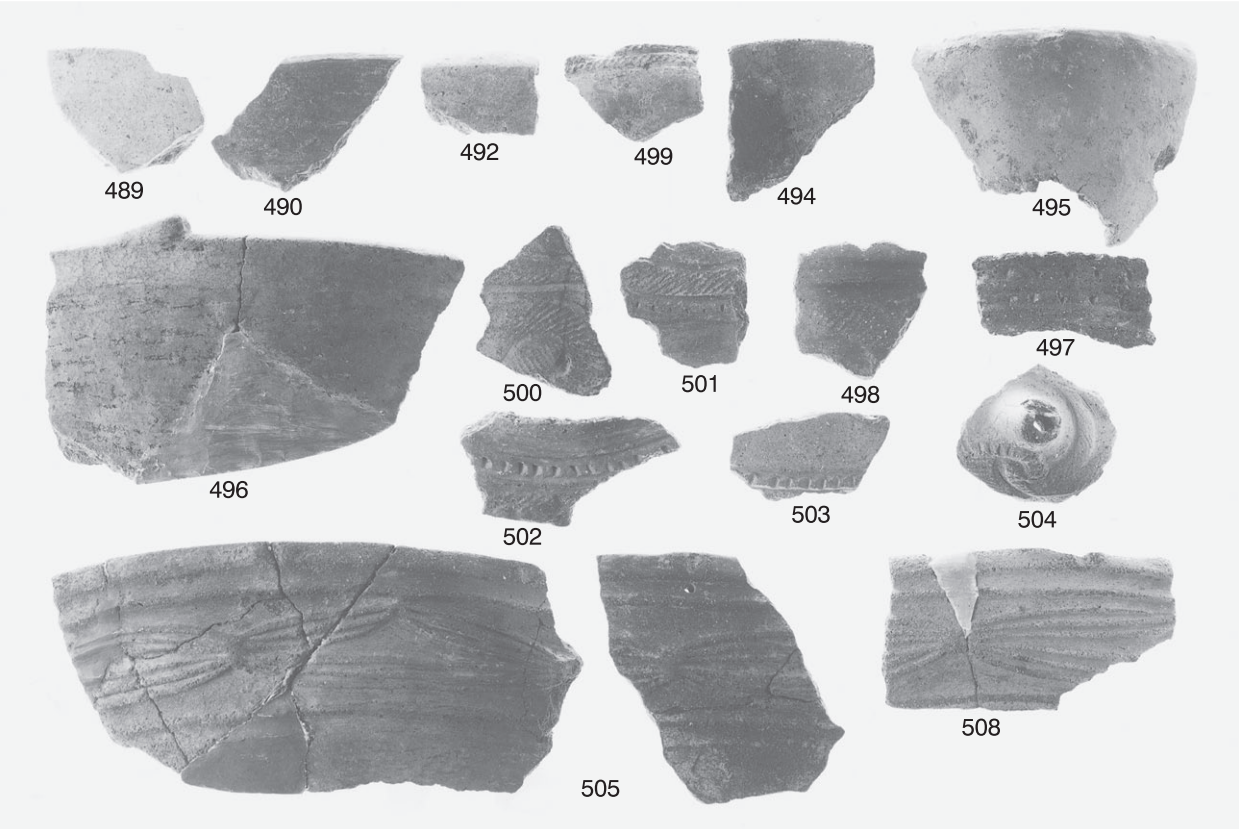

408
413
414
415
420
417
418
422
419
423
427


429
430
431
442
426
440
446
447
451
449
456
457
460
461

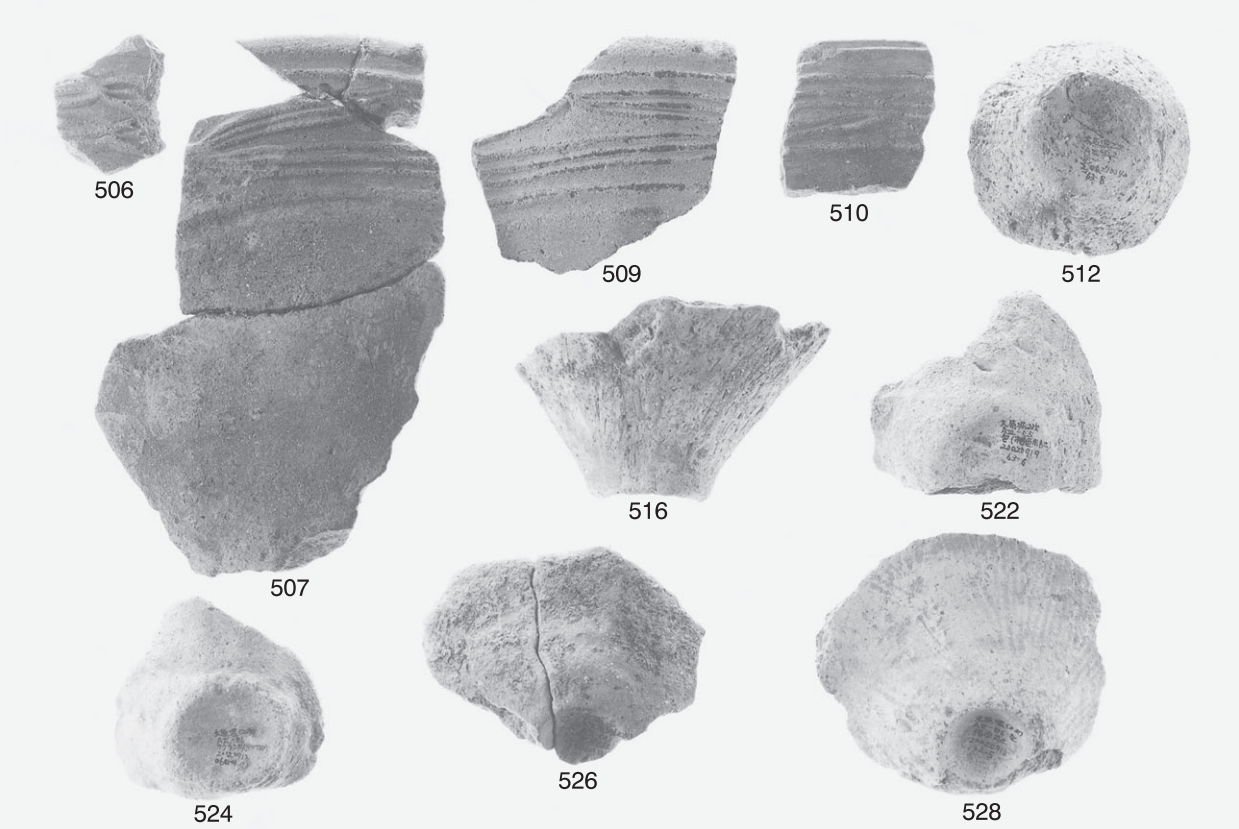
出土遺物13

写真図版40





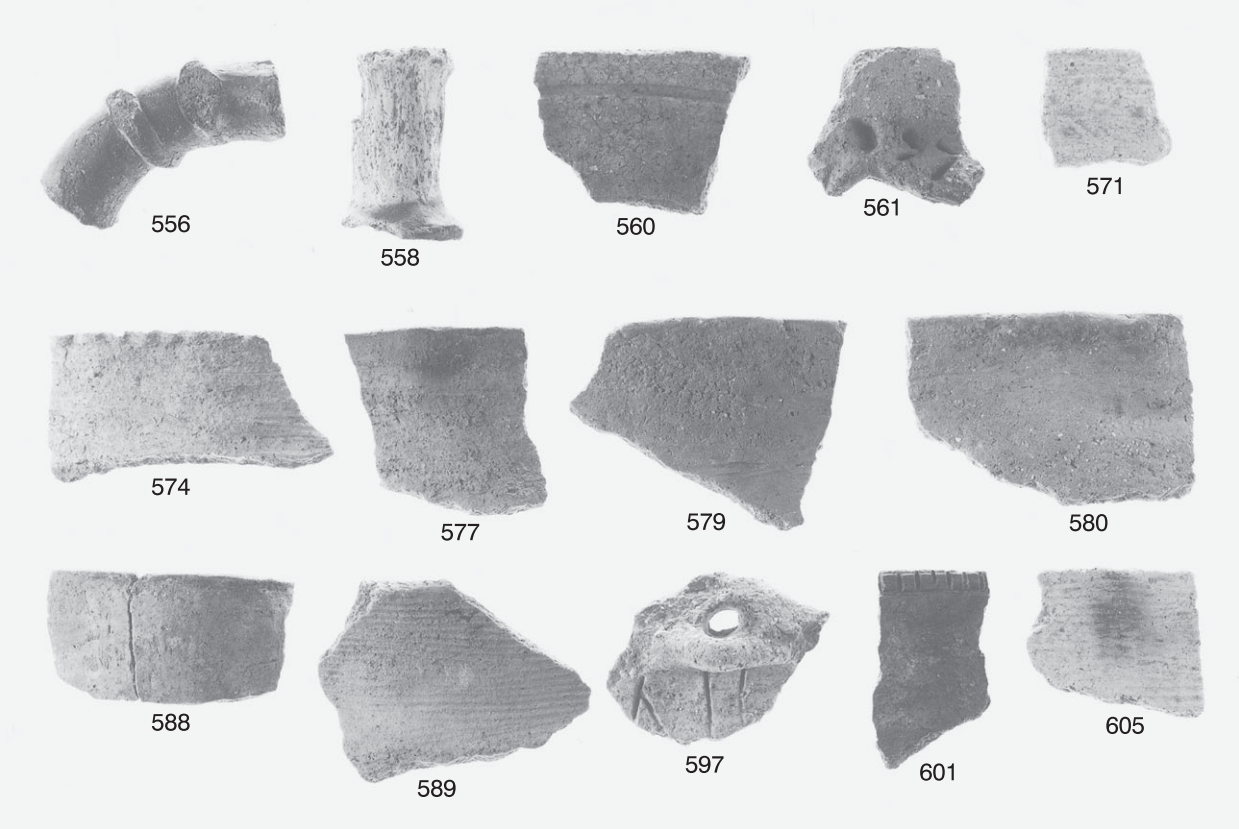
出土遺物14

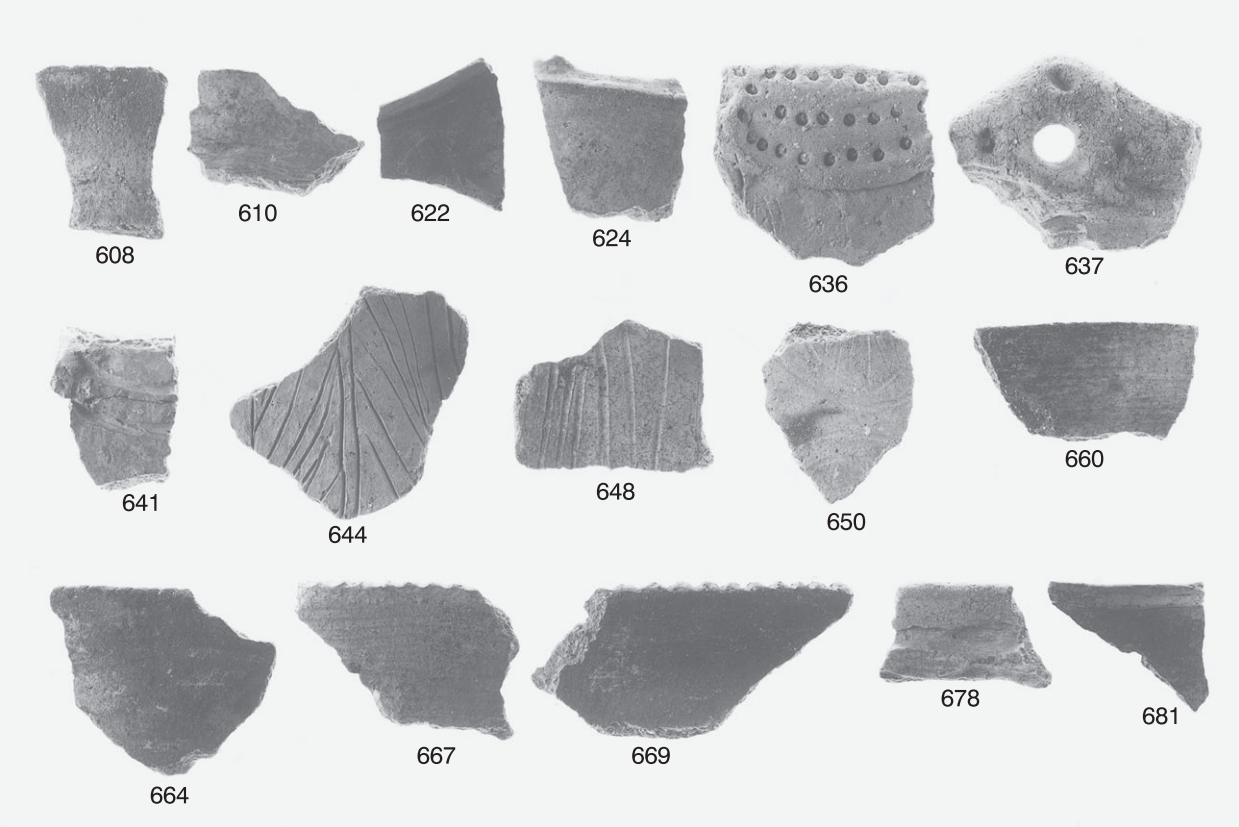

506
507
509
510
512
516
522
524
526
528

529
535
550
542
546
530
552
553
554

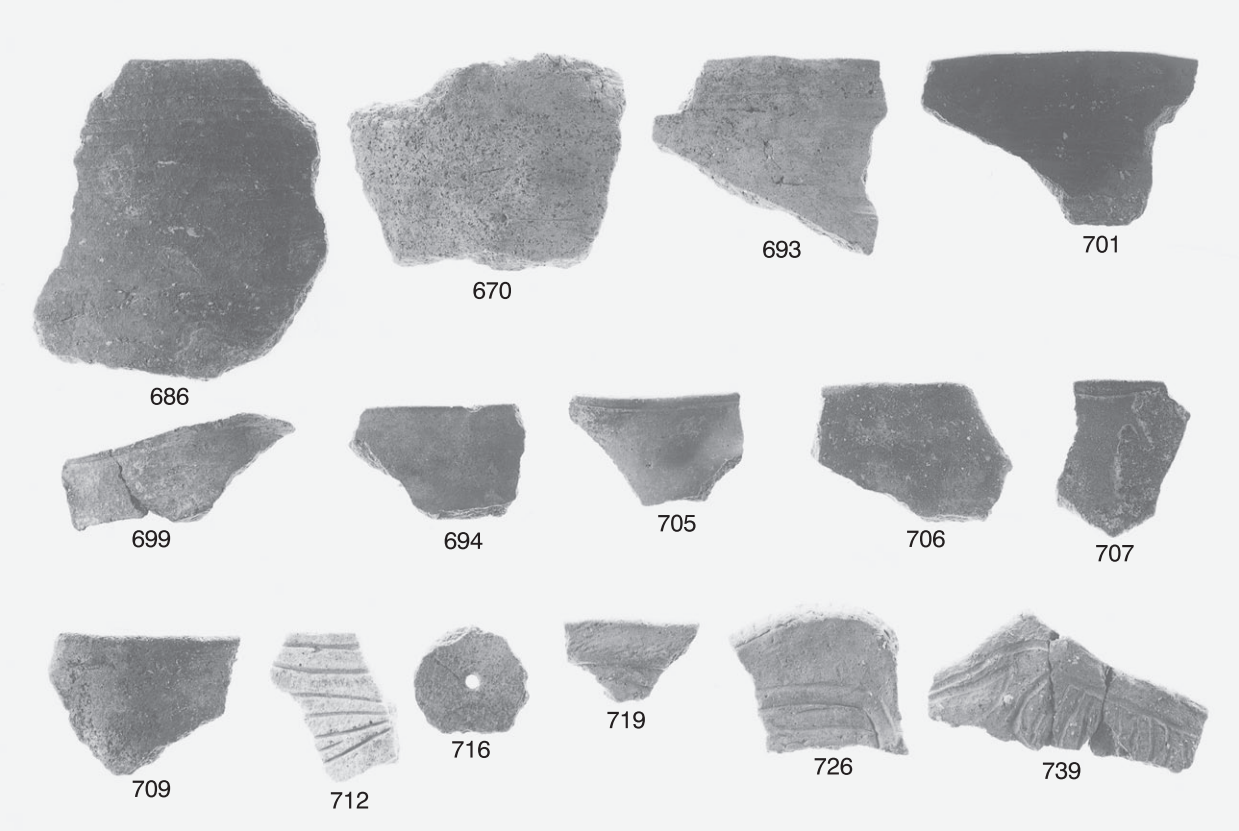
出土遺物15

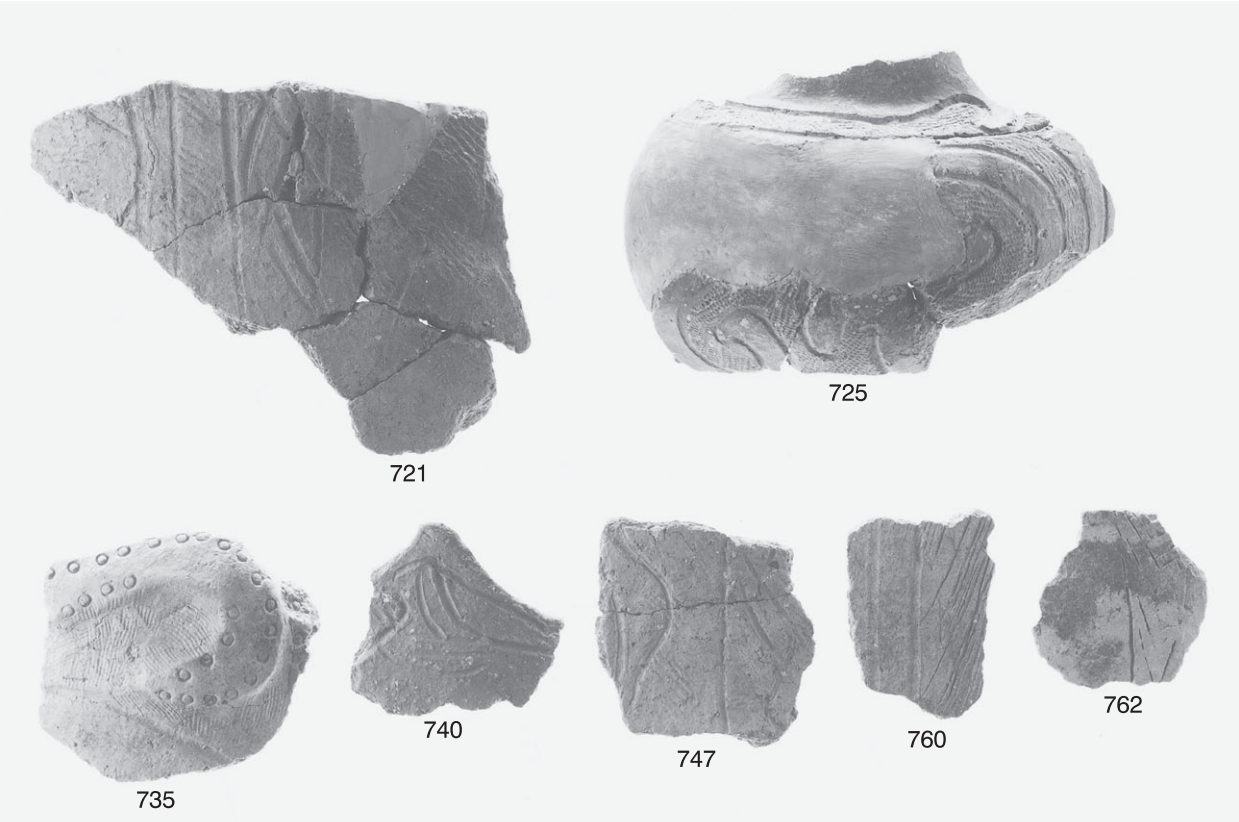
写真図版42





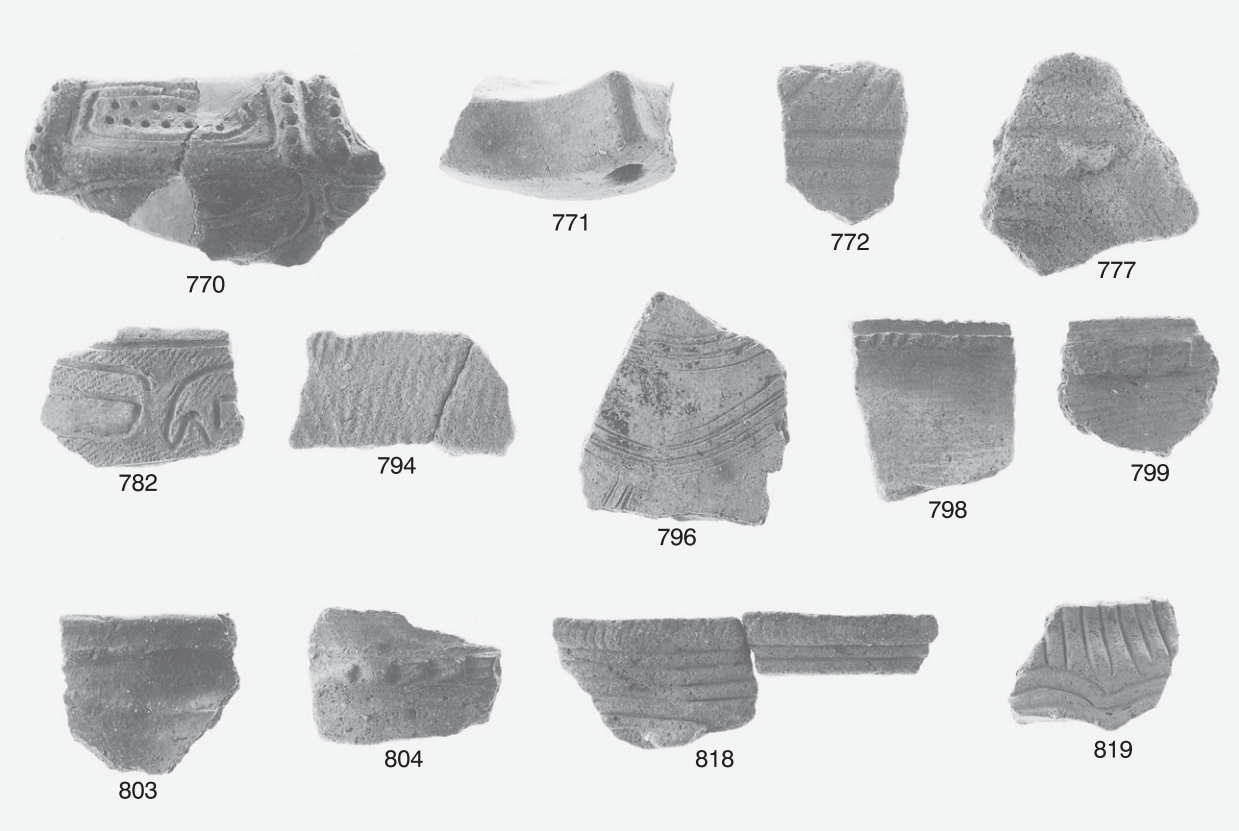
出土遺物16

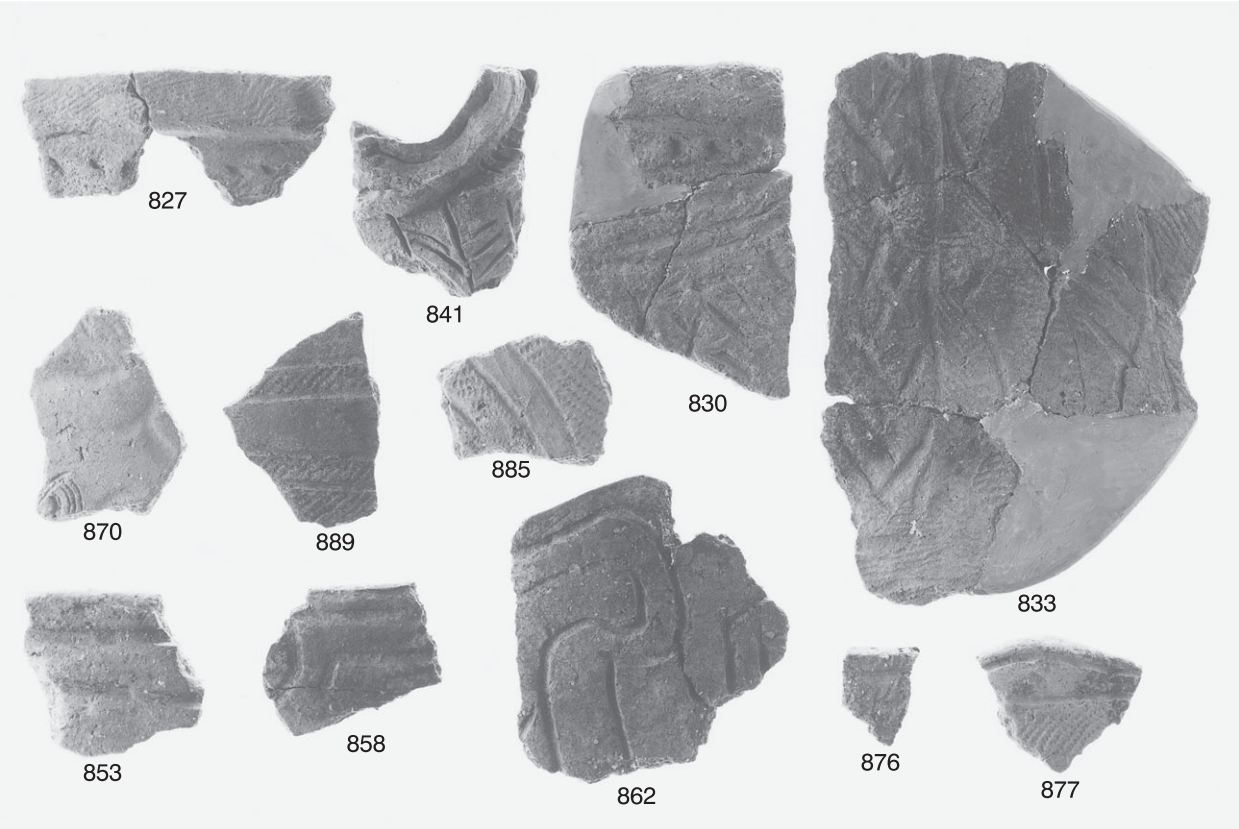

686
670
693
701
699
694
705
706
707
709
712
716
719
726
739


721
725
735
740
747
760
762

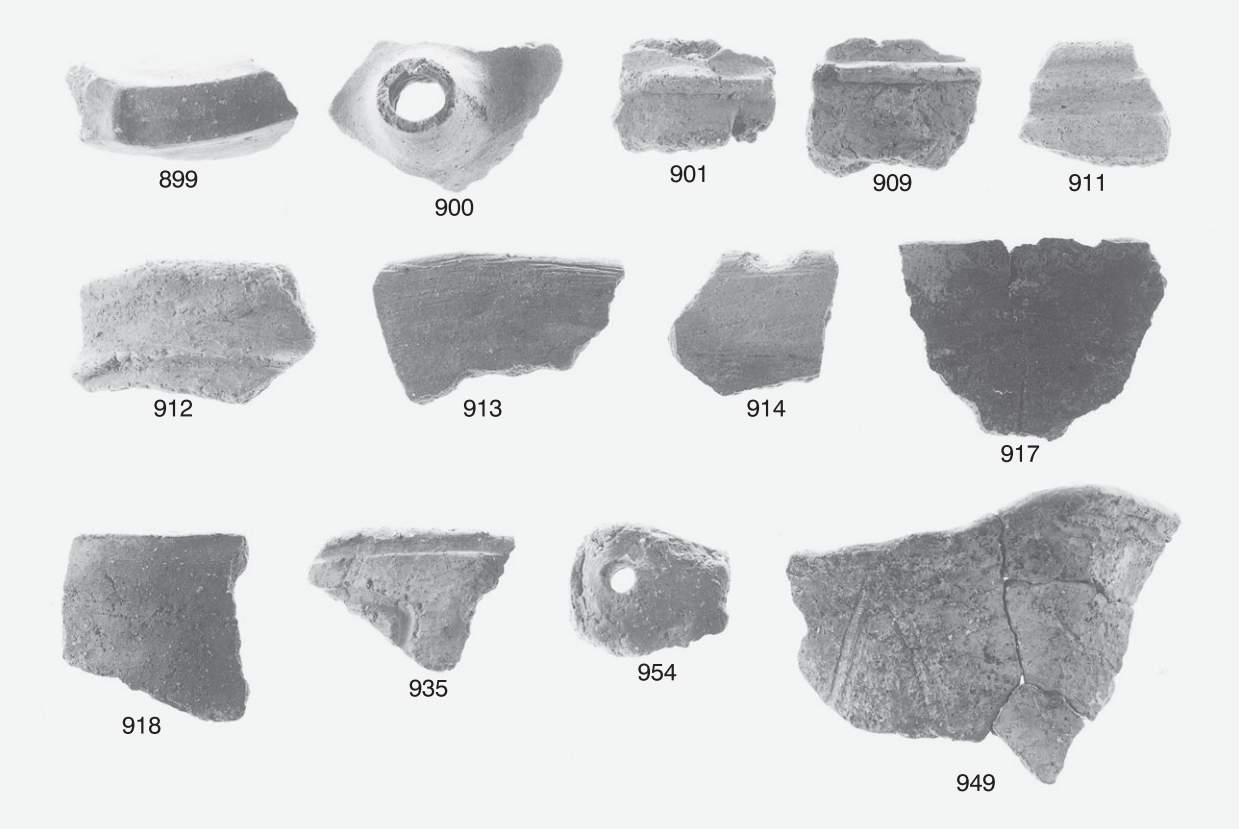
出土遺物17

写真図版44

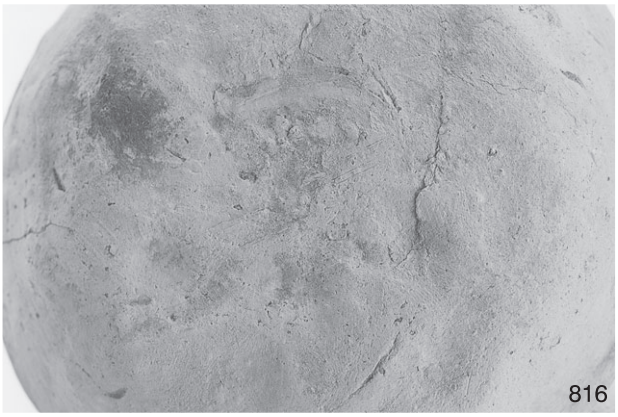




出土遺物18


899
900
901
909
911
912
913
914
917
918
935
954
949

91


816

157

455

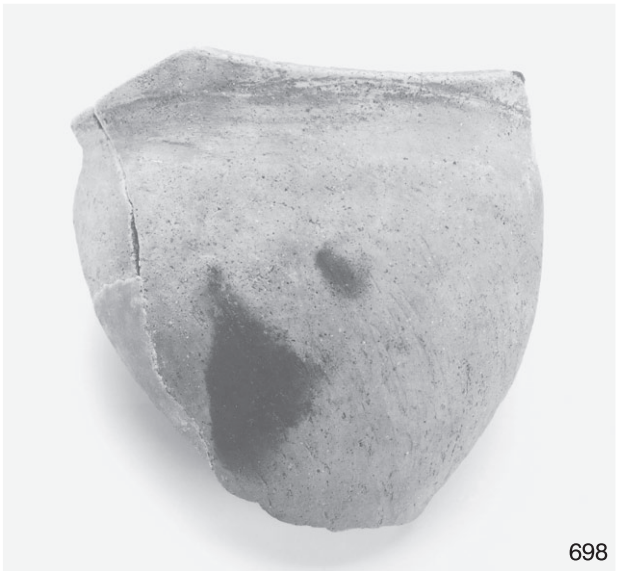
563

出土遺物19

写真図版46

350

559


698

961

103

1006

104

1014

出土遺物20

1018

1020

1021

1024

1028

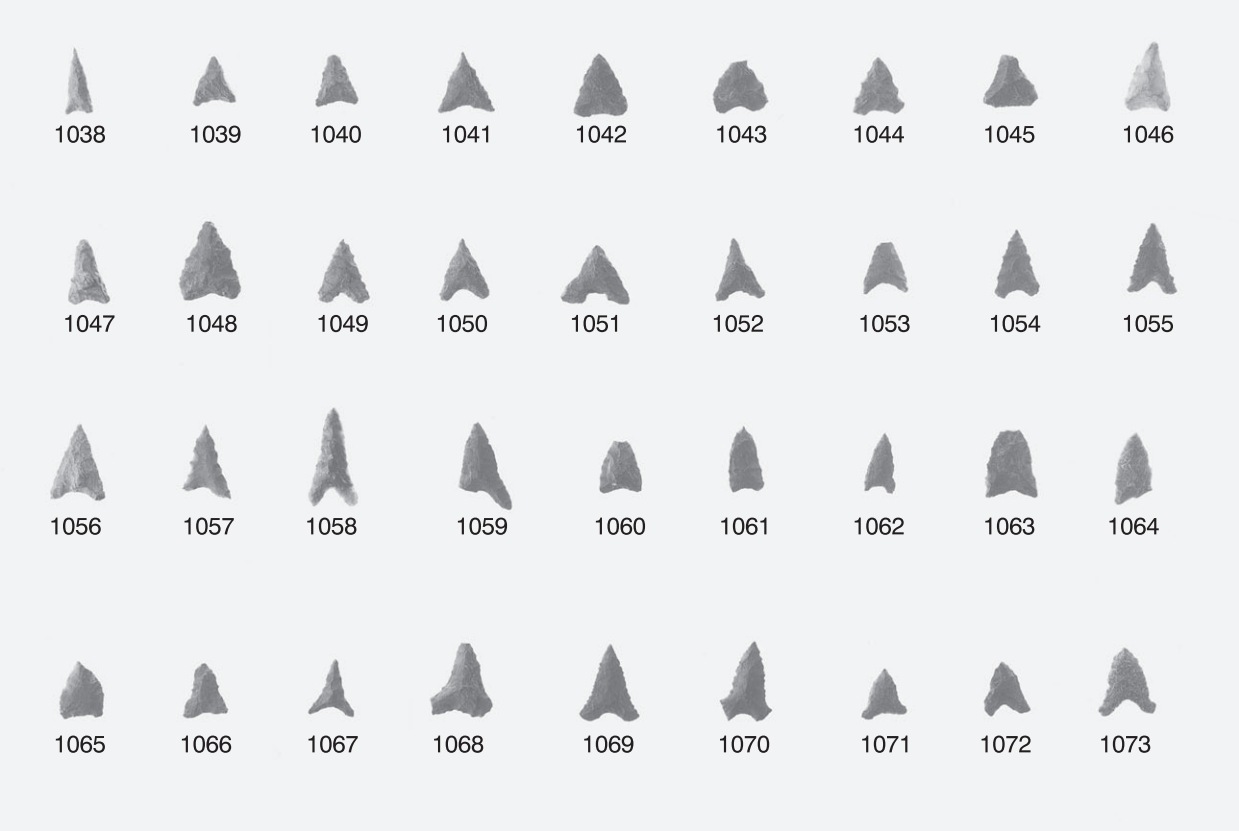
1029

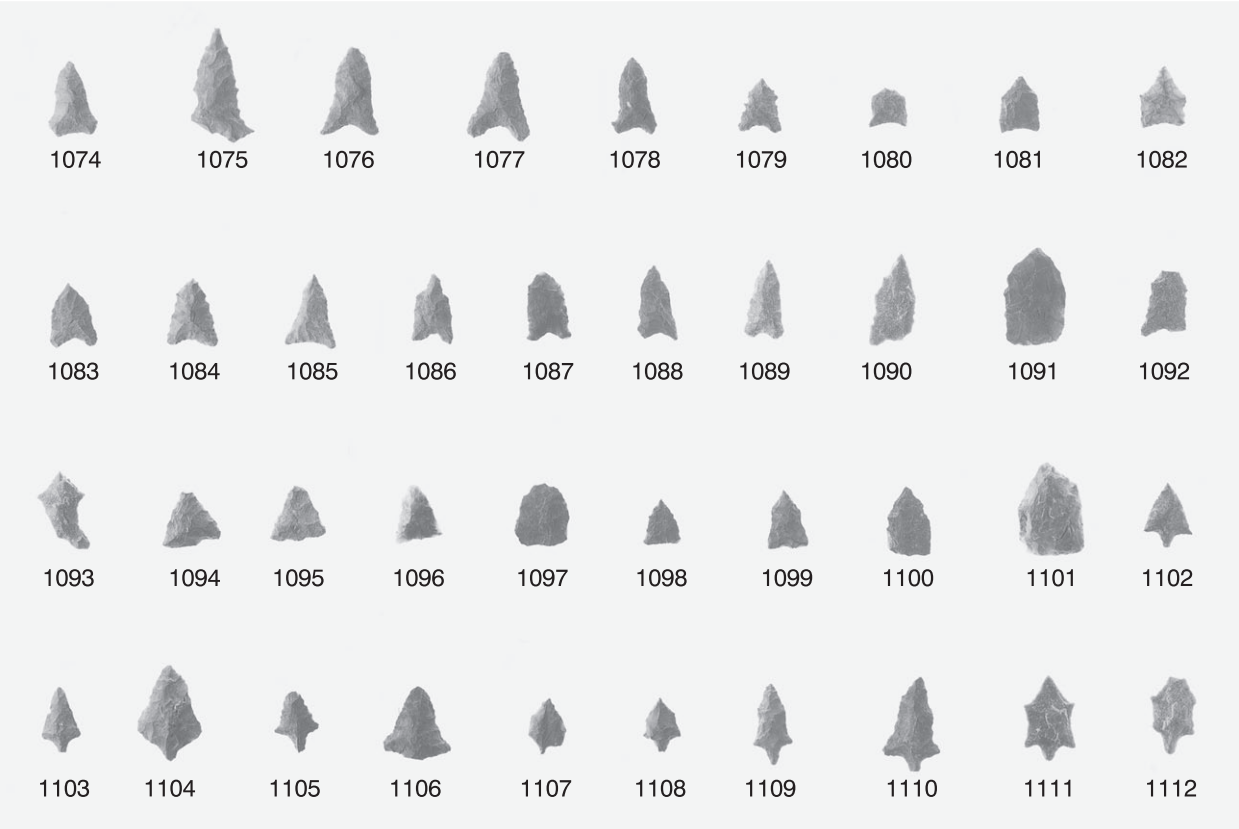
1033 1034

1036 1035 1037

出土遺物21

写真図版48





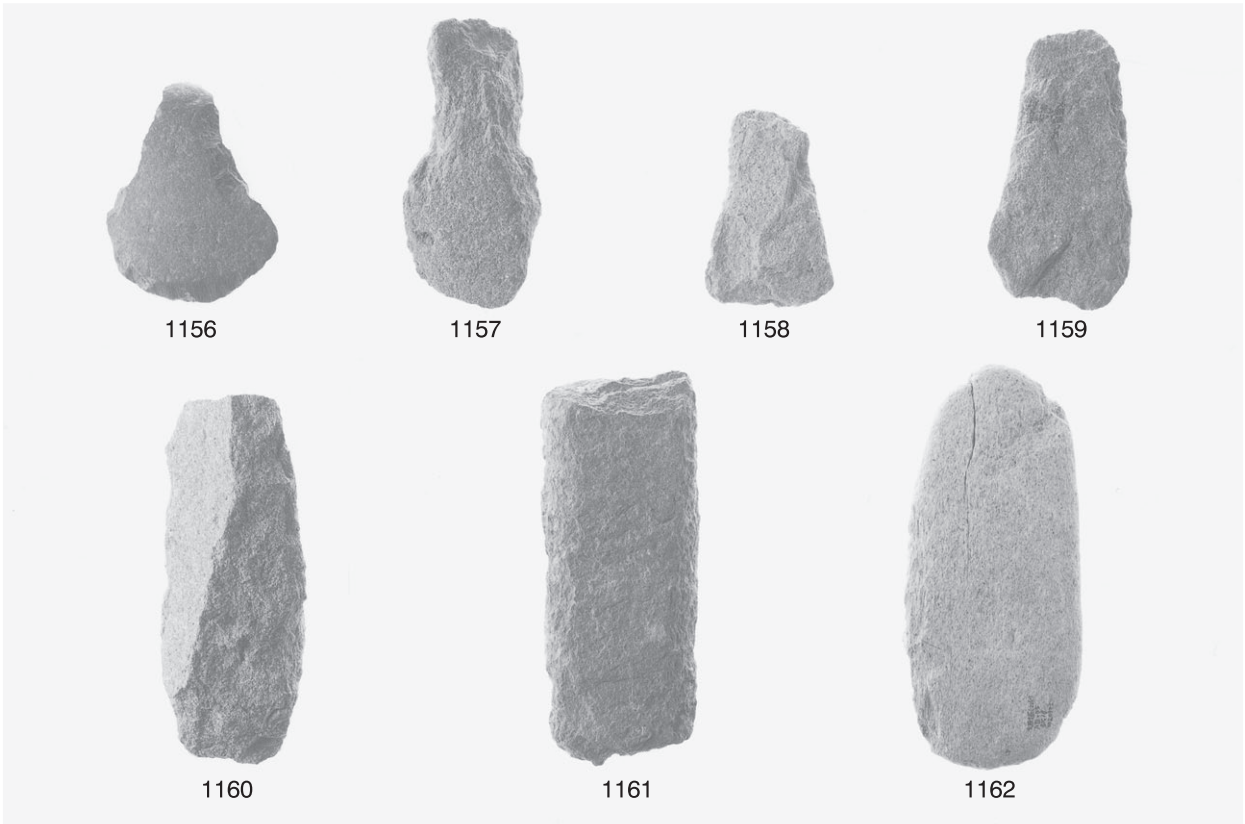
出土遺物22

1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127

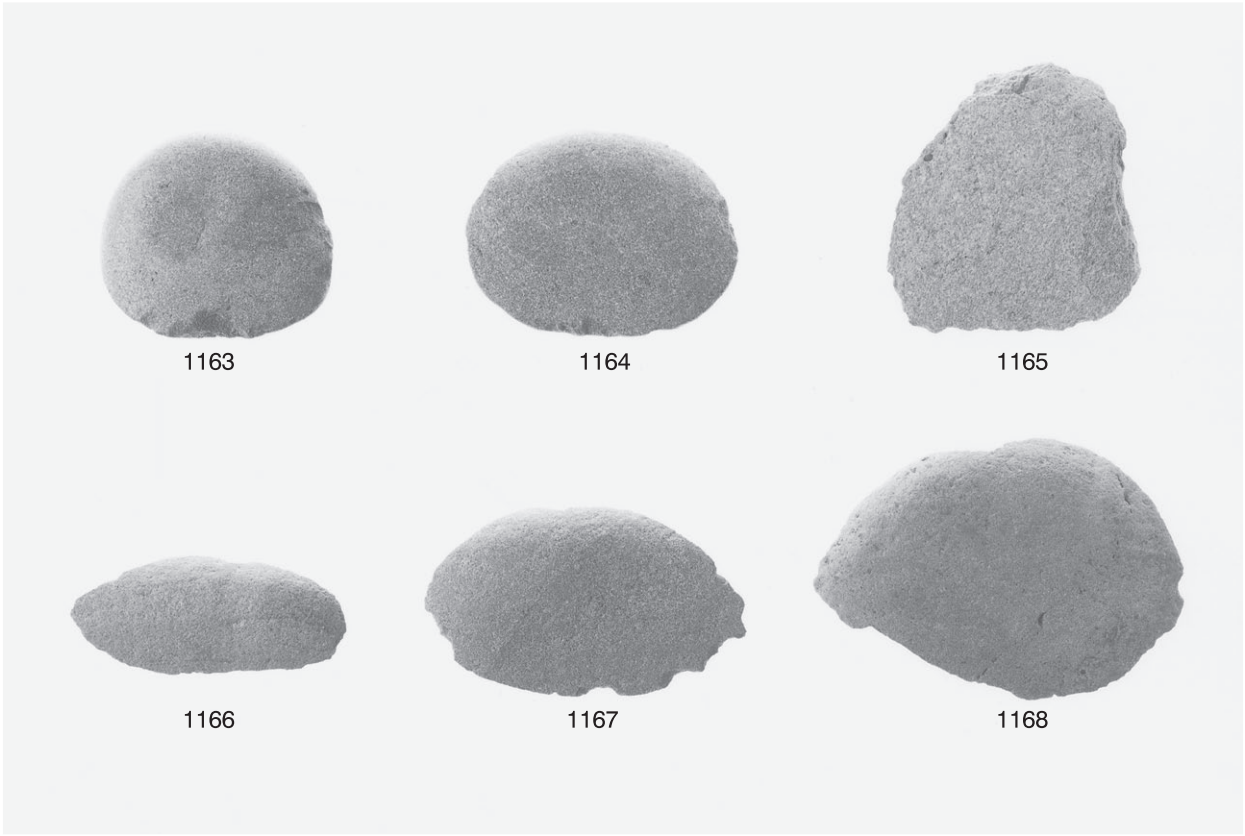
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134
1135
1136
1137
1138
1139
1140
1141
1142

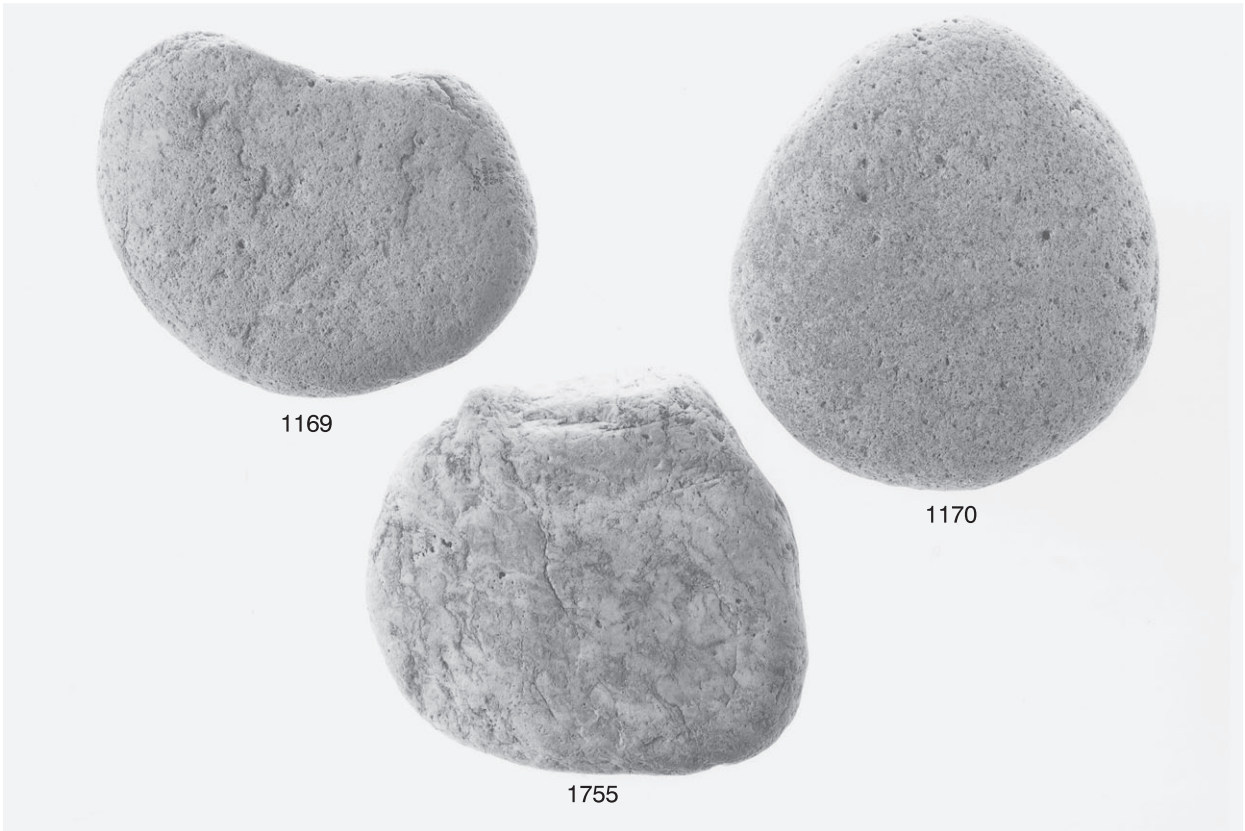
出土遺物23

写真図版50



出土遺物24



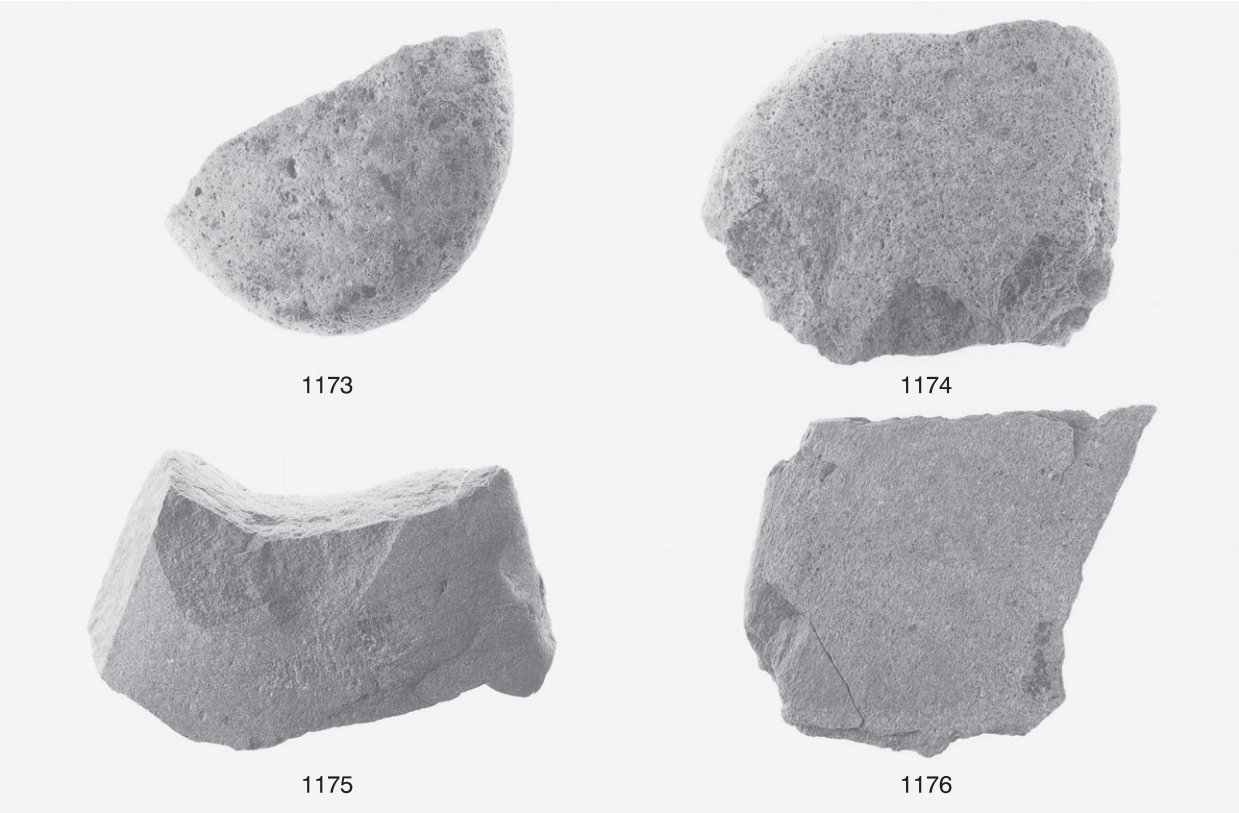


出土遺物25

写真図版52

1171

1172



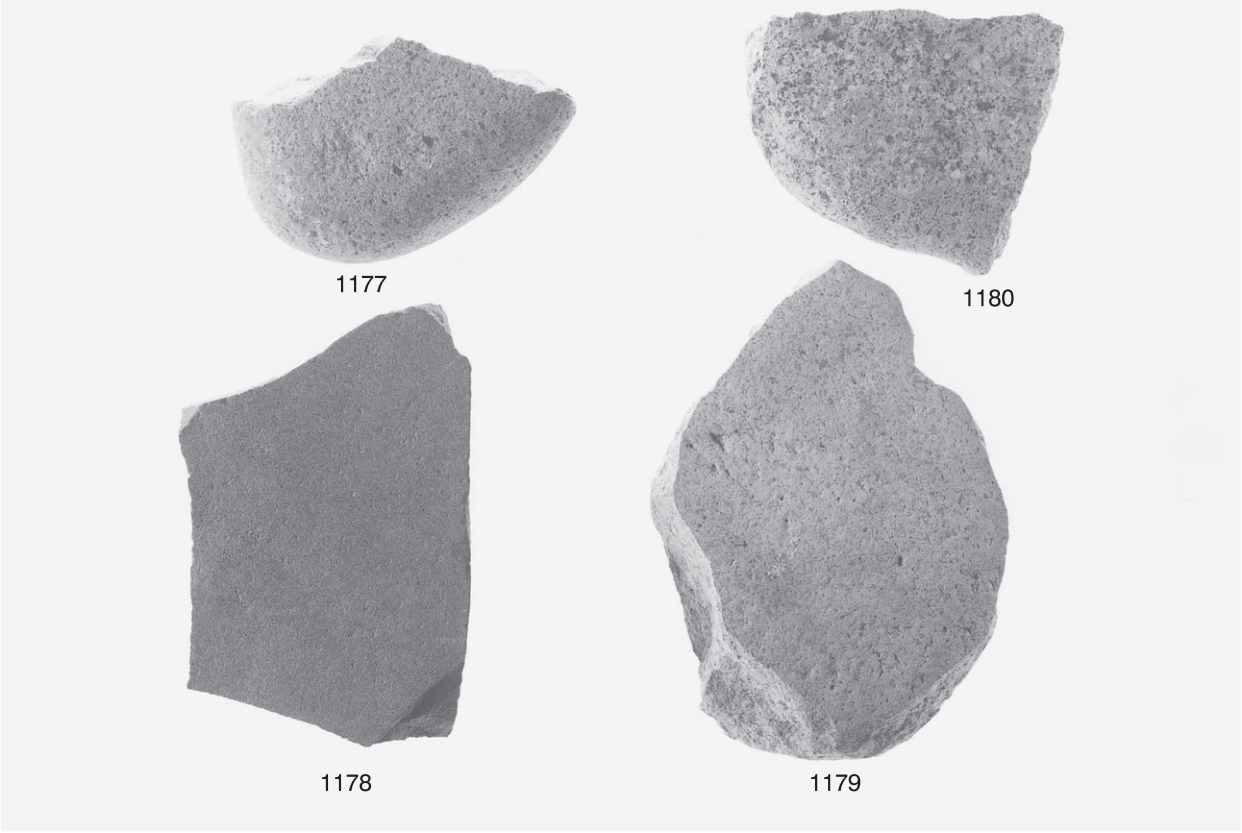
1173

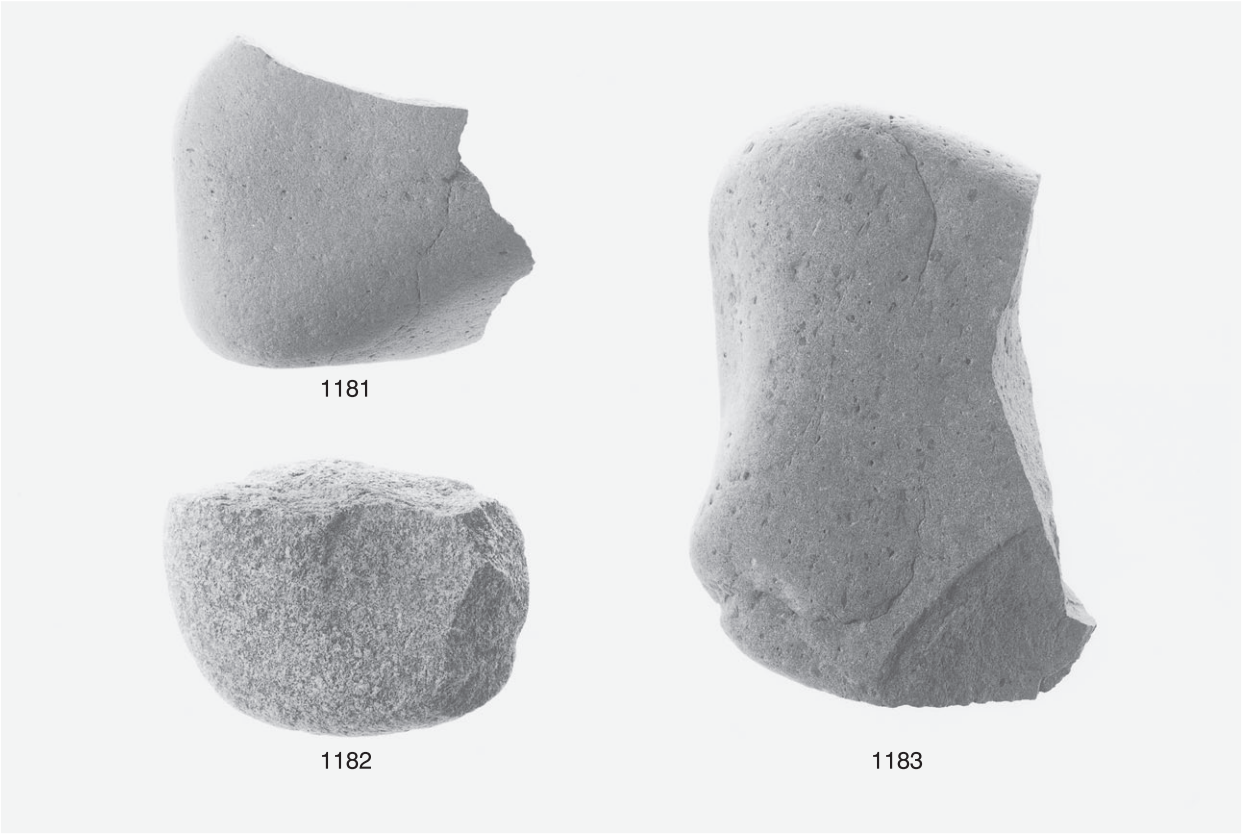
1174

1175

1176

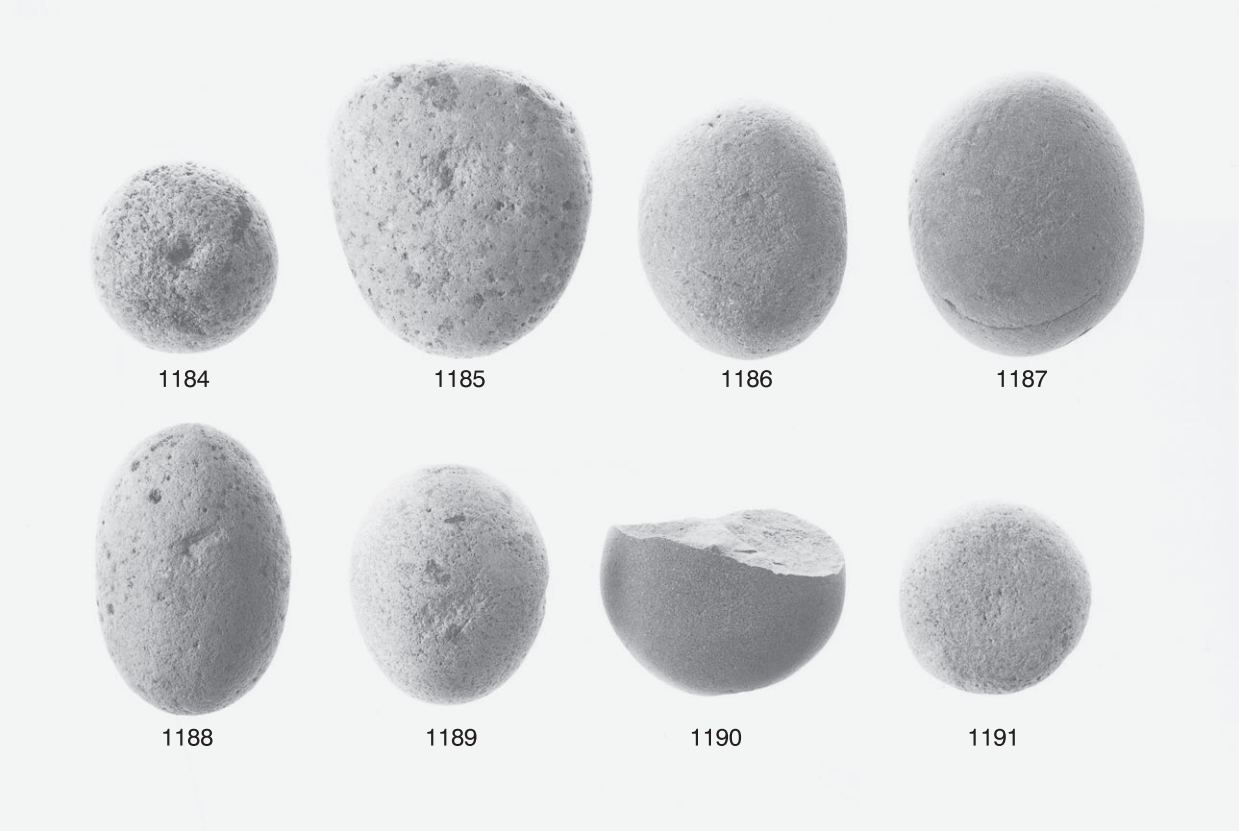
出土遺物26

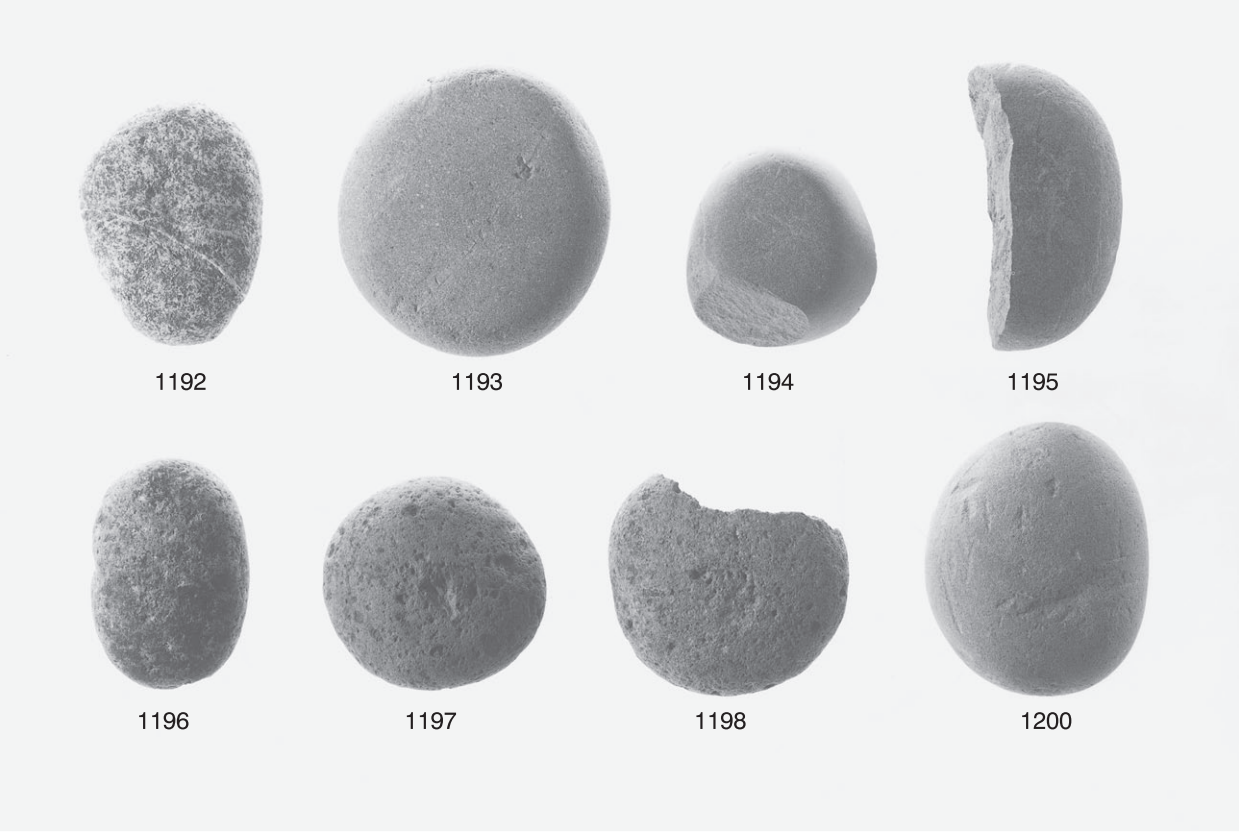




出土遺物27

写真図版54





出土遺物28

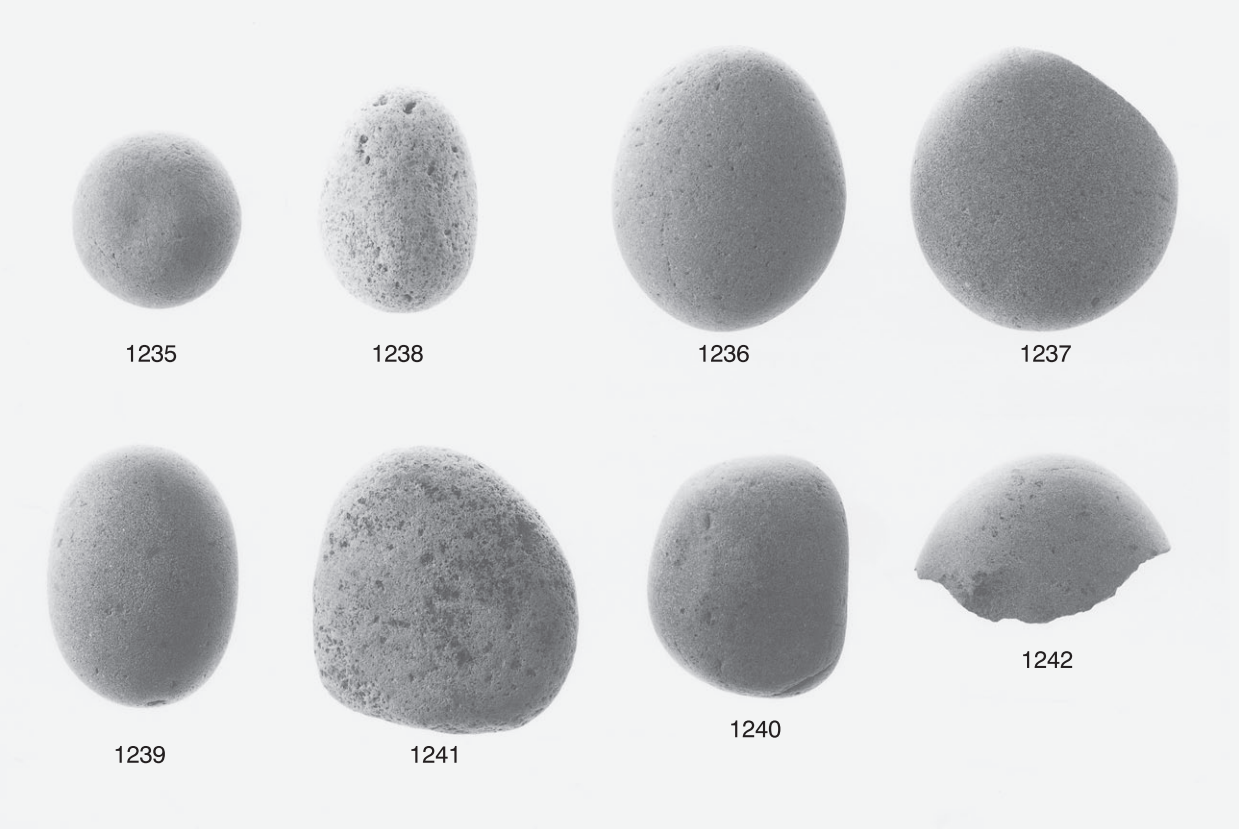
1199
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207

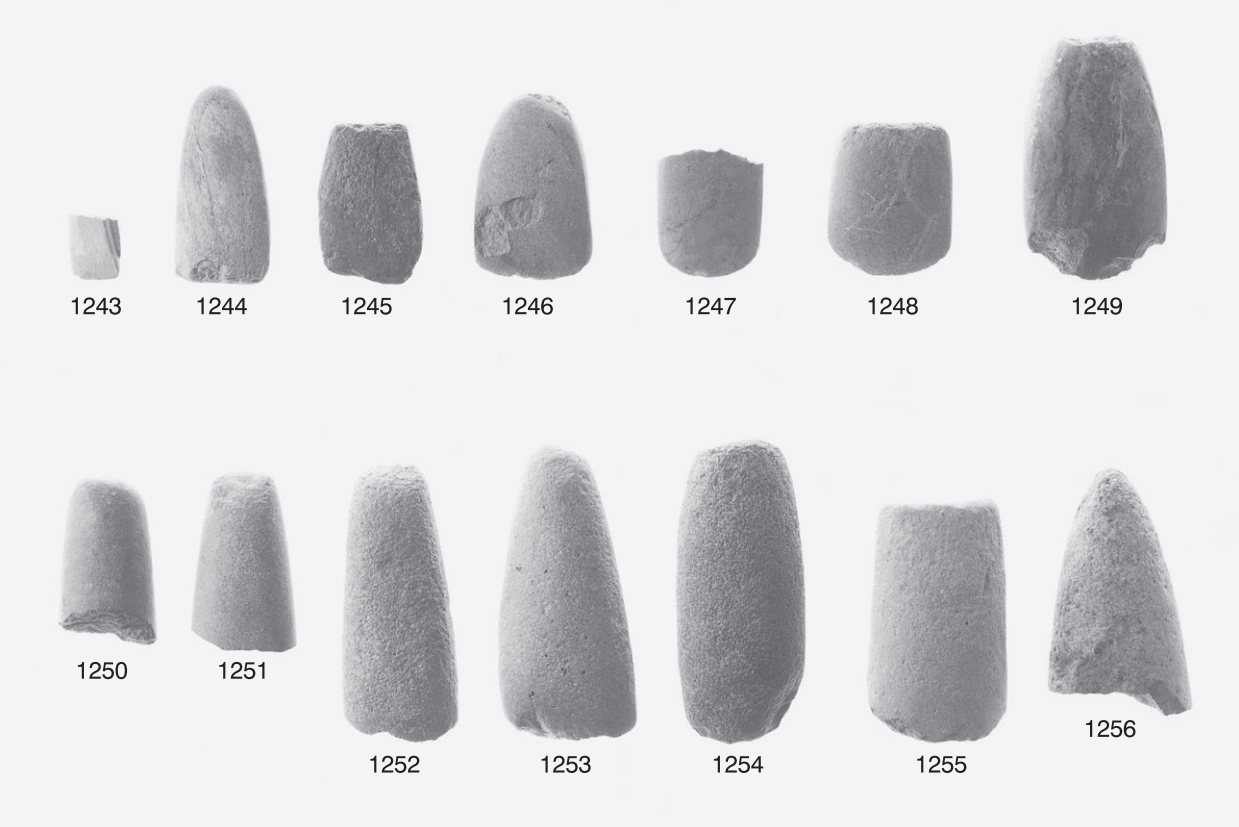
1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215

出土遺物29

写真図版56

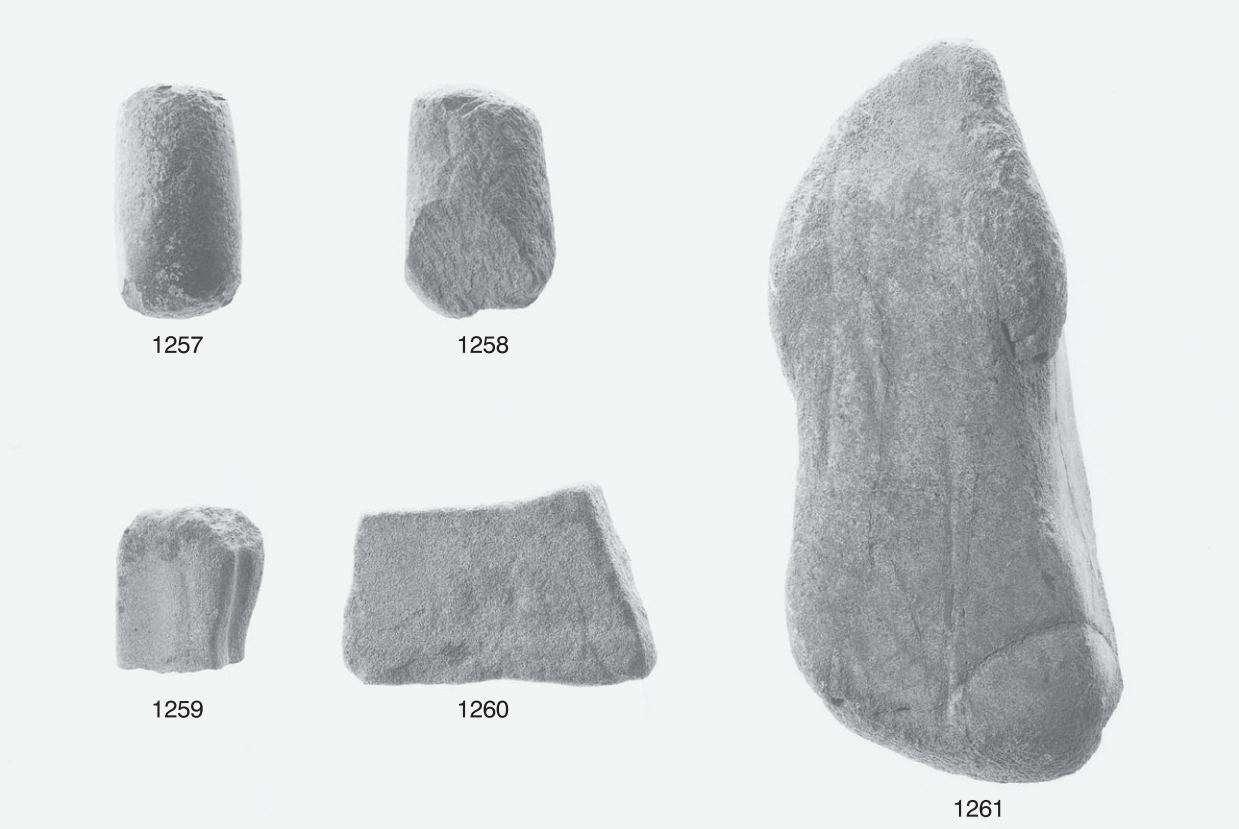
出土遺物30

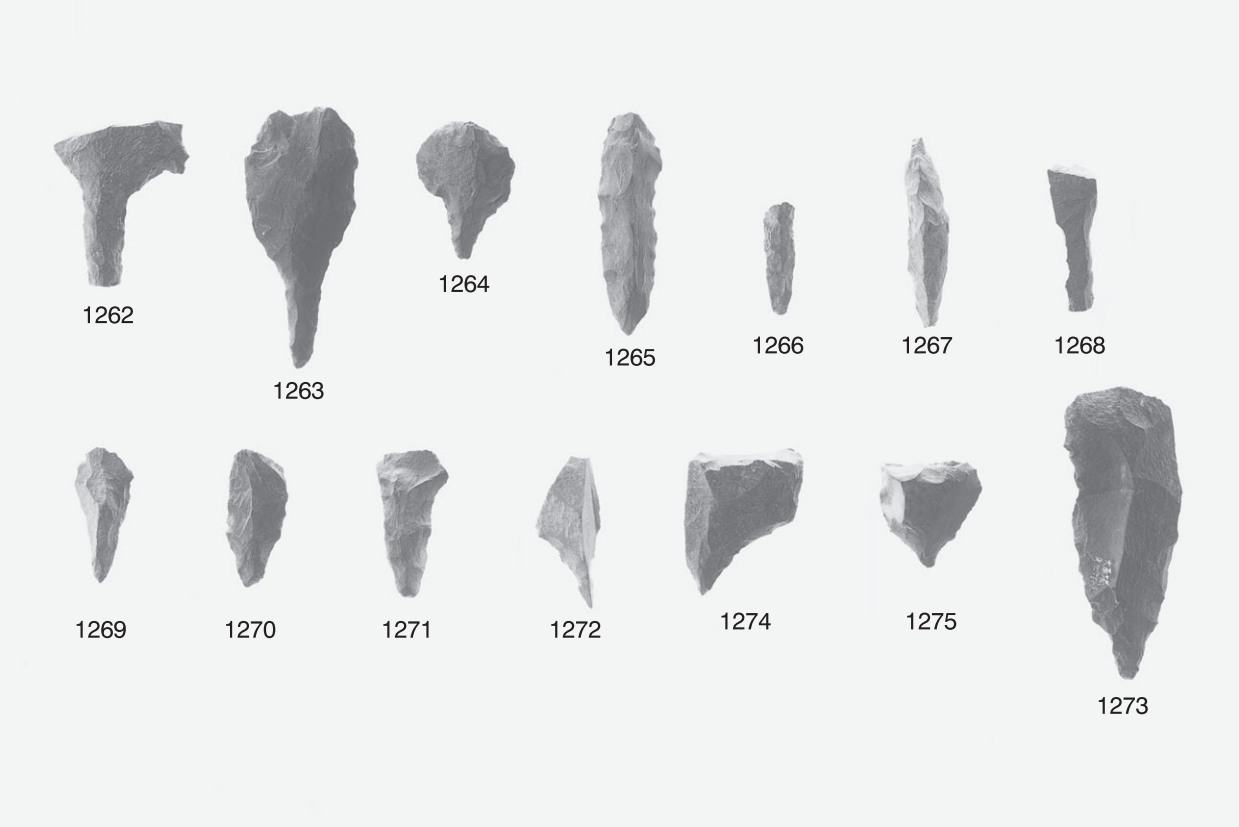

1235
1238
1236
1237
1239
1241
1240
1242


1243
1244
1245
1246
1247
1248
1249
1250
1251
1252
1253
1254
1255
1256

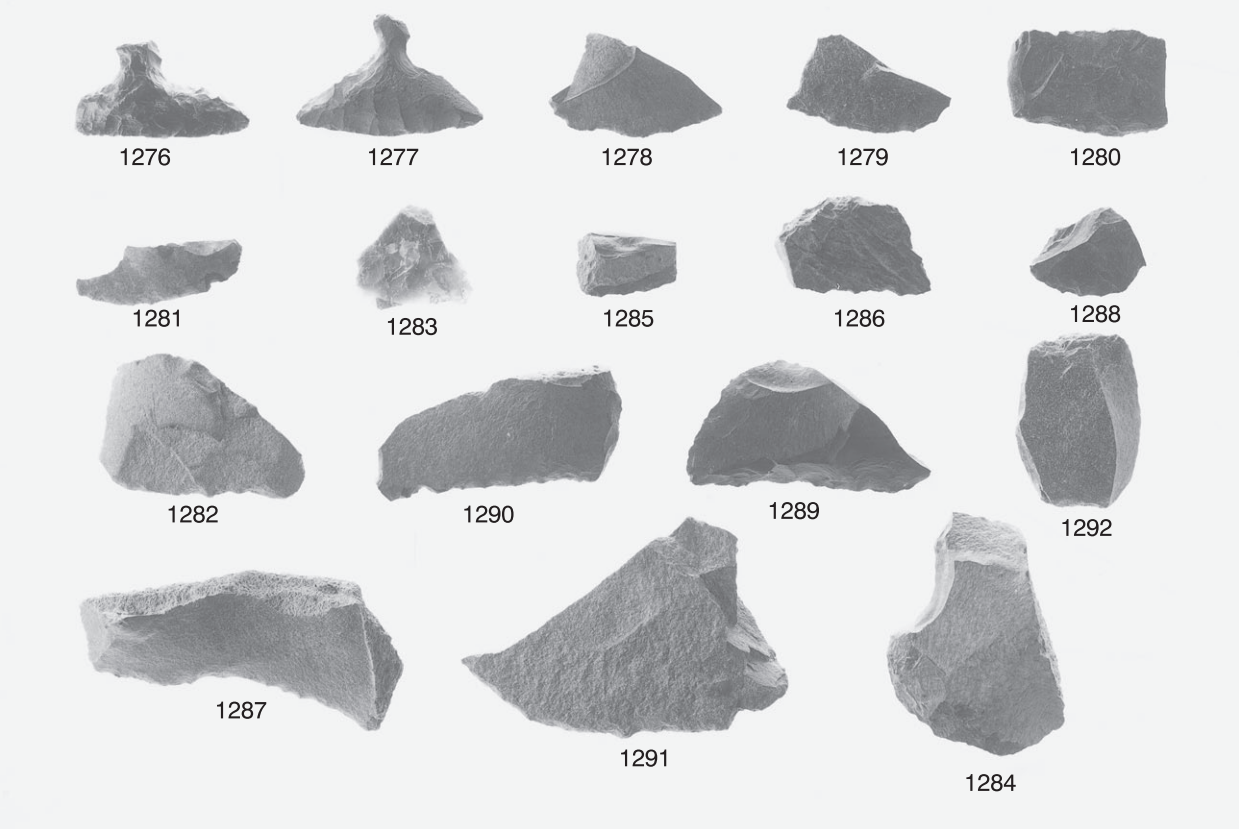
出土遺物31

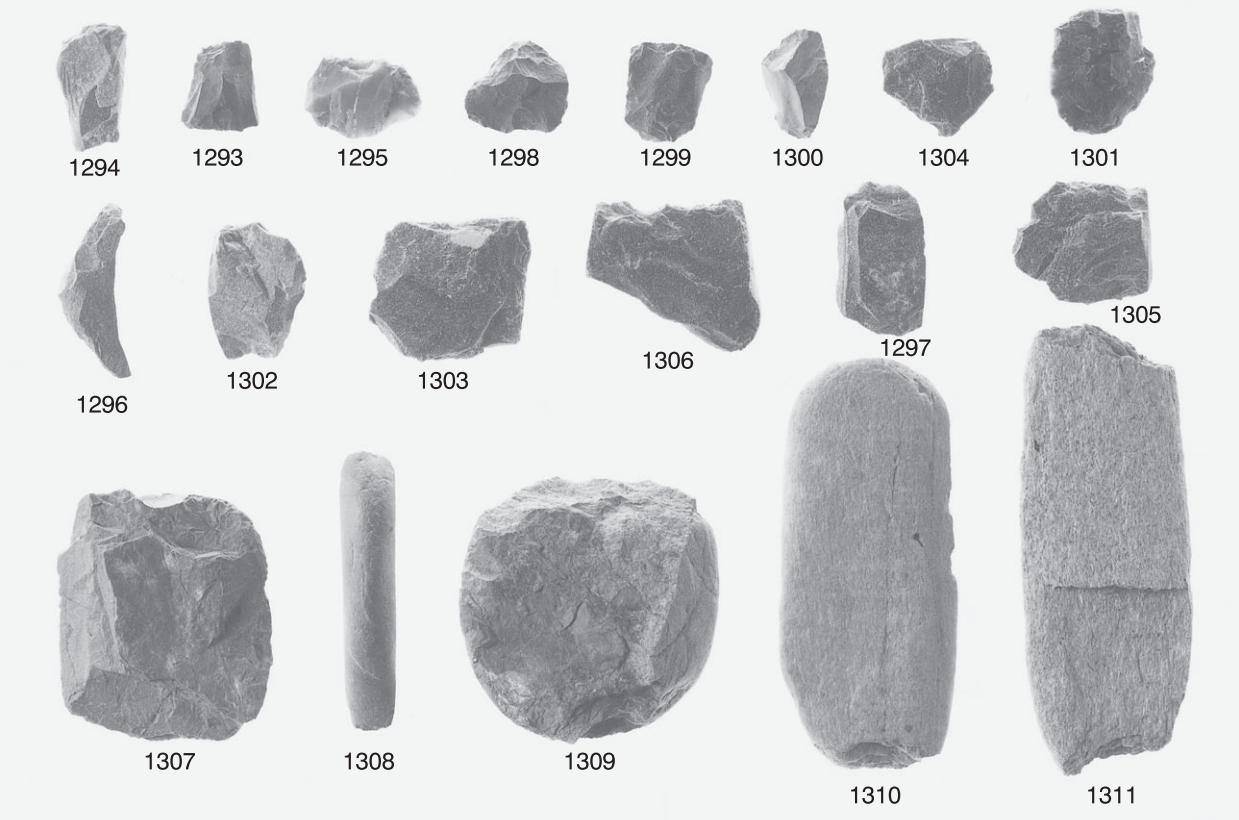
写真図版58





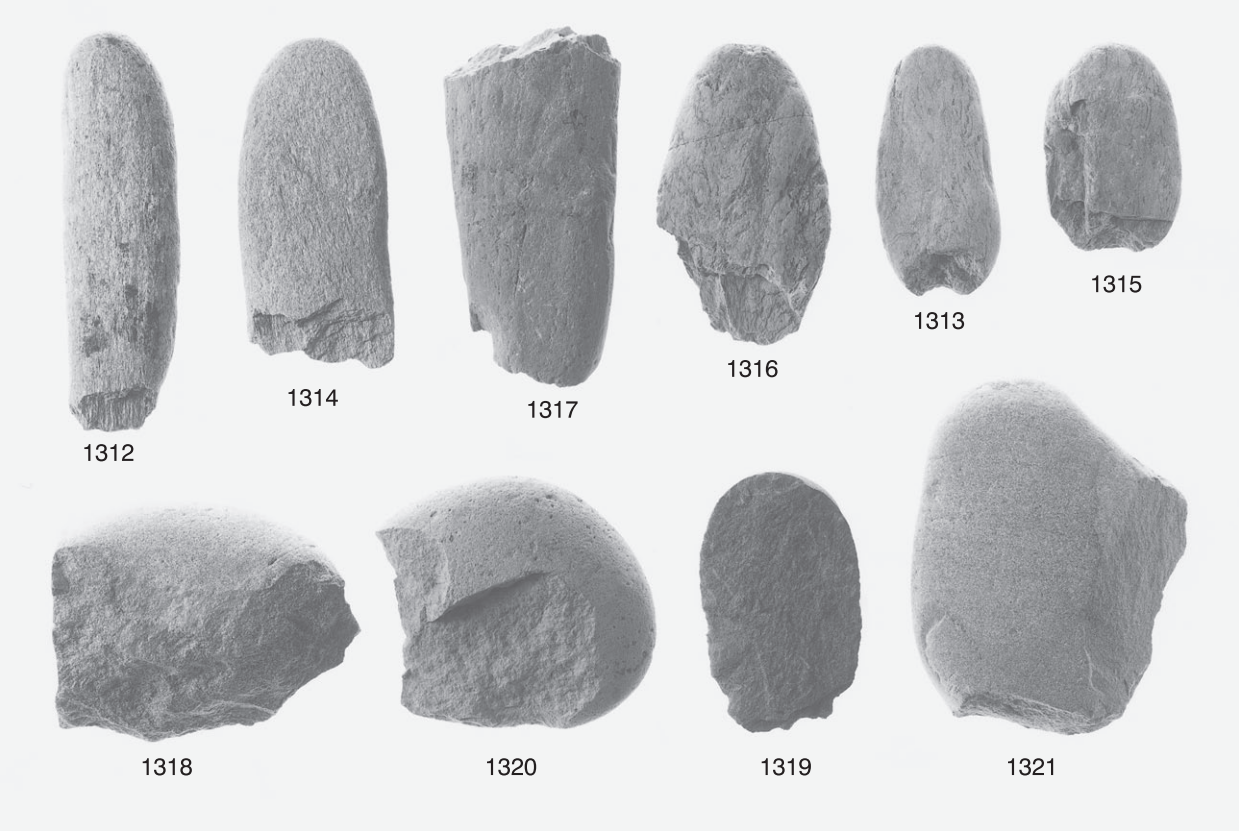
出土遺物32

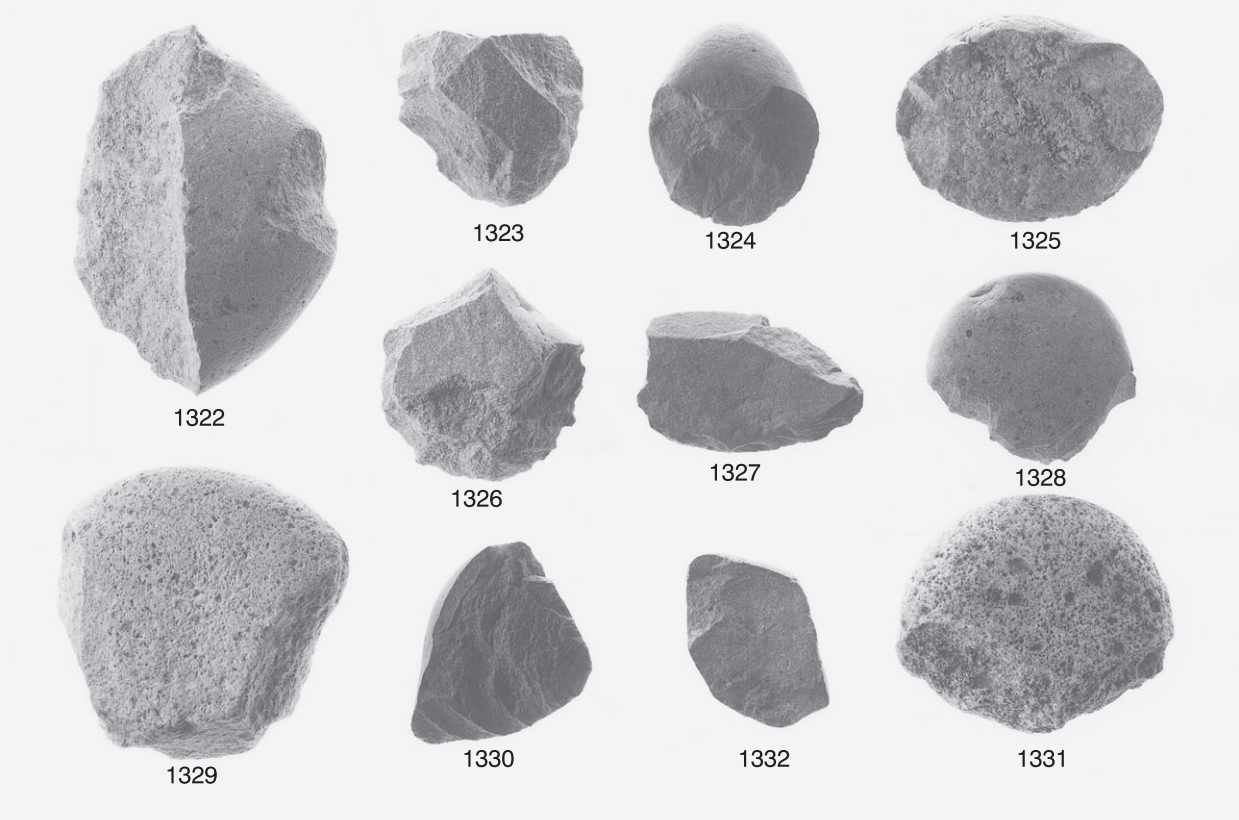

1276
1277
1278
1279
1280
1281
1283
1285
1286
1288
1282
1290
1289
1292
1287
1291
1284


1294
1293
1295
1298
1299
1300
1304
1301
1296
1302
1303
1306
1297
1305
1307
1308
1309
1310
1311

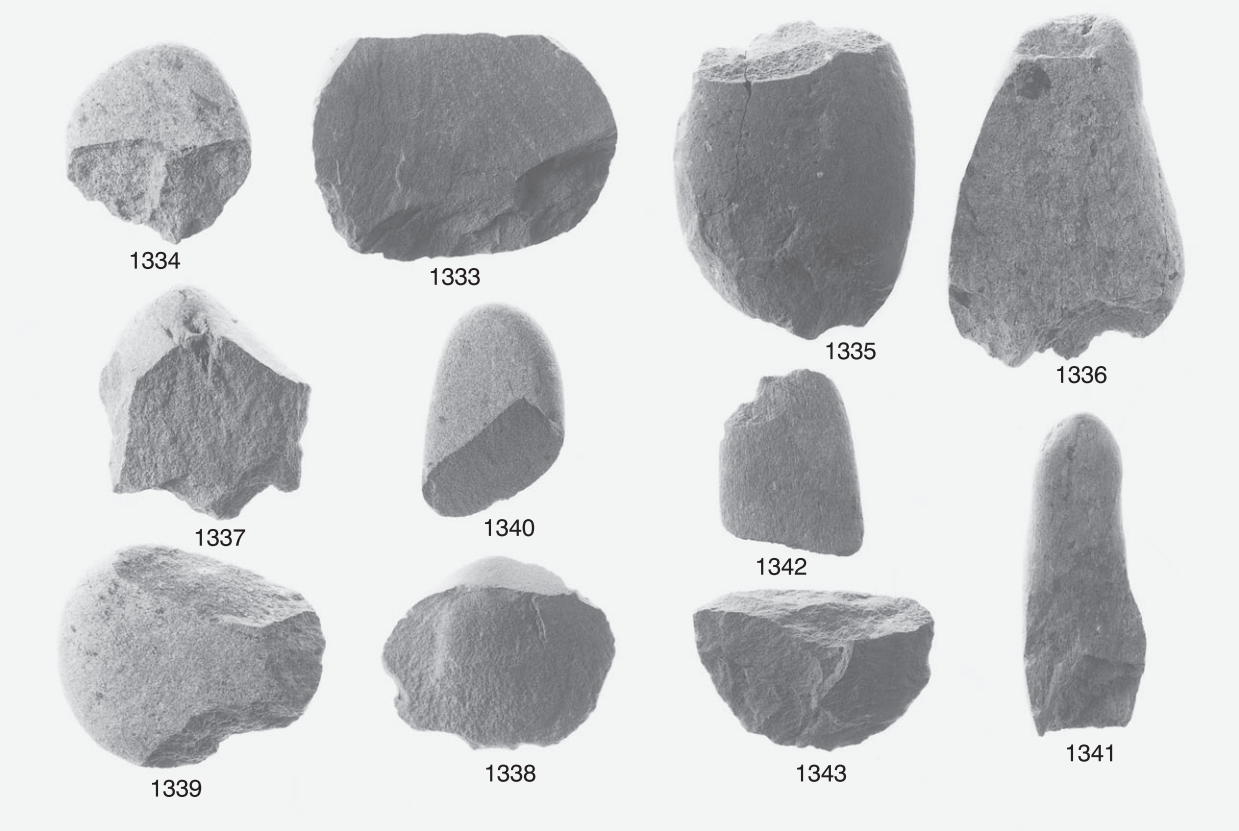
出土遺物33

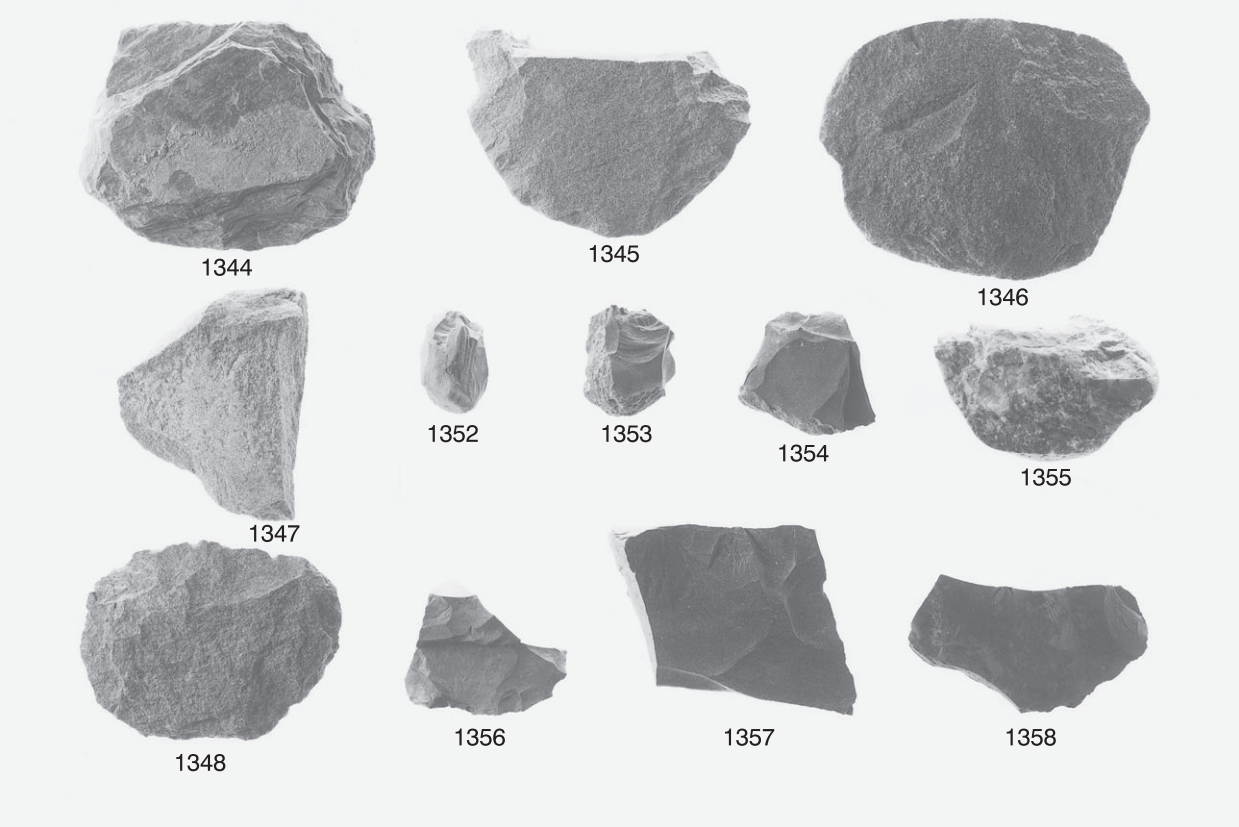
写真図版60





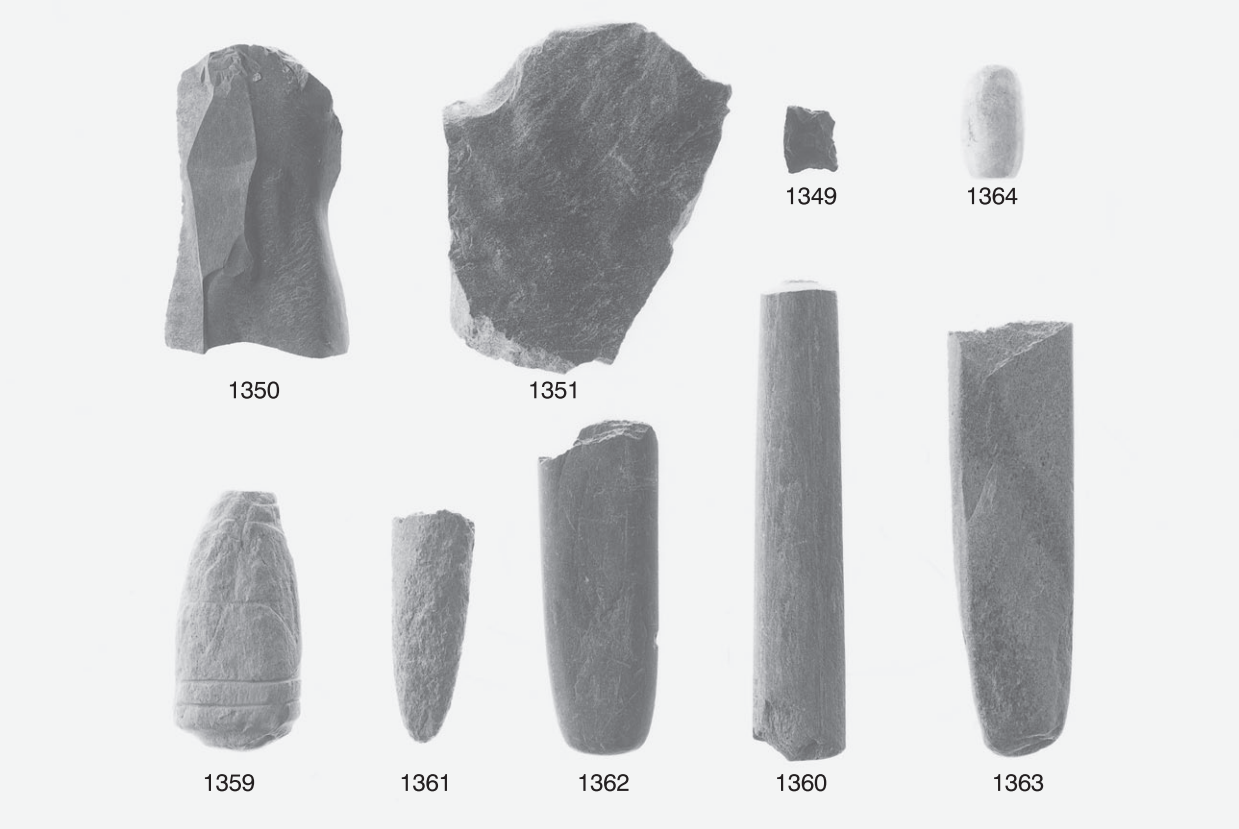
出土遺物34

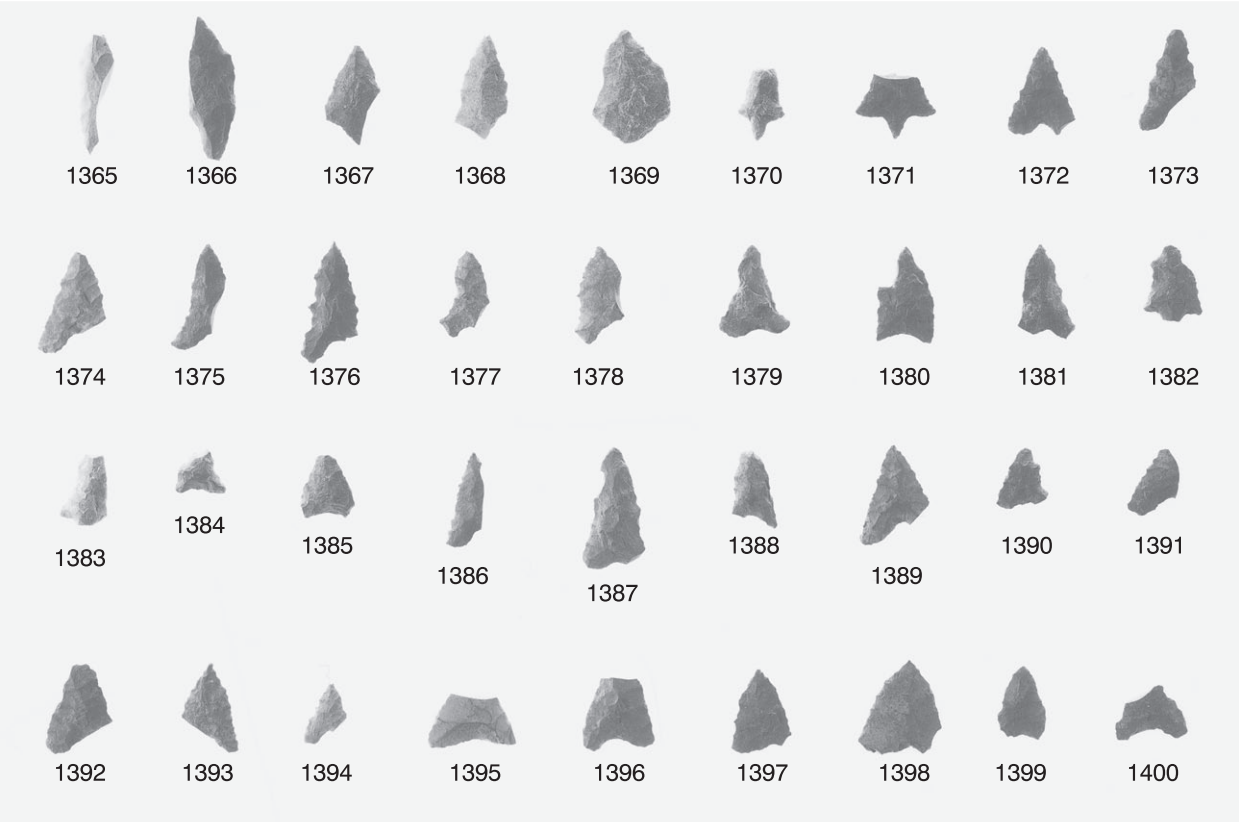

1334
1333
1335
1336
1337
1340
1342
1341
1339
1338
1343


1344
1345
1346
1352
1353
1354
1355
1347
1348
1356
1357
1358

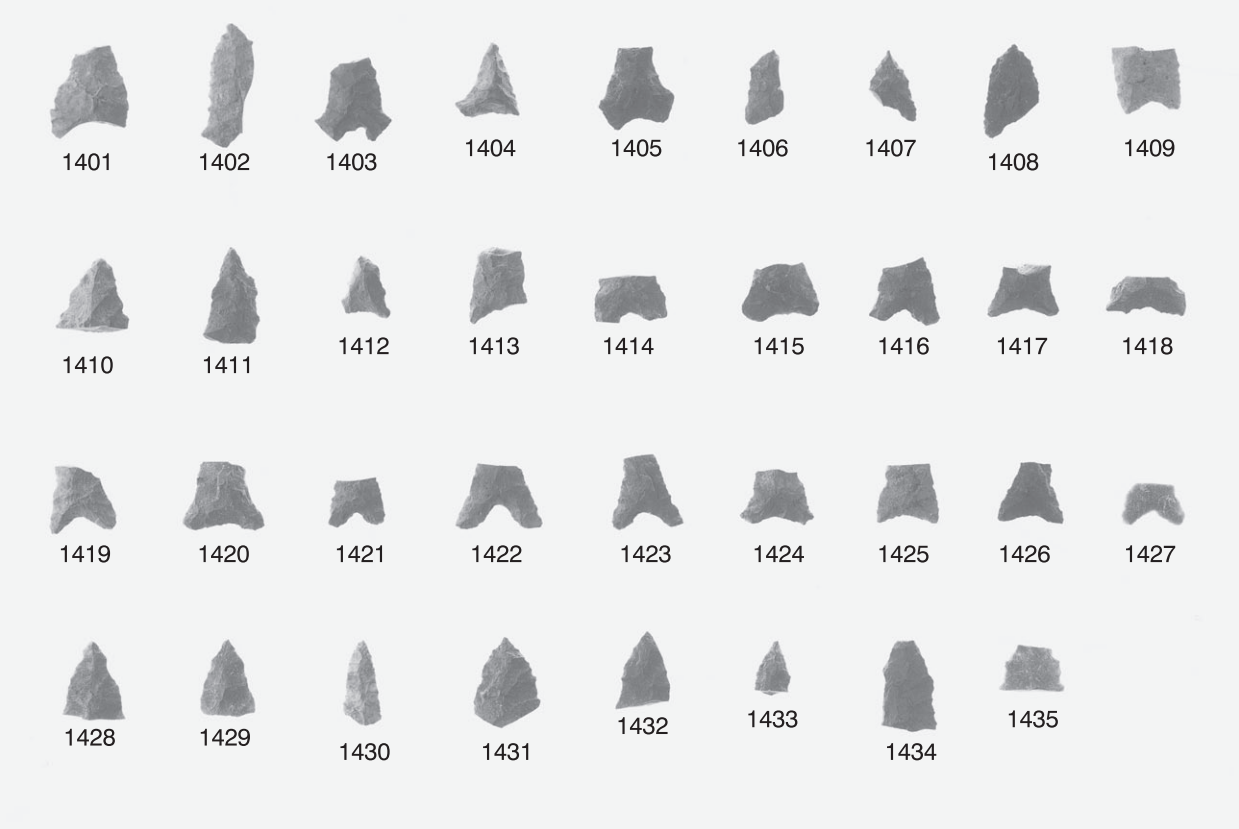
出土遺物35

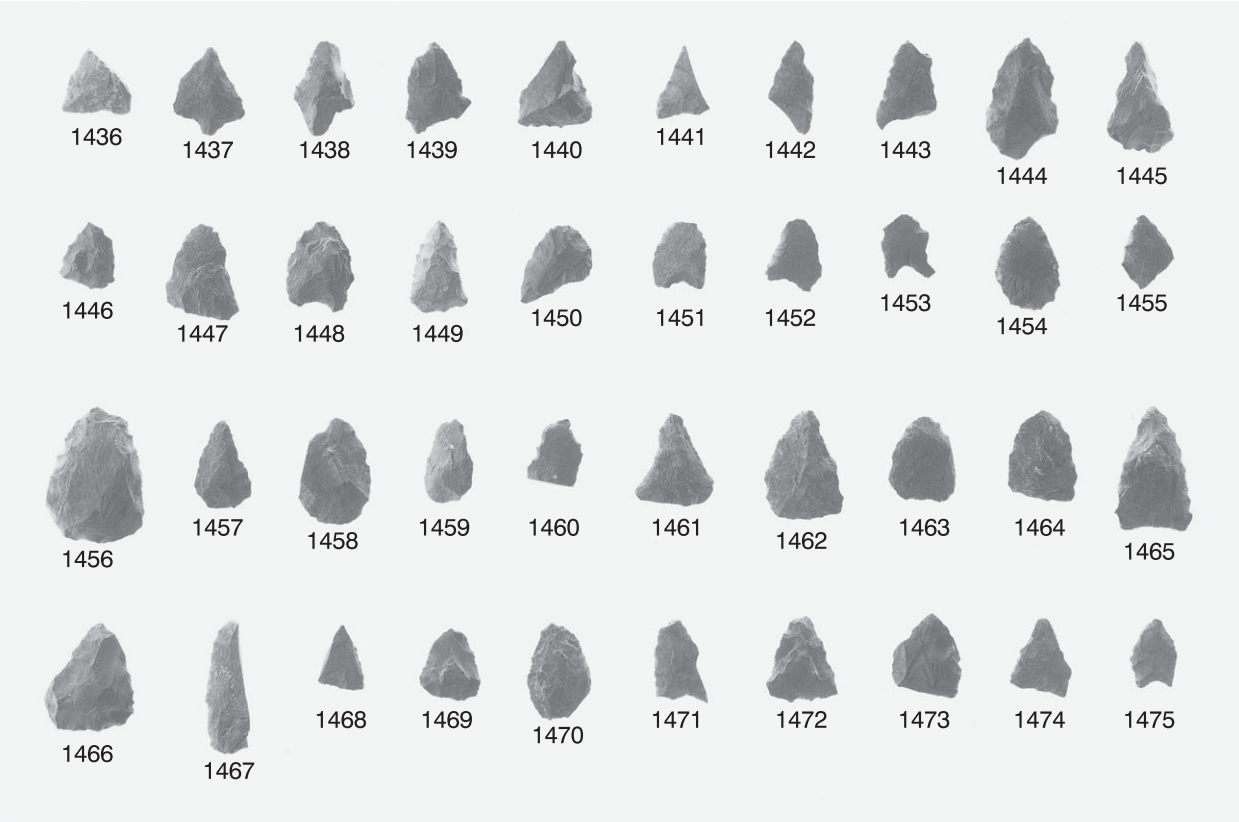
写真図版62



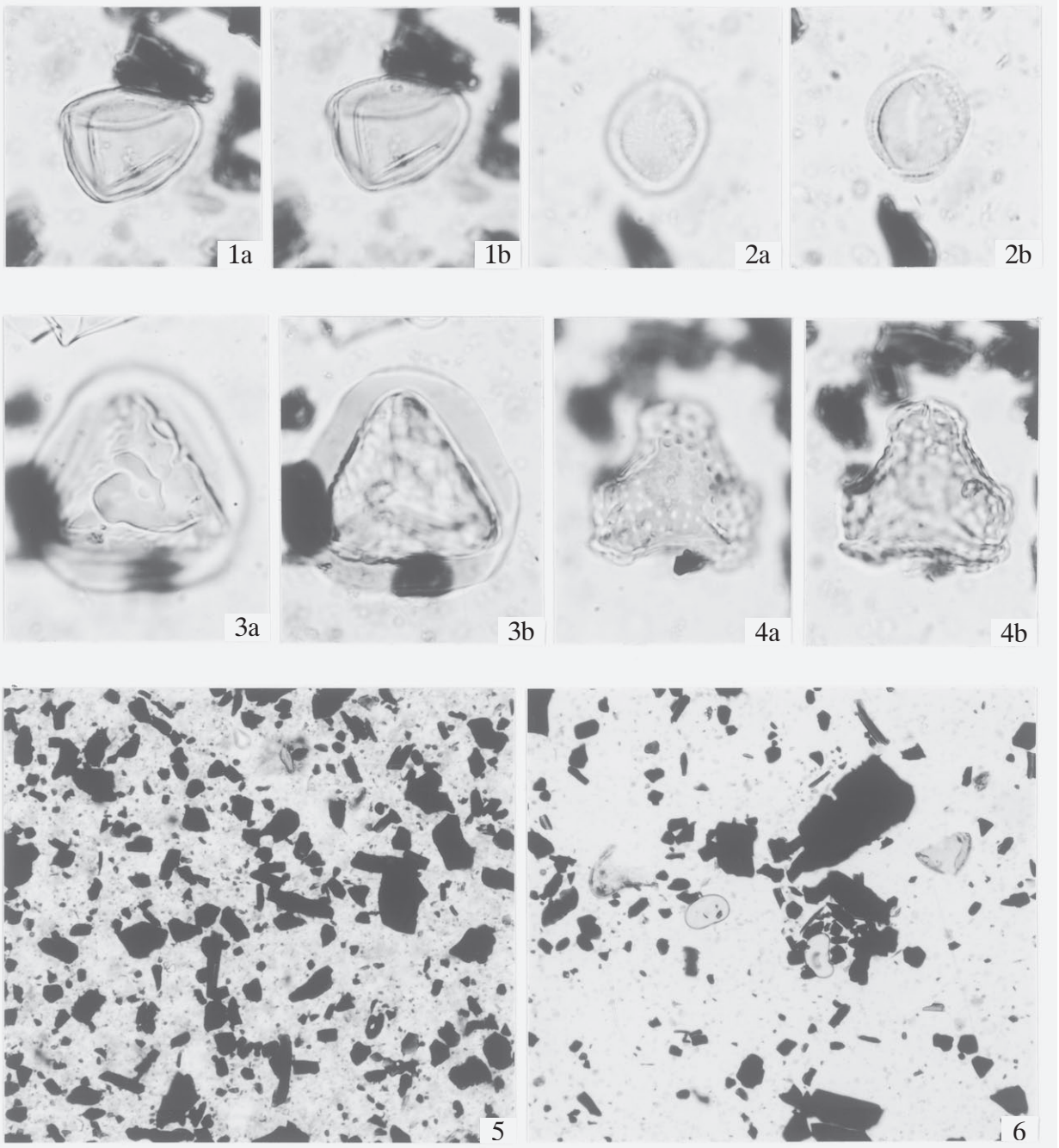


出土遺物36


1401
1402
1403
1404
1405
1406
1407
1408
1409
1410
1411
1412
1413
1414
1415
1416
1417
1418
1419
1420
1421
1422
1423
1424
1425
1426
1427
1428
1429
1430
1431
1432
1433
1434
1435


1436
1437
1438
1439
1440
1441
1442
1443
1444
1445
1446
1447
1448
1449
1450
1451
1452
1453
1454
1455
1456
1457
1458
1459
1460
1461
1462
1463
1464
1465
1466
1467
1468
1469
1470
1471
1472
1473
1474
1475

出土遺物37



1．イネ科(AⅢ;1)
2．ヨモギ属(AⅢ;1)
3．イノモトソウ属(AⅢ;1)
4．ヒカゲノカズラ属(AⅢ;1)
5．状況写真(AⅢ;2)
6．状況写真(AⅢ;1)

50 μm (1-4)
50 μm (5,6)

報告書抄録

ふりがな	おおはらぼりいせきはっくつちょうさほうこく だいにじ・さんじちょうさ
書名	大原堀遺跡発掘調査報告　－第２・３次調査－
副書名	
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	２９５
編著者名	小山憲一、川崎志乃、小濵　学、大下　明、久保勝正
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL0596-52-1732
発行年月日	西暦2008年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
おおはらぼりいせき 大原堀遺跡	みえけんまつさかしひろせちょうあざおおはらぼり・にしおおはらぼりやまのした 三重県松阪市広瀬町字大原堀・西大原堀・山ノ下	市町村 204 遺跡番号 555	34 30 22	136 29 35	20020709 ～ 20021224 20030616 ～ 20030811	4,620㎡	平成14・15年度中山間事業（茅広江地区）広瀬工区下茅原ほ場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大原堀遺跡	墓跡 集落跡	縄文時代 中期・晩期 奈良時代 平安時代	土器棺墓 土壙墓 配石遺構 土坑 集石土坑 竪穴住居 掘立柱建物	縄文土器（前期～晩期） 石器・石製品（石鏃・磨製石斧・石錘・石刀等） 須恵器・土師器墨書土器・山茶椀・鉄製紡錘車	

要旨	
	奈良～平安時代の集落跡及び縄文時代晩期の墓跡等を確認。縄文時代晩期の墓跡は立石で区分された土器棺墓、土壙墓からなる墓域を検出した。また、赤色顔料付着の磨石や台石、赤彩土器等が出土し、三重県内では出土が稀な東日本の浮線文系や大洞式系の土器も出土した。

三重県埋蔵文化財調査報告295

大原堀遺跡発掘調査報告

－第２・３次調査－

2008（平成20）年３月

編集・発行　三重県埋蔵文化財センター
印　刷　　株式会社アイブレーン